

あいさつの日中対照研究 場面と対人関係による 使用制限を中心に

著者	丁 尚虎
学位授与機関	Tohoku University
学位授与番号	11301甲第17779号
URL	http://hdl.handle.net/10097/00121765

博士論文

あいさつの日中対照研究

—場面と対人関係による使用制限を中心に—

丁 尚 虎 (DING SHANG HU)

2017 年

目次

第1章 序論	1
1.1 研究の背景と目的	1
1.2 研究の意義	3
1.2.1 日本語教育における意義	3
1.2.2 異文化交流における意義	4
1.2.3 言語研究上の意義	4
1.3 論文の構成	5
第2章 あいさつ研究の現状と課題	7
2.1 あいさつの定義	7
2.2 対人関係による使用制限	9
2.3 留学生のあいさつに関する研究の現状	10
2.3.1 中国人留学生の違和感	10
2.3.2 留学生の戸惑い	11
2.3.3 在日中国人留学生の言語使用	12
2.3.4 敬語的あいさつ表現	13
2.3.5 本研究の焦点	15
2.4 あいさつに関する日中対照研究の現状	16
2.4.1 あいさつ言語行動についての比較研究	16
2.4.2 あいさつ表現の日中対照研究	17
2.5 本研究の課題	18
第3章 研究の方法	20
3.1 本研究の調査方法、および倫理的配慮	20
3.1.1 インタビュー調査	21
3.1.1.1 インタビュー調査①の概要	21
3.1.1.2 インタビュー調査②の概要	22
3.1.2 自由記述式調査	23
3.1.2.1 自由記述式調査①の概要	23
3.1.2.2 自由記述式調査②の概要	24
3.1.2.3 自由記述式調査③の概要	24
3.2 ポライトネス理論とあいさつとの関係	24
3.2.1 ポライトネス理論について	25
3.2.2 あいさつとポライトネスとの対応関係	28
3.3 統計の方法	37
第4章 中国人日本語学習者におけるあいさつ使用の困難点	39
4.1 調査方法	39
4.1.1 中国人上級日本語学習者に対する調査	40
4.1.2 日本語教師と大学教員に対する調査	41

4.2	調査結果.....	42
4.2.1	中国人日本語学習者における戸惑い.....	43
4.2.1.1	上位者にあいさつする場合.....	43
4.2.1.2	その日2回以上出会った場合.....	45
4.2.1.3	メールと電話であいさつする場合.....	45
4.2.1.4	「おはようございます」と「こんにちは」の使い分け.....	46
4.2.1.5	「さようなら」の使用について.....	49
4.2.1.6	「お疲れ（～）」の使用について.....	51
4.2.2	日本語教師と大学教員における違和感.....	53
4.2.2.1	敬語の脱落.....	53
4.2.2.2	呼称の過剰使用.....	54
4.2.2.3	「お疲れ（～）」の多用.....	54
4.3	まとめ.....	55
第5章	中国人留学生におけるあいさつの使用実態.....	57
5.1	調査方法.....	57
5.2	調査結果.....	60
5.2.1	あいさつの有無.....	60
5.2.2	あいさつのポライトネス・ストラテジー.....	65
5.2.2.1	その日初めて出会った場面.....	65
5.2.2.2	その日2回以上出会った場面.....	69
5.2.2.3	別れの場面.....	71
5.2.2.4	メールと電話の場面.....	75
5.2.3	あいさつの場面・対人関係による使用制限.....	78
5.2.3.1	「おはよう（～）」.....	79
5.2.3.1.1	その日初めて出会った場面.....	79
5.2.3.1.2	その日2回以上出会った場面.....	81
5.2.3.1.3	メールと電話の場面.....	82
5.2.3.2	「こんにちは」.....	83
5.2.3.2.1	出会いの場面.....	83
5.2.3.2.2	メールと電話の場面.....	85
5.2.3.3	「さようなら」.....	86
5.2.3.4	「お疲れ（～）」.....	88
5.2.3.4.1	出会いの場面.....	88
5.2.3.4.2	別れの場面.....	90
5.2.3.4.3	メールと電話の場面.....	91
5.2.3.5	会釈・お辞儀.....	92
5.2.3.5.1	出会いの場面.....	92
5.2.3.5.2	別れの場面.....	93
5.3	まとめ.....	95
第6章	大学生におけるあいさつ使用の日中対照.....	98
6.1	調査方法.....	98
6.2	調査結果.....	100

6.2.1	あいさつの有無.....	100
6.2.2	あいさつのポライトネス・ストラテジー	105
6.2.2.1	その日初めて出会った場面	105
6.2.2.2	その日 2 回以上出会った場面	109
6.2.2.3	別れの場面	112
6.2.2.4	メールと電話の場面	117
6.2.3	あいさつの場面・対人関係による使用制限	121
6.2.3.1	「おはよう (～)」と「(～) 早 (～)」	122
6.2.3.1.1	その日初めて出会った場面	122
6.2.3.1.2	その日 2 回以上出会った場面	124
6.2.3.1.3	メールと電話の場面	125
6.2.3.2	「こんにちは」と「(～) 好」	126
6.2.3.2.1	出会いの場面	126
6.2.3.2.2	メールと電話の場面	128
6.2.3.3	「さようなら」と「(～) 再见」	129
6.2.3.4	「お疲れ (～)」と「(～) 辛苦了」	131
6.2.3.4.1	出会いの場面	132
6.2.3.4.2	別れの場面	133
6.2.3.4.3	メールと電話の場面	135
6.2.3.5	会釈・お辞儀	136
6.2.3.5.1	出会いの場面	136
6.2.3.5.2	別れの場面	138
6.3	まとめ	139
第7章	中国人上級日本語学習者のあいさつ使用の考察.....	142
7.1	問題点の認定	142
7.1.1	学習者の困難点における問題点	142
7.1.2	学習者のあいさつ使用の特徴における問題点	143
7.1.3	まとめ	146
7.2	相違点の考察	146
7.2.1	語用論的転移	147
7.2.1.1	相違点①：呼称の過剰使用	147
7.2.1.2	相違点②：先輩に PPS を使用する傾向	150
7.2.1.3	相違点③：親友に PPS+NPS を使用する傾向	152
7.2.1.4	相違点④：「お疲れ (～)」の不適切な使用	154
7.2.1.5	相違点⑤：会釈・お辞儀の脱落	156
7.2.1.6	相違点⑥：積極的にあいさつをする傾向	157
7.2.1.7	相違点⑦：「おはよう (～)」の不使用	159
7.2.1.8	相違点⑧：「さようなら」の不使用	160
7.2.1.9	相違点⑨：「お疲れ (～)」の不使用	162
7.2.2	日本語教育におけるあいさつ指導の不備	163
7.2.2.1	相違点④：「お疲れ (～)」の不適切な使用	164
7.2.2.2	相違点⑦：「おはよう (～)」の不使用	165
7.2.2.3	相違点⑧：「さようなら」の不使用	166

7.3	まとめ	167
第8章	社会人におけるあいさつ使用の日中対照	169
8.1	調査方法	169
8.2	調査結果および考察	171
8.2.1	あいさつの有無	172
8.2.2	あいさつのポライトネス・ストラテジー	176
8.2.2.1	その日初めて出会った場面	177
8.2.2.2	その日2回以上出会った場面	181
8.2.2.3	別れの場面	184
8.2.2.4	メールと電話の場面	191
8.2.3	あいさつの場面・対人関係による使用制限	195
8.2.3.1	「おはよう(～)」と「(～) 早(～)」	195
8.2.3.2	「こんにちは」と「(～) 好」	198
8.2.3.3	「さようなら」と「(～) 再见」	201
8.2.3.4	「お疲れ(～)」と「(～) 辛苦了」	203
8.2.3.5	会釈・お辞儀	205
8.2.4	日本人社会人におけるあいさつ使用の世代差	208
8.3	まとめ	213
第9章	大学生と社会人におけるあいさつ使用の違いの日中対照	216
9.1	調査方法	216
9.2	調査結果	218
9.2.1	あいさつの有無	219
9.2.2	あいさつのポライトネス・ストラテジー	226
9.2.2.1	その日初めて出会った場面	226
9.2.2.2	その日2回以上出会った場面	228
9.2.2.3	別れの場面	229
9.2.2.4	メールと電話の場面	231
9.2.3	あいさつの場面・対人関係による使用制限	236
9.2.3.1	「おはよう(～)」と「(～) 早(～)」	236
9.2.3.2	「こんにちは」と「(～) 好」	241
9.2.3.3	「さようなら」と「(～) 再见」	247
9.2.3.4	「お疲れ(～)」と「(～) 辛苦了」	250
9.2.3.5	会釈・お辞儀	256
9.3	まとめ	262
第10章	結論	266
10.1	本論文のまとめ	266
10.1.1	中国人上級日本語学習者のあいさつ使用の困難点	266
10.1.2	学習者におけるあいさつ使用に関する日本人学生との相違点	266
10.1.3	学習者のあいさつ使用における日本人学生との相違の原因	267
10.1.3.1	語用論的転移	267
10.1.3.2	日本語教育現場におけるあいさつ指導	269

10.1.3.3	まとめ	269
10.1.4	大学生と社会人におけるあいさつ使用の日中差異	270
10.1.4.1	全体的な使用傾向の日中差異	270
10.1.4.2	個別のあいさつ表現使用の日中差異	271
10.2	日本語教育におけるあいさつ指導法への提言	273
10.3	本研究の意義	275
10.4	今後の課題	276
参考文献		277
付録		283
1.	インタビュー調査①調査票	283
2.	インタビュー調査②調査票	284
3.	インタビュー調査③調査票	285
4.	自由記述式調査①調査票	286
5.	自由記述式調査②調査票	289
6.	自由記述式調査③調査票	292
7.	自由記述式調査④調査票	295
8.	自由記述式調査⑤調査票	298
9.	調査承諾書	300

表一覧

表 2.1	あいさつの意味分類	9
表 3.1	岡村（2015）によるあいさつ表現の分類	28
表 3.2	あいさつ表現とポライトネスの関係	30
表 3.3	日本人のあいさつ表現の分類	34
表 3.4	中国人のあいさつ表現の分類	35
表 3.5	場面 1（11 時頃に出会った場面）におけるあいさつの使用頻度	37
表 3.6	場面 1 におけるあいさつの使用頻度の角変換法による検定結果	38
表 4.1	学習者のインフォーマント	40
表 4.2	留学生のインフォーマント	41
表 4.3	日本語教師と大学教員のインフォーマント	42
表 4.4	中国人上級日本語学習者のあいさつ使用に関する困難点	55
表 5.1	日本人大学生と中国人留学生のインフォーマント	58
表 5.2	日本人大学生と中国人留学生向けの場面の設定	58
表 5.3	日本人学生と中国人留学生向けの場面設定の根拠	59
表 5.4	場面 1（11 時頃に出会った場面）におけるあいさつの使用頻度	60
表 5.5	場面 2（12 時半頃に出会った場面）におけるあいさつの使用頻度	60
表 5.6	場面 4（その日 2 回以上出会った場面）におけるあいさつの使用頻度	61
表 5.7	場面 3（偶然出会って別れる場面）におけるあいさつの使用頻度	62
表 5.8	場面 5（共同作業をした後別れる場面）におけるあいさつの使用頻度	62
表 5.9	場面 6（メールの場面）におけるあいさつの使用頻度	63
表 5.10	場面 7（電話の場面）におけるあいさつの使用頻度	63
表 5.11	場面 1（11 時頃に出会った場面）における日本人学生のあいさつ	66
表 5.12	場面 1（11 時頃に出会った場面）における中国人留学生のあいさつ	66
表 5.13	場面 2（12 時半頃に出会った場面）における日本人学生のあいさつ	67
表 5.14	場面 2（12 時半頃に出会った場面）における中国人留学生のあいさつ	67
表 5.15	場面 1・2（出会いの場面）における親しいと思う先生に対するあいさつ	68
表 5.16	場面 1・2（出会いの場面）における親しいと思う先輩に対するあいさつ	68
表 5.17	場面 1・2（出会いの場面）における親友に対するあいさつ	68
表 5.18	出会いの場面におけるあいさつ表現とポライトネスの関係	69
表 5.19	場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における日本人学生のあいさつ	69
表 5.20	場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における中国人留学生のあいさつ	70
表 5.21	場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における親しいと思う先生に対するあいさつ	70
表 5.22	場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における親しいと思う先輩に対するあいさつ	70
表 5.23	場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における親友に対するあいさつ	70
表 5.24	場面 3（偶然出会って別れる場面）における日本人学生のあいさつ	71
表 5.25	場面 3（偶然出会って別れる場面）における中国人留学生のあいさつ	72
表 5.26	場面 5（共同作業をした後別れる場面）における日本人学生のあいさつ	72

表 5.27	場面 5（共同作業をした後別れる場面）における中国人留学生のあいさつ	73
表 5.28	場面 3・5（別れの場面）におけるあまり親しくない先輩に対するあいさつ	74
表 5.29	場面 3・5（別れの場面）における親しいと思う先輩に対するあいさつ	74
表 5.30	場面 3・5（別れの場面）における親友に対するあいさつ	74
表 5.31	別れの場面におけるあいさつ表現とポライトネスの関係	74
表 5.32	場面 6（メールの場面）における日本人学生のあいさつ	75
表 5.33	場面 6（メールの場面）における中国人留学生のあいさつ	76
表 5.34	場面 7（電話の場面）における日本人学生のあいさつ	76
表 5.35	場面 7（電話の場面）における中国人留学生のあいさつ	77
表 5.36	場面 6・7（メール・電話の場面）における親友に対するあいさつ	77
表 5.37	場面 1（11 時頃に出会った場面）における「おはよう（～）」	80
表 5.38	場面 2（12 時半頃に出会った場面）における「おはよう（～）」	80
表 5.39	場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における「おはよう（～）」	81
表 5.40	場面 6（メールの場面）における「おはよう（～）」	82
表 5.41	場面 7（電話の場面）における「おはよう（～）」	82
表 5.42	場面 1（11 時頃に出会った場面）における「こんにちは」	83
表 5.43	場面 2（12 時半頃に出会った場面）における「こんにちは」	83
表 5.44	場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における「こんにちは」	85
表 5.45	場面 6（メールの場面）における「こんにちは」	85
表 5.46	場面 7（電話の場面）における「こんにちは」	86
表 5.47	場面 3（偶然出会って別れる場面）における「さようなら」	87
表 5.48	場面 5（共同作業をした後別れる場面）における「さようなら」	87
表 5.49	場面 1（11 時頃に出会った場面）における「お疲れ（～）」	88
表 5.50	場面 2（12 時半頃に出会った場面）における「お疲れ（～）」	89
表 5.51	場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における「お疲れ（～）」	89
表 5.52	場面 3（偶然出会って別れる場面）における「お疲れ（～）」	90
表 5.53	場面 5（共同作業をした後別れる場面）における「お疲れ（～）」	90
表 5.54	場面 6（メールの場面）における「お疲れ（～）」	91
表 5.55	場面 7（電話の場面）における「お疲れ（～）」	91
表 5.56	場面 1（11 時頃に出会った場面）における[会釈・お辞儀]	92
表 5.57	場面 2（12 時半頃に出会った場面）における[会釈・お辞儀]	93
表 5.58	場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における[会釈・お辞儀]	93
表 5.59	場面 3（偶然出会って別れる場面）における[会釈・お辞儀]	94
表 5.60	場面 5（共同作業をした後別れる場面）における[会釈・お辞儀]	94
表 5.61	日本人学生と中国人留学生におけるあいさつの有無	95
表 5.62	日本人学生と中国人留学生のあいさつ使用に関する全体的な特徴	95
表 5.63	中国人留学生における個別のあいさつ表現に関する特徴	96
表 6.1	大学生のインフォーマント	98
表 6.2	大学生向けの場面の設定	99
表 6.3	大学生向けの場面設定の根拠（表 5.3 の再掲）	100
表 6.4	場面 1（11 時頃に出会った場面）におけるあいさつの使用頻度	101

表 6.5	場面 2 (12 時半頃に会った場面) におけるあいさつの使用頻度	101
表 6.6	場面 4 (その日 2 回以上会った場面) におけるあいさつの使用頻度	101
表 6.7	場面 3 (偶然出会って別れる場面) におけるあいさつの使用頻度	103
表 6.8	場面 5 (共同作業をした後別れる場面) におけるあいさつの使用頻度	103
表 6.9	場面 6 (メールの場面) におけるあいさつの使用頻度	104
表 6.10	場面 7 (電話の場面) におけるあいさつの使用頻度	104
表 6.11	場面 1 (11 時頃に会った場面) における日本人学生のあいさつ	106
表 6.12	場面 1 (11 時頃に会った場面) における中国人学生のあいさつ	106
表 6.13	場面 2 (12 時半頃に会った場面) における日本人学生のあいさつ	107
表 6.14	場面 2 (12 時半頃に会った場面) における中国人学生のあいさつ	107
表 6.15	11 時/12 時半頃 (場面 1・2) に出会った場面におけるあまり親しくない先生に対するあいさつ	108
表 6.16	場面 1・2 (出会いの場面) におけるあまり親しくない先輩に対するあいさつ	108
表 6.17	場面 1・2 (出会いの場面) における親しいと思う先生に対するあいさつ	108
表 6.18	場面 1・2 (出会いの場面) における親しいと思う先輩に対するあいさつ	108
表 6.19	出会いの場面におけるあいさつ表現とポライトネスの関係	109
表 6.20	場面 4 (その日 2 回以上会った場面) における日本人学生のあいさつ	110
表 6.21	場面 4 (その日 2 回以上会った場面) における中国人学生のあいさつ	110
表 6.22	場面 4 (その日 2 回以上会った場面) におけるあまり親しくない先生に対するあいさつ	111
表 6.23	場面 4 (その日 2 回以上会った場面) における親しいと思う先生に対するあいさつ	111
表 6.24	場面 4 (その日 2 回以上会った場面) におけるあまり親しくない先輩に対するあいさつ	111
表 6.25	場面 4 (その日 2 回以上会った場面) における親しいと思う先輩に対するあいさつ	111
表 6.26	場面 3 (偶然出会って別れる場面) における日本人学生のあいさつ	112
表 6.27	場面 3 (偶然出会って別れる場面) における中国人学生のあいさつ	113
表 6.28	場面 3 (偶然出会って別れる場面) におけるあまり親しくない先生に対するあいさつ	113
表 6.29	場面 3 (偶然出会って別れる場面) における親しいと思う先生に対するあいさつ	113
表 6.30	場面 3 (偶然出会って別れる場面) におけるあまり親しくない先輩に対するあいさつ	114
表 6.31	場面 3 (偶然出会って別れる場面) における親しいと思う先輩に対するあいさつ	114
表 6.32	場面 5 (共同作業をした後別れる場面) における日本人学生のあいさつ	114
表 6.33	場面 5 (共同作業をした後別れる場面) における中国人学生のあいさつ	115
表 6.34	場面 5 (共同作業をした後別れる場面) における親友に対するあいさつ	115
表 6.35	場面 5 (共同作業をした後別れる場面) におけるあまり親しくない先生に対するあいさつ	116
表 6.36	場面 5 (共同作業をした後別れる場面) における親しいと思う先生に対するあいさつ	116
表 6.37	場面 5 (共同作業をした後別れる場面) におけるあまり親しくない先輩に対するあいさつ	116
表 6.38	場面 5 (共同作業をした後別れる場面) における親しいと思う先輩に対するあいさつ	116
表 6.39	別れの場面におけるあいさつ表現とポライトネスの関係	117
表 6.40	場面 6 (メールの場面) における日本人学生のあいさつ	117
表 6.41	場面 6 (メールの場面) における中国人学生のあいさつ	118
表 6.42	場面 7 (電話の場面) における日本人学生のあいさつ	118
表 6.43	場面 7 (電話の場面) における中国人学生のあいさつ	119
表 6.44	メール・電話 (場面 6・7) の場面における親友に対するあいさつ	119
表 6.45	場面 6・7 (メール・電話の場面) におけるあまり親しくない先生に対するあいさつ	120

表 6.46	場面 6・7（メール・電話の場面）における親しいと思う先生に対するあいさつ	120
表 6.47	場面 6・7（メール・電話の場面）におけるあまり親しくない先輩に対するあいさつ	120
表 6.48	場面 6・7（メール・電話の場面）における親しいと思う先輩に対するあいさつ	120
表 6.49	場面 1（11 時頃に出会った場面）における「おはよう（～）」と（～）早（～）	123
表 6.50	場面 2（12 時半頃に出会った場面）における「おはよう（～）」と（～）早（～）	123
表 6.51	場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における「おはよう（～）」と（～）早（～）	124
表 6.52	場面 6（メールの場面）における「おはよう（～）」と（～）早（～）	125
表 6.53	場面 7（電話の場面）における「おはよう（～）」と（～）早（～）	125
表 6.54	場面 1（11 時頃に出会った場面）における「こんにちは」と「（～）好」	126
表 6.55	場面 2（12 時半頃に出会った場面）における「こんにちは」と「（～）好」	127
表 6.56	場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における「こんにちは」と「（～）好」	127
表 6.57	場面 6（メールの場面）における「こんにちは」と「（～）好」	129
表 6.58	場面 7（電話の場面）における「こんにちは」と「（～）好」	129
表 6.59	場面 3（偶然出会って別れる場面）における「さようなら」と「（～）再见」	130
表 6.60	場面 5（共同作業をした後別れる場面）における「さようなら」と「（～）再见」	130
表 6.61	場面 1（11 時頃に出会った場面）における「お疲れ（～）」と「（～）辛苦了」	132
表 6.62	場面 2（12 時半頃に出会った場面）における「お疲れ（～）」と「（～）辛苦了」	132
表 6.63	場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における「お疲れ（～）」と「（～）辛苦了」	132
表 6.64	場面 3（偶然出会って別れる場面）における「お疲れ（～）」と「（～）辛苦了」	134
表 6.65	場面 5（共同作業をした後別れる場面）における「お疲れ（～）」と「（～）辛苦了」	134
表 6.66	場面 6（メールの場面）における「お疲れ（～）」と「（～）辛苦了」	135
表 6.67	場面 7（電話の場面）における「お疲れ（～）」と「（～）辛苦了」	135
表 6.68	場面 1（11 時頃に出会った場面）における[会釈・お辞儀]	137
表 6.69	場面 2（12 時半頃に出会った場面）における[会釈・お辞儀]	137
表 6.70	場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における[会釈・お辞儀]	137
表 6.71	場面 3（偶然出会って別れる場面）における[会釈・お辞儀]	138
表 6.72	場面 5（共同作業をした後別れる場面）における[会釈・お辞儀]	138
表 6.73	日本人学生と中国人学生におけるあいさつの有無	139
表 6.74	日本人学生と中国人学生のあいさつ使用に関する全体的な特徴	139
表 6.75	大学生における個別のあいさつ表現の使用に関する日中差異	140
表 7.1	学習者のあいさつ使用に関する困難点（表 4.4 の再掲）	143
表 7.2	中国人留学生におけるあいさつの有無（表 5.61 の再掲）	144
表 7.3	中国人留学生のあいさつ使用に関する全体的な特徴（表 5.62 の再掲）	144
表 7.4	個別のあいさつ表現の使用に関する特徴（表 5.62 の再掲）	145
表 7.5	学習者におけるあいさつ使用の問題点および非問題点	146
表 7.6	場面 1（11 時頃に出会った場面）における先生に対する呼称に関する日中対照	147
表 7.7	場面 2（12 時半頃に出会った場面）における先生に対する呼称に関する日中対照	148
表 7.8	場面 3（偶然出会って別れる場面）における先生に対する呼称に関する日中対照	148
表 7.9	場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における先生に対する呼称に関する日中対照	148
表 7.10	場面 5（共同作業をした後別れる場面）における先生に対する呼称に関する日中対照	149
表 7.11	場面 6（メールの場面）における先生に対する呼称に関する日中対照	149

表 7.12	場面 7（電話の場面）における先生に対する呼称に関する日中対照	149
表 7.13	場面 3（偶然出会って別れる場面）における上位者への PP 表現の日中対照	151
表 7.14	場面 5（共同作業をした後別れる場面）における上位者への PP 表現の日中対照	152
表 7.15	場面 1（11 時頃に出会った場面）における親友への NP 表現の日中対照	153
表 7.16	場面 2（12 時半頃に出会った場面）における親友への PPS+NPS あいさつ表現の日中対照	153
表 7.17	場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における親友への PPS+NPS あいさつ表現の日中対照	153
表 7.18	場面 6（メールの場面）における親友への PPS+NPS あいさつ表現の日中対照	153
表 7.19	場面 7（電話の場面）における親友への PPS+NPS あいさつ表現の日中対照	153
表 7.20	場面 3（偶然出会って別れる場面）における「お疲れ（～）」と「（～）辛苦了」	155
表 7.21	場面 5（共同作業をした後別れる場面）における「お疲れ（～）」と「（～）辛苦了」	155
表 7.22	場面 1（11 時頃に出会った場面）における[会釈・お辞儀]	156
表 7.23	場面 2（12 時半頃に出会った場面）における[会釈・お辞儀]	156
表 7.24	場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における[会釈・お辞儀]	156
表 7.25	場面 1（11 時頃に出会った場面）におけるあいさつの使用頻度（表 6.4 の再掲）	158
表 7.26	場面 2（12 時半頃に出会った場面）におけるあいさつの使用頻度（表 6.5 の再掲）	158
表 7.27	場面 4（その日 2 回以上出会った場面）におけるあいさつの使用頻度（表 6.6 の再掲）	158
表 7.28	場面 2（12 時半頃に出会った場面）における「おはよう（～）」と「（～）早（～）」	159
表 7.29	場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における「おはよう（～）」と「（～）早（～）」	159
表 7.30	場面 3（偶然出会って別れる場面）における「さようなら」と「（～）再见」	161
表 7.31	場面 5（共同作業をした後別れる場面）における「さようなら」と「（～）再见」	161
表 7.32	場面 1（11 時頃に出会った場面）における「お疲れ（～）」と「（～）辛苦了」	162
表 7.33	場面 2（12 時半頃に出会った場面）における「お疲れ（～）」と「（～）辛苦了」	162
表 7.34	場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における「お疲れ（～）」と「（～）辛苦了」	162
表 7.35	場面 6（メールの場面）における「お疲れ（～）」と「（～）辛苦了」	162
表 7.36	場面 7（電話の場面）における「お疲れ（～）」と「（～）辛苦了」	163
表 7.37	日本人社会人における別れのあいさつ	167
表 7.38	学習者におけるあいさつ使用の日本人学生との相違点が生じた原因	167
表 8.1	社会人のインフォーマント	170
表 8.2	社会人向けの場面の設定	170
表 8.3	社会人向けの場面設定の根拠（表 5.3 の再掲）	171
表 8.4	場面 1（11 時頃に出会った場面）におけるあいさつの使用頻度	172
表 8.5	場面 2（12 時半頃に出会った場面）におけるあいさつの使用頻度	172
表 8.6	場面 4（その日 2 回以上出会った場面）におけるあいさつの使用頻度	173
表 8.7	場面 3（偶然出会って別れる場面）におけるあいさつの使用頻度	173
表 8.8	場面 5（共同作業をした後別れる場面）におけるあいさつの使用頻度	174
表 8.9	場面 6（メールの場面）におけるあいさつの使用頻度	175
表 8.10	場面 7（電話の場面）におけるあいさつの使用頻度	175
表 8.11	場面 1（11 時頃に出会った場面）において日本人社会人が使用するあいさつ表現	177
表 8.12	場面 1（11 時頃に出会った場面）において中国人社会人が使用するあいさつ表現	178
表 8.13	場面 2（12 時半頃に出会った場面）において日本人社会人が使用するあいさつ表現	178
表 8.14	場面 2（12 時半頃に出会った場面）において中国人社会人が使用するあいさつ表現	179

表 8.15	場面 1・2（出会いの場面）におけるあまり親しくない上位者に対するあいさつ表現の種類	180
表 8.16	場面 1・2（出会いの場面）における親しいと思う上位者に対するあいさつ表現の種類	180
表 8.17	場面 1・2（出会いの場面）における親しい同僚に対するあいさつ表現の種類	180
表 8.18	場面 1・2（出会いの場面）におけるあまり親しくない先輩に対するあいさつ表現の種類	180
表 8.19	場面 1・2（出会いの場面）における親しいと思う先輩に対するあいさつ表現の種類	180
表 8.20	出会いの場面におけるあいさつ表現とポライトネスの関係	181
表 8.21	場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における日本人社会人のあいさつ	182
表 8.22	場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における中国人社会人のあいさつ	182
表 8.23	場面 4（その日 2 回以上出会った場面）におけるあまり親しくない上位者に対するあいさつ	183
表 8.24	場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における親しいと思う上位者に対するあいさつ	183
表 8.25	場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における親しい同僚に対するあいさつ	183
表 8.26	場面 4（その日 2 回以上出会った場面）におけるあまり親しくない先輩に対するあいさつ	183
表 8.27	場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における親しいと思う先輩に対するあいさつ	183
表 8.28	場面 3（偶然出会って別れる場面）における日本人社会人のあいさつ	185
表 8.29	場面 3（偶然出会って別れる場面）における中国人社会人のあいさつ	186
表 8.30	場面 5（共同作業をした後別れる場面）における日本人社会人のあいさつ	187
表 8.31	場面 5（共同作業をした後別れる場面）における中国人社会人のあいさつ	188
表 8.32	場面 3・5（別れの場面）におけるあまり親しくない上位者に対するあいさつ	189
表 8.33	場面 3・5（別れの場面）における親しいと思う上位者に対するあいさつ	189
表 8.34	場面 3・5（別れの場面）における親しい同僚に対するあいさつ	189
表 8.35	場面 3・5（別れの場面）におけるあまり親しくない先輩に対するあいさつ	189
表 8.36	場面 3・5（別れの場面）における親しいと思う先輩に対するあいさつ	189
表 8.37	別れの場面における社会人のあいさつ表現とポライトネスの関係（表 3.2 の再掲）	190
表 8.38	場面 6（メールの場面）における日本人社会人のあいさつ	191
表 8.39	場面 6（メールの場面）における中国人社会人のあいさつ	192
表 8.40	場面 7（電話の場面）における日本人社会人のあいさつ	192
表 8.41	場面 7（電話の場面）における中国人社会人のあいさつ	193
表 8.42	場面 6・7（メール・電話の場面）におけるあまり親しくない上位者に対するあいさつ	193
表 8.43	場面 6・7（メール・電話の場面）における親しいと思う上位者に対するあいさつ	193
表 8.44	場面 6・7（メール・電話の場面）における親しい同僚に対するあいさつ	194
表 8.45	場面 6・7（メール・電話の場面）におけるあまり親しくない先輩に対するあいさつ	194
表 8.46	場面 6・7（メール・電話の場面）における親しいと思う先輩に対するあいさつ	194
表 8.47	場面 1（11 時頃に出会った場面）における「おはよう（～）」と「（～）早（～）」	196
表 8.48	場面 2（12 時半頃に出会った場面）における「おはよう（～）」と「（～）早（～）」	196
表 8.49	場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における「おはよう（～）」と「（～）早（～）」	196
表 8.50	場面 6（メールの場面）における「おはよう（～）」と「（～）早（～）」	196
表 8.51	場面 7（電話の場面）における「おはよう（～）」と「（～）早（～）」	197
表 8.52	場面 1（11 時頃に出会った場面）における「こんにちは」と「（～）好」	198
表 8.53	場面 2（12 時半頃に出会った場面）における「こんにちは」と「（～）好」	199
表 8.54	場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における「こんにちは」と「（～）好」	200
表 8.55	場面 6（メールの場面）における「こんにちは」と「（～）好」	200

表 8.56	場面 7 (電話の場面) における「こんにちは」と「(～) 好」	200
表 8.57	場面 3 (偶然出会って別れる場面) における「さようなら」と「(～) 再见」	202
表 8.58	場面 5 (共同作業をした後別れる場面) における「さようなら」と「(～) 再见」	202
表 8.59	場面 1 (11 時頃に出会った場面) における「お疲れ (～)」と「(～) 辛苦了」	203
表 8.60	場面 2 (12 時半頃に出会った場面) における「お疲れ (～)」と「(～) 辛苦了」	204
表 8.61	場面 4 (その日 2 回以上出会った場面) における「お疲れ (～)」と「(～) 辛苦了」	204
表 8.62	場面 3 (偶然出会って別れる場面) における「お疲れ (～)」と「(～) 辛苦了」	204
表 8.63	場面 5 (共同作業をした後別れる場面) における「お疲れ (～)」と「(～) 辛苦了」	204
表 8.64	場面 6 (メールの場面) における「お疲れ (～)」と「(～) 辛苦了」	205
表 8.65	場面 7 (電話の場面) における「お疲れ (～)」と「(～) 辛苦了」	205
表 8.66	場面 1 (11 時頃に出会った場面) における[会釈・お辞儀]	206
表 8.67	場面 2 (12 時半頃に出会った場面) における[会釈・お辞儀]	206
表 8.68	場面 4 (その日 2 回以上出会った場面) における[会釈・お辞儀]	207
表 8.69	場面 3 (偶然出会って別れる場面) における[会釈・お辞儀]	207
表 8.70	場面 5 (共同作業をした後別れる場面) における[会釈・お辞儀]	207
表 8.71	日本人社会人と中国人社会人におけるあいさつの有無	213
表 8.72	社会人におけるあいさつ使用に関する全体的な特徴	213
表 8.73	社会人における個別のあいさつ表現に関する日中差異	214
表 9.1	大学生と社会人のインフォーマント	216
表 9.2	大学生と社会人向けの場面の設定	217
表 9.3	場面設定の根拠 (表 5.3 の再掲)	218
表 9.4	場面 1 (11 時頃に出会った場面) におけるあいさつの使用頻度 (日本人)	219
表 9.5	場面 1 (11 時頃に出会った場面) におけるあいさつの使用頻度 (中国人)	219
表 9.6	場面 2 (12 時半頃に出会った場面) におけるあいさつの使用頻度 (日本人)	220
表 9.7	場面 2 (12 時半頃に出会った場面) におけるあいさつの使用頻度 (中国人)	220
表 9.8	場面 4 (その日 2 回以上出会った場面) におけるあいさつの使用頻度 (日本人)	221
表 9.9	場面 4 (その日 2 回以上出会った場面) におけるあいさつの使用頻度 (中国人)	221
表 9.10	場面 3 (偶然出会って別れる場面) におけるあいさつの使用頻度 (日本人)	222
表 9.11	場面 3 (偶然出会って別れる場面) におけるあいさつの使用頻度 (中国人)	222
表 9.12	場面 5 (共同作業をした後別れる場面) におけるあいさつの使用頻度 (日本人)	222
表 9.13	場面 5 (共同作業をした後別れる場面) におけるあいさつの使用頻度 (中国人)	222
表 9.14	場面 6 (メールの場面) におけるあいさつの使用頻度 (日本人)	223
表 9.15	場面 6 (メールの場面) におけるあいさつの使用頻度 (中国人)	224
表 9.16	場面 7 (電話の場面) におけるあいさつの使用頻度 (日本人)	224
表 9.17	場面 7 (電話の場面) におけるあいさつの使用頻度 (中国人)	224
表 9.18	場面 1・2 (出会いの場面) におけるあまり親しくない先生／上位者に対するあいさつ (日本人)	226
表 9.19	場面 1・2 (出会いの場面) における親しいと思う先生／上位者に対するあいさつ (日本人)	227
表 9.20	場面 1・2 (出会いの場面) におけるあまり親しくない先輩に対するあいさつ (日本人)	227
表 9.21	場面 1・2 (出会いの場面) における親しいと思う先輩に対するあいさつ (日本人)	227
表 9.22	場面 1・2 (出会いの場面) におけるあまり親しくない先生／上位者に対するあいさつ (中国人)	227
表 9.23	場面 1・2 (出会いの場面) における親しいと思う先生／上位者に対するあいさつ (中国人)	227

表 9.24	場面 1・2（出会いの場面）におけるあまり親しくない先輩に対するあいさつ（中国人）	227
表 9.25	場面 1・2（出会いの場面）における親しいと思う先輩に対するあいさつ（中国人）	227
表 9.26	場面 1・2（出会いの場面）における親友／親しい同僚に対するあいさつ（日本人）	228
表 9.27	場面 1・2（出会いの場面）における親友／親しい同僚に対するあいさつ（中国人）	228
表 9.28	場面 4（その日 2 回以上出会った場面）におけるあまり親しくない目上に対するあいさつ（日本人）	228
表 9.29	場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における親しいと思う目上に対するあいさつ（日本人）	228
表 9.30	場面 4（その日 2 回以上出会った場面）におけるあまり親しくない先輩に対するあいさつ（日本人）	228
表 9.31	場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における親しいと思う先輩に対するあいさつ（日本人）	229
表 9.32	場面 4（その日 2 回以上出会った場面）におけるあまり親しくない目上に対するあいさつ（中国人）	229
表 9.33	場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における親しいと思う目上に対するあいさつ（中国人）	229
表 9.34	場面 4（その日 2 回以上出会った場面）におけるあまり親しくない先輩に対するあいさつ（中国人）	229
表 9.35	場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における親しいと思う先輩に対するあいさつ（中国人）	229
表 9.36	場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における親友／親しい同僚に対するあいさつ（日本人）	229
表 9.37	場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における親友／親しい同僚に対するあいさつ（中国人）	229
表 9.38	場面 3・5（別れの場面）における親しいと思う目上に対するあいさつ（日本人）	230
表 9.39	場面 3・5（別れの場面）におけるあまり親しくない先輩に対するあいさつ（日本人）	230
表 9.40	場面 3・5（別れの場面）におけるあまり親しくない先生に対するあいさつ（日本人）	230
表 9.41	場面 3・5（別れの場面）における親しいと思う先輩に対するあいさつ（日本人）	230
表 9.42	場面 3・5（別れの場面）におけるあまり親しくない目上に対するあいさつ（中国人）	230
表 9.43	場面 3・5（別れの場面）における親しいと思う目上に対するあいさつ（中国人）	230
表 9.44	場面 3・5（別れの場面）におけるあまり親しくない先輩に対するあいさつ（中国人）	231
表 9.45	場面 3・5（別れの場面）における親しいと思う先輩に対するあいさつ（中国人）	231
表 9.46	場面 3・5（別れの場面）における親友／親しい同僚に対するあいさつ（日本人）	231
表 9.47	場面 3・5（別れの場面）における親友／親しい同僚に対するあいさつ（中国人）	231
表 9.48	場面 6・7（メール・電話の場面）におけるあまり親しくない目上に対するあいさつ（日本人）	231
表 9.49	場面 6・7（メール・電話の場面）における親しいと思う目上に対するあいさつ（日本人）	232
表 9.50	場面 6・7（メール・電話の場面）におけるあまり親しくない先輩に対するあいさつ（日本人）	232
表 9.51	場面 6・7（メール・電話の場面）における親しいと思う先輩に対するあいさつ（日本人）	232
表 9.52	場面 6・7（メール・電話の場面）におけるあまり親しくない目上に対するあいさつ（中国人）	232
表 9.53	場面 6・7（メール・電話の場面）における親しいと思う先生／上位者に対するあいさつ（中国人）	232
表 9.54	場面 6・7（メール・電話の場面）におけるあまり親しくない先輩に対するあいさつ（中国人）	232
表 9.55	場面 6・7（メール・電話の場面）における親しいと思う先輩に対するあいさつ（中国人）	232
表 9.56	場面 6・7（メール・電話の場面）における親友／親しい同僚に対するあいさつ（日本人）	233
表 9.57	場面 6・7（メール・電話の場面）における親友／親しい同僚に対するあいさつ（中国人）	233
表 9.58	場面 1（11 時頃に出会った場面）における日本人の「おはよう（～）」	237
表 9.59	場面 1（11 時頃に出会った場面）における中国人の「（～）早（～）」	237
表 9.60	場面 2（12 時半頃に出会った場面）における日本人の「おはよう（～）」	238
表 9.61	場面 2（12 時半頃に出会った場面）における中国人の「（～）早（～）」	238
表 9.62	場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における日本人の「おはよう（～）」	238
表 9.63	場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における中国人の（～）早（～）	239
表 9.64	場面 6（メールの場面）における日本人の「おはよう（～）」	240

表 9. 65	場面 6 (メールの場面) における中国人の「(～) 早 (～)」	240
表 9. 66	場面 7 (電話の場面) における日本人の「おはよう (～)」	240
表 9. 67	場面 7 (電話の場面) における中国人の「(～) 早 (～)」	240
表 9. 68	場面 1 (11 時頃に出会った場面) における日本人の「こんにちは」	242
表 9. 69	場面 1 (11 時頃に出会った場面) における中国人の「(～) 好」	242
表 9. 70	場面 2 (12 時半頃に出会った場面) における日本人の「こんにちは」	243
表 9. 71	場面 2 (12 時半頃に出会った場面) における中国人の「(～) 好」	243
表 9. 72	場面 4 (その日 2 回以上出会った場面) における日本人の「こんにちは」	244
表 9. 73	場面 4 (その日 2 回以上出会った場面) における中国人の「(～) 好」	244
表 9. 74	場面 6 (メールの場面) における日本人の「こんにちは」	245
表 9. 75	場面 6 (メールの場面) における中国人の「(～) 好」	245
表 9. 76	場面 7 (電話の場面) における日本人の「こんにちは」	246
表 9. 77	場面 7 (電話の場面) における中国人の「(～) 好」	246
表 9. 78	場面 3 (偶然出会って別れる場面) における日本人の「さようなら」	248
表 9. 79	場面 3 (偶然出会って別れる場面) における中国人の「(～) 再见」	248
表 9. 80	場面 5 (共同作業をした後別れる場面) における日本人の「さようなら」	249
表 9. 81	場面 5 (共同作業をした後別れる場面) における中国人の「(～) 再见」	249
表 9. 82	場面 1 (11 時頃に出会った場面) における日本人の「お疲れ (～)」	251
表 9. 83	場面 1 (11 時頃に出会った場面) における中国人の「(～) 辛苦了」	251
表 9. 84	場面 2 (12 時半頃に出会った場面) における日本人の「お疲れ (～)」	251
表 9. 85	場面 2 (12 時半頃に出会った場面) における中国人の「(～) 辛苦了」	252
表 9. 86	場面 4 (その日 2 回以上出会った場面) における日本人の「お疲れ (～)」	252
表 9. 87	場面 4 (その日 2 回以上出会った場面) における中国人の「(～) 辛苦了」	252
表 9. 88	場面 3 (偶然出会って別れる場面) における日本人の「お疲れ (～)」	253
表 9. 89	場面 3 (偶然出会って別れる場面) における中国人の「(～) 辛苦了」	253
表 9. 90	場面 5 (共同作業をした後別れる場面) における日本人の「お疲れ (～)」	253
表 9. 91	場面 5 (共同作業をした後別れる場面) における中国人の「(～) 辛苦了」	253
表 9. 92	場面 6 (メールの場面) における日本人の「お疲れ (～)」	254
表 9. 93	場面 6 (メールの場面) における中国人の「(～) 辛苦了」	255
表 9. 94	場面 7 (電話の場面) における日本人の「お疲れ (～)」	255
表 9. 95	場面 7 (電話の場面) における中国人の「(～) 辛苦了」	255
表 9. 96	場面 1 (11 時頃に出会った場面) における日本人の[会釈・お辞儀]	257
表 9. 97	場面 1 (11 時頃に出会った場面) における中国人の[会釈・お辞儀]	257
表 9. 98	場面 2 (12 時半頃に出会った場面) における日本人の[会釈・お辞儀]	257
表 9. 99	場面 2 (12 時半頃に出会った場面) における中国人の[会釈・お辞儀]	257
表 9. 100	場面 4 (その日 2 回以上出会った場面) における日本人の[会釈・お辞儀]	258
表 9. 101	場面 4 (その日 2 回以上出会った場面) における中国人の[会釈・お辞儀]	258
表 9. 102	場面 3 (偶然出会って別れる場面) における日本人の[会釈・お辞儀]	260
表 9. 103	場面 3 (偶然出会って別れる場面) における中国人[会釈・お辞儀]	260
表 9. 104	場面 5 (共同作業をした後別れる場面) における日本人の[会釈・お辞儀]	261
表 9. 105	場面 5 (共同作業をした後別れる場面) における中国人[会釈・お辞儀]	261

表 9.106	大学生と社会人におけるあいさつの有無	263
表 9.107	大学生と社会人におけるあいさつに関する全体的な特徴	263
表 9.108	個別のあいさつ表現に関する日中差異	264
表 10.1	大学生と学習者のあいさつ使用の傾向	268
表 10.2	学習者におけるあいさつ使用の日本人学生との相違点が生じた原因（表 7.38 の再掲）	270
表 10.3	「さようなら」と「(～) 再见」における場面による使用制限の差異	272
表 10.4	「お疲れ(～)」と「(～) 辛苦了」の用法の相違点	273

図一覧

図 3.1	あいさつ表現とポライトネスの関係	31
図 7.1	「おはよう」の意識（速司 2004 による）	160
図 8.1	場面 1（11 時頃に出会った場面）における「お疲れ（～）」の年代差	209
図 8.2	場面 2（12 時半頃に出会った場面）における「お疲れ（～）」の年代差	210
図 8.3	場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における「お疲れ（～）」の年代差	210
図 8.4	場面 3（偶然出会って別れる場面）における「お疲れ（～）」の年代差	211
図 8.5	場面 5（共同作業をした後別れる場面）における「お疲れ（～）」の年代差	211
図 8.6	場面 6（メールの場面）における「お疲れ（～）」の年代差	212
図 8.7	場面 7（電話の場面）における「お疲れ（～）」の年代差	212
図 10.1	先生・上位者に対するあいさつの有無の日中差異	271
図 10.2	親友・親しい同僚に対するあいさつの戦略の日中差異	271

第 1 章 序論

1.1 研究の背景と目的

あいさつは、コミュニケーションにおいて重要な位置を占め、人々の相互交流に不可欠な言語行動の一つである。日本社会では、あいさつという言語行動が極めて重要な位置を占めている。あいさつは、良好な人間関係を維持する上で非常に重要な役割を果たしているため、幼少時から人と接する上での必要不可欠のマナーとして教えられ、多くの人々がそれを忠実に守っている（倉持 2013:5）。また、比嘉（1985:15）によれば、成人になっている新入社員までが、あいさつをすることや、どのようにあいさつをするかを集団として教えられている。これらのことは、あいさつが日本の社会の中で非常に重視されていることを示している。

あいさつの重要性は、同一の文化におけるコミュニケーションに限らず、異文化交流にも当てはまる。異文化交流において自然にあいさつをすることができるかどうかは、外国語学習者にとっては切実な問題である。しかし、学習者は目標言語によるあいさつの仕方を十分に教えられているとは限らない。日本語教育現場において、朝のあいさつとして「おはよう（～）」という言い方を指導されるが、実際の日本社会では、常にそれが使われているわけではない。昼間のあいさつとして「こんにちは」という言い方を指導されるが、外国人日本語学習者は、日本に来ると、日本人が実際にそのあいさつを使うことはそれほど多くないということを間もなく知ることになる。ねぎらいのあいさつとして「お疲れ（～）」という言い方を指導されるが、実際の日本人の生活では、そのあいさつは誰に対しても使えるものではなく、またねぎらいのあいさつとしてのみ使用されているわけではない。

2015 年に国際交流基金が海外での日本語学習者数について調査を実施した。その結果、世界で最も日本語学習者が多い国は中国で 953,283 人であり、全学習者の 26.1%に上っている¹ことが明らかになった。また、同調査において、日本語教育上の問題点については、中国、インドネシア、韓国の上位 3 か国が与える影響が大きいと指摘されている。そこで、あいさつに関する日本語教育上の問題点を解決するためには、中国人日本語学習者のあいさつ使用についての研究を行うことが必要となる。中国人日本語学習者があいさつ使用で困難を感じる点は、どこにあるのか。それらの点において、中国人留学生、日本語母語話者、中国語母語話者はそれぞれ実際にどのようにあいさつをしているのか。

これまで、中国人留学生のあいさつ使用に関する指摘はいくつかの文献に散在している。彭（1990:175）は、中国人留学生が知人に会った時、「こんにちは」のあいさつの代わり

¹ 国際交流基金のサイト（https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/result/dl/survey_2015/all.p（2017-05-19））による。

に、「だいぶ痩せてきたな」、「ちょっと太ってきたな」、「背がだいぶ伸びたな」、「髪の毛がだいぶ薄くなったな」などと言うと述べている。しかし、彭（1990）はそれ以上細かい分析に立ち入ることなく、問題点の指摘を試みる段階にとどまっている。そして、中国人留学生におけるあいさつを含む言語習慣の問題について、以下のように指摘している。

留学生活において、よく思いもよらぬところに、奇想天外な誤解が起こる。その多くはその根本にある言語習慣にかかわることが主な原因で、その点はとりわけ注目すべきである。言語習慣に関する問題は、従来の辞書の記述を超えるもので、今後の研究が期待される。国別の日本語教育に関する研究が重要な課題である。（彭 1990:194）

また、中国人日本語学習者とのコミュニケーションの中であいさつをする時に違和感を覚えた経験を持つ日本人が少なくないようである。単に習得が未熟な場合は別として、問題になるのはあいさつをしないほうがよいタイミングであいさつが行われる場合である。これについて、滝浦（2008）は以下のように例を挙げ、分析している。

大学内を歩いていると、中国人学生から「先生！」や「滝浦先生！」と呼びかけられることがまある。何だろうと振り返ると、声の主はにこにこ笑いながら行ってしまう。じつは、これはあいさつである。用があって「呼び止めた」のではなく、あいさつとして「呼びかけた」のだとわかるまで、しばらく不思議だった。「先生！」の後ろに「こんにちは！」が付くこともあるが、付けないほうが親しみは強く出るという。昼時なら、後ろに「ご飯食べましたか？」が付いていることもある。これも、食事に誘っているわけではなく、質問の形をとったあいさつである。日本的な文脈なら、「先生を食事に誘うために呼び止めた」となるところが、そういうことでは全くなく、これらも「ああ、～さん、ご飯食べた？」と返せば、あいさつの交換は完了する。（滝浦 2008:114-115）

上記のように、中国人日本語学習者のあいさつ使用の問題点については、個人の経験や印象記などで多く語られてきたが、実証的な調査による研究成果はいまだ十分には得られていない。このような中国人日本語学習者のあいさつ使用に関する問題点を明らかにし、その原因を分析することによって、日本語教育現場におけるあいさつの指導法に関する具体的な問題を解決するための示唆を得ることができるのではないかと考えられる。

また、中国人日本語学習者のあいさつ使用に関する問題点の要因を解明するためには、日本人と中国人におけるあいさつの対照研究を行う必要がある。あいさつ使用の日中差異を考察する際、あいさつをした人がどのようなポライトネス・ストラテジーを用いたかについて注目することが有効である。そして、あいさつの使用は場面や対人関係によって異な

ることが多いため、場面・対人関係という要素を考えざるを得ない。以上より、ポライトネスの観点から、場面および対人関係に注目して、日本語教育におけるあいさつ指導の問題点を解決するための日中対照研究を行う必要があるのではないかと考えられる。

本研究は、あいさつに関する自由記述式調査を通じて、ポライトネスの観点から日本人と中国人の様々な場面や対人関係におけるあいさつ使用の相違点を考察し、中国人日本語学習者におけるあいさつ使用の問題点およびそれらの要因を明らかにし、その解決策を提示することを目的とする。

1.2 研究の意義

1.2.1 日本語教育における意義

日本語教育の研究について、第二外国語や日本語教育の実践研究だけではなく社会言語学や対照言語学の観点から行うことも重要であると言われている。熊谷（2002:21）が指摘しているように、外国語教育において、教授者が学習者の母語と目標言語の異同に関する情報をもっていることは、母語の干渉や習得上の困難点を予測し、指導方法や教材を準備する上で非常に有効である。しかし、日本語教育現場における日本語学習者に対するあいさつの指導がそのような情報をふまえて十分に行われているとは言い難い。中国国内での日本語教育現場におけるあいさつの指導について、施（2005）は以下のように述べている。

...あいさつを教える場合、日本語のあいさつを自国語と類似するあいさつ表現と安易に結び付けて、その用法を学習者に類推させるという方法が頻繁にとられている。こうした教育により、日本語の「さようなら」と中国語の「再见」とは同義であるという把握の仕方が一般的となっている。しかし、実際は同義であると断じることのできないことが分かった。更に、中国での日本語学習のプロセスにおいては、一般として文法や語彙といった言語内部体系部分を教授するが、しかし、実際の言語行動においてはその他の様々の要素が複雑に絡み合っているものであり、それら諸要素を明示的に教えることは稀である。いわば、母語の干渉がいたるところで起こっているという日本語教育現状とも言えよう。（施 2005:4）

中国国内の日本語教育では、あいさつの指導に関する上述のような問題があるため、日本人が実際に使用しているあいさつにどのような特徴があるのか、中国人のあいさつとどのような差異があるのかを明らかにする必要がある。そのために、あいさつの日中対照研究を行うことが急務となっている。本研究で得られる成果は日本語教育におけるあいさつの指導に応用できるものであり、教育現場への貢献につながると考えられる。

1.2.2 異文化交流における意義

文化が異なれば、あいさつの使用も異なると言われている。小林（1981:89）は、「あいさつは対話の開始部と終結部に規則的におきる一種の礼儀行動として関心の対象となる（中略）...その儀礼的行為の中にその社会の基本的人間関係のあり方、対人行動の規範が示されている」と指摘している。また、比嘉（1985:16）は、「あいさつそのものは人類に普遍的であっても、その具体的な内容や方法には民族的なあるいは社会的な差がある（中略）...あいさつを心理的に、社会的に、そして比較文化的に研究することは、人間と社会の本質を理解するのに大きな貢献をすることは言うまでもない」と述べている。さらに、ト（1990:148）によると、あいさつ表現は、ある一定の制約のもとで行われ、その表出される条件（固定的、臨時的条件）の取捨によって形が変わっているため、異文化間コミュニケーションにおいて、このような取捨選択を把握できれば、伝達と相互理解がうまくいく。

要するに、あいさつは世界共通の礼儀習慣としてすべての民族あるいは社会に存在しているが、それぞれのあいさつの仕方は異なっており、その民族や社会の基本的な人間関係のあり方を反映していると言われている。そのように考えれば、日中両国のあいさつを分析考察することによって、日本人と中国人におけるそれぞれの人間関係の本質的なあり方を浮き彫りにすることが可能であり、日中両国間における異文化交流の促進に貢献できるのではないと思われる。日本と中国は、同じ漢字文化圏にあり、儒教の影響も大きいため、礼儀を示すという点で類似している。しかし、日本人と中国人は、実際にあいさつをする場合、それぞれ異なる特徴を有していると見られる。滝浦（2008:114）は、日本のあいさつ習慣と比べた時、中国のあいさつ習慣は、その際立った対照において大変興味深い問題を提供してくれると指摘している。日中のあいさつ習慣の違いを十分に理解していない場合、日中交流において誤解やコミュニケーション上の衝突が発生しかねない。

本研究の成果によって、日本人と中国人に両者のあいさつの異なる特徴を提示し、相互理解を促進することが期待できることから、本研究は異文化交流に貢献しうるものであると考えられる。

1.2.3 言語研究上の意義

あいさつの対照研究は、対照ポライトネス論と日本語教育学にとって重要であると考えられる。滝浦（2008:114）が述べているように、ポライトネスのスタイルに関する文化的な選好を解明しようとする対照ポライトネス論にとって、「あいさつ」行動の文化間比較は、それぞれの文化における人間関係のありようを最も直接的に反映する現象として、一つの格好のテーマとなる。ポライトネスの観点からあいさつの日中対照研究を行うことを通して、あいさつのストラテジーの日中差異だけではなく、日本人と中国人におけるポライトネス意識の違いも明らかにすることができるとと思われる。それと同時に、日本人と中国人

におけるポライトネスの場面や対人関係による相違点も窺えるだろう。また、日本語教育の研究について、第二外国語や日本語教育の実践研究だけではなく社会言語学や対照言語学の観点から行うことも重要であると言われている。つまり、本研究で得られる成果は、対照ポライトネス論や日本語教育の研究にある程度貢献できるのではないかと考えられる。

1.3 論文の構成

本論文は全 10 章から構成される。以下、第 2 章では先行研究の整理、第 3 章では研究方法の提示、第 4・5・6・7 章では実証的検討、第 8・9 章では総合的考察を行い、第 10 章では結論を述べ、今後の展望を示す。

第 2 章では、あいさつの概念を規定し、関連領域における先行研究を整理し、本研究の位置づけ（研究課題）について明らかにする。

第 3 章では、研究方法を紹介する。調査概要を説明し、あいさつとポライトネスの対応関係および、なぜポライトネスの観点から考察するのかについて明らかにする。

第 4 章では、中国人上級日本語学習者のあいさつ使用に関する困難点を明らかにする。中国人上級日本語学習者が日本語母語話者にあいさつする際戸惑っている点に限らず、中国人上級日本語学習者のあいさつ使用について、日本人日本語教師と日本人大学教員が違和感を覚えている点も究明する。

第 5 章では、中国人留学生におけるあいさつ使用の特徴を明らかにする。中国人上級日本語学習者が戸惑っている点および日本人日本語教師と日本人大学教員が違和感を覚えている点において中国人留学生が実際にどのようにあいさつをしているかについて、日本人学生との比較を通して考察する。

第 6 章では、日本人学生と中国人学生のあいさつ使用に関する差異を明らかにする。中国人上級日本語学習者が戸惑っている点および日本人日本語教師と日本人大学教員が違和感を覚えている点において、日本人学生と中国人学生が実際にそれぞれの母語でどのようにあいさつをしているかを明らかにする。

第 7 章では、中国人上級日本語学習者におけるあいさつ使用で日本人学生との相違点が生ずる原因について、語用論的転移の観点や日本語教育の視点から考察する。

第 8 章では、社会人におけるあいさつ使用の日中差異を解明する。中国人上級日本語学習者が戸惑っている点および日本人日本語教師と日本人大学教員が違和感を覚えている点と類似する社会場面において、日本人の社会人と中国人の社会人は実際にそれぞれの母語でどのようにあいさつをしているかを明らかにする。

第 9 章では、日本人の大学生と社会人における相違および中国人の大学生と社会人における相違に関する日中対照を行う。第 6 章と第 8 章の結果を用いて、日本人の大学生と社会人における相違は、中国人の大学生と社会人における相違とどのような違いがあるのかについて明らかにする。

第 10 章では、第 4 章から第 9 章までで明らかにした中国人上級日本語学習者のあいさつ使用における困難点、日本語母語話者と中国語母語話者のあいさつ使用に関する異同、および中国の大学で広く使用されている日本語教材におけるあいさつの指導項目と特徴をまとめ、中国人留学生におけるあいさつ使用に関する問題点およびそれらの問題点の原因と解決策を総合的に提示する。また、最後に、あいさつの日中対照研究についての今後の課題と展望を示す。

第2章 あいさつ研究の現状と課題

本章では、あいさつの定義とあいさつの対人関係による使用制限の意味を明らかにし、日本語学習者のあいさつ使用に関する研究および、あいさつ使用に関する日中対照研究の現状をまとめ²、それぞれの研究について検討するとともに、本研究の課題を示す。

2.1 あいさつの定義

あいさつという言葉の意味を広く取れば、日常私たちが家族の者や知人と交わす「おはよう」、「さようなら」の類から、初対面の人同士の自己紹介、そして公式の席における祝詞や答辞のようなもの、更には特殊な社会で用いられる仁義などまで、どれもあいさつとみなすことができる（鈴木 1975:67、1981:34）。比嘉（1981:5）は、「あいさつとは、人と人とが会った時や別れる時にとりかわされる社交的なあるいは儀礼的なことばや動作である」と定義している。西江（2000:60）は、あいさつとは、基本的には複数の個体が出会った場合に、コミュニケーション状態に入る時点、または、それを解消する時点で、特定の型を伴う行動となって現れるものであると述べている。濱屋（2007:5）は、あいさつを「コミュニケーションの開始や社会関係の維持を円滑、快適にすることを目的とし、その社会によって期待された生活の特定の場面で交わされる定型的、儀礼的な言動である」と規定している。滝浦（2008）によると、あいさつとは、社会的な人間関係において、場面に応じて儀礼的に交わされる言葉（や動作）のことであり、出会いと別れのあいさつ、集団的行動の開始と終了のあいさつ、感謝と詫びのあいさつなど、日常生活のほとんどあらゆる場面で見ることができる。

また、辞書³における「あいさつ」の項目を以下に示す。

- 『三省堂国語辞典』（三省堂・第七版・2013:3）

- ①人と会ったり別れたりするときに、尊敬やしたしみの気持ちを態度にあらわすこと。
また、そのことば。
- ②[集会などでもよすがわが]感謝や会の趣旨（シュシ）、またその時の気持ちなどについて言う<こと/ことば>。
- ③儀式（ギシキ）的・儀礼的な意味をもつ、手紙の型。
- ④[相手のことばに合わせた]返答。

² 日本語によるあいさつ・あいさつ表現に関する先行研究は数多く存在しているが、本研究の課題と緊密な関連性がないため、それらに関する紹介はここで割愛する。

³ 現在、日本で広く使用されている辞書を選択した。また、選択した辞書は、すべて最新版である。

- 『旺文社国語辞典』（旺文社・第十一版・2013:19）
 - ①人に会ったときや別れるときにかかわす社交的な言葉や動作。
 - ②儀式・就任・離任などのとき、敬意・祝意・謝意などを述べること。また、その言葉。
 - ③他人の言動への応対や返事。うけこたえ。
 - ④（「ごあいさつ」の形で）相手の失礼な言動を皮肉ってという語。

- 『新明解国語辞典』（三省堂・第七版・2011:3）
 - ①人と会った時や別れる時に、社交的・儀礼的な（動作を伴った）言葉を交わすこと。
また、その言葉。
 - ②その場に居る人に対して、来訪の趣旨や開会・閉会を伝えたり儀礼として祝意や謝意を表したりすること（言葉）。
 - ③「（これは）ご挨拶だね」の形で、「なんというあきれた物の言いようだ」と相手の失礼な応対を非難する気持ちで皮肉を込めて用いられる。

- 『広辞苑』（岩波書店・第六版・2008:5）
 - ①[仏]禅家で、問答を交わして相手の悟りの深淺を試みること。
 - ②うけこたえ。応答。返事。
 - ③人に会ったり別れたりするとき、儀礼的に取り交わす言葉や動作。
 - ④儀式・会合などで、祝意や謝意、親愛の気持ち、あるいは告示などを述べること。
また、その言葉。
 - ⑤（「御—」の形で）相手の挑発的な、礼を失ったような言動を皮肉ってという語。
 - ⑥仲裁。仲裁人。
 - ⑦紹介。紹介者。
 - ⑧人と人との間柄。交際。

- 『岩波国語辞典』（岩波書店・第七版・2009:3）
 - ①人と会ったとき取りかわす儀礼的な動作・言葉。
 - ②儀式・就任・離任などの時、祝意・謝意・親愛の意などを述べる言葉。
 - ③応対。返事。
 - ④「ごあいさつ」の形で、失礼な応答に対して皮肉をこめて用いる。
 - ⑤もと、禅家で（師と修行僧が）問答を交わす意。

以上の先行研究におけるあいさつの定義と辞書におけるあいさつの意味をまとめて分類し、その結果を表 2.1 に示す。表 2.1 が示しているように、あいさつは、「対人関係」と

深い関係を持っている。

表 2.1 あいさつの意味分類

内容	
①	初対面の自己紹介
②	人と人が出会った時や別れる時に、社会関係の維持を円滑、快適にするため、場面に応じてとりかわされる社交的・儀礼的な言動
③	儀式や会合などで述べられる社交的・儀礼的な言葉（祝詞・答辞など）
④	感謝・詫び
⑤	他人の言動への応対や返事。うけこたえ。
⑥	（「ごあいさつ」の形で）相手の失礼な言動を皮肉ってという語
⑦	禅家で（師と修行僧が）問答を交わす意
⑧	人と人との間柄。交際。
⑨	仲裁。仲裁人。

本研究では、表 2.1 の①～⑨の意味のうち日常的なコミュニケーションと深いかわりを持つものとして広く共有されている②を踏まえ、あいさつを「対人関係を維持するため、ある場面における最初と最後のポイントで、相手との関係を考慮しながら使用する社交的・儀礼的な表現」と定義する。

2.2 対人関係による使用制限

本節では、本研究で用いる「使用制限」という概念について、対人関係による使用制限を取り上げて解説する。

対人関係には、「上下」や「親疎」などがある。言葉の使用は、これらの「上下」、「親疎」という対人関係の要素によって異なる。言葉の対人関係による使用制限とは、言葉を使用する際、「上下」や「親疎」などの対人関係の要素によって使用が制約されることである。井出（2006）は、言葉の「ウチ・ソト」という対人関係による使用制限について、日本語の丁寧語を例として、以下のように述べている。

対人関係といっても様々あるが、人間の基本的欲求には、相手に邪魔されたくないという欲求と相手に好ましく思われたいという欲求がある。その2つの欲求を両極と捉えた場合、相手との間柄の尺度として話し手が持つ心的距離には大きいものと小さいものがある。丁寧語を使用するか否かの区別で、人間関係がソトという心的距離が大きいことを示すものとウチという心的距離が小さいことを示すものとに二分される。日本語では、相手がソトであるかウチであるかを区別して、ソトである相手には「です・ます」というような丁寧語を使用するが、ウチである相手にはそれを使わない。（井出 2006:50）

ウチ・ソトという親疎関係による使用制限は、あいさつの使用にも当てはまる。ト(1990:148)によると、あいさつ表現はある一定の制約のもとで行われ、それが表出される条件、すなわち固定的、臨時的条件の取捨によって形が変わっている。日本では、両親に対して、「おはよう」「おはようございます」とは言うが、「こんにちは」と言うことはない(水谷 1979:4)。また、あいさつの使用制限は、ウチ・ソトなどの親疎関係に限らず、上下関係についても存在する。上下関係においては、上位者に使用するあいさつは下位者や同等者に対しても同様に使用できるわけではない。たとえば、上位者に使用する「失礼します」は、通常下位者に対して使うことはないだろう。また、下位者や同等者に使用するあいさつが上位者に対しても使用できるとは限らない。改まった場面で下位者に使用する「おはようございます」は、上位者に対しても使用できるが、くだけた場面で下位者に使用する「おっす」は、上位者には使用しがたい。

本研究では、上述の言葉における親疎および上下の人間関係による使用制限を対人関係による使用制限と呼ぶ。ただし、本研究における「対人関係による使用制限」は、「100%使用できる」あるいは「100%使用できない」という意味ではなく、以下の①と②が示しているとおりである。

- ①同一のあいさつ表現 X は、対人関係における A 群に対しては多く使用されているが B 群に対してはほとんど使用されていない。そして、A 群に対する X の使用と B 群に対する X の使用に関する差異が顕著である。
- ②A 群に対して、あいさつ表現 X は多く使用されているが、あいさつ表現 Y はほとんど使用されていない。そして、A 群に対する X と Y の使用に関する差異が顕著である。

2.3 留学生のあいさつに関する研究の現状

現段階において、留学生のあいさつに関する研究は十分であるとは言い難い。留学生のあいさつ使用に対する研究には、施(2005b)、園田他(2006)、王(2008)、嶋津(2010)などがある。以下、その概要を紹介する。

2.3.1 中国人留学生の違和感

施(2005b)は、日本語のあいさつ言語行動に対して中国人留学生が違和感を覚えるかどうか、その違和感とは何かについて明らかにするため、2002年10月から2003年12月にかけて、広島市に1年以上滞在し、ある程度日本語が理解できる(日本語を600時間程度学習し、中級日本語コースを終了した)中国人留学生100人を対象に調査を行った。その結果、「日本人と話している時、母国のあいさつの仕方との違いを感じたことがありますか」

という質問に対して、「よくある」および「時々ある」と答えた中国人留学生の合計が 94% とかなり高い数値に達していることがわかった。また、どのような点に違和感を覚えたかという質問に対して、「この前はどうも」や「すみませんが、急に仕事を頼まれたのだけど〜」のような日本語の曖昧さや「すみません」の多用に対して違和感を持つ中国人留学生が最も多く見られた。さらに、「〜けど」や「ちょっと〜」等の文型のようなはっきり言わないことに対する違和感、「すみません」、「どうも」、「お疲れ様」、「頑張ってください」、夜の仕事先で言う「おはよう（〜）」等のようなあいさつ言語行動における決まり文句などに対する違和感、「失礼します」や「お邪魔しました」のように汎用されているあいさつの丁寧度に対する違和感も挙げられている。

中国人留学生において日本語あいさつ言語行動に関する違和感が生じた原因について、施 (2005b) は、社会と文化の視点から考察した。施 (2005b:4) によると、日本語のあいさつ言語行動に関して多様な違和感が生じる要因は、日中両国語のあいさつ言語行動様式の相違、母語の干渉、更に日本語に関する知識不足などによるものである。これは、あいさつ表現が曖昧だったり、省略・婉曲的な表現が用いられると話者の意図が上手くつかめなかったり、言葉が最後まで完全な形で述べられず、結局何を言っているのかさっぱり分からなかったりすることから察知される (施 2005b:4)。具体的な事例について、施 (2005b) は、日本語の「すみません」と中国語の「对不起」の区別、「どうも」の用法を考察した。

施 (2005b) は、中級日本語コースを終了した中国人留学生における日本語あいさつ言語行動に関する違和感およびその背後にある原因を考察したが、中国人留学生が日本人にあいさつする時の戸惑いや実際にどのようにあいさつしているかということについては言及していない。中国人留学生が日本語のあいさつ表現に違和感を覚えているからといって、その用法に戸惑っているとは限らない。たとえば、「どうぞよろしくお願いします」のような日本語らしいあいさつ表現に対して違和感を覚えていたとしても、「郷に入っては郷に従え」という気持ちで自然に使っている中国人留学生は少なくないだろう。さらに、中国人留学生が、当初あいさつの用法に戸惑ったとしても、実際にあいさつをする場合、必ずしも間違えるわけではない。たとえば、アルバイト先で午後の出勤時に「おはようございます」とあいさつする習慣があれば、わけが分からなくても正しくあいさつできる中国人留学生のほうが多いのではないだろうか。したがって、中国人留学生が日本人にあいさつする時実際にどのようにあいさつをしているかを明らかにすることが重要であると考えられる。具体的に言えば、日本語のあいさつ表現における中国人留学生の違和感だけでなく、中国人留学生が日本人にあいさつする場合に戸惑っていることおよび、戸惑った点で実際にどのようにあいさつをしているかということも調査すべきだと考えられる。

2.3.2 留学生の戸惑い

園田他 (2006) は、山形大学で行っている「異文化交流会」(日本人学生 6 人と留学生 2

人) の記録からあいさつ、非言語伝達、方言、若者言葉、子どものときの遊び等をテーマに話し合い、普段気にとめずにいる事柄を意識化したり、考えたりするきっかけとしていく様子を観察した。その結果、留学生のあいさつ使用に対する戸惑いとして、以下のことが挙げられている。

留学生からは、「日常生活中にはいろんな細かいところがあるので、理解するのは難しい。たとえば、「おはようございます」の場合、最初は理解できませんでした」(F1) とあるように、現在かなり多く(調査によっては約 8 割)の学生が昼夜を問わず「おはよう(〜)」と言うことがやはり不思議に感じられたようである。(園田他 2006:17)

園田他(2006)は、留学生のあいさつ使用に対する戸惑いについて触れているが、データは異文化交流活動における留学生 2 人によるデータに限られている。そして、この 2 人の留学生はどこの国の留学生であるか、どのレベルの学習者なのかについては明記されていない。

2.3.3 在日中国人留学生の言語使用

王(2008)が指摘しているように、日中両国におけるあいさつ言語行動についての比較研究は見られるが、在日中国人のあいさつに関する研究はほとんどない。そこで、王(2008)は、あいさつ場面での日本語と中国語の使用実態を明らかにするため、「午前中、学校で次の中国人／日本人と会ったとします。そこで「おはようございます」というあいさつを伝えようとするならば、どういう表現にしますか」という質問⁴を設定し、2002 年 7 月から 12 月にかけて、仙台、福島、東京、長崎、那覇で大学・専門学校・日本語学校に通学する中国人留学生 402 人(男性 185 人、女性 179 人、性別不明 38 人)⁵に対してアンケート調査を実施した。その結果は、以下のとおりである。

- (1) 中国人に対する使用言語について、中国語より日本語の使用率のはるかに高い。
- (2) 日本人に対しては、中国人留学生はほぼ全員が日本語であいさつする。
- (3) 中国人留学生は、話し相手との親疎・上下関係によってあいさつ表現形式を使い分けている。

上記の結果(1)と(2)は、日本語あいさつ表現の定型性と社会の言語環境(日本語主流社会)の二要因の相互作用に起因すると王(2008)は述べている。日本語あいさつ表現

⁴ 王(2008)は、話し相手の国籍・話し相手との親疎・上下関係を替えた 12 場面を設定し、選択肢「おはようございます」「おはよう」「おは」「おす」「早」「早上好」という六つから一つを選んでもらった。

⁵ 調査対象は、大半が 20 代で、平均年齢は 24 歳である。

の定型性という要因に関する具体的な分析は下記のとおりである。

日本語のあいさつ表現は定型化されているとしばしば指摘されている。それに対し、中国語のあいさつ表現は定型化されていない。あいさつ表現が決まっていなかったため、人と出会った時、どのようにあいさつすればいいかわからなくて悩んでしまうことさえある。一方、日本語はあいさつ表現が定型化されているため、誰に対しても決まりきった表現を使えば問題ない。この表現をこの場でこの人に使うと失礼なのではないかと一々悩まなくても済む。中国人にとって日本語のあいさつはとても便利でしかも無難な表現なのである。そのためついつい中国人に対しても日本語であいさつするようになる。(王 2008:70-71)

また、社会の言語環境という要因については、王(2008)は、以下のように論じている。

あいさつは社会性が強く、しかも瞬時的な行動である。故にどの言語を使用するかは所属している社会の言語環境に大きく影響される。留学生は現在日本語主流社会に所属している。そのため、日本語であいさつすることを選んだのではなかろうか。もし中国語主流社会に置かれていたら、いくら日本語のあいさつ表現が定型化され便利であるとしても、日本語ではあいさつしにくく、中国語であいさつすることになると思われる。(王 2008:71)

以上のように、王(2008)は、定型化された日本語あいさつ表現「おはよう(～)」とそれに当たる中国語表現に絞って、中国人留学生における使用実態を考察したが、中国人留学生があいさつをする場合どの言語を使用するかを主な分析対象としている。あいさつする相手が中国人である場合、日本語であいさつするか中国語であいさつするかは、日本語の定型性と社会の言語環境のみによって決まるのではなく、あいさつする者の目的(目標言語能力を向上させるためなど)や相手との関係による部分もあるのではないかと考えられる。あいさつにおける対人関係について、王(2008)は上記(3)のように述べているが、詳細な場面・対人関係に着目したあいさつの使用制限については言及していない。日本語教育に役に立つかどうかという観点からすると、通常在日中国人にあいさつする場合中国人留学生が中国語を優先する傾向が顕著であるため、中国人留学生の中国人に対するあいさつの使用実態より、中国人留学生における日本人に対するあいさつの使用実態のほうがより重要であろう。

2.3.4 敬語的あいさつ表現

あいさつ表現の使用について、嶋津(2010)は、敬語教育と敬意表現教育の視点から、

以下のように指摘している。

授業が終わった後に、「お疲れ様でした」と教師に声をかけて帰る留学生がいる。
また、最近では日本人学生も教師に「お疲れ様でした」とあいさつする場合がある。
しかし、学生から「お疲れ様でした」とあいさつされたら、なにか違和感を覚えな
いだろうか。(嶋津2010:35)

「ご苦労様 (です・でした)」と「お疲れ様 (です・でした)」という表現の使い分けに
について、嶋津 (2010) は、集団調査法を採用し、日本語能力が上級レベルの留学生⁶を対
象に調査を行った。その調査の結果は以下のとおりである。

- (1) 留学生の全員が、「ご苦労様でした」というあいさつ表現は、自分と同等の者に対
して使用する場合を除けば、上位者から下位者に対してしか使えない (すなわち、
下位者が上位者に対して使うことはできない) 表現であるのに対して、「お疲れ様
でした」というあいさつ表現は、下位者が上位者に対して使っても差し支えない表
現であると理解していた。
- (2) 「ご苦労様 (です・でした)」と「お疲れ様 (です・でした)」という表現の使い分
けについて今までどのように習ったかと尋ねたところ、インフォーマントの全員が
「上・下」「目上・目下」「先輩・同輩・後輩」「上司・部下」という言葉を用いて
説明しており、かかる2つの表現の使い分けに関し、母国の高等教育機関では基本
的に「ウエ・シタ」の概念で教えられてきたことがわかる。

(1) と (2) に基づけば、確かに学生が教師に「お疲れ様でした」と声をかけても、お
かしくはない (嶋津2010:36)。一方、文化庁は2006年の日本語母語話者を対象に実施した
「国語に関する世論調査」(調査対象は全国の16歳以上の男女3,652人、有効回収率は57.7%)
の中で、「ご苦労様 (です・でした)」と「お疲れ様 (です・でした)」というあいさつ表現
の使い分けについて調査した。その結果によれば、「会社で仕事を一緒にした人に対して、
仕事が終わったときに何という言葉を掛けるか」を、自分より職階が上の人の場合と自分
より職階が下の人の場合について尋ねたところ、一緒に働いた人が、自分より職階が上
の人の場合、「お疲れ様 (でした)」が69.2%、「御苦労様 (でした)」が15.1%であったのに
対し、一緒に働いた人が、自分より職階が下の人の場合、「お疲れ様 (でした)」が53.4%、
「御苦労様 (でした)」が36.1%という結果だったという。この結果について、嶋津 (2010)
は以下のように述べている。

⁶ 初級と中級の日本語を母国の高等教育機関で学び、日本には2か月前に到着した東アジア地域出身の短期交換留学生13名 (中国10名、韓国3名) である。

この結果からは、日本語母語話者の場合もその多くが、「ご苦労様（です・でした）」は上位者が下位者に対して使用する表現、「お疲れ様（です・でした）」は下位者が上位者に対して使っても差し支えない表現と理解していることが窺えるのだが、この「国語に関する世論調査」の質問が、「会社で仕事を一緒にした人たちに対して、仕事が終わったときに何という言葉を掛けるか」というふうに場面を設定していることには留意する必要があるだろう。すなわち、敬語教育・敬意表現教育の場でしばしば用いられる「ウチ・ソト」という概念を用いれば、「ウチ」の人間にかけられる言葉を問うているのである。（嶋津2010:37）

嶋津（2010:38）は、教育の場では、教師と学生の間にはどうしても力関係が存在するので、「ウチ」の関係になることは難しいと指摘している。そう考えると、教師の側が授業後に学生から「お疲れ様でした」という言葉をかけられて違和感を覚えるのは当然である。これに対して、研究の場（教師と学生が共同研究をする場面）では、両者が「ウチ」の関係に変化するので、この場面では、その学生から「お疲れ様でした」と声をかけられても、違和感は覚えないのではないだろうか。しかし、留学生の多くはそのような差異をあまり意識していないようである（嶋津2010:38）。つまり、「ご苦労様（です・でした）」という表現と「お疲れ様（です・でした）」という表現の使い分けに関して、「ウエ・シタ」の観点からのみ説明するのは不十分であり、「お疲れ様（です・でした）」という表現については、「ウチ・ソト」の観点からも、そしてさらには、その「疲れ」の原因は誰が作ったものかという観点からも説明していく必要があるという（嶋津2010：39）。

嶋津（2010）は、13 人の留学生への調査によるデータに基づいて、「お疲れ様（です・でした）」と「ご苦労様（です・でした）」の使い分けを考察した。これは、日本語教育におけるあいさつの指導に大きな示唆を与える研究成果であると考えられる。しかし、あいさつ表現「お疲れ様（です・でした）」は、ねぎらいの場面に使用されるだけでなく、出会いの場面や別れの場面にも使用される。また、あいさつにおける留学生が間違いやすいあいさつ表現は、「お疲れ様（です・でした）」と「ご苦労様（です・でした）」にとどまらず、「おはよう（～）」や「こんにちは」などもある。これらについて、嶋津（2010）は言及していない。

2.3.5 本研究の焦点

以上の先行研究では、留学生のあいさつ使用に関する戸惑いと間違いやすい点がある程度明らかにされたが、場面ごとの個別の研究の域にとどまり、研究成果が総括されてこなかった。施（2005b）は、中国人留学生があいさつに対して違和感を覚える場面を考察した

が、あいさつの何に戸惑いどこを間違いやすいのかについては触れていない。園田他(2006)は、留学生のあいさつ使用に対する戸惑いについて触れているが、異文化交流活動における留学生2人のデータを挙げているにすぎない。王(2008)は、中国人留学生があいさつに対して違和感を覚える場面を考察したが、あいさつするときどの言語を使用するかが主眼論点であり、中国人留学生のあいさつに対する戸惑いや間違いやすいところについては言及していない。嶋津(2010)は、留学生が間違いやすい「お疲れ様(です・でした)」と「ご苦労様(です・でした)」を詳細に考察したが、それ以外のあいさつ表現についてはほとんど触れていない。

本研究では、上述した先行研究を踏まえ、中国人留学生を含む中国人上級日本語学習者⁷のあいさつ使用に関する困難点、日本語母語話者の日本語教師と大学教員が中国人上級日本語学習者からあいさつされる場合、どのような点に違和感を覚えているかを調査し、その実態を明らかにした上で、あいさつ使用に関する調査を行う。

2.4 あいさつに関する日中対照研究の現状

日本人と中国人のあいさつ使用に関する差異の研究はないわけではないが、場面設定の根拠については十分であるとは言いがたい。あいさつに関する日中対照研究には、主に施(2005a)と曲(2008)がある。本節では、その概要を紹介する。

2.4.1 あいさつ言語行動についての比較研究

施(2005a)は、日本と中国における社会人と大学生に対して、半開放式のアンケート調査⁸の方法を用いて、「家庭」「道」「公園」「学校生活」でのあいさつおよび「道を聞く時、教える時」「買い物・食事する時」「人の家を訪問する時」のあいさつを調査し、言語行動論、異文化接触論、ポライトネスの比較文化語用論的な視点から日中両国の話者間におけるあいさつ言語行動について、多元的に比較研究を行った。その結果については、以下のようによまめられる。

- (1) 日本語の汎用度の高い定型的なあいさつと比べると、中国語のあいさつは、定型性よりも具体性、実質性が高いという特質を有する。
- (2) 「おはよう(〜)」は、誰に対しても多く使用されているが、「こんにちは」と「こんばんは」は身内の間柄には使いにくい。それに対してそれらに当たる中国語表現「你早」「你好」「晚上好」という3語にはこのような使い分けがあまりない。
- (3) どのようにあいさつするかということについて、日本語では「ウチ」と「ソト」

⁷上級日本語学習者を対象とするのは、上級日本語学習者が戸惑っている点は、長期の学習時間を経ても解決されないより根本的な問題である可能性が高いためである。

⁸あいさつをする場合、言葉によるあいさつについては、自由に記述してもらったが、身振りのあいさつについては、「身振りの選択肢」から選んでもらうという方法である。

における明瞭な境界線が見られるのに対して、中国語ではその境界線があまり顕在化していない。

- (4) 日本語の場合、人と会った際に男性では「オウ、オス、Hi」、女性では「おはよう(〜)」といった語彙面の差異が見られる。
- (5) 日本語では上下関係がいつも重きを為しているのに対して、中国語では親疎関係は家族本位という意識の強さと相俟って、多場面に亘って中心的且つ普遍的にあいさつ言語行動に作用している。

(施 2005a:370-386 による)

施 (2005a) は、日本人と中国人のあいさつ使用の実態をある程度明らかにしているが、以下のような課題が残る。

- (1) 多くの場面を設定しているが、場面設定の基準については、十分に述べられていない。なぜその場面におけるあいさつを研究しなければならないか、その必要性についてより明確にし、説明する必要がある。
- (2) 対人関係の設定について、より厳密に行う余地がある。たとえば、場面2「昼、学校の廊下で担任以外の先生に会った時、あいさつをしましたか」という質問における「担任以外の先生」はどのような先生なのか分かりにくい。なぜなら、担任の先生との関係が必ずしも親しいわけではなく、また、担任以外の先生との関係が必ずしも親しくないわけではないためである。
- (3) ポライトネス比較語用論の観点による考察があるものの、ポライトネスを「社会的判断」、すなわち話し手がどのような状況で何を言うかによって礼儀正しいか無礼かを判断する手段としているにすぎない。また、あいさつ表現とポライトネス理論との対応関係についてまったく論じていない。

2.4.2 あいさつ表現の日中対照研究

曲 (2008) は、日常生活の場面が中心となっているテレビドラマを対象として日常的なあいさつのデータを収集し、「場面」、「男女差」、「定型性」、「年齢差」という四つの観点から日中両言語の日常あいさつ表現を比較対照した。その結果については、以下のようにまとめられる。

- (1) 日本語の「あいさつ」という概念は、より包括的で、中国語においては「寒暄（会った時、時候、天気など当たり障りのないあいさつをする）」「打招呼（言葉・しぐさであいさつする）」「应酬话（交際上のお愛想、あいさつ言葉）」など多様な言語概念で表現する必要がある。

- (2) 日本で生活する中国人が日本人とあいさつする場合は、積極的に日本人のあいさつ表現に慣れようとする努力が見られる一方、中国人同士のあいさつパターンを日本人とのあいさつにも用いる現象が見られる。
- (3) 日本人の定型性が著しく、礼儀中心の日常あいさつ表現の特徴は「配慮に基づく遠慮文化」という発想に帰納でき、中国人の臨機応変性が著しく、相手中心の日常あいさつ表現の特徴は「配慮に基づく「関心文化」(関心、注意を払う)」発想に帰納できる。

(曲 2008:184-185 による)

曲(2008)は、あいさつ使用時の日本人の定型性と中国人の臨機応変性を明らかにした。しかし、この定型性と臨機応変性は、必ずしもすべての人間関係に当てはまるわけではない。ある場合には日本人のあいさつからも臨機応変性が、中国人のあいさつからも定型性が窺える。たとえば、日本人の場合、午前中10時頃その日初めて学校の廊下で親友に会った場合、「おはよう」という定型表現に限らず、「おっす」「よう」「おう」「ういす」「授業あるの」「昨日ありがとうね」など様々な表現が使われるだろう。どれを選択するかは、その場、その時、その人との関係次第である。また、中国人の場合、初対面の場面、また、そうでない場面においてもあまり親しくない上位者と別れるときには「(～) 再见 ((～) さようなら)」のような定型表現であいさつするのが一般的であろう。したがって、ある特定の場面および対人関係の範疇で分析して初めて日本人と中国人のあいさつ使用の特徴を詳細に検討できるはずであるが、曲(2008)ではそのような分析が行われていない。

2.5 本研究の課題

以上の先行研究では、留学生のあいさつとあいさつ使用に対する違和感・戸惑いおよび日本人と中国人のあいさつ使用に関する差異がある程度明らかにされている。しかし、これらの研究は、場面を設定した根拠について十分に説明しているとは言い難い。たとえば、嶋津(2010)は、「授業が終わった後」という場面を設定し、施(2005a)は、「家庭」「道」「公園」「学校生活」および「道を聞く時、教える時」「買い物・食事する時」「人の家を訪問する時」などの場面を設定し、曲(2008)は、テレビドラマにおける日常生活の場面を選定して、ある程度日中両国間のあいさつ使用に関する差異を明らかにしたものの、場面設定についての説明は十分に行われているとは言い難い。

本研究では、日本語教育の具体的な問題、特に中国人上級日本語学習者のあいさつ使用に関する問題点を明らかにし、解決するため、以下の検討課題を設定する。

- (Ⅰ) 中国人上級日本語学習者のあいさつ使用に関する困難点は、どこにあるのか。
- (Ⅱ) 中国人上級日本語学習者が困難を感じる点について、中国人留学生は実際にどの

ようにあいさつをしているのか、そしてどのような問題点があるのか。

(Ⅲ) 中国人留学生のあいさつ使用に関する問題点が生ずる原因と解決策は何か。

課題（Ⅰ）を設定したのは、前述した先行研究では日本語学習者におけるあいさつ使用の困難点について言及されているが、それに関する実証的な研究が見られないためである。そして、先行研究では日本語学習者における「すみません」や「どうも」のような個別のあいさつ表現に対する違和感について分析されているが、他のあいさつ表現についてほとんど触れられていない。課題（Ⅱ）を設定したのは、前述した先行研究では、日本語学習者のあいさつ使用に関する問題点について言及されているが、日本語学習者のあいさつ使用に関する問題についての網羅的な調査・考察はなされていないためである。嶋津（2010）は、留学生における「お疲れ（～）」の使用に関する問題点を指摘しているが、他の日本語学習者が困難に感じるあいさつ表現に関する問題点は論じていない。課題（Ⅲ）を設定したのは、前述した先行研究では、あいさつの日中対照研究が行われているが、日本語学習者のあいさつ使用に関する困難点に基づいた対照研究ではなく、日本語学習者におけるあいさつ使用の問題点を解決するための対照研究でもないためである。本研究では、中国人留学生のあいさつ使用に関する問題点が生じた原因が語用論的転移にあるかどうかを検証するため、中国人上級日本語学習者の困難点に基づいた大学生におけるあいさつの日中対照研究を行う。そして、それらの問題点に対する適切な解決策を見出すため、中国人上級日本語学習者の困難点に基づいた社会人におけるあいさつの日中対照を行い、その上で大学生と社会人におけるあいさつ使用の違いに関する日中対照を行う。

第3章 研究の方法

3.1 本研究の調査方法、および倫理的配慮

本研究では、半構造化インタビュー調査と自由記述式調査の手法を用いる。半構造化インタビューとは、事前に大まかな質問事項を決めておき、回答者の答えによってさらに詳細にたずねていく調査方法である。半構造化インタビュー調査は、回答者の回答次第で深く掘り下げて意見を聞くことができるため、この調査法が有効と考えた。中国人上級日本語学習者が日本人に対してあいさつをする場合戸惑っている部分および中国の大学で中国語を教える日本人教師と日本の大学院で中国人留学生を指導している日本人大学教員が中国人上級日本語学習者からあいさつされた場合に違和感を覚える点を明らかにするため、半構造化インタビュー調査方法を用いた。

また、日本人にあいさつする際に中国人上級日本語学習者が戸惑っている場面と日本人が違和感を覚えている場面で中国人留学生がどのようにあいさつをしているか、中国語ができない日本人と日本語ができない中国人が母語で実際にどのようにあいさつをしているかを明らかにするため、自由記述式調査という方法を用いた。自由記述式調査はアンケート調査であるため、一度に大量のデータが収集できること、変数のコントロールが可能なことから、言語間や学習者と母語話者のストラテジーの比較に有効であり、広く採用されている方法である。Yamashita (1996:77) は、選択式ではない自由記述式調査はデータの信頼性が高く、発話の収集手段として有効であると指摘している⁹。また、伊藤 (2004) は、自然発話の観察・ロールプレイ・自由記述式調査の特徴という三つの方法を概観した後、自由記述式調査をめぐる議論し、ロールプレイ中のインターアクションの出現率の調査を通して、発話データの収集方法としては、自由記述式調査が最も現実的で妥当性が高いという結論を示している。

半構造化インタビュー調査にせよ自由記述式調査にせよ、調査を実施する場合、インフォーマントのプライバシーに関する倫理的な問題に配慮せざるを得ない。そこで、筆者が調査を行った際、「記入いただいた個人情報には研究目的以外には一切使用しない」という趣旨の説明を付けた。そして、インフォーマントに記入してもらった個人情報は、厳しく慎

⁹ DCT は自由記述式のアンケートなので、一般的には自由回答とみなされているが、Yamashita (1996) は、調査方法を自由回答と選択回答に分け、その妥当性と有効性を確かめることを目的にしているため、DCT もオープン DCT (open discourse completion test) と選択式 DCT (multiple-choice discourse completion test) に区別し、各々を分析している (Yamashita 1996:11)。

重に管理している¹⁰。

3.1.1 インタビュー調査

中国人上級日本語学習者、中国の大学で中国人学生に日本語を教えている日本人教師、日本の大学院で中国人留学生を指導している日本人教員にそれぞれインタビューする必要があるため、インタビュー調査を2回行った。第1回は2015年3月から4月にかけて、中国人上級日本語学習者に対してあいさつ使用の意識に関する質問を行い、第2回は2015年4月から5月にかけて、中国の大学で中国人学生に日本語を教えている日本人教師および日本の大学院で中国人留学生を指導している日本人教員に対して中国人上級学習者のあいさつ使用に対するイメージに関する質問を行った。以下、1回目のインタビュー調査を「インタビュー調査①」、2回目のインタビュー調査を「インタビュー調査②」と表記する。中国人上級日本語学習者に対するインタビュー調査①では、自由形式の質問と事前に準備した質問だけでなく、インフォーマントの回答に対応する形で臨時的に質問をした例もある。いずれの調査でも本調査の前に予備調査を行い、調査方法と質問の妥当性を確認した。また、インタビュー調査を実施する際、日本人に対しては日本語で行い、中国人に対しては中国語で行った。インタビュー調査は主に対面インタビュー形式で行い¹¹、設問に対して自分ならどうするかあるいはどう思うかを自由に回答してもらった。記録手段としてはICレコーダで録音した内容を書き起こしてデータに整理するという方法をとった。各調査についての詳しい概要や内容を以下に記す。

3.1.1.1 インタビュー調査①の概要

インタビュー調査①は、2015年3月から4月にかけて、仙台市にある5つの研究科に在学中の大学院生、および中国南昌市にある大学の日本語学科に在学中でかつ来日経験がない3年生と4年生を対象に実施した。日本の大学院在籍の留学生および中国の大学在籍の3年生と4年生を調査対象としたのは、日本と中国に在住している中国人上級日本語学習者における日本人が使用するあいさつに対する意識を明らかにするためである。中国の大学に在学している3年生と4年生は、日本語能力試験¹²JLPT 一級あるいはN1に合格したことを条件とし、日本の大学院における留学生は、JLPT 一級あるいはN1に合格し日本の

¹⁰半構造化インタビュー調査および自由記述式調査の予備調査と本調査を実施する前(2015年3月上旬)に、東北大学大学院国際文化研究科の研究倫理審査委員会に「人間を対象とする調査・実験の研究倫理審査申請書」を提出した。その結果、本研究で利用した調査方法は、個人情報に関わっているとは言っても、それが研究データとして利用されるわけではないので、審査は必要ないということになった。

¹¹ ただし、インタビュー調査①において3人、インタビュー調査②において4人に対して、非対面の形式(電話)でインタビューを行った。

¹² 公益財団法人日本国際教育支援協会と独立行政法人国際交流基金が主催する日本語を母語としない者を対象に日本語能力を認定する検定試験である。1984年開始し、2009年には試験回数を年1回から年2回に変更した。2010年の改定で、N1-N5の5段階になった。2010年7月はN1-N3レベルのみ、2010年12月以降は全レベルを実施している。

大学院に1年以上在学していることを条件とした。

インフォーマントは、任意に選定した中国の大学の日本語学科に在学する中国人日本語学習者（以下、「学習者」と表記する）21人（男性4人、女性17人）と日本の大学院に在学している中国人留学生（以下、「留学生」と表記する）21人（男性8人、女性13人）の計42人である。なお、女性が男性より多いのは、中国の大学では語学を専攻する女性の比率が高いためである。インフォーマントの年齢層は、学習者が21歳から24歳、留学生が21歳から30歳である。録音時間の総計は7時間0分46秒である。

本研究では、上述の学習者と留学生というインタビューのインフォーマントを以下の略称で示す。以下のLは「learner（学習者）」、Fは「foreign student（留学生）」、Mは「male（男性）」、Fは「female（女性）」を指す。

男性学習者：LM（01～04） 女性学習者：LF（05～21）

男性留学生：FM（22～29） 女性留学生：FF（30～42）

3.1.1.2 インタビュー調査②の概要

インタビュー調査②は、2015年4月から5月にかけて、中国の大学の日本語学科で中国人学生に日本語を教えている日本人教師（以下、「日本語教師」と表記する）と日本の仙台市所在の3つの大学で中国人留学生を指導している日本人大学教員（以下、「大学教員」と表記する）を対象に実施した。日本語教師は、中国の大学の日本語学科で1年以上教えたことがあり、インタビュー調査を行った時点でもその日本語学科に勤めていることを条件とする。大学教員は、日本の大学院で留学生を1年以上指導したことがあり、インタビュー調査を行った時点でもその大学院で留学生を指導していることを条件とする。これらの条件を付けたのは、インフォーマントが学習者、留学生に実際に接触する機会があり、学習者や留学生のあいさつ使用を観察した経験があることが期待できるためである。

インフォーマントは、任意に選定した中国の大学の日本語学科に勤めている日本語教師5人（男性4人、女性1人）と日本の大学院で留学生を指導している大学教員11人（男性6人、女性5人）の計16人である。インフォーマントの年齢層は、日本語教師が20代後半から40代（20代後半1人、30代と40代は各2人）、大学教員が30代から60代（30代2人、40代3人、50代と60代は各3人）である。録音時間の総計は4時間42分28秒である。

本研究では、上述の日本語教師と大学教員であるインタビューインフォーマントを以下の略称で示す。

男性日本語教師：JTM（01～04） 女性日本語教師：JTF（05）

男性大学教員：UTM（06～11） 女性大学教員：UTF（12～16）

3.1.2 自由記述式調査

中国人留学生、日本人学生、中国人学生、日本人の社会人、中国人の社会人におけるあいさつの使用実態を明らかにするため、中国人上級日本語学習者が戸惑っている点と日本人教育者が違和感を覚えている点に基づいて7つの場面を設定し、自由記述式調査を実施した。自由記述式調査は、日本で3回、中国で2回行った。第1回は2015年11月上旬日本の大学院に在学している中国人留学生に、第2回は2015年11月下旬日本人学生に、第3回は2015年12月中国人学生に、第4回は2016年4月日本人の社会人に、第5回は2016年5月中国人の社会人に対して、それぞれ設定した7つの場面について調査を行った。

以下、1回目の中国人留学生に対する自由記述式調査を「自由記述式調査①」、2回目の日本人学生と3回目の中国人学生に対する自由記述式調査を「自由記述式調査②」、4回目の日本人の社会人と5回目の中国人の社会人に対する自由記述式調査を「自由記述式調査③」と表記する。

自由記述式調査では、先行研究および3.1.1に記したインタビュー調査の結果に基づき、日中で違いが見られる可能性が高いと予想した場面や、日中で違いがあるかどうかを新たに確認したい点に関する7つの場面（質問項目）を設定した。また、自由記述式調査の質問紙は、日本人学生と社会人に対しては日本語で作成したものを、中国人留学生、中国人学生および中国人社会人に対しては日本語版と同じ内容になるように中国語に翻訳したものを配布し、回答してもらった。各調査についての詳しい概要や内容を以下に記す。

3.1.2.1 自由記述式調査①の概要

自由記述式調査①は任意に選定した日本の大学院に在学する中国人留学生を対象に、2015年11月上旬に無記名の形式で実施した。調査対象は、1年以上日本に滞在し現在も日本で生活している中国人留学生107人（男性43人、女性64人）である。ランダムにインフォーマントを選出したが、インフォーマントがJLPT一級・N1に合格している、あるいは日本語能力がN1のレベルに達していることを条件としている。日本語能力がN1のレベルに達しているかどうかを判断する基準は東北大学の日本語教育プログラム「外国人留学生等特別課程」のレベルVのクラスを受講できるレベル¹³である。同プログラムにおいてレベル「V」あるいは「仮V」に達している場合、N1のレベルに達していると認定する。大学卒業後に来日した中国人留学生が多いため、調査対象の年齢は25歳前後に集中している。調査は、授業担当教員の協力を得て集団調査の形式で行った。そのうち、仙台での調査は数名の大学教員に依頼し、筆者が直接実施した。インフォーマントに調査の趣旨を説明した後、調査票を配布し、その場で記入してもらった。調査を実施する前にすべてのインフォーマントに調査の趣旨を説明した。

¹³ 年2回東北大学で行う外国人留学生向けのプレースメントテストにおいて上級に達したレベルである。

3.1.2.2 自由記述式調査②の概要

自由記述式調査②は任意に選定した日本の大学の学部在学する日本人学生と中国の大学の学部在学する中国人学生を対象に、2015年11月下旬から2015年12月にかけて、無記名の形式で実施した。インフォーマントは、日本の仙台市在住の日本人学生130人（男性85人、女性45人）と中国貴陽市在住の中国人学生101人（男性30人、女性71人）の計231人である。インフォーマントの年齢層は、20歳前後に集中している。調査は、講義を担当する講師の協力を得て、あるいは大学の図書館の係員に依頼し協力を得て集団調査の形式で行った。また、日本での調査は、数人の大学教員に依頼し、筆者が直接行った。中国での調査は、大学教員2人に依頼し、日本での調査と同様にその場で回答してもらったが、調査の一部（19人）は大学の図書館の係員に依頼し、協力してくれる学生に調査票を配布し館内で記入してもらった。調査を実施する前にすべてのインフォーマントに調査の趣旨を説明した。

3.1.2.3 自由記述式調査③の概要

自由記述式調査③は任意に選定した日本の企業・大学に勤めている日本人の社会人と中国の企業・大学に勤めている中国人の社会人を対象に、2016年4月から2016年6月にかけて、無記名の形式で実施した。インフォーマントは、日本の仙台・東京・名古屋在住の日本人の社会人114人（男性42人、女性72人）と中国の景徳鎮市・蘇州市在住の中国人の社会人105人（男性43人、女性62人）の計219人である。インフォーマントの年齢層は、30代～40代に集中している。調査は、企業・大学の人事担当者の協力を得て、あるいは企業・大学と縁がある日本人・中国人の知人に依頼し協力を得て集団調査の形式で行った。また、日本での調査は、企業・大学の人事担当者あるいは企業・大学と縁のある知人に依頼し、昼休みの時間を使って代理者に行ってもらった。中国での調査は、中国の企業・大学に勤めている知人2人に依頼し、日本と同様に昼休みの時間にその場で回答してもらった。調査を実施する前にすべてのインフォーマントに調査の趣旨を説明した。

3.2 ポライトネス理論とあいさつとの関係

ポライトネス・ストラテジー選択の違いに関する文化的な選好を解明しようとする対照ポライトネス論にとって、「あいさつ」行動の文化間比較は、それぞれの文化における人間関係のありようを最も直接的に反映する現象として、格好のテーマの一つとなると言われている（滝浦2008:114）。しかし、2.5節で概観したようにあいさつの日中対照分析に関する従来の研究において、ポライトネスの観点からの詳細な考察はほとんど見られない。本研究では、日本人と中国人のあいさつ表現の特質を考慮しつつ、Brown&Levinsonのポライトネス理論を用い、あいさつ表現の使用における日中差異を明らかにする。ポライトネスの観点から「あいさつの日中対照研究」を行う理由は以下のとおりである。

あいさつに関する従来の研究では、Brown&Levinson (1987) のポライトネス理論による分析はほとんど見られない。たとえば、Brown&Levinsonのポライトネス理論を用い、主に「発話内行為」に焦点を当てた従来の研究は、「命令・依頼表現」(王2005)、「依頼・断り表現」(施2006)、「依頼表現」(李2008、平2016)、「勧誘表現」(劉2015)、「断り表現」(李2013)、「謝罪表現」(熊谷2013)、「苦情表現」(張他2015) など数多く挙げられるが、ポライトネスの観点による「あいさつ表現」に関する日中対照研究は、ほとんど見られない。

Brown&Levinson (1987) の提案する5つの方策自体は基本的にどの言語にも存在し、程度の差こそあれ利用されているという点で、「枠組みとしての普遍性」は維持されている(滝浦 2008) ため、言語間の比較が行いやすく、文化的差異が説明できる。中国人日本語学習者のあいさつ使用に関する問題点は、あいさつ表現の日中差異に深く関わっているため、Brown&Levinsonのポライトネスの観点からあいさつの使用に関する日中言語文化の違いを明らかにすれば、日本語教育と中国語教育現場におけるあいさつ指導法に役に立つのではないかと考えられる。

また、あいさつという発話行為は、謝罪、依頼、感謝、断り、勧誘、命令、質問、回答、約束などと同様で、典型的な発話行為として、言語や文化の違いにかかわらず日常生活には欠かせないものである。そして、あいさつは、交流の切口となることから、他の発話行為と比べると、コミュニケーションにおいて、より重要であるのではないかと考えられる。

3.2.1 ポライトネス理論について

ポライトネス理論を紹介する前にフェイスの概念を紹介しておく必要があると考えられる。Goffman (1967:5) によると、フェイス (face) は、他者との接触の中で、人間が求める肯定的な社会的評価である。フェイスは中国語の「面子」を基にした概念であり、日本語の面目や体面などとも近いが、確立された社会的地位などによって一般に求める社会的評価ではなく、他者との接触の中で個別に求める社会的評価であるという点でフェイスは面目や体面とは異なる。また、Goffman (1967) は、どの集団の成員であっても「自尊心」を持つことと同時に一定水準の思いやりを持つことも期待され、自尊心の原理と思いやりの原理とが結びつくと、人は自分のフェイスとその場にいる人たちのフェイスの両方を立てるよう行動する傾向があると指摘している。さらに、Goffman は自分のフェイスを保とうとすることを防衛的傾向、他人のフェイスを保ってやろうとすることを保護的傾向であるとし、それらは独立したものではなく、入り混じったものであると解釈した。

Brown&Levinson (1987) はGoffman (1967) の「面子」という概念を発展させ、「ネガティブフェイス (以下、NF)」と「ポジティブフェイス (以下、PF)」という人間の相矛盾する欲求を提唱した。NFとは、「他人から邪魔されたくない、押さえつけられたくない、行動を自由に選択したい」といった欲求であり、PFとは、「他の人に好かれたい、認められたい、尊敬されたい、評価されたい」といった欲求である。さらに、人間は誰でも、フ

フェイスというものを持っており、大抵のコミュニケーションの場において、そのフェイスが脅かされる。Brown&Levinson (1987) は、対話の中で相手のフェイスを傷つけたり、脅かしたりする行為を「フェイス侵害行為 (Face Threatening Acts=FTA)」と名づけ、FTAのフェイス・リスクを算定する方法として、次のような計算式を提案した。

$$\text{＜フェイス・リスクの算定式＞} \rightarrow \boxed{W_x = D(S, H) + P(H, S) + R_x}$$

W_x : 行為 x のフェイス・リスクの大きさ

D : 話し手 (speaker:S) と聞き手 (hearer:H) の社会的な距離

P : 聞き手 (H) の話し手 (S) に対する相対的な力

R_x : その文化の中での行為 x の負担の度合い

また、話し手は聞き手のフェイスを脅かすことをできるだけ少なくするために、あるいは自分自身のフェイスを傷つけることを少なくするために、さまざまなストラテジーを使用する。Brown&Levinsonによると、人間が話すことを相手に脅かす行為として捉え、発話の場の様々な条件に応じて、人間がFTAに対して、「on recordであからさまに」、「ポジティブ・ポライトネス・ストラテジー (以下、PPS)」、「ネガティブ・ポライトネス・ストラテジー (以下、NPS)」、「ほのめかし」、「FTAをしない」という5つのストラテジーの中から最適なものを選んで他者とのコミュニケーションを行っている。その主なものとして、積極的なフェイスに資するものとしてのPPSと消極的なフェイスを脅かさないストラテジーとしてのNPSがある。Brown & Levinson (1987) のポライトネス理論において、NPSは、「他者に邪魔されたくない・踏み込まれたくない欲求」を補償する行為であり、自分と相手との間に距離を置くことによって敬意を示す方法である。一方、PPSとは「他者に受け入れられたい・よく思われたい欲求」に対応する行為であり、相手との距離を縮めたり親密さを表したりしたい時、親しい人との言語行動として現れる。

しかし、ポライトネス理論は、提唱された後さまざまな角度から挑戦を受けることになった。代表的な批判としては、Matsumoto (1988)、Ide (1989)、井出 (1990)、Watts・Ide・Ehlich (1992,2005)、Eelen (2001) などがある。

Brown & Levinson (1987) のポライトネス理論に対しては、ポライトネスの概念は、西欧の言語を基準とし、西洋の個人主義に基づくもので、日本社会の人間関係に適合するものではない (Matsumoto:1988)、意志による自発的なストラテジーの選択が優先され、敬語などの使用を支えるわきまの側面が軽視されている (Ide:1989) などの批判がなされている。また、井出 (1990) は、Brown & Levinson (1987) のポライトネス理論は、「働きかけ方式」を中心にした概念であるとし、理論をより普遍的にするためには、日本語のよう

な敬語体系を有する言語の特徴である「わきまえ方式」¹⁴の概念を加える必要があると指摘している。

また、Brown&Levinson (1987) のポライトネス理論に対抗して1990年代以降に生まれた「ポライトネス研究グループ」に属するEelen (2001) やWatts (2003) は、ポライトネスという用語のあいまい性、一般用法と理論用語の混同、科学的な厳密さの欠如を批判した。Eelen (2001) は、それまでのポライトネスに関する主要研究を9つ取り上げ、一般的意味の「ポライトネス1」と専門用語としての「ポライトネス2」¹⁵が混同されていると指摘している。Eelen (2001) のポライトネス理論に対する評論においては、「ポライトネス1」は日常的に行われているポライトネスであり、「ポライトネス2」は、学問のために作られた理論志向のポライトネスであるとされている。具体的に言えば、「ポライトネス1」は伝統的な社会において行われてきた社会的規範による礼儀やエチケットなどを扱うものであり、「ポライトネス2」は、Brown&Levinson (1987) に見られる言語使用のルールの一般化を目指す、いわば後発のポライトネスの問題である。Watts (2003) はポライトネス研究の概念としてのポライトネスとは別に、日常の言語行動に見られる「politic behaviour」について研究がなされるべきであると主張している。また、従来のポライトネス研究は聞き手の立場を考慮していないという批判もある(Eelen2001、宇佐美2002など)。宇佐美 (2001, 2002) は基本的にはBrown&Levinsonを支持する立場を取るが、Brown&Levinsonの理論をさらに発展させ、談話レベルでポライトネスを捉える「ディスコース・ポライトネス」の概念を提唱している。

ただし、Brown&Levinson (1987) は、ポライトネスに関する理論として現在最も基本的、代表的なものといえる(生田1997:66)。Brown&Levinsonのポライトネス理論は、人間の社会的ふるまいについての基本的な型をベースとして、言語学で語用論と呼ばれる脱規範的な含みの伝達にかかわる理論を組み合わせた「枠組みとしての普遍」を捉える理論である(滝浦2008)。そうした普遍の枠に、日本語と中国語という言語のポライトネスを乗せるとき、何が必要だろうか。そこでは日本語と中国語固有の事情が関係してくる。日本語は、敬語という対人関係専用の形式を持っていることをはじめ、あいづちや終助詞など、ポライトネスとのかかわりが深い特定の言語形式を数多く持っている言語である。一方、中国語における儒教の礼法に基づく従来の敬語体系は、近現代中国の社会体制や教育システム、価値観などの激変によって、姿を消してしまっただが、現代中国語において間接表現、呼称の転用、人称代名詞の回避など発話ストラテジーによる丁寧さの表現は依然として存在す

¹⁴ 井出 (1990) は、「わきまえ方式」は、話し手は自分と場面を社会の範囲に照らして適切にわきまえることであるとし、これに対して、「働きかけ方式」は、話し手が発話効果を考えて相手に働きかけることであると説明している。

¹⁵ 対人配慮行動に関する研究で頻繁に言及される「ポライトネス (丁寧さ)」には、レベルの異なる2種類の概念が区別される。日常的に使用される個別概念のレベルのそれと学術的に使用されるメタ概念のレベルのそれである。これらは、Watts et al. (1992:Introduction) では、それぞれ「ポライトネス1」と「ポライトネス2」と呼ばれている。

る（彭1999:63）。日本語における敬語と中国語における呼称のような特定の言語形式の扱い方について、Brown&Levinson（1987）のポライトネス理論は、多くを述べていない。それゆえ、それらとポライトネスのかかわりを言語学的に扱うために必要な概念と方法を見きわめることが必要である。

3.2.2 あいさつとポライトネスとの対応関係

Brown&Levinson（1987）のポライトネス理論を取り入れ、あいさつ行動を考察する場合、日本人と中国人におけるあいさつの特質に合わせながら行う必要がある。まず、あいさつ表現とポライトネス・ストラテジーとの対応関係について説明しておかなければならない。なぜなら、あいさつとポライトネスの対応関係を説明しないと、個別のあいさつ表現を使用する場合、そのあいさつ表現が対応するポライトネス・ストラテジーは、NPSなのか、PPSなのか、それとも両者ともあるのかについては判断できなくなるためである。

岡村（2015）は、先行研究を踏まえ、表3.1が示しているようにあいさつ表現を「NPである定型的表現」「PPである非定型的表現」「NPとPPの中間に位置づけられる準定型表現」という3つに分けている。

表 3.1 岡村（2015）によるあいさつ表現の分類

定型性	機能	類型
定型	NP	①決まり文句投げかけ ②出合いの頻度・事態言及 ③謝意の表明
準定型	NP・PP	④新語の決まり文句投げかけ ⑤苦労への察し ⑥踏込の弱い問いかけ・描写
非定型	PP	⑦踏込の強い問いかけ ⑧話し手の感情表出

岡村（2015）は、準定型的表現の日本語例について、「やっほー」や「おっす」のような「新語の決まり文句」、「お疲れ様です」や「この度は大変でしたね」というような「苦労への察し」、「元気だった？」や「どうしたの？」というような「踏込の弱い問いかけ・描写」という3つを挙げている。

このように、岡村（2015）は、定型性の観点からあいさつ表現をNP、NP・PP、PPという三つに分類しているが、日本語のあいさつ表現には丁寧体のあるものと丁寧体のないものがあるため、定型のあいさつ表現が必ずしもNPに対応するわけではなく、非定型のあいさつ表現が常にPPに対応するわけでもない。たとえば、「おはよう」は、定型表現である¹⁶が、PPとして使用される傾向が強い。というのは、話し手が、親友に対してわざわざ「おはよう」とあいさつする場合、親友に仲間意識を持って親近感を伝える意味合いが含まれているためである。一方、水野（1998）によると、現代中国語では、敬意の表現は日本語のよ

¹⁶ 中西（2008:94）によると、「おはよう」というあいさつ表現は、「相手の到着が早い」という意味で近世期に用いられ始め、次第に「実質的意味の有無」、「形式の固定度」、「ある場面とあることばの結びつきの強さ」という3つの観点に沿った変化を遂げ、少なくとも1950年代前後には、現代のような定型的な用法を確立している。

うに体系的な敬語法としてではなく、呼称の問題に大きな比重が置かれている。非定型の中国語のあいさつ表現としての「(～) 老师 ((～) 先生)」や「(～) 科长 ((～) 課長)」のような呼称(敬称)は、相手に対する尊敬の気持ちが含まれているため、日本語の丁寧体表現に相当すると考えられる。したがって、中国語のあいさつにおける呼称(敬称)の有無を日本語のあいさつにおける丁寧体表現の使用不使用に対応するものとして、丁寧度の指標として考えても差し支えないと考えられる。これらの点から見れば、ポライトネス・ストラテジーは、あいさつ表現の定型性と関係があるだけではなく、あいさつ表現の丁寧度にも関わっているといえる。

どのようなあいさつ表現を使用すれば NP を使用する傾向が顕著であるといえるのか、どのようなあいさつ表現を使用すれば、PP を使用する傾向が強いかを明らかにするため、定型性だけではなく丁寧度という要素も考え合わせながらあいさつ表現を分類しておく必要がある。

岡村(2015)にも見られたように、あいさつ表現には、「定型的表現」と「非定型的表現」という2種類が含まれている。小林(1981:89-90)と金(2000:56)によると、定型的表現とは、「決まり文句」の非命題的な表現であり、同じ状況が与えられた時、多くの人によって用いられる頻度が高い表現のことである。また、非定型的表現とは、言語形式が固定化しておらず、個人の裁量によって様々な表現が用いられるため、実質的な意味、命題が伝えられる表現である(小林 1981:89-90)。本研究では、小林(1981:89-90)と金(2000:56)の定義を踏まえ、「実質的な意味が弱まっており、言語形式が固定し、同様の場面において多くの人に用いられる頻度が高いあいさつ表現」を「定型的あいさつ表現」、「実質的な意味が顕著であり、言語形式が固定しておらず、話者によって豊かな表現が用いられるあいさつ表現」を「非定型的あいさつ表現」と呼ぶ。定型的あいさつ表現の代表的な例として、「おはようございます」、「おはよう」、「さようなら」、[会釈]などが挙げられる。非定型的あいさつ表現の代表的な例として、「ご飯は済みましたか」、「気を付けて」、[手を振る]などが挙げられる。

あいさつ表現の丁寧度については、基本的に「お疲れ様でした」や「おはようございます」のような「丁寧体表現」と「お疲れ」や「おはよう」のような「非丁寧体表現」という2種類以外に、「こんにちは」や「さようなら」のような丁寧体の形が存在しないあいさつ表現も存在するため、本研究では、丁寧度の視点からあいさつ表現を「丁寧表現」、「非丁寧表現」、「丁寧表現がない表現」という3種類に分ける。

使用される個別のあいさつ表現が NPS なのか、PPS なのかは、上述したそのあいさつ表現の定型性と丁寧度に深く関わっている。定型性が決まっている場合、NPS か PPS かは、使用されるあいさつ表現の丁寧度によって決まる。また、丁寧度が決まっている場合、NPS か PPS かは、使用されるあいさつ表現の定型性によって決まる。たとえば、丁寧表現を使用する場合、そのあいさつ表現は、定型的表現であれば NPS であると認められるが、非定

型表現であれば必ずしもそうではない。

あいさつ表現はポライトネスとどのように対応しているのか。前述したように、Brown & Levinson (1987) の枠組みでは、ポライトネス・ストラテジーとして「on record であからさまに」、「PPS」、「NPS」、「ほのめかし」、「FTA をしない」という 5 つが挙げられている。本研究はこれに従いつつ上述の検討を加え、あいさつ表現とポライトネス・ストラテジーとの関係を検討し、定型性と丁寧度という二つの視点からすべてのあいさつ表現を NP 表現と PP 表現という 2 種類に分ける。すべてのあいさつ表現は自他の PF への配慮があるため、基本的に PPS であるが、そのうち PPS として使用される表現を PP 表現、PPS に加えて NPS、すなわち PPS+NPS として使用される表現を NP 表現とする。あいさつ表現とポライトネス・ストラテジーの対応関係を下記の表 3.2 と図 3.1 に示す。

表 3.2 あいさつ表現とポライトネスの関係

ポライトネス		群	あいさつ表現の分類
NF・PF への配慮	PPS	A 群	定型でない非丁寧表現
		B 群	定型でない丁寧表現
		C 群	定型の省略された非丁寧表現
		D 群	定型の非丁寧表現
	PPS+NPS	E 群	丁寧表現がない定型的表現
		F 群	定型の丁寧表現
		G 群	定型の丁寧表現の複合体あるいは定型の丁寧表現と丁寧表現がない定型的表現の複合体
On record であからさまに		H 群	あいさつをしない（ほかの言語行動あり）
NF への配慮のみ		I 群	あいさつをしない（ほかの言語行動なし）

表 3.2 からわかるように、A 群における定型でない非丁寧表現は NF への配慮は極めて低いが PF への配慮はもっとも高い。代表的な例として、「飯食う？」や「また会ったね」および「吃了吗」や「又见面了」などがある。B 群における非定型的表現であるが丁寧表現あるいは尊敬の意味合いが含まれている表現であるため、A 群と比べると、PF への配慮はほぼ同様であるが、NF への配慮はやや高い。代表的な例として「飯食べました？」や「また会いましたね」および「呼称+吃了吗？」や「呼称+又见面了」などがある。C 群における定型の省略された非丁寧表現は、丁寧表現あるいは尊敬の意味合いが含まれている表現ではないため、A 群と比べると、NF への配慮はほぼ同様であるが PF への配慮はやや低い。代表的な例として「おっす」と「早」のようなあいさつ表現がある。D 群における定型の非丁寧体のあいさつ表現は、丁寧表現あるいは尊敬の意味合いが含まれている表現ではないため、A 群・C 群と比べると、NF への配慮はほぼ同様であるが PF への配慮は相対的に低い。代表的な例として「おはよう」や「(～) 早」などがある。

E 群における丁寧表現がない定型的表現は、標準な定型的表現であるが、丁寧表現だと

は言い難い。ただし、C 群と D 群における非丁寧表現と異なって、改まった表現である。代表的な例として「こんにちは」や「さようなら」および「早上好」や「你好」などがある。F 群における定型の丁寧表現は、定型的表現であると同時に丁寧表現でもあるため、D 群と比べると、PF への配慮はほぼ同様であるが、NF への配慮は比較的高い。代表的な例として「おはようございます」や「敬称+早上好」などがある。G 群における表現は、定型の丁寧表現の複合体あるいは定型の丁寧表現と丁寧表現がない定型的表現の複合体であるため、D 群・E 群・F 群と比べると、PF への配慮はほぼ同様であるが、NF への配慮はより高い。代表的な例として「おはようございます+会釈」や「早上好+会釈」などがある。

また、H 群における「あいさつをしない（ほかの言語行動あり）」は、NF・PF への配慮は皆無である。本研究では、これを「On record であからさまに」とする。一方、I 群における「あいさつをしない（ほかの言語行動なし）」は、FTA がないため、PF への配慮がないものの、NF への配慮が比較的高い。本研究では、これを「NF への配慮のみ」とする。

表 3.2 におけるあいさつ表現の有無の分布状況を分かりやすくするため、図 3.1 に示す。

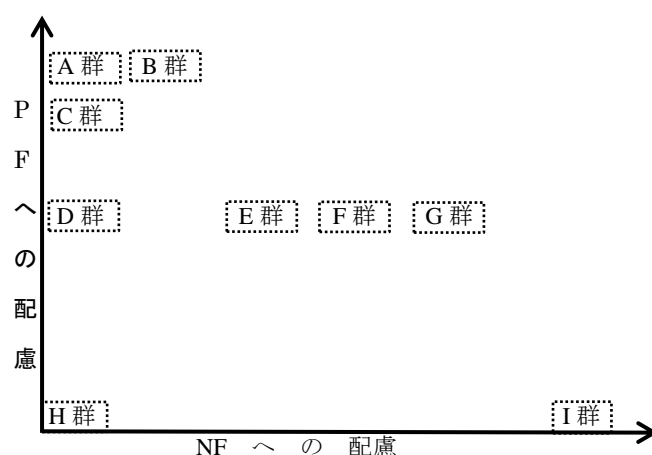


図 3.1 あいさつ表現とポライトネスの関係

あいさつをしない場合には、FTA、すなわちフェイス侵害行為が発生することもある。たとえば、目が合ってもあいさつをしなければ、それは高いレベルの FTA (マイナス待遇) である。よほど仲が悪いか、または喧嘩を売っていると思われる可能性もある。このような場面は極端な例であるため、本研究では対象外とする。本研究の出会いの場面における「あいさつをしない」に関するデータは、以下の場面 1、場面 2、場面 4 という 3 つの場面において自由記述式調査法で被験者から回答してもらったものである。

場面 1：午前 11 時頃、大学の廊下でその日初めて以下の人に出会ったらあいさつしますか。あいさつをする場合、どのようにあいさつをしますか。

場面 2：平日お昼の 12 時半頃キャンパスで、食堂に向かう途中、その日初めて以下の人に出会ったらあいさつをしますか。あいさつをする場合、どのようにあいさつをしますか。

場面 4：その日の午前中初めて以下の人に出会った時にあいさつはしたが、お昼の 12 時半頃、校内の道で再び以下の人に出会った場合、あいさつをしますか。あいさつをする場合、どのようにあいさつをしますか。

上述の場面における「以下の人」について、「あまり親しくない先生」、「親しいと思う先生」、「親友」、「あまり親しくない先輩」、「親しいと思う先輩」という 5 つの対人関係を設定した。上述の場面および 5 つの対人関係で、被験者がマイナス待遇をする可能性はかなり低く、そのデータを考慮に入れなくても差支えないと考えられる。そこで、表 3.2 と図 3.1 に示すように、本研究ではそれを対象外とし、「あいさつをしない」を「On record であからさまに」あるいは「FTA をしない」とする。

通常、出会いの場面と別れの場面であいさつをしない場合は二つの状況がある。一つは、話し手本人による自分自身の「他人に邪魔されたくない・踏み込まれたくないという欲求」、つまり、NF への配慮である。たとえば、あまり親しくない先生に出会った時あるいは共同作業をした後別れる時に目が合えばあいさつしなければならないが、そうでなければ、面倒くさい、恥ずかしいなどといった感情があって、あいさつをしないケースもある。もう一つの状況は、相手の NF への配慮である。たとえば、学生は、その先生の授業に出たことがあるが、100 人以上のクラスなので、自分はその先生のことを知っているもののその先生が自分のことを知っているかどうかわからない場合、その先生に出会っても、あるいは共同作業をした後別れてもあいさつをしないこともある。この場面において、学生がその先生に出会ってもあるいは別れてもあいさつをしないのは、マイナス待遇ではなく、その先生の NF を満たすためである。また、学生は、仲がいい先生に出会ってもあるいは共同作業をした後別れてもあいさつをしないこともある。たとえば、仲がいい先生に出会ったが、その先生が電話している、他の先生と何か相談しているなどのような場合、あいさつをするとその先生の邪魔になる恐れがあるため、あいさつをしないこともあるだろう。いずれの状況においても、出会いと別れの場面であいさつをしない行為は「NF への配慮」であるといえる。

メールと電話の場面であいさつをしない場合、実質的な言語行動があるため、「On record であからさまに」（コミュニケーションを最も効率よく推し進める戦略）である。

要するに、表 3.2 と図 3.1 に示すように、あいさつをしないのは、自分の「NF への配慮」あるいは「On record であからさまに」であるといえる。そして、あいさつをしないことには、PF への配慮は含まれていない。

あいさつをする場合、一つは、NF への配慮を示すこと、すなわち NP 表現を使用するこ

とである。もう一つは、PF への配慮を表すこと、すなわち PP 表現を使用することである。あいさつをするということ自体は PF への配慮である。それと同時にたとえば敬語を使うことによって、相手の NF への配慮を表すこともできる。その場合のあいさつは PPS であると同時に NPS でもある。その場合は PPS+NPS となる。もちろん、相手によって NF への配慮はせず、PPS に PPS をさらにつけ加えることもあるだろう。

ほとんどすべてのあいさつは潜在的に相手や自分のフェイスを侵害する可能性を持っているため、何らかの手段で FTA を緩和しなければならない。あいさつをする場合、三つの状況がある。第一には、NF への配慮はほとんどせず、PF への配慮を優先することである。表 3.2 と表 3.3 および図 3.1 が示しているような非定型的非丁寧体のあいさつ表現（「飯食う？」や「吃了吗」）および省略された定型的非丁寧体のあいさつ表現（「おっす」や「早」）はその例である。第二には、NF への配慮はある程度するが、PF への配慮を優先することである。たとえば、「おはようございます」や「お疲れ様です」のような改まった表現を使用せずわざわざ「おはよう」や「お疲れ」のような定型的非丁寧体のあいさつ表現を使用すれば、相手に親近感を伝える意味合いが強いので、相手の PF への配慮が高いといえる。以上のようなあいさつ表現は、本研究では、PPS として認定する。第三には、PF と NF への配慮を同時に行うことである。「おはようございます」や「お疲れ様です／でした」などのような定型的丁寧体のあいさつ表現は、相手の存在を認めたこと（相手がそこにいることに気がついた）を表すと同時に、相手に尊敬の気持ちを表す意味合いもある。滝浦(2008)が指摘しているように、日本語の敬語は、ネガティブ・ポライトネスの働きを持つものである。このようなあいさつ表現は、本研究では PPS+NPS として認められる。

また、「こんにちは」、「さようなら」、[会釈]のような定型的であるが丁寧体の形をとらないあいさつ表現も、敬語とは言えないものの「ソト」に対する比較的改まったあいさつ表現なので、PF への配慮があると同時に NF への配慮もあると考えられる。本研究では、このようなあいさつ表現も PPS+NPS として認定する。

以上、あいさつとポライトネスの関係について検討した。あいさつをしないことは自分と相手の両方の NF への配慮である。逆に言えば、あいさつをすることは、全て PF への配慮であるといえる。ただし、使用するあいさつ表現の種類によって PF に配慮する度合いが異なっている。NP 表現を使用する場合、PF と NF という両方に配慮する度合いがともに高く、PPS+NPS を使用する傾向が顕著である。一方、PP 表現を使用する場合、PF に配慮する度合いが相対的に高く、PPS を使用する傾向が高い。

そこで、本研究では表 3.3 に示すように、日本人が使用するあいさつ表現については「定型性」と「丁寧度」（丁寧体の使用・不使用）の視点から NP 表現と PP 表現という 2 種類に分ける。

表 3.3 日本人のあいさつ表現の分類

群	定型性・丁寧度による分類	種別	代表例
A 群	定型でない非丁寧表現	PP 表現	飯食う？気を付けてね、手を挙げる…
B 群	定型でない丁寧表現		飯食べました？お気をつけてください…
C 群	定型の省略された非丁寧表現		おっす、じゃあね、お疲れちゃん…
D 群	定型の非丁寧表現		おはよう、お疲れ…
E 群	丁寧表現がない定型的表現	NP 表現	こんにちは、さようなら、会釈…
F 群	定型の丁寧表現		おはようございます、お疲れ様です…
G 群	定型の丁寧表現の複合体あるいは 定型の丁寧表現と丁寧表現がない 定型的表現の複合体		おはようございます+会釈 さようなら+会釈…

表 3.3 に示すように、本研究では、「お昼？」や「気を付けてね」のような「定型でない非丁寧表現」、「ご飯は済みましたか」や「お気をつけてください」のような「定型でない丁寧表現」、「じゃあね」や「おっす」のような「定型の省略された非丁寧表現」、「おはよう」や「お疲れ」のような「定型の非丁寧表現」を PP 表現と呼ぶ。これらは、相手に親近感を伝える意味合いが強く、PF への配慮が強いと考えられるからである。たとえば、「ご飯は済みましたか」や「お気をつけてください」のような丁寧体の非定型あいさつ表現を使用する場合、丁寧体であるが、非定型的表現なので、連帯感や相手への関心を表明する意味合いが含まれていて、NF への配慮が相対的に弱く、PF への配慮が相対的に強い。また、丁寧体がない非定型あいさつ表現を使用する場合、連帯感や相手への関心を表明する意味合いだけではなく、相手に親密さを伝達する意味合いも強いので、いうまでもなく、PF への配慮が強いといえる。

また、表 3.3 に示すように、本研究では、「こんにちは」や「さようなら」のような「丁寧表現がない定型的表現」¹⁷、「おはようございます」や「お疲れ様でした」のような「定型の丁寧表現」、「おはようございます+会釈」や「さようなら+会釈」のような「定型の丁寧表現の複合体あるいは定型の丁寧表現と丁寧表現がない定型的表現の複合体」を NP 表現と呼ぶ。なぜならば、これらの表現には NF への配慮が含まれているためである。滝浦（2008）が述べているように、日本語の敬語は、ネガティブ・ポライトネスの働きを持つものである。「おはようございます」や「お疲れ様でした」のような丁寧表現があるあいさつ表現は、相手の存在を認めたこと（相手がそこにいることに気がついたこと）を表すと同時に、相手を敬う気持ちを表す意味合いもある。また、「こんにちは」や「さようなら」のような丁寧体のないあいさつ表現は、敬語とは言えないものの「ソト」に対する比較的改まったあいさつ表現なので、丁寧表現があるあいさつ表現と同様に、PF への配慮である

¹⁷ 「じゃあね」や「バイバイ」および「ちは」や「おっす」のようなあいさつ表現は、「丁寧体のない定型的あいさつ表現」であるが、若者言葉（造語）あるいはくだけたあいさつ表現として使用される傾向が顕著であるため、NPS 表現ではなく、PPS 表現であると認定される。一方、「こんにちは」や「さようなら」のような丁寧体のない定型的あいさつ表現は、敬語とは言えないもののソトに対する比較的改まったあいさつ表現なので、NPS 表現であると認定される。

と同時に、NF への配慮もあると考えられる。

一方、中国人が使用するあいさつ表現については、表 3.4 に示すように、「定型性」と「呼称」の視点から NP 表現と PP 表現に分ける。中国語には、日本語のような言語形式の丁寧体がないが、丁寧度を表す手段（呼称）がある。中国では、目上の人に敬意や親近感を示す場合、「敬称」、「愛称」、「親族呼称」のような呼称を使用するのが普通である。水野(1998)は、現代中国では、敬意の表現は日本語のように体系的な敬語法としてではなく、呼称の問題に大きな比重が置かれていて、現代中国語のあいさつで、呼称の地位は日本語のあいさつにおける場合より重要であると指摘している。また、中国語の呼称（敬称）は相手への敬意を示す手段として積極的に使用され、それ自体でもあいさつとして機能するのにに対し、日本語の呼称は単体でのあいさつとしての機能がないと言われている（西 2012:94）。したがって、本研究では、中国語のあいさつにおける「呼称」を「丁寧度」を測る指標とし、中国人のあいさつ表現を分類する。

中国人のあいさつ表現は、基本的に定型的あいさつ表現と非定型的あいさつ表現に分けられる。丁寧度（呼称）に関わる表現について、様々な種類があるものの、本研究では調査結果に従って、「(～) 老师 (先生)」や「(～) 学长／学姐 (先輩)」のような「敬称」、「张三 (張三)」や「李四 (李四)」のような「名前」、「亲爱的 (～) (親愛的)」や「亲 (親)」のような「愛称」、「(～) 哥／姐 (兄ちゃん／姉ちゃん)」のような「親族呼称」という 4 種類に分ける。

表 3.4 中国人のあいさつ表現の分類

群	定型性・丁寧度による分類	種別	代表例
A 群	定型でない非丁寧表現	PP 表現	吃了吗、路上小心、招手、挥手…
B 群	定型でない丁寧表現		呼称+吃了吗、呼称+路上小心…
C 群	定型の省略された非丁寧表現		早 (啊・呀)、拜拜…
D 群	定型の非丁寧表現		(～) 早、(～) 拜拜…
E 群	丁寧表現がない定型的表現	NP 表現	早上好、你好、再见、点头致意…
F 群	定型の丁寧表現		敬称+早上好、敬称+再见…
G 群	定型の丁寧表現の複合体あるいは定型の丁寧表現と丁寧表現がない定型的表現の複合体		敬称+早上好+点头致意、再见+点头致意…

表 3.4 に示すように、本研究では、「吃了吗」や「路上小心」のような「定型でない非丁寧表現」、「呼称+吃了吗」や「呼称+路上小心」のような「定型でない丁寧表現」、「早」や「拜拜」のような「定型の省略された非丁寧表現」、「(～) 早」や「(～) 拜拜」のような「定型の非丁寧表現」を PP 表現と呼ぶ。なぜならば、これらの表現は PF への配慮が強いと考えられるためである。「亲，路上小心 (親¹⁸、気を付けて)」のような非定型的あいさつ表現は、名前、愛称、親族呼称を使用することによって相手に親近感を伝達したり、非定型的形を使用することによって相手との距離を縮めたりする意味合いがある。また、「(～)

¹⁸ 中国人の若者同士の間に流行っている親密な呼称である。

学長／学姐，路上小心（先輩、気を付けて）」のような「敬称」が付いている非定型的あいさつ表現は、「敬称」が付いているものの、相手との距離を短縮しようとする気持ちがあるため、NF への配慮と PF への配慮を同時に示しているといえるが、NF への配慮が相対的に弱く、PF への配慮が相対的に強いと見ることができる。

また、表 3.4 に示したように、本研究では、「早上好」や「再见」のような「丁寧表現がない定型的表現」、「敬称+早上好」や「敬称+再见」のような「定型の丁寧表現」、「敬称+早上好+点头致意」や「再见+点头致意」のような「定型の丁寧表現の複合体あるいは定型の丁寧表現と丁寧表現がない定型的表現の複合体」を NP 表現と呼ぶ。なぜならば、これらの表現には PF への配慮だけではなく NF への配慮もあると考えられるためである。中国語の呼称（「(～) 老师」や「(～) 学長／学姐」のような「敬称」）は相手への敬意を示す手段として積極的に使用され、それ自体でもあいさつとして機能する。また、単体の「定型的あいさつ表現」（「早上好」や「再见」）は、相手と距離をとろうとする気持ちがある。

「敬称が付いている定型的あいさつ表現」（「(～) 老师，早上好」や「(～) 学長／学姐（先輩），再见」）は、相手への敬意や相手と距離を保つ意味合いがある。

なお、中国人の定型的あいさつ表現「早上好」は省略されることがある。表 3.4 に示すように、「早（啊／呀…）」という省略された定型的あいさつ表現を敬称と一緒に使用しない場合、軽い感じがあるので PP 表現となる。また、「拜拜」というあいさつ表現は、定型的表現であるが、外来語として借用されているので、「再见」と比べると、くだけた感じがあり、親密感が含まれているため、単体の形で使用されても、敬称などと一緒に使用されても、PP 表現であると考えられる。

最後に非言語行動によるあいさつ表現は、これまで見てきた言葉によるあいさつ表現と異なり、定型・非定型の特徴があるものの、丁寧・非丁寧の特徴がない。そのため、非言語行動によるあいさつ表現は NP 表現なのか PP 表現なのかについて判断する場合、「定型性」と「丁寧度」に従って行うわけではなく、「定型性」のみに従って行わなければならない。非言語行動によるあいさつには会釈やお辞儀のような定型的あいさつ表現および[手を振る]や[手を挙げる]のような非定型的あいさつ表現がある。[会釈]や[お辞儀]のような定型的非言語行動によるあいさつ表現は、心のこもらぬ、陳腐な決まり文句を連想しやすい（杉戸 1981:59）ため、NF への配慮が比較的強いといえる。本研究では、定型的非言語行動によるあいさつ表現を NP 表現としている。一方、[手を振る]や[手を挙げる]のような非定型的あいさつ表現は、親近感を伝達する意味合いが強いので、NF への配慮が相対的に弱く PF への配慮が比較的強いと見ることができる。本研究では、これらの非定型的非言語行動によるあいさつ表現を PP 表現としている。

本研究では、上記の分類を、5.2.2、6.2.2、8.2.2、9.2.2 においてあいさつの戦略性を考察する上での根拠とする。ただし、本研究では、上記の表 3.2、表 3.3、表 3.4 および図 3.1 における A 群～G 群という分類ではなく、表 3.2 における PPS と PPS+NPS および

表 3.3 と表 3.4 における PP 表現と NP 表現というものを考察の根拠とする。A 群～G 群を設定したのは、PPS と PPS+NPS はそれぞれどのようなあいさつ表現に対応しているのかについてわかりやすくするためである。上述したポライトネス理論とあいさつの関係を踏まえて、5.2.2 においては、中国人留学生におけるあいさつの戦略の特徴、すなわち中国人留学生があいさつをする場合、どのようなポライトネス・ストラテジーを使用するのか、日本人学生に比べるとどのような相違点があるのかを明らかにする。6.2.2 においては、日本人学生と中国人学生はあいさつをする場合、それぞれどのようなポライトネス・ストラテジーを使用するのか、両者にはどのような違いがあるのかを解明する。8.2.2 においては、日本人社会人と中国人社会人はあいさつをする場合、それぞれどのようなポライトネス・ストラテジーを使用するのか、両者にはどのような違いがあるのかを明らかにし、考察する。そして、9.2.2 においては、日本人学生と社会人および中国人学生と社会人は、あいさつをする場合それぞれどのようなポライトネス・ストラテジーを使用するのか、大学生と社会人の間にどのような違いがあるのかを明らかにし、考察する。

3.3 統計の方法

本研究では、自由記述式調査で収集した場面と対人関係による日本人学生と中国人留学生の差異（第 5 章）、日本人学生と中国人学生の差異（第 6 章）、日本人社会人と中国人社会人の差異（第 8 章）、日本人・中国人それぞれの大学生と社会人の差異（第 9 章）に関するデータを検討する際に、統計分析を行う。

本研究で収集したデータの性格を述べれば、日本人学生と中国人留学生、日本人学生と中国人学生、日本人社会人と中国人社会人に対する調査のインフォーマントは、それぞれ人数が異なっている。また、それぞれの差異を検定する場合、考慮せざるを得ない要素は 2 つ以上に上っている。たとえば、以下の表 3.5 に示すデータ¹⁹には、あいさつの有無（あいさつをするかしないか）と対人関係という 2 つの要素だけではなく、母語話者別（中国人と日本人）という要素も含まれている。

表 3.5 場面 1（11 時頃に会った場面）におけるあいさつの使用頻度

調査対象 対人関係	あいさつをする			
	中国人留学生		日本人学生	
	107 人中	割合	130 人中	割合
あまり親しくない先生	105	98%	53	41%
親しいと思う先生	107	100%	120	92%
親友	107	100%	129	99%
あまり親しくない先輩	106	99%	109	84%
親しいと思う先輩	107	100%	129	99%

¹⁹ 表 3.5 に示すデータは第 5 章における表 5.4 から抽出したものである。

そこで、本研究では、データの検定を行うに当たり、角変換法（逆正弦変換法）を用いる。角変換法を用いるのは、この方法が分散分析の中でも、正規分布をなさないデータのゆがみを修正するための手法であると同時に、対応がない2つ以上の要因による比率の差の検定方法であり、本研究のデータの統計処理にもっともふさわしいと考えられるためである。

角変換法とは、2つのカテゴリーに分類される測定値の一方のカテゴリーの度数の比率に対して、対応がない2つ以上の要因がどのような効果を及ぼしているかについて検定する方法の一つである。角変換法では、各条件における特定カテゴリーの度数の比率に対する、対応がない2つ以上の要因の主効果および交互作用の有無が吟味される。その際、 P を各条件における平均値とみなし、それに分散分析の考え方を応用することにより、各要因の効果が検定される²⁰。

角変換法を用いて表3.5におけるデータを検定した結果を以下の表3.6に示す。

表 3.6 場面1におけるあいさつの使用頻度の角変換法による検定結果

調査対象 対人関係	あいさつをする				母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	中国人留学生 107人中	割合	日本人学生 130人中	割合		
あまり親しくない先生	105	98%	53	41%	107.67**	128.89**
親しいと思う先生	107	100%	120	92%		18.54**
親友	107	100%	129	99%		1.81ns
あまり親しくない先輩	106	99%	109	84%		23.55**
親しいと思う先輩	107	100%	129	99%		1.81ns

表3.6が示しているデータでは、検定結果の値が6.63以上に上る場合有意差(** $p < .01$)があり、2.71と6.63の間にある場合有意傾向(* $p < .05$)があることが確定できる。一方、検定結果の値が2.71に達していない場合、有意差がないことが確定できる。したがって、このデータに関しては、母語話者別の主効果(χ^2)が有意である。さらに、単純主効果(χ^2)について、相手が先生とあまり親しくない先輩である場合有意差があり、相手が親友と親しいと思う先輩である場合有意差がないという分析結果になる。

なお、角変換法による分散分析では統計量は χ^2 分布に従うので、統計量として χ^2 値を示す。

²⁰ 森敏昭・吉田寿夫（1990）『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』北大路書房， p.196

第4章 中国人日本語学習者におけるあいさつ使用の困難点

中国人日本語学習者にとって、日本語のあいさつの自然な用法を習得するのは難しい。施（2005:246-247）は日本語中級レベルの中国人留学生 100 人に対してアンケート調査を行ったが、日本人へのあいさつ使用に対して違和感があると答えた回答は9割以上に及んでいる。また、園田他（2006:16-17）によると、「おはようございます」と「こんにちは」のような日常生活での用法を不思議に感じ、理解するのが難しいと思っている初中級段階の留学生は少なくないようである。

しかし、施（2005）が指摘した「留学生の違和感」の多くは中国人留学生のあいさつ使用時における難しさからではなく、日本人のあいさつ使用に接した際の驚きから生じるものではないかと考えられる。言い換えれば、中国人留学生が違和感を覚えているところが、難しいと感じるところと一致するわけではない。また、園田他（2006）の調査は初中級段階の学習者に限られ、上級学習者におけるあいさつの使用状況に触れていない。初中級段階の学習者が戸惑っている点は、学習時間の不足による可能性があるため、日本語学習時間の推移によって、その困難点が自然になくなることもある。それに対して、上級学習者およびそれ以上の学習者が戸惑っている点は、長期の学習時間を経ても解決されないより根本的な問題である可能性が高い。

また、日本語学習者は戸惑っている点について実際の使用で常に間違えるというわけではない。中国人上級日本語学習者²¹における困難点の客観性を確保するため、中国人上級日本語学習者に対する調査だけでなく、中国人上級日本語学習者に接する機会のある日本語母語話者に対する調査も必要である。

そこで、本章では、中国人上級日本語学習者への調査から得たデータ、および中国の大学の日本語学科で中国人上級日本語学習者に日本語を教えている日本語教師と日本の大学院で中国人上級日本語学習者に指導している大学教員への調査から得たデータを分析し、中国人上級日本語学習者のあいさつ使用に関する困難点を明らかにする。

4.1 調査方法

上述の本章の目的を達成するため、2015年3月11日から5月24日にかけて、中国人上級日本語学習者、日本語教師および大学教員に対し、それぞれ半構造化インタビューを実施した。録音時間は計6時間14分32秒である。

²¹ JLPT・N1に合格し、あるいはそのレベル（以上）に達している中国人上級日本語学習者と超級日本語学習者を含む。

4.1.1 中国人上級日本語学習者に対する調査

中国人上級日本語学習者に対するインタビュー調査で対象としたのは、JLPT1 級・N1 に合格し、中国の大学の日本語学科に在学しているが滞日歴のない上級日本語学習者（以下学習者）21 人、日本の大学院に 1 年以上在学している中国人留学生（以下留学生）21 人である。彼らに対し、以下（1）から（3）の質問をした。

- （1）你觉得日本人使用的“あいさつ”难吗？最难的地方在哪里？
（日本人がするあいさつが難しいと思うか。一番難しいと思うところはどこか。）
- （2）与日本人见面或分别的时候，有没有过不知道怎样“あいさつ”的经历？有的话，能介绍一下吗？
（日本人と出会う時あるいは別れる時に、どのようにあいさつをすればよいか分からなかったことがあるか。（そのような経歴があれば、教えてください。）
- （3）与日本人见面或分别的时候经常使用，但其用法准确与否却不是特别清楚。像这样的“あいさつ”能介绍几个吗？
（日本人と出会う時あるいは別れる時、いつもよく使用しているあいさつではあるが、その使い方が自然であるかどうかはつきりわからない。このようなあいさつはあれば、いくつか教えてください。）

滞日歴のない学習者は、中国江西農業大学日本語学科の 3 年生と 4 年生を中心として、3 校²²の大学から選出したものである。なお、そのうち 4 年生の 10 人は日本企業か中日合弁会社で 3 ヶ月のインターンシップを受けたことがある。留学生は東北大学をはじめ、日本各地の 5 校²³の大学の大学院に在学中の学生を任意に選出したものである。学習者と留学生のインフォーマントの情報をそれぞれ表 4.1 と表 4.2 に示す。

表 4.1 学習者のインフォーマント

略称 (M:男性/F:女性)	日本語学習歴	年齢 (歳)
LM01	3 年 8 ヶ月	21
LM02	3 年 8 ヶ月	21
LM03	3 年 8 ヶ月	21
LM04	3 年 8 ヶ月	21
LF05	2 年 9 ヶ月	21
LF06	2 年 9 ヶ月	22
LF07	2 年 9 ヶ月	22
LF08	2 年 9 ヶ月	22
LF09	2 年 9 ヶ月	21

²² 江西農業大学、江西農業大学商学院、南昌大学

²³ 東北大学、早稲田大学、北海道大学、神戸大学、宮城教育大学

LF10	3 年 8 ヶ月	22
LF11	3 年 8 ヶ月	21
LF12	3 年 8 ヶ月	21
LF13	3 年 8 ヶ月	21
LF14	3 年 8 ヶ月	23
LF15	3 年 8 ヶ月	24
LF16	3 年 8 ヶ月	24
LF17	4 年 9 ヶ月	24
LF18	4 年 9 ヶ月	25
LF19	4 年 9 ヶ月	23
LF20	4 年 9 ヶ月	26
LF21	4 年 9 ヶ月	26

表 4.2 留学生のインフォーマント

略称 (M:男性/F:女性)	日本語学習歴	滞日時間	専門	年齢 (歳)
FM22	9 年	6 年	比較文学	28
FM23	8 年	6 年	日本語文法	28
FM24	4 年	2 年	日本語文法	26
FM25	5 年	2 年	AVT 翻訳	23
FM26	3.5 年	2.5 年	環境工学	22
FM27	3.5 年	1.5 年	物理工学	23
FM28	10.5 年	5 年	交通	30
FM29	4 年	3 年	応用工学	25
FF30	5 年	3.5 年	都市計画	26
FF31	3.5 年	1.5 年	都市計画	24
FF32	4.5 年	4 年	言語習得	24
FF33	5.5 年	2.5 年	言語行動	24
FF34	5.5 年	2.5 年	日本語教育	23
FF35	10 年	8 年	言語習得	28
FF36	4 年	1.5 年	比較文学	24
FF37	6 年	1.5 年	日本語教育	24
FF38	6.5 年	2.5 年	宗教	24
FF39	4 年	1 年	日本語文法	24
FF40	6 年	4.5 年	アメリカ文学	29
FF41	4 年	4 年	異文化適応	29
FF42	3.5 年	1 年	日本語教育	21

4.1.2 日本語教師と大学教員に対する調査

日本語教師と大学教員に対する調査では、中国の大学の日本語学科において中国人上級日本語学習者に 1 年以上教えたことがあり、調査時点でもそこで日本語を教えている日本語教師 5 人と日本の大学院において中国人留学生に 1 年以上指導したことがあり、調査時点でもそこで留学生を指導している大学教員 11 人を対象とし、以下の質問を設定した。日

本語教師と大学教員のインフォーマントの情報を表 4.3 に示す。

- (4) 中国人上級日本語学習者から（日本語で）あいさつされたとき、不自然さあるいは違和感²⁴を覚えたことがありますか。あれば、具体例を挙げてください。

なお、実際に日本語教師に対してインタビューした際は、上の質問における「中国人上級日本語学習者」は「日本語学科に在学し、日本語上級レベルに達している中国人学生」に変更し、大学教員に対してインタビューした際は「ご指導の中国人留学生」という表現に換えた。

表 4.3 日本語教師と大学教員のインフォーマント

対象		略称 (M:男性/F:女性)	日本語教育経歴／中国人留学 生指導歴 (年)	専門分野	年齢層 (代)
中国	日本語教師	JTM01	8.5 年	法学	40
		JTM02	7 年	経済法	40
		JTM03	2 年	フランス文学	20
		JTM04	3 年	国際文化	30
		JTF05	1.5 年	情報文化	30
日本	大学教員	UTM06	10 年以上 20 年未満	比較文学	50
		UTM07	20 年以上	材料・社会科学	60
		UTM08	10 年以上 20 年未満	日本語教育	40
		UTM09	5 年以上 10 年未満	歴史学	50
		UTM10	10 年以上 20 年未満	工学	40
		UTM11	20 年以上	日本語学	60
		UTF12	10 年以上 20 年未満	日本語教育	40
		UTF13	20 年以上	日本語教育	50
		UTF14	5 年以上 10 年未満	日本語教育	30
		UTF15	10 年以上 20 年未満	日本語教育	50
		UTF16	1 年以上 3 年未満	日本語教育	30

4.2 調査結果

中国人上級日本語学習者に「日本人がするあいさつが難しいと思うか」について聞いた結果、「難しい」(16 人)と「非常に難しい」(8 人)と答えた学習者と留学生が、回答者全体の半分以上 (57%) に上っていることがわかった。「難しくない」と回答した者は、わずか 3 人 (7%) であった。「どちらともいえない」と答えた者は、15 人 (36%) である。こ

²⁴ 本章で用いる「日本語母語話者の違和感」とは、日本語母語話者が中国人日本語学習者の使用する日本語について不自然に感じたり、不快な思いをしたりすることである。これについて、調査を実施する際、口頭でインフォーマントに説明した。

の結果から、上級であっても多くの中国人日本語学習者にとって、日本人が使用するあいさつは困難なものであるといえよう。具体的な困難点については、次の 4.3.1 と 4.3.2 において詳細に述べる。

4.2.1 中国人日本語学習者における戸惑い

半構造化インタビュー調査を行った結果、学習者と留学生が日本人にあいさつするとき戸惑っている点については、上位者に対してあいさつする場合、その日 2 回以上出会った場合、メールと電話であいさつする場合、「おはよう（～）」と「こんにちは」の使い分け、「お疲れ様です（でした）」と「さようなら」の用法に集中していることが明らかになった。

以下に示す回答は、「日本人がするあいさつが難しいと思いますか。一番難しいと思うところはどこですか」、「日本人と出会いあるいは別れる時に、どのようにあいさつをすればよいか分からなかったことがありますか。あれば、教えてください」、「日本人と出会いあるいは別れる時、いつもよく使用しているあいさつではあるが、その使い方が自然であるかどうかはつきりわかりません。このようなあいさつをいくつか教えてください」という 3 つの質問について、上記の表 4.1 と表 4.2 に示したインフォーマントによる回答から抜粋したものである。その内容は、インフォーマントが回答した生データを筆者がまとめ整理したものである。下線は、中国人上級日本語学習者が戸惑っている点を強調するため筆者が加えたものであり、原文（中国語）にある[]もわかりやすくするため筆者が加えたものである。

4.2.1.1 上位者にあいさつする場合

中国人上級日本語学習者の中には、上位者に対してどのようにあいさつすべきかについて戸惑っている人が少なくない。

LM02：第一个就是「じゃね」，...有时候会和日本外教说一下，但是始终心里没底。还有一个是「バイバイ」，跟年龄大一些的日本人使用后，会担心。再有一个就是「おはよう」，有时候觉得和日本人老师应该用「おはようございます」，但有时又觉得麻烦就直接讲了「おはよう」。

（まず、「じゃね」は日本人の先生に対して使ったことがあるが、適切であるかどうかわからない。次に、「バイバイ」は年上の日本人に対して使った後、失礼になったかなと心配することもある。それから、日本人の先生に対して「おはよう」より「おはようございます」とあいさつしたほうが適切であると思ったが、面倒くさいと思っ

てつい「おはよう」と言ってしまうこともある。）

FM22：遇到不太熟的日本教授在该用敬语打招呼的地方确实不知道该怎么说，就是这块比较难。

(あまり親しくない日本人の教授に出会った場合、どのように礼儀正しくあいさつすべきかが分からない。これは難しいと思う。)

FM26：我本身是学生，遇到这边的（日本）学生打招呼还好，但是遇到长辈[老师]的话有时就不知道说什么好了，有过不知所措的时候。

(私は学生という立場なので、日本人の学生に出会ってあいさつするときは何とかできるが、上位者である先生に出会ったらどのようにあいさつしたらいいかわからないことがある)

FM27：我觉得就是跟比自己年长的人使用比较复杂...特别复杂的地方其实就是跟老师的时候，就是比较难以掌握。

(自分より年上の人に対するあいさつ、とりわけ先生に対するあいさつは、一番難しく、習得が難しいと思う)

FF32：难就难在根据对象不一样要求用不一样的あいさつ，有时候就觉得自己あいさつ不太恰当。比如说对老师，尤其是打电话的时候，突然选择「こんにちは」或者是类似于日常生活的あいさつ，就会觉得会不会有点失礼了，或者是太唐突了。

(相手によって使用するあいさつも異なるところが難しい。自分が使用したあいさつが失礼になることがあると思う。たとえば、先生に電話をかける時に「こんにちは」またはそれと同様の日常的なあいさつをした後、なにか失礼あるいは唐突だったかなと思うことがある)

FF37：比如说有的时候我遇到老师就会说「お疲れ様です」，但我又不知道用得对不对，其他的又不知道说什么。

(先生に出会った時に「お疲れ様です」とあいさつすることがあるが、それが適切であるかどうか分からない。しかし、それでなければ他にどんなあいさつを使用すべきかわからない)

FF40：我现在仍比较困惑的是不知道怎么和老板[导师]打招呼。现在不管碰上谁我都是一句“こんにちは”。也没办法，你见了人总得打招呼吧？当你想不到合适的时候你只能说“こんにちは”对不对？

(今でも戸惑っているのは、指導教員に対してどのようにあいさつをすべきかわからないことである。現在私は、誰に出会っても「こんにちは」とあいさつしている。人(知り合い)に出会うとあいさつしなければならないので、しょうがないと思う。他の適切なあいさつを思い出せない場合、「こんにちは」しか使用できないだろう)

上記の FM22、FM26、FM27、FF32 による回答を見ると、中国人上級日本語学習者は、日本人の先生、年上の日本人、指導教員に対してどのようにあいさつすべきかについてわかっていない。また、LM02、FF37、FF40 の答えから、上位者に対して PP 表現および定型表現「お疲れ様です」と「こんにちは」を使用できるかどうかわかっていない中国人上

級日本語学習者もいると推察される。すなわち、日本人の上位者に対してどのようにあいさつすべきかについて困難を感じている中国人上級日本語学習者が存在することがわかる。

4.2.1.2 その日 2 回以上出会った場合

4.2.1.1 から、上位者に対してどのようにあいさつすべきかについて戸惑いを感じている中国人上級日本語学習者が存在することが明らかになった。次の LF10 と FM23 の回答を見ると、同じ日に 2 回以上上位者に出会った場合どのようにあいさつすべきかわからない中国人上級日本語学習者もいることがわかる。

LF10：就是早上跟老师说了「こんにちは」，下午又见到他了，不知道要不要再说一次像「こんにちは」这样的话。因为这种事情遇过蛮多次的。

(その日の午前中先生に出会ったとき既に「こんにちは」とあいさつした。午後またその先生に出会ったときもう一回「こんにちは」のような表現であいさつすべきかどうかわからない。このようなことは何度も経験したことがあるためである)

FM23：就是一天中见了两次面以上的，而且没有什么事情要打听，没有什么事情要问的话，一般不知道怎样进行あいさつ。特别是自己跟老师的话就感到困惑。

(その日 2 回以上出会ったとき、特別な用事がない場合、どのようにあいさつするかわからない。特に指導教員にどのようにあいさつすべきか戸惑うことがある)

LF10 は、午前中既に先生に「こんにちは」とあいさつしたが、午後またその先生に会った場合もう一度「こんにちは」という表現であいさつするかどうかにについて悩んでいる。FM23 は、同じ日に 2 回以上指導教員に出会ったときに、特別な用事がない場合どのようにあいさつするかについて戸惑っている。つまり、これらのインフォーマントは、同じ日に 2 回以上上位者である先生に会った場合、1 回目と同じように繰り返してあいさつするか、どのようにあいさつすべきかについて戸惑っているといえよう。言い換えれば、同じ日に何度も上位者に対してあいさつするか、どのようにあいさつすべきかということも、中国人上級日本語学習者にとっては判断が難しいことのひとつであるといえる。

4.2.1.3 メールと電話であいさつする場合

中国人上級日本語学習者のあいさつ使用に関する困難点は、対面の場面に限らず、非対面の場面からも見られる。下記の LF20、FM29、FF30、FF32 からわかるように、中国人上級日本語学習者では、電話とメールの最初においてどのようにあいさつすべきかについて戸惑っているケースもある。

LF20：...有时候挺麻烦的。日本人打电话的时候要说「お世話になっております」，难道

一定要带那一句吗？理解不了。

(面倒くさいと思うことがある。日本人は電話するときに「お世話になっております」とあいさつすることがしょっちゅうある。なぜそれを言わなければならないのか。理解できない)

FM29: 就像比方说发邮件的时候, [日本人]就老是喜欢用一个「お世話になっております」, 我不太能理解, 感觉这种其实太客套了。

(日本人に送ってもらったメールの最初に「お世話になっております」というあいさつが多い。なぜ「お世話になっております」がそれほど好きなのかわからない。なんか他人行儀という感じがする)

FF30: ...帮朋友发一些邮件, 一开始的时候很难, 中间内容的话只要把意思表达清楚就可以了, 反而简单。感觉头尾的那个あいさつ会很重要。

(メールの最初でどのようにあいさつするかがとても難しいと思う。メールの内容は明確に表せば大丈夫だけど、最初と最後のあいさつは慎重に対応しなければならないと思う)

FF32: 面对面的时候, 不管选用的あいさつ是不是很恰当, 一般来说我都能[应对], 我最不擅长的就是在电话和メール里面。比如说对方打电话过来的时候, 我就「もしもし、オウです」, 然后我就不知道是应该说「こんにちは」还是其他的了。

(対面の場合、使用するあいさつが適切であるかどうかにかかわらずなんとか対応できるけど、電話とメールであいさつするのが苦手である。たとえば、相手から電話をかけてきたとき、「もしもし、オウです」と言った後、「こんにちは」と言うべきか、他のあいさつを言うべきかが分からなくなる)

LF20 は、日本人が電話の最初において「お世話になっております」とあいさつすることに違和感を持っており、なぜそれを言わなければならないかということについて戸惑っている。FM29 は、日本人がメールの最初において「お世話になっております」をつける習慣に対して理解できないと述べている。FF30 は、日本人に送るメールの最初においてどのようにあいさつするかが難しいと思っている。FF32 は、対面の場面においてあいさつする場合は何とか対応できるが、電話とメールのような非対面の場面になると、不得意であると言っている。すなわち、中国人上級日本語学習者にとっては、メールや電話のような非対面の場面において、日本人に対してどのようにあいさつすべきかということも一つの困難点であるといえる。

4.2.1.4 「おはようございます」と「こんにちは」の使い分け

中国人上級日本語学習者のあいさつ使用に関する困難点は、特定の対人関係と場面に限らず、具体的な定型性があるあいさつ表現も含む。たとえば、先に挙げた「日本人と出会

うあるいは別れる時、いつもよく使用しているあいさつではあるが、その使い方が自然であるかどうかははっきりわからない。このようなあいさつをいくつか教えてください」という質問について、「おはよう（～）」と「こんにちは」の使い分けについてははっきりわからないと答えた中国人上級日本語学習者は少なくない。下記の LM04、LF15、LF17、FM22、FM23、FM25、FM26、FF34、FF35、FF36、FF38、FF41 は、その回答である。

LM04 : 比如说早上 11 点的时候就不知道是说「こんにちは」呢还是说「おはようございます」呢？这个还是有点模糊。因为没有具体的标准。

（午前中 11 時頃「こんにちは」と言うべきか「おはようございます」と言うべきかについてわからない。具体的な基準がないから）

LF15 : 就是有的时候「おはようございます」和「こんにちは」它们之间就比较难分一点。

（「おはようございます」と「こんにちは」について、はっきり区別できないことがある）

LF17 : 就是「おはよう」和「こんにちは」使用的时间界线点是不是早上 10 点，这个不是很清楚。有的人说 10 点以后也可以说「おはよう」。所以就有点混乱。但是我自己用的话还是以 10 点为分界。不知道对不对。

（「おはよう」と「こんにちは」を区別する境界線は午前中の 10 時であるかどうかははっきりわからない。午前中 10 時以降でも「おはよう」と言うこともできると言われたことがあるので、混乱してしまった。自分の場合、午前中 10 時を境としてその前は「おはよう」を使用しているが、適切であるかどうかわからない）

FM22 : 我经常遇到的就是那种，一天当中第一次见面，我跟日本人说「おはようございます」，日本人就跟我说「こんにちは」。我跟人家说「こんにちは」，人家就跟我说「おはようございます」。可能是日本人也没有什么标准，但具体我不太清楚。

（こういうことがよくある。その日初めて日本人に出会ったとき「おはようございます」とあいさつしたが、相手は「こんにちは」と言ってきた。「こんにちは」と言ったら、「おはようございます」とあいさつしてくる。日本人にも使用の基準などないのかもしれない。はっきりはわからないが）

FM23 : 就是可能快到中午的时间，跟老师第一次见面我还是会说「おはようございます」，不知道对不对。

（もうすぐお昼になる時間帯に、その日初めて先生に出会ったら「おはようございます」とあいさつしているが、正しいかどうかわからない）

FM25 : 早上 10 点钟的时候，是用「おはよう」还是「こんにちは」？有的时候我说「おはよう」对方回个「こんにちは」，这到是为什么呢？

（午前 10 時頃、「おはよう」とあいさつすべきだろうか、「こんにちは」とあいさつすべきだろうか。「おはよう」とあいさつしたが相手は「こんにちは」と返事してくるこ

とがある。なぜなのかわからない)

FM26 : 比如说刚开始打工的时候, 虽然是第一次见面, 但是不管是中午晚上日本人都会用「おはようございます」...我觉得到中午遇见的时候应该用「こんにちは」。

(アルバイトし始めたときに、その日初めて出会ったけど、午前中か夕方かにかかわらず日本人は「おはようございます」とあいさつしている。...午後になったら「こんにちは」を使うべきだと思うが)

FF34 : 「こんにちは」和「おはようございます」的时间带有点把握不准, 因为在打工的店里不管是早上中午还是下午一般跟日本人说的都是「おはようございます」。这是为什么我就不清楚了。

(「こんにちは」と「おはようございます」の時間による使用制限が分からない。店でアルバイトする場合、朝なのかお昼なのか夕方なのかにかかわらず日本人は「おはようございます」とあいさつしている。これはなぜか全然わからない)

FF35 : 我以前在餐饮店打工, 下午的班你去了也是说「おはようございます」。但是现在我是在办公室打工, 有时候临时去, 是下午的班, 去了之后别人都在, 不知道自己是说「おはようございます」呢还是说「こんにちは」。因为感觉那种雰囲気有点不一样。

(昔飲食店でアルバイトしたことがある。出勤したときに同僚から「おはようございます」とあいさつされた。現在私は事務室でアルバイトしている。午後臨時に出勤するとき、事務室にいる同僚に対して「おはようございます」と言うべきか「こんにちは」と言うべきかがわからない。なにかその雰囲気は違うと思う)

FF36 : 比如说早上 12 点以前说「おはようございます」我能理解。但是, 像打工的时候, 我有时是下午 5 点上班, 5 点上班还是「おはようございます」, 我就不明白为什么了。(午前中 12 時前に「おはようございます」とあいさつするのは理解できるが、アルバイト先で夕方 5 時に出勤する時でも「おはようございます」とあいさつしてきたのはちょっと理解できない)

FF38 : 比如说打工的地方见面不管有多晚都要说「おはようございます」。这一点我以前是完全不知道。我一般都是早上见面的时候说「おはよう(〜)」, 晚上的时候就说「こんにちは」「こんばんは」这些东西。

(日本人はアルバイト先でどんなに遅くなっても「おはようございます」とあいさつしている。これについては全然わからなかった。私は、今まで朝日本人に出会ったとき「おはようございます」、夕方出会ったとき「こんにちは」や「こんばんは」とあいさつしていた)

FF41 : 相对来说比较难的就是在我之前打工的地方, 比如说那个日本人一天见他一面, 即使是晚上打招呼也使用「おはようございます」。这一点有点搞不太明白。

(比較的難しいのは、アルバイト先でどのようにあいさつするかということである。たとえば、出勤するとき日本人の同僚に出会った場合、夜になっても「おはようござ

います」とあいさつされた。これについてはあまりわからない)

LM04、LF15、LF17 の答えから分かるように、午前中 10 時か 11 時頃「おはよう (～)」を使うべきか「こんにちは」を使うべきかについて、戸惑っている学習者が存在する。また、FM22、FM25 のように、あいさつ表現「おはよう (～)」と「こんにちは」の対称性と非対称性について理解できないという回答もある。FM23、FM26、FF34、FF35、FF36、FF38、FF41 の回答者は、日本人が午後になっても「おはよう (～)」とあいさつすることがあるということに戸惑っている。要するに、日本語のあいさつ表現「おはよう (～)」と「こんにちは」をどのように使い分けるかということも、中国人上級日本語学習者にとっては、大きな困難点の一つである。

4.2.1.5 「さようなら」の使用について

「おはよう (～)」と「こんにちは」の使い分けのほか、あいさつ表現「さようなら」の使用も中国人上級日本語学習者にとって困難点の一つであるといえる。中国人上級日本語学習者に対する半構造化のインタビュー調査には、事前に準備した質問だけではなく、自由形式の質問もある。その中で、「日本人と別れる時に、よく「さようなら」を使うか。その理由は何であるか」という自由形式の質問が典型的である。その質問に対してインフォーマント LM01、LF05、LF06、LF09、LF12、LF17、LF19、LF21、FM22、FF32、FF34、FF35、FF41 が以下のように回答している。その回答から上述の困難点が窺える。

LM01：没有使用过「さようなら」，因为大一的时候老师就提醒我们，说这是长久分别的时候才用的。后来我们就再也没用过。

(「さようなら」を使用したことがない。大学一年生のとき、日本語先生から「長く別れる場合しか使用できない」と注意されたことがあるため、それ以来全然使ったことがない)

LF05：因为以前老师跟我们说「さようなら」是和别人长时间分别时或者是“永别了”的时候才用，我自己也没有太去究...后来就一直觉得「さようなら」是只有长时间分别或永别的时候才会用，所以我平时不太会用「さようなら」。

(「さようなら」は、人と長くあるいは永遠に別れる場合しか使用できないあいさつであると日本語の先生から指導されることがある。自分はちゃんと調べたこともない...

「さようなら」に対して、「長くあるいは永遠に別れる場合しか使用できない」というイメージがととても強くて、通常あまり「さようなら」とあいさつしない)

LF06：老师经常说，平时特别是在电话里跟别人不能讲「さようなら」。因为离别不是太久，所以一般不会使用「さようなら」。

(「さようなら」の使用について先生から「普通に別れる場面、特に電話を切る前に相

手に「さようなら」とあいさつできない」と言われたことがあるので、通常あまり「さようなら」とあいさつしない)

LF09：其实我觉得日本人之间也有一定的差别。比如说我们第一个外教的话就很喜欢用「では、また」，但是现在的外教经常用「さようなら」。之前我是有点不太习惯的。因为之前老师有说过「さようなら」不是很常用的，尤其是经常性见面的时候不用。

(「さようなら」の使用については、日本でも人によって異なると思う。たとえば、去年の日本人日本語教師は、我々と別れるときにしょっちゅう「では、また」とあいさつしてくるのに対して、現在の日本人日本語教師はよく「さようなら」とあいさつしてくる。ちょっと違和感を覚えている。この前の先生から「よく会う場合で別れる場面において「さようなら」を使わないほうがいい」と指導されることがあるから)

LF12：不常用「さようなら」，因为以前老师讲的是说很久不见面才会用「さようなら」。(あまり「さようなら」を使用しない。前の先生から「長く別れる場面においてしか使用できない」と言われたことがある)

LF17：据说「さようなら」有决别的意思。日本外教有一次指出来，说不要说「さようなら」，说不好。现在很少用「さようなら」，一般都说「じゃ」或「失礼します」。

(「さようなら」には「決別」という意味合いがあると言われている。日本語教師から「あまりよくないので使わないでください」と指摘されたことがある。今は「さようなら」をほとんど使わないが、その代わりに「じゃ」あるいは「失礼します」を使用している)

LF19：「さようなら」好像有一种永远再也见不到的感觉，然后还有会分别好久好久的那种感觉。一般不会使用。

(「さようなら」には、「永遠に会えない」と「非常に長く別れる」という意味合いがあると思うので、通常使わない)

LF21：「さようなら」有时不知道用在什么场合。...因为不是说「さようなら」有一种“永别了”这个意思，好像再见不到了。

(「さようなら」は、どんな場合に使うべきかはっきりわからない。...「さようなら」には「永遠に別れる」と「もう会えない」という意味合いが含まれているようだ)

FM22：因为「さようなら」感觉像分别，再也见不到那种感觉。我是不会说的。

(「さようなら」は、永遠に別れるという感じがするので使ったことがない)

FF32：「さようなら」的话，我几乎不用。因为它有一种不再见了、好像“永别了”感觉。

(私は「さようなら」を滅多に使わない。もう会わない、永遠に別れるという感じがするからである)

FF34：有时候用「さようなら」挺别扭的，一般情况下不太用。感觉认识的人之间是不说「さようなら」的，不过有些日本人会在临走的时候跟你说「さようなら」，而不是「バイバイ」之类的词。

「さようなら」を使うと、ぎくしゃくすることがあるので、通常「さようなら」とあいさつしない。知り合い同士で使わないのではないかと思う。ただし、日本人と別れる場合、「バイバイ」ではなく「さようなら」とあいさつしてくることがある)

FF35：拿不太准的就是「さようなら」。比如说有时大家搞一个活动，要分别的时候，有时日本人也会给你来一句「さようなら」，然后我就觉得就好像是没有到那个程度。对「さようなら」，我是有一点抗拒感，有一种从此分别了的感觉。

(戸惑っているのは「さようなら」である。たとえばイベントを行った後別れる場合、日本人から「さようなら」とあいさつしてくれることがある。それを使用するほどではないと思う。「さようなら」というあいさつ表現に対してやや抵抗感がある。永遠に別れるという感じがするから)

FF41：之前我在书上有看到过，就是关于「さようなら」的用法，说是用于长期分别的时候，但是在实际生活中，即便不是长期分别日本人也会时不时得用一下，我觉得这个和书上说得有些不一样。

(「さようなら」の用法について、日本語教科書で見たことがある。永遠に別れる時にしか使用できないそうである。しかし、実際の生活においては、永遠に別れなくても日本人から「さようなら」とあいさつしてくることがある。これは、教科書における説明と違うのではないかと思う。)

あいさつ表現「さようなら」について、インフォーマント LM01、LF05、LF06、LF09、LF12、LF17、LF19、LF21、FM22、FF32、FF34 は、全く使ったことがないあるいはほとんど使わないと答えている。その理由として、日本語を勉強し始めたとき日本語教師から「「さようなら」は長くあるいは永遠に別れる場合しか使用できない」と指導されることがあるということが挙げられている。また、FF35、FF41 の回答からわかるように、長い期間あるいは永遠に別れる場面でないにもかかわらず日本人が「さようなら」を使う場合もある。これに対して中国人上級日本語学習者は戸惑っている。要するに、長い期間あるいは永遠に別れる場面でないにもかかわらず「さようなら」を使用できるかどうか、中国人上級日本語学習者にはもう一つの困難点であるといえよう。

4.2.1.6 「お疲れ(～)」の使用について

中国人上級日本語学習者のあいさつ使用に関する困難点はもう一つある。それは、あいさつ表現「お疲れ(～)」²⁵である。半構造化インタビュー調査では、「あいさつ表現「お疲れ(～)」について、どう思いますか」という質問に対して、インフォーマント LF05、LF09、LF17、LF19、FF34、FF35、FF37 は、以下のように回答している。

²⁵ 「お疲れ(～)」には、「お疲れ」、「お疲れっす」、「お疲れさん」、「お疲れ様」、「お疲れ様です」、「お疲れ様でした」などが含まれている。

LF05：有一次下课的时候，日本外教对我说了一句「お疲れ様でした」，我就有点愣，就懵了。我当时想的是上课这么辛苦不是您吗？然后我就本能反应说了一句「いいえ」。（ある日、授業が終わった後日本人の先生から「お疲れ様でした」とあいさつしてきた。驚いたと同時に「疲れてしまったのは先生ではないか」と思うので、つい「いいえ」と返事した）

LF09：我感觉我们学校的日本外教和商学院的日本外教有一些不一样。我们这边的老师在讲完「お疲れ様です」的时候，要求我们回应「ありがとうございました」，但是他们那边要求回应的是「お疲れ様でした」。

（ウチの大学で働いている日本人の先生と商学院（大学の名前）に勤めている日本人の先生のあいさつはやや異なると思う。ウチの大学の日本人の先生は、授業が終わった後に先生から「お疲れ様です」とあいさつした場合「ありがとうございます」と返事するよう指導しているが、商学院の日本人の先生は「お疲れ様でした」と返事するよう指導しているそうである）

LF17：外教给我说「お疲れ様です」的时候，我一般都说「いいえ」或者对她微笑一下。（日本人の先生から「お疲れ様です」とあいさつされた場合、「いいえ」と返事したり微笑を返したりしている）

LF19：比如说有的时候日本人帮我做一些事情的时候，完了之后我不知道是说「お疲れ様でした」还是说「ありがとうございました」。也就是说哪些时候该说这个「お疲れ様です」是拿捏不准的。

（日本人の先生から何か助けてもらった後、「お疲れ様でした」と言うべきか「ありがとうございました」と言うべきかがわからない。つまり、どういうとき「お疲れ様です」と言うべきかがわかりづらい）

FF34：比如说「お疲れ様」的用法就不太好理解。感觉日本人不管是打完工还是说上完课，「お疲れ様」用得特别多。不管是同辈之间还是跟上面的人，还是社会上，感觉他们都会使用「お疲れ様」。

（「お疲れ様」の使い方については、ちょっと理解しがたい。日本人の場合、アルバイトが終わった後でも授業が終わった後でも「お疲れ様」を多く使用している。同輩か上位者かにかかわらず「お疲れ様」とあいさつしても差し支えないようである）

FF35：一般直接下班的话说「お疲れ様でした」很正常，但是有时大家一起聚会，要分别的时候也说「お疲れ様でした」，这就有点费解了。

（普段、仕事が終わった後互いに「お疲れ様でした」とあいさつするのは自然であるが、パーティーの後で互いに「お疲れ様でした」とあいさつするのはちょっと理解しづらい）

FF37：比如说我打完工临走的时候要说「お疲れ様です」，这个我能理解。但是去打工的

时候刚一见面也要说这个我就理解不了了。

(アルバイトが終わってまだ仕事の人と別れる場合、「お疲れ様です」とあいさつするのは理解できるが、出勤するときに「お疲れ様です」とあいさつしてくるのは理解し難い)

LF05、LF17 は、日本人の先生から「お疲れ (～)」とあいさつされた場合どのように返事するかについて悩んでいる。また、LF09、LF19 は、授業の後先生に対して「お疲れ様でした」と言うべきか「ありがとうございました」と言うべきかについて戸惑っている。また、FF34、FF35、FF37 は、出会いあるいは別れの場面においても「お疲れ (～)」を使用することに対して理解できないようである。要するに、あいさつ表現「お疲れ (～)」の使い方が、中国人上級日本語学習者にとっては大きな困難点であるといえる。

4.2.2 日本語教師と大学教員における違和感

次に、日本語教師と大学教員に半構造化インタビュー調査を行った結果、日本語教師と大学教員が中国人上級日本語学習者からのあいさつに違和感を覚える点については、敬語の脱落、「先生」という呼称の過剰使用、「お疲れ (～)」の不適切な使用に集中していることが明らかになった。

以下に示す回答は、「中国人上級日本語学習者から（日本語で）あいさつされたとき、不自然あるいは違和感を覚えたことがありますか。あれば、具体例を挙げてください」という質問について、上記の表 4.3 が示しているインフォーマントの回答から抜粋したものである。

4.2.2.1 敬語の脱落

日本語教師が学習者の目上の人に対しても「じゃ」や「バイバイ」のような PP 表現を使用することに対して違和感を覚えていることは、下記の JTM03 と JTF05 の回答から窺える。

JTM03 : あいさつとしたら、目上の先生とか、目上の人にも「じゃ」と「バイバイ」を使うことが多いです。これはおかしいです。

JTF05 : 「先生、おはよう」、「先生、ありがとうね」「先生、お先に」、「先生、またね」、「先生、じゃあね」などのようなくだけた表現であいさつしてきたときになんか不自然な感じがする。

JTM03 の答えからわかるように、中国の大学の日本語学科に在学している学習者には、目上の日本人先生に対しても「じゃ」や「バイバイ」のような PP 表現を使う人が少なく

ない。また、JTF05 の回答から窺えるように、日本語教師は、学習者から「先生、おはよう」や「先生、ありがとうね」のような PP 表現を使われた場合、違和感を覚えている。要するに、学習者は、上位者に対してあいさつする場合、「敬語の脱落」の傾向がある。

4.2.2.2 呼称の過剰使用

「敬語の脱落」という問題と比べると、「呼称の過剰使用」という問題は、学習者だけではなく留学生においても見られる。以下 JTM01、JTM02、JTM04、UTM08 の回答がそれを示している。

JTM01 : 中国人の学生は私にあいさつするときに、よく私に「先生」「先生」って言います。「先生」っていうのは呼びかけられると何か用事があるんじゃないかと思ってしまいます。

JTM02 : まず、中国の学生はほとんど「先生」と言って終わります。

JTM04 : 向こうの学生が近づいてきて、あいさつするんだろうなとみてるんですけど、その時に「～先生」それだけ言って、それで終わりなんですよね。その後、「こんにちは」とか言わない。「～先生」とか言って、なんかにこっとして行っちゃうっていう。そういう…「こんにちは」とか言ってほしいな。

UTM08 : まず、必ずっていうぐらい、「先生」というふうに呼びかけてから「こんにちは」というのがありますよね。日本人の学生だと、あんまりあいさつのときわざわざ「先生」って言わないと思うんで、それはちょっと違うなあと思いますね。それから、1 日に何回、1 回目に 3 回目に会った時でも「先生、こんにちは」ってことが多い。

JTM01、JTM02、JTM04 の答えからわかるように、学習者は「(～) 先生」という呼称をあいさつとして使用している。これに対して日本語教師は違和感を覚えている。UTM08 の回答によると、留学生は、日本人の先生に対して「こんにちは」のようなあいさつを使用しているが、「こんにちは」の前に「(～) 先生」という呼称をつける傾向がある。また、この「(～) 先生+こんにちは」のようなあいさつは、その日 2 回目以降先生に出会った場面においてもそのまま使用されている。つまり、中国人上級日本語学習者にとっては、「(～) 先生」という呼称の過剰使用も大きな問題であるといえよう。

4.2.2.3 「お疲れ(～)」の多用

「敬語の脱落」、「呼称の過剰使用」と同様に、あいさつ表現「お疲れ(～)」の多用も、中国人上級日本語学習者に見られる問題の一つである。これは、下記の JTM03、UTM10、UTF15 の回答から窺える。

JTM03：授業が終わったときに、先生に「お疲れ様です」という、これはちょっと変。
 UTM10：僕は気にしないけども、ほかの先生が気にするのは授業が終わったりして、帰るときに、中国人留学生から「お疲れ様」と「ご苦労様」と言ってくるのだよね。
 UTF15：「お疲れ様です」とか、「お疲れ様でした」ということを、授業が終わった後に、「お疲れ様でした」と言われることがあって、で、それは違うじゃないって。

JTM03 と UTF15 が指摘しているように、授業が終わったときに先生に対して「お疲れ様です」と使うのは適切ではない。UTM10 は、授業が終わった後、留学生から言われた「お疲れ様」を気にする教員がいると述べている。要するに、中国人上級日本語学習者には、対人関係を考慮せずに「お疲れ（～）」を多用する傾向があるのではないかと推察される。

4.3 まとめ

以上、中国人上級日本語学習者、日本語教師、大学教員に対して行った半構造化インタビュー調査によるデータを挙げながら、中国人上級日本語学習者のあいさつ使用に関する困難点を明らかにした。その結果を表 4.4 にまとめる。

表 4.4 中国人上級日本語学習者のあいさつ使用に関する困難点

学習者と留学生の戸惑い		日本語教師と大学教員の違和感	
戸惑い①	上位者に対するあいさつの仕方	違和感①	敬語の脱落
		違和感②	呼称の過剰使用
戸惑い②	「さようなら」の用法	違和感③	「お疲れ（～）」の多用
戸惑い③	「お疲れ（～）」の用法		
戸惑い④	その日 2 回以上出会った場面でのあいさつの仕方		
戸惑い⑤	メールと電話でのあいさつの仕方		
戸惑い⑥	「おはよう（～）」と「こんにちは」の使い分け		

表 4.4 に示したように、学習者・留学生の戸惑いと日本語教師・大学教員の違和感がある程度対応しているといえる。学習者・留学生の戸惑い①（上位者に対するあいさつの仕方）と日本語教師・大学教員の違和感①（敬語の脱落）・②（呼称の過剰使用）が対応している。たとえば、学習者・留学生は、仲がいい先生に出会って目が合う場合、どのようにあいさつをすべきかわからなくても、あいさつをしなければならないので、親近感を示すため常体を使用したり、呼称をあいさつとして使用して「（～）先生」と呼んだりすることがある。ところが、日本語には、このような習慣がないので、その先生が違和感を覚えるのは当然である。また、学習者・留学生は、「さようなら」の使用に抵抗感があり、「お疲れ（～）」

の用法に対して戸惑いがあるので、使うべき場面においてもそうでない場面においても使ってしまうことがあるだろう。使うべき場面において使用する場合、相手は違和感を覚えないが、そうでない場面において使用する場合、違和感が生じるのも当然である。

それでは、中国人上級日本語学習者が戸惑っている点と日本語教師・大学教員が違和感を覚えている点において、中国人留学生（日本社会と日本人に長く接したことがあり、現在も毎日日本社会と日本人に接している中国人上級日本語学習者）は、実際にどのようにあいさつしているのだろうか。これについて、大規模な質問紙調査を通して、中国人留学生のあいさつ使用に関するデータを収集した。第5章では、その結果を踏まえて、中国人留学生のあいさつ使用に関する特徴を明らかにする。

第5章 中国人留学生におけるあいさつの使用実態

第4章では、中国人上級日本語学習者と日本語教師・大学教員に対して半構造化インタビュー調査を行った結果に基づいて、中国人上級日本語学習者のあいさつ使用に関する困難点を明らかにした。困難点について、学習者・留学生の戸惑いと日本語教師・大学教員の違和感という2つの観点から検討した。学習者・留学生の戸惑いには、1) 上位者に対するあいさつの仕方、2) 「さようなら」の用法、3) 「お疲れ(～)」の用法、4) その日2回以上出会った場面におけるあいさつの仕方、5) メール・電話におけるあいさつの仕方、6) 「おはよう」と「こんにちは」の使い分けという6つがある。日本語教師・大学教員の違和感には、7) 敬語の脱落、8) 呼称の過剰使用、9) 「お疲れ(～)」の多用という3つがある。

日本語教師・大学教員が違和感を覚える点と学習者・留学生が戸惑っている点において、中国人留学生（日本社会と日本人に長く接したことがあり、現在も毎日日本社会と日本人に接している中国人上級日本語学習者）は、実際にどのようにあいさつしているのだろうか。また、日本人学生に比べると、どのような特徴があるのだろうか。本章では、それらのことを明らかにする。

5.1 調査方法

これまで「日本人と話している時、母国のあいさつの仕方との違いを感じたことがあるか」という質問を通じて、中国人中級日本語学習者（留学生）における日本人のあいさつ使用に対する違和感について調査を実施した研究（施 2005b）はあるものの、中国人留学生におけるあいさつの使用実態に関する調査は見られない。そこで、中国人留学生におけるあいさつの使用実態を明らかにするため、東北大学、宮城教育大学、神戸大学の3大学の大学に在学している中国人留学生を対象に自由記述式調査を行った。

また、日本の大学に在学している中国人留学生におけるあいさつの使用上の特徴を明らかにするため、東北大学と東北学院大学の学部 に在学している日本人学生に対しても調査を行い、その結果と比較した。日本人学生と比較したのは、中国人留学生と日本人学生には年齢の差が若干あるものの、中国人留学生も日本人学生も日本の大学に在学していて、共同の学習環境や類似した対人関係において生活しているためである。中国人留学生は、1年以上日本に滞在し、JLPT 一級・N1 あるいは東北大学における「外国人留学生等特別課程」においてレベルV／仮Vと認定された学生である。日本人学生は、中国語ができない1年生と2年生を中心とする学部生である。調査対象のインフォーマントの属性を表5.1に示す。

表 5.1 日本人大学生と中国人留学生のインフォーマント

年齢	中国人留学生 東北大学／宮城教育大学／神戸大学		日本人学生 東北大学／東北学院大学		合計
10 代後半	0 人	0%	57 人	44%	57 人
20 代	105 人	98%	73 人	56%	178 人
30 代前半	2 人	2%	0 人	0%	2 人
合計	107 人	100%	130 人	100%	237 人

中国人留学生におけるあいさつの使用実態を把握するため、2015 年 11 月 1 日から 11 月 26 日まで、第 4 章の調査結果に基づいて、表 5.2 に示す 7 つの場面を設定し、20 代から 30 代の中国人留学生 107 人（男性 43 人、女性 64 人）と 20 歳前後の日本人学生 130 人（男性 85 人、女性 45 人）を対象とし、無記名で自由記述式調査を実施した。なお、日本人学生には日本語版の調査票、中国人学生には中国語版の調査票を用いた。これらの調査票については、本論文の末尾に付録として掲載する。

表 5.2 日本人大学生と中国人留学生向けの場面の設定

対 人 関 係		
①あまり親しくない先生 ②親しいと思う先生 ③親友 ④あまり親しくない先輩 ⑤親しいと思う先輩		
自由記述式の質問		
出会いの場面	場面 1	午前 11 時頃、大学の廊下でその日初めて以下の日本人に出会ってあいさつしますか。あいさつをする場合、どのようにあいさつをしますか。
	場面 2	平日お昼の 12 時半頃キャンパスで、食堂に向かう途中、その日初めて以下の日本人に出会ってあいさつをしますか。あいさつをする場合、どのようにあいさつをしますか。
	場面 4	その日の午前中初めて以下の日本人に出会った時にもうあいさつしました。お昼の 12 時半頃、校内の道で再び以下の日本人に出会った場合、あいさつをしますか。あいさつをする場合、どのようにあいさつをしますか。
別れの場面	場面 3	夕方 5 時頃自分が帰る時、大学の廊下で以下の日本人に出会って、簡単なあいさつをして相手も帰るところだと分かりました。一緒に大学の出口まで行って、最後に大学の出口で以下の日本人と別れる場合、どのようにあいさつをしますか。
	場面 5	以下の人と一緒にボランティアとして、イベント会場を片付けました。その後、以下の日本人と別れる場合、あいさつをしますか。あいさつをする場合、どのようにあいさつをしますか。
メールの場面	場面 6	以下の日本人に相談する必要があります。相談の時間を予約するため午前 11 時頃以下の日本人にメールを送ります。メールの冒頭であいさつの言葉を書きますか。書く場合、どのようなあいさつを書きますか。
電話の場面	場面 7	相談があり、以下の日本人に電話をかけることになりました。午前 11 時頃電話をかける場合、あいさつをしますか。あいさつをする場合、どのようにあいさつをしますか。

表 5.2 が示しているように、各場面において「あまり親しくない先生」、「親しいと思う先生」、「親友」、「あまり親しくない先輩」、「親しいと思う先輩」という 5 つの対人関係を設定した。「あまり親しくない」については、「話をしたことはあるが、プライベートなことまで話題にしない／しそうもない」というように規定し、「親しい」については、「プライベートなことも話せる／話せそう」と規定しており、調査票にそのことを明記している。

「あまり親しくない先生」、「親しいと思う先生」、「あまり親しくない先輩」、「親しいと思う先輩」という 4 つの対人関係は、前章の表 4.4 に示した中国人上級日本語学習者における戸惑い①（上位者にどのようにあいさつすべきか）に基づいて設定した。「親友」は、対人関係における「親疎」による違いを明らかにするため設定した。嶋津（2010:38）は、教育の場では、教師と学生の間にはどうしても力関係が存在するので、「ウチ」の関係になることは難しいと指摘している。それに対して、親しい学生同士の間には力関係が存在しないので、「ウチ」の関係になるのではないかと考えられる。

また、場面 1 から場面 7 は、主に中国人上級日本語学習者の戸惑い①（上位者に対するあいさつの仕方）および日本語教師と大学教員における違和感①（敬語の脱落）と違和感②（呼称の過剰使用）に基づいて設定した。ただし、場面 1 と場面 2 を設定した際、中国人上級日本語学習者の戸惑い⑥（「おはよう（～）」と「こんにちは」の使い分け）も参考にした。また、場面 3 の設定は戸惑い②（「さようなら」の用法）、場面 4 の設定は戸惑い④（その日 2 回以上出会った場面でのあいさつの仕方）、場面 5 の設定は戸惑い③（「お疲れ（～）」の用法）、場面 6 と場面 7 の設定は戸惑い⑤（メールと電話でのあいさつの仕方）も参考に入れた。これらを整理すると、以下の表 5.3 になる。

表 5.3 日本人学生と中国人留学生向けの場面設定の根拠

場面	中国人上級日本語学習者のあいさつ使用に関する困難点	
場面 1	戸惑い⑥（「おはよう（～）」と「こんにちは」の使い分け）	戸惑い①（上位者に対するあいさつの仕方）
場面 2		
場面 3	戸惑い②（「さようなら」の用法）	
場面 4	戸惑い④（その日 2 回以上出会った場面でのあいさつの仕方）	
場面 5	戸惑い③（「お疲れ（～）」の用法）／ 違和感③（「お疲れ（～）」の多用）	違和感①（敬語の脱落）
場面 6	戸惑い⑤（メールと電話でのあいさつの仕方）	違和感②（呼称の過剰使用）
場面 7		

なお、日本人学生と中国人留学生に同様の日本語版の調査票を用いた。そして日本人学生と中国人留学生に対する調査は、インフォーマントからの許可を得たうえで行った。その許可を得るために用いた調査承諾書は、上述の調査票と一緒に本論文の末尾に付録として掲載する。

5.2 調査結果

5.2.1 あいさつの有無

相手に出会った場合あるいは別れる場合、同一の場面であいさつをするかどうかは、対人関係によって異なる。表 5.4 と表 5.5 が示しているとおり、その日初めて「親友」と「親しいと思う先輩」に出会った場合、中国人留学生にせよ日本人学生にせよ、必ずあいさつをするが、「あまり親しくない先生」、「親しいと思う先生」、「あまり親しくない先輩」に出会った場合は必ずしもそうではない。

表 5.4 場面 1（11 時頃に出会った場面）におけるあいさつの使用頻度

調査対象 対人関係	あいさつをする				母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	中国人留学生 107 人中	割合	日本人学生 130 人中	割合		
あまり親しくない先生	105	98%	53	41%	107.67**	128.89**
親しいと思う先生	107	100%	120	92%		18.54**
親友	107	100%	129	99%		1.81ns
あまり親しくない先輩	106	99%	109	84%		23.55**
親しいと思う先輩	107	100%	129	99%		1.81ns

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 5.5 場面 2（12 時半頃に出会った場面）におけるあいさつの使用頻度

調査対象 対人関係	あいさつをする				母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	中国人留学生 107 人中	割合	日本人学生 130 人中	割合		
あまり親しくない先生	105	98%	46	35%	112.80**	148.91**
親しいと思う先生	107	100%	120	92%		18.54**
親友	107	100%	129	99%		1.81ns
あまり親しくない先輩	105	98%	107	82%		20.70**
親しいと思う先輩	107	100%	129	99%		1.81ns

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 5.4 と表 5.5 に示したように、「あまり親しくない先生」に出会った時に、半分以上の日本人学生はあいさつをしないのに対して、9 割以上の中国人留学生はあいさつをしている。また、「あまり親しくない先輩」に対してあいさつをしない日本人学生は 20 人以上いるのに対して、中国人留学生は 1 人か 2 人しかいない。

なお、表 5.6 が示しているように、場面 4（その日 2 回以上出会った場面）において、「親友」と「親しいと思う先輩」に対してあいさつをする比率は、中国人留学生でも日本人学生でも 9 割以上に上っているが、「あまり親しくない先生」、「親しいと思う先生」、「あまり親しくない先輩」に対してあいさつをする中国人留学生は日本人学生より多い。「先生」と

「あまり親しくない先輩」に対してあいさつをする中国人留学生は 9 割以上に及んでいるのに対して、日本人学生は「あまり親しくない先生」に対してあいさつをする者が 73 人（56%）、「親しいと思う先生」に対してあいさつをする者が 111 人（85%）、「あまり親しくない先輩」に対してあいさつをする者が 98 人（75%）となっている。

表 5.6 場面 4（その日 2 回以上出会った場面）におけるあいさつの使用頻度

調査対象 対人関係	あいさつをする				母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	中国人留学生 107 人中	割合	日本人学生 130 人中	割合		
あまり親しくない先生	102	95%	73	56%	65.66**	60.04**
親しいと思う先生	103	96%	111	85%		9.17**
親友	103	96%	117	90%		3.80*
あまり親しくない先輩	98	92%	98	75%		11.87**
親しいと思う先輩	103	96%	117	90%		3.80*

(** $p < .01$, * $p < .05$)

言い換えれば、「その日初めて出会った場面」においても「その日 2 回以上出会った場面」においても、中国人留学生は、「親友」と「親しいと思う先輩」だけではなく、「あまり親しくない先生」、「親しいと思う先生」、「あまり親しくない先輩」に対してもあいさつをしない者はほとんどいない。それに対して、同様の 2 つの場面において日本人学生は、「親友」と「親しいと思う先輩」に対してはあいさつをしない者がほとんどいないものの、「あまり親しくない先生」、「親しいと思う先生」、「あまり親しくない先輩」に対してはあいさつをしない者が比較的多いといえる。要するに、日本人学生に比べると、中国人留学生は上位者の「あまり親しくない先生」、「親しいと思う先生」、「あまり親しくない先輩」に対しても積極的にあいさつをする傾向が顕著である。

日本人学生と中国人留学生における差異の客観性を検証することを目的として角変換法（逆正弦変換法）による相手別と母語話者別の分散分析²⁶を行った。その結果、場面 1、場面 2、場面 4 のいずれのデータにおいても母語話者別の主効果が有意であった。そこで、下位検定として単純主効果検定を行い、場面 1、場面 2、場面 4 において「あまり親しくない先生」「親しいと思う先生」「あまり親しくない先輩」に対してあいさつをするかどうかについては、中国人留学生と日本人学生の間に有意差があることを確認した。

また、同一の場面において中国人留学生と日本人学生があいさつをするかどうかについての差異は、出会いの場面に限らず、別れの場面からも窺える。下記の表 5.7 に示すように、中国人留学生の場合、場面 3（偶然出会って別れる場面）において誰に対しても全員があいさつをする。それに対して、日本人学生の場合、誰に対してもあいさつをする者が

²⁶ 角変換法（逆正弦変換法）による分散分析では統計量は χ^2 分布に従うので、統計量として χ^2 値を示す。

9割以上に達しているが、あいさつをしない者もある程度存在している。「あまり親しくない先生」、「親しいと思う先生」、「あまり親しくない先輩」に対してあいさつをしない日本人学生が若干多いということは、表 5.7 における母語話者別の主効果と単純主効果検定の結果から確定できる。

表 5.7 場面 3（偶然出会って別れる場面）におけるあいさつの使用頻度

調査対象 対人関係	あいさつをする				母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	中国人留学生 107 人中	割合	日本人学生 130 人中	割合		
あまり親しくない先生	107	100%	122	94%	31.22**	14.75**
親しいと思う先生	107	100%	126	97%		7.30**
親友	107	100%	129	99%		1.90ns
あまり親しくない先輩	107	100%	126	97%		7.30**
親しいと思う先輩	107	100%	128	98%		3.63ns

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 5.8 場面 5（共同作業をした後別れる場面）におけるあいさつの使用頻度

調査対象 対人関係	あいさつをする				母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	中国人留学生 107 人中	割合	日本人学生 130 人中	割合		
あまり親しくない先生	107	100%	109	84%	41.97**	40.15**
親しいと思う先生	107	100%	120	92%		18.54**
親友	106	99%	128	98%		0.18ns
あまり親しくない先輩	105	98%	120	92%		4.86ns
親しいと思う先輩	106	99%	126	97%		1.48ns

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 5.8 に示すように、場面 5（共同作業をした後別れる場面）において、「親友」、「あまり親しくない先輩」、「親しいと思う先輩」に対してあいさつをしない中国人留学生と日本人学生の間には差異がないものの、「あまり親しくない先生」と「親しいと思う先生」に対してあいさつしない日本人学生は中国人留学生より多い。

角変換法による相手別と母語話者別の分散分析を行った結果、場面 3 と場面 5 とともに母語話者別の主効果が有意であった。そこで、下位検定として単純主効果検定を行い、場面 3 において「あまり親しくない先生」、「親しいと思う先生」、「あまり親しくない先輩」、場面 5 において「あまり親しくない先生」と「親しいと思う先生」に対してあいさつをするかどうかについては、中国人留学生と日本人学生の間に有意差があることを確認した。

ところが、「メール」と「電話」の場面では、同一の場面において中国人留学生と日本人学生があいさつをするかどうかについての差異は見られない。表 5.9 と表 5.10 が示しているように、場面 6（メールの場面）と場面 7（電話の場面）において、「あまり親しくない

い先生」、「親しいと思う先生」、「親友」、「あまり親しくない先輩」、「親しいと思う先輩」に対してあいさつをしない中国人留学生と日本人学生には顕著な差異がない。

表 5.9 場面 6（メールの場面）におけるあいさつの使用頻度

調査対象 対人関係	あいさつをする				母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	中国人留学生 107 人中	割合	日本人学生 130 人中	割合		
あまり親しくない先生	99	93%	112	86%	4.01*	2.56ns
親しいと思う先生	98	92%	112	86%		1.78ns
親友	69	64%	58	45%		9.47**
あまり親しくない先輩	90	84%	115	88%		0.94ns
親しいと思う先輩	85	79%	107	82%		0.31ns

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 5.10 場面 7（電話の場面）におけるあいさつの使用頻度

調査対象 対人関係	あいさつをする				母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	中国人留学生 107 人中	割合	日本人学生 130 人中	割合		
あまり親しくない先生	89	83%	107	82%	1.84ns	
親しいと思う先生	87	81%	108	83%		
親友	60	56%	66	51%		
あまり親しくない先輩	76	71%	109	84%		
親しいと思う先輩	77	72%	103	79%		

(** $p < .01$, * $p < .05$)

角変換法による相手別と母語話者別の分散分析を行った結果、場面 6 のデータにおいては母語話者別の主効果が有意であったが、場面 7 のデータにおいては母語話者別の主効果が有意でなかった。場面 6 のデータについて、下位検定として単純主効果検定を行い、場面 6 において親しいか親しくないかに関わらず「先生」と「先輩」に対してあいさつをするかどうかについては、中国人留学生と日本人学生の上に有意差がないことを確認した。

以上のように、日本人学生と比較することを通して、中国人留学生におけるあいさつ使用の特徴を検討した。あいさつをするかどうかについて、場面 6（メール）と場面 7（電話）においては、中国人留学生は、日本人学生とほぼ同様の傾向を示している。しかし、場面 3 と場面 5（別れの場面）においては、中国人留学生は日本人学生より積極的にあいさつする傾向がある。また、場面 1、場面 2、場面 4（出会いの場面）においては、日本人学生があまり親しくない先生にあいさつをしない傾向が顕著であるのに対して、中国人留学生が誰に対しても積極的にあいさつをする傾向が顕著である。

上記の結果が出たのは、日本人学生と中国人留学生における上位者に対するポライトネス意識の違いによると考えられる。たとえば、知り合いに対してあいさつをするかしない

かによって、相手のフェイスへの配慮が異なる。あいさつをしない場合、相手には他人に邪魔されたくない、踏み込まれたくない欲求があると考慮したためと考えられる。本研究ではこれを「相手の NF への配慮」とする。また、あいさつをする場合、相手には自分イメージが他人から評価され、好ましく思われたいという欲求があると考慮して、あいさつをすると考えられる。本研究ではこれを「相手の PF への配慮」とする。

表 5.4、表 5.5、表 5.6 で示したように、日本人学生は、出会いの場面で、「あまり親しくない先生」、「親しいと思う先生」、「あまり親しくない先輩」に対してあいさつをしない傾向が顕著である。これは、日本人学生が「あまり親しくない先生」、「親しいと思う先生」、「あまり親しくない先輩」の「邪魔されたくない・踏み込まれたくない」という欲求を満たすため、「あまり親しくない先生」、「親しいと思う先生」、「あまり親しくない先輩」の NF に対して配慮していると考えられる。それに対して、表 5.4、表 5.5、表 5.6 からわかるように、同様の場面において中国人留学生は、「あまり親しくない先生」、「親しいと思う先生」、「あまり親しくない先輩」に対して積極的にあいさつをする傾向が顕著である。これは、中国人留学生は、「あまり親しくない先生」、「親しいと思う先生」、「あまり親しくない先輩」における「自分のイメージが他人から評価され、好ましく思われたい」という欲求を満たすため、「あまり親しくない先生」、「親しいと思う先生」、「あまり親しくない先輩」の PF に対する配慮をしていると推察できる。

また、中国人留学生における上位者の PF に対する配慮は、出会いの場面にものみならず、別れの場面にも窺える。表 5.7 が示しているように、別れの場面において、「あまり親しくない先生」、「親しいと思う先生」、「あまり親しくない先輩」に対してあいさつをしない日本人学生は多くないものの、ある程度存在している。それに対して、同様の場面において「あまり親しくない先生」、「親しいと思う先生」、「あまり親しくない先輩」に対してあいさつをしない中国人留学生はほとんどいない。そして、中国人留学生が「親友」と「親しいと思う先輩」に対しても積極的にあいさつをする傾向も窺える。表 5.8 から見ると、「あまり親しくない先生」と「親しいと思う先生」に対してあいさつしない日本人学生は中国人留学生より多い。要するに、別れの場面においても、日本人大学に比べると、中国人留学生は誰に対しても積極的にあいさつをする傾向が顕著である。これも、中国人留学生は、「あまり親しくない先生」、「親しいと思う先生」、「親友」、「あまり親しくない先輩」、「親しいと思う先輩」における「自分イメージが他人から評価され、好ましく思われたい」という欲求を満たすため、相手の PF に対する配慮優先すると考えられる。

表 5.9 と表 5.10 が示しているとおおり、「電話」と「メール」の場面において、あいさつをするかどうかについて、中国人留学生と日本人学生の間には、顕著な差異が見られない。この点について、「対面のあいさつ」と「非対面のあいさつ」の違いに着目して考察する。場面 1 から場面 5 において行われるあいさつは、「対面のあいさつ」であるが、場面 6 と場面 7 において行われるあいさつは「非対面のあいさつ」である。「対面」の場合、偶然性と

即時性があるため、その場で迅速に判断してあいさつをせざるを得ない。一方、「非対面」の場合、偶然性と即時性がなくなるので、十分に準備してからあいさつをする余裕がある。日本の大学に1年以上在学し、現在もその大学に在学している中国人留学生は、日本人に電話あるいはメールをする必要が生じた場合、『電話対応マナー』のような本や過去のメールを調べることを通して、日本語母語話者におけるやり方を参考にし、準備したうえで電話あるいはメールをするのが普通ではないかと考えられる。以上のとおり、「電話」と「メール」の場面であいさつをするかどうかについて、中国人留学生と日本人学生が同様の使用傾向を示す要因を考察した。

5.2.2 あいさつのポライトネス・ストラテジー

前述の3.2で述べたように、あいさつをする場合、すべてのあいさつは、PFに対する配慮があるものの、その配慮の度合いがあいさつ表現の種類によって異なる。そして、本研究では、「おはよう」や「じゃあね」のようなPP表現を使用する場合、PPSを使用すると認定される。一方、「おはようございます」や「さようなら」のようなNP表現を使用する場合、PPS+NPSを使用すると認定される。このような捉え方にもとづき、以下、各場面における日本人学生と中国人留学生のあいさつ使用に関するポライトネス・ストラテジーの異同について考察する。

5.2.2.1 その日初めて出会った場面

中国人上級日本語学習者が戸惑っていた点（戸惑い①：上位者に対するあいさつの仕方／戸惑い⑥：「おはよう（～）」と「こんにちは」の使い分け）において、日本人学生と中国人留学生は、実際にどのようにあいさつをしているかを明らかにするため、上記の表5.1における場面1（11時頃に出会った場面）と場面2（12時半頃に出会った場面）について日本人学生130人と中国人留学生107人に対して自由記述式調査を実施した。その結果をそれぞれ表5.11、表5.12、表5.13、表5.14に示す。

表5.11と表5.13が示しているように、場面1と場面2において、あいさつをする場合、日本人学生は、上位者に対してNP表現を、親友に対してPP表現を使用する傾向が顕著である。それに対して、表5.12と表5.14が示しているように、場面1と場面2において、中国人留学生が上位者に対してPP表現を、親友に対してNP表現を使用する傾向も比較的顕著である。

表5.11、表5.12、表5.13、表5.14が示しているように、日本人学生に比べると、場面1と場面2においてあいさつをする場合、中国人留学生は、親しいと思う先生と先輩に対してPP表現を、親友に対してNP表現を使用する傾向が比較的顕著であるといえる。

表 5.11 場面 1 (11 時頃に出会った場面) における日本人学生のあいさつ

あまり親しくない先生	会釈 (21) 「おはようございます」 (17) 「こんにちは」 (16) 「お疲れ様です」 (3) チラッと見る (1)
親しいと思う先生	「こんにちは」 (52) 「おはようございます」 (48) 会釈 (11) 「(～) 先生、おはようございます」 (4) 「先生、こんにちは」 (2) 「お疲れ様です」 (7) お辞儀 (2) 礼 (1) 目をしっかりと見て (1) 微笑+会釈 (1)
親友	「こんにちは」 (3) 「おはよう」 (55) 「おはー」 (1) 「お疲れ」 (11) 「お疲れ様」 (1) 「お疲れっす」 (1) 「おっす」 (12) 「よっ・よう」 (18) 「おう」 (11) 「う (い) っす」 (6) 「やっほー」 (7) 「やあ」 (5) 「ハロー」 (2) 「お昼一緒に食べない？」 (1) 「元気？」 (2) 「ご機嫌よう」 (1) 手を振る (6) 声をかける (3) 名前を呼ぶ (5) だきつく (1) タメ口 (1) 少し会話 (1) 笑顔 (1) 肩をたたく (1) 手を挙げて (1) 雑談 (1)
あまり親しくない先輩	「こんにちは」 (31) 「お疲れ様です」 (29) 会釈 (26) 「おはようございます」 (26) お辞儀 (1) 礼 (1) 敬語 (1) 「ういっす」 (2) アイコンタクト (1) 愛想笑 (1)
親しいと思う先輩	「こんにちは」 (41) 「おはようございます」 (37) 「お疲れ様です」 (35) 会釈 (9) 「～さん」 (4) お辞儀 (1) 敬語 (1) 「～先輩」 (5) 「こんにちはっす」 (1) 「お疲れ」 (1) 「ういっす」 (1) 「おっです」 (1) 「しゃっす」 (1) 声をかける (4) 笑顔 (2) 雑談 (1)

(注：表の括弧内の数字は人数、網掛けの部分は NP 表現を意味する)

表 5.12 場面 1 (11 時頃に出会った場面) における中国人留学生のあいさつ

あまり親しくない先生	「おはようございます」 (43) 「(～) 先生、おはようございます」 (5) 「こんにちは」 (48) 会釈 (9) 「(～) 先生、こんにちは」 (6) 「お疲れ様です」 (1) 「先生、お出かけでしょうか」 (1) 微笑 (1)
親しいと思う先生	「おはようございます」 (44) 「こんにちは」 (46) 会釈 (7) 「(～) 先生、おはようございます」 (7) 「(～) 先生、こんにちは」 (7) 「先生、おはよう」 (1) 「おはよう」 (3) 「先生」 (1) 「Hi」 (1) 微笑 (2)
親友	「～さん、おはようございます」 (4) 「こんにちは」 (26) 「お疲れ様です」 (2) 会釈 (1) 「おはよう」 (39) 「おっす」 (7) 「Hello」 (6) 「Hi」 (11) 「Hi、～ちゃん」 (1) 「お疲れ」 (4) 「よ (う)」 (5) 「今日学校授業ある？」 (2) 「どこに行くの」 (1) 「Hi、ご飯を食べましたか」 (1) 「ああ、今から何をするの」 (1) 「ご飯行くの」 (1) 「～さん、元気ですか」 (2) 「morning」 (1) 「おは」 (1) 「おい」 (1) 世間話 (2) 手を振る (2) 微笑 (1)
あまり親しくない先輩	「おはようございます」 (43) 「こんにちは」 (44) 「お疲れ様です」 (5) 会釈 (7) 「おはよう」 (6) 「(～) 先輩」 (5) 「どこへ行きますか」 (1) 「奇遇ですね」 (1) 「Hi」 (2) 微笑 (1)
親しいと思う先輩	「おはようございます」 (29) 「こんにちは」 (39) 「～さん」 (5) 「お疲れ様です」 (1) 会釈 (5) 「おはよう」 (30) 「おっす」 (2) 「お疲れ」 (2) 「お疲れ様」 (1) 「わう」 (1) 「Hello・Hi」 (5) 手を振る (2) 「(～) 先輩」 (8) 「奇遇ですね」 (1) 「元気ですか」 (1) 微笑 (1)

(注：表の括弧内の数字は人数、網掛けの部分は NP 表現を意味する)

表 5.13 場面 2 (12 時半頃に出会った場面) における日本人学生のあいさつ

あまり親しくない先生	「こんにちは」(26) 会釈 (11)「おはようございます」(1)「お疲れ様です」(3)
親しいと思う先生	「こんにちは」(90) 会釈 (14)「お疲れ様です」(11)「おはようございます」(8)「～先生、こんにちは」(3) お辞儀 (2) 礼 (1) 目をしっかり見る (1)「お昼食べました？」(3) 笑顔 (1)
親友	「こんにちは」(5)「おはよう」(32)「おはー」(1)「う (い) っす」(11)「おう」(8)「お疲れ」(16)「お疲れ様」(2)「お疲れっす」(1)「よ (っ・う)」(18)「やっほー」(7)「おっす」(12)「やあ」(5)「次の授業何？」(1)「ハロー」(1)「おう、飯食う？」(3)「お、ご飯食べた？」(1) 食事に誘う (5) 声をかける (3) 名前を呼ぶ (2) 笑顔 (1) 手を振る (9) 会話する (1)
あまり親しくない先輩	「こんにちは」(43)「お疲れ様です」(34) 会釈 (26)「おはようございます」(5) お辞儀 (1) 礼 (1) 敬語 (1)「こんにちはっす」(1)「ういっす」(1)「～先輩」(1)「どうも」(1) 声をかける (1) アイコンタクト (1) 笑顔 (1)
親しいと思う先輩	「こんにちは」(65)「お疲れ様です」(37) 会釈 (10)「おはようございます」(9) 敬語 (1) お辞儀 (1)「(～) さん」(4)「～先輩」(5)「こんにちはっす」(2)「おはようです」(1)「お疲れ」(1)「お疲れっす」(1)「飯食べました？」(2)「しゃっす」(1)「ういっす」(1)「おっです」(1)「どうも」(2) 声をかける (3) 笑顔 (2)

(注：表の括弧内の数字は人数、網掛けの部分は NP 表現を意味する)

表 5.14 場面 2 (12 時半頃に出会った場面) における中国人留学生のあいさつ

あまり親しくない先生	「おはようございます」(13)「こんにちは」(69)「(～) 先生、こんにちは」(12)「お疲れ様です」(5) 会釈 (11)「先生、今からお昼ですか」(1)「先生、お食事ですか」(1)「～先生」(1) 微笑 (2)
親しいと思う先生	「おはようございます」(11)「こんにちは」(68)「お疲れ様です」(4) 会釈 (8)「(～) 先生、こんにちは」(15)「おはよう」(1)「(先生) ご飯でしたか」(7)「Hi、先生」(1)「食事に行きますか」(1) 微笑 (3)
親友	「おはようございます」(1)「こんにちは」(46)「お疲れ様です」(3) 会釈 (2)「おはよう」(11)「お疲れ」(5)「おっす」(1)「～ちゃん」(1)「Hello・Hi・Hey」(17)「(Hi) ご飯食べた？」(11)「(～ちゃん・さん) 食事に行く？」(5)「Hi、一緒に食事行く？」(10)「よっ・よう」(4)「おっす」(2)「やっほー」(1)「やあ」(1) 世間話 (6) 微笑 (2) 手を振る (1)
あまり親しくない先輩	「おはようございます」(11)「こんにちは」(69)「お疲れ様です」(9) 会釈 (6)「(～) 先輩、こんにちは」(5)「おはよう」(1)「お疲れ」(1)「～先輩」(1)「～さん」(1)「Hello・Hi」(2) 微笑 (2)「ご飯を食べに行きますか」(1)「(先輩) もう食べましたか」(2)「奇遇ですね」(1)
親しいと思う先輩	「おはようございます」(4)「こんにちは」(61)「お疲れ様です」(8) 会釈 (1)「先輩、こんにちは」(3)「おはよう」(8)「お疲れ」(2)「Hello・Hi・Hey」(6)「おっす」(1)「一緒に食べよう」(2) 手を振る (1)「奇遇ですね」(1)「(～) 先輩」(3)「～さん」(4)「ご飯もう食べましたか」(9) 世間話 (2) 微笑 (1)

(注：表の括弧内の数字は人数、網掛けの部分は NP 表現を意味する)

その傾向を分かりやすくするため、表 5.11 から表 5.14 が示している日本人学生と中国人留学生の親しいと思う先生・先輩および親友に使用するあいさつ表現を NP 表現と PP 表現に分けて集計し、そのデータをそれぞれ表 5.15、表 5.16、表 5.17 に示す。以下、NP 表現と PP 表現のデータを示す表における網掛けは強調を意味する。

表 5.15 場面 1・2（出会いの場面）における親しいと思う先生に対するあいさつ²⁷

		日本人学生	中国人留学生
場面 1	NP 表現	129 例 (100%)	111 例 (93%)
	PP 表現	0 例 (0%)	8 例 (7%)
場面 2	NP 表現	132 例 (97%)	106 例 (89%)
	PP 表現	4 例 (3%)	13 例 (11%)

表 5.16 場面 1・2（出会いの場面）における親しいと思う先輩に対するあいさつ

		日本人学生	中国人留学生
場面 1	NP 表現	128 例 (88%)	79 例 (59%)
	PP 表現	17 例 (12%)	54 例 (41%)
場面 2	NP 表現	127 例 (85%)	77 例 (66%)
	PP 表現	22 例 (15%)	40 例 (34%)

表 5.17 場面 1・2（出会いの場面）における親友に対するあいさつ

		日本人学生	中国人留学生
場面 1	NP 表現	3 例 (2%)	33 例 (27%)
	PP 表現	155 例 (98%)	89 例 (73%)
場面 2	NP 表現	5 例 (3%)	52 例 (40%)
	PP 表現	140 例 (97%)	78 例 (60%)

表 5.15 が示しているように、場面 1 と場面 2 において親しいと思う先生に対して PP 表現を使用する例は、日本人学生がそれぞれ 0 例 (0%) と 4 例 (3%) であるのに対して、中国人留学生がそれぞれ 8 例 (7%) と 13 例 (11%) であって、差異があるものの顕著ではない。しかし、表 5.16 が示しているように場面 1 と場面 2 において親しいと思う先輩に対して PP 表現を使用する例は、日本人学生がそれぞれ 17 例 (12%) と 22 例 (15%) であるのに対して、中国人留学生がそれぞれ 54 例 (41%) と 40 例 (34%) に上っている。また、表 5.17 が示しているように、場面 1 と場面 2 において親友に対して NP 表現を使用する例は、日本人学生がそれぞれ 3 例 (2%) と 5 例 (3%) にとどまっているのに対して、中国人留学生がそれぞれ 33 例 (27%) と 52 例 (40%) に及んでいる。

表 5.18 に示すように、「飯食う?」、「おっす」、「おはよう」、「お疲れ」、「手を挙げる」のような PP 表現は、PPS として使用される傾向が強い表現である一方、「おはようございます」、「こんにちは」、「会釈」のような NP 表現は、PPS+NPS として使用される傾向が強い表現である。そう考えてみると、場面 1 と場面 2 において、あいさつをする場合、親しいと思う先輩には日本人学生は PPS+NPS を使用する傾向が顕著であるのに対して、中国人留学生は PPS+NPS も使用するが、PPS を使用するケースもある。また、親友には日本人学生は PPS を使用する傾向が顕著であるのに対して、中国人留学生は PPS も使用するが、PPS+NPS を使用するケースもある。

²⁷ 調査を実施した際、自由記述の形で行ったため、あいさつをする場合、同一の場面において同一の対人関係で記入してもらった回答は必ずしも一つではない。そのため、記入された例は、インフォーマントの人数を超えることがある。

表 5.18 出合いの場面におけるあいさつ表現とポライトネスの関係

ポライトネス		群	あいさつ表現の分類	種別	代表例
NF・PF への 配慮	PPS	A 群	定型でない非丁寧表現	PP 表現	飯食う？手を挙げる…
		B 群	定型でない丁寧表現		飯食べました？ …
		C 群	定型の省略された非丁寧表現		おっす、よう…
		D 群	定型の非丁寧表現		おはよう、お疲れ…
	PPS+NPS	E 群	丁寧表現がない定型的表現	NP 表現	こんにちは、会釈…
		F 群	定型の丁寧表現		おはようございます…
		G 群	定型の丁寧表現の複合体あるいは 定型の丁寧表現と丁寧表現がない 定型的表現の複合体		おはようございます+会釈 こんにちは+会釈…

5.2.2.2 その日 2 回以上出会った場面

上述した日本人学生と中国人留学生におけるあいさつの対人関係による使用制限の差異は、場面 1 と場面 2 に限らず、場面 4（その日 2 回以上出会った場面）からも窺える。表 5.19 と表 5.20 が示しているように、場面 4 において、どのようにあいさつをするかについて、日本人学生と中国人留学生が場面 1 と場面 2 における使用状況とほぼ同様の使用傾向を示している。

表 5.19 場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における日本人学生のあいさつ

あまり親しくない先生	会釈 (38)「こんにちは」(27)「お疲れ様です」(6)「おはようございます」(1) お辞儀 (3) 礼 (1)「どうも」(4)
親しいと思う先生	会釈 (41)「こんにちは」(43)「お疲れ様です」(14) お辞儀 (5) 礼 (1) 黙礼 (1)「おはようございます」(3)「どうも」(7)「また会いましたね」(4)「今日、2 回目ですね」(2)「今日はよく会いますね」(2)
親友	「こんにちは」(4) 会釈 (2)「よっ・よう」(28)「また会ったな・ね」(21)「お疲れ」(17)「お疲れ様」(1)「おはよう」(4)「おはー」(1)「う（っ）す」(4)「おっす」(6)「おう」(12)「やあ」(1)「(今日) はよく会うな」(5)「先もあったね」(1)「やっほー」(5)「ウェーイ」(1)「さっきぶり」(1)「やあ」(1)「ご機嫌よう」(1) 食事に誘う (1) 声をかける (1) 手を振る (6) 手を挙げる (5) 手振りをする (1) 手を使って合図 (1)
あまり親しくない先輩	会釈 (40)「こんにちは」(28)「お疲れ様です」(24) お辞儀 (4)「おはようございます」(3) 礼 (1) 黙礼 (1)「お疲れです」(1)「どうも」(4)「また会いしましたね」(3)
親しいと思う先輩	「こんにちは」(33)「お疲れ様です」(33) 会釈 (26) お辞儀 (3)「おはようございます」(1)「お疲れ」(1)「お疲れっす」(2)「おつです」(1)「どうも」(8)「またお会いしましたね」(10)「(今日は) よく会いますね」(3)「ういす」(1)「ちーっす」(1)「～さん、ストーカー？笑」(1)「おっす」(1)「さっきぶりです」(1)

(注：表の括弧内の数字は人数、網掛けの部分は NP 表現を意味する)

表 5.20 場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における中国人留学生のあいさつ

あまり親しくない先生	「こんにちは」(64)「(～)先生、こんにちは」(8)「お疲れ様です」(11) 会釈 (16)「先生、お疲れ様です」(1)「(先生)おはようございます」(2) お辞儀 (4)「また会いましたね」(1) 手を振る (1)
親しいと思う先生	「こんにちは」(63)「(～)先生、こんにちは」(9)「お疲れ様です」(11)「おはようございます」(2)「お疲れ様です」(1) 会釈 (14) お辞儀 (2)「食事はもうしましたか」(1)「先生は授業ですか」(1)「先生また会いましたね」(1) 手を振る (1)
親友	「こんにちは」(35)「お疲れ様です」(6) 会釈 (6)「Hi・Hello」(19)「お疲れ様」(2)「お疲れ」(3)「また会ったね」(10)「バイ」(1)「おはよう」(1)「どこへ行くの」(2)「おっす」(1)「やっほ」(3)「おう」(2)「あら」(1)「よう」(1)「はい」(1)「おい」(2)「またね」(2)「～さん、何をしているの」(1)「これから何をするの」(2)「後、授業がある？」(1)「どこ行くの」(3)「ご飯食べた？」(3) 手を振る (5) 食事に誘う (1)
あまり親しくない先輩	「こんにちは」(57)「お疲れ様です」(14)「先輩」(2)「先輩こんにちは」(1)「先輩、おはようございます」(1) 会釈 (14)「お疲れ様」(3)「また会いました」(1)「おはよう」(1)「Hi・Hello」(4)「これから何をするの」(1) 手を振る (1)「授業ありますか」(1)「どこに行きますか」(1)
親しいと思う先輩	「こんにちは」(50)「お疲れ様です」(11) 会釈 (11)「先輩こんにちは」(1)「先輩」(2)「Hi・Hello」(10)「お疲れ様」(3)「お疲れ」(1)「また会いましたね」(3)「また会ったね」(2)「(先輩)おはよう」(2)「(先輩)授業ありますか」(2)「またね」(2) 手を振る (2)「ご飯はもう食べた？」(1)「これから何をするの」(1)「～さん、食事はもうしましたか」(1)「どこに行きますか」(1)「食事に誘う」(1) 笑い (1)

(注：表の括弧内の数字は人数、網掛けの部分は NP 表現を意味する)

その傾向を分かりやすくするため、表 5.19 と表 5.20 が示している日本人学生と中国人留学生の親しいと思う先生・先輩および親友に使用するあいさつ表現を NP 表現と PP 表現に分けて集計し、そのデータをそれぞれ表 5.21、表 5.22、表 5.23 に示す。

表 5.21 場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における親しいと思う先生に対するあいさつ

		日本人学生	中国人留学生
場面 4	NP 表現	108 (88%)	102 (96%)
	PP 表現	15 (12%)	4 (4%)

表 5.22 場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における親しいと思う先輩に対するあいさつ

		日本人学生	中国人留学生
場面 4	NP 表現	96 (76%)	73 (68%)
	PP 表現	30 (24%)	35 (32%)

表 5.23 場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における親友に対するあいさつ

		日本人学生	中国人留学生
場面 4	NP 表現	6 (5%)	47 (41%)
	PP 表現	125 (95%)	67 (59%)

表 5.21 と表 5.22 が示しているように、場面 4 において親しいと思う先生と先輩に対して、NP 表現を使用する傾向が顕著であるか、PP 表現を使用する傾向が顕著であるかにつ

いて、日本人学生と中国人留学生の間に差異がないわけではないが、その差異は顕著であるとは言い難い。一方、表 5.23 が示しているように、場面 4 において日本人学生が親友に使用する NP 表現は、わずか 6 例（5%）にすぎないのに対して、表 5.20 が示しているように、同一の場面において中国人留学生が親友に使用する NP 表現は、47 例（41%）に達している。

前掲の表 5.18 に示したように、PP 表現は、PPS として使用される傾向が強い表現である一方、NP 表現は、PPS+NPS として使用される傾向が強い表現である。そう考えてみると、場面 4 において、親しいと思う先生と先輩にあいさつをする場合、日本人学生と中国人留学生のあいさつ使用は、差異がないわけではないが、その差異は顕著ではない。一方、親友には日本人学生が PPS を使用する傾向が顕著であるのに対して、中国人留学生は PPS も使用するが、PPS+NPS を使用するケースもある。

5.2.2.3 別れの場面

別れの場面においても、日本人学生に比べると、中国人留学生は、あいさつをする場合親しいか親しくないかにかかわらず上位者の先輩に PP 表現を、親友に NP 表現を使用する傾向が比較的顕著である。

表 5.24 場面 3（偶然出会って別れる場面）における日本人学生のあいさつ

あまり親しくない先生	「さようなら」(57)「お疲れ様です・でした」(38)「失礼します」(25)「ありがとうございます・ました」(2)「それでは」(2) 会釈 (5)「お気をつけて」(1)「どうも」(1) 簡単に挨拶をして帰る (1)
親しいと思う先生	「さようなら」(56)「お疲れ様です・でした」(42)「失礼します」(22) 会釈 (8)「ではまた」(4)「ありがとうございます・ました」(3)「～先生気を付けて帰ってください」(1)「また明日」(1)「先生また来週」(1)「えー先生—おくってくださいよ」(1)「私こっちから帰ります」(1)「次の授業もよろしくお願いします」(1)
親友	「さようなら」(2)「お疲れ様でした」(1)「じゃあね」(50) バイバイ (28)「ばーい」(1)「バイ」(1)「お疲れ」(19)「またね」(15)「じゃ（あ）」(11)「また明日」(11)「じゃあまた」(5)「お（っ）つー」(3)「お疲れ様」(2)「お疲れ様でしたね」(1)「お疲れっす」(1)「それじゃ」(1)「明日ね」(2)「気を付けて（ね）」(3) 手を挙げる (1) 手を振る (5)
あまり親しくない先輩	「お疲れ様です・でした」(83)「さようなら」(35)「失礼します」(7)「ではまた」(3)「それでは」(1) 会釈 (6)「じゃあ、また」(2)「こっちからなので」(1)
親しいと思う先輩	「お疲れ様です・でした」(79)「さようなら」(33)「失礼します」(5)「それでは」(2)「ではまた」(3) 会釈 (8)「お疲れっす」(2)「おつです」(2)「お疲れ」(1)「じゃあ、また」(2)「また明日」(3)「じゃあね」(1)「どうも」(1)「お気をつけて」(1)「～さん帰っちゃうんですか」(1)「じゃ、私こっちから帰ります」(1)

（注：表の括弧内の数字は人数、網掛けの部分は NP 表現を意味する）

表 5.25 場面 3（偶然出会って別れる場面）における中国人留学生のあいさつ

あまり親しくない先生	「さようなら」(8)「お疲れ様です・でした」(48)「失礼します」(31)「お先に失礼します」(14)「ありがとうございました」(3)「それでは」(4)「では」(1) 会釈 (1)「(先生) また明日」(3)「～先生、お先に」(1) 微笑 (1)
親しいと思う先生	「さようなら」(8)「お疲れ様です・でした」(47)「失礼します」(27)「お先に失礼します」(11) 会釈 (1)「それでは」(1)「では」(1)「おやすみなさい」(1)「では私はこれで」(1)「お疲れ様」(1)「また明日」(7)「またね」(1)「バイバイ」(1)「先生、お先に」(1)「また」(1)「それじゃ」(1)「先生、また来週」(1) 微笑 (1)
親友	「さようなら」(1)「お疲れ様です・でした」(9)「では、また」(2)「じゃ（あ）ね」(32)「じゃ（あ）」(13)「バイバイ」(26)「お疲れ」(17)「お疲れ様」(7)「お疲れちゃん」(1)「お疲れさん」(1)「じゃ明日また」(1)「では俺はこっちなので」(1)「じゃまた（ね）」(2)「お休み」(1)「またね」(10)「また明日」(6)「先に行くわ」(1)「気を付けてね」(3)
あまり親しくない先輩	「さようなら」(8)「お疲れ様です・でした」(48)「失礼します」(7)「お先に失礼します」(4)「それでは」(2)「(～さん)、ではまた」(4)「では」(1) 会釈 (1)「先に帰ります」(2)「お疲れ様」(6)「お疲れ」(3)「バイバイ」(8)「また」(2)「またね」(5)「明日また」(12)「じゃまた」(1)「じゃあね」(1)「先輩、また」(1) 微笑 (1)
親しいと思う先輩	「さようなら」(3)「お疲れ様です・でした」(32)「失礼します」(2)「お先に失礼します」(3)「では今度また」(2)「ではまた」(3)「～さん、ではまた」(1)「それでは」(1)「では」(1) 会釈 (1)「お疲れ様」(9)「お疲れ」(7)「バイバイ」(16)「またね」(11)「じゃあね」(8)「じゃ帰りますね」(1)「また明日」(5)「じゃまた」(1)「また」(4)「それじゃ」(1)「では、明日ね」(1) 手を振る (1) 微笑 (1)

(注：表の括弧内の数字は人数、網掛けの部分は NP 表現を意味する)

表 5.26 場面 5（共同作業をした後別れる場面）における日本人学生のあいさつ

あまり親しくない先生	「お疲れ様です・でした」(89)「さようなら」(10)「ありがとうございました」(9)「失礼します」(7) 会釈 (6)「お先に失礼します」(3)「お疲れ様」(1)
親しいと思う先生	「お疲れ様です・でした」(105)「さようなら」(8)「失礼します」(6)「お先に失礼します」(3)「ありがとうございました」(9) 会釈 (3)「お疲れ様」(1)「先生、また授業で」(1)
親友	「お疲れ様です・でした」(3)「お疲れ」(94)「お疲れ様」(15)「おつ」(4)「おう」(1)「ういっす」(1)「バイバイ」(7)「またね」(9)「じゃあね」(6)「じゃあ、お先に」(1)「お気をつけて帰ってね」(1) 手を振る (1)
あまり親しくない先輩	「お疲れ様です・でした」(110)「さようなら」(6) 会釈 (5)「失礼します」(4)「ありがとうございました」(3)「お先に失礼します」(2)「お疲れ様」(1)
親しいと思う先輩	「お疲れ様です・でした」(114)「さようなら」(7)「失礼します」(5)「お先に失礼します」(4)「ありがとうございました」(3) 会釈 (3)「ありがとうございます」(1)「お疲れ」(1)「お疲れ様」(1)「お疲れっす」(1)「おつです」(2)

(注：表の括弧内の数字は人数、網掛けの部分は NP 表現を意味する)

表 5.27 場面 5（共同作業をした後別れる場面）における中国人留学生のあいさつ

あまり親しくない先生	「(先生) お疲れ様です・でした」(81)「(先生) さようなら」(3)「失礼します」(7)「ありがとうございます」(2)「先生、お先に失礼します」(2)「(今日) はありがとうございます」(14)「今日はお世話になりました」(2)「これで失礼します」(1)「(それ) では失礼します」(4)「お先に失礼します」(14) 会釈 (3)「お疲れ様」(2)「お先に」(1)「バイバイ」(1)「また明日」(1)
親しいと思う先生	「お疲れ様です」(30)「お疲れ様でした」(46)「先生、お疲れ様です・でした」(4)「(先生) さようなら」(3)「これで失礼します」(2)「お先に失礼します」(13)「(では) 失礼します」(10)「ありがとうございます」(3)「先生、お先に失礼します」(1)「(今日) ありがとうございます」(12) 会釈 (2) お辞儀 (1)「お疲れ様」(2)「バイバイ」(2)「また明日」(1)「お先に」(1)
親友	「お疲れ様です」(11)「お疲れ様でした」(11)「ではまた」(2)「お疲れ」(51)「お疲れ様」(19)「お疲れさん」(1)「バイバイ」(11)「じゃあね」(7)「お先に」(2)「またね」(7)「じゃまたね」(5)「ご苦労さま」(1)「気を付けてね」(1)「また明日」(3)「ゆっくり休んでね」(1)「今日ありがとう」(1) 手を振る (2)
あまり親しくない先輩	「お疲れ様です」(39)「お疲れ様でした」(38)「先輩、お疲れ様でした」(1)「さようなら」(5)「失礼します」(5)「では、失礼します」(2)「お先に失礼します」(5)「～さん、ではまた」(1)「ありがとうございます・ました」(4) 会釈 (1)「お疲れ」(8)「お疲れ様」(8)「バイバイ」(4)「お先に」(2)「じゃまたね」(1)「じゃあね」(1)
親しいと思う先輩	「お疲れ様です」(33)「お疲れ様でした」(32)「失礼します」(5)「また今度」(1)「お先に失礼します」(4)「ありがとう (ございます)」(3)「(～さん) ではまた」(2) 会釈 (1)「お疲れ」(16)「お疲れ様」(11)「先輩、お疲れ様」(1)「じゃあね」(3)「バイバイ」(8)「お先に」(2)「またね」(1)「じゃまたね」(3)「ありがとうね」(1)「また明日」(2) 手を振る (1)

(注：表の括弧内の数字は人数、網掛けの部分は NP 表現を意味する)

表 5.24 と表 5.26 が示しているように、場面 3（偶然出会って別れる場面）においても場面 5（共同作業をした後別れる場面）においても、親しいか親しくないかにかかわらず、日本人学生の回答では先輩に PP 表現を使用する例がほとんど見られない。それに対して、表 5.25 と表 5.27 が示しているように、場面 3 においても場面 5 においても、親しいか親しくないかにかかわらず、中国人留学生の回答では先輩に PP 表現を使用する例が比較的多く見られる。また、表 5.24、表 5.25、表 5.26、表 5.27 からわかるように、場面 3 と場面 5 において親友に NP 表現を使用する例について、日本人学生と中国人留学生の間にある程度の差異が見られるが、その差異は顕著であるとは言い難い。

上述の傾向を分かりやすくするため、表 5.24 から表 5.27 が示している日本人学生と中国人留学生の先輩と親友に使用するあいさつ表現を NP 表現と PP 表現に分けて集計し、そのデータをそれぞれ表 5.28、表 5.29、表 5.30 に示す。

表 5.28 場面 3・5（別れの場面）におけるあまり親しくない先輩に対するあいさつ

		日本人学生	中国人留学生
場面 3	NP 表現	135 例 (98%)	76 例 (64%)
	PP 表現	3 例 (2%)	42 例 (36%)
場面 5	NP 表現	130 例 (99%)	101 例 (80%)
	PP 表現	1 例 (1%)	24 例 (20%)

表 5.29 場面 3・5（別れの場面）における親しいと思う先輩に対するあいさつ

		日本人学生	中国人留学生
場面 3	NP 表現	130 例 (90%)	49 例 (43%)
	PP 表現	15 例 (10%)	66 例 (57%)
場面 5	NP 表現	137 例 (96%)	81 例 (62%)
	PP 表現	5 例 (4%)	49 例 (38%)

表 5.30 場面 3・5（別れの場面）における親友に対するあいさつ

		日本人学生	中国人留学生
場面 3	NP 表現	3 例 (2%)	12 例 (9%)
	PP 表現	160 例 (98%)	122 例 (91%)
場面 5	NP 表現	3 例 (2%)	24 例 (18%)
	PP 表現	140 例 (98%)	112 例 (82%)

表 5.28 が示しているように、場面 3 と場面 5 においてあまり親しくない先輩にたいして、日本人学生が PP 表現を使用する例がそれぞれ 3 例 (2%) と 1 例 (1%) にすぎないのに対して、中国人留学生が PP 表現を使用する例はそれぞれ 42 例 (36%) と 24 例 (20%) に上っている。また、表 5.29 が示しているように、場面 3 と場面 5 において親しいと思う先輩に対して、日本人学生が PP 表現を使用する例がそれぞれ 15 例 (10%) と 5 例 (4%) にとどまっているのに対して、中国人留学生が PP 表現を使用する例はそれぞれ 66 例 (57%) と 49 例 (38%) に及んでいる。ただし、表 5.30 が示しているように、親友という対人関係になると、日本人学生と中国人留学生における差異が小さくなる。

表 5.31 別れの場面におけるあいさつ表現とポライトネスの関係

ポライトネス	群	あいさつ表現の分類	種別	代表例
NF・PF への配慮	PPS	A 群	PP 表現	気を付けてね、手を挙げる…
		B 群		お気をつけてください…
		C 群		じゃあね、またね…
		D 群		お先に、お疲れ…
	PPS+NPS	E 群	NP 表現	さようなら、会釈…
		F 群		お先に失礼します…
		G 群		お先に失礼します+会釈 お疲れ様でした+会釈…

表 5.31 に示すように、「じゃあね」や「またね」のような PP 表現は、PPS として使用される傾向が強い表現である一方、「さようなら」や[会釈]のような NP 表現は、NPS として

使用される傾向が強い表現である。また、「お先に失礼します」や「お疲れ様でした」のような定型かつ丁寧な表現は PPS+NPS として使用される表現である。そう考えてみると、場面 3 と場面 5 において、親しいか親しくないかにかかわらず、先生と先輩に対してあいさつをする場合、日本人学生が PPS+NPS を使用する傾向が顕著であるのに対して、中国人留学生は PPS+NPS も使用するが、PPS を使用するケースもある。

5.2.2.4 メールと電話の場面

中国人上級日本語学習者が戸惑っている点（戸惑い⑤：メールと電話でのあいさつの仕方）において、日本人学生と中国人留学生が、実際にどのようにあいさつをしているかを明らかにするため、場面 6（メールの場面）と場面 7（電話の場面）について日本人学生 130 人と中国人留学生 107 人に対して自由記述式調査を実施した。その結果をそれぞれ表 5.32、表 5.33、表 5.34、表 5.35 に示す。

表 5.32 場面 6（メールの場面）における日本人学生のあいさつ

あまり親しくない先生	「お世話になっております」(32)「こんにちは」(31)「おはようございます」(15)「お疲れ様です」(11)「お忙しいところ失礼します」(10)「お忙しいところ申し訳ありません」(6)「朝早くに失礼します」(1)「突然、(メールで)失礼します」(3)「突然申し訳ありません」(5)「失礼します」(1) 名乗る (1) 名前を呼ぶ (1)
親しいと思う先生	「(いつも)お世話になっております」(37)「こんにちは」(32)「おはようございます」(15)「お疲れ様です」(12)「朝早くに失礼します」(1)「すみません」(1)「お忙しいところ申し訳ありません」(5)「忙しいところ失礼します」(8)「突然(メールで)失礼します」(2)「突然申し訳ありません」(4) 名前を呼ぶ (1)
親友	「こんにちは」(5)「お疲れ様です」(2)「いつもお世話になっております」(1)「ごめんください」(1)「急にごめん」 ²⁸ (4)「ごめん」(2)「(お忙しいところ)悪いんだけど」(3)「おはよう」(19)「おはー」(2)「よっ・よう」(4)「お疲れ」(5)「お疲れ様」(2)「おつ」(1)「やあ」(1)「どうも」(3)「やっほー」(6)
あまり親しくない先輩	「おはようございます」(20)「こんにちは」(32)「お疲れ様です」(32)「お世話になっております」(13)「すみません」(3)「突然すみません」(6)「朝早くに失礼します」(1)「お忙しいところ申し訳ありません」(4)「お忙しいところ失礼します」(6)「突然失礼します」(2)「お久しぶりです」(2)「悪いんだけど」(1)「お世話様です」(1)「お疲れ様」(1)
親しいと思う先輩	「こんにちは」(31)「おはようございます」(18)「お疲れ様です」(33)「(いつも)お世話になっております」(11)「朝早くに失礼します」(1)「お忙しいところ失礼します」(6)「すみません」(3)「突然すみません」(3)「お忙しい中申し訳ありません」(2)「突然失礼します」(1)「お久しぶりです」(1)「お元気ですか」(1)「悪いんだけど」(1)「お世話様です」(1)「お疲れ様」(1)「お疲れ」(2)

(注：表の括弧内の数字は人数、網掛けの部分は NP 表現を意味する)

²⁸ 「ごめんください」のような表現は、敬語であると同時に相手の領域に踏み込んできたことへの謝罪でもある。「急にごめん」や「悪いんだけど」のような表現は敬語ではないが、相手の領域に踏み込んできたことへの謝罪である。いずれも NF への配慮であるため、NP 表現であると認定される。

表 5.33 場面 6 (メールの場面) における中国人留学生のあいさつ

あまり 親しく ない先 生	「こんにちは」(24)「おはようございます」(12)「お疲れ様です」(1)「(いつも) お世話になっております」(12)「お世話になります」(1)「(先生) ご無沙汰しております」(4)「(～) 先生、こんにちは」(7)「お忙しいところ恐れ入ります・申し訳ありません・失礼します・すみません」(20)「(いつも) お世話になっております」(25)「突然申し訳ございません」(2)「早朝メールして申し訳ありません」(1)
親しい と思う 先生	「こんにちは」(20)「(～) 先生、こんにちは」(6)「おはようございます」(12)「ご無沙汰しております」(1)「先生、お久しぶりです」(1)「お忙しいところ恐れ入ります・申し訳ありません・すみません・失礼します」(16)「(いつも) お世話になっております」(35)「お世話になります」(1)「お疲れ様です」(2)「ご無沙汰しております」(1)「突然申し訳ございません・失礼します」(2)「早朝メールして申し訳ありません」(1)
親友	「こんにちは」(31)「おはようございます」(3)「お忙しいところすみません」(2)「お久しぶり、元気ですか」(1)「お疲れ様です」(2)「(いつも) お世話になっております」(3)「最近元気ですか」(3)「早なのにごめんなさい」(1)「Hello・Hi」(3)「おはよう」(15)「元気？」(1)「お疲れ様」(1)
あまり 親しく ない先 輩	「こんにちは」(32)「～さん・先輩、こんにちは」(5)「お世話様です」(1)「おはようございます」(14)「早朝メールしてごめんなさい」(1)「お疲れ様です」(8)「お忙しいところすみません」(4)「(いつも) お世話になっております」(19)「突然申し訳ございません・失礼します」(2)「最近元気ですか」(1)「おはよう」(1)「Hi」(1)
親しい と思う 先輩	「こんにちは」(34)「～さん、こんにちは」(3)「最近元気ですか」(1)「おはようございます」(13)「早朝メールしてごめんなさい」(1)「お疲れ様です」(12)「お忙しいところすみません」(3)「(いつも) お世話になっております」(13)「お世話様です」(1)「おはよう」(4)「Hi」(2)

(注：表の括弧内の数字は人数、網掛けの部分は NP 表現を意味する)

表 5.34 場面 7 (電話の場面) における日本人学生のあいさつ

あまり 親しく ない先 生	「おはようございます」(33)「こんにちは」(29)「お疲れ様です」(5)「(いつも) お世話になっております」(16)「お忙しいところ申し訳ありません」(11)「お忙しいところ失礼します」(11)「失礼します・すみません」(2)「突然失礼します・すみません」(7)「恐れ入ります」(1)
親しい と思う 先生	「おはようございます」(34)「こんにちは」(29)「お疲れ様です」(7)「お世話になっております」(16)「お忙しい中すみません」(10)「お忙しい中失礼します」(11)「突然失礼します・すみません」(5)「恐れ入ります」(1)「すみません・失礼します」(2)「どうも」(1)
親友	「こんにちは」(9)「お疲れ様です」(1)「急にごめんね」(3)「お忙しいところごめんなさい」(5)「おはよう」(27)「よっ・よう」(7)「どうも」(4)「お疲れ」(3)「うす」(2)「おっす」(2)「ういっす」(1)「おつ」(1)「電話出てくれてありがとう」(1)「朝からごめんね」(1)「突然ごめん」(2)「ごめん」(1)「やあ」(1)「やっほ」(3)「おは」(1)「やあ」(1)
あまり 親しく ない先 輩	「おはようございます」(30)「こんにちは」(35)「お疲れ様です」(20)「お忙しいところすみません」(5)「(いつも) お世話になっております」(4)「お忙しいところ失礼します」(6)「失礼します」(2)「突然すみません」(7)「突然失礼します」(2)「電話に出入りいただきありがとうございます」(1)「すみません」(2)「～先輩」(2)
親しい と思う 先輩	「おはようございます」(30)「こんにちは」(32)「お疲れ様です」(22)「(いつも) お世話になっております」(3)「お忙しい中すみません」(4)「お忙しいところ失礼します」(4)「突然すみません・失礼します」(6)「電話に出入りいただきありがとうございます」(1)「すみません・失礼します」(3)「どうも」(2)「お疲れっす」(1)

(注：表の括弧内の数字は人数、網掛けの部分は NP 表現を意味する)

表 5.35 場面 7（電話の場面）における中国人留学生のあいさつ

あまり親しくない先生	「こんにちは」(26)「(～)先生、こんにちは」(11)「おはようございます」(14)「先生、おはようございます」(4)「お邪魔しましてすみません」(1)「すみませんが」(1)「今は忙しいですか」(1)「(いつも)お世話になっております」(3)「早朝お電話かけて申し訳ありません」(1)「突然、すみません・申し訳ありません」(8)「お忙しいところ失礼します・すみません」(15)「(いつも)お世話になっております」(7)「先生」(1)
親しいと思う先生	「こんにちは」(27)「(～)先生、こんにちは」(13)「おはようございます」(15)「先生、おはようございます」(4)「お邪魔しましてすみません」(1)「すみませんが」(1)「今は忙しいですか」(1)「早朝お電話かけて申し訳ありません」(1)「お忙しいところ失礼します・すみません・申し訳ございません」(10)「突然、すみません・申し訳ありません」(7)「(いつも)お世話になっております」(9)「先生」(1)
親友	「こんにちは」(33)「～さん、こんにちは」(2)「おはようございます」(2)「すみません」(2)「何をしているの」(1)「どうも」(1)「おはよう」(16)「Hi」(1)「～さん」(1)
あまり親しくない先輩	「こんにちは」(39)「先輩、こんにちは」(2)「～さん、こんにちは」(3)「おはようございます」(16)「先輩おはようございます」(1)「お疲れ様です」(1)「いきなり申し訳ございません」(1)「すみませんが」(1)「突然すみません」(2)「お忙しいところすみません」(4)「(いつも)お世話になっております」(1)「先輩」(1)「おはよう」(2)
親しいと思う先輩	「こんにちは」(38)「先輩、こんにちは」(2)「～さん、こんにちは」(3)「おはようございます」(14)「すみませんが」(1)「突然すみません」(2)「お忙しいところすみません」(4)「お疲れ様です」(1)「(いつも)お世話になっております」(1)「いきなりですけど」(1)「先輩おはよう」(1)「おはよう」(4)「Hi」(1)「今忙しい？」(1)先輩(1)

(注：表の括弧内の数字は人数、網掛けの部分は NP 表現を意味する)

表 5.32、表 5.33、表 5.34、表 5.35 が示しているデータからわかるように、メールと電話の場面においてあいさつをする場合、先生と先輩に対して、日本人学生も中国人留学生も PP 表現をほとんど使用していない。一方、親友に対しては、日本人学生が NP 表現をほとんど使用しないのに対して、中国人留学生は使用する傾向が比較的顕著である。

上述の傾向を分かりやすくするため、表 5.32 と表 5.35 が示している日本人学生と中国人留学生の親友に使用するあいさつ表現を NP 表現と PP 表現に分けて集計し、そのデータをそれぞれ表 5.36 に示す。

表 5.36 場面 6・7（メール・電話の場面）における親友に対するあいさつ

		日本人学生	中国人留学生
場面 6	NP 表現	18 例 (30%)	47 例 (71%)
	PP 表現	43 例 (70%)	19 例 (29%)
場面 7	NP 表現	18 例 (24%)	39 例 (66%)
	PP 表現	58 例 (76%)	20 例 (34%)

表 5.36 が示しているように、場面 6 と場面 7 において親友に対して、日本人学生が NP 表現を使用する例は、それぞれ 18 例 (30%) と 18 例 (24%) にとどまっている。それに

対して、同様の状況で、中国人留学生が NP 表現を使用する例は、それぞれ 47 例 (71%) と 39 例 (66%) に達している。前掲の表 5.18 における基準に従いまとめると、場面 6 と場面 7 においてあいさつをする場合、日本人学生に比べると、中国人留学生が親友に PPS より PPS+NPS を使用する傾向がより顕著であるといえる。

以上のように、日本人学生と比較することを通して、中国人留学生のあいさつ使用に関する全体的な傾向（特徴）を検討した。あいさつをする場合、場面 1、場面 2、場面 4（出会いの場面）および場面 3 と場面 5（別れの場面）においては、日本人学生が親友に PPS を使用する傾向があるのに対して、中国人留学生は親友に PPS+NPS を使用するケースもある。また、場面 3 と場面 5（別れの場面）においては日本人学生が親しいか親しくないかにかかわらず先輩には PPS+NPS を使用する傾向が顕著であるのに対して、同様の状況において中国人留学生が先輩には PPS+NPS も使用するが、PPS を使用するケースもある。また、場面 6（メール）と場面 7（電話）においてあいさつをする場合、上位者に対しては、中国人留学生は日本人学生とほぼ同様の傾向を示しているものの、親友に対しては、中国人留学生は PPS より PPS+NPS を使用する傾向がより顕著である。

5.2.3 あいさつの場面・対人関係による使用制限

以上のように、場面 1 から場面 7 においてあいさつをするか、あいさつをする場合にはどのようにあいさつをするかどうかについて、日本人学生と比較することを通して、中国人留学生のあいさつ使用に関する全体的な特徴を明らかにした。あいさつをするかどうかについて、出会いの場面においてあまり親しくない先生にあいさつをする場合、日本人学生が NF に対する配慮を優先する傾向があるのに対して、中国人留学生が PF に対する配慮を優先する傾向が顕著である。あいさつをする場合どのようなポライトネス・ストラテジーを用いるかについて、いずれの場面においても、親友にあいさつをする場合、日本人学生が PPS を使用する傾向が顕著であるのに対して、中国人留学生が PPS だけではなく、PPS+NPS を使用する傾向も比較的顕著である。また、出会いの場面と別れの場面においては、日本人学生は上位者に PPS+NPS を使用する傾向が顕著であるのに対して、中国人留学生が PPS+NPS だけではなく、PPS を使用する傾向も比較的顕著であるといえる。

以上、日本人学生と中国人留学生のあいさつ使用に関する全体的な使用傾向が明らかになったが、個別のあいさつ表現使用の特徴がまだ明らかになっていない。たとえば、あいさつ表現「おはよう（～）」の使用にはどのような特徴があるのか、あいさつ表現「こんにちは」との間にどのような使い分けがあるのかなどの問題がまだ解決されていない。前章で述べた中国人上級日本語学習者のあいさつ使用に関する困難点には、「おはよう（～）」と「こんにちは」の使い分け、「さようなら」の用法、「お疲れ（～）」の用法などの具体的な困難点が含まれている。これらの具体的な困難点が、中国人留学生が実際にあいさつをする際生ずるかどうかを明らかにするため、あいさつの使用に関する全体的な傾向だけで

はなく、日本人学生と中国人留学生における個別のあいさつ表現使用の特徴を検討する必要もあると考えられる。また、「上位者に対してどのようにあいさつをすべきかわからないことがある」という困難点も現れた。そこで、本節では、対人関係による違いの視点から、自由記述式調査から得たデータを用い日本人学生と比較することによって中国人留学生における対人関係による違いの特徴、すなわち問題点を明らかにする。

あいさつの場面・対人関係による使用制限とは、話し手があいさつを行うときに場面や相手との関係（「上下」、「親疎」）を考慮しながらあいさつをしなければならないということである。ト（1990:148）によると、あいさつ表現はある一定の制約のもとで行われ、その表出される条件、すなわち固定的、臨時的条件の取捨によって形が変わっている。あいさつ表現は、あいさつをする人が相手との関係をどうとらえているかで決まり、対人関係の距離感を敏感に反映すると考えられる。上下関係においては、上位者に使用するあいさつは下位者と同等者に対して必ずしも使用しなければならないわけではない。また、下位者と同等者に使用するあいさつは上位者に対して必ずしも使用できないわけではない。親疎関係においては、ウチの人に使用するあいさつはソトの人には必ずしも使用できない。また、ソトの人に使用するあいさつはウチの人には場合によって使用する必要がない。

5.2.3.1 「おはよう（～）」

5.2.3.1.1 その日初めて出会った場面

あいさつ表現「おはよう（～）」は、日本社会において誰でも使用する機会が多い。しかし、日本人学生と中国人留学生における「おはよう（～）」の使用は、対人関係による違いの差異が顕著である。

表 5.37 が示しているように、場面 1（午前 11 時頃、大学の廊下でその日初めて以下の人に出会ってあいさつしますか。あいさつをする場合、どのようにあいさつをしますか）において、あまり親しくない先生と先輩に対して、「おはよう（～）」とあいさつする日本人学生は少ないが、そのようにあいさつをする中国人留学生が多い。あまり親しくない先生と先輩に「おはようございます」とあいさつする日本人学生はそれぞれ 17 人（13%）と 26 人（20%）にすぎない。それに対して、あまり親しくない先生と先輩に「おはようございます」とあいさつする中国人学生は、それぞれ 48 人（45%）と 49 人（46%）に上っている。

表 5.37 場面 1 (11 時頃に会った場面) における「おはよう (～)」²⁹

調査対象 対人関係	中国人留学生		日本人学生		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	107 人中	割合	130 人中	割合		
あまり親しくない先生	48	45%	17	13%	47.23**	31.08**
親しいと思う先生	55	51%	52	40%		3.09*
親友	43	40%	56	43%		0.20ns
あまり親しくない先輩	49	46%	26	20%		18.35**
親しいと思う先輩	59	55%	37	28%		17.64**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

角変換法による相手別と母語話者別の分散分析を行った結果、場面 1 のデータにおいて母語話者別の主効果が有意であった。そこで、下位検定として単純主効果検定を行い、上記の表 5.37 が示しているように、場面 1 において親しいか親しくないかに関わらず先生と先輩が対象である場合中国人留学生と日本人学生の間有意差があることを確認した。

上記の結果になったのは、場面 1 において先生と先輩にあいさつをしない日本人学生は、中国人留学生より多いことによると考えられる。前掲の表 5.4 が示しているとおり、あまり親しくない先生と先輩にあいさつをしない中国人留学生は、それぞれ 2 人 (2%) と 0 人 (0%) にすぎない。これに対して、あまり親しくない先生と先輩にあいさつをしない日本人学生は、それぞれ 77 人 (59%) と 21 人 (16%) に及んでいる。要するに、中国人留学生に比べると日本人学生は、あまり親しくない先生と先輩にあいさつをしない者が多いため、同じ対象に「おはようございます」とあいさつをしない者が多いのも当然のことである。

表 5.38 場面 2 (12 時半頃に会った場面) における「おはよう (～)」

調査対象 対人関係	中国人留学生		日本人学生		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	107 人中	割合	130 人中	割合		
あまり親しくない先生	13	13%	1	0.8%	6.67**	16.88**
親しいと思う先生	12	12%	8	6%		1.93ns
親友	12	12%	33	25%		8.17**
あまり親しくない先輩	12	12%	5	4%		4.87*
親しいと思う先輩	12	12%	10	8%		0.86ns

(** $p < .01$, * $p < .05$)

一方、表 5.38 が示しているように、場面 2 (平日お昼の 12 時半頃キャンパスで、食堂に向かう途中、その日初めて以下の人に出会ってあいさつをしますか。あいさつをする場

²⁹ 表 5.37 におけるデータは、それぞれ上記の表 5.11 と表 5.12 から「おはよう (～)」だけを抜き出したものであり、表 5.38 におけるデータは、それぞれ上記の表 5.13 と表 5.14 から「おはよう (～)」だけを抜き出したものである (以下同様)。

合、どのようにあいさつをしますか) において、親友に「おはよう」とあいさつする日本人学生は、中国人留学生より多い。表 5.38 からわかるように、場面 2 において、親友に「おはよう」とあいさつする中国人留学生はわずか 12 人 (12%) にとどまっているのに対して、そのようにあいさつをする日本人学生は 33 人 (25%) に達している。角変換法による相手別と母語話者別の分散分析を行った結果、場面 2 のデータにおいて母語話者別の主効果が有意であった。そこで、下位検定として単純主効果検定を行い、上記の表 5.38 が示しているように、場面 2 においてあまり親しくない先生、親友、あまり親しくない先輩が対象である場合中国人留学生と日本人学生の間に有意差があることを確認した。

上記の表 5.38 からわかるように、日本人学生は、出会いの場面で親友に対して、午前中だけではなく、午後でも「おはよう」を多く使用している。それに対して、中国人留学生は、親友に対して、午前中は日本人学生と同じように「おはよう」を使用しているものの、午後になるとほとんど使用していない。

5.2.3.1.2 その日 2 回以上出会った場面

以上のように、あいさつ表現「おはよう (～)」の使用について、その日初めて出会った場面において親友には、日本人学生は午前中だけではなく、午後の時間においても比較的多く使用しているのに対して、中国人留学生は、午前中の時間に日本人学生と同様の使用傾向を示しているが、午後の時間になるとほとんど使用していない。しかし、場面 4 (その日 2 回以上出会った場面) においては、あいさつ表現「おはよう (～)」におけるこのような対人関係による違いが双方に見られる。

表 5.39 場面 4 (その日 2 回以上出会った場面) における「おはよう (～)」

調査対象 対人関係	中国人留学生		日本人学生		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	107 人中	割合	130 人中	割合		
あまり親しくない先生	2	2%	1	1%	0.01ns	
親しいと思う先生	2	2%	3	2%		
親友	1	1%	4	3%		
あまり親しくない先輩	2	2%	3	2%		
親しいと思う先輩	2	2%	1	1%		

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 5.39 が示しているように、場面 4 (その日 2 回以上出会った場面) において中国人留学生も日本人学生も、誰に対してもほぼ「おはよう (～)」を使用していない。角変換法による相手別と母語話者別の分散分析を行った結果、場面 4 のデータにおいて母語話者別の主効果が有意ではなかった。要するに、あいさつ表現「おはよう (～)」の対人関係による違いについて、場面 4 において中国人留学生は日本人学生とほぼ同様の使用傾向を示している。

5.2.3.1.3 メールと電話の場面

中国人留学生と日本人学生におけるあいさつ表現「おはよう（～）」の対人関係による違いの差異がないということは、場面 4 だけではなく、場面 6（メールの場面）と場面 7（電話の場面）においても見られる。

表 5.40 場面 6（メールの場面）における「おはよう（～）」

調査対象 対人関係	中国人留学生		日本人学生		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	107 人中	割合	130 人中	割合		
あまり親しくない先生	12	11%	15	12%	0.04ns	
親しいと思う先生	12	11%	15	12%		
親友	18	17%	19	15%		
あまり親しくない先輩	15	14%	20	15%		
親しいと思う先輩	17	16%	18	14%		

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 5.41 場面 7（電話の場面）における「おはよう（～）」

調査対象 対人関係	中国人留学生		日本人学生		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	107 人中	割合	130 人中	割合		
あまり親しくない先生	18	17%	33	25%	7.14**	2.61ns
親しいと思う先生	19	18%	34	26%		2.43ns
親友	18	17%	27	21%		0.60ns
あまり親しくない先輩	19	18%	30	23%		1.03ns
親しいと思う先輩	19	18%	30	23%		1.03ns

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 5.40 と表 5.41 が示しているように、場面 6 において、中国人留学生と日本人学生は、「おはよう（～）」を使用する割合はともに 15% 前後で、場面 7 において、中国人留学生と日本人学生が、「おはよう（～）」を使用した割合はそれぞれ 18% と 25% である。角変換法による相手別と母語話者別の分散分析を行った結果、場面 6 のデータにおいては母語話者別の主効果が有意ではなかった。場面 7 のデータにおいては母語話者別の主効果が有意であったが、下位検定として単純主効果検定を行った結果、上記の表 5.41 が示しているように、場面 7 において中国人留学生と日本人学生の間に有意差がなかった。要するに、あいさつ表現「おはよう（～）」の対人関係による違いについて見ると、場面 6 と場面 7 においても中国人留学生は、日本人学生とほぼ同様の使用傾向を示している。

以上、あいさつ表現「おはよう（～）」の対人関係による違い、特に日本人学生と中国人留学生における「おはよう（～）」の対人関係による違いの異同を検討した。その結果、親友にあいさつをする場合、場面 1、場面 4、場面 6、場面 7 においては、中国人留学生と日本人学生とほぼ同様の使用傾向を示しているが、場面 2 においては、日本人学生が親友

に「おはよう（～）」を比較的使用しているのに対して、中国人留学生が同様の状況でほとんど使用していないことがわかった。

5.2.3.2 「こんにちは」

日本人学生と中国人留学生におけるあいさつの使用に関する対人関係による使用制限の差異は、「おはよう（～）」だけではなく、「こんにちは」の使用にも見られる。

5.2.3.2.1 出会う場面

表 5.42 が示しているように、場面 1 においてあまり親しくない先生と先輩に対して「こんにちは」を使用する日本人学生は、それぞれ 16 人（12%）と 31 人（24%）である。それに対して、同一の場面において同一の対人関係で「こんにちは」を使用する中国人留学生は、それぞれ 54 人（50%）と 44 人（41%）に上っている。

表 5.42 場面 1（11 時頃に出会った場面）における「こんにちは」

調査対象 対人関係	中国人留学生		日本人学生		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	107 人中	割合	130 人中	割合		
あまり親しくない先生	54	50%	16	12%	57.26**	43.72**
親しいと思う先生	53	50%	54	42%		1.52ns
親友	26	24%	3	2%		30.92**
あまり親しくない先輩	44	41%	31	24%		8.12**
親しいと思う先輩	39	36%	42	32%		0.45ns

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 5.43 場面 2（12 時半頃に出会った場面）における「こんにちは」

調査対象 対人関係	中国人留学生		日本人学生		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	107 人中	割合	130 人中	割合		
あまり親しくない先生	81	76%	26	20%	123.67**	82.16**
親しいと思う先生	83	78%	93	72%		1.13ns
親友	46	43%	5	4%		62.89**
あまり親しくない先輩	74	69%	44	34%		30.60**
親しいと思う先輩	64	60%	67	52%		1.63ns

(** $p < .01$, * $p < .05$)

また、表 5.43 が示しているとおり、場面 2 においてあまり親しくない先生と先輩に対して「こんにちは」を使用する日本人学生は、それぞれ 26 人（20%）と 44 人（34%）であるのに対して、同様の状況で「こんにちは」を使用する中国人留学生はそれぞれ 81 人（76%）と 74 人（69%）に及んでいる。

角変換法による相手別と母語話者別の分散分析を行った結果、場面 1 と場面 2 とともに母

語話者別の主効果が有意であった。そこで、下位検定として単純主効果検定を行い、上記の表 5.42 と表 5.43 が示しているように、場面 1 と場面 2 においてあまり親しくない先生と先輩が対象である場合中国人留学生と日本人学生の上に有意差があることを確認した。要するに、場面 1 と場面 2 において、中国人留学生は日本人学生より、あまり親しくない先生と先輩に対して「こんにちは」を多く使用している。

上述の結果になったのは、場面 1 と場面 2 においてあまり親しくない先生と先輩に対してあいさつをしない日本人学生が多いことによると考えられる。前掲の表 5.4 と表 5.5 が示しているように、場面 1 において、あまり親しくない先生と先輩にあいさつをしない中国人留学生はほとんどいないのに対して、日本人学生は、それぞれ 77 人 (59%) と 21 人 (16%) に達している。また、場面 2 において、あまり親しくない先生と先輩にあいさつをしない中国人留学生もほとんどいないのに対して、日本人学生は、それぞれ 84 人 (65%) と 23 人 (18%) に上っている。要するに、場面 1 と場面 2 において、あまり親しくない先生と先輩にあいさつをしない日本人学生が、中国人留学生に比べると相当数いるため、「こんにちは」を使用しない日本人学生も比較的多くなるのである。

場面 1 と場面 2 において、中国人留学生と日本人学生におけるあいさつ表現「こんにちは」の使用に関する対人関係による違いの差異は、あまり親しくない先生と先輩に限らず親友を対象としたデータにも見られる。上記の表 5.42 と表 5.43 が示しているように、場面 1 と場面 2 において親友に「こんにちは」を使用する日本人学生はほとんどいない（場面 1 は 3 人 (2%)、場面 2 は 5 人 (4%) である）のに対して、親友に「こんにちは」を使用する中国人留学生はそれぞれ 26 人 (24%) と 46 人 (43%) である。

上記のように、表 5.42 における母語話者別の主効果 ($\chi^2(1) = 57.261$) と表 5.43 における母語話者別の主効果 ($\chi^2(1) = 123.667$) が有意であった。そこで、下位検定として単純主効果検定を行った結果、表 5.42 と表 5.43 が示しているように、場面 1 と場面 2 において親友が対象である場合中国人留学生と日本人学生の上に有意差があることを確認した。

以上から、その日初めて出会った場面において親友に対してあいさつをする場合、日本人学生が「こんにちは」をほとんど使用しないのに対して、中国人留学生が比較的多く使用していることが明らかになった。あいさつ表現「こんにちは」におけるこの使用傾向は、場面 1 と場面 2 に限らず、場面 4（その日 2 回以上出会った場面）においても窺える。

表 5.44 が示しているように、場面 4（その日の午前中初めて以下の人に出会った時にもうあいさつした。お昼の 12 時半頃、校内の道で再び以下の人に出会った場合、あいさつをしますか。あいさつをする場合、どのようにあいさつをしますか）において、親友に対して「こんにちは」を使用する日本人学生はわずか 4 人 (3%) にすぎないのに対して、親友に対しても「こんにちは」を使用する中国人留学生は 35 人 (33%) に及んでいる。

表 5.44 場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における「こんにちは」

調査対象 対人関係	中国人留学生		日本人学生		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	107 人中	割合	130 人中	割合		
あまり親しくない先生	72	67%	27	21%	160.53**	56.06**
親しいと思う先生	72	67%	43	33%		28.61**
親友	35	33%	4	3%		43.91**
あまり親しくない先輩	58	54%	28	22%		27.9**
親しいと思う先輩	51	49%	33	25%		12.85**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

角変換法による相手別と母語話者別の分散分析を行った結果、場面 4 のデータにおいて母語話者別の主効果が有意であった。そこで、下位検定として単純主効果検定を行い、上記の表 5.44 が示しているように、場面 4 においてあいさつをする場合相手が誰かに関わらず中国人留学生と日本人学生の上に有意差があることを確認した。

5.2.3.2.2 メールと電話の場面

日本人学生と中国人留学生におけるあいさつ表現「こんにちは」使用の対人関係による違い、すなわち日本人学生が親友にほとんど使用しないのに対して中国人留学生が比較的多く使用するという使用傾向については、出会うの場面（場面 1、場面 2、場面 4）に限らず、メールと電話の場面（場面 6 と場面 7）においても窺える。

表 5.45 が示しているとおり、場面 6（メールの場面）において、親友宛てのメールに「こんにちは」と書くのは、日本人学生は 5 人（4%）しかいないのに対し、中国人留学生は 31 人（29%）に達している。

表 5.45 場面 6（メールの場面）における「こんにちは」

調査対象 対人関係	中国人留学生		日本人学生		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	107 人中	割合	130 人中	割合		
あまり親しくない先生	31	29%	31	24%	20.04**	0.79ns
親しいと思う先生	26	24%	32	25%		0.003ns
親友	31	29%	5	4%		32.30**
あまり親しくない先輩	37	35%	32	25%		2.81*
親しいと思う先輩	37	35%	31	24%		3.30*

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 5.46 場面 7（電話の場面）における「こんにちは」

調査対象 対人関係	中国人留学生		日本人学生		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	107 人中	割合	130 人中	割合		
あまり親しくない先生	37	35%	29	22%	43.56**	4.39*
親しいと思う先生	40	37%	29	22%		6.46**
親友	35	33%	9	7%		27.55**
あまり親しくない先輩	44	41%	35	27%		5.32*
親しいと思う先輩	43	40%	32	25%		6.58**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

また、表 5.46 が示しているように、場面 7（電話の場面）において、親友に「こんにちは」を使用するのは、日本人学生は 9 人（7%）のみであるのに対して、中国人留学生は、35 人（33%）に上っている。

角変換法による相手別と母語話者別の分散分析を行った結果、場面 6 と場面 7 のいずれのデータにおいても母語話者別の主効果が有意であった。そこで、下位検定として単純主効果検定を行い、上記の表 5.45 と表 5.46 が示しているように、場面 6 において親友と先輩、場面 7 において先生、親友、先輩が対象である場合、中国人留学生と日本人学生の間に有意差があることを確認した。

以上の考察からわかるように、中国人留学生における親友に対する「こんにちは」の使用に関する特徴は、その日初めて出会った場面に限らず、1 日に 2 回以上出会った場面およびメールと電話の場面からも窺える。要するに、日本人学生に比べると、いずれの場面においても、中国人留学生は、親友に対して NP 表現「こんにちは」を使用する傾向が比較的顕著である。

5.2.3.3 「さようなら」

日本人学生と中国人留学生のあいさつ使用に関する相違点は、あいさつ表現「おはよう（～）」と「こんにちは」に限らず、「さようなら」においても窺える。

表 5.47 が示しているように、場面 3（偶然出会って別れる場面）において、日本人学生は親友に対してあいさつ表現「さようなら」をほとんど使用していないものの、先生と先輩に対してはある程度多く使用しているといえる。たとえば、場面 3 において親友に「さようなら」を使用する日本人学生は 2 人（2%）しかいないが、先生と先輩に「さようなら」を使用する者がそれぞれ 3 割以上と 5 割以上に及んでいる。一方、中国人留学生の場合、場面 3 において親しいか親しくないかにかかわらず誰に対しても「さようなら」をほとんど使用していない。表 5.47 が示しているとおり、場面 3 において、親友とあまり親しくない先生に「さようなら」を使用する中国人留学生はそれぞれ 1 人（1%）と 3 人（3%）しかいない。

表 5.47 場面 3（偶然出会って別れる場面）における「さようなら」

調査対象 対人関係	中国人留学生		日本人学生		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	107 人中	割合	130 人中	割合		
あまり親しくない先生	8	7%	57	44%	111.55**	46.84**
親しいと思う先生	8	7%	56	43%		45.22**
親友	1	1%	2	2%		0.18ns
あまり親しくない先輩	8	7%	35	27%		12.93**
親しいと思う先輩	3	3%	33	25%		30.38**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

角変換法による相手別と母語話者別の分散分析を行った結果、場面 3 のデータにおいて母語話者別の主効果が有意であった。そこで、下位検定として単純主効果検定を行い、上記の表 5.47 が示しているように、場面 3 において先生と先輩が対象である場合中国人留学生と日本人学生の間に有意差があることを確認した。要するに、場面 3 において、中国人留学生は日本人学生がある程度先生と先輩に対して使用するあいさつ表現「さようなら」を誰に対してもほとんど使用しない。

中国人留学生があいさつ表現「さようなら」を誰に対してもほとんど使用しないという使用傾向は、場面 3 に限らず、場面 5（共同作業をした後別れる場面）におけるあいさつの使用状況から見られる。

表 5.48 場面 5（共同作業をした後別れる場面）における「さようなら」

調査対象 対人関係	中国人留学生		日本人学生		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	107 人中	割合	130 人中	割合		
あまり親しくない先生	3	3%	10	8%	8.60**	2.99*
親しいと思う先生	3	3%	8	6%		1.60ns
親友	0	0%	0	0%		0ns
あまり親しくない先輩	5	5%	6	5%		0.0004ns
親しいと思う先輩	0	0%	7	5%		12.87**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 5.48 が示しているように、上述の場面 3 と同じように場面 5 においても、中国人留学生は誰に対してもあいさつ表現「さようなら」をほとんど使用しない。日本人学生は場面 5 においては、中国人留学生とほぼ同様の使用傾向を示している。ただし、角変換法による相手別と母語話者別の分散分析を行った結果、場面 5 のデータにおいて母語話者別の主効果が有意であった。そこで、下位検定として単純主効果検定を行った結果、上記の表 5.48 が示しているように、場面 5 においてあまり親しくない先生と親しいと思う先輩が対象である場合中国人留学生と日本人学生の間に有意差があることを確認した。

上記の結果になったのは、日本人学生における場面によるポライトネスの表し方の違いによるものであると考えられる。場面 3（偶然出会って別れる場面）において別れる場合、ねぎらいのあいさつ「お疲れ（～）」よりねぎらいの意味合いがない別れのあいさつ「さよ

うなら」を使用したほうが適切である。一方、場面 5（共同作業をした後別れる場面）においては、別れる場合、ねぎらいの意味合いがない「さようなら」より、ねぎらいの意味合いがある「お疲れ（～）」を使用したほうが自然である。このように考えれば、日本人学生が、場面 3 において先生と先輩に対して比較的「さようなら」を多用することの説明がつく。

以上、中国人留学生と日本人学生における別れのあいさつ「さようなら」の使用状況を見てきた。そこには、中国人留学生のあいさつ使用に関する特徴が窺える。すなわち、中国人留学生は、別れの場面において、「さようなら」を誰に対してもほとんど使用しない。

5.2.3.4 「お疲れ（～）」

日本人学生と中国人留学生のあいさつ使用に関する相違点は、「おはよう（～）」「こんにちは」「さようなら」に限らず、「お疲れ（～）」からも窺える。

「お疲れ（～）」は、「おはよう（～）」、「こんにちは」、「さようなら」と違って、出会いのあいさつであると同時に別れのあいさつでもある。また、「お疲れ（～）」をねぎらいのあいさつとして使用しても差し支えない。これについては、登田（2004:4）と倉持（2008a・2008b）でも指摘されている。つまり、「お疲れ（～）」には、「出会い」、「別れ」、「ねぎらい」という三つの機能がある。「お疲れ（～）」をどの機能で使用しているかを考察する場合、具体的な場面を合わせて判断する必要があると考えられる。

5.2.3.4.1 出会いの場面

表 5.49 が示しているように、場面 1（午前 11 頃に出会った場面）において、あまり親しくない先輩と親しいと思う先輩に「お疲れ（～）」を使用する日本人学生は、それぞれ 29 人（22%）と 36 人（28%）であるのに対して、同じように使用する中国人留学生はわずか 5 人（5%）と 4 人（4%）にすぎない。

表 5.49 場面 1（11 時頃に出会った場面）における「お疲れ（～）」

調査対象 対人関係	中国人留学生		日本人学生		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	107 人中	割合	130 人中	割合		
あまり親しくない先生	1	1%	3	2%	38.81**	0.73ns
親しいと思う先生	1	1%	7	5%		4.43*
親友	6	6%	13	10%		1.60ns
あまり親しくない先輩	5	5%	29	22%		17.62**
親しいと思う先輩	4	4%	36	28%		30.35**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

角変換法による相手別と母語話者別の分散分析を行った結果、場面 1 のデータにおいて母語話者別の主効果が有意であった。そこで、下位検定として単純主効果検定を行った結果、

表 5.49 が示しているように、場面 1 において先輩と親しいと思う先生が対象である場合中国人留学生と日本人学生の間に有意差があることを確認した。要するに、場面 1 において、日本人学生は、先輩と親しいと思う先生に「お疲れ（～）」をある程度多く使用するのに対して、中国人留学生は先輩と親しいと思う先生にそれをほとんど使用しない。

日本人学生に比べると、中国人留学生が先輩に対して「お疲れ（～）」をほとんど使用しないという使用傾向は、場面 2（12 時半頃に出会った場合）と場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における「お疲れ（～）」の使用状況からも見られる。場面 2 のデータにおいて母語話者別の主効果が有意であった。そこで、下位検定として単純主効果検定を行い、場面 2 において親友と先輩に「お疲れ（～）」を使用する日本人学生と中国人留学生の間に有意差があることを確認した。一方、場面 4 のデータにおいて母語話者別の主効果が有意ではなかった。

表 5.50 場面 2（12 時半頃に出会った場面）における「お疲れ（～）」

調査対象 対人関係	中国人留学生		日本人学生		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	107 人中	割合	130 人中	割合		
あまり親しくない先生	5	5%	3	2%	19.56**	1.00ns
親しいと思う先生	4	4%	11	8%		2.37ns
親友	8	7%	19	15%		3.12*
あまり親しくない先輩	10	9%	34	26%		12.00**
親しいと思う先輩	10	9%	39	30%		16.98**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 5.51 場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における「お疲れ（～）」

調査対象 対人関係	中国人留学生		日本人学生		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	107 人中	割合	130 人中	割合		
あまり親しくない先生	12	11%	6	5%	0.88ns	
親しいと思う先生	12	11%	14	11%		
親友	11	10%	18	14%		
あまり親しくない先輩	17	16%	25	19%		
親しいと思う先輩	15	14%	36	28%		

(** $p < .01$, * $p < .05$)

以上、出会いの場面において、中国人留学生と日本人学生における「お疲れ（～）」の使用に関する相違点を考察した。その結果、場面 1、場面 2 において、親しいか親しくないかにかかわらず先輩にあいさつをする場合、中国人留学生より、日本人学生が「お疲れ（～）」を多く使用する傾向が顕著であることがわかった。しかし、別れの場面においてはそのような相違点が見られない。

5.2.3.4.2 別れの場面

別れの場面においてあいさつをする場合、中国人留学生と日本人学生における「お疲れ（～）」使用の対人関係による違いの差異が見られない。表 5.52 と表 5.53 が示しているように、場面 3（偶然出会って別れる場面）と場面 5（共同作業をした後別れる場面）において、日本人学生と中国人留学生は、両者とも「お疲れ（～）」を比較的多く使用する。ただし、場面 3 においてあいさつをする場合、親友と比べると、日本人学生は先生と先輩に「お疲れ（～）」をやや多く使用する傾向がある。中国人留学生も同様の傾向を示している。

角変換法による相手別と母語話者別の分散分析を行った結果、場面 3 と場面 5 のいずれのデータにおいても母語話者別の主効果が有意ではなかった。要するに、場面 3 と場面 5 において相手が誰かにかかわらず、「お疲れ（～）」を使用する日本人学生と中国人留学生の間に、顕著な差異は見られない。

表 5.52 場面 3（偶然出会って別れる場面）における「お疲れ（～）」

調査対象 対人関係	中国人留学生		日本人学生		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	107 人中	割合	130 人中	割合		
あまり親しくない先生	48	45%	38	29%	1.28ns	
親しいと思う先生	48	45%	42	32%		
親友	35	33%	24	18%		
あまり親しくない先輩	57	53%	83	64%		
親しいと思う先輩	48	45%	82	63%		

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 5.53 場面 5（共同作業をした後別れる場面）における「お疲れ（～）」

調査対象 対人関係	中国人留学生		日本人学生		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	107 人中	割合	130 人中	割合		
あまり親しくない先生	83	78%	90	69%	0.05ns	
親しいと思う先生	82	77%	106	82%		
親友	93	87%	112	86%		
あまり親しくない先輩	94	88%	111	85%		
親しいと思う先輩	93	87%	117	90%		

(** $p < .01$, * $p < .05$)

上記の結果からわかるように、「お疲れ（～）」の使用について、別れの場面 3 と場面 5 においては、中国人留学生は、日本人学生とほぼ同様の傾向を示している。これは、場面 3 においても場面 5 においても「相手が疲れた可能性が高い」ということを推測できることに関わっていると考えられる。場面 3 は、1 日の仕事あるいは勉強が終わって帰るときに、ちょうど帰ろうと思っている相手に出会って、一緒に大学の出口まで行って別れる場面である。この場合、2 人（話し手と聞き手）とも 1 日の仕事あるいは勉強をしていたため、既に疲れている可能性が高くて、相互ねぎらう気持ちを持ちながらあいさつをしてい

るのではないかと考えられる。また、場面 5 は、相手と一緒にボランティアとして、イベント会場を片付けた後別れる場合である。この場合、話し手と聞き手は、同じ時間帯に同じ場所で共同作業をした経験があるため、互いにねぎらうのが当然であると考えられる。

5.2.3.4.3 メールと電話の場面

以上、中国人留学生における出会いと別れの場面での「お疲れ（～）」の使用に関する特徴を考察した。その結果、「お疲れ（～）」の使用について、中国人留学生は、別れの場面においては、日本人学生とほぼ同様の傾向を示しているが、出会いの場面においては、誰に対してもほとんど使用しないことがわかった。この使用傾向は、対面の場面に限らず、場面 6（メールの場面）と場面 7（電話の場面）からも窺える。

表 5.54 場面 6（メールの場面）における「お疲れ（～）」

調査対象 対人関係	中国人留学生		日本人学生		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	107 人中	割合	130 人中	割合		
あまり親しくない先生	1	1%	11	8%	40.74**	9.23**
親しいと思う先生	2	2%	12	9%		6.91**
親友	3	3%	9	7%		2.25ns
あまり親しくない先輩	8	7%	33	25%		14.79**
親しいと思う先輩	12	11%	36	28%		10.62**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 5.55 場面 7（電話の場面）における「お疲れ（～）」

調査対象 対人関係	中国人留学生		日本人学生		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	107 人中	割合	130 人中	割合		
あまり親しくない先生	1	1%	5	4%	39.78**	2.37ns
親しいと思う先生	2	2%	7	5%		2.21ns
親友	1	1%	4	3%		1.48ns
あまり親しくない先輩	1	1%	20	15%		22.01**
親しいと思う先輩	1	1%	23	18%		26.70**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 5.54 と表 5.55 が示しているように、場面 6 と場面 7 において、日本人学生は先生と親友に「お疲れ（～）」をほとんど使用しないが、先輩に対して比較的多く使用する。それに対して、中国人留学生は誰に対してもほとんど使用しない。表 5.54 が示しているとおり、場面 6 において、先生と親友に「お疲れ（～）」を使用する日本人学生は 1 割弱であるが、先輩が対象である場合、「お疲れ（～）」を使用する日本人学生は 25%以上に上っている。それに対して、先輩に対して「お疲れ（～）」を使用する中国人留学生はわずか 1 割程度に過ぎない。また、表 5.55 が示しているように、場面 7 において、先生と親友に「お疲れ（～）」を使用する日本人学生は 5%弱であるが、先輩が対象である場合、「お疲れ（～）」を使用する日本人学生は 15%以上に及んでいる。それに対して、中国人留学生は誰に対してもほ

とんど使用しない。角変換法による相手別と母語話者別の分散分析を行った結果、場面 6 と場面 7 のいずれのデータにおいても母語話者別の主効果が有意であった。そこで下位検定として単純主効果検定を行った結果、上記の表 5.54 が示しているように、場面 6 において親しいか親しくないかにかかわらず先生と先輩が対象である場合中国人留学生と日本人学生間に有意差があることを確認した。また、表 5.55 が示しているように、場面 7 において親しいか親しくないかにかかわらず先輩が対象である場合中国人留学生と日本人学生間に有意差があることを確認した。

5.2.3.5 会釈・お辞儀

以上、日本人学生と比較することを通して、中国人留学生における言葉による「おはよう（～）」、「こんにちは」、「さようなら」、「お疲れ（～）」の使用の対人関係による違いの特徴を考察してきた。あいさつ表現の使用における対人関係による違いは、言葉によるあいさつに限らず、会釈やお辞儀のような非言語行動によるあいさつからも窺える。ここでは、日本人学生と比較することによって、中国人留学生における[会釈・お辞儀]行動の対人関係による違いの特徴を明らかにする。ただし、中国人留学生および日中大学生と日中社会人に対する自由記述式調査を行った際、口頭で「あいさつは言葉によるものだけではなく、非言語行動によるものもある」というふうに断っておいたが、回答してもらった時、実際には[会釈・お辞儀]をしているが、調査票にそれを記入しなかったインフォーマントがいる可能性は無視できない。そのため、ここおよび 6.2.3.5、7.2.1.5、8.2.3.5、9.2.3.5 での考察にはある程度限界があると考えられる。

5.2.3.5.1 出会いの場面

出会いの場面において [会釈・お辞儀]を使用する日本人学生は比較的多いものに対して、同様の状況で [会釈・お辞儀]をする中国人留学生は相対的に少ない。表 5.56 が示しているように、場面 1（11 時頃に会った場面）においてあまり親しくない先輩に[会釈・お辞儀]をする日本人学生は 27 人（21%）に達しているのに対して、同様の状況であまり親しくない先輩に[会釈・お辞儀]をする中国人留学生はわずか 7 人（7%）にすぎない。

表 5.56 場面 1（11 時頃に会った場面）における[会釈・お辞儀]

調査対象 対人関係	中国人留学生		日本人学生		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	107 人中	割合	130 人中	割合		
あまり親しくない先生	9	8%	21	16%	6.63**	3.34*
親しいと思う先生	7	7%	14	11%		1.35ns
親友	1	1%	0	0%		2.20ns
あまり親しくない先輩	7	7%	27	21%		10.80**
親しいと思う先輩	5	5%	10	8%		0.94ns

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 5.57 場面 2（12 時半頃に出会った場面）における[会釈・お辞儀]

調査対象 対人関係	中国人留学生		日本人学生		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	107 人中	割合	130 人中	割合		
あまり親しくない先生	11	10%	11	8%	5.61*	0.23ns
親しいと思う先生	8	7%	16	12%		1.56ns
親友	2	2%	0	0%		4.41*
あまり親しくない先輩	6	6%	27	21%		12.86**
親しいと思う先輩	1	1%	11	8%		9.23**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 5.57 が示しているように、場面 2（12 時半頃に出会った場面）において、あまり親しくない先輩と親しいと思う先輩に[会釈・お辞儀]をする日本人学生はそれぞれ 27 人（21%）と 11 人（8%）に上っているのに対して、同様の状況で[会釈・お辞儀]をする中国人留学生はそれぞれ 6 人（6%）と 1 人（1%）にすぎない。

表 5.58 場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における[会釈・お辞儀]

調査対象 対人関係	中国人留学生		日本人学生		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	107 人中	割合	130 人中	割合		
あまり親しくない先生	20	19%	41	32%	22.40**	5.23*
親しいと思う先生	16	15%	46	35%		13.52**
親友	6	6%	2	2%		3.09*
あまり親しくない先輩	14	13%	44	34%		14.76**
親しいと思う先輩	11	10%	29	22%		6.43*

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 5.58 が示しているように、場面 4（1 日に 2 回以上出会った場面）において、親しいと思う先生とあまり親しくない先輩に[会釈・お辞儀]をする日本人学生はそれぞれ 46 人（35%）と 44 人（34%）に及んでいるのに対して、同様の状況で[会釈・お辞儀]をする中国人留学生はそれぞれ 16 人（15%）と 14 人（13%）にとどまっている。

角変換法による相手別と母語話者別の分散分析を行った結果、場面 1、場面 2、場面 4 のいずれのデータにおいても母語話者別の主効果が有意であった。そこで下位検定として単純主効果検定を行った結果、上記の表 5.56 から表 5.58 が示しているように、場面 1 においてあまり親しくない先生と先輩、場面 2 において親友と先輩、場面 4 において相手が誰かに関わらず[会釈・お辞儀]をする中国人留学生と日本人学生の間に有意差があることを確認した。

5.2.3.5.2 別れの場面

以上の結果からわかるように、いずれの出会いの場面においても、日本人学生に比べると、あまり親しくない先輩に[会釈・お辞儀]をする中国人留学生は相対的に少ない。この使

用傾向は別れの場面においても見られる。

表 5.59 に示すように、場面 3（偶然出会って別れる場面）において、あまり親しくない先輩に[会釈・お辞儀]をする日本人学生は同様の状況で[会釈・お辞儀]をする中国人留学生よりやや多い。表 5.59 が示しているように、場面 3 においてあまり親しくない先輩に[会釈・お辞儀]をする日本人学生は 6 人（5%）であるのに対して、同様の状況で[会釈・お辞儀]をする中国人留学生は 1 人（1%）にすぎない。

表 5.59 場面 3（偶然出会って別れる場面）における[会釈・お辞儀]

調査対象 対人関係	中国人留学生		日本人学生		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	107 人中	割合	130 人中	割合		
あまり親しくない先生	1	1%	5	4%	13.09**	2.37ns
親しいと思う先生	1	1%	8	6%		5.56*
親友	0	0%	0	0%		0ns
あまり親しくない先輩	1	1%	6	5%		3.36*
親しいと思う先輩	1	1%	8	6%		5.56*

(** $p < .01$, * $p < .05$)

角変換法による相手別と母語話者別の分散分析を行った結果、場面 3 のデータにおいて母語話者別の主効果が有意であった。そこで、下位検定として単純主効果検定を行った結果、上記の表 5.59 が示しているように、場面 3 において先輩と親しいと思う先生に[会釈・お辞儀]をする中国人留学生と日本人学生の間には有意差があることを確認した。

一方、表 5.60 に示すように、場面 5（共同作業をした後、別れる場面）において[会釈・お辞儀]をする日本人学生は、同様の状況で[会釈・お辞儀]をする中国人留学生よりやや多いものの、その差異も顕著だとは言えない。表 5.60 が示しているように、場面 5 においてあまり親しくない先輩に[会釈・お辞儀]をする日本人学生は 5 人（4%）であり、同様の状況で[会釈・お辞儀]をする中国人留学生は 1 人（1%）である。角変換法による相手別と母語話者別の分散分析を行った結果、場面 5 のデータにおいて母語話者別の主効果が有意ではなかった。

表 5.60 場面 5（共同作業をした後別れる場面）における[会釈・お辞儀]

調査対象 対人関係	中国人留学生		日本人学生		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	107 人中	割合	130 人中	割合		
あまり親しくない先生	3	3%	6	5%	1.67ns	
親しいと思う先生	3	3%	3	2%		
親友	0	0%	0	0%		
あまり親しくない先輩	1	1%	5	4%		
親しいと思う先輩	1	1%	3	2%		

(** $p < .01$, * $p < .05$)

以上からわかるように、偶然出会ってまた別れる場面においては相手が先輩である場合、[会釈・お辞儀]をする日本人学生と中国人留学生の間に顕著な差異がある。

5.3 まとめ

本章では、日本人学生と比較することを通して、中国人留学生における「あいさつの有無」、「あいさつのストラテジー」、「あいさつの場面・対人関係による使用制限」に関する特徴を検討した。

日本人学生と中国人留学生における「あいさつの有無」に関する相違点は、出会いの場面およびその日 2 回以上出会った場面において見られた。これらの結果を表 5.61 に示す。あいさつをする場合、どのようなあいさつのストラテジーを使用するかについて、いずれの場面においても、日本人学生と中国人留学生における相違点が窺える。これらの結果を表 5.62 に示す。

表 5.61 日本人学生と中国人留学生におけるあいさつの有無

場面	日本人学生	中国人留学生
1	あまり親しくない先生に対してあいさつをしない傾向が顕著である	誰に対しても積極的にあいさつをする傾向が顕著である
2		
4		
3	先生にあいさつをする傾向が顕著であるが、あいさつをしないケースもある	先生にあいさつをしないケースは皆無である
5		
6	誰に対してもあいさつをしないケースがあり、特に親友にあいさつをしない傾向が顕著である	
7		

表 5.62 日本人学生と中国人留学生のあいさつ使用に関する全体的な特徴

場面	日本人学生	中国人留学生
1	親友には PPS を使用する傾向が顕著である	親友に PPS+NPS を使用するケースもある
2		
4		
3	先輩には PPS+NPS、親友には PPS を使用する傾向が顕著である	先輩に PPS、親友に PPS+NPS を使用するケースもある
5		
6	親友に対して PPS を使用する傾向が顕著である	親友に対して、PPS より PPS+NPS を使用する傾向がより顕著である
7		

表 5.61 を見ると、あいさつをするかどうかについて、日本人学生は、出会いの場面においてあまり親しくない先生にあいさつをしない傾向が顕著であるのに対して、中国人留学生は誰に対しても積極的にあいさつをする傾向が顕著である。一方、別れ・メール・電話の場面においてあいさつをするかどうかについて、日本人学生と中国人留学生の間に顕著な差異がない。

表 5.62 を見ると、あいさつをする場合、場面 1、場面 2、場面 4（出会いの場面）およ

び場面 3 と場面 5（別れの場面）においては、日本人学生が親友に PPS を使用する傾向があるのに対して、中国人留学生は親友に PPS+NPS を使用するケースがある。また、場面 3 と場面 5（別れの場面）においては日本人学生が親しいか親しくないかにかかわらず先輩には PPS+NPS を使用する傾向が顕著であるのに対して、同様の状況において中国人留学生が先輩には PPS+NPS だけではなく、PPS を使用するケースもある。また、場面 6（メール）と場面 7（電話）においてあいさつをする場合、上位者に対しては、中国人留学生は日本人学生とほぼ同様の傾向を示しているものの、親友に対しては、中国人留学生は PPS より PPS+NPS を使用する傾向が顕著である。

また、あいさつ使用の対人関係による違いについて見ると、日本人学生と中国人留学生は、「おはよう（～）」、「こんにちは」、「さようなら」、「お疲れ（～）」などの使用において、それぞれの使用傾向を示している。これらの特徴を表 5.63 に示す。

表 5.63 中国人留学生における個別のあいさつ表現に関する特徴

	日本人学生	中国人留学生
おはよう（～）	午後の時間において PPS として親友に使用する傾向が比較的顕著である	午後の時間においては誰に対してもほとんど使用しない
こんにちは	親友にはほとんど使用しない	親友に対してもある程度多用する
さようなら	場面 3 において日本人学生は先生と先輩にある程度多用する	いずれの場面においても誰に対してもほとんど使用しない
お疲れ（～）	ほぼすべての場面において先輩に対して比較的多く使用する傾向がある	出会いの場面およびメールと電話の場面において、誰に対してもほとんど使用しない
会釈・お辞儀	いずれの出会いの場面においても、あまり親しくない先輩に[会釈・お辞儀]をする日本人学生は比較的多い	いずれの場面においても、あまり親しくない先輩に[会釈・お辞儀]をする中国人留学生は相対的に少ない

表 5.63 が示しているように、午後のお会いの場面において日本人学生は親友に「おはよう」を PPS として多用する傾向が比較的顕著であるのに対して、中国人留学生は誰に対してもほとんど使用しない。「こんにちは」の使用については、日本人学生が親友に対してほとんど使用していないのに対して、中国人留学生が親友にもある程度多く使用している。「さようなら」の使用については、別れの場面 3 において日本人学生は先生と先輩にある程度多用するが、中国人留学生は誰に対してもほとんど使用しない。「お疲れ（～）」の使用については、ほとんどすべての場面において日本人学生は特に先輩に対して多く使用するのに対して、中国人留学生は別れの場面においては、日本人学生とほぼ同様の傾向を示しているが、出会いの場面およびメールと電話の場面においては、誰に対してもほとんど使用しない。[会釈・お辞儀]の使用については、いずれの場面においても、先輩に使用する

日本人学生は比較的多いのに対して、同様の状況で使用する中国人留学生は相対的に少ない。

上記の結果が生じたのは、多くの場合、語用論的転移によるものであると考えられる。すなわち、中国人留学生は母語である中国語の使用習慣からの影響を受け、その使用習慣をそのまま日本語に転用してしまった可能性があると考えられる。この点については、後の第7章において、日本語ができない中国人学生におけるあいさつの使用実態を踏まえて考察する。また、上記の結果が生じた原因は、必ずしも語用論的転移に関わっているわけではない。日本語教育におけるあいさつ指導の仕方の影響もあると考えられるため、同じく第7章で中国の日本語教育現場で使われている日本語教材などによるデータを用いて検討する。

第6章 大学生におけるあいさつ使用の日中対照

第5章において、日本人学生との比較を通して、中国人留学生のあいさつ使用に関する特徴を明らかにした。それらの特徴が生じた原因は、語用論的転移と深くかかわっていると考えられる。それらの原因を明らかにするためには、あいさつの日中対照研究を行う必要がある。

あいさつの日中対照研究を行う場合、比較の対象を決めておかなければならない。比較の対象はさまざまあるが、中国人留学生のあいさつ使用に関する問題点を解決することを目標とすれば、大学生におけるあいさつ使用の日中対照が適切であると考えられる。そこで、本章では、日本人学生と中国人学生のあいさつ使用に関する類似点と相違点を明らかにすることを目的とする。

6.1 調査方法

日本人学生と中国人学生のあいさつ使用に関する類似点と相違点を明らかにするため、2015年11月1日から11月26日まで、日本の大学に在学している20歳前後の日本人学生130人（男性85人、女性45人）と中国の大学に在学している中国人学生101人（男性30人、女性71人）を対象とし、無記名で自由記述式調査を実施した。日本人学生と中国人学生を比較したのは、日本人学生と中国人学生には年齢の差がほとんどなく、両者とも大学に在学していて、類似した環境や対人関係において生活しているためである。

日本人学生は、東北大学と東北学院大学に在籍している中国語ができない1年生と2年生を中心とする学部生である。中国人学生は、貴州大学、貴州師範大学、貴州財経大学に在籍している日本語ができない1年生から4年生を中心とする学部生である。インフォーマントは、同一の地域における大学に在学しているものの、出身地は異なる場合もある。そこで、できる限り方言で答えてもらわないようにするため、調査を実施する際、「標準語でお答えください」と断っておいた。なお、日本人学生に対しては日本語版の調査票、中国人学生に対しては中国語版の調査票を用いた。調査対象のインフォーマントを表6.1に示す。また、本調査において設定した7つの場面を表6.2に示す。

表 6.1 大学生のインフォーマント

年齢	日本人学生		中国人学生		合計
	東北大学／東北学院大学		貴州大学／貴州師範大学／貴州財経大学		
10 代後半	57 人	44%	1 人	1%	58 人
20 代	73 人	56%	100 人	99%	173 人
合計	130 人	100%	101 人	100%	231 人

表 6.2 大学生向けの場面の設定

対 人 関 係	
①あまり親しくない先生 ②親しいと思う先生 ③親友 ④あまり親しくない先輩 ⑤親しいと思う先輩	
自由記述式の質問	
場面 1	午前 11 時頃、大学の廊下でその日初めて以下の人に出会ってあいさつしますか。あいさつをする場合、どのようにあいさつをしますか。
場面 2	平日お昼の 12 時半頃キャンパスで、食堂に向かう途中、その日初めて以下の人に出会ってあいさつをしますか。あいさつをする場合、どのようにあいさつをしますか。
場面 3	夕方 5 時頃自分が帰る時、大学の廊下で以下の人に出会って、簡単なあいさつをして相手も帰るところだと分かりました。一緒に大学の出口まで行って、最後に大学の出口で以下の人と別れる場合、どのようにあいさつをしますか。
場面 4	その日の午前中初めて以下の人に出会った時にもうあいさつしました。お昼の 12 時半頃、校内の道で再び以下の人に出会った場合、あいさつをしますか。あいさつをする場合、どのようにあいさつをしますか。
場面 5	以下の人と一緒にボランティアとして、イベント会場を片付けました。その後、以下の人と別れる場合、あいさつをしますか。あいさつをする場合、どのようにあいさつをしますか。
場面 6	以下の人に相談する必要があります。相談の時間を予約するため午前 11 時頃以下の人にメールを送ります。メールの冒頭であいさつの言葉を書きますか。書く場合、どのようなあいさつを書きますか。
場面 7	相談があり、以下の人に電話をかけることになりました。午前 11 時頃電話をかける場合、あいさつをしますか。あいさつをする場合、どのようにあいさつをしますか。

表 6.2 における場面 1 と場面 2 は「その日初めて出会った場面」であり、場面 3 と場面 5 は「別れの場面」であり、場面 4 は「その日 2 回以上出会った場面」であり、場面 6 と場面 7 は「電話とメールの場面」である。

各場面における「あまり親しくない先生」、「親しいと思う先生」、「あまり親しくない先輩」、「親しいと思う先輩」という 4 つの対人関係は、中国人上級日本語学習者における戸惑い①（上位者に対するあいさつの仕方）に基づいて設定した。「親友」は、対人関係における「親疎」による違いを明らかにするため設定した。「あまり親しくない」については、「話をしたことはあるが、プライベートなことまで話題にしない／しそうもない」というように規定し、「親しい」については、「プライベートなことも話せる／話せそう」と規定しており、調査票にそのことを明記している。

また、場面 1 から場面 7 は、主に中国人上級日本語学習者の戸惑い①（上位者に対するあいさつの仕方）および日本語教師と大学教員における違和感①（敬語の脱落）と違和感②（呼称の過剰使用）」に基づいて設定した。ただし、場面 1 と場面 2 を設定した際、中国人上級日本語学習者の戸惑い⑥（「おはよう（～）」と「こんにちは」の使い分け）も参考にした。また、場面 3 の設定は戸惑い②（「さようなら」の用法）、場面 4 の設定は戸惑い④（その日 2 回以上出会った場面でのあいさつの仕方）、場面 5 の設定は戸惑い③（「お疲

れ(～)」の用法)、場面6と場面7の設定は戸惑い⑤(メールと電話でのあいさつの仕方)も参考に入れた。これらを整理すると、以下の表6.3のようになる。

表 6.3 大学生向けの場面設定の根拠(表 5.3 の再掲)

場面	中国人上級日本語学習者のあいさつ使用に関する困難点	
場面1	戸惑い⑥(「おはよう(～)」と「こんにちは」の使い分け)	戸惑い①(上位者に対するあいさつの仕方)
場面2		
場面3	戸惑い②(「さようなら」の用法)	
場面4	戸惑い④(その日2回以上出会った場面でのあいさつの仕方)	違和感①(敬語の脱落)
場面5	戸惑い③(「お疲れ(～)」の用法) / 違和感③(「お疲れ(～)」の多用)	
場面6	戸惑い⑤(メールと電話でのあいさつの仕方)	違和感②(呼称の過剰使用)
場面7		

なお、日本人学生には日本語版の調査票、中国人学生には中国語版の調査票を用いた。そして日本人学生と中国人学生に対する調査は、インフォーマントからの許可(調査承諾書へのサイン)を得たうえで行った。その許可を得るために用いた調査承諾書は上述の調査票と一緒に本論文の末尾に付録として掲載する。

6.2 調査結果

中国人上級日本語学習者が戸惑っている点において、日本人学生と中国人学生は、それぞれどのようにあいさつをしているかを明らかにするため、日本人学生と中国人学生のあいさつ使用に関する全体的な傾向を示す必要があると考えられる。本節では、ポライトネスの観点から、日本人学生と中国人学生のあいさつ使用に関する全体的な使用傾向を検討する。

6.2.1 あいさつの有無

相手に出会った場合、あるいは別れる場合、同一の場面であいさつをするかどうかは、対人関係によって異なる。表6.4、表6.5、表6.6が示しているように、その日初めて「親友」と「親しいと思う先輩」に出会った場合、日本人学生にせよ中国人学生にせよ、必ずあいさつをするが、「あまり親しくない先生」に出会った場合は必ずしもそうではない。

表6.4が示しているように、場面1において、親友と親しいと思う先輩にあいさつをしない日本人学生はほとんどいないが、あまり親しくない先生にあいさつをしない日本人学生は半分以上に達している。それに対して、同様の状況で、中国人学生は誰に対しても積極的にあいさつをする。表6.5と表6.6も同様の使用傾向を示している。

表 6.4 場面 1（11 時頃に出会った場面）におけるあいさつの使用頻度

調査対象 対人関係	あいさつをする				母語話者別の 主効果 (χ ²)	単純主効果 (χ ²)
	日本人学生 130 人中		中国人学生 101 人中			
あまり親しくない先生	53	41%	98	97%	65.76**	112.97**
親しいと思う先生	120	92%	101	100%		17.95**
親友	129	99%	100	99%		0.03ns
あまり親しくない先輩	109	84%	98	97%		13.13**
親しいと思う先輩	129	99%	100	99%		0.03ns

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 6.5 場面 2（12 時半頃に出会った場面）におけるあいさつの使用頻度

調査対象 対人関係	あいさつをする				母語話者別の 主効果 (χ ²)	単純主効果 (χ ²)
	日本人学生 130 人中		中国人学生 101 人中			
あまり親しくない先生	46	35%	99	98%	108.10**	142.75**
親しいと思う先生	120	92%	101	100%		17.95**
親友	129	99%	101	100%		1.75ns
あまり親しくない先輩	107	82%	99	98%		19.50**
親しいと思う先輩	129	99%	101	100%		1.75ns

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 6.6 場面 4（その日 2 回以上出会った場面）におけるあいさつの使用頻度

調査対象 対人関係	あいさつをする				母語話者別の 主効果 (χ ²)	単純主効果 (χ ²)
	日本人学生 130 人中		中国人学生 101 人中			
あまり親しくない先生	73	56%	95	94%	120.01**	51.82**
親しいと思う先生	111	85%	101	100%		34.98**
親友	117	90%	101	100%		23.53**
あまり親しくない先輩	98	75%	94	93%		14.52**
親しいと思う先輩	117	90%	99	98%		7.41**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 6.5 と表 6.6 が示しているように、場面 2 と場面 4 において、あまり親しくない先生にあいさつをしない日本人学生は、それぞれ 84 人（65%）と 73 人（56%）に上っているが、同様の状況において、あいさつをしない中国人学生は、それぞれ 2 人（2%）と 6 人（6%）にとどまっている。角変換法による相手別と母語話者別の分散分析³⁰を行った結果、場面 1、場面 2、場面 4 のいずれのデータにおいても母語話者別の主効果が有意であった。そこで、下位検定として単純主効果検定を行い、場面 1、場面 2、場面 4 において、相手が「あまり

³⁰ 角変換法（逆正弦変換法）による分散分析では統計量は χ^2 分布に従うので、統計量として χ^2 値を示す。

親しくない先生」である場合、中国人学生と日本人学生の間に顕著な有意差があることを確認した。

また、表 6.4、表 6.5、表 6.6 が示しているように、場面 1 と場面 2 において、相手が「親しいと思う先生」と「あまり親しくない先輩」である場合、中国人学生と日本人学生の間に有意差があることも確認した。場面 4 において、相手が誰であっても、中国人学生と日本人学生の間にも有意差があることも確認した。要するに、あいさつをするかどうかについて、場面 1、場面 2 において相手が先生とあまり親しくない先輩である場合、中国人学生と日本人学生の間の差異が顕著である。また、場面 4 において、相手が誰かにかかわらず、中国人学生と日本人学生の間の差異が顕著である。なお、上述のいずれの場面においても、相手があまり親しくない先生である場合、日本人学生があいさつをしない傾向が極めて顕著である。

日本人学生があいさつをしないのは、NF に対する配慮を優先することによるものである。それに対して、中国人学生が誰に対しても積極的にあいさつをするのは、PF に対する配慮を優先することによると考えられる。前述したように、あいさつをしない場合は、FTA をしないということである一方、あいさつをする場合、すべてのあいさつには、PF に対する配慮が含まれている。中国人学生が、誰に対しても積極的にあいさつをするのは、PF に対する配慮の現れの一つではないかと考えられる。

あいさつをするかどうかについての対人関係による使用制限および文化による差異は、出会いの場面に限らず、別れの場面からも窺える。ただし、出会いの場面と比べると、別れの場面における中国人学生と日本人学生の差異がそれほど顕著ではない。そして、別れの場面において、先生と先輩にあいさつをしない日本人学生がいないわけではないが、その比率が高いとは言い難い。

上述の結果になったのは、出会いの場面と別れの場面の違いによると考えられる。出会いの場面（偶然出会った場面）で目が合わない時に、NF に対する配慮を優先する場合、あいさつをしないことがある。一方、別れの場面では、共同作業あるいは何かについての話をした後で、特別な状況（その先生が遠いところで誰かと話し合っていて、あいさつができないような状況）以外、日本人学生にせよ中国人学生にせよあいさつをしないことはないだろう。したがって、出会いの場面と比べてみると、別れの場面において、あいさつをしない日本人学生の比率がかなり下がったのは、この場面の違いによるものであると考えられる。また、別れの場面において、あいさつをしない中国人学生がほとんどいないのは、場面の違いによるものというまでもなく、中国人学生の PF に対する配慮を優先することによるものもその原因の一つであると考えられる。

表 6.7 場面 3（偶然出会って別れる場面）におけるあいさつの使用頻度

調査対象 対人関係	あいさつをする				母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	日本人学生 130 人中	割合	中国人学生 101 人中	割合		
あまり親しくない先生	122	94%	98	97%	18.75**	1.36ns
親しいと思う先生	126	97%	101	100%		7.07**
親友	129	99%	101	100%		1.75ns
あまり親しくない先輩	126	97%	101	100%		7.07**
親しいと思う先輩	128	98%	101	100%		3.51ns

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 6.8 場面 5（共同作業をした後別れる場面）におけるあいさつの使用頻度

調査対象 対人関係	あいさつをする				母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	日本人学生 130 人中	割合	中国人学生 101 人中	割合		
あまり親しくない先生	109	84%	101	100%	74.05**	38.88**
親しいと思う先生	120	92%	101	100%		17.95**
親友	128	98%	101	100%		3.51*
あまり親しくない先輩	120	92%	101	100%		17.95**
親しいと思う先輩	126	97%	101	100%		7.07**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 6.7 が示しているように、場面 3 において親しいと思う先生とあまり親しくない先輩にあいさつをしない日本人学生は各 4 人いるが、同様の状況であいさつをしない中国人学生は 1 人もいない。表 6.8 が示しているように、場面 5 においてあまり親しくない先生、親しいと思う先生、あまり親しくない先輩、親しいと思う先輩にあいさつをしない日本人学生はそれぞれ 21 人、10 人、10 人、4 人いるのに対して、同様の状況であいさつをしない中国人学生は 1 人もいない。角変換法による相手別と母語話者別の分散分析を行った結果、場面 3 と場面 5 のいずれのデータにおいても母語話者別の主効果が有意であった。そこで、下位検定として単純主効果検定を行い、場面 3 において、相手が「親しいと思う先生」と「あまり親しくない先輩」である場合、場面 5 において相手が誰かに関わらず、中国人学生と日本人学生の間には有意差があることを確認した。

以上、出会いの場面と別れの場面において、日本人学生に比べると、中国人学生は誰に対しても積極的にあいさつをする傾向が顕著であるということが明らかになった。ただし、この使用傾向は、すべての場面に当てはまるわけではない。

表 6.9 場面 6 (メールの場面) におけるあいさつの使用頻度

調査対象 対人関係	あいさつをする				母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	日本人学生 130 人中	割合	中国人学生 101 人中	割合		
あまり親しくない先生	112	86%	97	96%	10.22**	7.44**
親しいと思う先生	112	86%	93	92%		2.09ns
親友	58	45%	55	54%		2.21ns
あまり親しくない先輩	115	88%	95	94%		2.29ns
親しいと思う先輩	107	82%	83	82%		0.001ns

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 6.10 場面 7 (電話の場面) におけるあいさつの使用頻度

調査対象 対人関係	あいさつをする				母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	日本人学生 130 人中	割合	中国人学生 101 人中	割合		
あまり親しくない先生	107	82%	97	96%	24.34**	12.42**
親しいと思う先生	108	83%	93	92%		4.37*
親友	66	51%	66	65%		4.99*
あまり親しくない先輩	109	84%	94	93%		4.93*
親しいと思う先輩	103	79%	85	84%		0.93ns

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 6.9 と表 6.10 が示しているように、場面 6 と場面 7 において、親友に対してあいさつをしない中国人学生は、それぞれ、46 人 (46%) と 35 人 (35%) に及んでいる。また、同様の状況において、あいさつをしない日本人学生は、それぞれ 72 人 (55%) と 64 人 (51%) に達している。要するに、場面 6 と場面 7 においては、親友に対してあいさつをしない日本人学生も中国人学生も多く、両者がほぼ同様の使用傾向を示している。角変換法による相手別と母語話者別の分散分析を行った結果、場面 6 と場面 7 とともに母語話者別の主効果が有意であったが、下位検定として単純主効果検定を行い、場面 6 において、相手が「親友」である場合、中国人学生と日本人学生の間にほぼ有意差がないことを確認した。

上記の結果になったのは、対面の状況（出会いの場面と別れの場面）における「あいさつをしない」と非対面（メールと電話）における「あいさつをしない」の差異によるものであると考えられる。出会いの場面（場面 1、場面 2、場面 4）と別れの場面（場面 3 と場面 5）における「あいさつをしない」は、NF に対する配慮を優先する現れであるのに対して、メール（場面 6）と電話（場面 7）における「あいさつをしない」は、PPS の一つであると考えられる。出会いの場面、別れの場面と比べてみると、メールと電話の場面においては、実質的な意味合いのある情報を伝えなければならないということが特徴である。この場合、あいさつをするかどうかについては、対人関係によって異なる。通常、相手との仲が良ければよいほど、あいさつをしない可能性が大きいといえる。先生、先輩と違って、

親友はウチの存在であるため、場面 6 と場面 7 において、親友に対してあいさつをしないのは、親近感を伝える手段（PPS）の一つであるのではないかと考えられる。

6.2.2 あいさつのポライトネス・ストラテジー

第 3 章で述べたように、あいさつをする場合、すべてのあいさつは、PF に対する配慮があるものの、その配慮の度合いがあいさつ表現の種類によって異なる。そして、本研究では、日本人学生のあいさつ使用について、「おはよう」や「じゃあね」のような PP 表現を使用する場合、PPS を使用すると認定される。一方、「おはようございます」や「さようなら」のような NP 表現を使用する場合、PPS+NPS を使用すると認定される。中国人学生のあいさつ使用について、「早（おはよう）」や「拜拜（バイバイ）」のような PP 表現を使用する場合、PPS を使用すると認定される。一方、「老师好（先生、こんにちは）」や「老师再见（先生、さようなら）」のような NP 表現を使用する場合、PPS+NPS を使用すると認定される。このような捉え方にもとづき、以下、各場面における日本人学生と中国人学生のあいさつ使用に関するポライトネス・ストラテジーの異同について考察する。

6.2.2.1 その日初めて出会った場面

中国人上級日本語学習者が戸惑っている点（戸惑い①と戸惑い⑥）において、日本人学生と中国人学生は、実際にどのようにあいさつをしているかを明らかにするため、上記の表 6.1 における場面 1 と場面 2 における「午前 11 時頃、大学の廊下でその日初めて以下の人に出会ってあいさつしますか。あいさつをする場合、どのようにあいさつをしますか」と「平日お昼の 12 時半頃キャンパスで、食堂に向かう途中、その日初めて以下の人に出会ってあいさつをしますか。あいさつをする場合、どのようにあいさつをしますか」という 2 つの質問について日本人学生 130 人と中国人留学生 101 人に対して自由記述式調査を実施した。その結果をそれぞれ表 6.11、表 6.12、表 6.13、表 6.14 に示す。

表 6.11 と表 6.13 が示しているように、場面 1 と場面 2 において、親しいか親しくないかにかかわらず先生と先輩に対して、日本人学生が NP 表現を使用する傾向が顕著である。それに対して、表 6.12 と表 6.14 が示しているように、同様の状況においてあいさつをする場合、親しいか親しくないかにかかわらず、先生と先輩に対して中国人学生が PP 表現を使用する傾向が比較的顕著である。要するに、場面 1 と場面 2 において上位者に、日本人学生が NP 表現を使用する傾向が顕著であるのに対して、中国人学生が NP 表現だけではなく PP 表現を使用するケースもある。ただし、「親友」という対人関係になると、日本人学生と中国人学生におけるその使用傾向に関する差異がなくなる。

表 6.11 場面 1 (11 時頃に会った場面) における日本人学生のあいさつ

あまり親しくない先生	会釈 (21) 「おはようございます」 (17) 「こんにちは」 (16) 「お疲れ様です」 (3) チラッと見る (1)
親しいと思う先生	「こんにちは」 (52) 「おはようございます」 (48) 会釈 (13) 「(～) 先生、おはようございます」 (4) 「先生、こんにちは」 (2) 「お疲れ様です」 (7) 微笑+会釈 (1) 目をしっかり見て (1)
親友	「こんにちは」 (3) 「おはよう」 (55) 「おはー」 (1) 「お疲れ」 (11) 「お疲れ様」 (1) 「お疲れっす」 (1) 「おっす」 (12) 「よっ・よう」 (18) 「おう」 (11) 「う (い) っす」 (6) 「やっほー」 (7) 「やあ」 (5) 「ハロー」 (2) 「お昼一緒に食べない？」 (1) 「元気？」 (2) 「ご機嫌よう」 (1) 手を振る (6) 声をかける (3) 名前を呼ぶ (5) だきつく (1) タメ口 (1) 少し会話 (1) 笑顔 (1) 肩をたたく (1) 手を挙げて (1) 雑談 (1)
あまり親しくない先輩	「こんにちは」 (31) 「おはようございます」 (26) 「お疲れ様です」 (29) 会釈 (26) お辞儀 (1) 礼 (1) 敬語 (1) 「ういっす」 (1) 声をかける (1) アイコンタクト (1) 愛想笑 (1)
親しいと思う先輩	「こんにちは」 (41) 「おはようございます」 (37) 「お疲れ様です」 (35) 会釈 (10) 「～さん」 (4) 敬語 (1) 「～先輩」 (5) 「こんにちはっす」 (1) 「お疲れ」 (1) 「ういっす」 (1) 「おっです」 (1) 「しゃっす」 (1) 声をかける (4) 笑顔 (2) 雑談 (1)

(注：表の括弧内の数字は人数、網掛けの部分は NP 表現を意味する)

表 6.12 場面 1 (11 時頃に会った場面) における中国人学生のあいさつ

あまり親しくない先生	「(～) 老师 (您) 好 (先生、こんにちは)」 (76) 「(～) 老师 ((～) 先生)」 (5) 「您好 (こんにちは)」 (1) 「(～) 老师, 早 (上好) (先生、おはよう (ございます))」 (7) 会釈 (5) 微笑 (13) 手を振る (3) 「(～) 老师, 吃了吗 ((～) 先生、ご飯は済みましたか)」 (2) 「嗨 (やあ)」 (1)
親しいと思う先生	「(～) 老师 (您) 好 (先生、こんにちは)」 (54) 「(～) 老师 ((～) 先生)」 (18) 「(～) 老师, 上午好 ((～) 先生、おはようございます)」 (4) 「您好 (こんにちは)」 (2) 会釈 (2) 「(～) 老师, 吃了吗 ((～) 先生、ご飯は済みましたか)」 (12) 微笑 (12) 食事に誘う (5) 「上完课了 (授業が終わったの)」 (4) 「(～) 老师去哪儿 ((～) 先生、どちらへ)」 (4) 手を振る (4) 「Hello」 (2) 「(～) 哥・姐, 早啊 ((～) 兄ちゃん・姉ちゃん、おはよう)」 (2) 「(～) 老师, 刚下课呀 ((～) 先生、授業終わったところですか)」 (2) 「在忙啥呢 (この頃何をしているの)」 (1) 「嗨 (やあ)」 (1) 握手 (1) 抱擁 (1)
親友	「早上好 (おはようございます)」 (1) 「你好 (こんにちは)」 (1) 「吃 (飯) 了吗 (ご飯は済んだの)」 (9) 「(亲) 去哪呢 (どちらへ)」 (19) 食事に誘う (18) 「嗨 (やあ)」 (5) 「Hello・Hi」 (11) 「早啊 (おはよう)」 (1) 「干嘛去 (何をしに行くの)」 (16) 「有课呢 (授業あるの)」 (7) 「亲爱 (親愛な)」 (2) 抱擁 (4) 微笑 (3) 手を組む (3) 肩に叩く (4) 手を振る (1) 体の接触 (1) 綽名を呼ぶ (7) 冗談 (2)
あまり親しくない先輩	「(～) 学长・学姐好 ((～) 先輩、こんにちは)」 (54) 「(～) 学长・学姐 ((～) 先輩)」 (13) 「你好 (こんにちは)」 (2) 会釈 (6) 「(～) 学长・学姐, 去哪里 ((～) 先輩、どちらへ)」 (3) 「(～) 学长・学姐, 去上课吗 ((～) 先輩、授業に行くの)」 (5) 微笑 (12) 「嗨」 (2) 「没课吗 (授業ないの)」 (1) 「Hi・Hello」 (8) 手を振る (1) 「嗨 (やあ)」 (1) 「学长・学姐, 干嘛去? (先輩、何をしに行くの)」 (1) 「去哪儿 (どちらへ)」 (1)
親しいと思う先輩	「(～) 学长・学姐好 ((～) 先輩、こんにちは)」 (31) 「(～) 学长・学姐 ((～) 先輩)」 (17) 「你好 (こんにちは)」 (1) 「(学长・学姐) 去哪呢 ((～) 先輩、どちらへ)」 (11) 「帅哥・美女 (美男・美女)」 (2) 「哥・姐好吗 (兄ちゃん・姉ちゃん、元気?)」 (5) 微笑 (10) 綽名を呼ぶ (2) 「Hi・Hello」 (7) 「上完课了 (授業終わった?)」 (4) 近況を聞く (3) 「吃饭了吗 (ご飯食べたの)」 (4) 食事に誘う (2) 手を振る (2) 「嗨 (やあ)」 (3) 「(学长・学姐) 忙什么呢 ((先輩、この頃何をしているの)」 (9) 握手 (1) 抱擁 (1) 冗談 (2) 「(学长・学姐) 干嘛去? ((先輩、何をしに行くの)」 (2)

(注：表の括弧内の数字は人数、網掛けの部分は NP 表現を意味する)

表 6.13 場面 2 (12 時半頃に出会った場面) における日本人学生のあいさつ

あまり親しくない先生	「こんにちは」(26) 会釈 (11)「おはようございます」(1)「お疲れ様です」(3)
親しいと思う先生	「こんにちは」(90) 会釈 (14) お辞儀 (2) 礼 (1)「お疲れ様です」(11)「おはようございます」(8)「～先生、こんにちは」(3)「お昼食べました？」(3) 笑顔 (1) 目をしっかり見る (1)
親友	「こんにちは」(5)「おはよう」(32)「おはー」(1)「う (い) っす」(11)「おう」(8)「お疲れ」(16)「お疲れ様」(2)「お疲れっす」(1)「よ (っ・う)」(18)「やっほー」(7)「おっす」(12)「やあ」(5)「次の授業何？」(1)「ハロー」(1)「おう、飯食う？」(3)「お、ご飯食べた？」 食事に誘う (5) 声をかける (3) 名前を呼ぶ (2) 笑顔 (1) 手を振る (9) 会話する (1)
あまり親しくない先輩	「こんにちは」(43)「お疲れ様です」(34) 会釈 (26) お辞儀 (1) 礼 (1)「おはようございます」(5) 敬語 (1)「こんにちはっす」(1)「ういっす」(1)「～先輩」(1)「どうも」(1) 声をかける (1) アイコンタクト (1) 笑顔 (1)
親しいと思う先輩	「こんにちは」(65)「お疲れ様です」(37) 会釈 (11)「おはようございます」(9) 敬語 (1)「(～) さん」(4)「～先輩」(5)「こんにちはっす」(2)「おはようです」(1)「お疲れ」(1)「お疲れっす」(1)「ご飯食べました？」(2)「しゃっす」(1)「ういっす」(1)「おっす」(1)「どうも」(2) 声をかける (3) 笑顔 (2)

(注：表の括弧内の数字は人数、網掛けの部分は NP 表現を意味する)

表 6.14 場面 2 (12 時半頃に出会った場面) における中国人学生のあいさつ

あまり親しくない先生	「(～) 老师 (您) 好 ((～) 先生、こんにちは)」(74)「(～) 老师 ((～) 先生)」(5) 会釈 (3)「中午好 (こんにちは)」(1)「(～) 老师，吃 (饭) 了吗 ((～) 先生、ご飯は済みましたか)」(9)「(～) 老师，去吃饭啊 ((～) 先生、ご飯に行きますか)」(4)「(～) 老师去做什么 ((～) 先生、何をしに行きますか)」(1) 手を振る (1) 微笑 (10)「吃饭了吗 (ご飯は済んだの)」(1) 食事に誘う (1)「老师刚下课吗 (先生、授業終わったところですか)」(1)
親しいと思う先生	「(～) 老师 (您) 好 ((～) 先生、こんにちは)」(34)「(～) 老师 ((～) 先生)」(6) 会釈 (1)「(～) 老师，吃 (饭) 了吗 ((～) 先生、ご飯は済みましたか)」(52)「(～) 老师，去吃饭呢 ((～) 先生、ご飯に行きますか)」(5)「(～) 哥・姐，吃饭了吗 ((～) 兄ちゃん・姉ちゃん、ご飯は済んだの)」(1)「吃了吗 (ご飯は済んだの)」(2)「(～) 老师，您去哪 ((～) 先生、どちらへ)」(2) 微笑 (11) 冗談 (1)「老师，下班了 (先生、仕事は済みましたか)」(1)「老师刚下课吗 (先生、授業終わったところですか)」(1) 食事に誘う (10) 手を振る (1)
親友	「早上好 (お早うございます)」(1)「你好 (こんにちは)」(1)「吃 (饭) 了吗 (ご飯は済んだの)」(38) 食事に誘う (53)「去干嘛呢 (何をしに行くの)」(2)「Hi/Hello」(4)「喂 (おい)」(1)「去哪里 (どちらへ)」(5) 冗談 (3) 手を組む (1) 名前を呼ぶ (1) 微笑 (1)
あまり親しくない先輩	「你好 (こんにちは)」(2)「中午好 (こんにちは)」(1)「(～) 学长・学姐好 ((～) 先輩、こんにちは)」(46)「(～) 学长・学姐 ((～) 先輩)」(7) 会釈 (4)「Hi/Hello」(13)「(～) 学长・学姐，吃 (饭) 了吗 ((～) 先輩、ご飯は済んだの)」(12)「吃 (饭) 了吗 (ご飯は済んだの)」(7)「(～) 学长・学姐，去吃饭啊 ((～) 先輩、ご飯に行くの)」(4)「去哪呢 (どちらへ)」(3)「吃了吗 (ご飯は済んだの)」(2)「干什么去 (何をしに行くの)」(1) 微笑 (7) 食事に誘う (1) 冗談 (1)
親しいと思う先輩	「你好 (こんにちは)」(1)「(～) 学长・学姐好 ((～) 先輩、こんにちは)」(19)「(～) 学长・学姐 ((～) 先輩)」(5)「(～) 学长・学姐，早上好 ((～) 先輩、おはようございます)」(1)「(～) 学长・学姐，吃饭了吗 ((～) 先輩、ご飯は済んだの)」(26) 食事に誘う (21)「吃 (饭) 了吗 (ご飯は済んだの)」(12) 食事に誘う (6) 冗談 (6)「Hi/Hello」(5)「去哪儿呀 (どちらへ)」(4)「(～) 学长・学姐，去吃饭啊 ((～) 先輩、ご飯に行くの)」(3) 微笑 (3) 関心を示す (2)「喂 (おい)」(1)「Hi」(1)「学长・学姐，今天干吗呢 (先輩、今日は何をするの)」(1)

(注：表の括弧内の数字は人数、網掛けの部分は NP 表現を意味する)

上述した日本人学生と中国人学生におけるあいさつの使用傾向を分かりやすくするため、表 6.11 から表 6.14 が示している日本人学生と中国人学生の先生と先輩に使用するあいさつ表現を NP 表現と PP 表現に分けて集計し、そのデータをそれぞれ表 6.15、表 6.16、表 6.17、表 6.18 に示す。

表 6.15 11 時/12 時半頃（場面 1・2）に出会った場面におけるあまり親しくない先生に対するあいさつ

		日本人学生	中国人学生
場面 1	NP 表現	57 例（98%）	94 例（83%）
	PP 表現	1 例（2%）	19 例（17%）
場面 2	NP 表現	41 例（100%）	83 例（75%）
	PP 表現	0 例（0%）	28 例（25%）

表 6.16 場面 1・2（出会いの場面）におけるあまり親しくない先輩に対するあいさつ

		日本人学生	中国人学生
場面 1	NP 表現	115 例（97%）	75 例（68%）
	PP 表現	4 例（3%）	35 例（32%）
場面 2	NP 表現	111 例（94%）	60 例（54%）
	PP 表現	7 例（6%）	51 例（46%）

表 6.17 場面 1・2（出会いの場面）における親しいと思う先生に対するあいさつ

		日本人学生	中国人学生
場面 1	NP 表現	127 例（99%）	80 例（61%）
	PP 表現	1 例（1%）	51 例（39%）
場面 2	NP 表現	129 例（96%）	41 例（32%）
	PP 表現	5 例（4%）	87 例（68%）

表 6.18 場面 1・2（出会いの場面）における親しいと思う先輩に対するあいさつ

		日本人学生	中国人学生
場面 1	NP 表現	128 例（88%）	49 例（41%）
	PP 表現	17 例（12%）	70 例（59%）
場面 2	NP 表現	127 例（85%）	26 例（22%）
	PP 表現	22 例（15%）	91 例（78%）

表 6.15 が示しているように、場面 1 と場面 2 においてあまり親しくない先生に対して PP 表現を使用する例は、日本人学生がそれぞれ 1 例（1%）と 0 例（0%）にとどまっているのに対して、中国人学生がそれぞれ 19 例（17%）と 28 例（25%）に上っている。表 6.16 が示しているように場面 1 と場面 2 においてあまり親しくない先輩に対して PP 表現を使用する例は、日本人学生がそれぞれ 4 例（3%）と 7 例（6%）にすぎないのに対して、中国人学生がそれぞれ 35 例（32%）と 51 例（46%）に及んでいる。表 6.17 が示しているように、場面 1 と場面 2 において親しいと思う先生に対して PP 表現を使用する例は、日本

人学生がそれぞれ 1 例（1%）と 5 例（4%）にとどまっているのに対して、中国人留学生がそれぞれ 51 例（39%）と 87 例（68%）に上っている。表 6.18 が示しているように、場面 1 と場面 2 において親しいと思う先輩に対して PP 表現を使用する例は、日本人学生がそれぞれ 17 例（12%）と 22 例（15%）であるのに対して、中国人学生がそれぞれ 70 例（59%）と 91 例（78%）に達している。

表 6.19 が示しているように、「おはよう」や「早（おはよう）」のような PP 表現は、PPS として使用される傾向が強い表現である一方、「おはようございます」や「早上好（おはようございます）」のような NP 表現は、PPS+NPS として使用される傾向が強い表現である。そう考えてみると、場面 1 と場面 2 において、あいさつをする場合、親しいか親しくないかにかかわらず先生と先輩には日本人学生は PPS+NPS を使用する傾向が顕著であるのに対して、中国人学生は PPS+NPS だけではなく、PPS を使用するケースもある。

表 6.19 出会いの場面におけるあいさつ表現とポライトネスの関係

ポライトネス	群	あいさつ表現の分類	種別	代表例
NF・PF への配慮	PPS	A 群	PP 表現	飯食う？吃了吗？手を挙げる…
		B 群		飯食べました？呼称+吃了吗？…
		C 群		おっす、よう、早（啊、呀）…
		D 群		おはよう、（～）早…
	PPS+NPS	E 群	NP 表現	こんにちは、你好、会釈…
		F 群		おはようございます、早上好…
		G 群		おはようございます+会釈 敬称+早上好+会釈…

6.2.2.2 その日 2 回以上出会った場面

上述した日本人学生と中国人学生におけるあいさつの戦略に関する対人関係による使用制限の差異については、場面 1 と場面 2 に限らず、場面 4（その日 2 回以上出会った場面）からも窺える。

表 6.20 と表 6.21 が示しているように、場面 4 において、どのようにあいさつをするかについて、日本人学生と中国人学生は場面 1 と場面 2 における使用状況とほぼ同様の使用傾向を示している。

表 6.20 場面 4 (その日 2 回以上出会った場面) における日本人学生のあいさつ

あまり親しくない先生	会釈 (38)「こんにちは」(27)「お疲れ様です」(6)「おはようございます」(1) お辞儀 (3) 礼 (1)「どうも」(4)
親しいと思う先生	会釈 (41)「こんにちは」(43)「お疲れ様です」(14) お辞儀 (5) 礼 (1) 黙礼 (1)「おはようございます」(3)「どうも」(7)「また会いましたね」(4)「今日、2 回目ですね」(2)「今日はよく会いますね」(2)
親友	「こんにちは」(4) 会釈 (2)「よっ・よう」(28)「また会ったな・ね」(21)「お疲れ」(17)「お疲れ様」(1)「おはよう」(4)「おはー」(1)「う (っ) す」(4)「おっす」(6)「おう」(12)「やあ」(1)「(今日) はよく会うな」(5)「先もあったね」(1)「やっほー」(5)「ウェーイ」(1)「さっきぶり」(1)「やあ」(1)「ご機嫌よう」(1) 食事に誘う (1) 声をかける (1) 手を振る (6) 手を挙げる (5) 手振りをする (1) 手を使って合図 (1)
あまり親しくない先輩	会釈 (40)「こんにちは」(28)「お疲れ様です」(24) お辞儀 (4)「おはようございます」(3) 礼 (1) 黙礼 (1)「お疲れです」(1)「どうも」(4)「またお会いしましたね」(3)
親しいと思う先輩	「こんにちは」(33)「お疲れ様です」(33) 会釈 (26) お辞儀 (3)「おはようございます」(1)「お疲れ」(1)「お疲れっす」(2)「おっす」(1)「どうも」(8)「またお会いしましたね」(10)「(今日は) よく会いますね」(3)「ういす」(1)「ちーっす」(1)「～さん、ストーカー？笑」(1)「おっす」(1)「さっきぶりです」(1)

(注：表の括弧内の数字は人数、網掛けの部分は NP 表現を意味する)

表 6.21 場面 4 (その日 2 回以上出会った場面) における中国人学生のあいさつ

あまり親しくない先生	「(～) 老师 (您) 好 ((～) 先生、こんにちは)」(61)「(～) 老师 ((～) 先生)」(10) 会釈 (3)「你 (您) 好 (こんにちは)」(2)「(～) 老师，又遇见了」(5)「Hello」(1) 微笑 (17)「老师，好巧 (先生、偶然ですね)」(3)「(～) 老师，吃饭没 ((～) 先生、ご飯は済みましたか)」(1)「老师，下课了啊 (先生、授業終わりましたか)」(1)
親しいと思う先生	「(～) 老师 (您) 好 ((～) 先生、こんにちは)」(40)「你好 (こんにちは)」(1)「中午好 (こんにちは)」(1)「(～) 老师 ((～) 先生)」(9) 会釈 (1)「(老师，您) 吃了吗 ((先生、ご飯は済みましたか)」(10) 微笑 (9)「(～) 老师去哪 ((～) 先生、どちらへ)」(7)「(～) 老师，好巧 ((～) 先生、偶然ですね)」(5)「(～) 老师，又遇见了 ((～) 先生、また会いましたね)」(27)「Hi」(2) 食事に誘う (2)「(～) 老师，去干嘛 ((～) 先生、何をしに行きますか)」(2)「(～) 老师，中午休息吗 ((～) 先生、昼寝しますか)」(1)「老师，又上课啊 (先生、また授業に行きますか)」(1)「您忙啥呢 (何をしていますか)」(1)「老师，下课了啊 (先生、授業終わりましたか)」(1) 手を振る (1)
親友	「你好 (こんにちは)」(1)「中午好 (こんにちは)」(1)「又遇到了 (また会ったね)」(28) 冗談 (18)「去哪里 (どちらへ)」(17)「干嘛去 (何をしに行くの)」(15)「太有缘了 (縁があるね)」(8)「好巧啊 (偶然だね)」(6)「Hi/Hello」(7)「嗨 (やあ)」(2)「吃 (飯) 了吗 (ご飯は済んだの)」(6) 食事に誘う (5) 綽名を呼ぶ (3)「去吃饭吗？(ご飯に行くの)」(1)「下课了啊 (授業終わったの)」(1) 手を振る (1) 肩を叩く (1) 微笑 (1)
あまり親しくない先輩	「(～) 学长・学姐好 ((～) 先輩、こんにちは)」(32)「你好 (こんにちは)」(3)「(～) 学长・学姐 ((～) 先輩)」(6)「(～) 师兄师姐 ((～) 先輩)」(2)「早上好 (おはようございます)」(1) 会釈 (5)「学长・学姐，又见面了 (先輩、また会ったね)」(10)「又见面了 (また会ったね)」(2)「学长・学姐，要出去吗 (先輩、出かけますか)」(1)「有缘啊 (縁があるね)」(2)「嗨 (やあ)」(5)「(～) 学长・学姐干嘛去 ((～) 先輩、何をしに行くの)」(3)「Hi/Hello」(7)「好巧啊 (偶然だね)」(1)「好巧，吃了吗 (偶然だね。もう食べたの)」(2)「去哪儿 (どちらへ)」(2)「最近忙啥 (この頃何をしているの)」(1)「吃饭没 (ご飯は済んだの)」(1)「做什么去 (何をしに行くの)」(1) 微笑 (12) 手を振る (1)
親しいと思う先輩	「你好 (こんにちは)」(3)「中午好 (こんにちは)」(2)「(～) 学长・学姐好 ((～) 先輩、こんにちは)」(23)「(～) 学长・学姐 ((～) 先輩)」(4) 会釈 (1)「又遇到了 (また会ったね)」(15)「Hi/Hello」(9)「(～) 学长・学姐，去哪里 ((～) 先輩、どちらへ)」(9) 微笑 (7) 冗談 (6)「吃饭了吗 (ご飯は済んだの)」(5)「学长・学姐，又见到咯 ((～) 先輩、また会ったね)」(5)「(哥・姐) 好有缘，又见到你了 ((兄ちゃん・姉ちゃん) また会って縁があるね)」(5)「(～) 学长・学姐，好有缘 ((～) 先輩、縁があるね)」(4)「干嘛去 (何をしに行くの)」(3)「(学长・学姐) 这么巧啊 ((先輩) 偶然だね)」(2)「去哪儿 (どちらへ)」(2)「(～) 学长・学姐干嘛去 ((～) 先輩、何をしに行きますか)」(2) 手を振る (2)「嗨 (やあ)」(1)「最近忙啥 (この頃何をしているの)」(1)「缘分 (縁があるね)」(1) 食事に誘う (1)

(注：表の括弧内の数字は人数、網掛けの部分は NP 表現を意味する)

上述の傾向を分かりやすくするため、表 6.20 と表 6.21 が示している日本人学生と中国人学生の先生と先輩に使用するあいさつ表現を NP 表現と PP 表現に分けて集計し、そのデータをそれぞれ表 6.22、表 6.23、表 6.24、表 6.25 に示す。

表 6.22 場面 4（その日 2 回以上出会った場面）におけるあまり親しくない先生に対するあいさつ

		日本人学生	中国人学生
場面 4	NP 表現	76 例（95%）	76 例（73%）
	PP 表現	4 例（5%）	28 例（27%）

表 6.23 場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における親しいと思う先生に対するあいさつ

		日本人学生	中国人学生
場面 4	NP 表現	107 例（88%）	52 例（43%）
	PP 表現	15 例（12%）	69 例（57%）

表 6.24 場面 4（その日 2 回以上出会った場面）におけるあまり親しくない先輩に対するあいさつ

		日本人学生	中国人学生
場面 4	NP 表現	101 例（93%）	49 例（49%）
	PP 表現	8 例（7%）	51 例（51%）

表 6.25 場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における親しいと思う先輩に対するあいさつ

		日本人学生	中国人学生
場面 4	NP 表現	96 例（76%）	33 例（29%）
	PP 表現	30 例（24%）	80 例（71%）

表 6.22 が示しているように、場面 4 においてあまり親しくない先生に対して、日本人学生が使用する PP 表現は 4 例（5%）にすぎないが、中国人学生が使用する PP 表現は、28 例（27%）に上っている。表 6.23 が示しているように、場面 4 において、親しいと思う先生に対して、日本人学生が使用する PP 表現は 15 例（12%）にとどまっているが、中国人学生が使用する PP 表現は、69 例（57%）に及んでいる。表 6.24 が示しているように、場面 4 において、あまり親しくない先輩に対して、日本人学生が使用する PP 表現は 8 例（7%）にすぎないが、中国人学生が使用する PP 表現は、51 例（51%）に達している。表 6.25 が示しているように、場面 4 において、親しいと思う先輩に対して、日本人学生が使用する PP 表現は 30 例（24%）にすぎないが、中国人学生が使用する PP 表現は、80 例（71%）に上っている。

要するに、前掲の表 6.19 に従って考えてみると、場面 4 において、親しいか親しくないかにかかわらず、先生と先輩に対してあいさつをする場合、日本人学生が PPS より PPS+NPS を使用する傾向が顕著であるのに対して、中国人学生が PPS+NPS より PPS を使用する傾向が比較的顕著である。

6.2.2.3 別れの場面

別れの場面において、日本人学生は親友に PPS、先生と先輩に PPS+NPS を使用する傾向が顕著であるのに対して、中国人学生には、親友に PPS、先生と先輩に PPS+NPS を使用するだけでなく、親友に PPS+NPS、上位者に PPS を使用する傾向も窺える。

表 6.26 が示しているように、場面 3 において、日本人学生は、親友に対して NP 表現をほとんど使用しないが、親しいか親しくないかにかかわらず先生と先輩には NP 表現を多用する傾向が顕著である。それに対して、中国人学生は親友には、日本人学生とほぼ同様の使用傾向を示しているが、先生と先輩に対しては、異なる使用傾向を示している。表 6.27 が示しているように、場面 3 において、中国人学生が親友に対して使用する NP 表現は、日本人学生より若干多いものの、12 例（10%）にすぎない。一方、先生と先輩に対してあいさつをする場合、中国人学生が使用する PP 表現は、日本人学生よりはるかに多いといえる。

表 6.26 場面 3（偶然出会って別れる場面）における日本人学生のあいさつ

あまり親しくない先生	「さようなら」(57)「お疲れ様です・でした」(38)「失礼します」(25)「ありがとうございます・ました」(2)「それでは」(2) 会釈 (5)「お気をつけて」(1)「どうも」(1) 簡単に挨拶をして帰る (1)
親しいと思う先生	「さようなら」(56)「お疲れ様です・でした」(42)「失礼します」(22) 会釈 (8)「ではまた」(4)「ありがとうございます・ました」(3)「～先生気を付けて帰ってください」(1)「また明日」(1)「先生また来週」(1)「えー先生ーおくってくださいよ」(1)「私こっちから帰ります」(1)「次の授業もよろしくお願いします」(1)
親友	「さようなら」(2)「お疲れ様でした」(1)「じゃあね」(50) バイバイ (28)「ばーい」(1)「バイ」(1)「お疲れ」(19)「またね」(15)「じゃ（あ）」(11)「また明日」(11)「じゃあまた」(5)「お（っ）つー」(3)「お疲れ様」(2)「お疲れ様でしたね」(1)「お疲れっす」(1)「それじゃ」(1)「明日ね」(2)「気を付けて（ね）」(3) 手を挙げる (1) 手を振る (5)
あまり親しくない先輩	「お疲れ様です・でした」(83)「さようなら」(35)「失礼します」(7)「ではまた」(3)「それでは」(1) 会釈 (6)「じゃあ、また」(2)「こっちからなので」(1)
親しいと思う先輩	「お疲れ様です・でした」(79)「さようなら」(33)「失礼します」(5)「それでは」(2)「ではまた」(3) 会釈 (8)「お疲れっす」(2)「おつです」(2)「お疲れ」(1)「じゃあ、また」(2)「また明日」(3)「じゃあね」(1)「どうも」(1)「お気をつけて」(1)「～さん帰っちゃうんですか」(1)「じゃ、私こっちから帰ります」(1)

（注：表の括弧内の数字は人数、網掛けの部分は NP 表現を意味する）

表 6.27 場面 3 (偶然出会って別れる場面) における中国人学生のあいさつ

あまり親しくない先生	「(～) 老师, 再见 ((～) 先生、さようなら)」(76)「再见 (さようなら)」(4)「老师, 辛苦了 (先生、お疲れ様でした)」(1)「老师您慢走 (先生、お気を付けてお帰りください)」(1)「(～) 老师, 拜拜 ((～) 先生、バイバイ)」(10)「(～) 老师, 先走了 ((～) 先生、お先に)」(7)「(～) 老师, 明天见 ((～) 先生、また明日)」(1)「拜拜 (バイバイ)」(1) 微笑 (1) 手を振る (1)
親しいと思う先生	「(～) 老师, 再见 ((～) 先生、さようなら)」(43)「再见 (さようなら)」(5)「(～) 老师, 辛苦了 ((～) 先生、お疲れ様でした)」(2)「下次见 (また今度)」(1)「(～) 老师, 拜拜 ((～) 先生、バイバイ)」(28)「(～) 老师, 明天见 ((～) 先生、また明日)」(10)「(～) 老师, 我先走了 ((～) 先生、お先に)」(6)「(～) 老师, 回去早点休息 ((～) 先生帰ってから早く休んでね)」(6)「拜拜 (バイバイ)」(6)「(～) 老师, 我走这边了 ((～) 先生、私こちらなので)」(3) 手を振る (3)「(～) 老师, 回头见 ((～) 先生、またね)」(2)「老师, 别太累了 (先生、疲れないように)」(1) 微笑 (1)
親友	「再见 (さようなら)」(11)「告辞 (失礼します)」(1)「拜拜 (バイバイ)」(42)「(我) 走了啊 (帰るよ)」(19)「明天见 (また明日)」(10)「我走这边了 (私、こちらなので)」(8)「Bye」(4)「快回去吧 (早く帰ってね)」(4)「先走了 (お先に)」(4) 手を振る (2)「要去我宿舍坐一会不 (うちの部屋に来るの)」(1)「去我那玩会吧 (ウチへ遊びに行こうか)」(1)「回见 (またね)」(3)「早点休息 (早く休んでね)」(1)「喂 (おい)」(1)「我先闪了哈 (お先に)」(1) 冗談 (3)「回去了 (帰るよ)」(1)「See you」(1)
あまり親しくない先輩	「(～) 学长・学姐, 再见 ((～) 先輩、さようなら)」(42)「再见 (さようなら)」(21) 会釈 (1)「(～) 学长・学姐, 拜拜 ((～) 先輩、バイバイ)」(16)「拜拜 (バイバイ)」(9)「(我) 先走了 (お先に)」(4)「(～) 学长・学姐, 先走了 ((～) 先輩、お先に)」(3)「(～) 学长・学姐, 我走这边了 ((～) 先輩、私こちらなので)」(2)「Bye」(2) 微笑 (2) 手を振る (1)「改天见 (また会いましょう)」(1)
親しいと思う先輩	「(～) 学长・学姐, 再见 ((～) 先輩、さようなら)」(18)「再见 (さようなら)」(14)「下次见 (また今度)」(1)「(～) 学长・学姐, 拜拜 ((～) 先輩、バイバイ)」(23)「拜拜 (バイバイ)」(21)「(学长・学姐) 明天见 ((先輩) また明日)」(6)「(～) 学长・学姐, 早点回去休息 ((～) 先輩、早く帰って休んでね)」(6)「(～) 学长・学姐, 先走了 ((～) 先輩、お先に)」(4)「哥・姐, 慢走・再见 (兄ちゃん・姉ちゃん、お気を付けて帰ってね・またね)」(3)「走了哦 (帰るよ)」(2) 微笑 (2)「(～) 学长・学姐, 我走这边了 ((～) 先輩、私こちらなので)」(3)「去我那玩会吧 (ウチへ遊びに行こうか)」(1)「喂 (おい)」(1)「Bye」(1)「(～) 学长・学姐, 慢走 ((～) 兄ちゃん・姉ちゃん、お気をつけて帰ってね)」(1)「改天一起出去玩 (いつか遊びに行こうか)」(1) 食事に誘う (1) 手を振る (1)

(注: 表の括弧内の数字は人数、網掛けの部分は NP 表現を意味する)

上述した日本人学生と中国人学生におけるあいさつの使用傾向を分かりやすくするため、表 6.26 と表 6.27 が示している日本人学生と中国人学生の先生と先輩に使用するあいさつ表現を NP 表現と PP 表現に分けて集計し、そのデータをそれぞれ表 6.28、表 6.29、表 6.30、表 6.31 に示す。

表 6.28 場面 3 (偶然出会って別れる場面) におけるあまり親しくない先生に対するあいさつ

		日本人学生	中国人学生
場面 3	NP 表現	129 例 (98%)	82 例 (80%)
	PP 表現	3 例 (2%)	21 例 (20%)

表 6.29 場面 3 (偶然出会って別れる場面) における親しいと思う先生に対するあいさつ

		日本人学生	中国人学生
場面 3	NP 表現	135 例 (96%)	51 例 (44%)
	PP 表現	6 例 (4%)	66 例 (56%)

表 6.30 場面 3（偶然出会って別れる場面）におけるあまり親しくない先輩に対するあいさつ

		日本人学生	中国人学生
場面 3	NP 表現	135 例 (98%)	64 例 (62%)
	PP 表現	3 例 (2%)	40 例 (38%)

表 6.31 場面 3（偶然出会って別れる場面）における親しいと思う先輩に対するあいさつ

		日本人学生	中国人学生
場面 3	NP 表現	130 例 (90%)	33 例 (30%)
	PP 表現	15 例 (10%)	77 例 (70%)

表 6.28 が示しているように、場面 3 においてあまり親しくない先生に対して日本人学生が使用する PP 表現は、3 例 (2%) にとどまっているのに対して、中国人学生が使用する PP 表現は、21 例 (20%) に及んでいる。表 6.29 が示しているように、場面 3 において親しいと思う先生に対して日本人学生が使用する PP 表現は、6 例 (4%) にすぎないのに対して、中国人学生が使用する PP 表現は、66 例 (56%) に達している。表 6.30 が示しているように、場面 3 においてあまり親しくない先輩に対して日本人学生が使用する PP 表現は、3 例 (2%) にすぎないのに対して、中国人学生が使用する PP 表現は、40 例 (38%) に上っている。表 6.31 が示しているように、場面 3 において親しいと思う先輩に対して日本人学生が使用する PP 表現は、15 例 (10%) にとどまっているのに対して、中国人学生が使用する PP 表現は、77 例 (70%) に及んでいる。

また、表 6.32 が示しているように、場面 5 において、日本人学生は、親友に対して NP 表現をほとんど使用しないが、親しいか親しくないかにかかわらず先生と先輩に NP 表現を多用する傾向が顕著である。それに対して、中国人学生は、異なる使用傾向を示している。表 6.33 が示しているように、場面 5 において、中国人学生が親友に対して使用する NP 表現は、日本人学生より多いことが窺える。また、先生と先輩に対してあいさつをする場合、中国人学生が使用する PP 表現は、日本人学生よりも多いといえる。

表 6.32 場面 5（共同作業をした後別れる場面）における日本人学生のあいさつ

あまり親しくない先生	「お疲れ様です・でした」(89)「さようなら」(10)「ありがとうございました」(9)「失礼します」(7) 会釈 (6)「お先に失礼します」(3)「お疲れ様」(1)
親しいと思う先生	「お疲れ様です・でした」(105)「さようなら」(8)「失礼します」(6)「お先に失礼します」(3)「ありがとうございました」(9) 会釈 (3)「お疲れ様」(1)「先生、また授業で」(1)
親友	「お疲れ様です・でした」(3)「お疲れ」(94)「お疲れ様」(15)「おつ」(4)「おう」(1)「ういっす」(1)「バイバイ」(7)「またね」(9)「じゃあね」(6)「じゃあ、お先に」(1)「お気をつけて帰ってね」(1)手を振る (1)
あまり親しくない先輩	「お疲れ様です・でした」(110)「さようなら」(6) 会釈 (5)「失礼します」(4)「ありがとうございました」(3)「お先に失礼します」(2)「お疲れ様」(1)
親しいと思う先輩	「お疲れ様です・でした」(114)「さようなら」(7)「失礼します」(5)「お先に失礼します」(4)「ありがとうございました」(3) 会釈 (3)「ありがとうございます」(1)「お疲れ」(1)「お疲れ様」(1)「お疲れっす」(1)「おつです」(2)

(注：表の括弧内の数字は人数、網掛けの部分は NP 表現を意味する)

表 6.33 場面 5（共同作業をした後別れる場面）における中国人学生のあいさつ

あまり親しくない先生	「(～) 老师、再见 ((～) 先生、さようなら)」(67)「(～) 老师、辛苦了 ((～) 先生、お疲れ様でした)」(25)「再见 (さようなら)」(6)「辛苦了 (お疲れ様でした)」(3)「老师、您慢走 (先生、お気をつけて帰ってください)」(1)「谢谢老师 (先生、ありがとう)」(1)「下次见 (また今度)」(1)「(～) 老师，我先走了 ((～) 先生、お先に)」(5)「(～) 老师、拜拜 ((～) 先生、バイバイ)」(7)「Bye, 老师 (先生、バイ)」(1)
親しいと思う先生	「(～) 老师、再见 (先生、さようなら)」(37)「(～) 老师，辛苦了 (先生、お疲れ様でした)」(26)「辛苦了 (お疲れ様でした)」(4)「再见 (さようなら)」(3)「下次见 (また今度)」(2)「老师，您慢走 (先生、お気をつけてください)」(1)「老师，我先走了 (先生、お先に)」(13)「(～) 老师、拜拜 (先生、バイバイ)」(17)「拜拜 (バイバイ)」(4)「(～) 老师，一起走吗 (先生、一緒に帰りますか)」(3)「(～) 老师、早点回去休息 (先生、早く休んでください)」(6)「Bye, 老师 (先生、バイ)」(1)「谢谢，有事叫我 (ありがとう。何かあったら連絡してね)」(1)「(～) 老师，明天见 (先生、また明日)」(3)
親友	「辛苦了 (お疲れ様でした)」(10)「今天辛苦了 (今日はお疲れ様でした)」(2)「再会 (さようなら)」(1)「再见 (さようなら)」(10)「下次见 (また今度)」(1)「(我) 走了 ((私) 帰るよ)」(15)「先走了 (お先に)」(6)「(亲爱的,) 拜拜 ((親愛な) バイバイ)」(28)「一会见 (また後で)」(1)「一起回去吧 (一緒に帰ろうか)」(13) 食事に誘う (3)「明天见 (また明日)」(2)「回去早点休息 (帰ってから早く休んでね)」(2)「Bye」(2)「回去注意一点 (帰ると気を付けてね)」(1)「See you」(1)「回头见 (また後でね)」(1)「回去了，你去哪里 (帰るよ。あなたは?)」(1)「谢啦，准备去哪儿 (ありがとう。これからどうするの)」(1)「你去哪? 干啥去? (どこに行くの。これから何をしにするの)」(1)「干得不错 (よくやったね)」(1)「先闪了 (お先に)」(1) 冗談 (1)
あまり親しくない先輩	「学长・学姐辛苦了 (先輩、お疲れ様でした)」(20)「(～) 学长・学姐，再见 ((～) 先輩、さようなら)」(38)「再见 (さようなら)」(15)「辛苦了 (お疲れ様でした)」(3)「下次见 (また今度)」(1)「(～) 学长・学姐，那我先走了 ((～) 先輩、お先に)」(6)「(～) 学长・学姐、拜拜 ((～) 先輩、バイバイ)」(12)「拜拜 (バイバイ)」(10)「(我) 走了 ((私) 帰るよ)」(3)「Bye」(2)「明天见 (また明日)」(1)「太感谢了 (どうもありがとう)」(1) 手を振る (1) 微笑 (1)
親しいと思う先輩	「学长・学姐辛苦了 (先輩、お疲れ様でした)」(19)「(～) 学长・学姐，再见 ((～) 先輩、さようなら)」(18)「再见 (さようなら)」(6)「辛苦了 (お疲れ様でした)」(4)「(～) 学长・学姐、下次见 (先輩、また今度)」(3)「下次见 (また今度)」(2)「(～) 学长・学姐、拜拜 (先輩、バイバイ)」(13)「拜拜 (バイバイ)」(12)「(我) 走了 ((私) 帰るよ)」(9)「一起回去吧 (一緒に帰ろうか)」(7)「(～) 亲，拜拜 ((親愛な) バイバイ)」(4)「(～) 学长・学姐，那我先走了 ((～) 先輩、お先に)」(4)「明天见 (また明日)」(2)「路上注意安全 (帰るとき気をつけてね)」(3)「(～) 学长・学姐，回去早点休息 ((～) 先輩、帰ってから早く休んでね)」(1)「哥・姐，See you (兄ちゃん・姉ちゃん、See you)」(1)「学长・学姐，回头见 (先輩、また後でね)」(1)「谢啦 (ありがとう)」(1)「不要留我 (引き止めないでね)」(1)「Bye」(1)「我先闪了 (お先に)」(1)「(～) 学长・学姐，一会儿有活动吗 ((～) 先輩、後で何かする予定がありますか)」(1) 食事に誘う (1)

(注：表の括弧内の数字は人数、網掛けの部分は NP 表現を意味する)

上述した日本人学生と中国人学生におけるあいさつの使用傾向を分かりやすくするため、表 6.32 と表 6.33 が示している日本人学生と中国人学生の親友、先生、先輩に使用するあいさつ表現を NP 表現と PP 表現に分けて集計し、そのデータをそれぞれ表 6.34、表 6.35、表 6.36、表 6.37、表 6.38 に示す。

表 6.34 場面 5（共同作業をした後別れる場面）における親友に対するあいさつ

		日本人学生	中国人学生
場面 5	NP 表現	3 例 (2%)	24 例 (23%)
	PP 表現	140 例 (98%)	81 例 (77%)

表 6.35 場面 5（共同作業をした後別れる場面）におけるあまり親しくない先生に対するあいさつ

		日本人学生	中国人学生
場面 5	NP 表現	124 例 (99%)	104 例 (89%)
	PP 表現	1 例 (1%)	13 例 (11%)

表 6.36 場面 5（共同作業をした後別れる場面）における親しいと思う先生に対するあいさつ

		日本人学生	中国人学生
場面 5	NP 表現	134 例 (99%)	73 例 (60%)
	PP 表現	2 例 (1%)	48 例 (40%)

表 6.37 場面 5（共同作業をした後別れる場面）におけるあまり親しくない先輩に対するあいさつ

		日本人学生	中国人学生
場面 5	NP 表現	130 例 (99%)	77 例 (66%)
	PP 表現	1 例 (1%)	37 例 (34%)

表 6.38 場面 5（共同作業をした後別れる場面）における親しいと思う先輩に対するあいさつ

		日本人学生	中国人学生
場面 5	NP 表現	137 例 (96%)	52 例 (45%)
	PP 表現	5 例 (4%)	63 例 (65%)

表 6.34 が示しているように、場面 5 において親友に対して日本人学生が使用する NP 表現は 3 例 (2%) にとどまっているのに対して、中国人学生が使用する NP 表現は、24 例 (23%) に上っている。表 6.35 が示しているように、場面 5 においてあまり親しくない先生に対して日本人学生が使用する PP 表現は、わずか 1 例 (1%) であるのに対して、中国人学生が使用する PP 表現は、13 例 (11%) に達している。表 6.36 が示しているように、場面 5 において親しいと思う先生に対して日本人学生が使用する PP 表現は、2 例 (1%) にすぎないのに対して、中国人学生が使用する PP 表現は、48 例 (40%) に上っている。表 6.37 が示しているように、場面 5 においてあまり親しくない先輩に対して日本人学生が使用する PP 表現は、1 例 (1%) にとどまっているのに対して、中国人学生が使用する PP 表現は、37 例 (34%) に及んでいる。表 6.38 が示しているように、場面 5 において親しいと思う先輩に対して日本人学生が使用する PP 表現は、わずか 5 例 (4%) であるのに対して、中国人学生が使用する PP 表現は、63 例 (65%) に達している。

表 6.39 が示しているように、「じゃあね」や「拜拜（バイバイ）」のような PP 表現は、PPS として使用される傾向が強い表現である一方、「お疲れ様でした」や「辛苦了（お疲れ様でした）」のような NP 表現は、PPS+NPS として使用される傾向が強い表現である。そう考えると、場面 3 と場面 5 において、親しいか親しくないかにかかわらず、先生と先輩に対してあいさつをする場合、日本人学生では PPS より PPS+NPS を使用する傾向が顕著であるのに対して、中国人学生では PPS+NPS だけではなく、PPS も使用されている。また、場面 5 において親友に対して、日本人学生では PPS を使用する傾向が極めて顕著であるのに対して、中国人学生では PPS だけではなく PPS+NPS を使用するケースもある程度見られる。

表 6.39 別れの場面におけるあいさつ表現とポライトネスの関係

ポライトネス		群	あいさつ表現の分類	種別	代表例
NF・PFへの配慮	PPS	A 群	定型でない非丁寧表現	PP表現	気を付けてね、路上小心、手を挙げる…
		B 群	定型でない丁寧表現		お気をつけてください、呼称+路上小心…
		C 群	定型の省略された非丁寧表現		じゃあね、またね、拜拜…
		D 群	定型の非丁寧表現		お先に、お疲れ、先閃了…
	PPS+NPS	E 群	丁寧表現がない定型的表現	NP表現	さようなら、再会、会釈…
		F 群	定型の丁寧表現		お先に失礼します、敬称+再会…
		G 群	定型の丁寧表現の複合体あるいは定型の丁寧表現と丁寧表現がない定型的表現の複合体		お先に失礼します+会釈 敬称+再会+会釈…

6.2.2.4 メールと電話の場面

中国人上級日本語学習者が戸惑っている点（戸惑い②と戸惑い③）において、日本人学生と中国人学生は、実際にどのようにあいさつをしているのかを明らかにするため、メールと電話の場面について日本人学生 130 人と中国人学生 101 人に対して自由記述式調査を実施した。その結果をそれぞれ表 6.40、表 6.41、表 6.42、表 6.43 に示す。

表 6.40 場面 6（メールの場面）における日本人学生のあいさつ

あまり親しくない先生	「(いつも) お世話になっております」(31)「こんにちは」(31)「おはようございます」(15)「お疲れ様です」(11)「お忙しいところ失礼します」(10)「お忙しいところ申し訳ありません」(6)「～教授、お世話になっております」(1)「朝早くに失礼します」(1)「突然、(メールで)失礼します」(3)「突然申し訳ありません」(5)「失礼します」(1) 名乗る (1) 名前を呼ぶ (1)
親しいと思う先生	「(いつも) お世話になっております」(37)「こんにちは」(32)「おはようございます」(15)「お疲れ様です」(12)「朝早くに失礼します」(1)「すいません」(1)「お忙しいところ申し訳ありません」(5)「忙しいところ失礼します」(8)「突然 (メールで) 失礼します」(2)「突然申し訳ありません」(4) 名前を呼ぶ (1)
親友	「こんにちは」(5)「お疲れ様です」(2)「いつもお世話になっております」(1)「急にごめん」(4)「ごめんください」(1)「ごめん」(2)「(お忙しいところ) 悪いんだけど」(3)「おはよう」(19)「おはー」(2)「よっ・よう」(4)「お疲れ」(5)「お疲れ様」(2)「おつ」(1)「やあ」(1)「どうも」(3)「やっほー」(6)
あまり親しくない先輩	「おはようございます」(20)「こんにちは」(32)「お疲れ様です」(32)「(いつも) お世話になっております」(13)「すみません」(3)「突然すみません」(6)「朝早くに失礼します」(1)「お忙しいところ申し訳ありません」(4)「お忙しいところ失礼します」(6)「悪いんだけど」(1)「突然失礼します」(2)「お久しぶりです」(2)「お世話様です」(1) お疲れ様 (1)
親しいと思う先輩	「こんにちは」(31)「おはようございます」(18)「お疲れ様です」(33)「(いつも) お世話になっております」(11)「朝早くに失礼します」(1)「お忙しいところ失礼します」(6)「すいません」(3)「突然すみません」(3)「お忙しい中申し訳ありません」(2)「突然失礼します」(1)「お久しぶりです」(1)「悪いんだけど」(1)「お元気ですか」(1)「お世話様です」(1)「お疲れ様」(1)「お疲れ」(2)

(注：表の括弧内の数字は人数、網掛けの部分は NP 表現を意味する)

表 6.41 場面 6 (メールの場面) における中国人学生のあいさつ

あまり親しくない先生	「(～) 老师 (您) 好 ((～) 先生、こんにちは)」 (63) 「您好 (こんにちは)」 (2) 「(～) 老师, 早上好 ((～) 先生、おはようございます)」 (3) 「(～) 老师 ((～) 先生)」 (17) 「抱歉, 打扰您了 (すみません、お邪魔します)」 (2) 「(～) 老师, 忙吗 ((～) 先生、忙しいですか)」 (3) 「最近忙吗 (この頃、忙しいですか)」 (3)
親しいと思う先生	「(～) 老师 (您) 好 ((～) 先生、こんにちは)」 (42) 「您好 (こんにちは)」 (1) 「老师, 早上好 (先生、おはようございます)」 (1) 「(～) 老师 ((～) 先生)」 (33) 「(～) 老师, 忙吗 ((～) 先生、忙しいですか)」 (6) 「(～) 老师, 吃饭了吗 ((～) 先生、ご飯は済みましたか)」 (2) 「现在忙吗 (忙しいですか)」 (2) 「(老师) 近来如何 ((先生) 最近いかがですか)」 (2) 「(～) 老师, 在忙啥呢 ((～) 先生、何をしていますか)」 (1) 「忙啥呢 (何をしていますか)」 (1) 「(～) 老师, 最近还好吗 ((～) 先生、お元気ですか)」 (1) 綽名を呼ぶ (1)
親友	「(～) 你好 ((～) こんにちは)」 (3) 「在干嘛 (何をしているの)」 (5) 綽名を呼ぶ (5) 名前を呼ぶ (5) 「最近忙吗 (この頃忙しい?)」 (4) 「亲爱的 (親愛な)」 (4) 「今天有空吗 (今日暇なの)」 (2) 「吃饭了吗 (ご飯は済んだの)」 (1) 「最近在忙什么呢 (この頃何をしているの)」 (1) 「最近怎么样 (最近、同だった?)」 (1) 「现在忙吗 (今忙しい?)」 (1) 「在哪呢 (どこにいるの)」 (1) 「Hello」 (1)
あまり親しくない先輩	「(～) 学长・学姐 (你) 好 ((～) 先輩、こんにちは)」 (42) 「(～) 学长・学姐 ((～) 先輩)」 (29) 「中午好 (こんにちは)」 (1) 「你好 (こんにちは)」 (1) 「(学长・学姐) 早上好 ((先輩) おはようございます)」 (2) 「(～) 学长・学姐, 打扰了 ((～) 先輩、お邪魔します)」 (3) 「(～) 学长・学姐, 最近忙吗 ((～) 先輩、最近忙しいですか)」 (7) 「学长・学姐, 最近在干嘛呢 (先輩、この頃何をしていますか)」 (1)
親しいと思う先輩	「(～) 学长・学姐 (你) 好 ((～) 先輩、こんにちは)」 (26) 「(～) 学长・学姐 ((～) 先輩)」 (29) 「早上好 (おはようございます)」 (1) 「你好 (こんにちは)」 (1) 「(～) 学长・学姐, 打扰了 ((～) 先輩、お邪魔します)」 (1) 「(～) 学长・学姐, 忙吗 ((～) 先輩、忙しいですか)」 (5) 「最近怎么样 (最近はどうですか)」 (2) 「吃饭没有 (ご飯は済みましたか)」 (2) 「(学长・学姐) 近来还好吗 ((先輩) 最近元気ですか)」 (2) 「(～) 学长・学姐, 最近忙吗 ((～) 先輩、最近忙しいですか)」 (1) 「(～) 哥・姐 ((～) 兄ちゃん・姉ちゃん)」 (1) 「好久不见, 想你了 (久しぶり。あなたのことを恋しがるよ)」 (1) 「忙不 (忙しい?)」 (1)

(注: 表の括弧内の数字は人数、網掛けの部分は NP 表現を意味する)

表 6.42 場面 7 (電話の場面) における日本人学生のあいさつ

あまり親しくない先生	「おはようございます」 (33) 「こんにちは」 (29) 「お疲れ様です」 (5) 「(いつも) お世話になっております」 (16) 「お忙しいところ申し訳ありません」 (11) 「お忙しいところ失礼します」 (11) 「失礼します・すみません」 (2) 「突然失礼します・すみません」 (7) 「恐れ入ります」 (1)
親しいと思う先生	「おはようございます」 (34) 「こんにちは」 (29) 「お疲れ様です」 (7) 「(いつも) お世話になっております」 (16) 「お忙しい中すみません」 (10) 「お忙しい中失礼します」 (11) 「突然失礼します・すみません」 (5) 「恐れ入ります」 (1) 「すみません・失礼します」 (2) 「どうも」 (1)
親友	「こんにちは」 (9) 「お疲れ様です」 (1) 「お忙しいところごめんなさい」 (5) 「突然ごめん」 (2) 「ごめん」 (1) 「おはよう」 (27) 「お疲れ」 (3) 「よっ/う」 (7) 「ういっす」 (1) 「うす」 (2) 「おっす」 (2) 「おつ」 (1) 「どうも」 (4) 「急にごめんね」 (3) 「電話出てくれてありがとう」 (1) 「朝からごめんね」 (1) 「やあ」 (1) 「やっほー」 (3) 「おはー」 (1) 「やあ!」 (1)
あまり親しくない先輩	「おはようございます」 (30) 「こんにちは」 (35) 「お疲れ様です」 (20) 「お忙しいところすみません」 (5) 「(いつも) お世話になっております」 (4) 「お忙しいところ失礼します」 (6) 「失礼します」 (2) 「突然すみません」 (7) 「突然失礼します」 (2) 「電話に出入りいただきありがとうございます」 (1) 「すみません」 (2) 「～先輩」 (2)
親しいと思う先輩	「おはようございます」 (30) 「こんにちは」 (32) 「お疲れ様です」 (22) 「(いつも) お世話になっております」 (3) 「お忙しい中すみません」 (4) 「お忙しいところ失礼します」 (4) 「突然すみません・失礼します」 (6) 「電話に出入りいただきありがとうございます」 (1) 「すみません・失礼します」 (3) 「どうも」 (2) 「お疲れっす」 (1)

(注: 表の括弧内の数字は人数、網掛けの部分は NP 表現を意味する)

表 6.43 場面 7 (電話の場面) における中国人学生のあいさつ

あまり親しくない先生	「(～) 老师 (您) 好 ((～) 先生、こんにちは)」 (61) 「您好 (こんにちは)」 (4) 「(～) 老师、打扰 (扰) 了 ((～) 先生、お邪魔します)」 (7) 「(～) 老师 ((～) 先生)」 (5) 「(～) 老师、最近还好吗 ((～) 先生、お元気ですか)」 (1) 「(～) 老师现在忙吗 ((～) 先生) 今忙しいですか)」 (13) 「(～) 老师、您吃饭了吗 ((～) 先生、ご飯は済みましたか)」 (3) 「老师、最近忙吗 (先生、最近お忙しいですか)」 (3)
親しいと思う先生	「(～) 老师 (您) 好 ((～) 先生、こんにちは)」 (37) 「(～) 老师 ((～) 先生)」 (18) 「(～) 老师、打扰您了 ((～) 先生、お邪魔します)」 (10) 「您好 (こんにちは)」 (2) 「(～) 老师吃饭了吗 ((～) 先生、ご飯は済みましたか)」 (7) 「(～) 老师现在忙吗 ((～) 先生) 今忙しいですか)」 (16) 「(～) 老师在干嘛 ((～) 先生、何をしていますか)」 (2) 「老师、有空吗 (先生、空いていますか)」 (1)
親友	「你好 (こんにちは)」 (3) 「打扰了 (お邪魔します)」 (1) 「在干嘛 (何をしているの)」 (14) 「在哪呢 (どこにいるの)」 (3) 「吃了吗 (もう食べたの)」 (5) 「亲爱的 (親愛な)」 (5) 「在忙吗 (忙しいの)」 (6) 「最近怎么样 (最近どう)」 (1) 「Hello」 (1) 「忙啥呢 (何をしているの)」 (6) 「忙不 (忙しい?)」 (1) 綽名を呼ぶ (4)
あまり親しくない先輩	「(～) 学长・学姐 (您) 好 ((～) 先輩、こんにちは)」 (45) 「您好 (こんにちは)」 (2) 「你好 (こんにちは)」 (1) 「(～) 学长・学姐 ((～) 先輩)」 (13) 「学长・学姐打扰一下 ((～) 先輩、お邪魔します)」 (10) 「(～) 学长・学姐、好久不见 ((～) 先輩、お久しぶりです)」 (1) 「(～) 学长・学姐、忙吗 ((～) 先輩、忙しいですか)」 (6) 「在干嘛呢 (何をしていますか)」 (4) 「最近忙吗 (最近、忙しいですか)」 (3) 「学长・学姐吃了吗 ((～) 先輩、ご飯は済みましたか)」 (2) 「在干嘛呢 (何をしていますか)」 (1) 「(～) 学长・学姐、最近怎么样 ((～) 先輩、最近どうでしたか)」 (1)
親しいと思う先輩	「(～) 学长・学姐 ((～) 先輩)」 (30) 「(～) 学长・学姐 (您) 好 ((～) 先輩、こんにちは)」 (15) 「您好 (こんにちは)」 (1) 「中午好 (こんにちは)」 (1) 「你好 (こんにちは)」 (1) 「(～) 学长・学姐、忙吗 ((～) 先輩、忙しいですか)」 (7) 「(学长・学姐) 最近忙啥呢 ((～) 先輩、この頃何をしていますか)」 (3) 「(～) 学长・学姐吃过饭了吗 ((～) 先輩、ご飯は済みましたか)」 (3) 「好久没联系了 (しばらくですね)」 (2) 「有空吗 (空いていますか)」 (2) 「(～) 哥・姐 ((～) 兄ちゃん・姉ちゃん)」 (1) 「(～) 学长・学姐、在忙什么呢 ((～) 先輩、何をしていますか)」 (1) 「(～) 学长・学姐、最近怎么样 ((～) 先輩、最近はどうですか)」 (1) 「学长・学姐打扰了 ((～) 先輩、お邪魔します)」 (1) 「打扰一下 (お邪魔します)」 (1)

(注：表の括弧内の数字は人数、網掛けの部分は NP 表現を意味する)

これらの表のデータからわかるように、場面 6 と場面 7 において親友に対してあいさつをする場合、日本人学生と中国人学生における使用状況には顕著な差異が見られない。しかし、場面 6 において親しいと思う先生と先輩に対してあいさつをする場合、日本人学生より中国人学生において NP 表現を使用する傾向が比較的顕著である。また、場面 7 において、親しいか親しくないかにかかわらず先生と先輩にあいさつをする場合、日本人学生に比べると、中国人学生が NP 表現を多用する傾向がある程度窺える。

その傾向を分かりやすくするため、表 6.40 から表 6.43 が示している日本人学生と中国人学生の親友、先生、先輩に使用するあいさつ表現を NP 表現と PP 表現に分けて集計し、そのデータをそれぞれ表 6.44、6.45、表 6.46、表 6.47、表 6.48 に示す。

表 6.44 メール・電話 (場面 6・7) の場面における親友に対するあいさつ

		日本人学生	中国人学生
場面 6	NP 表現	18 例 (30%)	3 例 (9%)
	PP 表現	43 例 (70%)	31 例 (91%)
場面 7	NP 表現	18 例 (24%)	4 例 (8%)
	PP 表現	58 例 (76%)	46 例 (92%)

表 6.45 場面 6・7（メール・電話の場面）におけるあまり親しくない先生に対するあいさつ

		日本人学生	中国人学生
場面 6	NP 表現	115 例 (98%)	87 例 (94%)
	PP 表現	2 例 (2%)	6 例 (6%)
場面 7	NP 表現	115 例 (100%)	76 例 (79%)
	PP 表現	0 例 (0%)	20 例 (21%)

表 6.46 場面 6・7（メール・電話の場面）における親しいと思う先生に対するあいさつ

		日本人学生	中国人学生
場面 6	NP 表現	117 例 (99%)	77 例 (83%)
	PP 表現	1 例 (1%)	16 例 (17%)
場面 7	NP 表現	115 例 (99%)	59 例 (69%)
	PP 表現	1 例 (1%)	26 例 (31%)

表 6.47 場面 6・7（メール・電話の場面）におけるあまり親しくない先輩に対するあいさつ

		日本人学生	中国人学生
場面 6	NP 表現	122 例 (98%)	78 例 (91%)
	PP 表現	2 例 (2%)	8 例 (9%)
場面 7	NP 表現	114 例 (98%)	72 例 (81%)
	PP 表現	2 例 (2%)	17 例 (19%)

表 6.48 場面 6・7（メール・電話の場面）における親しいと思う先輩に対するあいさつ

		日本人学生	中国人学生
場面 6	NP 表現	111 例 (96%)	58 例 (79%)
	PP 表現	5 例 (4%)	15 例 (21%)
場面 7	NP 表現	105 例 (97%)	47 例 (68%)
	PP 表現	3 例 (3%)	22 例 (32%)

表 6.44 が示しているように、場面 6 と場面 7 において親友にあいさつをする場合、日本人学生が使用する NP 表現はそれぞれ 18 例 (30%) と 18 例 (24%)、中国人学生が使用する NP 表現はそれぞれ 3 例 (9%) と 4 例 (8%) である。中国人学生より日本人学生が使用する例数は若干多いものの、両者における差異はほとんどないといえる。しかし、表 6.46 と表 6.48 が示しているように、場面 6 において親しいと思う先生と先輩にあいさつをする場合、日本人学生が使用する PP 表現は 1 例 (1%) と 5 例 (4%) にすぎないのに対して、中国人学生が使用する PP 表現は、それぞれ 16 例 (17%) と 15 例 (21%) に上っている。また、場面 7 において親しいか親しくないかにかかわらず先生と先輩にあいさつをする場合、日本人学生より、中国人学生において PP 表現を使用する傾向が比較的顕著であるといえる。表 6.45 が示しているように、場面 7 において、あまり親しくない先生にあいさつをする場合、日本人学生が使用する PP 表現は 1 例もない (0%) のに対して、中国人学生が使用する PP 表現は、20 例 (21%) に及んでいる。表 6.46 が示しているように、場面 7 において、親しいと思う先生にあいさつをする場合、日本人学生が使用する PP 表現は 1 例 (1%) にとどまっているのに対して、中国人学生が使用する PP 表現の例数は 26 例 (31%) に達している。表 6.47 が示しているように、場面 7 においてあまり親しくない先輩にあいさつをする場合、日本人学生が使用する PP 表現はわずか 2 例 (2%) であるのに対して、

中国人学生が使用する PP 表現は 17 例 (19%) に上っている。表 6.48 が示しているように、場面 7 において親しいと思う先輩にあいさつをする場合、日本人学生が使用する PP 表現は 3 例 (3%) にとどまっているのに対して、中国人学生が使用する PP 表現は 22 例 (32%) に及んでいる。

前掲の表 6.19 に従って、上述の結果をまとめると、場面 6 においてあいさつをする場合、日本人学生が親しいか親しくないかにかかわらず先生と先輩に PPS+NPS を使用する傾向が顕著であるのに対して、中国人留学生が親しいと思う先生と先輩に PPS+NPS だけではなく PPS を使用するケースもある。また、場面 7 において親しいか親しくないかにかかわらず先生と先輩にあいさつをする場合、日本人学生が PPS+NPS を使用する傾向が顕著であるのに対して、中国人学生が PPS+NPS だけではなく、PPS を使用する傾向も比較的顕著である。

以上、日本人学生と中国人学生のあいさつ使用に関する全体的な傾向（特徴）を検討した。場面 1、場面 2、場面 3、場面 7 においてあいさつをする場合、親しいか親しくないかにかかわらず先生と先輩にあいさつをする場合、日本人学生では PPS+NPS を使用する傾向が顕著であるのに対して、中国人学生では PPS+NPS だけではなく PPS も使用されている。場面 4 において、親しいか親しくないかにかかわらず先生と先輩にあいさつをする場合、日本人学生では PPS より PPS+NPS を使用する傾向が顕著であるのに対して、中国人学生が PPS+NPS より PPS を使用する傾向が比較的顕著である。場面 5 において親友にあいさつをする場合、日本人学生では PPS を使用する傾向が顕著であるのに対して、中国人学生では PPS だけではなく、PPS+NPS も使用されている。場面 6 においてあいさつをする場合、日本人学生では親しいか親しくないかにかかわらず先生と先輩に PPS+NPS を使用する傾向が顕著であるのに対して、中国人学生では親しいと思う先生と先輩に PPS+NPS だけではなく PPS を使用するケースもある。

以上からわかるように、日本人学生はいずれの場面においても、先生と先輩に PPS+NPS を使用する傾向が見られた。それに対して、中国人学生は場面 1 から場面 5 および場面 7 において先生と先輩に PPS+NPS だけではなく、PPS を使用するケースもあることが確認された。このような結果から、日本人学生が、親しい目上の相手にあいさつをする際親しい目上の相手とも上下関係の区分を明確にするのに対して、中国人学生は、親しい目上の人にあいさつをする際上下関係の区分をほとんどしないことがわかった。

6.2.3 あいさつの場面・対人関係による使用制限

以上の検討により、日本人学生と中国人学生のあいさつ使用に関する全体的な使用傾向が明らかになったが、個別のあいさつ表現に関する使用上の特徴がまだ明らかになっていない。たとえば、「おはよう (～)」と「(～) 早 (～)」の使用にはどのような特徴があるのか、「こんにちは」と「(～) 好」の使用にはどのような特徴があるのか、「おはよう (～)」

と「こんにちは」との間にどのような使い分けがあるのかなどの問題はまだ解決されていない。第4章で述べた中国人上級日本語学習者のあいさつ使用に関する困難点には、「おはよう（～）」と「こんにちは」の使い分け、「さようなら」の用法、「お疲れ（～）」の用法などの具体的な困難点が含まれている。これらの具体的な困難点が生ずるところでは、日本人学生が実際にどのようにあいさつをしているのか、中国人学生との間にどのような相違点があるのかを明らかにするため、あいさつの使用に関する全体的な傾向だけではなく、日本人学生と中国人学生における個別のあいさつ表現の使用上の特徴を検討する必要もあると考えられる。また、「上位者に対してどのようにあいさつをすべきかわからないことがある」という困難点も現れているので、本節では、対人関係による使用制限の視点から、自由記述式調査から得たデータを用い、日本人学生と中国人学生における個々のあいさつ表現の使用についての相違点を明らかにしていく。

6.2.3.1 「おはよう（～）」と「（～）早（～）」

中国語のあいさつ表現「（～）早（～）」は、日本語のあいさつ表現「おはよう（～）」にあたるが、「おはよう（～）」より表現の種類がより豊かである。「（～）早（～）」には、「早（上好）」「早啊」「早呀」「你早」「老师早（上好）」「学长早（上好）」「早上好」「早安」などが含まれている。それに対して、「おはよう（～）」には「おはよう」と「おはようございます」という二つがあるにすぎない。本節で考察する「おはよう（～）」と「（～）早（～）」は、上述のすべての表現の種類を含む。

6.2.3.1.1 その日初めて出会った場面

日本人学生における「おはよう（～）」と中国人学生における「（～）早（～）」の使い方を見ると、対人関係による使用制限の差異が顕著である。

表 6.49 が示しているように、場面 1（午前中 11 時頃）においてあまり親しくない先生に対して、「おはよう～」とあいさつする日本人学生も「（～）早（～）」とあいさつする中国人学生も多くないが、親しいと思う先生、親友、あまり親しくない先輩、親しいと思う先輩に「おはよう（～）」とあいさつする日本人学生が少なくないのに対して、「（～）早（～）」とあいさつする中国人学生はほとんどいない。また、表 6.50 が示しているように、場面 2（午後 12 時半頃）において親友に「おはよう」とあいさつする日本人学生が比較的多いのに対して、「（～）早（～）」とあいさつする中国人学生はほとんどいない。

表 6.49 場面 1 (11 時頃に会った場面) における「おはよう (～)」と (～) 早 (～)

調査対象 対人関係	おはよう (～)		(～) 早 (～)		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	130 人中	割合	101 人中	割合		
あまり親しくない先生	17	13%	7	7%	213.08**	2.44ns
親しいと思う先生	52	40%	5	5%		48.16**
親友	56	43%	2	2%		75.08**
あまり親しくない先輩	26	20%	0	0%		48.86**
親しいと思う先輩	37	28%	0	0%		71.97**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 6.50 場面 2 (12 時半頃に会った場面) における「おはよう (～)」と (～) 早 (～)

調査対象 対人関係	おはよう (～)		(～) 早 (～)		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	130 人中	割合	101 人中	割合		
あまり親しくない先生	1	0.8%	0	0%	59.66**	1.75ns
親しいと思う先生	8	6%	0	0%		14.28**
親友	33	25%	1	1%		41.70**
あまり親しくない先輩	5	4%	0	0%		8.86**
親しいと思う先輩	10	8%	1	1%		7.48**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

場面 1 において、日本人学生があまり親しくない先生に対して、「おはようございます」をほとんど使用しないのは、上記の表 6.4 に示したように、場面 1 においてあまり親しくない先生と先輩にあいさつをしない日本人学生が多いことと関連していると考えられる。

また、表 6.49 からわかるように、場面 1 において、親しいと思う先生、親友、あまり親しくない先輩、親しいと思う先輩に「おはよう (～)」とあいさつする日本人学生がそれぞれ 52 人 (40%)、56 人 (43%)、26 人 (20%)、37 人 (28%) に上っているのに対して、同様の状況で親しいと思う先生と親友に「(～) 早 (～)」とあいさつする中国人学生はそれぞれ 5 人 (5%)、2 人 (2%) にとどまっている。そして、親しいか親しくないかにかかわらず、先輩に「(～) 早 (～)」とあいさつする中国人学生は 1 人もいない。表 6.50 からわかるように、場面 2 において親友に「おはよう (～)」とあいさつする日本人学生が 33 人 (25%) に達しているのに対して、同様の状況で親友に「(～) 早 (～)」とあいさつする中国人学生はわずか 1 人にすぎない。角変換法による相手別と母語話者別の分散分析を行った結果、場面 1 と場面 2 とともに母語話者別の主効果が有意であった。そこで、下位検定として単純主効果検定を行い、表 6.49 と表 6.50 が示しているように、対象者が親しいと思う先生、親友、先輩である場合、日本人学生と中国人学生の間に有意差があることを確認した。

要するに、場面 1 と場面 2 においてあいさつをする場合、日本人学生が親しいと思う先生、親友、先輩に「おはよう (～)」を使用する傾向が顕著であるのに対して、中国人学生

は「おはよう（～）」に当たる中国語表現「（～）早（～）」をほとんど使用しない。

6.2.3.1.2 その日 2 回以上出会った場面

以上のように、日本語の「おはよう（～）」と中国語の「（～）早（～）」の使用に関する対人関係による使用制限について、日本人学生と中国人学生は、大きな差異を示している。すなわち、日本人学生が午後の時間にも親友に「おはよう（～）」を比較的多く使用しているのに対して、中国人学生は午前中の時間か午後の時間かにかかわらず、誰に対してもほとんど「（～）早（～）」を使用しない。

しかし、場面 4（その日 2 回以上出会った場面）においては、中国人学生における「（～）早（～）」の使用と比べると、日本人学生が「おはよう（～）」を若干多く使用しているといえるが、その使用の差異が顕著であるとは言い難い。表 6.51 が示しているように、場面 4 において親友にあいさつをする場合、「（～）早（～）」を使用する中国人学生は 1 人もいないのに対して、「おはよう（～）」を使用する日本人学生は 4 人いる。上述した場面 1 と場面 2 と比べてみれば、午後 12 時半頃、2 回目に出会ったときに親友に「おはよう（～）」を使用する日本人学生ははるかに少ないがある程度存在している。

また、場面 4 においてあいさつをする場合、親しいと思う先生と親友以外の人に対して、日本人学生は中国人学生とほぼ同様の使用傾向を示している。

表 6.51 場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における「おはよう（～）」と「（～）早（～）」

対人関係	調査対象				母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	おはよう（～） 130 人中	割合	（～）早（～） 101 人中	割合		
あまり親しくない先生	1	1%	0	0%	14.12**	1.75ns
親しいと思う先生	3	2%	0	0%		5.29*
親友	4	3%	0	0%		7.07**
あまり親しくない先輩	3	2%	1	1%		0.63ns
親しいと思う先輩	1	1%	0	0%		1.75ns

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 6.51 が示しているように、場面 4 においてあまり親しくない先生、親しいと思う先生、親しいと思う先輩に「（～）早（～）」を使用する中国人学生は 1 人もいない。あまり親しくない先輩に「（～）早（～）」を使用する中国人学生はいるものの、わずか 1 人にすぎない。一方、同様の状況で、親しいと思う先生と親友に「おはよう（～）」を使用する日本人学生は、若干存在している。角変換法による相手別と母語話者別の分散分析を行った結果、場面 4 のデータにおいて母語話者別の主効果が有意であった。そこで、下位検定として単純主効果検定を行い、表 6.51 が示しているように、対象者が親しいと思う先生と親友である場合、日本人学生と中国人学生の間に有意差があることを確認した。一方、対象者が先

輩とあまりしたしくない先生である場合、日本人学生と中国人学生の間に有意差がないことを確認した。

6.2.3.1.3 メールと電話の場面

上述した場面 4 における日本語の「おはよう (～)」と中国語の「(～) 早 (～)」に關する日本人学生と中国人学生の使用状況からわかるように、場面 4 においては、中国人学生が誰に対してもほとんど「(～) 早 (～)」を使用しないのと同じように、同様の状況では、日本人学生も誰に対しても「おはよう (～)」をほとんど使用しない。要するに、場面 4 では、日本語の「おはよう (～)」と中国語の「(～) 早 (～)」における対人関係による使用制限の差異がほとんど見られない。しかし、場面 6 (メールの場面) と場面 7 (電話の場面) では、その対人関係による使用制限の差異が窺える。

表 6.52 と表 6.53 が示しているように、場面 6 と場面 7 においてあいさつをする場合、中国人学生が誰に対してもほとんど「(～) 早 (～)」を使用しないのに対して、対人関係の上下・親疎にかかわらず、日本人学生は比較的多く使用している。たとえば、表 6.52 が示しているとおり、場面 6 (メールの場面) においてあいさつをする場合、相手が誰かに関わらず「(～) 早 (～)」を使用する中国人学生は、ほとんどいないのに対して、同様の場面において先生、親友、先輩にあいさつをする場合、「おはよう (～)」を使用する日本人学生は、15 人以上 (12% 以上) に及んでいる。表 6.53 も類似した使用傾向を示している。

表 6.52 場面 6 (メールの場面) における「おはよう (～)」と「(～) 早 (～)」

調査対象 対人関係	おはよう (～)		(～) 早 (～)		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	130 人中	割合	101 人中	割合		
あまり親しくない先生	15	12%	3	3%	83.59**	6.83**
親しいと思う先生	15	12%	1	1%		13.86**
親友	19	15%	0	0%		34.98**
あまり親しくない先輩	20	15%	2	2%		15.59**
親しいと思う先輩	18	14%	1	1%		18.02**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 6.53 場面 7 (電話の場面) における「おはよう (～)」と「(～) 早 (～)」

調査対象 対人関係	おはよう (～)		(～) 早 (～)		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	130 人中	割合	101 人中	割合		
あまり親しくない先生	33	25%	0	0%	293.31**	63.37**
親しいと思う先生	34	26%	0	0%		65.50**
親友	27	21%	0	0%		50.89**
あまり親しくない先輩	30	23%	0	0%		57.07**
親しいと思う先輩	30	23%	0	0%		57.07**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

角変換法による相手別と母語話者別の分散分析を行った結果、場面 6 と場面 7 のいずれのデータにおいても母語話者別の主効果が有意であった。そこで、下位検定として単純主効果検定を行い、表 6.52 と表 6.53 が示しているように、対象者が誰かに関わらず、日本人学生と中国人学生の間に有意差があることを確認した。

要するに、場面 6 において、相手が誰かにかかわらず、日本人学生が「おはよう (～)」を比較的多く使用するのに対して、中国人学生は「(～) 早 (～)」をほとんど使用しない。

以上、日本人学生と中国人学生における日本語の「おはよう (～)」と中国語の「(～) 早 (～)」の対人関係による使用制限、特に両者における対人関係による使用制限の異同を検討した。その結果、場面 4 においては、「おはよう (～)」と「(～) 早 (～)」における対人関係による使用制限の差異が見られないが、場面 1、場面 2、場面 4、場面 6、場面 7 においては、その対人関係による使用制限の差異が窺える。すなわち、場面 1、場面 2、場面 4、場面 6、場面 7 において、「おはよう (～)」より「(～) 早 (～)」の対人関係による使用制限が強い。上記のような対人関係による使用制限の差異は、「おはよう (～)」と「(～) 早 (～)」に限らず、「こんにちは」と「(～) 好」にも見られる。

6.2.3.2 「こんにちは」と「(～) 好」

中国語のあいさつ表現「(～) 好」は、日本語のあいさつ表現「こんにちは」にあたるが、「こんにちは」より表現の種類がより豊かである。「(～) 好」には、「你好」「您好」「老师好」「学长好」「老师，您好」「老师，你好」「学长，您好」「学长，你好」などが含まれている。それに対して、標準日本語としての「こんにちは」には「こんにちは」という一つにすぎない。本節で考察する「(～) 好」は、上述のすべての表現の種類を含む。

6.2.3.2.1 出会いの場面

表 6.54 が示しているように、場面 1 においてあまり親しくない先生と先輩に「こんにちは」を使用する日本人学生は、それぞれ 16 人 (12%) と 31 人 (24%) であるのに対して、同一の場面において同一の対人関係で「(～) 好」を使用する中国人学生は、それぞれ 77 人 (76%) と 56 人 (55%) に上っている。

表 6.54 場面 1 (11 時頃に会った場面) における「こんにちは」と「(～) 好」

調査対象 対人関係	こんにちは		(～) 好		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	130 人中	割合	101 人中	割合		
あまり親しくない先生	16	12%	77	76%	56.31**	112.37**
親しいと思う先生	54	42%	56	55%		4.43*
親友	3	2%	1	1%		0.63ns
あまり親しくない先輩	31	24%	56	55%		24.72**
親しいと思う先輩	42	32%	32	32%		0.01ns

(** $p < .01$, * $p < .05$)

角変換法による相手別と母語話者別の分散分析を行った結果、場面 1 のデータにおいて母語話者別の主効果が有意であった。そこで、下位検定として単純主効果検定を行い、場面 1 において先生とあまり親しくない先輩が対象である場合日本人学生と中国人学生の間に有意差があることを確認した。要するに、場面 1 において先生とあまり親しくない先輩にあいさつをする場合、日本語のあいさつ表現「こんにちは」の使用と比べると、中国語のあいさつ表現「(～) 好」の使用のほうがより顕著である。

上述した結果が生じたのは、場面 1 において先生と先輩にあいさつをしない日本人学生が比較的多いのに対して、同様の状況であいさつをしない中国人学生がほとんどいないということによるものであると考えられる。上記の表 6.4 が示しているように、場面 1 においてあまり親しくない先生と先輩にあいさつをしない日本人学生は、それぞれ 77 人 (59%) と 21 人 (16%) に達しているのに対して、同一の場面において同一の対人関係であいさつをしない中国人学生は、わずか各 3 人 (3%) にすぎない。

しかし、「こんにちは」と「(～) 好」における対人関係による使用制限の差異は、すべての場面に当てはまるわけではない。表 6.55 が示しているように、場面 2 において、相手が誰かにかかわらず、「こんにちは」を使用する日本人学生の人数と「(～) 好」を使用する中国人学生の人数の間に、顕著な差異が見られない。

表 6.55 が示しているように、場面 2 において「こんにちは」を使用する日本人学生と「(～) 好」を使用する中国人学生の間に若干の差異があるが、角変換法による相手別と母語話者別の分散分析を行った結果、場面 2 のデータにおいて母語話者別の主効果が有意ではなかった。

表 6.55 場面 2 (12 時半頃に会った場面) における「こんにちは」と「(～) 好」

調査対象 対人関係	こんにちは		(～) 好		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	130 人中	割合	101 人中	割合		
あまり親しくない先生	26	20%	75	74%	0.47ns	
親しいと思う先生	93	72%	34	34%		
親友	5	4%	1	1%		
あまり親しくない先輩	44	34%	49	49%		
親しいと思う先輩	67	52%	20	20%		

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 6.56 場面 4 (その日 2 回以上会った場面) における「こんにちは」と「(～) 好」

調査対象 対人関係	こんにちは		(～) 好		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	130 人中	割合	101 人中	割合		
あまり親しくない先生	27	21%	63	62%	20.01**	43.46**
親しいと思う先生	43	33%	42	42%		1.76ns
親友	4	3%	2	2%		0.28ns
あまり親しくない先輩	28	22%	35	35%		4.90*
親しいと思う先輩	33	25%	28	28%		0.16ns

(** $p < .01$, * $p < .05$)

ただし、場面 4 においては、「こんにちは」と「(～) 好」における対人関係による使用制限の差異は若干見られる。表 6.56 が示しているように、場面 4 においてあまり親しくない先生にあいさつをする場合、「こんにちは」を使用する日本人学生は 27 人 (21%) であるのに対して、同様の状況で「(～) 好」を使用する中国人学生は 63 人 (62%) に及んでいる。角変換法による相手別と母語話者別の分散分析を行った結果、場面 4 のデータにおいて母語話者別の主効果が有意であった。そこで、下位検定として単純主効果検定を行い、場面 4 においてあまり親しくない先生と先輩が対象である場合日本人学生と中国人学生の間有意差があることを確認した。

要するに、場面 4 においてあまり親しくない先生と先輩にあいさつをする場合、「こんにちは」を使用する日本人学生より、「こんにちは」に当たる中国語の「(～) 好」を使用する中国人学生の比率が高い。この結果が生じたのは、場面 4 においてあまり親しくない先生と先輩にあいさつをしない日本人学生が比較的多いのに対して、同様の状況であいさつをしない中国人学生がほとんどいないということによるものであると考えられる。たとえば、前掲の表 6.6 が示しているように、場面 4 においてあまり親しくない先生にあいさつをしない日本人学生が 57 人 (44%) に上っているのに対して、同様の状況であいさつをしない中国人学生はわずか 6 人 (6%) にすぎない。

6.2.3.2.2 メールと電話の場面

上述した日本語の「こんにちは」と中国語の「(～) 好」における対人関係による使用制限の差異は、場面 1 と場面 4 に限らず、場面 6 と場面 7 (メールと電話の場面) から窺える。

表 6.57 と表 6.58 が示しているように、場面 6 と場面 7 においてあいさつをする場合、親しいか親しくないかにかかわらず先生と先輩に対しては日本人学生が「こんにちは」を比較的多く使用する一方、親友に対しては、ほとんど使用しない。また、同様の状況で、中国人学生は日本人学生と同様の使用傾向を示している。しかし、場面 6 と場面 7 において先生とあまり親しくない先輩にあいさつをする場合、「こんにちは」を使用する日本人学生より、「(～) 好」を使用する中国人学生の方がより多い。表 6.57 が示しているとおり、場面 6 において、あまり親しくない先生、親しいと思う先生、あまり親しくない先輩にあいさつをする場合、「こんにちは」を使用する日本人学生は、それぞれ 31 人 (24%)、32 人 (25%)、32 人 (25%) であるのに対して、同一の場面において同様の対人関係に「(～) 好」を使用する中国人学生は、それぞれ 65 人 (64%)、43 人 (43%)、44 人 (44%) に達している。また、表 6.58 が示しているとおり、場面 7 において、あまり親しくない先生、親しいと思う先生、あまり親しくない先輩にあいさつをする場合、「こんにちは」を使用する日本人学生は、それぞれ 29 人 (22%)、29 人 (22%)、35 人 (27%) であるのに対して、同一の場面において同様の対人関係に「(～) 好」を使用する中国人学生は、それぞれ 64 人

(63%)、39 人 (39%)、48 人 (48%) に上っている。

表 6.57 場面 6 (メールの場面) における「こんにちは」と「(～) 好」

調査対象 対人関係	こんにちは		(～) 好		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	130 人中	割合	101 人中	割合		
あまり親しくない先生	31	24%	65	64%	30.81**	40.25**
親しいと思う先生	32	25%	43	43%		8.35**
親友	5	4%	3	3%		0.13ns
あまり親しくない先輩	32	25%	44	44%		9.25**
親しいと思う先輩	31	24%	27	27%		0.25ns

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 6.58 場面 7 (電話の場面) における「こんにちは」と「(～) 好」

調査対象 対人関係	こんにちは		(～) 好		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	130 人中	割合	101 人中	割合		
あまり親しくない先生	29	22%	64	63%	18.98**	41.79**
親しいと思う先生	29	22%	39	39%		7.25**
親友	9	7%	3	3%		1.97ns
あまり親しくない先輩	35	27%	48	48%		10.52**
親しいと思う先輩	32	25%	18	18%		1.52ns

(** $p < .01$, * $p < .05$)

角変換法による相手別と母語話者別の分散分析を行った結果、場面 6 と場面 7 とともに母語話者別の主効果が有意であった。そこで、下位検定として単純主効果検定を行い、場面 6 と場面 7 においてあまり親しくない先生、親しいと思う先生、あまり親しくない先輩が対象である場合日本人学生と中国人学生の間に有意差があることを確認した。要するに、場面 6 と場面 7 において、先生とあまり親しくない先輩にあいさつをする場合、日本語のあいさつ表現「こんにちは」の使用と比べると、中国語のあいさつ表現「(～) 好」の使用のほうがより顕著である。

以上、「こんにちは」と「(～) 好」における対人関係による使用制限の差異を検討した。その結果、場面 1 においてあまり親しくない先生と先輩に、場面 4 においてあまり親しくない先生に、場面 6 と場面 7 において、先生とあまり親しくない先輩にあいさつをする場合、「こんにちは」を使用する日本人学生より、「(～) 好」を使用する中国人学生の比率が高いということが明らかになった。

6.2.3.3 「さようなら」と「(～) 再见」

日本人学生と中国人学生のあいさつ使用に関する相違点は、「おはよう (～)」と「(～) 好 (～)」および「こんにちは」と「(～) 好」に限らず、別れのあいさつ表現「さようなら」とそれに当たる中国語表現「(～) 再见」にも見られる。

表 6.59 場面 3（偶然出会って別れる場面）における「さようなら」と「(～) 再见」

調査対象 対人関係	さようなら		(～) 再见		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	130 人中	割合	101 人中	割合		
あまり親しくない先生	57	44%	80	79%	51.56**	31.73**
親しいと思う先生	56	43%	48	48%		0.45ns
親友	2	2%	11	11%		10.21**
あまり親しくない先輩	35	27%	63	62%		30.27**
親しいと思う先輩	33	25%	32	32%		1.11ns

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 6.59 が示しているように、場面 3（偶然出会って別れる場面）において親しいか親しくないかにかかわらず先生と先輩に対しては、日本人学生は「さようなら」を比較的多く使用するが、親友に対してはほとんど使用しない。同様の状況で、中国人学生は同様の使用傾向を示している。しかし、場面 3 においてあまり親しくない先生と先輩に「さようなら」を使用する日本人学生より「(～) 再见」を使用する中国人学生の比率が高い。

表 6.59 が示しているとおり、場面 3 においてあまり親しくない先生と先輩に「さようなら」を使用する日本人学生は、それぞれ 57 人（44%）と 35 人（27%）であるのに対して、同様の状況で「さようなら」に当たる中国語の「(～) 再见」を使用する中国人学生は、それぞれ 80 人（79%）と 63 人（62%）に及んでいる。角変換法による相手別と母語話者別の分散分析を行った結果、場面 3 のデータにおいて母語話者別の主効果が有意であった。そこで、下位検定として単純主効果検定を行い、場面 3 においてあまり親しくない先生と先輩および親友が対象である場合日本人学生と中国人学生の間に有意差があることを確認した。要するに、場面 3 においてあまり親しくない先生と先輩および親友にあいさつをする場合、日本語の「さようなら」の使用と比べると、中国語の「(～) 再见」の使用のほうがより顕著である。

表 6.60 場面 5（共同作業をした後別れる場面）における「さようなら」と「(～) 再见」

調査対象 対人関係	さようなら		(～) 再见		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	130 人中	割合	101 人中	割合		
あまり親しくない先生	10	8%	73	72%	251.88**	122.87**
親しいと思う先生	8	6%	40	40%		42.02**
親友	0	0%	10	10%		23.29**
あまり親しくない先輩	6	5%	53	52%		80.09**
親しいと思う先輩	7	5%	24	24%		17.19**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 6.60 が示しているように、場面 5（共同作業をした後別れる場面）において、親しいか親しくないかにかかわらず先生と先輩に「さようなら」を使用する日本人学生は若干いるものの、親友に「さようなら」を使用する日本人学生は 1 人もいない。同様の状況で中国人学生は類似的な使用傾向を示している。すなわち、場面 5 において親しいか親しくな

いかにかかわらず先生と先輩にあいさつをする場合、「(～) 再见」を使用する中国人学生が多いものの、親友に「(～) 再见」を使用する中国人学生は少ない。

しかし、場面 5 においてあいさつをする場合、相手が誰かに関わらず「さようなら」を使用する日本人学生より「(～) 再见」を使用する中国人学生のほうがはるかに多い。表 6.60 が示しているとおおり、場面 5 において、あまり親しくない先生、親しいと思う先生、親友、あまり親しくない先輩、親しいと思う先輩に「さようなら」を使用する日本人学生は、それぞれ 10 人 (8%)、8 人 (6%)、0 人 (0%)、6 人 (5%)、7 人 (5%) にとどまっているのに対して、同様の状況で「(～) 再见」を使用する中国人学生は、それぞれ 73 人 (72%)、40 人 (40%)、10 人 (10%)、53 人 (52%)、24 人 (24%) に達している。

角変換法（逆正弦変換法）による相手別と母語話者別の分散分析を行った結果、場面 5 のデータにおいて母語話者別の主効果が有意であった。そこで、下位検定として単純主効果検定を行い、場面 5 において相手が誰かに関わらず日本人学生と中国人学生の間に有意差があることを確認した。要するに、場面 5 においてあいさつをする場合、相手が誰かに関わらず、日本語のあいさつ表現「さようなら」の使用と比べると、中国語のあいさつ表現「(～) 再见」の使用のほうがより顕著である。

以上、別れのあいさつ表現「さようなら」と「(～) 再见」における対人関係による使用制限の相違点を考察した。場面 3 においてあまり親しくない先生と先輩および親友に、場面 5 において先生、親友、先輩にあいさつをする場合、「さようなら」を使用する日本人学生より、「さようなら」に当たる中国語表現「(～) 再见」を使用する中国人学生の比率が高いということがわかった。

6.2.3.4 「お疲れ (～)」と「(～) 辛苦了」

あいさつ表現「お疲れ (～)」には、「お疲れ」、「お疲れ様」、「お疲れ様です」、「お疲れ様でした」、「お疲れさん」、「お疲れっす」、「お疲れです」などが含まれている。あいさつ表現「(～) 辛苦了」には、「你 (您) 辛苦了」、「老师 (您) 辛苦了」、「学长 (您) 辛苦了」などが含まれている。本節で考察する「お疲れ (～)」と「(～) 辛苦了」は、上述のすべての表現の種類を含む。

「お疲れ (～)」は、「おはよう (～)」、「こんにちは」、「さようなら」と違って、出会いのあいさつであると同時に別れのあいさつでもある。また、「お疲れ (～)」をねぎらいのあいさつとして使用しても差し支えない。これについては、登田 (2004:4) と倉持 (2008a・2008b) から窺える。つまり、「お疲れ (～)」には、「出会い」、「別れ」、「ねぎらい」という三つの機能がある。「お疲れ (～)」をどの機能で使用しているかを考察する場合、具体的な場面を合わせて判断する必要があると考えられる。また、中国語のあいさつ表現「(～) 辛苦了」は、過去・完了の標識「了」が付いているが、非過去と非完了の場面にも当てはまるし、呼称を使用することによって親近感あるいは尊敬の気持ちを表現できるので、日本

語の「お疲れ様でした」を含む「お疲れ（～）」と対応していると考えられる。たとえば、中国人は、現在仕事をしている人に対して、その人の仕事に対する情熱ややる気を認める場合「（～）辛苦了」を使用することが普通である（廬 2001:35）。また、目上が目下に対して「辛苦了」をそのままあるいは「愛称+辛苦了」を使用してもかまわないが、目下が目上の人に対して「辛苦了」を使用する場合、「敬称」を付け加えなければならない（秦 1999:54）。

6.2.3.4.1 出会いの場面

表 6.61、表 6.62、表 6.63 が示しているように、出会いの場面において親しいか親しくないかにかかわらず先輩に「お疲れ（～）」を使用する日本人学生が比較的多いのに対して、同様の出会いの場面において、「お疲れ（～）」に当たる中国語の「（～）辛苦了」を使用する中国人学生は皆無である。

表 6.61 場面 1（11 時頃に会った場面）における「お疲れ（～）」と「（～）辛苦了」

調査対象 対人関係	お疲れ（～）		（～）辛苦了		母語話者別の 主効果（ χ^2 ）	単純主効果（ χ^2 ）
	130 人中	割合	101 人中	割合		
あまり親しくない先生	3	2%	0	0%	139.93**	5.29*
親しいと思う先生	7	5%	0	0%		12.46**
親友	13	10%	0	0%		23.53**
あまり親しくない先輩	29	22%	0	0%		54.99**
親しいと思う先輩	36	28%	0	0%		69.80**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 6.62 場面 2（12 時半頃に会った場面）における「お疲れ（～）」と「（～）辛苦了」

調査対象 対人関係	お疲れ（～）		（～）辛苦了		母語話者別の 主効果（ χ^2 ）	単純主効果（ χ^2 ）
	130 人中	割合	101 人中	割合		
あまり親しくない先生	3	2%	0	0%	173.98**	5.29*
親しいと思う先生	11	8%	0	0%		19.80**
親友	19	15%	0	0%		34.98**
あまり親しくない先輩	34	26%	0	0%		65.50**
親しいと思う先輩	39	30%	0	0%		76.36**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 6.63 場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における「お疲れ（～）」と「（～）辛苦了」

調査対象 対人関係	お疲れ（～）		（～）辛苦了		母語話者別の 主効果（ χ^2 ）	単純主効果（ χ^2 ）
	130 人中	割合	101 人中	割合		
あまり親しくない先生	6	5%	0	0%	171.13**	10.66**
親しいと思う先生	14	11%	0	0%		25.41**
親友	18	14%	0	0%		33.04**
あまり親しくない先輩	25	19%	0	0%		46.84**
親しいと思う先輩	36	28%	0	0%		69.80**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 6.61 が示しているように、場面 1（その日午前中 11 時頃初めて出会った場面）において親しいか親しくないかにかかわらず、先輩に「お疲れ（～）」を使用する日本人学生は、それぞれ 29 人（22%）と 36 人（28%）に上っているのに対して、同様の状況で、「お疲れ（～）」に当たる中国語の「（～）辛苦了」を使用する中国人学生は、1 人もいない。表 6.62 が示しているように、場面 2（その日午後 12 時半頃初めて出会った場面）において親しいか親しくないかにかかわらず、先輩に「お疲れ（～）」を使用する日本人学生は、それぞれ 34 人（26%）と 39 人（30%）に及んでいるのに対して、同様の状況で、「お疲れ（～）」に当たる中国語の「（～）辛苦了」を使用する中国人学生は、1 人もいない。表 6.63 が示しているように、場面 4（その日 2 回以上出会った場面）において親しいか親しくないかにかかわらず、先輩に「お疲れ（～）」を使用する日本人学生は、それぞれ 25 人（19%）と 36 人（28%）に達しているのに対して、同様の状況で、「お疲れ（～）」に当たる中国語の「（～）辛苦了」を使用する中国人学生は、1 人もいない。

角変換法による相手別と母語話者別の分散分析を行った結果、場面 1、場面 2、場面 4 のいずれのデータにおいても母語話者別の主効果が有意であった。そこで、下位検定として単純主効果検定を行い、表 6.61、表 6.62、表 6.63 が示しているように、対象者が誰かに関わらず、日本人学生と中国人学生の間に有意差があることを確認した。

上記の使用状況は、出会いの場面に限らず、メールと電話の場面（場面 6 と場面 7）からも窺える。これについては、後の 6.3.3.4.3 において検討する。

6.2.3.4.2 別れの場面

上述した内容から分かるように、出会いの場面において、先輩にあいさつをする場合、「お疲れ（～）」を使用する日本人学生が比較的多いのに対して、「（～）辛苦了」を使用する中国人学生は皆無である。「お疲れ（～）」と「（～）辛苦了」における対人関係による使用制限の相違点は、出会いの場面に限らず、別れの場面からも窺える。

表 6.64 が示しているように、場面 3（偶然出会って別れる場面）においてあいさつをする場合、親しいか親しくないかにかかわらず先輩に「お疲れ（～）」を使用する日本人学生が最も多く、6 割以上に及んでいる一方、同一の場面において親友に「お疲れ（～）」を使用する日本人学生が相対的に少なく、2 割弱にとどまっている。それに対して、同様の状況で、「お疲れ（～）」に当たる中国語表現「（～）辛苦了」を使用する中国人学生はほとんどいない。表 6.64 が示しているとおりの、場面 3 において、相手が先生である場合「（～）辛苦了」を使用する中国人学生が 1 人か 2 人いるものの、相手が親友と先輩である場合「（～）辛苦了」を使用する中国人学生は 1 人もいない。

表 6.64 場面 3（偶然出会って別れる場面）における「お疲れ（～）」と「（～）辛苦了」

調査対象 対人関係	お疲れ（～）		（～）辛苦了		母語話者別の 主効果（ χ^2 ）	単純主効果（ χ^2 ）
	130 人中	割合	101 人中	割合		
あまり親しくない先生	38	29%	1	1%	472.01**	50.54**
親しいと思う先生	42	32%	2	2%		48.80**
親友	24	18%	0	0%		44.83**
あまり親しくない先輩	83	64%	0	0%		194.76**
親しいと思う先輩	82	63%	0	0%		191.41**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 6.65 場面 5（共同作業をした後別れる場面）における「お疲れ（～）」と「（～）辛苦了」

調査対象 対人関係	お疲れ（～）		（～）辛苦了		母語話者別の 主効果（ χ^2 ）	単純主効果（ χ^2 ）
	130 人中	割合	101 人中	割合		
あまり親しくない先生	90	69%	28	28%	479.77**	41.69**
親しいと思う先生	106	82%	30	30%		68.82**
親友	112	86%	12	12%		159.46**
あまり親しくない先輩	111	85%	23	23%		105.42**
親しいと思う先輩	117	90%	23	23%		128.38**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 6.65 が示しているように、場面 5（共同作業をした後別れる場面）においてあいさつをする場合、相手が誰かにかかわらず「お疲れ（～）」を使用する日本人学生が非常に多い。それに対して、場面 5 においてあいさつをする場合、「お疲れ（～）」に当たる中国語の「（～）辛苦了」を使用する中国人学生はある程度いるものの、「お疲れ（～）」を使用する日本人学生に比べると、相対的に少ないといえる。たとえば、表 6.65 が示しているとおり、場面 5 において、あまり親しくない先生、親しいと思う先生、親友、あまり親しくない先輩、親しいと思う先輩に「お疲れ（～）」を使用する日本人学生が、それぞれ 90 人（69%）、106 人（82%）、112 人（86%）、111 人（85%）、117 人（90%）に及んでいるのに対して、同一の場面において同様の対人関係に「お疲れ（～）」に当たる中国語の「（～）辛苦了」を使用する中国人学生が、それぞれ 28 人（28%）、30 人（30%）、12 人（12%）、23 人（23%）、23 人（23%）にとどまっている。そして、場面 5 において親友に「（～）辛苦了」を使用する中国人学生が最も少なく、12 人（12%）にとどまっている。

角変換法による相手別と母語話者別の分散分析を行った結果、場面 3 と場面 5 とともに母語話者別の主効果が有意であった。そこで、下位検定として単純主効果検定を行い、場面 3 と場面 5 において相手が誰かにかかわらず日本人学生と中国人学生の間に有意差があることを確認した。

要するに、場面 3 においてあいさつをする場合、相手が先輩である場合「お疲れ（～）」を使用する日本人学生が比較的多いが、相手が親友である場合「お疲れ（～）」を使用する日本人学生が相対的に少ない。それに対して、同様の状況で相手が誰かにかかわらず、「（～）

辛苦了」を使用する中国人学生がほとんどいない。場面 5 において相手が誰かにかかわらず、中国語のあいさつ表現「(～) 辛苦了」の使用と比べると、日本語のあいさつ表現「お疲れ (～)」の使用のほう顕著である。そして、場面 5 において、「お疲れ (～)」については対人関係による使用制限が認められないのに対して、「(～) 辛苦了」については対人関係による使用制限が窺える。

6.2.3.4.3 メールと電話の場面

先に 6.3.3.4.1 で述べたように、出会いの場面においてあいさつをする場合、親しいか親しくないかにかかわらず、先輩に「お疲れ (～)」を使用する日本人学生が比較的多いのに対して、「お疲れ (～)」に当たる「(～) 辛苦了」を使用する中国人学生は 1 人もいない。この「お疲れ (～)」と「(～) 辛苦了」における場面による使用制限の相違点は、出会いの場面（場面 1、場面 2、場面 4）に限らず、メールと電話の場面（場面 6 と場面 7）からも窺える。

表 6.66 が示しているように、日本人学生の中には場面 6 において相手が誰かにかかわらず「お疲れ (～)」を使用する場合があります、その中では先輩に「お疲れ (～)」を使用する日本人学生が最も多い。表 6.67 が示しているように、場面 7 は場面 6 と同様の使用傾向を示している。

表 6.66 に示したように、場面 6（メールの場面）においてあまり親しくない先輩と親しいと思う先輩に「お疲れ (～)」を使用する日本人学生は、それぞれ 33 人（25%）と 36 人（28%）に達している。

表 6.66 場面 6（メールの場面）における「お疲れ (～)」と「(～) 辛苦了」

調査対象 対人関係	お疲れ (～)		(～) 辛苦了		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	130 人中	割合	101 人中	割合		
あまり親しくない先生	11	8%	0	0%	173.25**	19.80**
親しいと思う先生	12	9%	0	0%		21.66**
親友	9	7%	0	0%		16.11**
あまり親しくない先輩	33	25%	0	0%		63.37**
親しいと思う先輩	36	28%	0	0%		69.80**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 6.67 場面 7（電話の場面）における「お疲れ (～)」と「(～) 辛苦了」

調査対象 対人関係	お疲れ (～)		(～) 辛苦了		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	130 人中	割合	101 人中	割合		
あまり親しくない先生	5	4%	0	0%	94.92**	8.86**
親しいと思う先生	7	5%	0	0%		12.46**
親友	4	3%	0	0%		7.07**
あまり親しくない先輩	20	15%	0	0%		36.92**
親しいと思う先輩	23	18%	0	0%		42.83**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

また、表 6.67 に示したように、場面 7（電話の場面）において、あまり親しくない先輩と親しいと思う先輩に「お疲れ（～）」を使用する日本人学生は、それぞれ 20 人（15%）と 23 人（18%）に及んでいる。それに対して、場面 6 においても場面 7 においても、相手が誰かにかかわらず「お疲れ（～）」に当たる「（～）辛苦了」を使用する中国人学生は 1 人もいない。角変換法による相手別と母語話者別の分散分析を行った結果、場面 6 と場面 7 とともに母語話者別の主効果が有意であった。そこで、下位検定として単純主効果検定を行い、場面 6 と場面 7 において相手が誰かにかかわらず日本人学生と中国人学生の間有意差があることを確認した。

要するに、場面 6 と場面 7 において、親しいか親しくないかにかかわらず先輩に「お疲れ（～）」を使用する日本人学生が比較的多いものに対して、相手が誰かにかかわらず「（～）辛苦了」を使用する中国人学生は皆無である。

6.2.3.5 会釈・お辞儀

以上、言葉によるあいさつ表現「おはよう（～）」と「（～）早（～）」、「こんにちは」と「（～）好」、「さようなら」と「（～）再见」、「お疲れ（～）」と「（～）辛苦了」における対人関係および場面による使用制限の相違点を考察した。これらの日中差異は、言葉によるあいさつ表現に限らず、非言語行動によるあいさつ表現の使用にも窺える。

6.2.3.5.1 出会う場面

表 6.68 に示すように、場面 1（11 時頃に出会った場面）において親しいか親しくないかにかかわらず、中国人学生と比べると、先生と先輩に[会釈・お辞儀]をする日本人学生の比率が高い。表 6.68 が示しているように、場面 1 において、あまり親しくない先生、親しいと思う先生、あまり親しくない先輩、親しいと思う先輩に[会釈・お辞儀]をする日本人学生はそれぞれ 21 人（16%）、14 人（11%）、27 人（21%）、10 人（8%）に達しているのに対して、同様の状況で[会釈・お辞儀]をする中国人学生はそれぞれ 5 人（5%）、2 人（2%）、0 人（0%）、6 人（6%）、0 人（0%）であった。

また、表 6.69 と表 6.70 に示すように、場面 2（12 時半頃に出会った場面）と場面 4（その日 2 回以上出会った場面）は、場面 1 とほぼ同様の使用傾向を示している。表 6.69 が示しているように、場面 2 において親しいと思う先生、あまり親しくない先輩、親しいと思う先輩に[会釈・お辞儀]をする日本人学生はそれぞれ 16 人（12%）、27 人（21%）、11 人（8%）に上っているのに対して、同様の状況で[会釈・お辞儀]をする中国人学生はそれぞれ 1 人（1%）、4 人（4%）、0 人（0%）にとどまっている。表 6.70 が示しているように、場面 4 においてあまり親しくない先生、親しいと思う先生、あまり親しくない先輩、親しいと思う先輩に[会釈・お辞儀]をする日本人学生はそれぞれ 41 人（32%）、46 人（35%）、44 人（34%）、29 人（22%）に及んでいるのに対して、同様の状況で[会釈・お辞儀]をする中国人学生はそ

れぞれ 3 人 (3%)、1 人 (1%)、5 人 (5%)、1 人 (1%) にとどまっている。

表 6.68 場面 1 (11 時頃に出会った場面) における[会釈・お辞儀]

調査対象 対人関係	日本人学生		中国人学生		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	130 人中	割合	101 人中	割合		
あまり親しくない先生	21	16%	5	5%	36.04**	8.14**
親しいと思う先生	14	11%	2	2%		8.48**
親友	0	0%	0	0%		0ns
あまり親しくない先輩	27	21%	6	6%		11.71**
親しいと思う先輩	10	8%	0	0%		17.95**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 6.69 場面 2 (12 時半頃に出会った場面) における[会釈・お辞儀]

調査対象 対人関係	日本人学生		中国人学生		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	130 人中	割合	101 人中	割合		
あまり親しくない先生	11	8%	3	3%	40.91**	3.38*
親しいと思う先生	16	12%	1	1%		15.22**
親友	0	0%	0	0%		0ns
あまり親しくない先輩	27	21%	4	4%		16.92**
親しいと思う先輩	11	8%	0	0%		19.80**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 6.70 場面 4 (その日 2 回以上出会った場面) における[会釈・お辞儀]

調査対象 対人関係	日本人学生		中国人学生		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	130 人中	割合	101 人中	割合		
あまり親しくない先生	41	32%	3	3%	159.57**	40.69**
親しいと思う先生	46	35%	1	1%		65.64**
親友	2	2%	0	0%		3.51*
あまり親しくない先輩	44	34%	5	5%		35.74**
親しいと思う先輩	29	22%	1	1%		34.97**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

角変換法による相手別と母語話者別の分散分析を行った結果、場面 1、場面 2、場面 4 のいずれのデータにおいても母語話者別の主効果が有意であった。そこで、下位検定として単純主効果検定を行い、表 6.68、表 6.69、表 6.70 が示しているように、場面 1 と場面 2 において対象者が先生と先輩である場合、場面 4 において相手が誰かに関わらず日本人学生と中国人学生の間には有意差があることを確認した。

以上からわかるように、いずれの出会いの場面においても上位者の先生と先輩にあいさつをする場合、[会釈・お辞儀]をする日本人学生の比率が高いのに対して、同様の状況で[会釈・お辞儀]をする中国人学生はほとんどいない。

6.2.3.5.2 別れの場面

日本人学生と中国人学生における[会釈・お辞儀]の使用に関する差異は、出会いの場面に限らず、別れの場面からも窺える。表 6.71 と表 6.72 に示すように、場面 3（偶然出会って別れる場面）と場面 5（共同作業をした後別れる場面）において、親しいか親しくないかにかかわらず相手が先生と先輩にあいさつをする場合、[会釈・お辞儀]をする日本人学生はある程度存在しているのに対して、同様の状況で「会釈・お辞儀」を使用する中国人留学生は、1 人もいない。

表 6.71 場面 3（偶然出会って別れる場面）における[会釈・お辞儀]

調査対象 対人関係	日本人学生		中国人学生		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	130 人中	割合	101 人中	割合		
あまり親しくない先生	5	4%	0	0%	38.08**	8.86**
親しいと思う先生	8	6%	0	0%		14.28**
親友	0	0%	0	0%		0ns
あまり親しくない先輩	6	5%	0	0%		10.66**
親しいと思う先輩	8	6%	0	0%		14.28**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 6.72 場面 5（共同作業をした後別れる場面）における[会釈・お辞儀]

調査対象 対人関係	日本人学生		中国人学生		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	130 人中	割合	101 人中	割合		
あまり親しくない先生	6	5%	0	0%	23.49**	10.66**
親しいと思う先生	3	2%	0	0%		5.29*
親友	0	0%	0	0%		0ns
あまり親しくない先輩	5	4%	0	0%		8.86**
親しいと思う先輩	3	2%	0	0%		5.29*

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 6.71 が示しているように、場面 3 においてあまり親しくない先生、親しいと思う先生、あまり親しくない先輩、親しいと思う先輩に[会釈・お辞儀]をする日本人はそれぞれ 5 人（4%）、8 人（6%）、6 人（5%）、8 人（6%）であるのに対して、同様の状況で[会釈・お辞儀]をする中国人学生は皆無である。また、表 6.72 が示しているように、場面 5 においてあまり親しくない先生、親しいと思う先生、あまり親しくない先輩、親しいと思う先輩に[会釈・お辞儀]をする日本人はそれぞれ 6 人（5%）、3 人（2%）、5 人（4%）、3 人（2%）であるのに対して、同様の状況で[会釈・お辞儀]をする中国人学生は皆無である。

角変換法による相手別と母語話者別の分散分析を行った結果、場面 3 と場面 5 とともに母語話者別の主効果が有意であった。そこで、下位検定として単純主効果検定を行い、表 6.71 と表 6.72 が示しているように、対象者が先生と先輩である場合、日本人学生と中国人学生

の間に有意差があることを確認した。

以上からわかるように、場面 3 と場面 5 において先生と先輩にあいさつをする場合、非言語行動による[会釈・お辞儀]をする日本人学生はある程度存在しているのに対して、同様の状況で[会釈・お辞儀]をする中国人学生は皆無である。

6.3 まとめ

本章では、日本人学生と中国人学生における「あいさつの有無」、「あいさつのストラテジー」、「あいさつの場面・対人関係による使用制限」の差異を検討した。

日本人学生と中国人学生における「あいさつの有無」に関する相違点は、出会いの場面（場面 1、場面 2、場面 4）において見られた。これらの結果を、表 6.73 に示す。あいさつをする場合、どのようなあいさつのストラテジーを使用するかについて、いずれの場面においても、日本人学生と中国人学生における相違点が窺える。これらの結果を、表 6.74 に示す。

表 6.73 日本人学生と中国人学生におけるあいさつの有無

	場面	日本人学生	中国人学生
あいさつの有無	1	あまり親しくない先生にあいさつをしない傾向が顕著である (NF に対する配慮を優先する)	誰に対しても積極的にあいさつをする傾向が顕著である (PF に対する配慮を優先する)
	2		
	4		
	3	先生にあいさつをする傾向が顕著であるが、あいさつをしないケースもある	先生にあいさつをしないケースはほとんどない
	5		
	6	親友に対してあいさつをしない傾向が顕著である (PF に対する配慮を優先する)	
	7		

表 6.74 日本人学生と中国人学生のあいさつ使用に関する全体的な特徴

	場面	日本人学生	中国人学生
あいさつをする場合	1	先生と先輩に PPS+NPS を使用する傾向が顕著である	先生と先輩に対して PPS+NPS だけではなく、PPS を使用するケースもある
	2		
	4		
	3		
	5	親友に PPS を使用する傾向が顕著である	親友に PPS+NPS を使用するケースもあるものの、PPS を使用する傾向が顕著である
	6	先生と先輩に PPS+NPS を使用する傾向が顕著である	親しいと思う先生と先輩に PPS+NPS だけではなく PPS を使用するケースもある
	7		先生と先輩に PPS+NPS だけではなく PPS を使用するケースもある

表 6.73 から明らかなように、あいさつをするかどうかについて、日本人学生は、出会いの場面においてあまり親しくない先生にあいさつをしない傾向が顕著であるのに対して、中国人学生は誰にも積極的にあいさつをする傾向が顕著である。一方、別れ・メール・電話の場面になると、あいさつをするかどうかについて、日本人学生と中国人学生の間に顕著な差異がない。

また、表 6.74 から明らかなように、あいさつをする場合、場面 1、場面 2、場面 4（出会いの場面）および場面 3 と場面 5（別れの場面）においては、親しいか親しくないかにかかわらず先生と先輩に、日本人学生は PPS+NPS を使用する傾向が顕著であるのに対して、中国人学生は PPS+NPS だけではなく、PPS を使用する傾向も比較的顕著である。場面 5 においては日本人学生が親友に PPS を使用する傾向が顕著であるのに対して、同様の状況において中国人学生は親友に PPS だけではなく、PPS+NPS を使用する傾向も比較的顕著である。また、場面 6 において親しいと思う先生と先輩にあいさつをする場合、日本人学生は PPS+NPS を使用する傾向が顕著であるのに対して、中国人学生は PPS+NPS だけではなく PPS を使用するケースもある。場面 7 において、親しいか親しくないかにかかわらず先生と先輩にあいさつをする場合、日本人学生は PPS+NPS を使用する傾向が顕著であるのに対して、中国人学生は PPS+NPS だけではなく、PPS を使用するケースもある。

次に、日本語のあいさつ表現と中国語のあいさつ表現における対人関係および場面による使用制限について見ると、「おはよう（～）」と「（～）早（～）」、「こんにちは」と「（～）好」、「さようなら」と「（～）再见」、「お疲れ（～）」と「（～）辛苦了」などの使用から、それぞれの相違点が窺える。それらの結果を、表 6.75 に示す。

表 6.75 大学生における個別のあいさつ表現の使用に関する日中差異

	日本人学生	中国人学生
おはよう（～） ／（～）早（～）	午後の時間において PPS として親友に使用する傾向が比較的顕著である	いずれの場面においても誰に対してもほとんど使用しない傾向が顕著である
こんにちは／ （～）好	出会い・メール・電話の場面においてあまり親しくない先生にある程度使用するが、「（～）好」の使用ほど顕著ではない	出会い・メール・電話の場面においてあまり親しくない先生に比較的多く使用する傾向がある
さようなら／ （～）再见	場面 3 において日本人学生は先生と先輩に比較的多く使用する傾向がある	場面 3 においてあまり親しくない先生と先輩に、場面 5 において先生と先輩に多く使用する傾向がある
お疲れ（～）／ （～）辛苦了	ほぼすべての場面において先輩に対して比較的多く使用する傾向がある	場面 5 以外の場面において、相手が誰かにかかわらず使用する中国人学生がほとんどいない
会釈・お辞儀	出会いの場面にせよ別れの場面にせよ、日本人学生はある程度使用する	いずれの場面においても中国人学生はほとんど使用しない

表 6.75 が示しているように、午後のお会いの場面において日本人学生は親友に「おはよ

う」を PPS として多用する傾向が比較的顕著であるのに対して、中国人学生はいずれの場面においても誰に対しても「(～) 早 (～)」をほとんど使用しない。「こんにちは」と「(～) 好」の使用について、出会いの場面（場面 1、場面 2、場面 4）およびメールと電話の場面（場面 6 と場面 7）においてあまり親しくない先生にあいさつをする場合、「こんにちは」を使用する日本人学生より、「こんにちは」に当たる中国語の「(～) 好」を使用する中国人学生の比率が高い。「さようなら」と「(～) 再见」の使用について、場面 5 と比べると、場面 3 において先生と先輩に「さようなら」を使用する日本人学生が比較的多いのに対して、場面 3 においてあまり親しくない先生と先輩に、場面 5 において親しいか親しくないかにかかわらず先生と先輩にはるかに多く使用する傾向が顕著である。「お疲れ (～)」と「(～) 辛苦了」の使用について、ほぼすべての場面において親しいか親しくないかにかかわらず先輩にあいさつをする場合、「お疲れ (～)」を使用する日本人学生が比較的多いのに対して、場面 5 以外の場面において相手が誰にかにかかわらず「(～) 辛苦了」を使用する中国人学生はほとんどいない。非言語行動による[会釈・お辞儀]の使用について、出会いの場面において上位者の先生と先輩に使用する日本人学生が比較的多いのに対して、同様の状況で使用する中国人学生はほとんどいない。また、別れの場面において上位者の先生と先輩に[会釈・お辞儀]をする日本人学生がある程度いるのに対して、同様の状況で[会釈・お辞儀]をする中国人学生は皆無である。

上記の結果は、第 4 章における中国人上級日本語学習者のあいさつ使用に関する困難点および第 5 章における中国人留学生におけるあいさつ使用の特徴と何らかの関連性があると考えられる。すなわち、中国人上級日本語学習者における困難点と中国人留学生における問題点が生ずる原因のある部分は語用論的転移による可能性が大きいと考えられる。これについては、次の第 7 章において、上述した日本人学生と中国人学生のあいさつ使用に関するデータを用いて考察する。また、第 5 章で示した結果が生じた原因は、必ずしも語用論的転移のみではないと考えられる。日本語教育におけるあいさつ指導の仕方の影響もあると思われるため、同じく第 7 章において中国の日本語教育現場で使われている日本語教材によるデータを用いて検討する。

第7章 中国人上級日本語学習者のあいさつ使用の考察

本論文の第4章において中国人上級日本語学習者のあいさつ使用に関する困難点を明らかにし、第5章においてそれらの困難点に基づいて設定した場面において中国人留学生が実際にどのようにあいさつをしているかを明らかにし、中国人留学生のあいさつ使用に関する特徴をまとめた。また、第6章において、日本人学生と中国人学生のあいさつ使用に関する相違点も明らかにした。

第5章までの検討を通じて、中国人上級日本語学習者³¹（以下学習者）におけるあいさつ使用に関する困難点および日本人学生との相違点が明らかになっている。学習者の相違点には学習者の問題点も含まれている。ただし、必ずしもあらゆる相違点が問題点であるわけではない。そこで、学習者の相違点を考察する前に、どの部分が学習者の問題点であるかについて判断する必要があると考えられる。また、学習者の相違点が生ずる原因を明らかにするため、それらの相違点と日中大学生のあいさつ使用に関する差異との関連性を検討する必要もあると考えられる。そこで、本章では、学習者のあいさつ使用に関する日本人学生との相違点が生ずる原因について、第6章の検討結果を踏まえて語用論的転移の観点および日本語教育の視点から究明する。

7.1 問題点の認定

本節ではあいさつ使用に関する学習者の困難点および日本人学生との相違点を確認し、学習者のあいさつ使用に関する問題点をそれぞれから抽出する。

7.1.1 学習者の困難点における問題点

表7.1に示すように、学習者のあいさつ使用に関する困難点には、「学習者の戸惑い」と「日本語母語話者の違和感」という二つの部分がある。「学習者の戸惑い」は、常に学習者の問題点になるとは限らない。たとえば、表7.1における戸惑い①について、学習者は「上位者にどのようにあいさつをすべきかわからないことがある」という戸惑いがあるが、実際にその上位者に出会って相互に目が合った場合、あいさつをしなければならない。その場合、その学習者が使用するあいさつ表現には、二つの可能性がある。一つは、その場とその相手に合う自然なあいさつ表現であり、もう一つは、その場とその相手に合わない不自然なあいさつ表現である。また、表7.1における戸惑い②について、学習者は「さようなら」に対して抵抗感を持っているので、別れの場面において、「さようなら」の代わりに

³¹ 本研究で調査の対象としている中国人留学生も中国人上級日本語学習者の範疇にあるので、本節では、「中国人上級日本語学習者」と「中国人留学生」を統一して、「中国人上級日本語学習者」とする。

様々なほかのあいさつ表現を使用する可能性があると考えられる。普通の別れの場面において、その学習者が上位者に対して「失礼します」や「お先に失礼します」のような NP 表現を使用する場合、何の問題もないが、「お疲れ」や「じゃあね」のような PP 表現を使用すると、失礼になってしまう恐れがある。そこで、戸惑い①から戸惑い⑥に、あいさつ使用に関する問題点があるかどうかを判定するためには、それらに基づいて設定された場面において中国人留学生がどのようにあいさつをするかについての調査結果を見る必要がある。

表 7.1 学習者のあいさつ使用に関する困難点（表 4.4 の再掲）

学習者と留学生の戸惑い		日本語教師と大学教員の違和感	
戸惑い①	上位者に対するあいさつの仕方	違和感①	敬語の脱落
		違和感②	呼称の過剰使用
戸惑い②	「さようなら」の用法	違和感③	「お疲れ（～）」の多用
戸惑い③	「お疲れ（～）」の用法		
戸惑い④	その日 2 回以上出会った場面でのあいさつの仕方		
戸惑い⑤	メールと電話でのあいさつの仕方		
戸惑い⑥	「おはよう（～）」と「こんにちは」の使い分け		

一方、「日本語母語話者の違和感」は、学習者のあいさつ使用に関する問題点であると考えられる。なぜならば、日本語母語話者の違和感は、学習者が日本語の使用習慣あるいは使用ルールに違反する箇所であると考えられるためである。よって、表 7.1 における違和感①（敬語の脱落）、違和感②（呼称の過剰使用）、違和感③（「お疲れ（～）」の多用）という 3 つは、学習者の問題点であると見なす。

7.1.2 学習者のあいさつ使用の特徴における問題点

第 5 章で、日本人学生と比較することを通して、中国人留学生におけるあいさつ使用の特徴を明らかにした。しかし、その特徴は、日本人学生との相違点であるに違いないものの、必ずしも問題点であるわけではない。

表 7.2 に示すように、あいさつをするかしないかについて、場面 1、場面 2、場面 4 において、あまり親しくない先生にあいさつをしない日本人学生が比較的多いのに対して、同様の状況であいさつをしない中国人留学生がほとんどいない。この点から、日本人学生に比べると、中国人留学生は出会いの場面において誰に対しても積極的にあいさつをする傾向が顕著であることがわかった。しかし、これは中国人留学生における日本人学生との相違点だといえるが、問題点であるとは言い難い。本章では、これを「非問題点」と呼ぶ。一方、あいさつをする場合、どのようにあいさつをするかについて、日本語母語話者と異なるところは、中国人学生におけるあいさつ使用の問題点である可能性が大きい。この点

から見れば、表 7.3 における親友に PPS+NPS を使用する傾向、および先輩に PPS を使用する傾向は問題点であると言ってよいだろう。

表 7.2 中国人留学生におけるあいさつの有無（表 5.61 の再掲）

場面	日本人学生	中国人留学生
1	あまり親しくない先生に対してあいさつをしない傾向が顕著である	誰に対しても積極的にあいさつをする傾向が顕著である
2		
4		
3	先生にあいさつをする傾向が顕著であるが、あいさつをしないケースもある	先生にあいさつをしないケースは皆無である
5		
6	誰に対してもあいさつをしないケースがあり、特に親友にあいさつをしない傾向が顕著である	
7		

表 7.3 中国人留学生のあいさつ使用に関する全体的な特徴（表 5.62 の再掲）

場面	日本人学生	中国人留学生
1	親友には PPS を使用する傾向が顕著である	親友に PPS+NPS を使用するケースもある
2		
4		
3	先輩には PPS+NPS、親友には PPS を使用する傾向が顕著である	先輩に PPS、親友に PPS+NPS を使用するケースもある
5		
6	親友に対して PPS を使用する傾向が顕著である	親友に対して、PPS より PPS+NPS を使用する傾向がより顕著である
7		

また、あいさつをする場合、具体的にどのようなあいさつ表現を用いるかに関する中国人留学生の特徴においても、学習者のあいさつ使用に関する問題点が窺える。

表 7.4 に示すように、出会いのあいさつ表現「こんにちは」の使用について、日本人学生が親友にはほとんど使用しないのに対して、中国人留学生は、親友に対して使用するケースもある。非言語行動による[会釈・お辞儀]の使用について、いずれの出会いの場面においても、あまり親しくない先輩に使用する日本人学生は比較的多いのに対して、同様の状況で使用する中国人留学生は相対的に少ない。

上述した二つの特徴は、典型的な誤用³²（付加と脱落）であるため、学習者の問題点であるといえる。親友に対してある程度「こんにちは」を比較的多く使用するという特徴は、「こんにちは」の過剰使用（付加）であるため、学習者の問題点であると認定される。「あまり親しくない先輩に対する[会釈・お辞儀]をある程度使用しているが相対的に少ない」という特徴は、[会釈・お辞儀]の脱落であるため、学習者の問題点であると認定される。

³² 誤用とは、中間言語における不適切な使用であり、①脱落（当該項目を使用しなければいけないのに使用していない誤用）、②付加（脱落と逆に、使用してはいけないところに使用している誤用）、③誤形成（活用・接続のしかたなどの形態的な誤り）、④混同（助詞「は」と「が」、自動詞・他動詞などのように、他の項目との混乱による誤り）、⑤位置（その項目の文中での位置がおかしい誤り）、⑥その他に分類できる（『新版日本語教育事典』2005:698）。

表 7.4 個別のあいさつ表現の使用に関する特徴（表 5.62 の再掲）

	日本人学生	中国人留学生
おはよう（～）	午後の時間において PPS として親友に使用する傾向が比較的顕著である	午後の時間においては誰に対してもほとんど使用しない
こんにちは	親友にはほとんど使用しない	親友に対してもある程度用いる
さようなら	場面 3 において日本人学生は先生と先輩にある程度多用する	いずれの場面においても誰に対してもほとんど使用しない
お疲れ（～）	ほぼすべての場面において先輩に対して比較的多く使用する傾向がある	出会いの場面およびメールと電話の場面において、誰に対してもほとんど使用しない
会釈・お辞儀	いずれの出会いの場面においても、あまり親しくない先輩に[会釈・お辞儀]をする日本人学生は比較的多い	いずれの出会いの場面においても、あまり親しくない先輩に[会釈・お辞儀]をする中国人留学生は相対的に少ない

一方、表 7.4 に示したように、出会いのあいさつ表現「おはよう（～）」について、日本人学生が午後の時間に親友に使用する傾向が比較的顕著であるのに対して、同様の状況で中国人留学生は誰に対してもほとんど使用しない。また、別れのあいさつ表現「さようなら」について、場面 3（1 日中 2 回以上出会った場面）において、日本人学生が親しいか親しくないかにかかわらず、先生と先輩にある程度多く使用するのに対して、中国人留学生は、誰に対してもほとんど使用しない。「お疲れ（～）」について、日本人学生がほぼすべての場面において先輩に比較的多く使用する傾向があるのに対して、中国人留学生は、場面 5（共同作業をした後別れる場面）以外の場面においては、誰に対してもほとんど使用しない。

上述した三つの特徴は、学習者の問題点であるとは言い難い。「出会いの場面において誰に対しても「おはよう（～）」をほとんど使用しない」という特徴は、日本人学生との相違点であるが、「おはよう（～）」の代わりに、親友に「どちらへ」や「お昼？」のような表現を使用する場合、何の問題もないので、必ずしも学習者の問題点ではない。また、「いずれの場面においても誰に対しても「さようなら」をほとんど使用しない」という特徴は、日本人学生との相違点であるが、「さようなら」の代わりに「ではまた」や「お先に失礼します」のようなあいさつ表現を使用する場合、何の不自然さもないため、学習者の問題点であるとは言い難い。また、「出会いの場面およびメールと電話の場面において誰に対しても「お疲れ（～）」をほとんど使用しない」という特徴は、日本人学生との相違点であるが、「お疲れ（～）」の代わりに、「おはよう（～）」や「こんにちは」などを使用する場合、間違いであるわけではないので、学習者の問題点だとは言えない。したがって、上述の 3 点は、「学習者の問題点」ではなく「非問題点」とであると認定される。

7.1.3 まとめ

以上、学習者の困難点および学習者の特徴における学習者のあいさつ使用に関する問題点と非問題点を明らかにした。問題点にせよ非問題点にせよ、いずれも日本人学生との相違点であるため、上述の問題点（相違点①～⑤）と非問題点（相違点⑥～⑨）を表 7.5 に示す。

表 7.5 学習者におけるあいさつ使用の問題点および非問題点

問題点	相違点①	呼称を過剰に使用する
	相違点②	別れの場面において先輩に PPS を使用する傾向がある
	相違点③	出会いおよびメールと電話の場面において親友に PPS+NPS を使用する傾向がある
	相違点④	「お疲れ（～）」を不適切に使用する
	相違点⑤	いずれの出会いの場面においても、あまり親しくない先輩に[会釈・お辞儀]をする中国人留学生は相対的に少ない
非問題点	相違点⑥	誰に対しても積極的にあいさつをしている（PF に対する配慮を優先する）
	相違点⑦	午後の時間に誰に対しても「おはよう（～）」をほとんど使用しない
	相違点⑧	いずれの場面においても誰に対しても「さようなら」をほとんど使用しない
	相違点⑨	出会いおよびメールと電話の場面において誰に対しても「お疲れ（～）」をほとんど使用しない

なお、相違点④（「お疲れ（～）」の不適切な使用）については、日本人日本語教師と日本大学教員へのインタビュー調査における JTM03、UTM10、UTF15 の発言（再掲）に示されているような授業が終わった後という別れの場面に限られている。

JTM03：授業が終わったときに、先生に「お疲れ様です」という、これはちょっと変。

UTM10：僕は気にしないけども、ほかの先生が気にするのは授業が終わったりして、帰るときに、中国人留学生から「お疲れ様」と「ご苦労様」と言ってくるのだよね。

UTF15：「お疲れ様です」とか、「お疲れ様でした」っていうことを、授業が終わった後に、「お疲れ様でした」と言われることがあって、で、それは違うじゃないって。

7.2 相違点の考察

問題点、非問題点を含め、上述した学習者のあいさつ使用に関する日本人学生との相違点が生じたのは、なぜだろうか。それについて、7.2.1 と 7.2.2 ではそれぞれ語用論的転移の観点と日本語教育の視点から考察する。語用論的転移は必ずしもすべての相違点に関連しないが、日本語教育におけるあいさつ指導の仕方は、すべての相違点にかかわっていると考えられる。

7.2.1 語用論的転移

Selinker (1972) によると、第二言語習得では、心理学の用語「転移 (transfer)」の概念（ある問題状況で使う知識やスキルを別の問題状況に持ち込むこと）を応用し、外国語学習者の既習の言語が目標言語の習得に与える影響を言語転移と呼んでいる。言語転移の対象となるのは、言語知識（音韻、統語規則、意味の知識）である。語用論的転移とは、こうした言語資源を文脈の中でどのように使うかに関する第一言語の規則が目標言語の言語使用や習得に与える影響である。つまり、学習者の目標言語の語用論的情報の理解、産出、学習に対して、目標言語以外の言語や文化の語用論的知識が与える影響を語用論的転移と呼ぶことができる (Kasper1992:207)。

本研究では、中国人日本語学習者におけるあいさつ使用に関する日本人学生（日本語母語話者）との相違点が生じた原因を究明するため、上述の「語用論的転移」という概念を使用する。

7.2.1.1 相違点①：呼称の過剰使用

上述した相違点①（呼称の過剰使用）が生じたのは、語用論的転移によるものであると考えられる。表 7.6 から表 7.12 に示すように、親しいか親しくないかにかかわらず先生にあいさつをする場合、いずれの場面においても、日本人学生がほとんど「(～) 先生」のような呼称を使用しないのに対して、中国人学生は、頻繁に使用する傾向が顕著である。表 7.5 から表 7.11 が示しているように、場面 1 から場面 7 において親しいか親しくないかにかかわらず、日本人学生が先生に「(～) 先生」のような呼称を使用する例は 0 例～6 例 (0%～5%) にすぎないのに対して、中国人学生が先生に「(～) 老师 ((～) 先生)」のような呼称を使用する例は、81 例～107 例 (80%～91%) に上っている。なお、いずれの場面においても、「(～) 先生」と単独であいさつする日本人学生は 1 人もいないのに対して、「(～) 老师」と単独であいさつする中国人学生は 5 例～33 例 (5%～33%) に達している。

表 7.6 場面 1 (11 時頃に出会った場面) における先生に対する呼称に関する日中対照

	日本人学生	中国人学生
あまり親しくない先生	[0 例 (0%)]	「(～) 老师 ((～) 先生)」(5) 「(～) 老师 (您) 好 ((～) 先生、こんにちは)」(76) 「(～) 老师, 早 (上好) ((～) 先生、おはよう (ございます))」(7) 「(～) 老师, 吃了吗 ((～) 先生、ご飯は済みましたか)」(2) [90 例 (80%)]
親しいと思う先生	「先生、おはようございます」(4) 「先生、こんにちは」(2) [6 例 (5%)]	「(～) 老师 ((～) 先生)」(18) 「(～) 老师 (您) 好 (先生、こんにちは)」(54) 「(～) 老师, 上午好 ((～) 先生、おはようございます)」(4) 「(～) 老师, 吃了吗 ((～) 先生、ご飯は済みましたか)」(12) 「(～) 老师去哪儿 ((～) 先生、どちらへ)」(4) 「(～) 哥・姐, 早啊 ((～) 兄ちゃん・姉ちゃん、おはよう)」(2) 「(～) 老师, 刚下课呀 ((～) 先生、授業終わったところですか)」(2) [96 例 (74%)]

表 7.7 場面 2 (12 時半頃に会った場面) における先生に対する呼称に関する日中対照

	日本人学生	中国人学生
あまり親しくない先生	[0 例 (0%)]	「(～) 老师 ((～) 先生)」(5)「(～) 老师 (您) 好 ((～) 先生、こんにちは)」(74)「(～) 老师, 吃了吗 ((～) 先生、ご飯は済みましたか)」(9)「(～) 老师, 去做什么 ((～) 先生、何をしに行きますか)」(1)「(～) 老师, 刚下课吗 ((～) 先生、授業終わったところですか)」(1) [90 例 (81%)]
親しいと思う先生	「先生、こんにちは」 (3) [3 例 (2%)]	「(～) 老师 (您) 好 ((～) 先生、こんにちは)」(34)「(～) 老师 ((～) 先生)」(6)「(～) 老师, 吃了吗 ((～) 先生、ご飯は済みましたか)」(52)「(～) 老师, 去吃饭呢 ((～) 先生、ご飯に行きますか)」(5)「(～) 老师, 您去哪 ((～) 先生、どちらへ)」(2)「(～) 老师, 刚下课吗 ((～) 先生、授業終わったところですか)」(1)「(～) 老师, 下班了? ((～) 先生、仕事は済みましたか)」(1)「(～) 哥・姐, 吃饭了吗 ((～) 兄ちゃん・姉ちゃん、ご飯は済んだの?)」(1) [102 例 (80%)]

表 7.8 場面 3 (偶然出会って別れる場面) における先生に対する呼称に関する日中対照

	日本人学生	中国人学生
あまり親しくない先生	[0 例 (0%)]	「(～) 老师, 再见 ((～) 先生、さようなら)」(76)「老师, 辛苦了 (先生、お疲れ様でした)」(1)「老师您慢走 (先生、お気を付けてお帰りください)」(1)「(～) 老师, 拜拜 ((～) 先生、バイバイ)」(10)「(～) 老师, 先走了 ((～) 先生、お先に)」(7)「(～) 老师, 明天见 ((～) 先生、また明日)」(1) [96 例 (93%)]
親しいと思う先生	「～先生気を付けて帰ってください」(1)「先生また来週」(1)「えー先生—おくってくださいよ」(1) [3 例 (2%)]	「(～) 老师, 再见 ((～) 先生、さようなら)」(43)「(～) 老师, 辛苦了 ((～) 先生、お疲れ様でした)」(2)「(～) 老师, 拜拜 ((～) 先生、バイバイ)」(28)「(～) 老师, 明天见 ((～) 先生、また明日)」(10)「(～) 老师, 我先走了 ((～) 先生、お先に)」(6)「(～) 老师, 回去早点休息 ((～) 先生帰ってから早く休んでね)」(6)「(～) 老师, 我走这边了 ((～) 先生、私こちらなので)」(3)「(～) 老师, 回头见 ((～) 先生、またね)」(2)「老师, 别太累了 (先生、疲れないように)」(1) [101 例 (86%)]

表 7.9 場面 4 (その日 2 回以上出会った場面) における先生に対する呼称に関する日中対照

	日本人学生	中国人学生
あまり親しくない先生	[0 例 (0%)]	「(～) 老师 (先生)」(10)「(～) 老师 (您) 好 (先生、こんにちは)」(61)「(～) 老师, 又遇见了 (先生、また会いましたね)」(5)「老师, 好巧 (先生、偶然ですね)」(3)「(～) 老师, 吃饭没 (先生、ご飯は済みましたか)」(1)「老师, 下课了啊 (先生、授業終わりましたか)」(1) [81 例 (78%)]
親しいと思う先生	[0 例 (0%)]	「(～) 老师 (您) 好 ((～) 先生、こんにちは)」(40)「(～) 老师 ((～) 先生)」(9) 会釈 (1)「(老师, 您) 吃了吗 ((先生、ご飯は済みましたか)」(10)「(～) 老师去哪 (先生、どちらへ)」(7)「(～) 老师, 好巧 (先生、偶然ですね)」(5)「(～) 老师, 又遇见了 ((～) 先生、また会いましたね)」(27)「(～) 老师, 去干嘛 ((～) 先生、何をしに行きますか)」(2)「(～) 老师, 中午休息吗 ((～) 先生、昼寝しますか)」(1)「老师, 又上课啊 (先生、また授業に行きますか)」(1)「老师下课了啊 (先生、授業終わりましたか)」(1) [104 例 (86%)]

表 7.10 場面 5（共同作業をした後別れる場面）における先生に対する呼称に関する日中対照

	日本人学生	中国人学生
あまり親しくない先生	[0 例 (0%)]	「(～) 老师、再见 ((～) 先生、さようなら)」(67)「(～) 老师、辛苦了 ((～) 先生、お疲れ様でした)」(25)「老师、您慢走 (先生、お気をつけて帰ってください)」(1)「谢谢老师 (先生、ありがとう)」(1)「(～) 老师、我先走了 ((～) 先生、お先に)」(5)「(～) 老师、拜拜 ((～) 先生、バイバイ)」(7)「Bye,老师 (先生、バイ)」(1) [107 例 (91%)]
親しいと思う先生	「先生、また授業で」 [1 例 (1%)]	「(～) 老师、再见 ((～) 先生、さようなら)」(37)「(～) 老师、辛苦了 (～) 先生、お疲れ様でした)」(26)「(～) 老师、拜拜 ((～) 先生、バイバイ)」(17)「老师、我先走了 (先生、お先に)」(13)「(～) 老师、一起走吗 ((～) 先生、一緒に帰りますか)」(3)「(～) 老师、早点回去休息 (先生、早く帰って休んでください)」(6)「Bye,老师 (先生、バイ)」(1)「(～) 老师、明天见 ((～) 先生、また明日)」(3)「老师、您慢走 (先生、お気をつけて帰ってください)」(1) [107 例 (88%)]

表 7.11 場面 6（メールの場面）における先生に対する呼称に関する日中対照

	日本人学生	中国人学生
あまり親しくない先生	「～教授、お世話になっております」(1) [1 例 (1%)]	「(～) 老师 ((～) 先生)」(17)「(～) 老师 (您) 好 (先生、こんにちは)」(63)「(～) 老师、早上好 (先生、おはようございます)」(3)「(～) 老师、忙吗 ((～) 先生、忙しいですか)」(3) [86 例 (92%)]
親しいと思う先生	[0 例 (0%)]	「(～) 老师 (先生)」(33)「(～) 老师 (您) 好 (先生、こんにちは)」(42)「老师、早上好 (先生、おはようございます)」(1)「(～) 老师、忙吗 ((～) 先生、忙しいですか)」(6)「(～) 老师、吃饭了吗 (先生、ご飯は済みましたか)」(2)「(老师) 近来如何 ((先生) 最近いかがですか)」(2)「(～) 老师、在忙啥呢 (先生、何をしていますか)」(1)「(～) 老师、最近还好吗 (先生、お元気ですか)」(1) [88 例 (95%)]

表 7.12 場面 7（電話の場面）における先生に対する呼称に関する日中対照

	日本人学生	中国人学生
あまり親しくない先生	[0 例 (0%)]	「(～) 老师 ((～) 先生)」(5)「(～) 老师 (您) 好 ((～) 先生、こんにちは)」(61)「(～) 老师、打扰 (扰) 了 ((～) 先生、お邪魔します)」(7)「(～) 老师、最近还好吗 ((～) 先生、お元気ですか)」(1)「(～) 老师 现在忙吗 ((～) 先生) 今忙しいですか)」(13)「(～) 老师、您吃饭了吗 ((～) 先生、ご飯は済みましたか)」(3)「老师、最近忙吗 (先生、最近お忙しいですか)」(3) [93 例 (96%)]
親しいと思う先生	[0 例 (0%)]	「(～) 老师 ((～) 先生)」(18)「(～) 老师 (您) 好 ((～) 先生、こんにちは)」(37)「(～) 老师、打扰您了 ((～) 先生、お邪魔します)」(10)「(～) 老师吃饭了吗 ((～) 先生、ご飯は済みましたか)」(7)「(～) 老师现在忙吗 ((～) 先生) 今忙しいですか)」(16)「(～) 老师在干嘛 ((～) 先生、何をしていますか)」(2)「老师、有空吗 (先生、空いていますか)」(1) [91 例 (98%)]

あいさつをする場合、中国人学生が呼称を頻繁に使用するの、中国語の呼称の機能と深く関わっている。日本語の呼称は単体でのあいさつとしての機能がないのに対して、中国語の呼称は相手への敬意を示す手段として積極的に使用され、それ自体でもあいさつとして機能する（西 2012:94）。また、学生が目上の先生に対して「你好（こんにちは）」のようなあいさつ言葉のみ言うのは不自然であり、「你好」のようなあいさつ言葉を使用するにしても、通常その前または後ろに「(～) 老师（先生）」のような呼称が必要である（曲他 1999,2001；西 2012）。水野（1998）は以下のような例を挙げている。

日本で学習、研究活動をしている中国人留学生が大きな食堂の向こうの端から大きな声で「先生！先生！」と呼ぶので「はい、何ですか？」と立ち止まって待っていたら、近づいてきて「おはようございます！」と言われて気が抜けた。

朝から何度も顔を合わせている留学生が、会うたびに「先生。」「先生。」と言う。これらの言語活動は、彼らの価値観では当然の礼儀であって、今までは言わずにはすまされないものであった。

（水野 1998:54）

水野（1998）は、現代中国では、敬意の表現は日本語のように体系的な敬語法としてではなく、呼称の問題に大きな比重が置かれていて、呼称は現代中国語あいさつでの地位は日本語のあいさつでの地位より重要であると指摘している。また、丁（2015）によると、現代中国語あいさつにおける呼称の対人関係による使用制限は、学生と社会人にとって極めて重要なことである。中国では、呼称をあいさつとして使用する場合、先生を名前で呼ぶことが許されないのは言うまでもなく、両親と会社の上司を名前で呼ぶことも許されない（丁 2015:119-120）。

上述した相違点①、すなわち中国人上級日本語学習者が日本語母語話者にあいさつをする場合、呼称を過剰に使用する傾向が生じたのは、語用論的転移、すなわち中国語の呼称におけるあいさつとしての使用習慣の影響を受けているためであると考えられる。

7.2.1.2 相違点②：先輩に PPS を使用する傾向

学習者の相違点②（別れの場面において先輩に PPS を使用する傾向）が生じたのも、語用論的転移、すなわち中国語での言語使用習慣の影響によるものであると考えられる。

表 7.13 と表 7.14 に示すように、親しいか親しくないかにかかわらず、場面 3 において先生と先輩にあいさつをする場合、日本人学生が PP 表現をほとんど使用しないのに対して、中国人学生は比較的多く使用している。

表 7.13 が示しているように、あまり親しくない先生、親しいと思う先生、あまり親しくない先輩、親しいと思う先輩に対して別れのあいさつをする場合、日本人学生が使用する

PP 表現はそれぞれ 3 例 (2%)、7 例 (5%)、3 例 (2%)、15 例 (10%) にすぎないのに対して、中国人学生が使用する PP 表現はそれぞれ 21 例 (20%)、66 例 (56%)、40 例 (40%)、77 例 (70%) に及んでいる。また表 7.14 が示しているように、イベント後、あまり親しくない先生、親しいと思う先生、あまり親しくない先輩、親しいと思う先輩に対して別れのあいさつをする場合、日本人学生が使用する PP 表現はそれぞれ 1 例 (1%)、2 例 (1%)、1 例 (1%)、5 例 (4%) にとどまっているのに対して、中国人学生が使用する PP 表現は、それぞれ 13 例 (11%)、48 例 (40%)、37 例 (32%)、63 例 (57%) に達している。

表 7.13 場面 3 (偶然出会って別れる場面) における上位者への PP 表現の日中対照

	日本人学生	中国人学生
あまり親しくない先生	「お気をつけて」(1)「どうも」(1) 簡単に挨拶をして帰る (1) [3 例 (2%)]	「(～) 老师, 拜拜 (先生、バイバイ)」(10)「(～) 老师, 先走了 (先生、お先に)」(7)「(～) 老师, 明天见 (先生、また明日)」(1)「拜拜 (バイバイ)」(1) 微笑 (1) 手を振る (1) [21 例 (20%)]
親しいと思う先生	「先生気を付けて帰ってください」(1)「また明日」(1)「先生また来週」(1)「えー先生—おくってくださいよ」(1)「私こっちから帰ります」(1)「次の授業もよろしくお願ひします」(1) 簡単に挨拶をして帰る (1) [7 例 (5%)]	「(～) 老师, 拜拜 ((～) 先生、バイバイ)」(28)「(～) 老师, 明天见 ((～) 先生、また明日)」(10)「(～) 老师, 我先走了 ((～) 先生、お先に)」(6)「(～) 老师, 回去早点休息 ((～) 先生帰ってから早く休んでね)」(6)「拜拜 (バイバイ)」(6)「(～) 老师, 我走这边了 ((～) 先生、私こちらなので)」(3) 手を振る (3)「(～) 老师, 回头见 ((～) 先生、またね)」(2)「老师, 别太累了 (先生、疲れないように)」(1) 微笑 (1) [66 例 (56%)]
あまり親しくない先輩	「じゃあ、また」(2)「こっちからなので」(1) [3 例 (2%)]	「(～) 学长・学姐, 拜拜 ((～) 先輩、バイバイ)」(16)「拜拜 (バイバイ)」(9)「(我) 先走了 (お先に)」(4)「(～) 学长・学姐, 先走了 ((～) 先輩、お先に)」(3)「(～) 学长・学姐, 我走这边了 ((～) 先輩、私こちらなので)」(2)「Bye」(2) 微笑 (2) 手を振る (1)「改天见 (また会いましょう)」(1) [40 例 (40%)]
親しいと思う先輩	「おつです」(2)「お疲れ(っす)」(3)「じゃあ、また」(2)「また明日」(3)「じゃあね」(1)「どうも」(1)「お気をつけて」(1)「～さん帰っちゃうんですか」(1)「じゃ、私こっちから帰ります」(1) [15 例 (10%)]	「(～) 学长・学姐, 拜拜 ((～) 先輩、バイバイ)」(23)「拜拜 (バイバイ)」(21)「(学长・学姐) 明天见 ((先輩) また明日)」(6)「(～) 学长・学姐, 早点回去休息 ((～) 先輩、早く帰って休んでね)」(6)「(～) 学长・学姐, 先走了 ((～) 先輩、お先に)」(4)「哥・姐, 慢走・再见 (兄ちゃん・姉ちゃん、お気を付けて帰ってね、またね)」(3)「走了哦 (帰るよ)」(2) 微笑 (2)「(～) 学长・学姐, 我走这边了 ((～) 先輩、私こちらなので)」(3)「去我那玩会吧 (うちへ遊びに行こうか)」(1)「喂 (おい)」(1)「Bye」(1)「(～) 学长・学姐, 慢走 ((～) 兄ちゃん・姉ちゃん、お気を付けて帰ってね)」(1)「改天一起出去玩 (いつか遊びに行こうか)」(1) 食事に誘う (1) 手を振る (1) [77 例 (70%)]

表 7.14 場面 5（共同作業をした後別れる場面）における上位者への PP 表現の日中対照

	日本人学生	中国人学生
あまり親しくない先生	「お疲れ様」 (1) [1 例 (1%)]	「(～) 老师, 我先走了 ((～) 先生、お先に)」 (5) 「(～) 老师、拜拜 ((～) 先生、バイバイ)」 (7) 「Bye, 老师 (先生、バイ)」 (1) [13 例 (11%)]
親しいと思う先生	「お疲れ様」 (1) 「先生、また授業で」 (1) [2 例 (1%)]	「老师, 我先走了 (先生、お先に)」 (13) 「(～) 老师、拜拜 ((～) 先生、バイバイ)」 (17) 「拜拜 (バイバイ)」 (4) 「(～) 老师、一起走吗 ((～) 先生、一緒に帰りますか)」 (3) 「(～) 老师、早点回去休息 (先生、早く帰って休んでください)」 (6) 「Bye, 老师 (先生、バイ)」 (1) 「谢谢, 有事叫我 (ありがとう。何かあったら連絡してね)」 (1) 「(～) 老师, 明天见 ((～) 先生、また明日)」 (3) [48 例 (40%)]
あまり親しくない先輩	「お疲れ様」 (1) [1 例 (1%)]	「(～) 学长・学姐, 那我先走了 ((～) 先輩、お先に)」 (6) 「(～) 学长・学姐、拜拜 ((～) 先輩、バイバイ)」 (12) 「拜拜 (バイバイ)」 (10) 「(我) 走了 ((私) 帰るよ)」 (3) 「Bye」 (2) 「明天见 (また明日)」 (1) 「太感谢了 (どうもありがとう)」 (1) 手を振る (1) 微笑 (1) [37 例 (32%)]
親しいと思う先輩	「お疲れ(っす)」 (2) 「お疲れ様」 (1) 「おつです」 (2) [5 例 (4%)]	「(～) 学长・学姐、拜拜 ((～) 先輩、バイバイ)」 (13) 「拜拜 (バイバイ)」 (12) 「(我) 走了 ((私) 帰るよ)」 (9) 「一起回去吧 (一緒に帰ろうか)」 (7) 「(～) 亲, 拜拜 ((親愛な) バイバイ)」 (4) 「(～) 学长・学姐, 那我先走了 ((～) 先輩、お先に)」 (4) 「明天见 (また明日)」 (2) 「路上注意安全 (帰るとき気をつけてね)」 (3) 「(～) 学长・学姐, 回去早点休息 ((～) 先輩、帰ってから早く休んでね)」 (1) 「哥・姐, See you (兄ちゃん・姉ちゃん、See you)」 (1) 「学长・学姐, 回头见 (先輩、また後でね)」 (1) 「谢啦 (ありがとう)」 (1) 「不要留我 (引き止めないでね)」 (1) 「Bye」 (1) 「我先闪了 (お先に)」 (1) 「(～) 学长・学姐, 一会儿有活动吗 ((～) 先輩、後で何かする予定がありますか)」 (1) 食事に誘う (1) [63 例 (57%)]

このように、別れの場面において、親しいか親しくないかにかかわらず、上位者の先生と先輩にあいさつをする場合、日本人学生（日本語母語話者）に比べると、中国人学生（中国語母語話者）は、PP 表現を使用する傾向が顕著である。

これに関して、劉（2010:164）と施（2012:65）も、日本語母語話者は人間関係の「上下」を重視し、相手との距離を保つ NPS を多用するのに対して、中国語母語話者は対人関係の親密意識が強く、相手との距離を縮める PPS を頻用すると指摘している。

よって、あいさつをする場合、中国語母語話者は、上位者に対しても PPS を使用するケースがあるといえる。上述した学習者の相違点②（別れの場面において先輩に PPS を使用する傾向）が生じたのは、中国語母語話者における上位者の先生と先輩に対しても PPS を使用することがあるということの影響、つまり語用論的転移によるものであると考えられる。

7.2.1.3 相違点③：親友に PPS+NPS を使用する傾向

学習者の相違点③（親友に PPS+NPS を使用する傾向）が生じたのは、語用論的転移と

関係がないと考えられる。なぜならば、中国語母語話者のあいさつの使用状況から親友に PPS+NPS を使用する傾向が見られないためである。

表 7.15 場面 1（11 時頃に会った場面）における親友への NP 表現の日中対照

	日本人学生	中国人学生
親友	「こんにちは」(3) 「3 例 (2%)」	「早上好 (おはようございます)」(1)「你好 (こんにちは)」(1) [2 例 (2%)]

表 7.16 場面 2（12 時半頃に会った場面）における親友への PPS+NPS あいさつ表現の日中対照

	日本人学生	中国人学生
親友	「こんにちは」(5) [5 例 (3%)]	「早上好 (お早うございます)」(1)「你好 (こんにちは)」(1) [2 例 (2%)]

表 7.17 場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における親友への PPS+NPS あいさつ表現の日中対照

	日本人学生	中国人学生
親友	「こんにちは」(4) 会 釈 (2) [6 例 (5%)]	「你好 (こんにちは)」(1)「中午好 (こんにちは)」(1) [2 例 (2%)]

表 7.18 場面 6（メールの場面）における親友への PPS+NPS あいさつ表現の日中対照

	日本人学生	中国人学生
親友	「こんにちは」(5)「お疲れ様です」(2)「いつも お世話になっております」(1) [8 例 (13%)]	「(～) 你好 ((～) こんにちは)」(3) [3 例 (9%)]

表 7.19 場面 7（電話の場面）における親友への PPS+NPS あいさつ表現の日中対照

	日本人学生	中国人学生
親友	「こんにちは」(9)「お疲れ様です」(1) [10 例 (13%)]	「你好 (こんにちは)」(3)「打搅了 (お邪 魔します)」(1) [4 例 (8%)]

表 7.15 から表 7.19 が示しているように、親友にあいさつをする場合、場面 1、場面 2、場面 4においても、メールと電話の場面としての場面 6と場面 7においても、「こんにちは」や「お疲れ様です」のような日本語の NP 表現を使用する日本人学生も、「(～) 你好」のような中国語の NP 表現を使用する中国人学生もほとんどいない。

要するに、場面 1、場面 2、場面 4、場面 6、場面 7において親友にどのようにあいさつをするかについて、中国語母語話者は、日本語母語話者と同様の使用傾向を示し、PPS+NPS としてのあいさつ表現をほとんど使用しない。そこで、学習者の相違点③の発生は語用論的転移と関係がないといえる。それでは、学習者の相違点③（親友に PPS+NPS を使用する傾向）が生じたのはなぜだろうか。

それは中国人上級日本語学習者が日本語でどのようなあいさつ表現を用いれば親友に対する PPS を実行できるかがわかっていないためであると考えられる。

第 3 章の 3.2.3 で述べたように、日本人学生は、「おはよう」や「お疲れ」のような PP

表現を PPS、「おはようございます」や「こんにちは」などのような NP 表現を PPS+NPS として使用する傾向が顕著である。それに対して、学習者は、先生と先輩だけではなく、親友にも「こんにちは」を比較的多く使用する傾向が窺える。第 5 章の表 5.12、表 5.14、表 5.20、表 5.33、表 5.35 が示しているように、場面 1、場面 2、場面 4、場面 6、場面 7 において親友に「こんにちは」を使用する学習者は、それぞれ 26 人 (24%)、46 人 (43%)、35 人 (33%)、31 人 (29%)、33 人 (31%) に達している。これは、学習者が日本語には「おはようございます」のような丁寧体が付いている NP 表現と「こんにちは」のような丁寧の形をとらない NP 表現が同時に存在していることを十分認識していないことによると考えられる。要するに、学習者は、日本語でどのようなあいさつ表現を用いれば親友に対する PPS を実行できるかがわかっていないため、丁寧の形をとらない NP 表現「こんにちは」を PPS として、親友に使用してしまうのではないかと考えられる。

7.2.1.4 相違点④:「お疲れ(～)」の不適切な使用

7.1.3 で示したように、相違点④(「お疲れ(～)」の不適切な使用)は、授業が終わった後という別れの場面に限られている。これについて、嶋津(2010:37-38)は、「ソト」の人間に対して、少なくとも下位者が「ソト」の上位者に対して、「お疲れ様でした」という表現を用いることは、あまり適切ではないと指摘している。そして、教育現場では、教師と学生の間にはどうしても力関係が存在するので、「ウチ」の関係になることは難しいという。つまり、「授業が終わった後」という別れの場面において、学生が教師に使用する「お疲れ(～)」は不適切な使用であるといえる。

学習者の相違点④(「お疲れ(～)」の不適切な使用)が生じたのは、語用論的転移によるものであると考えられる。なぜならば、表 7.20 が示している単なる別れの場面においては、「お疲れ(～)」に相当する中国語表現「(～) 辛苦了」を使用する中国人学生がほとんど見られないが、表 7.21 が示している共同作業をした後別れる場面においては、「(～) 辛苦了」をねぎらいのあいさつ表現として使用されることが少なくないためである。

表 7.20 に示すように、場面 3 (偶然出会う別れる場面)において、親しいか親しくないかにかかわらず、相手が先生と先輩である場合、日本人学生が「お疲れ(～)」を使用するのはそれぞれ 40 例 (30%) 前後と 80 例 (60%) 以上に達しているのに対して、中国人学生は中国語表現「(～) 辛苦了」を使用するのは 1 例もない。ただし、表 7.21 に示すように、場面 5 (共同作業をした後別れる場面)において、相手が誰かにかかわらず、中国人学生が「(～) 辛苦了」を使用する例は、日本人学生における「お疲れ(～)」の使用例ほど多くないものの、12 例～30 例 (12%～30%) に及んでいる。

表 7.20 場面 3（偶然出合って別れる場面）における「お疲れ（～）」と「（～）辛苦了」

	日本人学生	中国人学生
あまり親しくない先生	「お疲れ様です・でした」(38) [38 例 (29%)]	「老师, 辛苦了 (先生、お疲れ様でした)」(1) [1 例 (1%)]
親しいと思う先生	「お疲れ様です・でした」(42) [42 例 (32%)]	「(～) 老师, 辛苦了 ((～) 先生、お疲れ様でした)」(2) [2 例 (2%)]
親友	「お疲れ様でした」(1)「お疲れ様」(2)「お疲れ (っす)」(20)「お疲れ様でしたね」(1) [24 例 (18%)]	[0 例 (0%)]
あまり親しくない先輩	「お疲れ様です・でした」(83) [83 例 (64%)]	[0 例 (0%)]
親しいと思う先輩	「お疲れ様です・でした」(79)「お疲れ (っす)」(3) [82 例 (63%)]	[0 例 (0%)]

表 7.21 場面 5（共同作業をした後別れる場面）における「お疲れ（～）」と「（～）辛苦了」

	日本人学生	中国人学生
あまり親しくない先生	「お疲れ様です・でした」(89)「お疲れ様」(1) [90 例 (69%)]	「(～) 老师, 辛苦了 ((～) 先生、お疲れ様でした)」(25)「辛苦了 (お疲れ様でした)」(3) [28 例 (28%)]
親しいと思う先生	「お疲れ様です・でした」(105)「お疲れ様」(1) [106 例 (82%)]	「(～) 老师, 辛苦了 (～) 先生、お疲れ様でした)」(26)「辛苦了 (お疲れ様でした)」(4) [30 例 (30%)]
親友	「お疲れ様です・でした」(3)「お疲れ」(94)「お疲れ様」(15) [112 例 (86%)]	「辛苦了 (お疲れ様でした)」(10)「今天辛苦了 (今日はお疲れ様でした)」(2) [12 例 (12%)]
あまり親しくない先輩	「お疲れ様です・でした」(110)「お疲れ様」(1) [111 例 (85%)]	「学长・学姐辛苦了 (先輩、お疲れ様でした)」(20)「辛苦了 (お疲れ様でした)」(3) [23 例 (23%)]
親しいと思う先輩	「お疲れ様です・でした」(114)「お疲れ (っす)」(2)「お疲れ様」(1) [117 例 (90%)]	「学长・学姐辛苦了 (先輩、お疲れ様でした)」(19)「辛苦了 (お疲れ様でした)」(4) [23 例 (23%)]

また、以下の発言³³より、中国人学生が「（～）辛苦了」をねぎらい・感謝表現として、授業後先生に使用することもあるということが窺えるだろう。

平时下课后有的学生过来问问题，之后离开的时候有时会说 “老师，辛苦了”。不过这次教师节的时候，一上课学生们都一起喊“老师，您辛苦了”…（高校の教員・40代）（通常授業後、学生に質問されることがある。その後別れる時「先生、辛苦了」といわれることもある。今年教師の日、教室に入ったとたん、学生みんなから一斉に「辛苦了」と言ってくれた）

以上からわかるように、共同作業をした後別れる場面および授業後先生と別れる場面において、中国人学生は、目上の先生に「（～）辛苦了」を使用することがある。上述した学

³³ 2015年6月25日～9月18日筆者が日本語ができない中国語母語話者（社会人）12名に対してインタビューした結果である。

習者の相違点④（授業後先生に対する「お疲れ（～）」の不適切な使用）が生じたのは、中国語母語話者における上位者の先生に対して「（～）辛苦了」を使用することがあるということの影響によるものではないかと考えられる。

7.2.1.5 相違点⑤：会釈・お辞儀の脱落

出合いの場面において、あまり親しくない先輩に[会釈・お辞儀]をする中国人留学生が相対的に少ないことが生じたのは語用論的転移、すなわち中国人の非言語コミュニケーションにおける[会釈・お辞儀]の使用習慣の影響によるものであると考えられる³⁴。

表 7.22 場面 1（11 時頃に出会った場面）における[会釈・お辞儀]

調査対象 対人関係	日本人学生		中国人学生		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	130 人中	割合	101 人中	割合		
あまり親しくない先生	21	16%	5	5%	36.04**	8.14**
親しいと思う先生	14	11%	2	2%		8.48**
親友	0	0%	0	0%		0ns
あまり親しくない先輩	27	21%	6	6%		11.71**
親しいと思う先輩	10	8%	0	0%		17.95**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 7.23 場面 2（12 時半頃に出会った場面）における[会釈・お辞儀]

調査対象 対人関係	日本人学生		中国人学生		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	130 人中	割合	101 人中	割合		
あまり親しくない先生	11	8%	3	3%	40.91**	3.38*
親しいと思う先生	16	12%	1	1%		15.22**
親友	0	0%	0	0%		0ns
あまり親しくない先輩	27	21%	4	4%		16.92**
親しいと思う先輩	11	8%	0	0%		19.80**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 7.24 場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における[会釈・お辞儀]

調査対象 対人関係	日本人学生		中国人学生		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	130 人中	割合	101 人中	割合		
あまり親しくない先生	41	32%	3	3%	159.57**	40.69**
親しいと思う先生	46	35%	1	1%		65.64**
親友	2	2%	0	0%		3.51*
あまり親しくない先輩	44	34%	5	5%		35.74**
親しいと思う先輩	29	22%	1	1%		34.97**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

³⁴ 本来[会釈・お辞儀]の脱落は、厳密に言えば非言語コミュニケーション（non-verbal communication）の転移であるが、本研究では、言語行動の問題点か非言語行動の問題点かに関わらず、語用論的転移の範囲で考察する。

表 7.22 から表 7.24 に示したように、場面 1、場面 2、場面 4 において親しいか親しくないにかかわらず先生と先輩に[会釈・お辞儀]をする日本人学生は比較的多いものに対して、同様の状況で[会釈・お辞儀]をする中国人学生はほとんどいない。表 7.22 が示しているように、場面 1（11 時頃に出会った場面）においてあまり親しくない先生、親しいと思う先生、あまり親しくない先輩、親しいと思う先輩に[会釈・お辞儀]をする日本人学生はそれぞれ 21 人（16%）、14 人（11%）、27 人（21%）、10 人（8%）に及んでいるのに対して、同様の状況で[会釈・お辞儀]をする中国人学生はわずか 5 人（5%）、2 人（2%）、6 人（6%）、0 人（0%）にすぎない。表 7.23 が示しているように、場面 2（その日午後 12 時半時頃はじめて出会った場面）においてあまり親しくない先生、親しいと思う先生、あまり親しくない先輩、親しいと思う先輩に[会釈・お辞儀]をする日本人学生はそれぞれ 11 人（8%）、16 人（12%）、27 人（21%）、11 人（8%）に上っているのに対して、同様の状況で[会釈・お辞儀]をする中国人学生はわずか 3 人（3%）、1 人（1%）、4 人（4%）、0 人（0%）にすぎない。表 7.24 が示しているように、場面 4（その日 2 回以上出会った場面）においてあまり親しくない先生、親しいと思う先生、あまり親しくない先輩、親しいと思う先輩に[会釈・お辞儀]をする日本人学生はそれぞれ 41 人（32%）、46 人（35%）、44 人（34%）、29 人（22%）に達しているのに対して、同様の状況で[会釈・お辞儀]をする中国人学生はわずか 3 人（3%）、1 人（1%）、5 人（5%）、1 人（1%）にすぎない。

角変換法による相手別と母語話者別の分散分析³⁵を行った結果、場面 1、場面 2、場面 4 のいずれのデータにおいても母語話者別の主効果が有意であった。そこで、下位検定として単純主効果検定を行い、いずれの出会いの場面においても先生と先輩が対象である場合日本人学生と中国人学生の間有意差があることを確認した。

以上からわかるように、いずれの出会いの場面においても、日本人学生に比べると、相手が誰にかかわらず[会釈・お辞儀]をする中国語母語話者としての中国人学生はほとんどいない。上述した学習者の相違点⑤（[会釈・お辞儀]の脱落）が生じたのは、中国語母語話者における上位者の先生と先輩に対して[会釈・お辞儀]をほとんど使用しないということの影響によるものではないだろうか。

7.2.1.6 相違点⑥：積極的にあいさつをする傾向

学習者のあいさつ使用における日本人学生との相違点⑥（出会いの場面において誰に対しても積極的にあいさつをする傾向）が生じたのは、語用論的転移によるものであると考えられる。これについては、表 7.25、表 7.26、表 7.27 から窺える。

³⁵ 角変換法（逆正弦変換法）による分散分析では統計量は χ^2 分布に従うので、統計量として χ^2 値を示す。

表 7.25 場面 1 (11 時頃に出会った場面) におけるあいさつの使用頻度 (表 6.4 の再掲)

調査対象 対人関係	あいさつをする				母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	日本人学生 130 人中	割合	中国人学生 101 人中	割合		
あまり親しくない先生	53	41%	98	97%	65.76**	112.97**
親しいと思う先生	120	92%	101	100%		17.95**
親友	129	99%	100	99%		0.032ns
あまり親しくない先輩	109	84%	98	97%		13.13**
親しいと思う先輩	129	99%	100	99%		0.032ns

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 7.26 場面 2 (12 時半頃に出会った場面) におけるあいさつの使用頻度 (表 6.5 の再掲)

調査対象 対人関係	あいさつをする				母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	日本人学生 130 人中	割合	中国人学生 101 人中	割合		
あまり親しくない先生	46	35%	99	98%	108.10**	142.75**
親しいと思う先生	120	92%	101	100%		17.95**
親友	129	99%	101	100%		1.75ns
あまり親しくない先輩	107	82%	99	98%		19.50**
親しいと思う先輩	129	99%	101	100%		1.75ns

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 7.27 場面 4 (その日 2 回以上出会った場面) におけるあいさつの使用頻度 (表 6.6 の再掲)

調査対象 対人関係	あいさつをする				母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	日本人学生 130 人中	割合	中国人学生 101 人中	割合		
あまり親しくない先生	73	56%	95	94%	120.01**	51.82**
親しいと思う先生	111	85%	101	100%		34.98**
親友	117	90%	101	100%		23.53**
あまり親しくない先輩	98	75%	94	93%		14.52**
親しいと思う先輩	117	90%	99	98%		7.41**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 7.25 から表 7.27 が示しているように、場面 1 (11 時頃に出会った場面)、場面 2 (12 時半頃に出会った場面)、場面 4 (その日午後 12 時半頃 2 回以上出会った場面) においてあいさつをするかしないかについて、あまり親しくない先生にあいさつをしない日本人学生は、それぞれ 77 人 (59%)、84 人 (65%)、57 人 (44%) に達しているのに対して、同様の状況であいさつをしない中国人学生は 3 人 (3%)、2 人 (2%)、6 人 (6%) にとどまっている。日本人学生と比べると、中国人学生 (中国語母語話者) は、出会いの場面において相手が誰かに関わらず、積極的にあいさつをする傾向が顕著である。

以上より、学習者の相違点⑥ (出会いの場面において誰に対しても積極的にあいさつをする傾向) が生じたのは、中国語母語話者の「出会いの場面において誰に対しても積極的

にあいさつをする特徴」からの影響によるものではないかと考えられる。

7.2.1.7 相違点⑦：「おはよう（～）の不使用」

学習者の相違点⑦（「おはよう（～）」の不使用）が生じたのは、主に語用論的転移によるものであると考えられる。

表 7.28 場面 2（12 時半頃に出会った場面）における「おはよう（～）」と「（～）早（～）」

	日本人学生	中国人学生
あまり親しくない先生	「おはようございます」(1) [1 例 (1%)]	[0 例 (0%)]
親しいと思う先生	「おはようございます」(8) [8 例 (6%)]	[0 例 (0%)]
親友	「おはよう」(32) [32 例 (25%)]	「早上好 (おはようございます)」(1) [1 例 (1%)]
あまり親しくない先輩	「おはようございます」(5) [5 例 (4%)]	[0 例 (0%)]
親しいと思う先輩	「おはようございます」(9) 「おはようです」(1) [10 例 (8%)]	「(～) 学長・学姐, 早上好 ((～) 先輩, おはようございます)」(1) [1 例 (1%)]

表 7.29 場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における「おはよう（～）」と「（～）早（～）」

	日本人学生	中国人学生
あまり親しくない先生	「おはようございます」(1) [1 例 (1%)]	[0 例 (0%)]
親しいと思う先生	「おはようございます」(3) [3 例 (2%)]	[0 例 (0%)]
親友	「おはよう」(4) [4 例 (3%)]	[0 例 (0%)]
あまり親しくない先輩	「おはようございます」(3) [3 例 (2%)]	「早上好 (お早うございます)」(1) [1 例 (1%)]
親しいと思う先輩	「おはようございます」(1) [1 例 (1%)]	[0 例 (0%)]

表 7.28 と表 7.29 が示しているように、場面 2（12 時半頃に出会った場面）において、親友に「おはよう」とあいさつする日本人学生は 32 人（25%）に及んでいるのに対して、「おはよう」に当たる中国語表現「（～）早（～）」を使用する中国人学生はわずか 1 人（1%）にすぎない。また、場面 4（その日 2 回以上出会った場面）において、相手が誰かにかかわらず、「おはよう（～）」を使用する日本人学生および、それに当たる中国語表現「（～）早（～）」を使用する中国人学生は、両者ともほとんどいない。要するに、日本人学生に比べると、12 時半頃に出会った場面およびその日 2 回以上出会った場面において、相手が誰かにかかわらず、「おはよう（～）」に当たる中国語表現「（～）早（～）」を使用する中国人学生はほとんどいない。

日本人学生が、場面 2 において親友に対して「おはよう」を比較的多く使用しているのは、親友に対して PPS を用いる傾向が顕著であるためであるといえる。「おはよう」というあいさつ表現は、「ウチ意識」が含まれているため、PPS として使用される傾向が顕著である。速司（2004）は、「おはよう」の意識を時間帯意識の「おはよう」、儀礼的な「おはよう」、ウチ意識の「おはよう」、はじまり意識の「おはよう」という 4 つに区分している。

この4つを図 7.1 に示す。

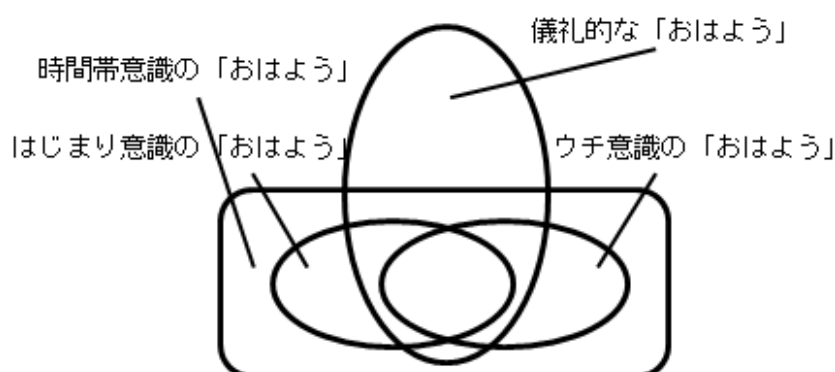


図 7.1 「おはよう」の意識（速司 2004 による）

午後 12 時半頃その日初めて出会った時に日本人学生が親友に対して使用している「おはよう」は、儀礼的な「おはよう」や時間帯意識の「おはよう」ではなく、はじまり意識・ウチ意識の「おはよう」なのではないかと考えられる。曲他（2010：41）によると、1 日のスタート時点で使用される「おはよう」は、はじまり意識の「おはよう」であると同時にウチ意識の「おはよう」でもある。そのように考えれば、午後 12 時半頃日本人学生が親友に使用する「おはよう」は、ウチ意識と仲間意識の現れであり、PPS として用いられていると見ることができる。

一方、学習者における日本人学生との相違点⑦（その日午後12時半頃その日初めて出会ったときに、誰に対しても「おはよう（～）」をほとんど使用しない）が生じたのは、語用論的転移によるものであると推察できる。彭（1990）は、中国では「（～）早（～）」は、大体朝8時か9時頃まで使用される表現であり、午後になってもまだ「（～）早（～）」とあいさつすれば、「朝寝坊」と皮肉を込めて言っているようであると指摘している。これは、表7.27と表7.28に示した中国人学生の使用状況からも窺える。上述したように、午後12時半頃、親友と親しいと思う先輩に「おはよう（～）」に当たる中国語表現「早上好」を使用する中国人学生はそれぞれわずか1人であった。その代わりに、中国人学生はあまり親しくない先生と先輩には「敬称+好（敬称+こんにちは）」のようなあいさつを、親しいと思う先生と先輩には「敬称+吃（飯）了吗（敬称+食事は済みましたか）」のようなあいさつを、親友には「吃饭去（一緒にご飯を食べよう）」のようなあいさつを使用する傾向が顕著である。

7.2.1.8 相違点⑧：「さようなら」の不使用

相違点③、相違点⑥と同様に、相違点⑧（いずれの別れの場面においても誰に対しても「さようなら」をほとんど使用しないこと）が生じたのは、語用論的転移とは関係がない

と考えられる。表 7.30 と表 7.31 に示すように、場面 3（偶然出会って別れる場面）と場面 5（共同作業をした後別れる場面）において、「さようなら」に当たる中国語表現「(～) 再见」を使用する中国人学生が少なくない。

表 7.30 場面 3（偶然出会って別れる場面）における「さようなら」と「(～) 再见」

	日本人学生	中国人学生
あまり親しくない先生	「さようなら」(57) [57 例 (44%)]	「(～) 老师, 再见 ((～) 先生、さようなら)」(76) 「再见 (さようなら)」(4) [80 例 (79%)]
親しいと思う先生	「さようなら」(56) [56 例 (43%)]	「(～) 老师、再见 ((～) 先生、さようなら)」(43) 「再见 (さようなら)」(5) [48 例 (48%)]
親友	「さようなら」(2) [2 例 (2%)]	「再见 (さようなら)」(11) [11 例 (11%)]
あまり親しくない先輩	「さようなら」(35) [35 例 (27%)]	「(～) 学长・学姐, 再见 ((～) 先輩、さようなら)」(42) 「再见 (さようなら)」(21) [63 例 (62%)]
親しいと思う先輩	「さようなら」(33) [33 例 (25%)]	「(～) 学长・学姐, 再见 ((～) 先輩、さようなら)」(18) 「再见 (さようなら)」(14) [32 例 (32%)]

表 7.31 場面 5（共同作業をした後別れる場面）における「さようなら」と「(～) 再见」

	日本人学生	中国人学生
あまり親しくない先生	「さようなら」(10) [10 例 (8%)]	「(～) 老师、再见 ((～) 先生、さようなら)」(67) 「再见 (さようなら)」(6) [73 例 (72%)]
親しいと思う先生	「さようなら」(8) [8 例 (6%)]	「(～) 老师、再见 ((～) 先生、さようなら)」(37) 「再见 (さようなら)」(3) [40 例 (40%)]
親友	[0 例 (0%)]	「再见 (さようなら)」(10) [10 例 (10%)]
あまり親しくない先輩	「さようなら」(6) [6 例 (5%)]	「(～) 学长・学姐, 再见 ((～) 先輩、さようなら)」(38) 「再见 (さようなら)」(15) [53 例 (52%)]
親しいと思う先輩	「さようなら」(7) [7 例 (5%)]	「(～) 学长・学姐, 再见 ((～) 先輩、さようなら)」(18) 「再见 (さようなら)」(6) [24 例 (24%)]

表 7.30 と表 7.31 が示しているように、場面 3 においても場面 5 においても親友にあいさつする場合、「さようなら」を使用する日本人学生も、「(～) 再见」を使用する中国人学生もほとんどいない。一方、日本人学生は場面 3 においては、親しいか親しくないかにかかわらず先生と先輩に「さようなら」を比較的多く使用するが、場面 5 においては、ほとんど使用しない。それに対して、中国人学生は場面 3 においても場面 5 においても先生と先輩に対して「(～) 再见」を比較的多く使用する。また、施 (2004:169、2005:120) によると、中国では、社会人、大学生を問わず「再见」が多く使用され、「再见」は中国人の別れを告げる言葉として代表的なものである。

要するに、学習者が誰に対しても「さようなら」をほとんど使用しない場面 3 と場面 5 において、中国人学生は「さようなら」に相当する中国語の「(～) 再见」を先生と先輩に比較的多く使用している。このことから、上述した相違点⑧が生じたのは、語用論的転移とは関係がないといえる。

7.2.1.9 相違点⑨：「お疲れ（～）」の不使用

学習者における日本人学生との相違点⑨、すなわち「出会いの場面およびメールと電話の場面において誰に対しても「お疲れ（～）」をほとんど使用しないこと」が生じたのは、主に語用論的転移、すなわち母語での言語使用習慣の影響によるものであると考えられる。これは、表 7.32～7.34 が示している出会いの場面に限らず、表 7.35 が示しているメールの場面および表 7.36 が示している電話の場面においても窺える。

表 7.32 場面 1（11 時頃に会った場面）における「お疲れ（～）」と「（～）辛苦了」

	日本人学生	中国人学生
あまり親しくない先生	「お疲れ様です」(3) [3 例 (2%)]	[0 例 (0%)]
親しいと思う先生	「お疲れ様です」(7) [7 例 (5%)]	[0 例 (0%)]
親友	「お疲れ（っす）」(12)「お疲れ様」(1) [13 例 (10%)]	[0 例 (0%)]
あまり親しくない先輩	「お疲れ様です」(29) [29 例 (22%)]	[0 例 (0%)]
親しいと思う先輩	「お疲れ様です」(35)「お疲れ」(1) [36 例 (28%)]	[0 例 (0%)]

表 7.33 場面 2（12 時半頃に会った場面）における「お疲れ（～）」と「（～）辛苦了」

	日本人学生	中国人学生
あまり親しくない先生	「お疲れ様です」(3) [3 例 (2%)]	[0 例 (0%)]
親しいと思う先生	「お疲れ様です」(11) [11 例 (8%)]	[0 例 (0%)]
親友	「お疲れ（っす）」(17)「お疲れ様」(2) [19 例 (15%)]	[0 例 (0%)]
あまり親しくない先輩	「お疲れ様です」(34) [34 例 (26%)]	[0 例 (0%)]
親しいと思う先輩	「お疲れ様です」(37)「お疲れ（っす）」(2) [39 例 (30%)]	[0 例 (0%)]

表 7.34 場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における「お疲れ（～）」と「（～）辛苦了」

	日本人学生	中国人学生
あまり親しくない先生	「お疲れ様です」(6) [6 例 (5%)]	[0 例 (0%)]
親しいと思う先生	「お疲れ様です」(14) [14 例 (11%)]	[0 例 (0%)]
親友	「お疲れ」(17)「お疲れ様」(1) [18 例 (14%)]	[0 例 (0%)]
あまり親しくない先輩	「お疲れ様です」(24)「お疲れです」(1) [25 例 (19%)]	[0 例 (0%)]
親しいと思う先輩	「お疲れ様です」(33)「お疲れ（っす）」(3) [36 例 (28%)]	[0 例 (0%)]

表 7.35 場面 6（メールの場面）における「お疲れ（～）」と「（～）辛苦了」

	日本人学生	中国人学生
あまり親しくない先生	「お疲れ様です」(11) [11 例 (8%)]	[0 例 (0%)]
親しいと思う先生	「お疲れ様です」(12) [12 例 (9%)]	[0 例 (0%)]
親友	「お疲れ様（です）」(4)「お疲れ」(5) [9 例 (7%)]	[0 例 (0%)]
あまり親しくない先輩	「お疲れ様です」(32)「お疲れ様」(1) [33 例 (25%)]	[0 例 (0%)]
親しいと思う先輩	「お疲れ様（です）」(34)「お疲れ」(2) [36 例 (28%)]	[0 例 (0%)]

表 7.36 場面 7（電話の場面）における「お疲れ（～）」と「（～）辛苦了」

	日本人学生	中国人学生
あまり親しくない先生	「お疲れ様です」(5) [5 例 (4%)]	[0 例 (0%)]
親しいと思う先生	「お疲れ様です」(7) [7 例 (5%)]	[0 例 (0%)]
親友	「お疲れ様です」(1)「お疲れ」(3) [4 例 (3%)]	[0 例 (0%)]
あまり親しくない先輩	「お疲れ様です」(20) [20 例 (15%)]	[0 例 (0%)]
親しいと思う先輩	「お疲れ様です」(22)「お疲れっす」(1) [23 例 (18%)]	[0 例 (0%)]

表 7.32 から表 7.36 が示しているとおり、場面 1、場面 2、場面 4、場面 6、場面 7 において、相手が誰かにかかわらず、「お疲れ（～）」を使用する日本人学生がある程度いるのに対して、「お疲れ（～）」に相当する中国語の「（～）辛苦了」を使用する中国人学生は皆無である。要するに、日本語と比べると、中国語の「（～）辛苦了」は、出会いの場面およびメールと電話の冒頭であいさつとして使用する用法がないと推察できる。

倉持（2008a:72）によると、「お疲れ（～）」は、意味拡大していくことで、本来の意味から逸脱し、仕事が終わった時の労いという意味が希薄になり、さらにいつでも誰に対しても使える職場の決まり文句としてマニュアル化もされている。また、登田（2004:4）によると、共時的にみると、現代日本語の「お疲れ（～）」の用法には、「話者が聴者の疲れている様子を敬って表現する」用法や「話者が帰宅する聴者に対する労いのあいさつ表現として使用する」という用法に限らず、「話者が通学・通勤してきた聴者に対する（最初にかける）あいさつ表現として使用する」用法もある。要するに、現代日本語の「お疲れ（～）」の用法には、「ねぎらいのあいさつ」として表現するものだけではなく、「出会いのあいさつ」あるいは「職場の決まり文句」として使用する用法もあるといえる。

相手が誰かにかかわらず「お疲れ（～）」を使用する日本人学生がある程度いるのは、「お疲れ（～）」における用法の拡張と多様性によるものであると考えられる。それに対して、中国語の「（～）辛苦了」にはこのような拡張用法がない。上述した学習者における日本人学生との相違点⑨（出会いの場面およびメールと電話の場面において誰に対しても「お疲れ（～）」をほとんど使用しない）が生じたのは、中国語の「（～）辛苦了」にはそのような拡張用法がないことによると考えられる。

7.2.2 日本語教育におけるあいさつ指導の不備

上述のすべての問題点・非問題点を含む相違点について、中国の大学の日本語教育現場で広く使用されている日本語教材『新編日語（修訂本）』（1-4 冊）、『新版中日交流標準日本語』³⁶（初級上・下冊）、『新編日語教程』³⁷（1-4 冊）、『みんなの日本語・大家的日语』³⁸（1,2 冊）を調査した。その結果、いずれの教材においても、「呼称」と「あいさつのストラテジ

³⁶ 光村图书出版株式会社編（2005）『新版中日交流標準日本語』人民教育出版社

³⁷ 新世界图书事业部（2012）『新編日語教程・第三版』华东理工大学出版社

³⁸ スリーエーネットワーク編著（2002）『みんなの日本語・大家的日语』外语教学与研究出版社

一」の日中差異および、「こんにちは」「さようなら」「お疲れ（～）」[会釈・お辞儀]の用法に対する解説がほとんど見られない。『新版中日交流標準日本語』（初級・上冊）には、「こんにちは」に関する説明があるものの、「你好！白天的寒暄（お昼のあいさつ）」（p.18）というものとどまっている。また、「さようなら」について、上述の教材には中国語の訳文「再见」以外、何の説明もない。日本語教師がそれらについて補足の教授項目として学習者に伝えれば、問題がないだろうが、伝えない場合、日本語学習者がそのことがわからないまま使用してしまう可能性が大きいと考えられる。たとえば、中国人日本語学習者が上位者の日本人先生にあいさつをする場合、「（～）先生」のような呼称を使用しないと、大変失礼になるという気持ちがあるため、つい使ってしまうのではないだろうか。

また、上述の相違点④（「お疲れ（～）」の不適切な使用）、相違点②（「おはよう（～）」の不使用）、相違点③（「さようなら」の不使用）の発生にも、日本語教師による説明と教材における解説が影響していると考えられる。

7.2.2.1 相違点④：「お疲れ（～）」の不適切な使用

相違点④が生じた原因としては、日本語教科書に「お疲れ（～）」の用法に関する解説がないことだけではなく、日本語教育現場における「お疲れ（～）」に関する指導法からの影響もあると考えられる。

嶋津（2010）は、「ご苦労様（です・でした）」と「お疲れ様（です・でした）」という表現の使い分けについて、集団調査法を採用し、日本語能力が上級レベルの留学生を対象に調査を行った。その結果、以下のことが明らかになった。

「ご苦労様（です・でした）」と「お疲れ様（です・でした）」という表現の使い分けについて今までどのように習ったかと尋ねたところ、インフォーマントの全員が「上・下」「目上・目下」「先輩・同輩・後輩」「上司・部下」という言葉を用いて説明しており、かかる2つの表現の使い分けに関し、母国の高等教育機関では基本的に「ウエ・シタ」の概念で教えられてきたことがわかる。（嶋津2010:36）

また、第4章でも述べたように、中国人上級日本語学習者に対する半構造化インタビュー調査で、「お疲れ（～）」について、どう思いますか」という質問に対して、LF09 と FF34 は、以下のように答えている。

LF09：我感觉我们学校的日本外教和商学院的日本外教有一些不一样。我们这边的老师在讲完「お疲れ様です」的时候，要求我们回应「ありがとうございました」，但是他们那边要求回应的是「お疲れ様でした」。

（ウチの大学で働いている日本人の先生と商学院（大学の名前）に勤めている日本人の

先生のあいさつはやや異なると思う。ウチの大学の日本人の先生は、授業が終わった後に先生から「お疲れ様です」とあいさつした場合「ありがとうございます」と返事するよう指導しているが、商学院の日本人の先生は「お疲れ様でした」と返事するよう指導しているそうである)

FF34 : 比如说「お疲れ様」的用法就不太好理解。感觉日本人不管是打完工还是说上完课, 「お疲れ様」用得特别多。不管是同辈之间还是跟上面的人, 还是社会上, 感觉他们都会使用「お疲れ様」。

(「お疲れ様」の使い方については、ちょっと理解しがたい。日本人の場合、アルバイトが終わった後でも授業が終わった後でも「お疲れ様」を多く使用している。同輩か上位者かにかかわらず「お疲れ様」とあいさつしても差し支えないようである)

LF09 の回答から窺えるように、中国の大学の日本語教育現場において、学習者に対する「お疲れ(～)」の指導について、揺れが生じている。すなわち、授業の後、先生に対して「お疲れ様でした」を使用できないと指導している日本語教師がいれば、同様の場面で先生に対して「お疲れ様でした」を使用できると指導している日本語教師もいる。この指導法における揺れがあるからこそ、FF34 が答えたような戸惑いが生じ、相違点④に結びついてしまうのではないかと考えられる。具体的に言えば、中国の日本語教育現場では、「お疲れ(～)」の使用について、日本語教師が「ウチ・ソト」という概念を用いず、「上・下」の概念のみで指導しているため、学習者が上位者の先生に使用してもかまわないという気持ちを持っていて、授業後先生に対して使用してしまうのであると考えられる。

7.2.2.2 相違点⑦:「おはよう(～)」の不使用

相違点⑦、すなわち学習者が午後の時間帯に誰に対しても「おはよう(～)」をほとんど使用しないのは、日本語教科書における「おはよう(～)」に関する説明とも深く関わっていると考えられる。銭(2010:91)によると、中国で使用されているほぼ全ての日本語教科書に、「「おはよう～」は午前中10時か11時までに出会った場面で使用するあいさつである」というような説明がある。たとえば、「おはよう(～)」の用法について、中国の大学日本語教育現場で広く使用されている『新編日語』という教材³⁹における第十四課(あいさつの言葉)の前文では以下の説明が示されている。

日本語の中にはあいさつの言葉がたくさんあります。日本人は朝、人に出会った時に「おはようございます」と言います。昼間人に会った時に「こんにちは」と言います... (『新編日語』p.240)

³⁹ 周平・陳小芬編著(2012)『新編日語(修訂本)1』上海外語教育出版社, p.240

以上からわかるように、日本人の若い世代では午後にも「おはよう」をPPSとして親友に用いる傾向があるのだが、中国人上級学習者は、この傾向を十分認識せず、「(～) 早上好」の使用習慣と日本語を勉強し始めた時に使用した日本語教材における「おはよう(～)」に関する説明の影響を受けて、午後の時間帯に「おはよう(～)」をほとんど使用しないのではないかと考えられる。

7.2.2.3 相違点⑧:「さようなら」の不使用

相違点⑧(「さようなら」の不使用)が生じたのは日本語教育現場におけるあいさつの指導に一因があると考えられる。「さようなら」の使用について、学習者は日本語初級段階において、日本語教師から以下のFF40とFF38が指摘しているように指導されることがある。FF40とFF38の発言は、2015年3月11日から2015年9月18日に実施した半構造化インタビュー調査による結果から抜粋したものである。

FF40:日本語を勉強し始めたときに、「さようなら」をできるだけ使用しないほうがいいというふうに先生から強調されたことがある。なぜなら、「さようなら」は永別するという意味合いがあるためである。

FF38:普段別れの場面で、「さようなら」を使用するとぎくしゃくする感じがある。通常滅多に使用しないじゃないかと考える。日本語を勉強し始めたときに、「さようなら」は長く別れる場面にしか使わないと先生から言われたことがある。

以上からわかるように、中国人留学生における「さようなら」の使用に対する抵抗感は、語用論的転移によるものではなく、中国人留学生が日本語初級学習段階で日本語教師の指導からの影響を受けたことによるのではないかと考えられる。第5章における表5.25と表5.27に示したように、中国人留学生は先生に対して「さようなら」の代わりに「失礼します」を比較的多く使用している。上述のFF40・FF38の発言と合わせて考えると、日本語教師が「さようなら」を回避して「失礼します」を教える背景には、日本語学習者の社会性への配慮があると推察できる。日本人社会人を対象とした調査によれば上位者と先輩に「さようなら」を使用する日本人社会人はほとんどいない(表7.37)⁴⁰。その代わりに「失礼します」を使用する日本人社会人が比較的多い。

⁴⁰ 表7.37におけるデータは、2016年4月1日から6月30日まで筆者が職場に働いている社会人114人に実施した調査によるものである。調査を行った際、場面3と場面5における「学校」と「先生」をそれぞれ「職場」と「上位者」に変更した。

表 7.37 日本人社会人における別れのあいさつ

場面とあいさつ表現 対人関係	場面 3 (114 人中)		場面 5 (114 人中)	
	さようなら	失礼します	さようなら	失礼します
あまり親しくない上位者	1 (1%)	40 (35%)	0 (0%)	23 (20%)
親しいと思う上位者	2 (2%)	32 (28%)	0 (0%)	22 (19%)
親しい同僚	6 (5%)	5 (4%)	2 (2%)	4 (4%)
あまり親しくない先輩	4 (4%)	29 (25%)	1 (1%)	19 (17%)
親しいと思う先輩	5 (4%)	19 (17%)	3 (3%)	16 (14%)

7.3 まとめ

以上、第 4 章で明らかにした日本語学習者のあいさつ使用に関する困難点と第 5 章で明らかにした中国人留学生におけるあいさつ使用に関する特徴に基づいて、学習者のあいさつ使用に関する問題点および日本人学生との相違点を抽出し、まとめたうえで、第 6 章で明らかにした大学生のあいさつ使用に関する相違点のデータを用いて、語用論的転移の観点および日本語教育の視点からそれらの問題点と相違点が生じた原因を考察した。その結果を表 7.38 に示す。

表 7.38 学習者におけるあいさつ使用の日本人学生との相違点が生じた原因

学習者のあいさつ使用の相違点			語用論的転移	日本語教育におけるあいさつ指導の仕方
問題点	相違点①	呼称を過剰に使用する	○	○
	相違点②	別れの場面において先輩に PPS を使用する傾向がある	○	○
	相違点③	出会いおよびメールと電話の場面において親友に PPS+NPS を使用する傾向がある	×	○
	相違点④	「お疲れ (～)」を不適切に使用する	○	○
	相違点⑤	いずれの出会いの場面においても、あまり親しくない先輩に[会釈・お辞儀]をする中国人留学生は相対的に少ない	○	○
非問題点	相違点⑥	誰に対しても積極的にあいさつをしている (PF に対する配慮を優先する)	○	○
	相違点⑦	午後の時間に誰に対しても「おはよう (～)」をほとんど使用しない	○	○
	相違点⑧	いずれの場面においても誰に対しても「さようなら」をほとんど使用しない	×	○
	相違点⑨	出会いおよびメールと電話の場面において誰に対しても「お疲れ (～)」をほとんど使用しない	○	○

表 7.38 が示しているように、相違点①②④⑤⑥⑦⑨が生じたのは、語用論的転移と日本語教育におけるあいさつ指導の仕方によるものである。相違点③および⑧が生じたのは、語用論的転移と関係なく主に日本語教育におけるあいさつ指導の仕方によるものである。

上述した相違点（問題点と非問題点）が生じた原因は明らかになったが、あいさつの習得について、日本語教育者と日本語学習者がそれぞれどのようにすべきかについて考察す

る必要もあると考えられる。あいさつの使用は、相手（対人関係）によって異なるだけでなく、あいさつの使用者によって異なることもある。大学生のあいさつ使用に関する特徴は、必ずしも社会人に当てはまるわけではない。社会人におけるあいさつの使用習慣は、大学生が必ずしも身につけているわけではない。日本語学習者は学生の段階では日本人学生のようにあいさつできることが求められているだろうが、それだけではまだ不十分であると考えられる。日本企業等に就職した後のことを考えると、学生の段階で事前に社会人におけるあいさつ使用の特徴を学んでおいた方がいいのではないだろうか。そこで、本研究では、大学生におけるあいさつの日中対照に加えて、社会人におけるあいさつの日中対照も行った。次の第 8 章において、それについて論じる。

第 8 章 社会人におけるあいさつ使用の日中対照

第 7 章において、第 4 章、第 5 章、第 6 章におけるデータを用いて、語用論的転移の観点および日本語教育の視点から中国人上級日本語学習者のあいさつ使用に関する問題点が生じた原因を考察した。その結果、中国人上級日本語学習者のあいさつ使用に関する問題点が生じたのは、主に母語での言語使用習慣の影響と日本語教育現場におけるあいさつ指導の不備によるものであることがわかった。

しかし、あいさつの使用について、どのように中国人日本語学習者に指導すべきかを明らかにするためには、日本人学生におけるあいさつの使用実態のみを調査するのでは十分であるとは言い難い。なぜならば、日本語学習者の最終目標は、日本語で社会人を含む様々な日本人と交流することであるためである。卒業後日系企業に就職する中国人は少なくないし、日本社会で生活している中国人も増えつつある。曲 (2008:1) が述べているように、留学に限らず、ビジネス関係および就職、定住などの理由で、日本に滞在する中国人は年々増加している。中国にある日系企業に勤務する中国人にせよ日本社会で生活する中国人にせよ、日本語で日本人社会人と交流することが普通のことになっている。そこで、中国人上級日本語学習者が戸惑ってしまうところやどのようにあいさつすべきかについてわからない場面で、日本人社会人はどのようにあいさつをしているか、中国人社会人に比べるとどのような相違点があるのかを調査する必要があると考えられる。

本章では、中国人社会人と比較することを通して、日本人社会人のあいさつ使用の特徴を明らかにすることを目的とする。

8.1 調査方法

日本人社会人と中国人社会人におけるあいさつの使用実態を把握するため、2016 年 4 月 1 日から 6 月 30 日まで、20 代から 40 代を中心とする日本人社会人 114 人と中国人社会人 105 人を対象とし、無記名で自由記述式調査を実施した。日本人社会人は、すべて中国語ができない社会人であり、中国人社会人は、すべて日本語ができない社会人である。調査対象のインフォーマントの情報を表 8.1 に示す。また、本調査において設定した 7 つの場面を表 8.2 に示す。

表 8.1 社会人のインフォーマント

調査対象 年齢	社会人（大学職員／会社員／店員）				合計
	中国人社会人		日本人社会人		
20 代	27 人	26%	23 人	20%	50 人
30 代	30 人	29%	28 人	25%	58 人
40 代	41 人	39%	31 人	27%	72 人
50 代	3 人	3%	11 人	10%	14 人
60 代	3 人	3%	16 人	14%	19 人
70 代	1 人	1%	5 人	4%	6 人
合計	105 人	100%	114 人	100%	219 人

表 8.2 社会人向けの場面の設定

対 人 関 係	
①あまり親しくない上位者 ②親しいと思う上位者	
③親しい同僚 ④あまり親しくない先輩 ⑤親しいと思う先輩	
自由記述式の質問	
場面 1	午前 11 時頃、職場の廊下でその日初めて以下の人に出会ってあいさつしますか。あいさつをする場合、どのようにあいさつをしますか。
場面 2	平日お昼の 12 時半頃職場の付近で、昼食に向かう途中、その日初めて以下の人に出会ってあいさつをしますか。あいさつをする場合、どのようにあいさつをしますか。
場面 3	夕方 5 時頃自分が帰る時、職場の廊下で以下の人に出会って、簡単なあいさつをして相手も帰るところだと分かりました。一緒に職場の出口まで行って、最後に職場の出口で以下の人と別れる場合、どのようにあいさつをしますか。
場面 4	その日の午前中初めて以下の人に出会った時にもうあいさつしました。お昼の 12 時半頃、職場の付近で再び以下の人に出会った場合、あいさつをしますか。あいさつをする場合、どのようにあいさつをしますか。
場面 5	以下の人と一緒にイベント会場を片付けました。その後、以下の人と別れる場合、あいさつをしますか。あいさつをする場合、どのようにあいさつをしますか。
場面 6	以下の人と面談する必要があります。面談の時間を予約するため午前 11 時頃以下の人にメールを送ります。メールの冒頭であいさつの言葉を書きますか。書く場合、どのようなあいさつを書きますか。
場面 7	面談があり、以下の人に電話をかけることになりました。午前 11 時頃電話をかける場合、あいさつをしますか。あいさつをする場合、どのようにあいさつしますか。

表 8.2 における場面 1 と場面 2 は「出会いの場面」であり、場面 3 と場面 5 は「別れの場面」であり、場面 4 は「その日 2 回以上出会った場合」であり、場面 6 と場面 7 は「電話とメールであいさつする場面」である。日本人社会人と中国人社会人における実際の職場生活に近い場面を作り、可能な限り現実に近いデータを収集するため、場面 1 から場面 5 において、それぞれ「職場の廊下」、「昼食に向かう途中」、「職場の出口」、「職場の付近」、「イベント会場」という 5 つの場所を設定した。場面 6 と場面 7 は、それぞれメールと電話の場面であるため、場所を設定していない。

場面 1 から場面 7 は、主に中国人上級日本語学習者の戸惑い①（上位者に対するあいさつの仕方）および日本語教師と大学教員における違和感①（敬語の脱落）と違和感②（呼称の過剰使用）」に基づいて設定した。ただし、場面 1 と場面 2 を設定した際、中国人上級日本語学習者の戸惑い⑥（「おはよう（～）」と「こんにちは」の使い分け）も参考にした。また、場面 3 の設定は戸惑い②（「さようなら」の用法）、場面 4 の設定は戸惑い④（その日 2 回以上出会った場面でのあいさつの仕方）、場面 5 の設定は戸惑い③（「お疲れ（～）」の用法）、場面 6 と場面 7 の設定は戸惑い⑤（メールと電話でのあいさつの仕方）も参考に入れた。これらを整理すると、以下の表 8.3 になる。

表 8.3 社会人向けの場面設定の根拠（表 5.3 の再掲）

場面	中国人上級日本語学習者のあいさつ使用に関する困難点	
場面 1	戸惑い⑥（「おはよう（～）」と「こんにちは」の使い分け）	戸惑い①（上位者に対するあいさつの仕方）
場面 2		
場面 3	戸惑い②（「さようなら」の用法）	
場面 4	戸惑い④（その日 2 回以上出会った場面でのあいさつの仕方）	違和感①（敬語の脱落）
場面 5	戸惑い③（「お疲れ（～）」の用法）／ 違和感③（「お疲れ（～）」の多用）	
場面 6	戸惑い⑤（メールと電話でのあいさつの仕方）	違和感②（呼称の過剰使用）
場面 7		

また、表 8.2 が示している「あまり親しくない上位者」、「親しいと思う上位者」、「あまり親しくない先輩」、「親しいと思う先輩」という 4 つの対人関係は、第 4 章における表 4.4 に示した中国人上級日本語学習者における戸惑い①（上位者にどのようにあいさつすべきか）に基づいて設定した。「親しい同僚」は、対人関係における「親疎」による違いを明らかにするため設定した。「あまり親しくない」については、「話をしたことはあるが、プライベートなことまで話題にしない／しそうもない」というように規定し、「親しい」については、「プライベートなことも話せる／話せそう」と規定しており、調査票にそのことを明記している。

なお、日本人社会人には日本語版の調査票、中国人社会人には中国語版の調査票を用いた。そして日本人社会人と中国人社会人に対する調査は、インフォーマントからの許可を得たうえで行った。その許可を得るために用いた調査承諾書は上述の調査票と一緒に本文の末尾に付録として掲載する。

8.2 調査結果および考察

中国人上級日本語学習者が戸惑っている点において、日本人社会人と中国人社会人は、それぞれどのようにあいさつをしているか、中国人社会人と比較すると日本人社会人のあいさつ使用はどのような特徴があるのかを明らかにするため、日本人社会人と中国人社会

人のあいさつ使用に関する全体的な傾向を示す必要があると考えられる。本節では、ポライトネスの観点から、日本人社会人と中国人社会人のあいさつ使用に関する全体的な使用傾向を検討する。

8.2.1 あいさつの有無

あいさつをするかしないかについて、表 8.4 と表 8.5 が示しているように、場面 1（11 時頃に出会った場面）と場面 2（12 時半頃に出会った場面）において、相手が誰かにかかわらず日本人社会人と中国人社会人は、ほぼ同様の傾向を示している。すなわち、場面 1 と場面 2 において、相手が誰かにかかわらず、日本人社会人も中国人社会人も積極的にあいさつをする傾向が顕著である。

表 8.4 場面 1（11 時頃に出会った場面）におけるあいさつの使用頻度

調査対象 対人関係	あいさつをする				母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	日本人社会人 114 人中	割合	中国人社会人 105 人中	割合		
あまり親しくない上位者	111	97%	103	98%	1.12ns	
親しいと思う上位者	111	97%	104	99%		
親しい同僚	112	98%	105	100%		
あまり親しくない先輩	111	97%	100	95%		
親しいと思う先輩	112	98%	103	98%		

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 8.5 場面 2（12 時半頃に出会った場面）におけるあいさつの使用頻度

調査対象 対人関係	あいさつをする				母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	日本人社会人 114 人中	割合	中国人社会人 105 人中	割合		
あまり親しくない上位者	109	96%	97	92%	1.69ns	
親しいと思う上位者	111	97%	104	99%		
親しい同僚	112	98%	105	100%		
あまり親しくない先輩	108	95%	96	91%		
親しいと思う先輩	112	98%	105	100%		

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 8.4 と表 8.5 が示しているとおり、場面 1 と場面 2 において相手が誰かにかかわらず、積極的にあいさつをする日本人社会人と中国人社会人はともに 9 割以上に及んでいる。角変換法による相手別と母語話者別の分散分析⁴¹を行った結果、場面 1 と場面 2 のデータにおいて母語話者別の主効果が有意ではなかった。言い換えれば、場面 1 においても場面 2 においても、相手が誰かにかかわらず、日本人社会人と中国人社会人の間に有意差がないことを確認した。

⁴¹ 角変換法（逆正弦変換法）による分散分析では統計量は χ^2 分布に従うので、統計量として χ^2 値を示す。

一方、表 8.6 に示すように、場面 4（その日 2 回以上出会った場面）において親しい同僚と親しいと思う先輩に対してあいさつをしない日本人社会人と中国人社会人はほとんどいないが、上位者とあまり親しくない先輩に対してあいさつをしない人は日本人社会人より中国人社会人のほうがやや多い。

表 8.6 場面 4（その日 2 回以上出会った場面）におけるあいさつの使用頻度

調査対象 対人関係	あいさつをする				母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	日本人社会人 114 人中	割合	中国人社会人 105 人中	割合		
あまり親しくない上位者	107	94%	81	77%	28.08**	13.45**
親しいと思う上位者	112	98%	93	89%		9.82**
親しい同僚	112	98%	103	98%		0.01ns
あまり親しくない先輩	107	94%	86	82%		7.81**
親しいと思う先輩	112	98%	97	92%		4.71*

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 8.6 が示しているとおおり、場面 4 においてあまり親しくない上位者、親しいと思う上位者、あまり親しくない先輩にあいさつしない日本人社会人はそれぞれ 7 人（6%）、2 人（2%）、7 人（6%）にとどまっているのに対して、同様の状況であいさつをしない中国人社会人はそれぞれ 24 人（23%）、12 人（11%）、19 人（18%）に達している。角変換法による相手別と母語話者別の分散分析を行った結果、母語話者別の主効果が有意であった。そこで、さらに単純主効果検定を行い、相手が上位者と先輩である場合日本人社会人と中国人社会人の間に有意差があることを確認した。

あいさつをするかどうかについての対人関係による使用制限および文化による差異は、出会った場面に限らず、別れの場面でもほとんど見られない。

表 8.7 場面 3（偶然出会って別れる場面）におけるあいさつの使用頻度

調査対象 対人関係	あいさつをする				母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	日本人社会人 114 人中	割合	中国人社会人 105 人中	割合		
あまり親しくない上位者	114	100%	100	95%	19.99**	10.58**
親しいと思う上位者	114	100%	104	99%		2.09ns
親しい同僚	114	100%	105	100%		0ns
あまり親しくない先輩	114	100%	100	95%		10.58**
親しいと思う先輩	114	100%	103	98%		4.19*

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 8.7 に示すように、場面 3（偶然出会って別れる場面）において、相手が誰かにかかわらずあいさつをしない日本人社会人は 1 人もいない。また、相手が先輩とあまり親しくない上位者である場合、あいさつをしない中国人社会人は少しいる。親しい同僚にあいさ

つをしない中国人社会人は、1人もいない。

角変換法による相手別と母語話者別の分散分析を行った結果、母語話者別の主効果が有意であった。そこで、さらに単純主効果検定を行った結果、相手が先輩とあまり親しくない上位者である場合、日本人社会人と中国人社会人の間に有意差があることを確認した。

また、表 8.8 に示すように、場面 5（共同作業をした後別れる場面）において、相手があまり親しくない上位者と先輩である場合、あいさつをしない日本人社会人よりあいさつをしない中国人社会人の方がやや多い。表 8.8 が示しているとおりに、場面 5 においてあまり親しくない上位者とあまり親しくない先輩にあいさつをしない日本人社会人は、それぞれ 1 人（1%）であるのに対して、同様の状況であいさつをしない中国人社会人は、それぞれ 5 人（5%）と 6 人（6%）に及んでいる。

表 8.8 場面 5（共同作業をした後別れる場面）におけるあいさつの使用頻度

調査対象 対人関係	あいさつをする				母語話者別の 主効果 (χ ²)	単純主効果 (χ ²)
	日本人社会人		中国人社会人			
	114 人中	割合	105 人中	割合		
あまり親しくない上位者	113	99%	100	95%	14.05**	3.48*
親しいと思う上位者	114	100%	104	99%		2.09ns
親しい同僚	114	100%	104	99%		2.09ns
あまり親しくない先輩	113	99%	99	94%		4.76*
親しいと思う先輩	114	100%	104	99%		2.09ns

(** $p < .01$, * $p < .05$)

角変換法による相手別と母語話者別の分散分析を行った結果、母語話者別の主効果が有意であった。そこで、さらに単純主効果検定を行った結果、相手があまり親しくない上位者と先輩である場合、日本人社会人と中国人社会人の間に有意差があることを確認した。

要するに、別れの場面において、日本人社会人にせよ中国人社会人にせよ、積極的にあいさつをする傾向があるが、あまりしたくない上位者と先輩にあいさつをしないケースについては、日本人社会人より中国人社会人の方がやや目立つ。

日本人社会人と中国人社会人の間にある差異は、その日 2 回目以上出会った場面（場面 4）と別れの場面（場面 3 と場面 5）に限らず、場面 6（メールの場面）と場面 7（電話の場面）にも窺える。

表 8.9 と表 8.10 に示すように、場面 6 と場面 7 において親しい同僚にあいさつをしない日本人社会人より、同様の状況であいさつをしない中国人社会人のほうが多い。表 8.9 と表 8.10 が示しているとおりに、場面 6 と場面 7 において親しい同僚にあいさつをしない日本人社会人がそれぞれ 12 人（11%）と 18 人（16%）なのに対して、同様の状況であいさつをしない中国人社会人は、それぞれ 44 人（42%）と 50 人（48%）に上っている。

表 8.9 場面 6（メールの場面）におけるあいさつの使用頻度

調査対象 対人関係	あいさつをする				母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	日本人社会人 114 人中	割合	中国人社会人 105 人中	割合		
あまり親しくない上位者	106	93%	101	96%	6.00*	1.12ns
親しいと思う上位者	108	95%	100	95%		0.03ns
親しい同僚	102	89%	61	58%		30.52**
あまり親しくない先輩	104	91%	98	93%		0.34ns
親しいと思う先輩	106	93%	90	86%		3.12*

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 8.10 場面 7（電話の場面）におけるあいさつの使用頻度

調査対象 対人関係	あいさつをする				母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	日本人社会人 114 人中	割合	中国人社会人 105 人中	割合		
あまり親しくない上位者	103	90%	98	93%	8.64 **	0.65ns
親しいと思う上位者	105	92%	93	89%		0.79ns
親しい同僚	96	84%	55	52%		27.22**
あまり親しくない先輩	101	89%	90	86%		0.41ns
親しいと思う先輩	101	89%	90	86%		0.41ns

(** $p < .01$, * $p < .05$)

角変換法による相手別と母語話者別の分散分析を行った結果、場面 6 と場面 7 とともに母語話者別の主効果が有意であった。さらに単純主効果検定を行った結果、親しい同僚である場合、日本人社会人と中国人社会人の間に有意差があることを確認した。

以上のように、中国人社会人と比較することを通して、日本人社会人におけるあいさつ使用の特徴を検討した。あいさつをするかどうかについて、その日初めて出会った場面としての場面 1 と場面 2 において相手が誰かにかかわらず、日本人社会人は中国人社会人とほぼ同様の使用傾向を示し、あいさつをしない人はほとんどいない。一方、その日 2 回目以上出会った場面としての場面 4、別れの場面としての場面 3 と場面語、メール・電話の場面としての場面 6 と場面 7 において、日本人社会人と中国人社会人からある程度の差異が窺える。場面 4 において、上位者と先輩にあいさつをしない中国人がやや多いのに対して、同様の状況ではあいさつをしない日本人はほとんどいない。場面 3 と場面 5 において、あまり親しくない上位者と先輩にあいさつをしない中国人社会人が比較的多いのに対して、同様の状況ではあいさつをしない日本人社会人は少ない。場面 6 と場面 7 において、親しい同僚にあいさつをしない中国人社会人が比較的多いのに対して、同様の状況であいさつをしない日本人社会人は相対的に少ない。要するに、いずれの場面においても日本人社会人は積極的にあいさつをする傾向が顕著である。

上記の結果が出たのは、日本人社会人と中国人社会人における上位者に対するポライトネス意識の違いによると考えられる。たとえば、相手に対してあいさつをするかしないか

によって、フェイスへの配慮が異なる。あいさつをしない場合、二つの可能性がある。一つは、相手の他人に邪魔されたくない、踏み込まれたくない欲求に配慮することである。もう一つは、話し手自身の他人に邪魔されたくない、踏み込まれたくないという欲求に配慮することである。本研究ではこれらを「NF への配慮」とする。また、あいさつをする場合も二つの可能性がある。一つは、相手における自分のイメージが他人から評価され、好ましく思われたいという欲求に配慮することである。もう一つは話し手自身における自分のイメージが他人から評価され、好ましく思われたいという欲求に配慮することである。本研究ではこれらを「PF への配慮」とする。

表 8.4 から表 8.10 に示したように、いずれの場面においても相手が誰にかかわらず日本人社会人が積極的にあいさつをする傾向が顕著である。これは、日本人社会人が相手の「自分のイメージが他人から評価され、好ましく思われたい」という欲求を満たすため、相手の PF に配慮していると考えられる。それに対して、表 8.6 からわかるように、場面 4 において上位者と先輩にあいさつをしない中国人社会人は比較的多い。これは[会釈・お辞儀]その単体をあいさつとして使用する中国人社会人が少ないことによるものであると考えられる。後記の表 8.21 と表 8.22 および表 8.68 からわかるように、日本人社会人はその日 2 回以上上位者と先輩に出会ったときに言葉の代りに[お辞儀・会釈]を使用することで対応するケースがかなりある（16%～42%）のに対して、中国人社会人はそれを使用することで対応するケースが比較的少ない（7%～15%）。そのため、その日 2 回以上出会った場合、中国人社会人はあいさつそのものを省略してしまうケースがあるのではないかと考えられる。

ただし、表 8.9 と表 8.10 が示しているとおりの、場面 6 と場面 7 において親しい同僚にあいさつをしない中国人社会人は比較的多い。これは、フェイスへの配慮ではなく、「On record であからさまに」であると考えられる。出会いの場面（場面 1、場面 2、場面 4）と別れの場面（場面 3 と場面 5）における「あいさつをしない」は、NF に対する配慮を優先する現れであるのに対して、メール（場面 6）と電話（場面 7）における「あいさつをしない」は、「On record であからさまに」である。出会いの場面、別れの場面と比べてみると、メールと電話の場面においては、実質的な意味合いのある情報を伝えなければならないということが特徴である。この場合、あいさつをするかどうかについては、対人関係によって異なる。通常、相手との仲が良ければよいほど、あいさつをしない可能性が大きいといえる。上位者、先輩と違って、親しい同僚がウチの存在であるため、場面 6 と場面 7 において、親しい同僚に対してあいさつをしないのは、親近感を伝える手段（On record であからさまに）の一つであるのではないかと考えられる。

8.2.2 あいさつのポライトネス・ストラテジー

前述の 3.2 からわかるように、あいさつをする場合、すべてのあいさつは、PF に対する

配慮があるものの、その配慮の度合いがあいさつの種類によって異なる。日本人社会人のあいさつ使用については、「おはよう」や「じゃあね」のような PP 表現を使用する場合、PF に対する配慮の度合いが高い、すなわち PPS を使用すると認定される。一方、「おはようございます」や「こんにちは」のような NP 表現を使用する場合、PF に対する配慮の度合いが低い、すなわち PPS+NPS を使用すると認定される。中国人社会人のあいさつ使用について、「早（おはよう）」や「拜拜（バイバイ）」のような PP 表現を使用する場合、PPS を使用すると認定される。一方、「您好（こんにちは）」や「再见（さようなら）」のような NP 表現を使用する場合、PPS+NPS を使用すると認定される。このような捉え方にもとづき、以下、各場面における日本人社会人と中国人社会人のあいさつ使用に関するポライトネス・ストラテジーの異同について考察する。

8.2.2.1 その日初めて出会った場面

中国人上級日本語学習者が戸惑っている点（戸惑い①と戸惑い⑥）において、日本人社会人と中国人社会人が、実際にどのようにあいさつをしているかを明らかにするため、上記の表 8.2 に示した場面 1（11 時頃に会った場面）と場面 2（12 時半頃に会った場面）について日本人社会人 114 人と中国人社会人 105 人に対して自由記述式調査を実施した。その結果をそれぞれ表 8.11、表 8.12、表 8.13、表 8.14 に示す。

表 8.11 場面 1（11 時頃に会った場面）において日本人社会人が使用するあいさつ表現

あまり親しくない上位者	「お疲れ様です」(28)「おはようございます」(39)「こんにちは」(15) 会釈 (19) お辞儀 (3) 目礼 (3) 無言で頭を下げる (2)「お世話様です」(1) 礼 (1)「今日はしばらくでございます」(1)「ういっす」(1)「どうも」(1)
親しいと思う上位者	「お疲れ様です」(35)「お疲れ様」(1)「おはようございます」(46)「あ、○○さん！おはようございます」(1)「こんにちは」(16)「いつもお世話様になっております」(1) 会釈 (3) 会釈+「お疲れ様です」(1) 会釈+「こんにちは」(1) 礼+「こんにちは」(1)「どうも、こんにちは」(1)「お世話様です」(2)「ういっす」(1) 家族について安否を尋ねる (1)「どうも」(1)
親しい同僚	「おはようございます」(18)「こんにちは」(9) 会釈 (2)「どうも、こんにちは」(1)「こんにちは、元気ですか」(1)「お疲れ様です」(19)「お世話様です」(1)「おはよう」(25)「よう」(2)「おつおつ！眠いな！」(1)「お疲れ」(11)「おう、お疲れ」(1)「お疲れ様」(9)「お疲れさん」(1) 雑談 (2)「元気？」(1)「どこ行くの？忙しい？」(1) 手を挙げる (2)「やあ」(1)「うっす」(2)「ういっす」(1)「おっす」(2)「よっ」(1)「おおお」(1) 手を挙げる+「How are you」(1)「どうも」(1)
あまり親しくない先輩	「おはようございます」(36)「こんにちは」(12)「お疲れ様です」(36) 会釈 (23) お辞儀 (1) 会釈+「こんにちは」(2) 目礼 (1)「お世話様です」(2)「ういっす」(1)
親しいと思う先輩	「おはようございます」(42)「○○さん、おはようございます」(1)「こんにちは」(14)「どうも、こんにちは」(1)「こんにちは、お変わりありませんか」(1)「お疲れ様です」(42) 会釈+「お疲れ様です」(2) 会釈 (5)「お世話になっております」(1) 笑顔でお辞儀 (1)「お世話様です」(2)「お疲れ様」(1)「ういっす」(1) 会釈+雑談 (1)「どうもどうも」(1)

(注：表の括弧内の数字は人数、網掛けの部分は NP 表現を意味する)

表 8.12 場面 1 (11 時頃に出会った場面) において中国人社会人が使用するあいさつ表現

あまり親しくない上位者	「肩書」+「(您) 好 (こんにちは)」(46)「肩書」+「早上好 (おはようございます)」(1)「早上好 (おはようございます)」(1)「你 (您) 好 (こんにちは)」(10)「肩書」(6)「早上好 (おはようございます)」(2) 会釈 (2) 会釈+「您好 (こんにちは)」(1) 会釈+微笑 (14)「早 (おはよう)」(2)「嗨 (やあ)」(1)「(～) 哥・姐, 您好 ((～) 兄ちゃん・姉ちゃん, こんにちは)」(1)「(～) 哥・姐 ((～) 兄ちゃん・姉ちゃん)」(1) 微笑 (8)
親しいと思う上位者	「肩書」+「(您) 好 (こんにちは)」(24)「你 (您) 好 (こんにちは)」(8)「早上好 (おはようございます)」(1)「肩書」(13)「肩書」+「早上好 (おはようございます)」(1) 会釈+「您好 (こんにちは)」(1) 会釈 (1) 微笑+会釈 (10)「(～) 哥・姐好 ((～) 兄ちゃん・姉ちゃん, こんにちは)」(15) 手を振る (2) 食事に誘う (5)「Hello」(4) 微笑 (4) 褒めの言葉を言う (4)「去哪里 (どちらへ)」(1)「早 (啊) (おはよう)」(5) 世間話 (2)「(～) 哥・姐 ((～) 兄ちゃん・姉ちゃん)」(6)
親しい同僚	「你好 (こんにちは)」(5)「去干嘛 (何をしに行く?)」(17)「去哪里 (どちらへ)」(13) 名前・綽名を呼ぶ (11) 雑談 (5)「今天忙不? (今日は忙しい?)」(1)「早上好啊 (おはようございます)」(6)「Hello」(4) 微笑+会釈 (3) 食事に誘う (9)「忙吗 (忙しい?)」(1) 微笑 (3)「Hi」(2) 冗談 (4) 褒めの言葉を言う (3)「今天天气不错 (今日は天気がいいですね)」(1)「嗨 (やあ)」(2)「吃了没 (もう食べたの?)」(2)「这么晚 (遅くなったね)」(1)「早 (おはよう)」(3) 世間話 (12)「Hello」(1) 微笑+手を振る (1)
あまり親しくない先輩	「称呼+好 (こんにちは)」(29)「你 (您) 好 (こんにちは)」(16)「称呼+早上好 (おはようございます)」(3)「早上好 (おはようございます)」(1)「早上好 (おはようございます)」(1)「上午好 (おはようございます)」(2) 会釈 (2) 微笑+会釈 (15)「(～) 哥・姐好 ((～) 兄ちゃん・姉ちゃん, こんにちは)」(8)「(～) 哥・姐 ((～) 兄ちゃん・姉ちゃん)」(3) 微笑 (10)「Hi」(3)「早 (おはよう)」(4) 名前を呼ぶ (3) 世間話 (1)
親しいと思う先輩	「称呼+ (你) 好 (こんにちは)」(11)「称呼」(3)「你 (您) 好 (こんにちは)」(9)「早上好 (おはようございます)」(3)「称呼+早上好 (おはようございます)」(1)「早安 (おはようございます)」(1) 会釈 (1) 微笑+会釈 (13)「早 (おはよう)」(4)「(～) 哥・姐好 ((～) 兄ちゃん・姉ちゃん, こんにちは)」(14)「(～) 哥・姐 ((～) 兄ちゃん・姉ちゃん)」(6) 名前を呼ぶ (5)「称呼+干嘛呢 (何をしているの?)」(6)「去干嘛 (何をしに行くの?)」(2)「称呼+去哪儿 (どちらへ)」(1)「Hi」(2) 微笑 (9) 冗談 (1)「今天天气不错啊 (今日は天気がいいですね)」(2) 褒めの言葉を言う (2) 食事に誘う (2)「吃饭没 (もう食べたの?)」(2)「最近忙吗 (最近忙しい?)」(1) 世間話 (5)

(注: 表の括弧内の数字は人数、網掛けの部分は NP 表現を意味する)

表 8.13 場面 2 (12 時半頃に出会った場面) において日本人社会人が使用するあいさつ表現

あまり親しくない上位者	「おはようございます」(1)「こんにちは」(23)「お疲れ様です」(44)「お世話様です」(2) 会釈 (26) お辞儀 (6) 礼 (1) 頭を下げる (2) 無言で頭を下げる (1) 目礼する (1)「ういっす」(1)「どうも」(1)
親しいと思う上位者	「おはようございます」(1)「こんにちは」(30)「お疲れ様です」(57) 会釈 (12)「お久しぶりです」(1)「お昼御飯ですか」+笑顔 (1)「ご飯食べたんですか」(2)「ご飯は済みましたか」(1)「お昼ご飯終わったのですか」(1)「食事に行ってきます」(1) 雑談 (1)「お食事ですか」(1) 礼+「お昼ですか」(1)「ういっす」(1)「今日はどこに行きますか」(1)「どうも」(1)
親しい同僚	「おはようございます」(1)「こんにちは」(17)「お疲れ様です」(29) 会釈 (3)「こんにちは、昼食一緒にどうですか」(1)「お疲れ」(12)「お疲れ様」(10)「これから食事?」(3)「お昼に行ってきます」(1)「お疲れ、これからご飯?」(1)「お疲れ、お昼食べよ」(1)「お昼?」(1)「ランチに行くの?」(1)「一緒にご飯食べにいかん?」(1)「お昼食べた?」(3) 雑談 (4)「お疲れ、お昼どこに行くの?一緒に行く?」(3)「おっす」(1)「何食べるの?」+笑顔 (1)「お疲れ様です。今日のお昼、何にしましたんですか」(1)「おっつ」(1)「今日はどちらで?」(1)「おう」+手を挙げる (2)「やあ」(1)「うっす」(3)「ういっす」(1)「そっちも休憩入ったの?お昼一緒に行こうよ」(1)「今日はどこに行く」(1) 雑談 (1)「お元氣かい」(1)「やあ」(3)「よお」(2)「よう」(1)「よう。メシ?一緒に行く?」(1)「食事に行ってきます」(1)「お疲れ、昼?」(1)
あまり親しくない先輩	「おはようございます」(1)「こんにちは」(21)「お疲れ様です」(53) 会釈 (21) 目礼 (1) 頭を下げる目礼 (2) お辞儀 (3) 無言で頭を下げる (2)「お疲れ様」(1) 遠巻きに見て、別方向へ向かう (1)「お昼はお済ですか」(1)「ういっす」(1)
親しいと思う先輩	「おはようございます」(1)「こんにちは」(25)「お疲れ様です」(58) 会釈 (9)「お疲れ様」(1)「こんにちは、お昼ですか」(2)「お疲れ様です。お昼ご飯一緒にしたいです」(1)「お昼御飯ですか」(2)「お昼に行ってきます」(2)「お昼はお済ですか」(2)「これからお食事ですか」(1)「一緒にランチ行きませんか」(1)「お昼食べましたか」(1) 雑談 (2)「おう」+手を挙げる (1)「何を食べるんですか」(2)「ういっす」(1)「先輩、連れて行ってください」(1) 会釈+雑談 (1)「お忙しいですね」(1)「どうもどうも」(1)

(注: 表の括弧内の数字は人数、網掛けの部分は NP 表現を意味する)

表 8.14 場面 2 (12 時半頃に出会った場面) において中国人社会人が使用するあいさつ表現

あまり親しくない上位者	「肩書+（您）好（こんにちは）」(34)「你（您）好（こんにちは）」(12)「肩書+中午好（こんにちは）」(1)「肩書」(7) 会釈+微笑 (14) 微笑 (8)「肩書+吃了吗（食べたの?）」(7)「好巧哦（偶然だね）」(1)「吃了吗（食べたの?）」(6)「嗨（やあ）」(1)「去吃饭啊（飯に行くの?）」(2)「吃啥（何を食べるつもり?）」(1) 食事に誘う (2)「hi」(1)「中午好（こんにちは）」(1)
親しいと思う上位者	「你（您）好（こんにちは）」(11)「肩書+（您）好（こんにちは）」(4)「肩書」(5) 会釈 (1) 微笑+会釈 (15)「肩書+去吃饭啊（飯に行くの?）」(6)「肩書+吃了吗（食べたの?）」(19)「（～）哥・姐，吃饭没（（～）兄ちゃん・姉ちゃん、もう食べたの?）」(5)「好巧哦（偶然だね）」(1)「吃了吗（もう食べたの?）」(19)「Hello・Hi」(4) 微笑 (5)「去吃饭啊（飯に行くの?）」(2)「请客不（奢ってよ）」(1) 食事に誘う (6)「干嘛去（何をしに行くの?）」(1)「（～）哥・姐（（～）兄ちゃん・姉ちゃん）」(1)「哥・姐，要去食堂吃饭呀（（～）兄ちゃん・姉ちゃん、学食に行くの?）」(1) 世間話 (1)
親しい同僚	「你好（こんにちは）」(1) 食事に誘う (59)「吃了吗（もう食べたの?）」(32) 冗談 (3)「Hello」(1)「Hi」(3)「Hello」(2)「干嘛呢（何をしているの?）」(1)「去哪里（どちらへ）」(2) 微笑 (1) 会釈+微笑 (4) 世間話 (1) 綽名を呼ぶ (2)「去吃饭啊（飯に行くの?）」(1)「嗨（やあ）」(1)
あまり親しくない先輩	「呼称+（你）好（こんにちは）」(13)「你（您）好（こんにちは）」(14) 会釈 (4)「呼称」(3) 会釈+「你好（こんにちは）」(1) 微笑+会釈 (13) 食事に誘う (6)「呼称+吃饭去吗（飯に行くの?）」(3)「（～）哥・姐（（～）兄ちゃん・姉ちゃん）」(3)「（～）哥・姐，吃饭没（（～）兄ちゃん・姉ちゃん、もう食べたの?）」(4) 微笑 (8)「好巧哦（偶然だね）」(1)「吃了吗（もう食べたの?）」(13)「Hi」(1)「呼称+吃了吗（食べたの?）」(1)「（～）哥・姐好（（～）兄ちゃん・姉ちゃん、こんにちは）」(4)「去吃饭啊（飯に行くの?）」(1)「hi」(1)「有啥打算（何をするつもり?）」(1) 名前を呼ぶ (2)
親しいと思う先輩	「呼称+（你）好（こんにちは）」(2)「呼称」(1)「你（您）好（こんにちは）」(6) 会釈 (2) 微笑+会釈 (9)「呼称+吃了吗（もう食べたの?）」(13) 食事に誘う (34)「吃了吗（もう食べたの?）」(17)「呼称+一起吃饭吗（一緒に食べるの?）」(1)「（～）哥・姐，一起吃饭去吧（（～）兄ちゃん・姉ちゃん、一緒に食べよう）」(2)「好巧哦（偶然だね）」(1) 名前を呼ぶ (4)「Hi」(1) 微笑 (4)「（～）哥・姐，吃饭没（（～）兄ちゃん・姉ちゃん、もう食べたの?）」(2)「去吃饭啊（飯に行くの?）」(3)「（～）哥・姐（（～）兄ちゃん・姉ちゃん）」(1)「哥・姐好（兄ちゃん・姉ちゃん、こんにちは）」(3)「干嘛去（何をしに行くの?）」(1)「慢走（気を付けてね）」(1)

(注：表の括弧内の数字は人数、網掛けの部分は NP 表現を意味する)

表 8.12 と表 8.14 が示しているように、場面 1 と場面 2 において、親しいか親しくないかにかかわらず上位者と先輩にあいさつする場合、上位者と先輩に対して中国人社会人が PP 表現を使用する傾向が比較的顕著である。それに対して、表 8.11 と表 8.13 が示しているように、同様の状況においてあいさつをする場合、親しいか親しくないかにかかわらず日本人社会人が NP 表現を使用する傾向が顕著である。また、場面 1 と場面 2 において親しい同僚に対してあいさつをする場合、中国人社会人がほとんど NP 表現を使用しないのに対して、日本人社会人は比較的多く使用している。

日本人社会人と中国人社会人におけるあいさつの使用傾向を分かりやすくするため、表 8.11 から表 8.14 が示している日本人社会人と中国人社会人の上位者・親しい同僚・先輩に使用するあいさつ表現を NP 表現と PP 表現に分けて集計し、そのデータをそれぞれ表 8.15、表 8.16、表 8.17、表 8.18、表 8.19 に示す。

表 8.15 場面 1・2（出会いの場面）におけるあまり親しくない上位者に対するあいさつ表現の種類

		日本人社会人	中国人社会人
場面 1	NP 表現	111 例 (97%)	69 例 (72%)
	PP 表現	3 例 (3%)	27 例 (28%)
場面 2	NP 表現	107 例 (98%)	54 例 (55%)
	PP 表現	2 例 (2%)	44 例 (45%)

表 8.16 場面 1・2（出会いの場面）における親しいと思う上位者に対するあいさつ表現の種類

		日本人社会人	中国人社会人
場面 1	NP 表現	109 例 (97%)	49 例 (46%)
	PP 表現	3 例 (3%)	58 例 (54%)
場面 2	NP 表現	100 例 (88%)	21 例 (19%)
	PP 表現	13 例 (12%)	87 例 (81%)

表 8.17 場面 1・2（出会いの場面）における親しい同僚に対するあいさつ表現の種類

		日本人社会人	中国人社会人
場面 1	NP 表現	50 例 (43%)	5 例 (5%)
	PP 表現	67 例 (57%)	105 例 (95%)
場面 2	NP 表現	50 例 (43%)	1 例 (1%)
	PP 表現	67 例 (57%)	113 例 (99%)

表 8.18 場面 1・2（出会いの場面）におけるあまり親しくない先輩に対するあいさつ表現の種類

		日本人社会人	中国人社会人
場面 1	NP 表現	113 例 (97%)	53 例 (53%)
	PP 表現	3 例 (3%)	47 例 (47%)
場面 2	NP 表現	104 例 (96%)	35 例 (36%)
	PP 表現	4 例 (4%)	62 例 (64%)

表 8.19 場面 1・2（出会いの場面）における親しいと思う先輩に対するあいさつ表現の種類

		日本人社会人	中国人社会人
場面 1	NP 表現	110 例 (95%)	29 例 (27%)
	PP 表現	6 例 (5%)	77 例 (73%)
場面 2	NP 表現	93 例 (80%)	11 例 (9%)
	PP 表現	23 例 (20%)	107 例 (91%)

表 8.15 が示しているように、場面 1 と場面 2 においてあまり親しくない上位者にあいさつをする場合、中国人社会人が使用する PP 表現はそれぞれ 27 例 (28%) と 44 例 (45%) に及んでいるのに対して、日本人社会人が使用する PP 表現は、それぞれ 3 例 (3%) と 2 例 (2%) にとどまっている。表 8.16 が示しているように場面 1 と場面 2 において親しいと思う上位者にあいさつをする場合、中国人社会人が使用する PP 表現はそれぞれ 58 例 (54%) と 87 例 (81%) に上っているのに対して、日本人社会人が使用する PP 表現はそれぞれ 3 例 (3%) と 13 例 (12%) である。表 8.18 が示しているように、場面 1 と場面 2 においてあまり親しくない先輩にあいさつをする場合、中国人社会人が使用する PP 表現はそれぞれ 47 例 (47%) と 62 例 (64%) に達しているのに対して、日本人社会人が使用する PP 表現はそれぞれ 3 例 (3%) と 4 例 (4%) にとどまっている。表 8.19 が示しているように、場面 1 と場面 2 において親しいと思う先輩にあいさつをする場合、中国人社会人が使用する PP 表現はそれぞれ 77 例 (73%) と 107 例 (91%) に及んでいるのに対し

て、日本人社会人が使用する PP 表現がそれぞれ 6 例（5%）と 23 例（20%）にとどまっている。一方、表 8.17 が示しているように、場面 1 と場面 2 において親しい同僚にあいさつをする場合、中国人社会人が使用する NP 表現はそれぞれわずか 5 例（5%）と 1 例（1%）にすぎないであるのに対して、日本人社会人が使用する NP 表現は各 50 例（43%）に上っている。

表 8.20 出合いの場面におけるあいさつ表現とポライトネスの関係

ポライトネス		群	あいさつ表現の分類	種別	代表例
NF・PF への配慮	PPS	A 群	定型でない非丁寧表現	PP 表現	飯食う？吃了吗？手を挙げる…
		B 群	定型でない丁寧表現		飯食べました？呼称＋吃了吗？…
		C 群	定型の省略された非丁寧表現		おっす、よう、早（啊、呀）…
		D 群	定型の非丁寧表現		おはよう、（～）早…
	PPS+NPS	E 群	丁寧表現がない定型的表現	NP 表現	こんにちは、你好、会釈…
		F 群	定型の丁寧表現		おはようございます、早上好…
		G 群	定型の丁寧表現の複合体あるいは定型の丁寧表現と丁寧表現がない定型的表現の複合体		おはようございます＋会釈 敬称＋早上好＋会釈…

表 8.20 が示しているように、「おはよう」や「早（おはよう）」のような PP 表現は、PPS として使用される傾向が強い表現である一方、「おはようございます」や「早上好（おはようございます）」のような NP 表現は、PPS+NPS として使用される傾向が強い表現である。そう考えてみると、場面 1 と場面 2 において、あいさつをする場合、親しいか親しくないかにかかわらず上位者と先輩には中国人社会人は PPS+NPS だけではなく PPS を使用するケースもあるのに対して、日本人社会人は PPS+NPS を使用する傾向が顕著である。一方、親しい同僚にあいさつをする場合、中国人社会人は PPS を使用する傾向が顕著であるのに対して、日本人社会人は PPS だけではなく、PPS+NPS を使用するケースもある。

8.2.2.2 その日 2 回以上出会った場面

上述した日本人社会人と中国人社会人におけるあいさつの戦略に関する対人関係による使用制限の差異については、場面 1 と場面 2 に限らず、場面 4（その日 2 回以上出会った場面）からも窺える。

表 8.21 と表 8.22 が示しているように、場面 4 においては、どのようにあいさつをするかについて、日本人社会人と中国人社会人は場面 1 と場面 2 における使用状況とほぼ同様の使用傾向を示している。

表 8.21 場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における日本人社会人のあいさつ

あまり親しくない上位者	「お疲れ様です」(46) 会釈 (37)「こんにちは」(10) 頭を下げる (4) お辞儀 (3) 黙礼 (1) 目礼 (2)「今日はなんだか縁がありますね」(1)「あ、どうも」(1)「ういっす」(1)「昼ごはんすまされましたか」(1)
親しいと思う上位者	「お疲れ様です」(58) 会釈 (24)「こんにちは」(13) 目礼 (2)「こんにちは。先ほども会いましたね」(1)「お疲れ様です。どこか行かれるんですか」(1)「何度もお会いできてうれしいです」(1)「お昼これからですか」(1)「もうお昼終わりましたか」(1)「お昼は済まされましたか」(2) 雑談 (1)「あ、どうも」(1)「お昼はお済ですか」(2)「ういっす」(1)「どうも」(1)「またお会いしましたが、今日ご縁がありますね」(1)「今日はよくお会いしますね」(1) にっこり笑う (1)
親しい同僚	「お疲れ様です」(36) 会釈 (10)「こんにちは」(4)「お疲れ様」(12)「お疲れ」(12)「今日はよくお会いしますね」(1)「また会ったね」(3)「よく会うね」(1)「また会った！お疲れ様！」(1)「おいおい、いくらか好きだからってストーカーは NG だぞ」(1)「うっす」(1) アイコンタクト (1)「ご飯食べたの」(1)「一緒にお茶する？」(1)「お昼？」(1)「どうも」(3) 雑談 (5)「今日はどちらで？」(1)「おう」+手を挙げる (2)「あら」(1)手を振る (1)「あ、どうも」(1)「お昼は食べたの」(2)「お昼は済んだ？」(4)「また会うな」(1)「うっす」(2)「ういっす」(1)「また会ったね」(1)「やあ」(1)「よう」(2) にっこり笑う (1)「お昼まだだったら、一緒に食べる？」(1)「どうも先ほどね」(1)「お疲れ、もうお昼食べた？」(1)
あまり親しくない先輩	「お疲れ様です」(54) 会釈 (27)「こんにちは」(11) お辞儀 (2) 目礼 (2) 黙礼 (1) 頭を下げる (4)「お疲れ様でした」(1) アイコンタクト (1)「あ、どうも」(1)「お昼はお済ですか」(3)「ういっす」(1)
親しいと思う先輩	「お疲れ様です」(60) 会釈 (17)「こんにちは」(9)「お疲れ様でした」(1) 目礼 (2)「お疲れ様です、もうお昼食べましたか」(1) アイコンタクト (1)「こんにちは。奇遇ですね」(1)「お疲れ様です。また会いましたね」(1)「また会いましたね」(3)「よく会いますね」(1)「お昼これからですか」(2)「どうも」(1) 雑談 (4)「おう」+手を挙げる (1)「あ、どうも」(1)「お昼はお済ですか」(1)「ういっす」(1)「昼ごはん済みしましたか」(4)「どうも」(2) にっこり笑う (1)「一緒にお昼食べませんか」(1)

(注：表の括弧内の数字は人数、網掛けの部分は NP 表現を意味する)

表 8.22 場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における中国人社会人のあいさつ

あまり親しくない上位者	「肩書」+(您)好 (こんにちは) (35)「肩書」(6)「你 (您) 好 (こんにちは)」(9) 会釈 (3) 会釈+微笑 (10)「吃了吗 (もう食べたの?)」(3)「又碰到了 (また会ったね)」(2) 微笑 (9)「Hello」(1)「在干嘛 (何をしているの?)」(1)「Hi」(1) 手を振る (1)
親しいと思う上位者	「肩書」(3)「肩書」+(您)好 (こんにちは) (10)「您好 (こんにちは)」(7) 会釈 (1) 会釈+微笑 (7)「肩書+去哪呢 (どちらへ)」(6)「肩書+去干嘛 (何をしに行くの?)」(6)「(～) 哥・姐 ((～) 兄ちゃん・姉ちゃん)」(1)「吃了吗 (もう食べたの?)」(16)「(～) 哥・姐, 好巧, 又见面了 ((～) 兄ちゃん・姉ちゃん, 偶然だね, また会った!)」(2)「哥・姐, 吃了没 (兄ちゃん・姉ちゃん, もう食べたの?)」(2) 微笑 (12)「又碰到了 (また会ったね)」(1)「Hello」(1)「干嘛去 (何をしに行くの?)」(6)「Hi」(1)「嗨 (やあ)」(1)「肩書+吃了吗 (食べたの?)」(3)「真巧, 又见到您了 (偶然だね, また会った!)」(3) 手を振る (1) 世間話 (6) 食事に誘う (1)
親しい同僚	「你好 (こんにちは)」(2) 会釈+微笑 (1)「吃了吗 (食べたの?)」(15)「去哪呢 (どちらへ)」(17)「干嘛去? (何をしに行くの?)」(10)「一起走吧 (一緒に行こう)」(5)「缘分呀 (縁があったね)」(5)「(真是) 太巧了 (偶然だね)」(6)「又碰见了 (また会ったね)」(7)「又见到你小子了 (またお前に会ったね)」(1)「微笑」(8)「Hello」(2)「Hi」(1) 食事に誘う (5)「嗨, 干嘛呢 (やあ, 何をしているの?)」(1)「吃了吗 (もう食べたの?)」(1) 名前・綽名を呼ぶ (2)「see you again」(1) 手を振る (2) 世間話 (9) 冗談 (2)
あまり親しくない先輩	「呼称」+(您)好 (こんにちは) (6)「呼称」(3)「你 (您) 好 (こんにちは)」(14) 会釈 (3) 微笑+会釈 (14)「吃了吗 (もう食べたの?)」(5)「(～) 哥・姐好 ((～) 兄ちゃん・姉ちゃん, こんにちは)」(5)「微笑」(13)「又碰到了 (また会ったね)」(3)「Hello」(3)「干嘛去 (何をしに行くの?)」(5)「Hi」(1)「嗨 (やあ)」(1)「出去啊 (出かけるの?)」(1)「呼称+去哪呢 (どちらへ)」(1)「呼称+吃了吗 (もう食べたの?)」(1)「(～) 哥・姐 ((～) 兄ちゃん・姉ちゃん)」(2) 手を振る (1) 名前を呼ぶ (2)「嘿 (おい)」(1) 世間話 (1)
親しいと思う先輩	「呼称」(7)「你 (您) 好 (こんにちは)」(2) 微笑+会釈 (9)「呼称」+(您)好, 去哪呢 (こんにちは, どちらへ)」(2)「吃了吗 (もう食べたの?)」(20)「Hi, 吃了吗 (もう食べたの?)」(1)「呼称+吃了吗 (もう食べたの?)」(1)「(～) 哥・姐, 好巧, 又见面了 ((～) 兄ちゃん・姉ちゃん, 偶然だね, また会った!)」(5)「好巧 (偶然だね)」(5)「又碰到了 (また会ったね)」(3)「一起走吧 (一緒に行こう)」(1)「呼称+去哪呢 (どちらへ?)」(8)「微笑」(11)「Hello」(2)「去干嘛 (何をしに行くの?)」(2)「Hi」(2)「好巧啊 (偶然だね)」(1)「嗨 (やあ)」(1)「去忙什么? (何をしに行くの?)」(2)「干嘛去 (何をしに行くの?)」(1)「(～) 哥・姐 ((～) 兄ちゃん・姉ちゃん)」(2)「去哪呢 (どちらへ?)」(3) 手を振る (1) 名前を呼ぶ (2) 世間話 (6) 食事に誘う (1)

(注：表の括弧内の数字は人数、網掛けの部分は NP 表現を意味する)

その使用傾向を分かりやすくするため、表 8.21 と表 8.22 が示している日本人社会人と中国人社会人の上位者・親しい同僚・先輩に使用するあいさつ表現を NP 表現と PP 表現に分けて集計し、そのデータをそれぞれ表 8.23、表 8.24、表 8.25、表 8.26、表 8.27 に示す。

表 8.23 場面 4（その日 2 回以上出会った場面）におけるあまり親しくない上位者に対するあいさつ

		日本人社会人	中国人社会人
場面 4	NP 表現	103 例（96%）	53 例（65%）
	PP 表現	4 例（4%）	28 例（35%）

表 8.24 場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における親しいと思う上位者に対するあいさつ

		日本人社会人	中国人社会人
場面 4	NP 表現	97 例（86%）	21 例（22%）
	PP 表現	16 例（14%）	76 例（78%）

表 8.25 場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における親しい同僚に対するあいさつ

		日本人社会人	中国人社会人
場面 4	NP 表現	50 例（43%）	2 例（2%）
	PP 表現	67 例（57%）	101 例（98%）

表 8.26 場面 4（その日 2 回以上出会った場面）におけるあまり親しくない先輩に対するあいさつ

		日本人社会人	中国人社会人
場面 4	NP 表現	102 例（94%）	26 例（30%）
	PP 表現	6 例（6%）	60 例（70%）

表 8.27 場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における親しいと思う先輩に対するあいさつ

		日本人社会人	中国人社会人
場面 4	NP 表現	89 例（78%）	9 例（9%）
	PP 表現	27 例（22%）	92 例（91%）

表 8.23 が示しているように、場面 4 においてあまり親しくない上位者にあいさつをする場合、中国人社会人が使用する PP 表現は 28 例（35%）に達しているのに対して、日本人社会人が使用する PP 表現は 4 例（4%）にとどまっている。表 8.24 が示しているように、場面 4 において親しいと思う上位者にあいさつをする場合、中国人社会人が使用する PP 表現は 76 例（78%）に及んでいるのに対して、日本人社会人が使用する PP 表現はわずか 16 例（14%）である。表 8.26 が示しているように、場面 4 においてあまり親しくない先輩にあいさつをする場合、中国人社会人が使用する PP 表現は 60 例（70%）に上っているのに対して、日本人社会人が使用する PP 表現はわずか 6 例（6%）にすぎない。表 8.27 が示しているように、場面 4 において中国人社会人が使用する PP 表現は 92 例（91%）に達しているのに対して、日本人社会人が使用する PP 表現は 27 例（22%）にとどまっている。一方、場面 4 において親しい同僚にあいさつをする場合、中国人社会人が使用する NP 表

現はわずか2例(2%)であるのに対して、日本人社会人が使用するNP表現は50例(43%)に及んでいる。

上記の表8.20に従って考えると、場面4において、親しいか親しくないかにかかわらず、上位者と先輩に対してあいさつをする場合、中国人社会人はPPS+NPSに限らず、PPSを使用するケースもあるのに対して、日本人社会人はPPSよりPPS+NPSを使用する傾向が顕著である。一方、親しい同僚にあいさつをする場合、中国人社会人はPPSを使用する傾向が顕著であるのに対して、日本人社会人はPPSだけではなくPPS+NPSを使用するケースもある。

以上、場面1、場面2、場面4において日本人社会人と中国人社会人がどのようにあいさつをするかについて考察した。上位者と先輩にあいさつをする場合、中国人社会人がPPS+NPSだけではなくPPSを使用するケースもあるのに対して、日本人社会人はPPS+NPSを使用する傾向が顕著である一方、親しい同僚にあいさつをする場合、中国人社会人がPPSを使用する傾向が顕著であるのに対して、日本人社会人はPPSだけではなくPPS+NPSを使用するケースもある。

8.2.2.3 別れの場面

あいさつにおける上記のような使用傾向は、出会いの場面に限らず別れの場面でも窺える。場面3(偶然出会って別れる場面)と場面5(共同作業をした後別れる場面)における日本人社会人と中国人社会人が使用するあいさつ表現を表8.28から表8.31に示す。

表8.28と表8.29が示しているように、場面3において親しいか親しくないかにかかわらず上位者と先輩にあいさつをする場合、中国人社会人が使用するPP表現が比較的多いのに対して、日本人社会人が使用するPP表現はほとんどない。一方、親しい同僚にあいさつをする場合、中国人社会人が使用するNP表現がほとんどないのに対して、日本人社会人が使用するNP表現は比較的多い。また、下記の表8.30と表8.31も同様の使用傾向を示している。すなわち、場面5において上位者と先輩にあいさつをする場合、中国人社会人に比べると、日本人社会人はPP表現を使用しない傾向を顕著である。一方、親しい同僚にあいさつをする場合、中国人社会人より日本人社会人においてNP表現を使用する傾向が強い。

表 8.28 場面 3 (偶然出会って別れる場面) における日本人社会人のあいさつ

あまり親しくない上位者	「さようなら」(1)「お疲れ様です」(13)「お疲れ様でした」(57)「お疲れ様でした。失礼します」(2)「お疲れ様でした。こちらで失礼します」(2)「失礼します」(19) 会釈 (3)「それでは」(1)「お先に失礼します」(7)「それでは、失礼します」(7) 会釈+「お疲れ様でした」(1) 礼+「失礼します」(1)「今日ありがとうございました」(1)「じゃあ、失礼します」(1)「それじゃ失礼します」(1)
親しいと思う上位者	「さようなら」(2)「お疲れ様でした」(60)「お疲れ様です」(14)「失礼します」(16)「お先に失礼します」(6)「お疲れ様でした。失礼します」(4)「では失礼します」(1) 会釈+「それでは失礼します」(5)「ではまた」(1)「それでは」(1)「お気をつけてお帰りください」(1) 会釈+「お疲れ様でした」(1)「今日ありがとうございました」(2)「お疲れ様でした。お気を付けて」(1)「それでは、またお会いします」(1)「じゃあ、お先に失礼します」+笑顔 (1)「一杯いかがですか」(1)
親しい同僚	「さようなら」(6)「お先に失礼します」(2)「失礼します」(2)「それでは失礼します」(1)「お疲れ様でした」(39)「お疲れ様です」(9)「お疲れ。また明日」(3)「お疲れ様。じゃあね」(2)「はよ帰ろうで W」(1)「ではまたね」(1)「またね」(1)「じゃあね」(7)「じゃあ、また」(2)「それじゃあ、また」(3)「お疲れ」(14)「お疲れ様」(14) 手を振る+「お疲れ様」(1)「一緒に行こうか」(1)「じゃ、お疲れ！気を付けてね」(1)「お疲れ(様)、また明日ね」(2)「じゃあ、また明日」(1)「また明日」(2)「やあ、それじゃ」(1)「お疲れっす」(1)「バイバイ」(1)「まっすぐ帰る」(1)「お疲れさん、(飲み)に行く？」(1)
あまり親しくない先輩	「お疲れ様です」(15)「お疲れ様でした」(62)「お疲れ様です・でした。失礼します」(4)「さようなら」(3)「さようなら」+会釈 (1) 会釈 (4)「それでは」(1)「では、失礼します」(3)「これで失礼します」(1)「それでは失礼します」(2)「お疲れ様でした。お気を付けて」(1)「お先に失礼します」(4)「失礼します」(14) 会釈+「お疲れ様でした」(2)「今日ありがとうございました」(1)
親しいと思う先輩	「さようなら」(4)「さようなら」+会釈 (1)「お疲れ様です」(18)「お疲れ様でした」(65)「お疲れ様でした。失礼します」(2)「失礼します」(10)「それでは」(1)「では、失礼します」(3)「それでは失礼します」(1)「会釈+「お疲れ様でした」(1)「今日ありがとうございました」(1)「お疲れ様でした。お気を付けて」(1)「お先に失礼します」(3)「一緒に途中で行きましょう」(1)「お疲れ様でした。では、また明日」(1)「それじゃ」(1)「先輩、まっすぐ帰りますか」(1)「先輩、また明日」(1)「んでまづ」(1)「お疲れ様でした、一杯いかがですか」(1)

(注：表の括弧内の数字は人数、網掛けの部分は NP 表現を意味する)

表 8.29 場面 3 (偶然出会って別れる場面) における中国人社会人のあいさつ

あまり親しくない上位者	「再见 (さようなら)」(29)「肩書」+「那我先走了 (お先に失礼します)」(9)「肩書」+「再见 (さようなら)」(25)「肩書+慢走 (お気をつけて)」(7) 手を振る+「再见 (またね)」(2)「拜拜, 明天见 (バイバイ、また明日)」(2)「肩書」+「明天见 (また明日)」(5)「再见, 路上小心 (さようなら、気を付けてね)」(1)「走了 (帰る)」(2)「拜拜 (バイバイ)」(8) 微笑+「再见 (またね)」(1)「拜拜, 先走了 (バイバイ、お先に)」(1)「肩書」+「拜拜 (バイバイ)」(3) 会釈+微笑 (1)「明天见 (また明日)」(5)
親しいと思う上位者	「再见 (さようなら)」(21)「肩書」+「再见 (さようなら)」(12)「肩書」+「先走了 (お先に失礼します)」(7)「您慢走 (お気をつけてください)」(2)「明天见 (また明日)」(11)「哥・姐, 明天见 (兄ちゃん・姉ちゃん、また明日)」(3)「肩書」+「那我先走了, 拜拜 (それじゃ、バイバイ)」(2)「(～) 哥・姐, 先走了 ((～) 兄ちゃん・姉ちゃん、お先に)」(2)「拜拜 (バイバイ)」(13)「哥・姐, 拜拜 (兄ちゃん・姉ちゃん、バイバイ)」(2)「再见, 路上小心 (じゃあね、お気をつけてね)」(1)「肩書」+「拜拜 (バイバイ)」(10)「拜拜, 明天见 (バイバイ、また明日)」(6)「名前」+「明天见 (また明日)」(1)「走了 (帰るよ)」(1)「我走这边了 (私はこっち)」(1) 微笑+「再见 (またね)」(1)「先走了, 明天见 (お先に、また明日)」(1)「肩書」+「明天见 (また明日)」(4) 微笑+手を振る (1)「一路平安 (お気をつけてね)」(1) 会釈+微笑 (1) 食事に誘う (2)
親しい同僚	「拜拜 (バイバイ)」(37)「呼称」+「明天见 (また明日)」(1)「走了, 明天见 (それじゃ、また明日)」(5)「走了, 再见 (それじゃ、またね)」(1)「走了, 拜拜 (それじゃ、バイバイ)」(1)「去我家玩吧? (ウチへ遊びに来ない?)」(2) 手振り+「再见 (またね)」(1) 手振り+「明天见 (また明日)」(1)「拜拜, 明天见 (バイバイ、また明日)」(4)「再见, 路上小心 (またね、気を付けてね)」(2)「我走这边 (私はこちらから)」(2)「明天见 (また明日)」(13)「一起走 (一緒に行こう)」(3)「走了 (それじゃ)」(6)「再见, 路上注意安全 (またね、気を付けて)」(1)「我闪了 (お先に)」(1)「再见 (略) (またね)」(16)「(我) 先走了 (お先に)」(8) 微笑+手を振る (1)「呼称」+「路上小心 (気を付けてね)」(1) 会釈+微笑 (1) ショッピングに誘う (1)
あまり親しくない先輩	「再见 (さようなら)」(32)「呼称」+「再见 (さようなら)」(11)「呼称」+「慢走 (お気をつけて)」(6)「慢走 (お気をつけて)」(3)「呼称」+「那我先走了 (それじゃお先に)」(4)「呼称」+「明天见 (また明日)」(3)「(～) 哥・姐, 先走了 ((～) 兄ちゃん・姉ちゃん、お先に)」(2)「再见, 路上小心 (それじゃ、気を付けて)」(1)「拜拜, 明天见 (バイバイ、また明日)」(4)「明天见 (また明日)」(8)「拜拜 (バイバイ)」(16)「走了 (それじゃ)」(2)「Bye」(1) 微笑+「再见 (またね)」(2)「我先走了 (お先に)」(2)「一路顺风 (気を付けてね)」(1) 手を振る+「明天见 (また明日)」(1) 会釈+微笑 (1)
親しいと思う先輩	「再见 (さようなら)」(25)「呼称」+「再见 (さようなら)」(7)「呼称」+「(我) 先走了 (お先に失礼します)」(5)「慢走 (お気をつけてください)」(3)「拜拜 (バイバイ)」(18)「呼称」+「明天见 (また明日)」(5)「再见, 路上小心 (それじゃ、気を付けてね)」(1)「拜拜, 明天见 (バイバイ、また明日)」(5)「(～) 哥・姐, 先走了 ((～) 兄ちゃん・姉ちゃん、お先に)」(4) 手振り+「再见 (またね)」(1)「拜拜, 明天见 (バイバイ、また明日)」(3)「呼称」+「回家了? (帰るの?)」(2)「走了 (それじゃ)」(4)「拜拜, 再见 (バイバイ、またね)」(1)「明天见 (また明日)」(14)「Bye」(1) 微笑+「再见 (またね)」(1)「先走了, 明天见 (お先に、また明日)」(2) 会釈+手を振る (1)「再见, 注意安全 (またね、気を付けてね)」(1) 会釈+微笑 (1) 手を振る+「再见 (またね)」(1)「走了, 拜拜 (それじゃ、バイバイ)」(1) 食事に誘う (1)

(注: 表の括弧内の数字は人数、網掛けの部分は NP 表現を意味する)

表 8.30 場面 5（共同作業をした後別れる場面）における日本人社会人のあいさつ

あまり親 しくない 上位者	<p>「お疲れ様でした」(76)「お疲れ様です」(6)「お疲れ様です・でした。失礼します」(6)</p> <p>「お疲れ様でした。お先に失礼します」(2)「お疲れ様でした。ありがとうございました」</p> <p>(1)「それでは失礼します」(5)「お疲れ様ございました」(2)「ありがとうございました」</p> <p>(7)「お世話様でした」(3)「ご苦労様でした、失礼します」(2)「失礼します」(5)「お先に失礼します」(3) 会釈+「ありがとうございました」(1)「大変お世話様でした」(1)</p> <p>「こんにちは、お疲れ様でした」(1)</p>
親しいと 思う上位 者	<p>「お疲れ様でした」(78)「お疲れ様です」(6)「お疲れ様でした、失礼します」(6)「それでは失礼します」(4)「お疲れ様でした。お先に失礼します」(3)「ありがとうございました」</p> <p>(7)「お世話様でした」(3)「ご苦労様でした、失礼します」(2)「失礼します」(5)</p> <p>「お先に失礼します」(2) 会釈+「お疲れ様でした」(1)「どうもどうもお疲れ様です」(1)</p> <p>「どうもお世話になりました」(1)「一緒に帰りますか」(1)</p>
親しい同 僚	<p>「さようなら」(2)「お疲れ様でした」(46)「お疲れ様です」(4)「ご苦労様でした」(2)</p> <p>「失礼します」(1)「お疲れ様でした。お先に失礼します」(3)「ありがとうございました」</p> <p>(1)「お疲れ」(27)「お疲れ様」(15)「疲れたね」(1)「お疲れちゃん」(1)「お疲れ。なんか食べ行く？」(1)「おつおつ！はよ帰ろう」(1)「お疲れ様。どっか食べ行こう」(1)</p> <p>「やっと終わったね。お疲れ」(1)「お疲れ様、また明日ね」(1)「じゃあね」(1)「じゃあ、また」(1)「じゃあ、また明日」(1)「お疲れ様、さようなら」(1) 手を振る+「また今度」(1)「お疲れさん。一杯どう？」(1)「どうもありがとう」(1)「お疲れ様、じゃあね」(1)「お疲れ様、バイバイ」(1)「どうもお疲れ様、さようなら」(1)</p>
あまり親 しくない 先輩	<p>「さようなら」(1)「お疲れ様でした」(80)「お疲れ様でした、失礼します」(5)「お疲れ様です」(8)「お疲れ様でした。ありがとうございました」(1)「失礼します」(3)「お疲れ様でした。お先に失礼します」(3)「ありがとうございました」(3)「お世話様でした」</p> <p>(1)「失礼します」(3)「お先に失礼します」(4) 会釈+「お疲れ様でした」(1)「どうもご苦労様でした。失礼します」(1)「どうもお世話になりました」(1)「お疲れっした」(1)</p>
親しいと 思う先輩	<p>「さようなら」(1)「失礼します」(4)「さようなら、失礼します」(2)「お疲れ様でした」</p> <p>(80)「お疲れ様です」(9)「どうもどうもお疲れ様です」(1)「お疲れ様でした。失礼します」(4)「お疲れ様でした。お先に失礼します」(3)「ありがとうございました」(3)「お疲れ様でした、失礼します」(1)「お先に失礼します」(1)「どうもご苦労様でした。失礼します」(1)「どうもお世話になりました」(1)「お世話様でした」(1)「お疲れ様でした。大変でしたね」(1)「やっと終わりましたね。お疲れ様でした」(1)「お疲れ様でした。一緒帰りましょう」(1)「帰りますよ」(1)「これからご飯一緒に行きませんか」(1)</p>

(注：表の括弧内の数字は人数、網掛けの部分は NP 表現を意味する)

表 8.31 場面 5（共同作業をした後別れる場面）における中国人社会人のあいさつ

あまり親しくない上位者	「再见（さようなら）」(24)「肩書」+「再见（さようなら）」(19)「辛苦了，再见（お疲れ様でした、さようなら）」(6)「辛苦了（お疲れ様でした）」(3)「肩書」+「辛苦了（お疲れ様でした）」(9)「肩書」+「您慢走（お気をつけてください）」(6)「肩書」+「我先走了（お先に失礼します）」(5)「肩書」+「辛苦了，我先走了（お疲れ様でした、お先に失礼します）」(2)「肩書」+「辛苦了，再见（お疲れ様でした、さようなら）」(1)「明天见（また明日）」(2)「拜拜（バイバイ）」(6)「走了，拜拜（それじゃ、バイバイ）」(1)「辛苦了，明天见（お疲れ様でした、また明日）」(6)「一起走（一緒に行こう）」(1)「辛苦了，再见，路上小心（お疲れ様でした、さようなら、お気をつけてください）」(1)微笑+「辛苦了（お疲れ様）」(2)「我先走了（お先に）」(1)「辛苦（お疲れ）」+「慢走（気を付けて）」(2)「我先走了（お先に）」(1)会釈+微笑 (2)「辛苦了（お疲れ）」+「早点回去休息（早く帰ってね、お休み）」(1)
親しいと思う上位者	「再见（さようなら）」(10)「肩書」+「再见（さようなら）」(20)「肩書」+「辛苦了（お疲れ様でした）」(9)「辛苦了，再见（お疲れ様でした、さようなら）」(6)「肩書」+「先走了（お先に失礼します）」(5)「肩書」+「我走了（お先に失礼します）」(4)「肩書」+「辛苦了，再见（お疲れ様でした、さようなら）」(2)「辛苦了（お疲れ様でした）」(3)「我先走了，再见（お先に失礼します、さようなら）」(1)「下次见（さようなら）」(1)「拜拜（バイバイ）」(8)「明天见（また明日）」(8)「肩書」+「明天见（また明日）」(3)「肩書」+「拜拜（バイバイ）」(2)「(～) 哥・姐，我先走了 ((～) お兄ちゃん・お姉ちゃん、お先に)」(2)「辛苦了，早点回去休息（お疲れ、早く帰って休んでね）」(3)「一起走（一緒に行こう）」(1)「我走了（お先に）」(2)「走了，拜拜（お先に、バイバイ）」(1)「辛苦，再见，路上小心（お疲れ、またね、気を付けてね）」(5)「(～) 哥・姐，辛苦了 ((～) お兄ちゃん・お姉ちゃん、お疲れ様)」(1)「辛苦了，明天见（お疲れ様、また明日）」(4)「先走了，明天见（お先に、また明日）」(1)会釈+微笑 (2)世間話 (1)
親しい同僚	「再见（さようなら）」(9)「辛苦了（お疲れ様でした）」(6)「辛苦了，再见（お疲れ様でした、さようなら）」(2)「下次见（さようなら）」(1)「明天见（また明日）」(1)「走了走了（帰るよ）」(1)「拜拜（バイバイ）」(17)「明天见（また明日）」(10)「走了，明天见（帰るよ、また明日）」(2)「走了，拜拜（帰るよ、バイバイ）」(4)「我走了，再见哦（帰るよ、またね）」(1)「辛苦了，明天见（お疲れ、また明日）」(3)「一起走（一緒に行こう）」(1)抱擁 (1)「回去早点休息（早く帰ってね、お休み）」(3)「辛苦了，拜拜（お疲れ、バイバイ）」(3)「路上小心，明天见（気を付けて、また明日）」(1)「再见，路上小心（またね、気を付けて）」(2)「拜拜，路上小心（バイバイ、気を付けてね）」(1)冗談 (4)「(我) 先走了（お先に）」(4)「绰名」+「先走了（お先に）」(1)「走啦（じゃね）」(1)微笑+「辛苦了，明天见（お疲れ、また明日）」(2)「辛苦了，早点休息（お疲れ、早く休んでね）」(3)「早点回去休息（早く休んでね）」(5)「回去了（帰るよ）」(1)「拜拜（バイバイ）」(8)会釈+微笑 (1)世間話 (6)手を振る (1)
あまり親しくない先輩	「再见（さようなら）」(27)「辛苦了，再见（お疲れ様でした、さようなら）」(13)「辛苦了（お疲れ様でした）」(5)「呼称」+「再见（さようなら）」(3)「呼称」+「慢走（お気をつけて）」(6)「呼称」+「辛苦了（お疲れ様でした）」(4)「呼称」+「先走了（お先に失礼します）」(1)「明天见（また明日）」(3)「辛苦了（お疲れ）」+「拜拜（バイバイ）」(1)「拜拜（バイバイ）」(15)「呼称」+「拜拜（バイバイ）」(1)「(～) 哥・姐，我先走了 ((～) お兄ちゃん・お姉ちゃん、お先に)」(4)「(～) 哥・姐，明天见 ((～) お兄ちゃん・お姉ちゃん、また明日)」(1)「走了，拜拜（帰るよ、バイバイ）」(2)「辛苦了，明天见（お疲れ、また明日）」(4)「明天见（また明日）」(2)「一起走（一緒に行こう）」(1)「路上小心（気を付けてね）」(2)「我先走了（お先に）」(5)微笑+「辛苦了（お疲れ）」(1)「辛苦了，早点休息，明天见（お疲れ、早く休んでね、また明日）」(3)会釈+微笑 (2)
親しいと思う先輩	「再见（さようなら）」(12)「辛苦了（お疲れ様でした）」(6)「呼称」+「再见（さようなら）」(2)「呼称」+「辛苦了（お疲れ様でした）」(6)「辛苦了，再见（お疲れ様でした、さようなら）」(1)「下次见（さようなら）」(1)「再见，先走了（さようなら、お先に失礼します）」(2)「呼称」+「先走了（お先に失礼します）」(1)「拜拜（バイバイ）」(25)「明天见（また明日）」(8)「辛苦了，拜拜（お疲れ、バイバイ）」(1)「呼称」+「拜拜（バイバイ）」(3)「走了，拜拜（帰るよ、バイバイ）」(2)「(～) 哥・姐，我先走了 ((～) お兄ちゃん・お姉ちゃん、お先に)」(5)「(～) 哥・姐+明天见 ((～) お兄ちゃん・お姉ちゃん、また明日)」(1)「辛苦了，明天见（お疲れ、また明日）」(3)「一起走（一緒に行こう）」(2)「辛苦了，再见，路上小心（お疲れ、気を付けてね、また明日）」(2)「我先走了（お先に）」(2)「走了（帰るよ）」(2)「Bye」(2)微笑+「辛苦了，明天见（お疲れ、また明日）」(1)「辛苦了，早点休息，明天见（お疲れ、早く休んでね、また明日）」(4)手を振る+「拜拜（バイバイ）」(1)会釈+微笑 (2)世間話 (2)手を振る (1)「我走了（帰るよ）」(1)「辛苦了，早点回去休息（お疲れ、早く帰って休んでね）」(1)「早点回去休息，再见（早く帰って休んでね、またね）」(2)

(注：表の括弧内の数字は人数、網掛けの部分は NP 表現を意味する)

上述の使用傾向を分かりやすくするため、表 8.28 から表 8.31 が示している日本人社会

人と中国人社会人の上位者・親しい同僚・先輩に使用するあいさつ表現を NP 表現と PP 表現に分けて集計し、そのデータをそれぞれ表 8.32 から表 8.36 に示す。

表 8.32 場面 3・5（別れの場面）におけるあまり親しくない上位者に対するあいさつ

		日本人社会人	中国人社会人
場面 3	NP 表現	125 (98%)	70 (70%)
	PP 表現	2 (2%)	31 (30%)
場面 5	NP 表現	121 (100%)	75 (75%)
	PP 表現	0 (0%)	26 (25%)

表 8.33 場面 3・5（別れの場面）における親しいと思う上位者に対するあいさつ

		日本人社会人	中国人社会人
場面 3	NP 表現	115 (97%)	42 (40%)
	PP 表現	3 (3%)	64 (60%)
場面 5	NP 表現	119 (99%)	61 (58%)
	PP 表現	1 (1%)	44 (42%)

表 8.34 場面 3・5（別れの場面）における親しい同僚に対するあいさつ

		日本人社会人	中国人社会人
場面 3	NP 表現	59 (49%)	0 (0%)
	PP 表現	61 (51%)	109 (100%)
場面 5	NP 表現	59 (50%)	18 (17%)
	PP 表現	59 (50%)	88 (83%)

表 8.35 場面 3・5（別れの場面）におけるあまり親しくない先輩に対するあいさつ

		日本人社会人	中国人社会人
場面 3	NP 表現	118 (100%)	56 (56%)
	PP 表現	0 (0%)	44 (44%)
場面 5	NP 表現	115 (99%)	59 (56%)
	PP 表現	1 (1%)	47 (44%)

表 8.36 場面 3・5（別れの場面）における親しいと思う先輩に対するあいさつ

		日本人社会人	中国人社会人
場面 3	NP 表現	111 (94%)	40 (37%)
	PP 表現	7 (6%)	68 (63%)
場面 5	NP 表現	112 (96%)	31 (30%)
	PP 表現	5 (4%)	73 (70%)

表 8.32 が示しているとおり、場面 3 と場面 5 においてあまり親しくない上位者にあいさつをする場合、中国人社会人が使用する PP 表現はそれぞれ 31 例 (30%) と 26 例 (25%) であるのに対して、日本人社会人が使用する PP 表現はそれぞれわずか 2 例 (2%) と 0 例 (0%) である。表 8.33 が示しているとおり、場面 3 と場面 5 において親しいと思う上位者にあいさつをする場合、中国人社会人が使用する PP 表現はそれぞれ 64 例 (60%) と 44 例 (42%) に上っているのに対して、日本人社会人が使用する PP 表現はそれぞれ 3 例 (3%) と 1 例 (1%) にとどまっている。表 8.35 が示しているとおり、場面 3 と場面 5 においてあまり親しくない上位者にあいさつをする場合、中国人社会人が使用する PP 表現はそれぞれ 44 例 (44%) と 47 例 (44%) に達しているのに対して、日本人社会人が使用する PP

表現はそれぞれ 0 例 (0%) と 1 例 (1%) にとどまっている。表 8.36 が示しているとおりに、場面 3 と場面 5 において親しいと思う上位者にあいさつをする場合、中国人社会人が使用する PP 表現はそれぞれ 68 例 (63%) と 73 例 (70%) に及んでいるのに対して、日本人社会人が使用する PP 表現はそれぞれわずか 7 例 (6%) と 5 例 (4%) である。一方、表 8.34 が示しているとおりに、場面 3 と場面 5 において親しい同僚にあいさつをする場合、中国人社会人が使用する NP 表現は 0 例 (0%) と 18 例 (17%) にとどまっているのに対して、日本人社会人が使用する NP 表現は、それぞれ 59 例 (49%) と 59 例 (50%) に上っている。

表 8.37 別れの場面における社会人のあいさつ表現とポライトネスの関係 (表 3.2 の再掲)

ポライトネス	群	あいさつ表現の分類	種別	代表例
NF・PF への配慮	PPS	A 群	PP 表現	気を付けてね、路上小心、手を挙げる…
		B 群		お気をつけてください、呼称+路上小心…
		C 群		じゃあね、またね、拜拜…
		D 群		お先に、お疲れ、先閃了…
	PPS+NPS	E 群	NP 表現	さようなら、再会、会釈…
		F 群		お先に失礼します、敬称+再会…
		G 群		お先に失礼します+会釈 敬称+再会+会釈…

表 8.37 が示しているように、「じゃあね」や「拜拜 (バイバイ)」のような PP 表現は、PPS として使用される傾向が強い表現である一方、「お疲れ様でした」や「辛苦了 (お疲れ様でした)」のような NP 表現は、PPS+NPS として使用される傾向が強い表現である。そう考えると、場面 3 と場面 5 において、親しいか親しくないかにかかわらず、上位者と先輩に対してあいさつをする場合、中国人社会人では PPS+NPS だけではなく PPS を使用するケースもあるのに対して、日本人社会人では PPS より PPS+NPS を使用する傾向が顕著である。一方、親しい同僚にあいさつをする場合、中国人社会人では PPS を使用する傾向が顕著であるのに対して、日本人社会人では PPS だけではなく PPS+NPS を使用するケースもある。

表 8.37 が示しているように、「じゃあね」や「拜拜 (バイバイ)」のような PP 表現は、PPS として使用される傾向が強い表現である一方、「お疲れ様でした」や「辛苦了 (お疲れ様でした)」のような NP 表現は、PPS+NPS として使用される傾向が強い表現である。そう考えると、場面 3 と場面 5 において、親しいか親しくないかにかかわらず、上位者と先輩に対してあいさつをする場合、中国人社会人では PPS+NPS だけではなく PPS を使用するケースもあるのに対して、日本人社会人では PPS より PPS+NPS を使用する傾向が顕著である。一方、親しい同僚にあいさつをする場合、中国人社会人では PPS を使用する傾向が顕著であるのに対して、日本人社会人では PPS だけではなく PPS+NPS を使用するケースもある。

8.2.2.4 メールと電話の場面

中国人上級日本語学習者が困難だと感じる点（戸惑い②と戸惑い③）において、日本人社会人と中国人社会人は、場面 6（メールの場面）と場面 7（電話の場面）において実際にどのようにあいさつをするかについて前述したような自由記述式調査も行った。それらの結果を表 8.38 から表 8.41 に示す。

表 8.38 から表 8.41 が示しているように、メールと電話の場面において親しい同僚と先輩に対して、日本人社会人と中国人社会人が実際にどのようにあいさつをするかについては、上述した出会い・別れの場面とほぼ同様の傾向を示している。しかし、場面 6 と場面 7 において日本人社会人と中国人社会人があまり親しくない上位者に対してどのようにあいさつをするかについては、出会い・別れの場面と異なる傾向を示している。

表 8.38 場面 6（メールの場面）における日本人社会人のあいさつ

あまり親しくない上位者	「お疲れ様です」(30)「おはようございます」(3)「こんにちは」(3)「(いつも) お世話になっております」(39)「お忙しいところ、失礼します」(4)「お忙しいところ、申し訳ありませんが」(2)「お忙しい中恐れ入ります」(2)「お忙しい中恐縮です」(1)「大変恐縮でございますが」(2)「いつもお世話様です」(1)「お疲れ様でございます」(1)「ご無沙汰しております」(1)「(いつも) お世話になっております」(14)「ご多忙のところ申し訳ありません」(1)「こんにちは、失礼します」(1)「突然お忙しいところすみません」(1)
親しいと思う上位者	「おはようございます」(3)「こんにちは」(5)「こんにちは、失礼します」(1)「お疲れ様です」(41)「ご苦労様です」(1)「お疲れ様でございます」(1)「お忙しいところ申し訳ありませんが」(1)「お忙しい中恐れ入ります」(2)「(いつも) お世話になっております」(47)「お忙しいところすみません」(2)「お久しぶりです」(1)「お忙しいところ失礼いたします」(1)「お忙しいところすみませんが」(1)「お忙しい中恐縮です」(2)「こんぬづは」(1)「よおうっす」(1)
親しい同僚	「お疲れ様です」(38)「おはようございます」(2)「こんにちは」(14)「お忙しい中恐れ入ります」(2)「(いつも) お世話になっております」(29)「突然なんですが」(1)「お忙しい中申し訳ない」(2)「忙しいところ悪いんだけど」(1)「元気ですか」(2)「こんぬづは」(1)「おはよう」(1)「お疲れ様」(4)「お疲れ」(5)「よおうっす」(1)
あまり親しくない先輩	「おはようございます」(2)「こんにちは」(5)「こんにちは、失礼します」(1)「お疲れ様です」(40)「お忙しいところ失礼します」(1)「お忙しい中恐縮です」(1)「大変恐縮でございますが」(2)「お忙しいところ、申し訳ありませんが」(1)「突然お忙しいところすみません」(1)「お忙しい中恐れ入ります」(3)「(いつも) お世話になっております」(42)「(いつも) お世話様です」(3)「お忙しいところすみません」(1)「お元気ですか」(1) 前略 (1)
親しいと思う先輩	「お疲れ様です」(47)「おはようございます」(2)「こんにちは」(8)「こんにちは、失礼します」(1)「(いつも) お世話になっております」(36)「お忙しいところ申し訳ありません」(1)「お忙しい中恐れ入ります」(2)「お忙しい中恐縮です」(2)「(突然) お忙しいところすみません」(2)「(いつも) お世話様です」(2)「お世話様です」(2)「こんにちは、お元気ですか」(1) 前略 (1)「こんぬづは」(1)「よおうっす」(1)

(注：表の括弧内の数字は人数、網掛けの部分は NP 表現を意味する)

表 8.39 場面 6 (メールの場面) における中国人社会人のあいさつ

あまり親しくない上位者	「肩書」+「(您) 好 (こんにちは)」(64)「你 (您) 好 (こんにちは)」(28)「肩書」(8)「不好意思, 打扰一下 (すみません、お邪魔します)」(1)
親しいと思う上位者	「肩書」+「(您) 好 (こんにちは)」(44)「你 (您) 好 (こんにちは)」(27)「肩書」(17)「不好意思, 打扰一下 (すみません、お邪魔します)」(1)「(～) 哥・姐 (你) 好 ((～) お兄ちゃん・お姉ちゃん、元気?)」(5)「Hello+肩書」(2) 会釈+微笑 (2)「Hello」(2)
親しい同僚	「呼称」+「(您) 好 (こんにちは)」(6)「你 (您) 好 (こんにちは)」(19)「中午好 (こんにちは)」(1)「不好意思, 打扰一下 (すみません、お邪魔します)」(1)「好久不见 (お久しぶりです)」(1) 綽名・名前を呼ぶ (30)「Hi」(4)「(～) 哥・姐 ((～) お兄ちゃん・お姉ちゃん)」(1)
あまり親しくない先輩	「呼称」+「(您) 好 (こんにちは)」(33)「你 (您) 好 (こんにちは)」(36)「中午好 (こんにちは)」(2)「呼称」+「你好 (こんにちは)」(7)「不好意思, 打扰一下 (すみません、お邪魔します)」(2)「呼称」(6)「(～) 哥・姐 (你) 好 ((～) お兄ちゃん・お姉ちゃん、元気?)」(8)「(～) 哥・姐 ((～) お兄ちゃん・お姉ちゃん)」(1) 名前・綽名を呼ぶ (2) 会釈+微笑 (1)
親しいと思う先輩	「呼称」+「(您) 好 (こんにちは)」(20)「你 (您) 好 (こんにちは)」(31)「中午好 (こんにちは)」(2)「呼称」+「你好 (こんにちは)」(7)「不好意思, 打扰一下 (すみません、お邪魔します)」(2)「呼称」(14)「(～) 哥・姐 (你) 好 ((～) お兄ちゃん・お姉ちゃん、元気?)」(5)「(～) 哥・姐 ((～) お兄ちゃん・お姉ちゃん)」(2)「嗨 (やあ)」(1) 名前・綽名を呼ぶ (4)「Hello」(1) 会釈+微笑 (1)

(注: 表の括弧内の数字は人数、網掛けの部分は NP 表現を意味する)

表 8.40 場面 7 (電話の場面) における日本人社会人のあいさつ

あまり親しくない上位者	「おはようございます」(10)「こんにちは」(3)「お疲れ様です」(33)「(いつも) お世話になっております」(34)「本日はお世話になります」(1)「お忙しいところ申し訳ありません」(8)「ご多忙の中申し訳ありません」(2)「お忙しいところ恐れ入ります」(4)「お忙しいところ大変失礼します」(2)「お疲れ様でございます」(1)「お世話様でございます」(1)「お電話で失礼します」(1)「お世話になります」(1)「この度大変ありがとうございます」(1)「ご無沙汰しております」(1)「どうも」(1)
親しいと思う上位者	「おはようございます」(10)「こんにちは」(5)「お疲れ様です」(35)「お疲れ様でございます」(1)「(いつも) お世話になっております」(32)「本日はお世話になります」(1)「お忙しいところ申し訳ありません」(6)「お忙しいところ恐れ入ります」(6)「お忙しいところ大変失礼します」(1)「お忙しいところすみません」(1)「お電話で失礼します」(1)「いつもお世話様になっております」(1)「こんにちは、ご無沙汰しております」(1)「お世話になります」(2)「どうも」(1)「どうもどうも」(1)「よおうっす」(1)
親しい同僚	「お疲れ様です」(37)「おはようございます」(2)「こんにちは」(7)「(いつも) お世話になっております」(14)「お忙しいところ大変失礼します」(1)「お世話様です」(4)「お忙しいところ恐れ入ります」(1)「お忙しいところすみません」(1)「恐れ入ります」(1)「忙しい時間にすみません」(2)「お忙しい中申し訳ない」(1)「忙しいのにごめんなさい」(1)「悪いけど」(1)「お疲れ様」(9)「お疲れ」(3)「おはよう」(5)「今いいかな」(1)「元気ですか」(1)「こんにちは、元気?」(1)「どうもどうも」(1)「やあ、しばらく、元気?」(1)「どうもどうも」(1)「よおうっす」(1)
あまり親しくない先輩	「お疲れ様です」(41)「おはようございます」(9)「こんにちは」(6)「ご多忙の中申し訳ありません」(2)「お忙しいところ申し訳ありません」(2)「(いつも) お世話になっております」(26)「本日はお世話になります」(1)「お忙しいところ恐れ入ります」(3)「お忙しいところ大変失礼します」(1)「お忙しいところすみません」(3)「(いつも) お世話様です」(4)「この度はありがとうございます」(1)「こんにちは、ご無沙汰しております」(1)「どうもお世話様です」(1)「すみませんが」(1)
親しいと思う先輩	「お疲れ様です」(45)「おはようございます」(9)「こんにちは」(5)「お忙しい時間にすみません」(1)「お忙しいところ申し訳ありません」(3)「(いつも) お世話になっております」(21)「お忙しいところ恐れ入ります」(2)「お忙しいところ大変失礼します」(1)「お忙しいところすみません」(3)「しばらくご無沙汰しております」(1)「こんにちは、ご無沙汰しております」(1)「(いつも) お世話様です」(6)「すみませんが」(1)「こんにちは、お元気ですか」(1)「よおうっす」(1)「どうもどうも」(1)

(注: 表の括弧内の数字は人数、網掛けの部分は NP 表現を意味する)

表 8.41 場面 7（電話の場面）における中国人社会人のあいさつ

あまり親しくない上位者	「你（您）好（こんにちは）」(30)「肩書」+「(您）好（こんにちは）」(47)「中午好（こんにちは）」(1)「肩書」+「打扰了（お邪魔します）」(4)「不好意思，打扰一下（すみません、お邪魔します）」(2)「肩書」(11)「吃了吗（もう食べたの?）」(1)「在干嘛（何をしているの?）」(1)「哥・姐（お兄ちゃん・お姉ちゃん）」(1)
親しいと思う上位者	「你（您）好（こんにちは）」(30)「肩書」+「(您）好（こんにちは）」(27)「肩書」+「打扰了（お邪魔します）」(1)「中午好（こんにちは）」(1)「肩書」(16)「不好意思，打扰一下（すみません、お邪魔します）」(1)「老大・哥（お兄ちゃん）」(2)「(～) 哥・姐，现在忙吗（(～) お兄ちゃん・お姉ちゃん、今は忙しいの?）」(1)「(～) 哥・姐（(～) お兄ちゃん・お姉ちゃん）」(10)「吃了吗（もう食べたの?）」(1)「嗨（やあ）」(1)「在干嘛（何をしているの?）」(2)
親しい同僚	「你（您）好（こんにちは）」(10)「中午好（こんにちは）」(1)「不好意思，打扰一下（すみません、お邪魔します）」(1)「在干嘛呢（何をしているの?）」(3)「忙不（忙しい?）」(5) 名前・綽名を呼ぶ (26)「Hello」(2)「嗨（やあ）」(1)「吃了吗（もう食べたの?）」(1)「Hello」(3) 世間話 (1)「喂（おい）」(1)
あまり親しくない先輩	「你（您）好（こんにちは）」(37)「呼称」+「(您）好（こんにちは）」(27)「中午好（こんにちは）」(1)「呼称」+「打扰了（お邪魔します）」(1)「不好意思，打扰了（すみません、お邪魔します）」(2)「呼称」(10)「(～) 哥・姐（你）好（(～) お兄ちゃん・お姉ちゃん、元気?）」(4)「吃了吗（もう食べたの?）」(1)「嗨（やあ）」(1)「在干嘛（何をしているの?）」(1)「Hello」(1)「(～) 哥・姐（(～) お兄ちゃん・お姉ちゃん）」(3)「Hi，美女・帅哥（美女・美男）」(1)「哥姐、忙不忙（お兄ちゃん・お姉ちゃん、忙しいの?）」(1)
親しいと思う先輩	「你（您）好（こんにちは）」(33)「呼称」+「(您）好（こんにちは）」(18)「中午好（こんにちは）」(1)「不好意思，打扰一下（すみません、お邪魔します）」(1)「呼称」(17)「(～) 哥・姐好（(～) お兄ちゃん・お姉ちゃん）」(1)「呼称」+「打扰了（失礼）」(1)「(～) 哥・姐，现在忙吗？（(～) お兄ちゃん・お姉ちゃん、今は忙しい?）」(3)「吃了吗（もう食べたの?）」(1)「在干嘛（何をしているの?）」(1)「(～) 哥・姐（(～) お兄ちゃん・お姉ちゃん）」(11)「Hello」(1) 世間話 (1)

（注：表の括弧内の数字は人数、網掛けの部分は NP 表現を意味する）

上述の使用傾向を分かりやすくするため、表 8.38 から表 8.41 が示している日本人社会人と中国人社会人の上位者・親しい同僚・先輩に使用するあいさつ表現を NP 表現と PP 表現に分けて集計し、そのデータをそれぞれ表 8.42 から表 8.46 に示す。

表 8.42 場面 6・7（メール・電話の場面）におけるあまり親しくない上位者に対するあいさつ

		日本人社会人	中国人社会人
場面 6	NP 表現	106 (100%)	101 (100%)
	PP 表現	0 (0%)	0 (0%)
場面 7	NP 表現	103 (99%)	95 (97%)
	PP 表現	1 (1%)	3 (3%)

表 8.43 場面 6・7（メール・電話の場面）における親しいと思う上位者に対するあいさつ

		日本人社会人	中国人社会人
場面 6	NP 表現	109 (98%)	89 (89%)
	PP 表現	2 (2%)	11 (11%)
場面 7	NP 表現	103 (97%)	76 (82%)
	PP 表現	3 (3%)	17 (18%)

表 8.44 場面 6・7（メール・電話の場面）における親しい同僚に対するあいさつ

		日本人社会人	中国人社会人
場面 6	NP 表現	89 (86%)	28 (44%)
	PP 表現	14 (14%)	35 (56%)
場面 7	NP 表現	73 (75%)	12 (22%)
	PP 表現	24 (25%)	43 (78%)

表 8.45 場面 6・7（メール・電話の場面）におけるあまり親しくない先輩に対するあいさつ

		日本人社会人	中国人社会人
場面 6	NP 表現	103 (98%)	86 (87%)
	PP 表現	2 (2%)	12 (13%)
場面 7	NP 表現	102 (100%)	68 (75%)
	PP 表現	0 (0%)	23 (25%)

表 8.46 場面 6・7（メール・電話の場面）における親しいと思う先輩に対するあいさつ

		日本人社会人	中国人社会人
場面 6	NP 表現	106 (97%)	76 (84%)
	PP 表現	3 (3%)	14 (16%)
場面 7	NP 表現	100 (98%)	53 (59%)
	PP 表現	2 (2%)	37 (41%)

表 8.43、表 8.45、表 8.46 が示しているように、場面 6 と場面 7 において上位者と先輩にあいさつをする場合、中国人社会人が PP 表現を使用するケースもあるのに対して、日本人社会人は PP 表現をほとんど使用しない。一方、同様の場面において親しい同僚にあいさつをする場合、日本人社会人は PP 表現を使用するケースがあるものの、NP 表現を使用する傾向が顕著である。それに対して、中国人社会人は、NP 表現を使用するケースがあるものの、PP 表現を使用する傾向が顕著である。表 8.44 が示しているように、場面 6 と場面 7 において親しい同僚にあいさつをする場合、日本人社会人が使用する NP 表現はそれぞれ 89 例（86%）と 73 例（75%）に達しているのに対して、同様の状況で中国人社会人が使用する PP 表現はそれぞれ 35 例（56%）と 43 例（78%）に及んでいる。これらの使用傾向は、上述した出会い・別れの場面とほぼ同様である。

前掲の表 8.20 に示した基準に従い、上述した結果をまとめると、場面 6 と場面 7 におけるあいさつについて、以下のことがわかる。

上位者と先輩にあいさつをする場合、日本人社会人は親しいか親しくないかに関わらず、PPS+NPS を使用する傾向が顕著である。それに対して、中国人社会人は、PPS+NPS を使用する傾向があるものの、PPS を使用するケースもある。一方、同様の場面で親しい同僚にあいさつをする場合、日本人社会人と中国人社会人のあいさつ使用は類似しており、PPS を使用する傾向があるものの、PPS+NPS を使用するケースもある。

以上、8.2.2.1 と 8.2.2.2 において、出会い・別れの場面におけるポライトネス・ストラテジーについて見てきた。出会い・別れの場面において、親しいか親しくないかにかかわらず上位者と先輩にあいさつをする場合、中国人社会人は PPS+NPS だけではなく、PPS を使用するケースもある一方、いずれの場面においても親しい同僚にあいさつをする場合、PPS

を使用する傾向が顕著である。それに対して、いずれの場面においても上位者と先輩にあいさつをする場合、日本人社会人は PPS+NPS を使用する傾向が顕著である一方、親しい同僚にあいさつをする場合、PPS だけではなく PPS+NPS を使用するケースもある。この結果が生じたのは、職場の社会規範にふさわしい言語行動を求める度合いの日中差異によるものであると考えられる。日本人社会人は、職場以外のプライベートな場であいさつをする場合、比較的自由であろうが、職場の中（特に第三者に見える場面）であいさつをする場合、改まった表現を用いるなど職場にふさわしい言語行動を求める社会規範に従う必要がある。それに対して、中国人社会人は、改まった表現を用いるなど職場にふさわしい言語行動を求める社会規範はないわけではないが、それは同じ職場の中では比較的緩く、外部の組織と正式に調印する場面や会議・儀式などを行う場面に顕著に認められるものである。これについては、第 9 章の 9.2.2 で詳述する。

8.2.3 あいさつの場面・対人関係による使用制限

以上、日本人社会人と中国人社会人のあいさつ使用に関する全体的な使用傾向を明らかにしたが、個別のあいさつ表現に関する使用上の特徴がまだ明らかになっていない。たとえば、「おはよう（～）」の使用にはどのような特徴があるのか、「こんにちは」との間にどのような使い分けがあるのかなどの問題がまだ解決されていない。第 4 章で述べた中国人上級日本語学習者のあいさつ使用に関する困難点には、「おはよう（～）」と「こんにちは」の使い分け、「さようなら」の用法、「お疲れ（～）」の用法などの具体的な困難点が含まれている。これらの具体的な困難点が生ずるところでは、日本人社会人が実際にどのようにあいさつをしているのか、中国人社会人との間にどのような相違点があるのかを明らかにするため、あいさつの使用に関する全体的な傾向だけではなく、日本人社会人と中国人社会人における個別のあいさつ表現の使用上の特徴を検討する必要もあると考えられる。また、「上位者に対してどのようにあいさつをすべきかわからないことがある」という困難点も現れているので、本節では、対人関係による使用制限の視点から、自由記述式調査から得たデータを用い、日本人社会人と中国人社会人における対人関係による使用制限の相違点を明らかにする。

8.2.3.1 「おはよう（～）」と「（～）早（～）」

日本人社会人における「おはよう（～）」と中国人社会人における「（～）早（～）」の使い方を見ると、対人関係による使用制限に関する日中差異が顕著である。

表 8.47 に示すように、場面 1（11 時頃に出会った場面）においてあいさつをする場合、相手が誰かにかかわらず、「おはよう（～）」に当たる中国語表現「（～）早（～）」を使用する中国人社会人は極めて少ないのに対して、同様の状況で「おはよう（～）」を使用する日本人社会人は比較的多い。角変換法による相手別と母語話者別の分散分析を行った結果、

母語話者別の主効果が有意であった。そこで、下位検定として単純主効果検定を行い、表 8.47 が示しているように、相手が誰かにかかわらず、日本人社会人と中国人社会人の間に有意差があることを確認した。また、表 8.50 が示しているように、場面 6（メールの場面）も類似的な傾向を示している。

表 8.47 場面 1（11 時頃に出会った場面）における「おはよう（～）」と「（～）早（～）」

調査対象 対人関係	おはよう（～）		（～）早（～）		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	114 人中	割合	105 人中	割合		
あまり親しくない上位者	39	34%	3	3%	195.51**	45.23**
親しいと思う上位者	47	41%	2	2%		68.24**
親しい同僚	43	38%	9	9%		28.99**
あまり親しくない先輩	36	32%	8	8%		21.97**
親しいと思う先輩	43	38%	6	6%		38.54**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 8.48 場面 2（12 時半頃に出会った場面）における「おはよう（～）」と「（～）早（～）」

調査対象 対人関係	おはよう（～）		（～）早（～）		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	114 人中	割合	105 人中	割合		
あまり親しくない上位者	1	1%	0	0%	9.61**	1.92ns
親しいと思う上位者	1	1%	0	0%		1.92ns
親しい同僚	1	1%	0	0%		1.92ns
あまり親しくない先輩	1	1%	0	0%		1.92ns
親しいと思う先輩	1	1%	0	0%		1.92ns

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 8.49 場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における「おはよう（～）」と「（～）早（～）」

調査対象 対人関係	おはよう（～）		（～）早（～）		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	114 人中	割合	105 人中	割合		
あまり親しくない上位者	0	0%	0	0%		
親しいと思う上位者	0	0%	0	0%		
親しい同僚	0	0%	0	0%		
あまり親しくない先輩	0	0%	0	0%		
親しいと思う先輩	0	0%	0	0%		

表 8.50 場面 6（メールの場面）における「おはよう（～）」と「（～）早（～）」

調査対象 対人関係	おはよう（～）		（～）早（～）		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	114 人中	割合	105 人中	割合		
あまり親しくない上位者	3	3%	0	0%	22.94**	5.80*
親しいと思う上位者	3	3%	0	0%		5.80*
親しい同僚	2	2%	0	0%		3.86*
あまり親しくない先輩	2	2%	0	0%		3.86*
親しいと思う先輩	2	2%	0	0%		3.86*

(** $p < .01$, * $p < .05$)

一方、表 8.48 と表 8.49 に示されるように、場面 2（12 時半頃に出会った場面）、場面 4（その日 2 回以上出会った場面）においてあいさつをする場合、相手が誰かにかかわらず、「おはよう（～）」を使用する日本人社会人はほとんどいない。また、同様の状況で、「（～）早（～）」を使用する中国人社会人は、類似した傾向を示し、1 人もいない。

角変換法による相手別と母語話者別の分散分析を行った結果、場面 2 と場面 6 とともに母語話者別の主効果が有意であった。しかし、下位検定として単純主効果検定を行ったところ、表 8.48 が示しているように、相手が誰かにかかわらず、日本人社会人と中国人社会人の間に有意差がないことを確認した。

しかし、表 8.51 に示すように、場面 7（電話の場面）においてあいさつをする場合、相手が誰かにかかわらず、「（～）早（～）」を使用する中国人社会人は 1 人もいないのに対して、「おはよう（～）」を使用する日本人社会人はある程度存在する。角変換法による相手別と母語話者別の分散分析を行った結果、場面 7 のデータにおいて母語話者別の主効果が有意であった。そこで、下位検定として単純主効果検定を行い、表 8.51 が示しているように、相手が誰かにかかわらず、日本人社会人と中国人社会人の間に有意差があることを確認した。

表 8.51 場面 7（電話の場面）における「おはよう（～）」と「（～）早（～）」

調査対象 対人関係	おはよう（～）		（～）早（～）		母語話者別の 主効果（ χ^2 ）	単純主効果 （ χ^2 ）
	114 人中	割合	105 人中	割合		
あまり親しくない上位者	10	9%	0	0%	83.31**	19.76**
親しいと思う上位者	10	9%	0	0%		19.76**
親しい同僚	7	6%	0	0%		13.70**
あまり親しくない先輩	9	8%	0	0%		17.73**
親しいと思う先輩	9	8%	0	0%		17.73**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

以上、「おはよう（～）」とそれに当たる中国語の表現「（～）早（～）」における対人関係による使用制限の異同を明らかにした。場面 2 と場面 4 においてあいさつをする場合、相手が誰かにかかわらず「おはよう（～）」を使用する日本人社会人と「（～）早（～）」を使用する中国人社会人の間には顕著な差異がない。一方、場面 1、場面 6、場面 7 においてあいさつをする場合、相手が誰かにかかわらず、「（～）早（～）」を使用する中国人社会人と「おはよう（～）」を使用する日本人社会人における差異が顕著である。

上記の結果が生じた原因は、7.2.6 で既に述べた学習者における日本人学生との相違点②（「おはよう（～）」の不使用）が生じた原因と同様であると考えられる。すなわち、「おはよう（～）」と「（～）早（～）」における時間による使用制限の違いによるものであると考えられる。前述したように、中国語の「（～）早（～）」は、大体朝 8 時から 9 時頃まで使用される表現であり（彭 1990）、時間による使用制限が顕著である。それに対して、日本語

の「おはよう（～）」は、時間による使用制限が相対的に弱い。場面 1、場面 2、場面 4、場面 6、場面 7 はすべて 11 時頃以降の時間帯であるため、中国人社会人が「（～）早（～）」をほとんど使用しないのは当然であると考えられる。それに対して、日本語の「おはよう（～）」には時間による使用制限があるが、中国語の場合と比べて時間帯の幅が広く、はじまり意識の「おはよう（～）」⁴²もある。濱屋（2007:118）が述べているように、近代化につれて人間の活動時間が長くなり、それに伴うシフト制やフレックス制が導入されて、仕事の始まりが必ずしも朝でない人々が多くなったので、「おはよう（～）」のはじまり意識のあいさつ表現として使用されることもある。また、丁他（2016:75）が述べているように、「おはよう（～）」の使用は、通常、時間による使用制限があるが、場面によってはこの制限がなくなるケースがある。場面 1 と場面 7 において「おはよう（～）」を使用する日本人社会人が比較的多いのはそのためであると考えられる。

8.2.3.2 「こんにちは」と「（～）好」

次に、日本語の「こんにちは」と中国語の「（～）好」の使用について見ると、場面 1（その日初めて出会った場面）においては、日本人社会人と中国人社会人で大きな違いが見られる。

表 8.52 場面 1（11 時頃に出会った場面）における「こんにちは」と「（～）好」

調査対象 対人関係	こんにちは		（～）好		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	114 人中	割合	105 人中	割合		
あまり親しくない上位者	15	13%	57	54%	79.49**	45.66**
親しいと思う上位者	18	16%	48	46%		24.36**
親しい同僚	11	10%	5	5%		2.01ns
あまり親しくない先輩	14	12%	53	50%		40.81**
親しいと思う先輩	16	14%	34	32%		10.71**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 8.52 に示すように、場面 1 においてあいさつをする場合、相手が親しい同僚である場合、「こんにちは」を使用する日本人社会人も「（～）好」を使用する中国人社会人もほとんどいない。一方、親しいか親しくないかにかかわらず、相手が上位者と先輩である場合、「（～）好」を使用する中国人社会人は比較的多いのにに対して、「こんにちは」を使用する日本人社会人は相対的に少ない。表 8.52 が示しているとおり、場面 1 において、あまり親しくない上位者、親しいと思う上位者、あまり親しくない先輩、親しいと思う先輩に「（～）好」を使用する中国人社会人がそれぞれ 57 人（54%）、48 人（46%）、53 人（50%）、34 人（32%）に達しているのにに対して、同様の状況で「こんにちは」を使用する日本人社会人

⁴²速司（2004）は、「おはよう」の意識を時間帯意識の「おはよう」、儀礼的な「おはよう」、ウチ意識の「おはよう」、はじまり意識の「おはよう」という四つに分けている。

がそれぞれ 15 人 (13%)、18 人 (16%)、14 人 (12%)、16 人 (14%) にとどまっている。角変換法による相手別と母語話者別の分散分析を行った結果、母語話者別の主効果が有意であった。そこで、下位検定として単純主効果検定を行い、表 8.52 が示しているように、親しいか親しくないかにかかわらず相手が上位者と先輩である場合、日本人社会人と中国人社会人の間に有意差があることを確認した。

表 8.53 場面 2 (12 時半頃に会った場面) における「こんにちは」と「(～) 好」

調査対象 対人関係	こんにちは		(～) 好		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	114 人中	割合	105 人中	割合		
あまり親しくない上位者	23	20%	48	46%	2.28ns	
親しいと思う上位者	30	26%	15	14%		
親しい同僚	18	16%	1	1%		
あまり親しくない先輩	21	18%	30	29%		
親しいと思う先輩	27	24%	12	11%		

(** $p < .01$, * $p < .05$)

しかし、表 8.53 に示すように、場面 2 (12 時半頃に会った場面) においてあいさつをする場合、相手が誰かにかかわらず、「こんにちは」を使用する日本人社会人と「(～) 好」を使用する中国人社会人がほぼ同様の使用傾向を示している。表 8.53 が示しているように、場面 2 において上位者・先輩に比べると、親しい同僚に「こんにちは」を使用する日本人社会人が比較的少ない。同一の場面における中国語の「(～) 好」の使用について、中国人社会人も同様の傾向を示している。角変換法による相手別と母語話者別の分散分析を行った結果、母語話者別の主効果が有意ではなかった。これより、場面 2 において、相手が誰かにかかわらず、「こんにちは」を使用する日本人社会人と「(～) 好」を使用する中国人社会人の間に有意差がないことを確認した。

一方、表 8.54 に示すように、場面 4 (その日 2 回以上会った場面) においてあいさつをする場合、相手があまり親しくない上位者と先輩である場合、「(～) 好」を使用する中国人社会人が比較的多いのに対して、「こんにちは」を使用する日本人社会人は相対的に少ない。表 8.54 が示しているとおり、場面 4 において、あまり親しくない上位者と先輩に「(～) 好」を使用する中国人社会人はそれぞれ 44 人 (38%) と 25 人 (24%) に上っているのに対して、同様の状況で「こんにちは」を使用する日本人社会人はそれぞれ 10 人 (9%) と 11 人 (10%) にとどまっている。

表 8.54 場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における「こんにちは」と「(～) 好」

調査対象 対人関係	こんにちは		(～) 好		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	114 人中	割合	105 人中	割合		
あまり親しくない上位者	10	9%	44	38%	11.59**	35.57**
親しいと思う上位者	14	12%	17	16%		0.69ns
親しい同僚	4	4%	2	2%		0.55ns
あまり親しくない先輩	11	10%	25	24%		8.22**
親しいと思う先輩	9	8%	4	4%		1.71ns

(** $p < .01$, * $p < .05$)

角変換法による相手別と母語話者別の分散分析を行った結果、場面 4 のデータにおいて母語話者別の主効果が有意であった。そこで、下位検定として単純主効果検定を行い、表 8.54 が示しているように、相手があまり親しくない上位者と先輩である場合、日本人社会人と中国人社会人の間に有意差があることを確認した。

表 8.55 場面 6（メールの場面）における「こんにちは」と「(～) 好」

調査対象 対人関係	こんにちは		(～) 好		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	114 人中	割合	105 人中	割合		
あまり親しくない上位者	3	3%	92	88%	531.53**	240.17**
親しいと思う上位者	6	5%	76	72%		135.01**
親しい同僚	14	12%	25	24%		5.03*
あまり親しくない先輩	6	5%	86	82%		177.00**
親しいと思う先輩	9	8%	63	60%		79.01**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 8.56 場面 7（電話の場面）における「こんにちは」と「(～) 好」

調査対象 対人関係	こんにちは		(～) 好		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	114 人中	割合	105 人中	割合		
あまり親しくない上位者	3	3%	77	73%	339.13**	163.61**
親しいと思う上位者	6	5%	58	55%		80.37**
親しい同僚	7	6%	11	10%		1.37ns
あまり親しくない先輩	7	6%	69	66%		105.52**
親しいと思う先輩	7	6%	53	50%		63.67**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

また、表 8.55 と表 8.56 に示すように、場面 6（メールの場面）と場面 7（電話の場面）においてあいさつをする場合、親しいか親しくないかにかかわらず相手が上位者と先輩である場合、「(～) 好」を使用する中国人社会人が極めて多いのに対して、「こんにちは」を使用する日本人社会人は比較的少ない。

表 8.55 が示しているとおり、場面 6 においてあまり親しくない上位者、親しいと思う上位者、あまり親しくない先輩、親しいと思う先輩にあいさつをする場合、「(～) 好」を使用する中国人社会人はそれぞれ 92 人（88%）、76 人（72%）、86 人（82%）、63 人（60%）

に及んでいるのに対して、同様の状況で「こんにちは」を使用する日本人社会人はそれぞれ3人(3%)、6人(5%)、6人(5%)、9人(8%)にとどまっている。また、表 8.56 が示しているとおり、場面 7 においてあまり親しくない上位者、親しいと思う上位者、あまり親しくない先輩、親しいと思う先輩にあいさつをする場合、「(～) 好」を使用する中国人社会人はそれぞれ 77 人(73%)、58 人(55%)、69 人(66%)、53 人(50%)に上っているのに対して、同様の状況で「こんにちは」を使用する日本人社会人はそれぞれわずか 3 人(3%)、6 人(5%)、7 人(6%)、7 人(6%)である。

角変換法による相手別と母語話者別の分散分析を行った結果、場面 6 と場面 7 のいずれのデータにおいても母語話者別の主効果が有意であった。そこで、下位検定として単純主効果検定を行い、表 8.55 と表 8.56 が示しているように、親しいか親しくないかにかかわらず相手が上位者と先輩である場合、日本人社会人と中国人社会人の間に有意差があることを確認した。

以上、「こんにちは」とそれに当たる中国語表現「(～) 好」における対人関係による使用制限に関する日中差異を見てきた。場面 1、場面 6、場面 7 において親しいか親しくないかにかかわらず相手が上位者と先輩にあいさつをする場合、「こんにちは」を使用する日本人社会人と「(～) 好」を使用する中国人社会人における差異が顕著である。また、場面 4 においてあまり親しくない上位者と先輩にあいさつをする場合も、同様の傾向を示している。一方、場面 2 においてあいさつをする場合、相手が誰かにかかわらず「こんにちは」を使用する日本人社会人と「(～) 好」を使用する中国人社会人の間には顕著な差異がない。

以上からわかるように、出会い・メール・電話の場面においては、中国人社会人は、上位者と先輩に「(～) 好」使用する傾向が比較的顕著であるのに対して、日本人社会人は「こんにちは」を使用しない傾向が顕著である。これは、職場における「こんにちは」と「(～) 好」の対人関係による使用制限の差異によるものである。日本の職場では、日本人社会人における公的な場に対する意識が強いため、同僚に「こんにちは」を使用するケースもあるが、目上の人に「こんにちは」を使用すると失礼になる可能性が大きい。「こんにちは」は、日本語の代表的なあいさつ言葉であり、外国人が使う分には、誰に対して「こんにちは」とあいさつしても、目くじらを立てる人はいないだろうが、日本人が目上の人に「こんにちは」とあいさつすると、いささか失礼な言葉遣いになる(宇野 2002:60-61)。それに対して、中国の職場で中国人社会人における公的な場に対する意識がないわけでないが、その意識は日本人ほど強くないため、親しい同僚に「(～) 好」を使用すると他人行儀という感じがあるものの、目上の人に「(～) 好」を使っても差し支えない。

8.2.3.3 「さようなら」と「(～) 再见」

日本人社会人と中国人社会人におけるあいさつ使用に関する相違点は、出会いの「おはよう(～)」と「(～) 早(～)」、「こんにちは」と「(～) 好」に限らず、表 8.57 と表 8.58

に示すように、別れのあいさつ表現「さようなら」とそれに当たる中国語の「(～) 再见」の使用実態においても見られる。

表 8.57 場面 3（偶然出会って別れる場面）における「さようなら」と「(～) 再见」

調査対象 対人関係	さようなら		(～) 再见		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	114 人中	割合	105 人中	割合		
あまり親しくない上位者	1	1%	58	55%	257.74**	121.00**
親しいと思う上位者	2	2%	35	33%		50.91**
親しい同僚	6	5%	21	20%		11.78**
あまり親しくない先輩	4	4%	46	44%		62.53**
親しいと思う先輩	5	4%	38	36%		41.26**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 8.58 場面 5（共同作業をした後別れる場面）における「さようなら」と「(～) 再见」

調査対象 対人関係	さようなら		(～) 再见		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	114 人中	割合	105 人中	割合		
あまり親しくない上位者	0	0%	51	49%	293.94**	129.95**
親しいと思う上位者	0	0%	44	42%		108.34**
親しい同僚	2	2%	14	13%		12.69**
あまり親しくない先輩	1	1%	43	41%		78.84**
親しいと思う先輩	3	3%	19	18%		16.70**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 8.57 と表 8.58 が示しているように、場面 3（偶然出会って別れる場面）と場面 5（共同作業をした後別れる場面）においてあいさつをする場合、相手が誰かにかかわらず、中国人社会人は「(～) 再见」を使用する傾向が顕著であるのに対して、日本人社会人は「さようなら」をほとんど使用しない。表 8.57 に示したように、場面 3 においてあまり親しくない上位者、親しいと思う上位者、親しい同僚、あまり親しくない先輩に「(～) 再见」を使用する中国人社会人は、それぞれ 58 人 (55%)、35 人 (33%)、21 人 (20%)、46 人 (44%)、38 人 (36%) に達しているのに対して、同様の状況で「さようなら」を使用する日本人社会人は、それぞれ 1 人 (1%)、2 人 (2%)、6 人 (5%)、4 人 (4%)、5 人 (4%) にとどまっている。表 8.57 も同様の傾向を示している。角変換法（逆正弦変換法）による相手別と母語話者別の分散分析を行った結果、場面 3 と場面 5 のいずれのデータにおいても母語話者別の主効果が有意であった。そこで、下位検定として単純主効果検定を行い、表 8.57 と表 8.58 が示しているように、相手が誰かにかかわらず、日本人社会人と中国人社会人の間に有意差があることを確認した。

上記の結果が生じたのは、「さようなら」と「(～) 再见」における場面による使用制限の違いによるものであると考えられる。かつて別れのあいさつの主流であり、日本語教育でも最初に教えられてきた「さようなら」は、日常会話においては学校の生徒が教師と先輩に用いる、且つまた教師から生徒に対して用いるあいさつにほぼ限定されている（濱屋 2007:167）。また、現代の日本社会では、単に「さようなら」と言うと、敬意に欠けるとこ

ろがあるため、目上の人に対してあいさつをする場合、「さようなら」より適当に敬意を含む「失礼します」を使用したほうが最も無難である（宇野 2002:61）。そう考えてみると、「さようなら」は、学校の生活である程度使用されているものの、学校以外の場面ではほとんど使用されていない。それに対して、「さようなら」に当たる中国語表現「(～) 再见」は、再びまみえることを祈願する意味合いがあり（濱屋 2007:169）、時や状況を問わずに広範囲に使用できるあいさつ表現である（施 2002:32）。以上からわかるように、日本語の「さようなら」は、場面による使用制限が比較的強いものに対して、中国語の「(～) 再见」は、場面による使用制限が相対的に弱い。別れの場面において、中国人社会人は「(～) 再见」を使用する傾向があるのに対して、日本人社会人は「さようなら」をほとんど使用しないということが生じたのは、そのためであると考えられる。

8.2.3.4 「お疲れ(～)」と「(～) 辛苦了」

あいさつ使用に関する場面による使用制限の日中差異は、「おはよう(～)」と「(～) 早(～)」、「こんにちは」と「(～) 好」、「さようなら」と「(～) 再见」に限らず、「お疲れ(～)」とそれに当たる中国語表現「(～) 辛苦了」の使用にも窺える。

表 8.59 から表 8.62 および表 8.64 と表 8.65 に示すように、場面 1、場面 2、場面 4、場面 3、場面 6、場面 7 においてあいさつをする場合、相手が誰かにかかわらず、「お疲れ(～)」に相当する中国語表現「(～) 辛苦了」を使用する中国人社会人は 1 人もいないのに対して、「お疲れ(～)」を使用する日本人社会人は比較的多い。

角変換法による相手別と母語話者別の分散分析を行った結果、場面 1、場面 2、場面 4、場面 3、場面 6、場面 7 のいずれのデータにおいても母語話者別の主効果が有意であった。そこで、下位検定として単純主効果検定を行い、表 8.59 から表 8.62 および表 8.64 と表 8.65 が示しているように、相手が誰かにかかわらず、日本人社会人と中国人社会人の間に有意差があることを確認した。

表 8.59 場面 1（11 時頃に出会った場面）における「お疲れ(～)」と「(～) 辛苦了」

調査対象 対人関係	お疲れ(～)		(～) 辛苦了		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	114 人中	割合	105 人中	割合		
あまり親しくない上位者	28	25%	0	0%	411.51**	58.22**
親しいと思う上位者	37	32%	0	0%		79.56**
親しい同僚	41	36%	0	0%		89.57**
あまり親しくない先輩	36	32%	0	0%		77.12**
親しいと思う先輩	45	39%	0	0%		111.60**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 8.60 場面 2 (12 時半頃に出会った場面) における「お疲れ (～)」と「(～) 辛苦了」

調査対象 対人関係	お疲れ (～)		(～) 辛苦了		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	114 人中	割合	105 人中	割合		
あまり親しくない上位者	44	39%	0	0%	638.08**	98.21**
親しいと思う上位者	57	50%	0	0%		134.81**
親しい同僚	58	51%	0	0%		137.84**
あまり親しくない先輩	54	47%	0	0%		125.93**
親しいと思う先輩	60	53%	0	0%		144.00**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 8.61 場面 4 (その日 2 回以上出会った場面) における「お疲れ (～)」と「(～) 辛苦了」

調査対象 対人関係	お疲れ (～)		(～) 辛苦了		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	114 人中	割合	105 人中	割合		
あまり親しくない上位者	46	40%	0	0%	63.91**	103.54**
親しいと思う上位者	59	52%	0	0%		140.90**
親しい同僚	62	54%	0	0%		150.31**
あまり親しくない先輩	55	48%	0	0%		128.86**
親しいと思う先輩	63	55%	0	0%		153.52**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 8.62 場面 3 (偶然出会って別れる場面) における「お疲れ (～)」と「(～) 辛苦了」

調査対象 対人関係	お疲れ (～)		(～) 辛苦了		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	114 人中	割合	105 人中	割合		
あまり親しくない上位者	75	66%	0	0%	1144.59**	195.60**
親しいと思う上位者	80	70%	0	0%		215.53**
親しい同僚	87	76%	0	0%		246.74**
あまり親しくない先輩	84	74%	0	0%		232.82**
親しいと思う先輩	89	78%	0	0%		256.54**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 8.63 場面 5 (共同作業をした後別れる場面) における「お疲れ (～)」と「(～) 辛苦了」

調査対象 対人関係	お疲れ (～)		(～) 辛苦了		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	114 人中	割合	105 人中	割合		
あまり親しくない上位者	94	82%	33	31%	477.07**	64.56**
親しいと思う上位者	95	83%	33	31%		67.35**
親しい同僚	106	93%	19	18%		162.89**
あまり親しくない先輩	99	87%	31	30%		85.41**
親しいと思う先輩	101	89%	25	24%		112.23**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 8.64 場面 6（メールの場面）における「お疲れ（～）」と「（～）辛苦了」

調査対象 対人関係	お疲れ（～）		（～）辛苦了		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	114 人中	割合	105 人中	割合		
あまり親しくない上位者	31	27%	0	0%	458.37**	65.77**
親しいと思う上位者	43	38%	0	0%		95.58**
親しい同僚	47	41%	0	0%		106.24**
あまり親しくない先輩	40	35%	0	0%		87.84**
親しいと思う先輩	47	41%	0	0%		106.24**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 8.65 場面 7（電話の場面）における「お疲れ（～）」と「（～）辛苦了」

調査対象 対人関係	お疲れ（～）		（～）辛苦了		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	114 人中	割合	105 人中	割合		
あまり親しくない上位者	34	30%	0	0%	450.94**	72.94**
親しいと思う上位者	36	32%	0	0%		77.83**
親しい同僚	49	43%	0	0%		111.73**
あまり親しくない先輩	41	36%	0	0%		90.40**
親しいと思う先輩	45	39%	0	0%		100.86**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

また、表 8.63 が示しているように、場面 5 においてあいさつをする場合、相手が誰かにかかわらず、「お疲れ（～）」に当たる中国語表現「（～）辛苦了」を使用する中国人社会人がある程度いるものの、「お疲れ（～）」を使用する日本人社会人に比べると極めて少ない。一方、同様の状況で「お疲れ（～）」を使用する日本人社会人は 8 割以上に達している。角変換法による相手別と母語話者別の分散分析を行った結果、母語話者別の主効果が有意であった。そこで、下位検定として単純主効果検定を行い、表 8.63 が示しているように、相手が誰かにかかわらず、日本人社会人と中国人社会人の間に有意差があることを確認した。

上記の結果が生じたのは、「お疲れ（～）」と「（～）辛苦了」における用法の違いによると考えられる。第 7 章の 7.21 において既に述べたように、「お疲れ（～）」の用法には、「ねぎらいのあいさつ」として表現するものだけではなく、「出会いのあいさつ」、「別れのあいさつ」としての用法もある。場面 1 から場面 7 において相手が誰かにかかわらず「お疲れ（～）」を使用する日本人社会人の比率が比較的高いのは、「お疲れ（～）」における用法の拡張によるものであると考えられる。それに対して、中国語の「（～）辛苦了」は共同作業をした後別れる場面のようなねぎらいの場面においてしか見られない。

8.2.3.5 会釈・お辞儀

以上、言葉によるあいさつ表現「おはよう（～）」と「（～）早（～）」、「こんにちは」と「（～）好」、「さようなら」と「（～）再见」、「お疲れ（～）」と「（～）辛苦了」におけ

る対人関係による使用制限の相違点を考察した。対人関係による使用制限の日中差異は、言葉によるあいさつ表現に限らず、非言語行動によるあいさつ表現からも窺える。

表 8.66、表 8.67、表 8.69、表 8.70 に示すように、場面 1（11 時頃に出会った場面）と場面 2（12 時半頃に出会った場面）および場面 3（偶然出会って別れる場面）と場面 5（共同作業をした後、別れる場面）においてあいさつをする場合、相手が誰かにかかわらず、[会釈・お辞儀]をする日本人社会人と中国人社会人から顕著な差異が見られない。表 8.66 と表 8.67 が示しているように、場面 1 と場面 2 において親しいか親しくないかにかかわらず上位者と先輩に[会釈・お辞儀]をする日本人社会人も中国人社会人も比較的多いといえる。ただし、同様の場面で親しい同僚に[会釈・お辞儀]をする日本人社会人も中国人社会人もほとんどいない。表 8.69 と表 8.70 が示しているように、場面 3 と場面 5 においてあいさつをする場合、相手が誰かにかかわらず[会釈・お辞儀]をする日本人社会人も中国人社会人もほとんどいない。角変換法による相手別と母語話者別の分散分析を行った結果、場面 1、場面 2、場面 3、場面 5 のいずれのデータにおいても母語話者別の主効果が有意ではなかった。

表 8.66 場面 1（11 時頃に出会った場面）における[会釈・お辞儀]

調査対象 対人関係	日本人社会人		中国人社会人		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	114 人中	割合	105 人中	割合		
あまり親しくない上位者	24	23%	17	15%	0.74ns	
親しいと思う上位者	5	5%	12	11%		
親しい同僚	2	2%	3	3%		
あまり親しくない先輩	26	25%	17	15%		
親しいと思う先輩	8	8%	14	12%		

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 8.67 場面 2（12 時半頃に出会った場面）における[会釈・お辞儀]

調査対象 対人関係	日本人社会人		中国人社会人		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	114 人中	割合	105 人中	割合		
あまり親しくない上位者	35	33%	14	12%	1.29ns	
親しいと思う上位者	12	11%	16	14%		
親しい同僚	3	3%	4	4%		
あまり親しくない先輩	28	26%	18	16%		
親しいと思う先輩	10	10%	11	10%		

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 8.68 場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における[会釈・お辞儀]

調査対象 対人関係	日本人社会人		中国人社会人		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	114 人中	割合	105 人中	割合		
あまり親しくない上位者	44	42%	13	11%	40.63**	21.11**
親しいと思う上位者	24	23%	8	7%		8.48**
親しい同僚	10	10%	1	1%		9.00**
あまり親しくない先輩	33	31%	17	15%		5.18*
親しいと思う先輩	17	16%	9	8%		2.16ns

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 8.69 場面 3（偶然出会って別れる場面）における[会釈・お辞儀]

調査対象 対人関係	日本人社会人		中国人社会人		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	114 人中	割合	105 人中	割合		
あまり親しくない上位者	4	4%	1	1%	2.04ns	
親しいと思う上位者	2	2%	1	1%		
親しい同僚	0	0%	1	1%		
あまり親しくない先輩	7	7%	1	1%		
親しいと思う先輩	2	2%	1	1%		

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 8.70 場面 5（共同作業をした後別れる場面）における[会釈・お辞儀]

調査対象 対人関係	日本人社会人		中国人社会人		母語話者別の 主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	114 人中	割合	105 人中	割合		
あまり親しくない上位者	1	1%	2	2%	3.34*	0.44ns
親しいと思う上位者	1	1%	2	2%		0.44ns
親しい同僚	0	0%	1	1%		2.09ns
あまり親しくない先輩	1	1%	2	2%		0.44ns
親しいと思う先輩	1	1%	2	2%		0.44ns

(** $p < .01$, * $p < .05$)

一方、表 8.68 に示すように、場面 4（その日 2 回以上出会った場面）においてあいさつをする場合、中国人社会人に比べると、上位者と親しい同僚に[会釈・お辞儀]をする日本人社会人は比較的多い。表 8.68 が示しているように、場面 4 においてあまり親しくない上位者、親しいと思う上位者、親しい同僚に[会釈・お辞儀]をする日本人社会人はそれぞれ 44 人（42%）、24 人（23%）、10 人（10%）に及んでいるのに対して、同様の状況で[会釈・お辞儀]をする中国人社会人はそれぞれ 13 人（11%）、8 人（7%）、1 人（1%）にとどまっている。角変換法による相手別と母語話者別の分散分析を行った結果、母語話者別の主効果が有意であった。そこで、下位検定として単純主効果検定を行い、表 8.68 が示しているように、相手が上位者、親しい同僚、あまり親しくない先輩である場合、日本人社会人と中国人社会人の間に有意差があることを確認した。

上述の結果からわかるように、出会いの場面において、中国人社会人は[会釈・お辞儀]を使用する比率(1%~16%)が低いのに対して、日本人社会人は使用する比率(10%~42%)が比較的高い。これは、[会釈・お辞儀]ができる範囲の日中差異によるものであると考えられる。日本社会では、[会釈・お辞儀]は通常、誰に対しても使用できるあいさつ表現であり、擦れ違う場合相手との上下・親疎に関わらず、言葉によるあいさつを言わずに[会釈・お辞儀]のみしても差し支えない。それに対して、中国社会では、[会釈・お辞儀]は通常、上位者に対して言葉によるあいさつのみでは十分でない特別の場合にとられる行動である。

8.2.4 日本人社会人におけるあいさつ使用の世代差

日本人のあいさつの使用から対人関係による使用制限だけではなく、「お疲れ(～)」の使用に関する世代差も窺える。あいさつ表現の形や意味の変化に関しては、沢木・杉戸(1999)が、本来的に何らかの実質的な意味を持っていたはずの言語形式が、あいさつになってからはその本来の意味を希薄にして用いられることを指摘している。「お疲れ(～)」の使用について、塩原(2006)は、大学の食堂での食事の後のあいさつとしてこの語が使われていることから、慰労の機能が失われ単体の別れのあいさつとして使われる「意味の漂白化」が起こっているとした。また、倉持(2008b:47)によると、「お疲れ(～)」は、「さようなら」や「こんにちは」など特定のあいさつコードとなっている語と比べ、様々な意味と機能を持ち、それゆえに幅広い文脈で使うことができる。さらに、登田(2004:4)と倉持(2008a・2008b)は、「お疲れ(～)」には、「出会い」、「別れ」、「ねぎらい」という三つの機能があると指摘している。このように、「お疲れ(～)」というあいさつ表現については、意味・機能の拡大化傾向が顕著であることが指摘されている。本研究における日本人社会人に対する自由記述式調査によるデータ⁴³からも、「お疲れ(～)」に関する意味・機能の拡大化傾向が窺える。この拡大化傾向は出会いと別れの場面に限らず、メールと電話の場面にも見られる。

図 8.1、図 8.2、図 8.3 に示したように、出会いの場面 1 と場面 2 (その日初めて出会った場面) および場面 4 (1 日中 2 回以上出会った場面) において相手が誰かにかかわらず、「お疲れ(～)」を使用する日本人社会人については、20 代と 30 代は比較的多く、40 代、50 代、60 代は相対的に少なく、70 代は皆無である。たとえば、図 8.1 が示しているように、20 代と 30 代における「お疲れ(～)」を使用する日本人社会人は 40%以上に達している。しかし、40 代、50 代、60 代における「お疲れ(～)」を使用する日本人社会人は 10~35%程度に下がっている。さらに、70 代における「お疲れ(～)」を使用する日本人社会人は、1 人もいない。図 8.2 と図 8.3 も類似した傾向を示している。

⁴³ データを見ると日本人社会人の 50 代から 70 代は足りないので、これを元に世代間を比較する場合、幅広い範囲で調査を行う必要があると考えられる。しかし、これらのデータから「お疲れ(～)」の変化傾向がある程度窺えるので、あえて本節で副次的な部分として提示する。データを増やし本格的に考察する必要があると思われるが、今後の課題にしたい。

図 8.4 に示したように、場面 3（偶然出会ってまた別れる場面）において、20 代、30 代、40 代、50 代における「お疲れ（～）」を使用する日本人社会人は、いずれも 50%以上に達しているが、60 代における「お疲れ（～）」を使用する日本人社会人は、相対的に少なく 25～50%に下がっている。70 代における「お疲れ（～）」を使用する日本人社会人は皆無である。

「お疲れ（～）」の使用は、図 8.5 に示したように、場面 5（共同作業をした後別れる場面）で、相手が誰かにかかわらず「お疲れ（～）」を使用する日本人社会人は、いずれの年代においても 40%以上に及んでいる。特に、その中で、20 代から 50 代における「お疲れ（～）」を使用する日本人社会人は、80%を超えている。60 代、70 代における「お疲れ（～）」の使用率は、やや下がって、それぞれ 40～75%、40%～80%となっている。

「お疲れ（～）」の使用に関する年代差は、出会いの場面と別れの場面に限らず、メールと電話の場面からも窺える。図 8.6 に示したように、場面 6（メールの場面）においてあいさつをする場合、相手が誰かにかかわらず、20 代から 50 代における「お疲れ（～）」を使用する日本人社会人は 23%以上に上っているが、60 代における「お疲れ（～）」を使用する日本人社会人は、10%前後にとどまっている。さらに、70 代における「お疲れ（～）」を使用する日本人社会人は皆無である。また、図 8.7 が示しているように、場面 7（電話の場面）においてあいさつをする場合、相手が誰かにかかわらず、20 代から 50 代における「お疲れ（～）」を使用する日本人社会人は、ほぼ 30%以上に達しているが、60 代における「お疲れ（～）」を使用する日本人社会人は、15%前後にとどまっている。さらに、70 代における「お疲れ（～）」を使用する日本人社会人は皆無である。

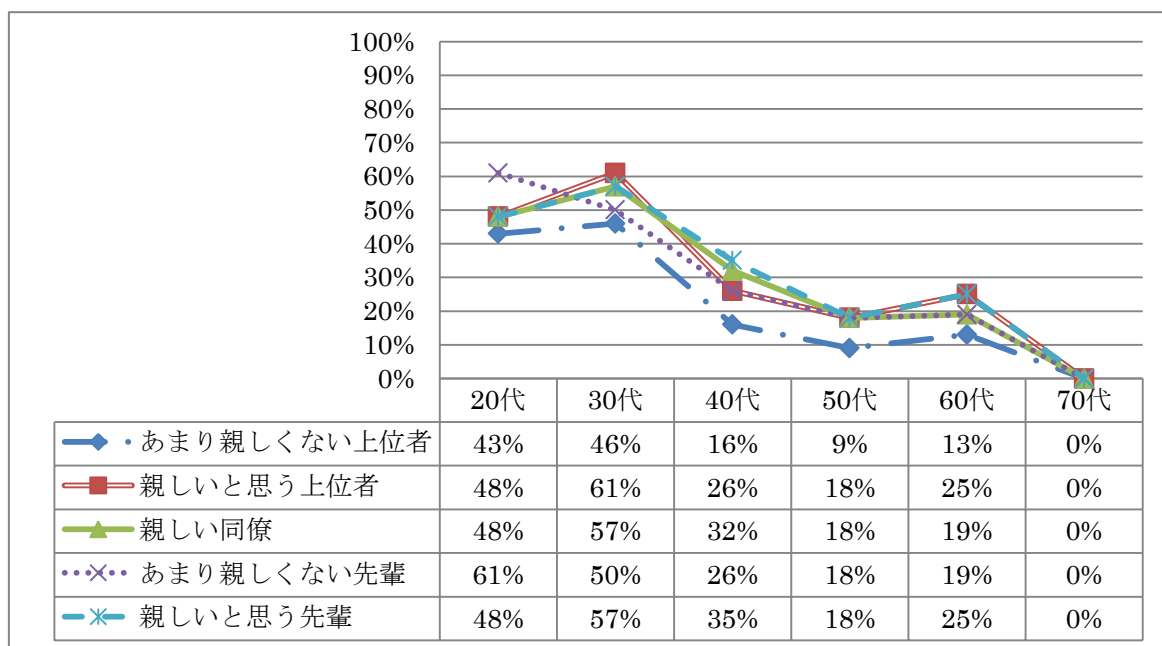


図 8.1 場面 1（11 時頃に会った場面）における「お疲れ（～）」の年代差

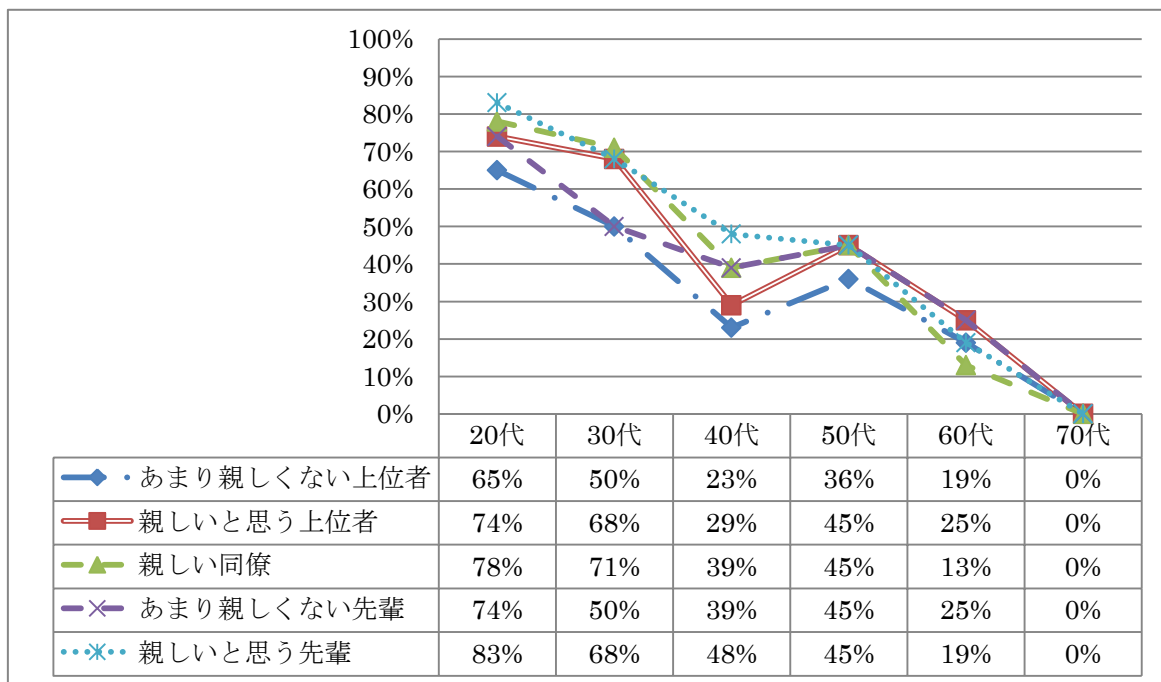


図 8.2 場面 2（12 時半頃に出会った場面）における「お疲れ（～）」の年代差

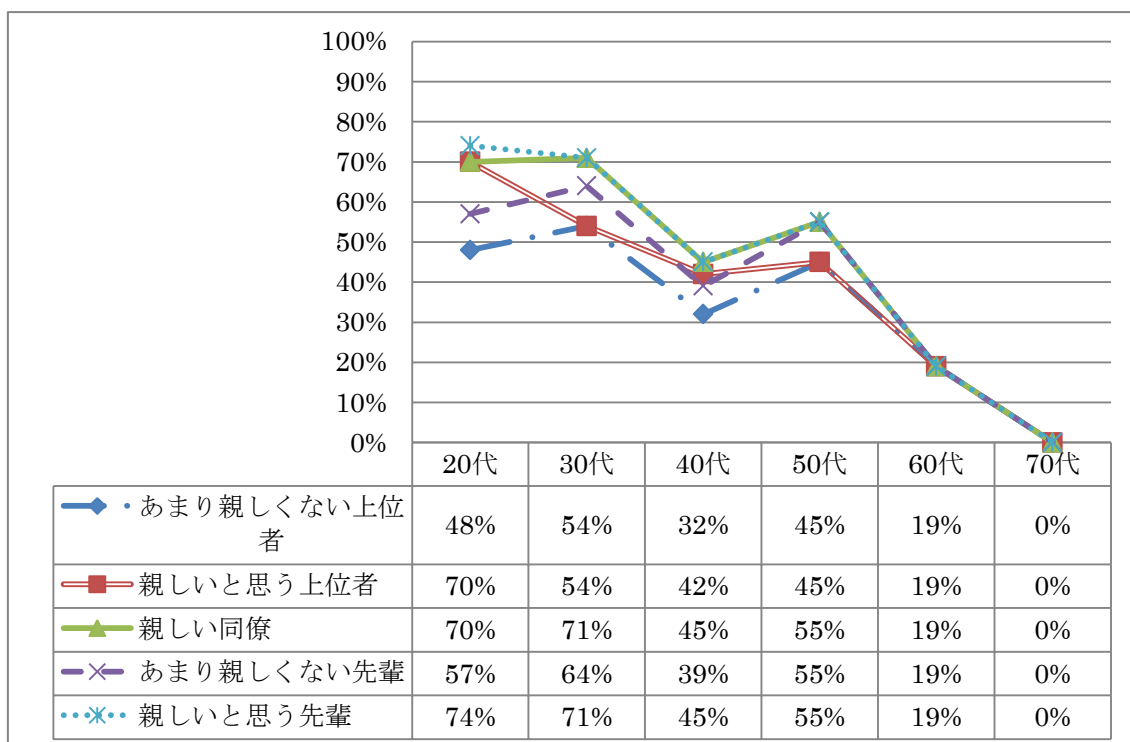


図 8.3 場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における「お疲れ（～）」の年代差

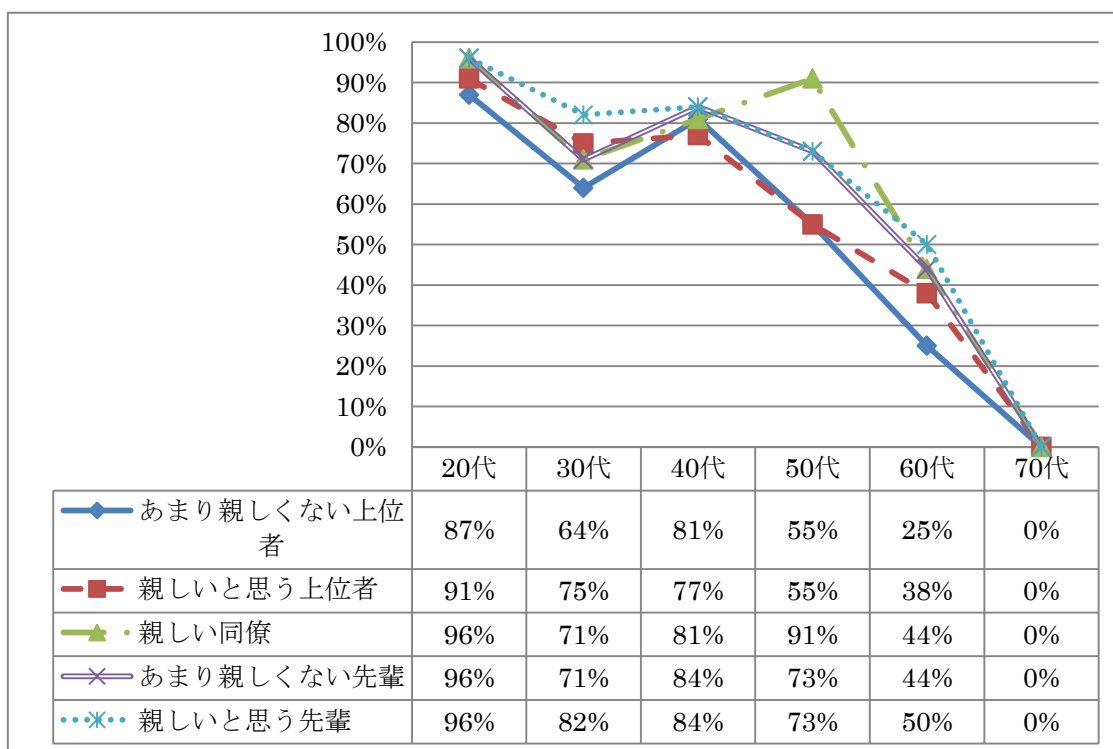


図 8.4 場面 3（偶然出会って別れる場面）における「お疲れ（～）」の年代差

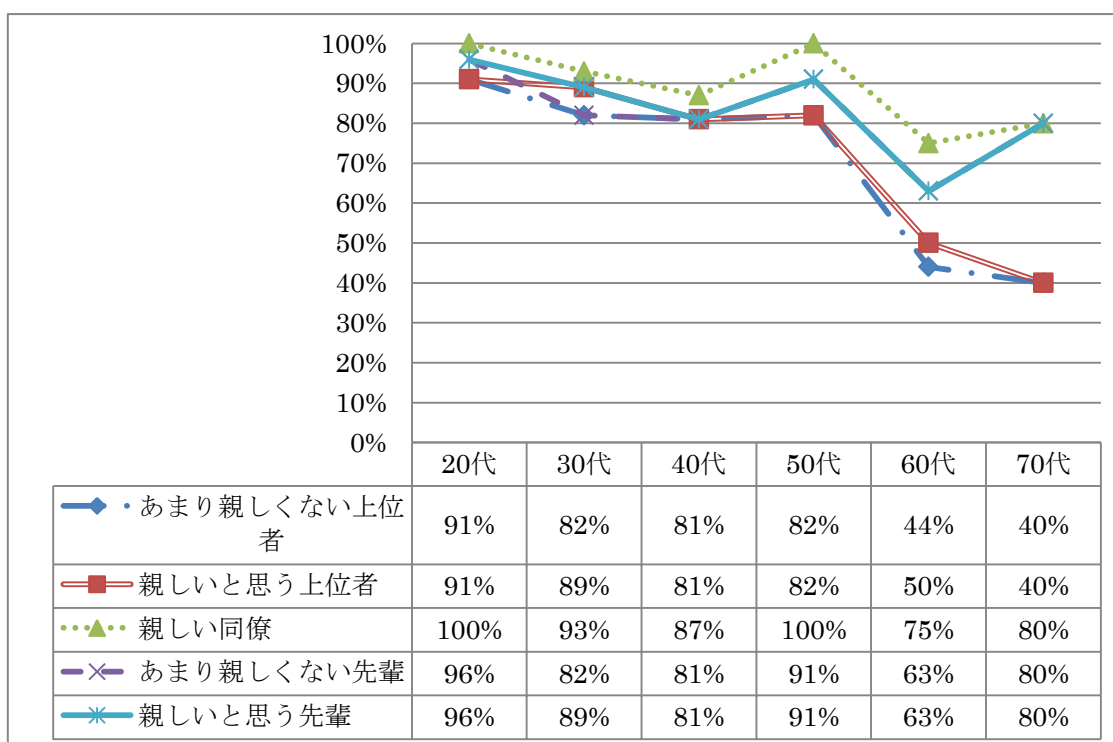


図 8.5 場面 5（共同作業をした後別れる場面）における「お疲れ（～）」の年代差

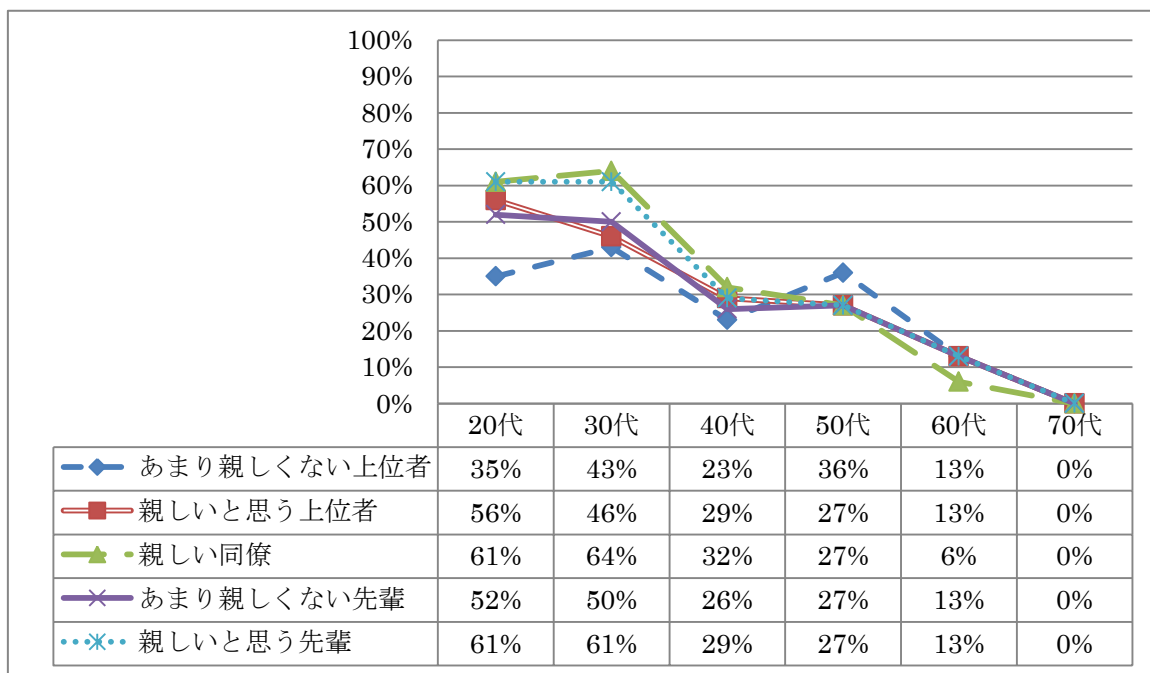


図 8.6 場面 6（メールの場面）における「お疲れ（～）」の年代差

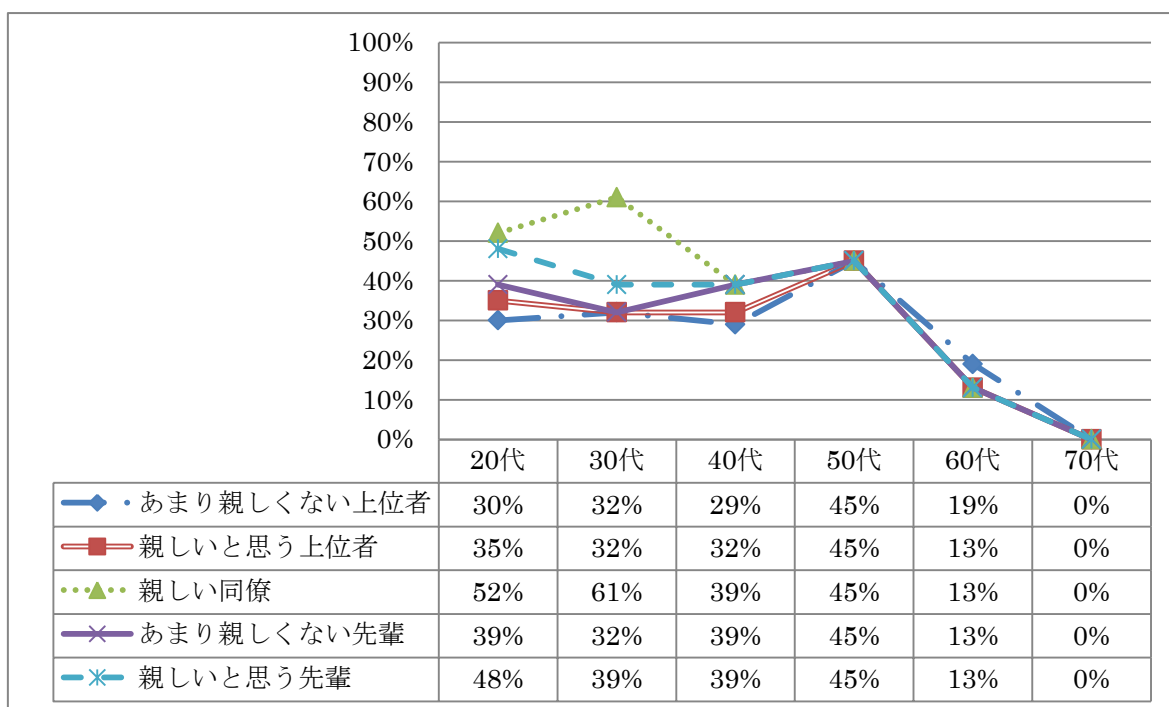


図 8.7 場面 7（電話の場面）における「お疲れ（～）」の年代差

以上からわかるように、場面 5（共同作業をした後別れる場面）以外、いずれの場面においても、「お疲れ（～）」に関する年代差が顕著であるといえる。言い換えれば、「お疲れ（～）」については、場面 5 以外の場面において、年代の上昇に従って使用率が下がってい

くと言ってよい。これは、登田（2004:4）、塩原（2006）、倉持（2008a・2008b）が指摘した近年進行している「お疲れ（～）」における用法の拡張と関係していると考えられる。

一方、場面 5（共同作業をした後別れる場面）におけるデータを見ると、年代による差異がないわけではないが、それほど顕著であるとは言い難い。このような結果が生じたのは、「お疲れ（～）」における本来の用法（ねぎらい／慰労の表現として使用される使い方）が、場面 5（共同作業をした後別れる場面）に当てはまることによるものであると考えられる。

8.3 まとめ

本章では、日本人社会人と中国人社会人における「あいさつの有無」、「あいさつのストラテジー」、「あいさつの場面・対人関係による使用制限」の差異を考察した。

日本人社会人と中国人社会人における「あいさつの有無」に関する相違点は、出会いの場面（場面 1、場面 2、場面 4）およびメールと電話の場面（場面 6、場面 7）において見られた。これらの結果を表 8.71 に示す。あいさつをする場合、どのようなあいさつのストラテジーを使用するかに関する相違点は、いずれの場面においても窺える。これらの結果を表 8.72 に示す。

表 8.71 日本人社会人と中国人社会人におけるあいさつの有無

場面	日本人社会人	中国人社会人
1	相手が誰かにかかわらずあいさつをしない人がほとんどいない (PF に配慮する)	相手が誰かにかかわらずあいさつをしない人がほとんどいない (PF に配慮する)
2		
4		上位者とあまり親しくない先輩にあいさつをしない傾向がある (NF に配慮する)
3		相手が誰かにかかわらずあいさつをしない人がほとんどいない (PF に配慮する)
5		
6		親しい同僚にあいさつをしない傾向が顕著である (PF に配慮する)
7		

表 8.72 社会人におけるあいさつ使用に関する全体的な特徴

場面	日本人社会人	中国人社会人
1	上位者と先輩に PPS+NPS を使用する傾向は顕著である一方、親しい同僚に PPS だけではなく PPS+NPS を使用するケースもある	上位者と先輩に PPS+NPS だけではなく PPS を使用するケースもある一方、親しい同僚に PPS を使用する傾向が顕著である
2		
4		
3		
5		
6		相手があまり親しくない上位者である場合、PPS+NPS を使用する傾向が顕著であり、相手が先輩と親しいと思う上位者である場合、PPS+NPS だけではなく PPS を使用するケースもある。一方、相手が親しい同僚である場合、PPS を使用する傾向が顕著である。
7		

表 8.71 が示しているように、あいさつをするかどうかについて、出会い・別れの場面において相手が誰かにかかわらず、日本人社会人はあいさつをする傾向が顕著である。中国人社会人は日本人社会人と同様の傾向を示している。このことから、日本人社会人と中国人社会人は自他の PF に配慮する傾向が顕著であると考えられる。

表 8.72 が示しているように、あいさつをする場合、出会い・別れの場面において、親しいか親しくないかにかかわらず上位者と先輩にあいさつをする場合、中国人社会人は PPS+NPS だけではなく、PPS を使用するケースもある一方、いずれの場面においても親しい同僚にあいさつをする場合、中国人社会人が PPS を使用する傾向が顕著である。それに対して、いずれの場面においても上位者と先輩にあいさつをする場合、日本人社会人は PPS+NPS を使用する傾向が顕著である一方、親しい同僚にあいさつをする場合、PPS だけではなく PPS+NPS を使用するケースもある。この結果が生じたのは、職場を公的な場としてそれにふさわしい言語行動を求める社会規範の度合いの日中差異によるものである。

次に、日本語のあいさつ表現と中国語のあいさつ表現における対人関係による使用制限について見ると、「おはよう (～)」と「(～) 早 (～)」、「こんにちは」と「(～) 好」、「さようなら」と「(～) 再见」、「お疲れ (～)」と「(～) 辛苦了」および非言語行動[会釈・お辞儀]の使用から、それぞれの相違点が窺える。それらの結果を、表 8.73 に示す。

表 8.73 社会人における個別のあいさつ表現に関する日中差異

	日本人社会人	中国人社会人
おはよう (～) / (～) 早 (～)	場面 1 において「おはよう (～)」を使用する傾向が顕著である。場面 7 において使用するケースもある	いずれの場面においても相手が誰かに関わらず使用しない傾向が顕著である
こんにちは / (～) 好	場面 1、場面 6、場面 7 において上位者と先輩に、場面 4 においてあまり親しくない上位者と先輩に使用しない傾向が顕著である	場面 1、場面 6、場面 7 において上位者と先輩に、場面 4 においてあまり親しくない上位者と先輩に使用する傾向が顕著である
さようなら / (～) 再见	場面 3 と場面 5 においてほとんど使用しない傾向が顕著である	場面 3 と場面 5 において比較的多く使用する傾向が顕著である
お疲れ (～) / (～) 辛苦了	いずれの場面においても比較的多く使用する傾向が顕著である	場面 5 以外の場面において使用しない傾向が顕著である
会釈・お辞儀	場面 4 において上位者と親しい同僚に使用する傾向が顕著である	場面 4 において上位者と親しい同僚にほとんど使用しない傾向が顕著である

「おはよう (～)」と「(～) 早 (～)」の使用について、表 8.73 が示しているように、中国人社会人は、いずれの場面においても、相手が誰かに関わらず、「(～) 早 (～)」を使用しない傾向が顕著であるのに対して、日本人社会人は午前 11 時頃に出会った場面において「おはよう (～)」を使用する傾向が顕著である。これは「おはよう (～)」と比べて「(～) 早」における時間による使用制限が強いためである。

「こんにちは」と「(～) 好」の使用について、出会い・メール・電話の場面においては、中国人社会人は、上位者と先輩に「(～) 好」を使用する傾向が顕著であるのに対して、日本人社会人は「こんにちは」を使用しない傾向が顕著である。これは、職場における「こんにちは」と「(～) 好」の対人関係による使用制限の差異によるものである。すなわち、日本の職場で目上の人に「こんにちは」を使用すると失礼になるのに対して、中国の職場で目上の人に「(～) 好」を使っても差し支えない。

「さようなら」と「(～) 再见」の使用について、別れの場面において、中国人社会人が「(～) 再见」を使用する傾向が顕著であるのに対して、日本人社会人は「さようなら」を使用しない傾向が顕著である。これは、「(～) 好」と比べて「さようなら」の場面による使用制限が強いためである。

「お疲れ (～)」と「(～) 辛苦了」の使用について、中国人社会人は、共同作業をした後別れる場面においては、「(～) 辛苦了」を使用する傾向がある（18%～31%）が、偶然出会って別れる場面においては、全く使用しない。それに対して、日本人社会人は、いずれの別れの場面においても相手が誰かにかかわらず、「お疲れ (～)」を使用する傾向（25%～93%）が顕著である。この結果が生じたのは、「お疲れ (～)」が用法の拡張が発生したのに対して、「(～) 辛苦了」は、用法の拡張が発生していないためである。

非言語行動による[会釈・お辞儀]の使用について、出会いの場面において、中国人社会人は[会釈・お辞儀]を使用する比率（1%～16%）が低いのに対して、日本人社会人は使用する比率（10%～42%）が比較的高い。これは、中国社会では、[会釈・お辞儀]は通常、上位者に対して言葉によるあいさつのみでは十分でない特別の場合にとられる行動であるためである。

最後に、日本人社会人のあいさつ使用から、「お疲れ (～)」の使用に関する年代差が窺える。共同作業をした後別れる場面を除き、いずれの場面においても、「お疲れ (～)」に関する年代差が顕著である。具体的に言えば、これらの場面においてあいさつをする場合、相手が誰かにかかわらず、年代の上昇につれて、「お疲れ (～)」の使用率は下がっていく傾向が見られる。これは、近年進行している「お疲れ (～)」における用法の拡張と関係していると考えられる。

第9章 大学生と社会人におけるあいさつ使用の違いの日中対照

第6章において日本人学生と中国人学生におけるあいさつの使用実態を明らかにし、第8章において日本人社会人と中国人社会人におけるあいさつの使用実態を考察した。日本人大学生のあいさつ使用は、必ずしも社会人のあいさつ使用と同様であるわけではない。たとえば、別れの場面において「さようなら」を使用する日本人大学生は少なくない一方、同様の状況で「さようなら」とあいさつをする日本人社会人はほとんどいない。その日午後の時間にはじめて相手に出会った場合親しい友達に「おはよう」を使用する日本人学生はある程度存在しているが、同様の状況で「おはよう」を使用する日本人社会人はほとんどいない。中国人上級日本語学習者におけるあいさつ使用に関する問題点を解決するため、あいさつの使用について日本人学生と日本人社会人との間にどのような相違点があるのか、中国人学生と中国人社会人における相違点と比べると、どのような特徴があるのかについて考察する必要もあると考えられる。本章では、第6章と第8章のデータを用い、中国人学生と中国人社会人におけるあいさつの使用実態との比較を通して、日本人学生と日本人社会人のあいさつ使用に関する特徴を明らかにする。

9.1 調査方法

本章で使用するデータは、第6章における大学生のデータと第8章における社会人のデータから抽出し、整理したものである。本章では、日本人学生と日本人社会人における相違点および中国人学生と中国人社会人における相違点を明らかにするため、日本人学生130人と日本人社会人114人および中国人学生101人と中国人社会人105人に実施した自由記述式調査によるデータを用いる。調査対象のインフォーマントの情報を表9.1に示す。また、本調査において設定した7つの場面を表9.2に示す。

表9.1 大学生と社会人のインフォーマント

調査対象		男性		女性		合計
日本人	大学生	85人	65%	45人	35%	130人
	社会人	42人	37%	72人	63%	114人
中国人	大学生	30人	30%	71人	70%	101人
	社会人	43人	41%	62人	59%	105人
合計		200人	44%	250人	56%	450人(100%)

表 9.2 大学生と社会人向けの場面の設定

対 人 関 係		
あまり親しくない先生／上位者 親しいと思う先生／上位者 親友／親しい同僚		
あまり親しくない先輩 親しいと思う先輩		
自由記述式の質問		
大 学 生 向 け の 場 面	場面 1	午前 11 時頃、大学の廊下でその日初めて以下の人に出会ってあいさつしますか。あいさつをする場合、どのようにあいさつをしますか。
	場面 2	平日お昼の 12 時半頃キャンパスで、食堂に向かう途中、その日初めて以下の人に出会ってあいさつをしますか。あいさつをする場合、どのようにあいさつをしますか。
	場面 3	夕方 5 時頃自分が帰る時、大学の廊下で以下の人に出会って、簡単なあいさつをして相手も帰るところだと分かりました。一緒に大学の出口まで行って、最後に大学の出口で以下の人と別れる場合、どのようにあいさつをしますか。
	場面 4	その日の午前中初めて以下の人に出会った時にもうあいさつしました。お昼の 12 時半頃、校内の道で再び以下の人に出会った場合、あいさつをしますか。あいさつをする場合、どのようにあいさつをしますか。
	場面 5	以下の人と一緒にボランティアとして、イベント会場を片付けました。その後、以下の人と別れる場合、あいさつをしますか。あいさつをする場合、どのようにあいさつをしますか。
	場面 6	以下の人に相談する必要があります。相談の時間を予約するため午前 11 時頃以下の人にメールを送ります。メールの冒頭であいさつの言葉を書きますか。書く場合、どのようなあいさつを書きますか。
	場面 7	相談があり、以下の人に電話をかけることになりました。午前 11 時頃電話をかける場合、あいさつをしますか。あいさつをする場合、どのようにあいさつをしますか。
社 会 人 向 け の 場 面	場面 1	午前 11 時頃、職場の廊下でその日初めて以下の人に出会ってあいさつしますか。あいさつをする場合、どのようにあいさつをしますか。
	場面 2	平日お昼の 12 時半頃職場の付近で、昼食に向かう途中、その日初めて以下の人に出会ってあいさつをしますか。あいさつをする場合、どのようにあいさつをしますか。
	場面 3	夕方 5 時頃自分が帰る時、職場の廊下で以下の人に出会って、簡単なあいさつをして相手も帰るところだと分かりました。一緒に職場の出口まで行って、最後に職場の出口で以下の人と別れる場合、どのようにあいさつをしますか。
	場面 4	その日の午前中初めて以下の人に出会った時にもうあいさつしました。お昼の 12 時半頃、職場の付近で再び以下の人に出会った場合、あいさつをしますか。あいさつをする場合、どのようにあいさつをしますか。
	場面 5	以下の人と一緒にイベント会場を片付けました。その後、以下の人と別れる場合、あいさつをしますか。あいさつをする場合、どのようにあいさつをしますか。
	場面 6	以下の人と面談する必要があります。面談の時間を予約するため午前 11 時頃以下の人にメールを送ります。メールの冒頭であいさつの言葉を書きますか。書く場合、どのようなあいさつを書きますか。
	場面 7	面談があり、以下の人に電話をかけることになりました。午前 11 時頃電話をかける場合、あいさつをしますか。あいさつをする場合、どのようにあいさつをしますか。

表 9.2 における場面 1 と場面 2 は「出会いの場面」であり、場面 3 と場面 5 は「別れの

場面」であり、場面4は「その日2回以上出会った場合」であり、場面6と場面7は「電話とメールであいさつする場面」である。各場面において、「あまり親しくない先生／上位者」、「親しいと思う先生／上位者」、「親友／親しい同僚」、「あまり親しくない先輩」、「親しいと思う先輩」という5つの対人関係を設定した。「あまり親しくない」については、「話をしたことはあるが、プライベートなことまで話題にしない／しそうもない」というように規定し、「親しい」については、「プライベートなことも話せる／話せそう」と規定しており、調査票にそのことを明記している。

また、場面1から場面7は、主に中国人上級日本語学習者の戸惑い①（上位者に対するあいさつの仕方）および日本語教師と大学教員における違和感①（敬語の脱落）と違和感②（呼称の過剰使用）」に基づいて設定した。ただし、場面1と場面2を設定した際、中国人上級日本語学習者の戸惑い⑥（「おはよう（～）」と「こんにちは」の使い分け）も参考にした。また、場面3の設定は戸惑い②（「さようなら」の用法）、場面4の設定は戸惑い④（その日2回以上出会った場面でのあいさつの仕方）、場面5の設定は戸惑い③（「お疲れ（～）」の用法）、場面6と場面7の設定は戸惑い⑤（メールと電話でのあいさつの仕方）も参考に入れた。これらを整理すると、以下の表9.3になる。

表 9.3 場面設定の根拠（表 5.3 の再掲）

場面	中国人上級日本語学習者のあいさつ使用に関する困難点	
場面1	戸惑い⑥（「おはよう（～）」と「こんにちは」の使い分け）	戸惑い①（上位者に対するあいさつの仕方）
場面2		
場面3	戸惑い②（「さようなら」の用法）	
場面4	戸惑い④（その日2回以上出会った場面でのあいさつの仕方）	違和感①（敬語の脱落）
場面5	戸惑い③（「お疲れ（～）」の用法）／ 違和感③（「お疲れ（～）」の多用）	
場面6	戸惑い⑤（メールと電話でのあいさつの仕方）	違和感②（呼称の過剰使用）
場面7		

なお、日本人と中国人に対する調査は、インフォーマントからの許可（調査承諾書へのサイン）を得た上で行った。

9.2 調査結果

中国人上級日本語学習者のあいさつ使用に関する問題点を明らかにするため、日本人学生と中国人学生および日本人社会人と中国人社会人における使用実態に限らず、大学生と社会人におけるあいさつ使用の違いに関する日中対照を行う必要もあると考えられる。本節では、ポライトネスの観点から、日本人学生と日本人社会人のあいさつ使用に関する相違点および中国人学生と中国人社会人のあいさつ使用に関する相違点を考察する。

9.2.1 あいさつの有無

あいさつをするかしないかに関する日本人と中国人の差異は、対人関係による使用制限に限らず、あいさつをする人によって異なることもある。表 9.4 と表 9.6 に示すように、場面 1 と場面 2 において、あまり親しくない先生と先輩にあいさつをしない日本人学生が比較的多いのに対して、あまり親しくない上位者と先輩にあいさつをしない日本人社会人はほとんどいない。それに対して、表 9.5 と表 9.7 に示すように、場面 1 と場面 2 において相手が誰かにかかわらず、あいさつをしない中国人学生とあいさつをしない中国人社会人との間に顕著な差異がない。

表 9.4 場面 1（11 時頃に会った場面）におけるあいさつの使用頻度（日本人）

調査対象 対人関係	あいさつをする				話者別の主 効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	日本人学生 130 人中	割合	日本人社会人 114 人中	割合		
あまり親しくない先生／上位者	53	41%	111	97%	47.99**	124.26**
親しいと思う先生／上位者	120	92%	111	97%		3.39*
親友／親しい同僚	129	99%	112	98%		0.49ns
あまり親しくない先輩	109	84%	111	97%		15.26**
親しいと思う先輩	129	99%	112	98%		0.49ns

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 9.5 場面 1（11 時頃に会った場面）におけるあいさつの使用頻度（中国人）

調査対象 対人関係	あいさつをする				話者別の主 効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	中国人学生 101 人中	割合	中国人社会人 105 人中	割合		
あまり親しくない先生／上位者	98	97%	103	98%	0.10ns	
親しいと思う先生／上位者	101	100%	104	99%		
親友／親しい同僚	100	99%	105	100%		
あまり親しくない先輩	98	97%	100	95%		
親しいと思う先輩	100	99%	103	98%		

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 9.4 が示しているとおり、場面 1 においてあまり親しくない先生と先輩にあいさつをしない日本人学生は 77 人（59%）と 21 人（16%）に上っている一方、あまり親しくない上位者と先輩にあいさつをしない日本人社会人はわずか 3 人（3%）にとどまっている。また、表 9.6 が示しているとおり、場面 2 において、あまり親しくない先生と先輩にあいさつをしない日本人学生は 84 人（65%）と 23 人（18%）に達している一方、あまり親しくない上位者と先輩にあいさつをしない日本人社会人はわずか 5 人（4%）と 6 人（5%）にすぎない。それに対して、表 9.5 と表 9.7 が示しているように、場面 1 と場面 2 において、

相手が誰かにかかわらずあいさつをしない中国人学生もあいさつをしない中国人社会人もほとんどいない。

表 9.6 場面 2 (12 時半頃に出会った場面) におけるあいさつの使用頻度 (日本人)

調査対象 対人関係	あいさつをする				話者別の主 効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	日本人学生 130 人中	割合	日本人社会人 114 人中	割合		
あまり親しくない先生／上位者	46	35%	109	96%	44.15**	126.86**
親しいと思う先生／上位者	120	92%	111	97%		3.39*
親友／親しい同僚	129	99%	112	98%		0.49ns
あまり親しくない先輩	107	82%	108	95%		9.97**
親しいと思う先輩	129	99%	112	98%		0.49ns

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 9.7 場面 2 (12 時半頃に出会った場面) におけるあいさつの使用頻度 (中国人)

調査対象 対人関係	あいさつをする				話者別の主 効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	中国人学生 101 人中	割合	中国人社会人 105 人中	割合		
あまり親しくない先生／上位者	99	98%	97	92%	6.33*	3.95*
親しいと思う先生／上位者	101	100%	104	99%		1.97ns
親友／親しい同僚	101	100%	105	100%		0ns
あまり親しくない先輩	99	98%	96	91%		5.01*
親しいと思う先輩	101	100%	105	100%		0ns

(** $p < .01$, * $p < .05$)

角変換法による相手別と話者別の分散分析⁴⁴を行った結果、場面 1 と場面 2 における日本人のいずれのデータにおいても話者別の主効果が有意であった。そこで、表 9.4 と表 9.6 のデータについて単純主効果検定を行い、相手があまり親しくない先生／上位者と先輩である場合日本人学生と日本人社会人との間に有意差があることを確認した。それに対して、場面 1 における中国人のデータにおいては話者別の主効果が有意ではなかったが、場面 2 における中国人のデータにおいては話者別の主効果が有意であった。そこで、表 9.7 のデータについて単純主効果検定を行い、相手があまり親しくない先生／上位者と先輩である場合中国人学生と中国人社会人との間に有意差があることを確認した。

上述したあいさつをするかしないかに関する日中差異は、その日 11 時頃に初めて出会った場面に限らず、その日 2 回以上出会った場面からも窺える。表 9.8 に示すように、場面 4 においてあいさつをするかしないかについて、相手が誰かにかかわらず、日本人学生に比べると、日本人社会人は積極的にあいさつをする傾向が顕著である。すなわち、日本人

⁴⁴ 角変換法 (逆正弦変換法) による分散分析では統計量は χ^2 分布に従うので、統計量として χ^2 値を示す。

学生より日本人社会人の方がより積極的にあいさつをする傾向がある。それに対して、表 9.9 に示すように、場面 4 において相手が誰かに関わらず、中国人学生と中国人社会人との間異に顕著な差異がある。すなわち、中国人社会人より中国人学生の方がより積極的にあいさつをする傾向がある。要するに、その日 2 回以上出会った場面において、相手が誰かにかかわらず、日本人社会人は日本人学生より積極的にあいさつをする傾向が顕著であるのに対して、同様の状況で、中国人学生は中国人社会人より積極的にあいさつをする傾向が強い。

表 9.8 場面 4（その日 2 回以上出会った場面）におけるあいさつの使用頻度（日本人）

調査対象 対人関係	あいさつをする				話者別の主 効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	日本人学生 130 人中	割合	日本人社会人 114 人中	割合		
あまり親しくない先生／上位者	73	56%	107	94%	92.41**	54.40**
親しいと思う先生／上位者	111	85%	112	98%		16.35**
親友／親しい同僚	117	90%	112	98%		8.67**
あまり親しくない先輩	98	75%	107	94%		17.54**
親しいと思う先輩	117	90%	112	98%		8.67**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 9.9 場面 4（その日 2 回以上出会った場面）におけるあいさつの使用頻度（中国人）

調査対象 対人関係	あいさつをする				話者別の主 効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	中国人学生 101 人中	割合	中国人社会人 105 人中	割合		
あまり親しくない先生／上位者	95	94%	81	77%	45.13**	13.10**
親しいと思う先生／上位者	101	100%	93	89%		24.48**
親友／親しい同僚	101	100%	103	98%		3.95*
あまり親しくない先輩	94	93%	86	82%		6.16*
親しいと思う先輩	99	98%	97	92%		3.95*

(** $p < .01$, * $p < .05$)

角変換法による相手別と話者別の分散分析を行った結果、場面 4 における日本人と中国人のいずれのデータにおいても話者別の主効果が有意であった。そこで、単純主効果検定を行い、場面 4 において相手が誰かにかかわらず日本人学生と日本人社会人との間に、中国人学生と中国人社会人との間に有意差があることを確認した。

あいさつをするかしないかに関する日本人と中国人の差異は、その日初めて出会った場面とその日 2 回以上出会った場面だけではなく、別れの場面からも窺える。表 9.10 と表 9.12 に示すように、場面 3 と場面 5 において相手が先生／上位者である場合、日本人学生と日本人社会人との間に顕著な差異がある。それに対して、表 9.11 と表 9.13 に示すように、同様の場面においてあいさつをしない中国人学生とあいさつをしない中国人社会人の間に

差異がややあるものの顕著ではない。

表 9.10 場面 3（偶然出会って別れる場面）におけるあいさつの使用頻度（日本人）

調査対象 対人関係	あいさつをする				話者別の主 効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	日本人学生 130 人中	割合	日本人社会人 114 人中	割合		
あまり親しくない先生／上位者	122	94%	114	100%	32.30**	15.26**
親しいと思う先生／上位者	126	97%	114	100%		7.55**
親友／親しい同僚	129	99%	114	100%		1.87ns
あまり親しくない先輩	126	97%	114	100%		7.55**
親しいと思う先輩	128	98%	114	100%		3.76*

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 9.11 場面 3（偶然出会って別れる場面）におけるあいさつの使用頻度（中国人）

調査対象 対人関係	あいさつをする				話者別の主 効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	中国人学生 101 人中	割合	中国人社会人 105 人中	割合		
あまり親しくない先生／上位者	98	97%	100	95%	10.42**	0.45ns
親しいと思う先生／上位者	101	100%	104	99%		1.97ns
親友／親しい同僚	101	100%	105	100%		0ns
あまり親しくない先輩	101	100%	100	95%		9.96**
親しいと思う先輩	101	100%	103	98%		3.95*

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 9.12 場面 5（共同作業をした後別れる場面）におけるあいさつの使用頻度（日本人）

調査対象 対人関係	あいさつをする				話者別の主 効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	日本人学生 130 人中	割合	日本人社会人 114 人中	割合		
あまり親しくない先生／上位者	109	84%	113	99%	57.58**	24.84**
親しいと思う先生／上位者	120	92%	114	100%		19.18**
親友／親しい同僚	128	98%	114	100%		3.76*
あまり親しくない先輩	120	92%	113	99%		8.51**
親しいと思う先輩	126	97%	114	100%		7.55**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 9.13 場面 5（共同作業をした後別れる場面）におけるあいさつの使用頻度（中国人）

調査対象 対人関係	あいさつをする				話者別の主 効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	中国人学生 101 人中	割合	中国人社会人 105 人中	割合		
あまり親しくない先生／上位者	101	100%	100	95%	23.44**	9.96**
親しいと思う先生／上位者	101	100%	104	99%		1.97ns
親友／親しい同僚	101	100%	104	99%		1.97ns
あまり親しくない先輩	101	100%	99	94%		11.99**
親しいと思う先輩	101	100%	104	99%		1.97ns

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 9.10 が示しているように、場面 3 においてあまり親しくない先生にあいさつをしない

日本人学生は 8 人（6%）である一方、同様の状況であり親しくない上位者にあいさつをしない日本人社会人は 1 人もいない。また、表 9.12 が示しているように、場面 5 においてあまり親しくない先生と親しいと思う先生にあいさつをしない日本人学生はそれぞれ 21 人（16%）と 10 人（8%）に及んでいる一方、同様の状況であり親しくない上位者と親しいと思う上位者にあいさつをしない日本人社会人はそれぞれ 1 人（1%）と 0 人（0%）にとどまっている。

角変換法による相手別と話者別の分散分析を行った結果、場面 3 と場面 5 における日本人のいずれのデータにおいても話者別の主効果が有意であった。そこで、単純主効果検定を行い、場面 3 において相手が先生／上位者と先輩である場合、場面 5 において相手が誰かにかかわらず、日本人学生と日本人社会人との間に有意差があることを確認した。一方、場面 3 と場面 5 における中国人のいずれのデータにおいても話者別の主効果が有意であり、単純主効果検定を行った結果、場面 3 において、相手が先輩である場合中国人学生と中国人社会人との間の有意差があることを確認した。また、場面 5 において、相手があまり親しくない先生／上位者と先輩である場合中国人学生と中国人社会人との間の有意差があることを確認した。

あいさつをするかしないかに関する日本人と中国人の差異は、上述した対面の場面に限らず、非対面の場面からも窺える。表 9.14 と表 9.16 に示すように、場面 6（メールの場面）と場面 7（電話の場面）において親しいか親しくないかにかかわらず先生と先輩にあいさつをしない日本人学生も上位者と先輩にあいさつをしない社会人もほとんどいない。一方、同様の状況で親友にあいさつをしない日本人学生は比較的多いが、親しい同僚にあいさつをしない日本人社会人はほとんどいない。表 9.14 と表 9.16 が示しているとおり、場面 6 と場面 7 において親友にあいさつをしない日本人学生はそれぞれ 72 人（55%）と 64 人（49%）に上っているのに対して、同様の状況で親しい同僚にあいさつをしない日本人社会人はそれぞれ 12 人（11%）と 18 人（16%）にとどまっている。

表 9.14 場面 6（メールの場面）におけるあいさつの使用頻度（日本人）

調査対象 対人関係	あいさつをする				話者別の主 効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	日本人学生 130 人中	割合	日本人社会人 114 人中	割合		
あまり親しくない先生／上位者	112	86%	106	93%	47.01**	3.11*
親しいと思う先生／上位者	112	86%	108	95%		5.45*
親友／親しい同僚	58	45%	102	89%		62.90**
あまり親しくない先輩	115	88%	104	91%		0.51ns
親しいと思う先輩	107	82%	106	93%		6.69**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 9.15 場面 6（メールの場面）におけるあいさつの使用頻度（中国人）

調査対象 対人関係	あいさつをする				話者別の主 効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	中国人学生 101 人中		中国人社会人 105 人中			
あまり親しくない先生／上位者	97	96%	101	96%	0.80ns	
親しいと思う先生／上位者	93	92%	100	95%		
親友／親しい同僚	55	54%	61	58%		
あまり親しくない先輩	95	94%	98	93%		
親しいと思う先輩	83	82%	90	86%		

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 9.16 場面 7（電話の場面）におけるあいさつの使用頻度（日本人）

調査対象 対人関係	あいさつをする				話者別の主 効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	日本人学生 130 人中		日本人社会人 114 人中			
あまり親しくない先生／上位者	107	82%	103	90%	33.01**	3.40*
親しいと思う先生／上位者	108	83%	105	92%		4.70*
親友／親しい同僚	66	51%	96	84%		33.08**
あまり親しくない先輩	109	84%	101	89%		1.16ns
親しいと思う先輩	103	79%	101	89%		4.02*

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 9.17 場面 7（電話の場面）におけるあいさつの使用頻度（中国人）

調査対象 対人関係	あいさつをする				話者別の主 効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	中国人学生 101 人中		中国人社会人 105 人中			
あまり親しくない先生／上位者	97	96%	98	93%	5.101*	0.76ns
親しいと思う先生／上位者	93	92%	93	89%		0.73ns
親友／親しい同僚	66	65%	55	52%		3.60*
あまり親しくない先輩	94	93%	90	86%		3.02*
親しいと思う先輩	85	84%	90	86%		0.09ns

(** $p < .01$, * $p < .05$)

それに対して、表 9.15 と表 9.17 に示すように、場面 6（メールの場面）と場面 7（電話の場面）において、親しいか親しくないかにかかわらず相手が先生／上位者である場合、あいさつをしない中国人学生もあいさつをしない中国人社会人もほとんどいない一方、相手が親友／親しい同僚である場合、あいさつをしない中国人学生もあいさつをしない中国人社会人も比較的多い。要するに、あいさつをするかしないかについて場面 6 と場面 7 において相手が誰かにかかわらず、中国人学生は中国人社会人とほぼ同様の使用傾向を示している。

角変換法による相手別と話者別の分散分析を行った結果、場面 6 と場面 7 における日本人のいずれのデータにおいても母語話者別の主効果が有意であった。そこで、単純主効果

検定を行い、場面 6 と場面 7 において相手が先生／上位者、親友／親しい同僚、親しいと思う先輩である場合、日本人学生と日本人社会人との間に有意差があることを確認した。一方、場面 6 における中国人のデータにおいては話者別の主効果が有意ではなかった。場面 7 における中国人のデータにおいては話者別の主効果が有意であり、単純主効果検定を行った結果、場面 7 において相手が親友／親しい同僚とあまり親しくない先輩である場合、中国人学生と中国人社会人との間に有意差があることを確認した。

以上のように、あいさつの有無について、日本人学生・社会人の比較、中国人学生・社会人の比較を行った上で、その結果の比較を行い、その差異を明らかにした。その日初めて出会った場面においてあまり親しくない先生／上位者に、メール・電話の場面において親友／親しい同僚にあいさつをしない日本人学生は比較的多い一方、同様の状況であいさつをしない日本人社会人はほとんどいない。それに対して、その日初めて出会った場面および、メールと電話の場面において親しいか親しくないかにかかわらず、先生／上位者と先輩にあいさつをしない中国人学生と中国人社会人はほとんどいない。また、その日 2 回以上出会った場面において相手が誰かにかかわらず、日本人社会人は積極的にあいさつをする傾向が顕著である。それに対して、同一の場面において先生／上位者にあいさつをしない中国人学生はほとんどいない一方、あいさつをしない中国人社会人はやや存在している。場面 3 において相手があまり親しくない先生／上位者である場合、場面 5 において相手が先生／上位者である場合、あいさつをしない日本人学生がある程度存在しているが、あいさつをしない日本人社会人はほとんどいないのに対して、場面 3 と場面 5 において、あいさつをしない中国人学生とあいさつをしない中国人社会人の間に差異がややある。要するに、いずれの場面においても、日本人学生と日本人社会人との間に顕著な差異があるのに対して、中国人学生と中国人社会人との間に差異がないわけではないがそれほど顕著ではない。具体的に言えば、いずれの場面においても日本人社会人は積極的にあいさつをする傾向が顕著である。

3.2 で既に述べたように、相手に対してあいさつをするかしないかによって、フェイスへの配慮が異なる。あいさつをしない場合、二つの可能性がある。一つは、相手には他人に邪魔されたくない、踏み込まれたくない欲求に配慮することである。もう一つは、話し手本人による自分自身の他人に邪魔されたくない、踏み込まれたくないという欲求に配慮することである。本研究ではこれらを「NF への配慮」とする。また、あいさつをする場合も二つの可能性がある。一つは、相手には自分イメージが他人から評価され、好ましく思われたいという欲求に配慮することである。もう一つは話し手本人による自分自身の自分イメージが他人から評価され、好ましく思われたいという欲求に配慮することである。本研究ではこれらを「PF への配慮」とする。

上述した結果を「ポライトネス理論とあいさつとの関係」と考え合わせてみると、あいさつをするかどうかについて、日本人学生は NF に配慮する傾向がある一方、日本人社会

人は PF に配慮する傾向がある。それに対して、中国人学生にせよ中国人社会人にせよ PF に配慮する傾向がある。

9.2.2 あいさつのポライトネス・ストラテジー

以上、あいさつをしない場合大学生と社会人の間にどのような差異があるのかについて検討した。本節では、あいさつをする場合、大学生と社会人との間にどのような相違点があるのかについて明らかにしたい。以下に使用したデータは、第 6 章と第 8 章におけるデータを改めて整理しまとめたものである。

3.2 で述べたように、あいさつをする場合、すべてのあいさつは、PF に対する配慮があるものの、その配慮の度合いがあいさつ表現の種類によって異なる。そして、本研究では、日本人のあいさつ使用について、「おはよう」や「じゃあね」のような PP 表現を使用する場合、PPS を使用すると認定される。一方、「おはようございます」や「さようなら」のような NP 表現を使用する場合、PPS+NPS を使用すると認定される。中国人のあいさつ使用について、「早（おはよう）」や「拜拜（バイバイ）」のような PP 表現を使用する場合、PPS を使用すると認定される。一方、「您好（こんにちは）」や「再见（さようなら）」のような NP 表現を使用する場合、PPS+NPS を使用すると認定される。このような捉え方にもとづき、以下、各場面における日本人学生と日本人社会人および中国人学生と中国人社会人のあいさつ使用に関するポライトネス・ストラテジーの異同について考察する。

9.2.2.1 その日初めて出会った場面

表 9.18 から表 9.21 に示すように、場面 1 と場面 2 のような出会いの場面において先生／上位者と先輩にあいさつをする場合、日本人学生と日本人社会人は PPS+NPS を使用する傾向が顕著である。それに対して、表 9.22 から表 9.25 に示すように、同様の状況で親しいか親しくないかにかかわらず先生／上位者と先輩にあいさつをする場合、中国人学生と中国人社会人は PPS+NPS だけではなく PPS を使用するケースもある。要するに、場面 1 と場面 2 のような出会いの場面において先生／上位者と先輩にあいさつをする場合、日本人学生と日本人社会人にせよ、中国人学生と中国人社会人にせよ、ほぼ同様の使用傾向を示して顕著な差異がない。

表 9.18 場面 1・2（出会いの場面）におけるあまり親しくない先生／上位者に対するあいさつ（日本人）

		日本人学生	日本人社会人
場面 1	NP 表現	57 例 (98%)	111 例 (97%)
	PP 表現	1 例 (2%)	3 例 (3%)
場面 2	NP 表現	41 例 (100%)	107 例 (98%)
	PP 表現	0 例 (0%)	2 例 (2%)

表 9.19 場面 1・2（出会いの場面）における親しいと思う先生／上位者に対するあいさつ（日本人）

		日本人学生	日本人社会人
場面 1	NP 表現	127 例 (99%)	109 例 (97%)
	PP 表現	1 例 (1%)	3 例 (3%)
場面 2	NP 表現	129 例 (96%)	100 例 (88%)
	PP 表現	5 例 (4%)	13 例 (12%)

表 9.20 場面 1・2（出会いの場面）におけるあまり親しくない先輩に対するあいさつ（日本人）

		日本人学生	日本人社会人
場面 1	NP 表現	115 例 (97%)	113 例 (97%)
	PP 表現	4 例 (3%)	3 例 (3%)
場面 2	NP 表現	111 例 (94%)	104 例 (96%)
	PP 表現	7 例 (6%)	4 例 (4%)

表 9.21 場面 1・2（出会いの場面）における親しいと思う先輩に対するあいさつ（日本人）

		日本人学生	日本人社会人
場面 1	NP 表現	128 例 (88%)	110 例 (95%)
	PP 表現	17 例 (12%)	6 例 (5%)
場面 2	NP 表現	127 例 (85%)	93 例 (80%)
	PP 表現	22 例 (15%)	23 例 (20%)

表 9.22 場面 1・2（出会いの場面）におけるあまり親しくない先生／上位者に対するあいさつ（中国人）

		中国人学生	中国人社会人
場面 1	NP 表現	94 例 (83%)	69 例 (72%)
	PP 表現	19 例 (17%)	27 例 (28%)
場面 2	NP 表現	83 例 (75%)	54 例 (55%)
	PP 表現	28 例 (25%)	44 例 (45%)

表 9.23 場面 1・2（出会いの場面）における親しいと思う先生／上位者に対するあいさつ（中国人）

		中国人学生	中国人社会人
場面 1	NP 表現	80 例 (61%)	49 例 (46%)
	PP 表現	51 例 (39%)	58 例 (54%)
場面 2	NP 表現	41 例 (32%)	21 例 (19%)
	PP 表現	87 例 (68%)	87 例 (81%)

表 9.24 場面 1・2（出会いの場面）におけるあまり親しくない先輩に対するあいさつ（中国人）

		中国人学生	中国人社会人
場面 1	NP 表現	69 例 (63%)	53 例 (53%)
	PP 表現	41 例 (37%)	47 例 (47%)
場面 2	NP 表現	60 例 (54%)	35 例 (36%)
	PP 表現	51 例 (46%)	62 例 (64%)

表 9.25 場面 1・2（出会いの場面）における親しいと思う先輩に対するあいさつ（中国人）

		中国人学生	中国人社会人
場面 1	NP 表現	49 例 (41%)	29 例 (27%)
	PP 表現	70 例 (59%)	77 例 (73%)
場面 2	NP 表現	26 例 (22%)	11 例 (9%)
	PP 表現	91 例 (78%)	107 例 (91%)

一方、表 9.26 と表 9.27 に示すように、場面 1 と場面 2 において親友／親しい同僚にあいさつをする場合、日本人学生は PPS+NPS をほとんど使用せず PPS を使用する傾向が顕

著であるものの、日本人社会人は PPS だけではなく PPS+NPS を使用するケースも見られる。それに対して、同様の状況で親友／親しい同僚にあいさつをする場合、中国人学生にせよ中国人社会人にせよ PPS+NPS をほとんど使用せず PPS を使用する傾向が顕著である。

表 9.26 場面 1・2（出会いの場面）における親友／親しい同僚に対するあいさつ（日本人）

		日本人学生	日本人社会人
場面 1	NP 表現	3 (2%)	50 例 (43%)
	PP 表現	156 (98%)	67 例 (57%)
場面 2	NP 表現	5 (3%)	50 例 (43%)
	PP 表現	139 (97%)	67 例 (57%)

表 9.27 場面 1・2（出会いの場面）における親友／親しい同僚に対するあいさつ（中国人）

		中国人学生	中国人社会人
場面 1	NP 表現	2 (2%)	5 例 (5%)
	PP 表現	114 (98%)	105 例 (95%)
場面 2	NP 表現	2 (2%)	1 例 (1%)
	PP 表現	109 (98%)	113 例 (99%)

9.2.2.2 その日 2 回以上出会った場面

表 9.28 から表 9.31 に示すように、場面 4（その日 2 回以上出会った場面）においてあまり親しくない先生／上位者と先輩にあいさつをする場合、日本人学生にせよ日本人社会人にせよ PPS をほとんど使用せず PPS+NPS を使用する傾向が顕著である。ただし、表 9.33 と表 9.35 に示すように場面 4 において親しいと思う先生／上位者と先輩にあいさつをする場合、日本人学生と日本人社会人は PPS+NPS だけではなくある程度 PPS を使用する傾向も窺える。それに対して、表 9.32 と表 9.34 に示すように同様の状況で親しいか親しくないかにかかわらず先生／上位者と先輩にあいさつをする場合、中国人学生にせよ中国人社会人にせよ PPS+NPS だけではなく PPS を使用するケースもある。要するに、場面 4 において先生／上位者と先輩にあいさつをする場合、日本人学生と日本人社会人との間だけではなく中国人学生と中国人社会人との間にも顕著な差異がない。

表 9.28 場面 4（その日 2 回以上出会った場面）におけるあまり親しくない先生／上位者に対するあいさつ（日本人）

		日本人学生	日本人社会人
場面 4	NP 表現	76 例 (95%)	103 例 (96%)
	PP 表現	4 例 (5%)	4 例 (4%)

表 9.29 場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における親しいと思う先生／上位者に対するあいさつ（日本人）

		日本人学生	日本人社会人
場面 4	NP 表現	107 例 (88%)	97 例 (86%)
	PP 表現	15 例 (12%)	16 例 (14%)

表 9.30 場面 4（その日 2 回以上出会った場面）におけるあまり親しくない先輩に対するあいさつ（日本人）

		日本人学生	日本人社会人
場面 4	NP 表現	101 例 (93%)	102 例 (94%)
	PP 表現	8 例 (7%)	6 例 (6%)

表 9.31 場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における親しいと思う先輩に対するあいさつ（日本人）

		日本人学生	日本人社会人
場面 4	NP 表現	96 例（76%）	89 例（78%）
	PP 表現	30 例（24%）	27 例（22%）

表 9.32 場面 4（その日 2 回以上出会った場面）におけるあまり親しくない先生／上位者に対するあいさつ（中国人）

		中国人学生	中国人社会人
場面 4	NP 表現	76 例（73%）	53 例（65%）
	PP 表現	28 例（27%）	28 例（35%）

表 9.33 場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における親しいと思う先生／上位者に対するあいさつ（中国人）

		中国人学生	中国人社会人
場面 4	NP 表現	52 例（43%）	21 例（22%）
	PP 表現	69 例（57%）	76 例（78%）

表 9.34 場面 4（その日 2 回以上出会った場面）におけるあまり親しくない先輩に対するあいさつ（中国人）

		中国人学生	中国人社会人
場面 4	NP 表現	49 例（49%）	26 例（30%）
	PP 表現	51 例（51%）	60 例（70%）

表 9.35 場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における親しいと思う先輩に対するあいさつ（中国人）

		中国人学生	中国人社会人
場面 4	NP 表現	33 例（29%）	9 例（9%）
	PP 表現	80 例（71%）	92 例（91%）

一方、表 9.36 に示すように、場面 4 において親友／親しい同僚にあいさつをする場合、日本人学生はほとんど PPS+NPS を使用せず PPS を使用する傾向が顕著であるものの、日本人社会人は PPS だけではなく PPS+NPS を使用するケースもある。それに対して、表 9.37 に示すように、同様の状況で親友／親しい同僚にあいさつをする場合、中国人学生と中国人社会人はほぼ同様の使用傾向を示し PPS+NPS をほとんど使用せず PPS を使用する傾向が顕著である。

表 9.36 場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における親友／親しい同僚に対するあいさつ（日本人）

		日本人学生	日本人社会人
場面 4	NP 表現	6 例（5%）	50 例（43%）
	PP 表現	125 例（95%）	67 例（57%）

表 9.37 場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における親友／親しい同僚に対するあいさつ（中国人）

		中国人学生	中国人社会人
場面 4	NP 表現	2 例（2%）	2 例（2%）
	PP 表現	120 例（98%）	101 例（98%）

9.2.2.3 別れの場面

表 9.38 から表 9.41 に示すように、場面 3 と場面 5 において親しいか親しくないかにかかわらず先生／上位者と先輩にあいさつをする場合、日本人学生にせよ日本人社会人にせよ PPS をほとんど使用せず PPS+NPS を使用する傾向が顕著である。それに対して、表 9.42

から表 9.45 に示すように、同様の状況で親しいか親しくないにかかわらず先生／上位者と先輩にあいさつをする場合、中国人学生にせよ中国社会人にせよ PPS+NPS だけではなく PPS を使用するケースもある。要するに、別れの場面においてあいさつをする場合、相手が誰にかかわらず日本人学生と日本人社会人だけではなく中国人学生と中国社会人もほぼ同様の使用傾向を示している。

表 9.38 場面 3・5（別れの場面）における親しいと思う先生／上位者に対するあいさつ（日本人）

		日本人学生	日本人社会人
場面 3	NP 表現	134 例 (95%)	115 例 (97%)
	PP 表現	7 例 (5%)	3 例 (3%)
場面 5	NP 表現	134 例 (99%)	119 例 (99%)
	PP 表現	2 例 (1%)	1 例 (1%)

表 9.39 場面 3・5（別れの場面）におけるあまり親しくない先輩に対するあいさつ（日本人）

		日本人学生	日本人社会人
場面 3	NP 表現	135 例 (98%)	118 例 (100%)
	PP 表現	3 例 (2%)	0 例 (0%)
場面 5	NP 表現	130 例 (99%)	115 例 (99%)
	PP 表現	1 例 (1%)	1 例 (1%)

表 9.40 場面 3・5（別れの場面）におけるあまり親しくない先生に対するあいさつ（日本人）

		日本人学生	日本人社会人
場面 3	NP 表現	129 例 (98%)	125 例 (98%)
	PP 表現	3 例 (2%)	2 例 (2%)
場面 5	NP 表現	124 例 (99%)	121 例 (100%)
	PP 表現	1 例 (1%)	0 例 (0%)

表 9.41 場面 3・5（別れの場面）における親しいと思う先輩に対するあいさつ（日本人）

		日本人学生	日本人社会人
場面 3	NP 表現	130 例 (90%)	111 例 (94%)
	PP 表現	15 例 (10%)	7 例 (6%)
場面 5	NP 表現	137 例 (96%)	112 例 (96%)
	PP 表現	5 例 (4%)	5 例 (4%)

表 9.42 場面 3・5（別れの場面）におけるあまり親しくない先生／上位者に対するあいさつ（中国人）

		中国人学生	中国社会人
場面 3	NP 表現	82 例 (80%)	70 例 (69%)
	PP 表現	21 例 (20%)	31 例 (31%)
場面 5	NP 表現	104 例 (89%)	75 例 (74%)
	PP 表現	13 例 (11%)	26 例 (26%)

表 9.43 場面 3・5（別れの場面）における親しいと思う先生／上位者に対するあいさつ（中国人）

		中国人学生	中国社会人
場面 3	NP 表現	51 例 (44%)	42 例 (40%)
	PP 表現	66 例 (56%)	64 例 (60%)
場面 5	NP 表現	73 例 (60%)	61 例 (58%)
	PP 表現	48 例 (40%)	44 例 (42%)

表 9.44 場面 3・5（別れの場面）におけるあまり親しくない先輩に対するあいさつ（中国人）

		中国人学生	中国人社会人
場面 3	NP 表現	64 例 (62%)	56 例 (51%)
	PP 表現	40 例 (38%)	44 例 (49%)
場面 5	NP 表現	77 例 (68%)	59 例 (56%)
	PP 表現	37 例 (32%)	47 例 (44%)

表 9.45 場面 3・5（別れの場面）における親しいと思う先輩に対するあいさつ（中国人）

		中国人学生	中国人社会人
場面 3	NP 表現	33 例 (30%)	40 例 (37%)
	PP 表現	77 例 (70%)	68 例 (63%)
場面 5	NP 表現	52 例 (45%)	31 例 (30%)
	PP 表現	63 例 (55%)	73 例 (70%)

一方、表 9.46 に示すように、場面 3 と場面 5 において親友／親しい同僚にあいさつをする場合、日本人学生は PPS+NPS をほとんど使用せず PPS を使用する傾向が顕著であるものの、日本人社会人は PPS だけではなく PPS+NPS を使用するケースもある。それに対して、表 9.47 に示すように、同様の状況で親友／親しい同僚にあいさつをする場合、中国人学生は PPS+NPS より PPS を使用する傾向が顕著である。そして、中国人社会人も同様の傾向を示している。

表 9.46 場面 3・5（別れの場面）における親友／親しい同僚に対するあいさつ（日本人）

		日本人学生	日本人社会人
場面 3	NP 表現	3 例 (2%)	59 例 (49%)
	PP 表現	160 例 (98%)	61 例 (51%)
場面 5	NP 表現	3 例 (2%)	59 例 (50%)
	PP 表現	140 例 (98%)	59 例 (50%)

表 9.47 場面 3・5（別れの場面）における親友／親しい同僚に対するあいさつ（中国人）

		中国人学生	中国人社会人
場面 3	NP 表現	12 例 (10%)	0 例 (0%)
	PP 表現	106 例 (90%)	109 例 (100%)
場面 5	NP 表現	24 例 (23%)	18 例 (17%)
	PP 表現	81 例 (77%)	88 例 (83%)

9.2.2.4 メールと電話の場面

表 9.48 から表 9.51 に示すように、場面 6 と場面 7 において親しいか親しくないかわからず先生／上位者と先輩にあいさつをする場合、日本人学生にせよ日本人社会人にせよ PPS をほとんど使用せず PPS+NPS を使用する傾向が顕著である。

表 9.48 場面 6・7（メール・電話の場面）におけるあまり親しくない先生／上位者に対するあいさつ（日本人）

		日本人学生	日本人社会人
場面 6	NP 表現	115 例 (98%)	106 例 (100%)
	PP 表現	2 例 (2%)	0 例 (0%)
場面 7	NP 表現	115 例 (100%)	103 例 (99%)
	PP 表現	0 例 (0%)	1 例 (1%)

表 9.49 場面 6・7（メール・電話の場面）における親しいと思う先生／上位者に対するあいさつ（日本人）

		日本人学生	日本人社会人
場面 6	NP 表現	117 例 (99%)	109 例 (98%)
	PP 表現	1 例 (1%)	2 例 (2%)
場面 7	NP 表現	115 例 (99%)	103 例 (97%)
	PP 表現	1 例 (1%)	3 例 (3%)

表 9.50 場面 6・7（メール・電話の場面）におけるあまり親しくない先輩に対するあいさつ（日本人）

		日本人学生	日本人社会人
場面 6	NP 表現	122 例 (98%)	103 例 (98%)
	PP 表現	2 例 (2%)	2 例 (2%)
場面 7	NP 表現	114 例 (98%)	102 例 (100%)
	PP 表現	2 例 (2%)	0 例 (0%)

表 9.51 場面 6・7（メール・電話の場面）における親しいと思う先輩に対するあいさつ（日本人）

		日本人学生	日本人社会人
場面 6	NP 表現	111 例 (96%)	106 例 (97%)
	PP 表現	5 例 (4%)	3 例 (3%)
場面 7	NP 表現	105 例 (97%)	99 例 (97%)
	PP 表現	3 例 (3%)	3 例 (3%)

表 9.52 場面 6・7（メール・電話の場面）におけるあまり親しくない先生／上位者に対するあいさつ（中国人）

		中国人学生	中国人社会人
場面 6	NP 表現	87 例 (94%)	101 例 (100%)
	PP 表現	6 例 (6%)	0 例 (0%)
場面 7	NP 表現	76 例 (79%)	95 例 (97%)
	PP 表現	20 例 (21%)	3 例 (3%)

表 9.53 場面 6・7（メール・電話の場面）における親しいと思う先生／上位者に対するあいさつ（中国人）

		中国人学生	中国人社会人
場面 6	NP 表現	77 例 (83%)	89 例 (89%)
	PP 表現	16 例 (17%)	11 例 (11%)
場面 7	NP 表現	59 例 (69%)	76 例 (82%)
	PP 表現	26 例 (31%)	17 例 (18%)

表 9.54 場面 6・7（メール・電話の場面）におけるあまり親しくない先輩に対するあいさつ（中国人）

		中国人学生	中国人社会人
場面 6	NP 表現	78 例 (91%)	86 例 (88%)
	PP 表現	8 例 (9%)	12 例 (12%)
場面 7	NP 表現	72 例 (81%)	68 例 (75%)
	PP 表現	17 例 (19%)	23 例 (25%)

表 9.55 場面 6・7（メール・電話の場面）における親しいと思う先輩に対するあいさつ（中国人）

		中国人学生	中国人社会人
場面 6	NP 表現	58 例 (79%)	76 例 (84%)
	PP 表現	15 例 (21%)	14 例 (16%)
場面 7	NP 表現	47 例 (68%)	53 例 (59%)
	PP 表現	22 例 (32%)	37 例 (41%)

それに対して、表 9.52 に示すように、メールの場面としての場面 6 と電話の場面としての場面 7 においてあいさつをする場合、中国人学生はあまり親しくない先生に PPS+NPS

だけではなく PPS を使用するケースもあるものの、同様の状況で中国人社会人はあまり親しくない上位者に PPS をほとんど使用せず PPS+NPS を使用する傾向が顕著である。一方、表 9.53 から表 9.55 に示すように、場面 6 と場面 7 において親しいと思う先生／上位者、あまり親しくない先輩、親しいと思う先輩にあいさつをする場合、中国人学生にせよ中国人社会人にせよ PPS+NPS だけではなく PPS を使用するケースも見られる。

以上見てきたように、メール・電話の場面においてあいさつをする場合、親しいか親しくないかにかかわらず相手が先生／上位者である場合、日本人学生と日本人社会人との間に顕著な差異が見られない。また、同様の状況であり親しくない先生／上位者にあいさつをする場合、中国人学生と中国人社会人との間にやや顕著な差異があるものの、先輩と親しいと思う先生／上位者にあいさつする場合、両者には顕著な差異がない。

また、表 9.56 と表 9.57 に示すように、場面 6 と場面 7 において親友／親しい同僚にあいさつをする場合、日本人学生は PPS+NPS を使用するケースがあるものの PPS を使用する傾向が顕著である。一方、日本人社会人は PPS を使用するケースがあるものの PPS+NPS を使用する傾向が顕著である。表 9.57 に示すように、同様の場面において親友／親しい同僚にあいさつをする場合、中国人学生と社会人は、ほぼ同様の傾向を示し、PPS を使用する傾向が顕著である。

表 9.56 場面 6・7（メール・電話の場面）における親友／親しい同僚に対するあいさつ（日本人）

		日本人学生	日本人社会人
場面 6	NP 表現	18 例（30%）	89 例（86%）
	PP 表現	43 例（70%）	14 例（14%）
場面 7	NP 表現	18 例（24%）	73 例（75%）
	PP 表現	58 例（76%）	24 例（25%）

表 9.57 場面 6・7（メール・電話の場面）における親友／親しい同僚に対するあいさつ（中国人）

		中国人学生	中国人社会人
場面 6	NP 表現	3 例（9%）	28 例（44%）
	PP 表現	31 例（91%）	35 例（56%）
場面 7	NP 表現	4 例（8%）	12 例（22%）
	PP 表現	46 例（92%）	43 例（78%）

つまり、出会いの場面および別れの場面において親しいか親しくないかにかかわらず先生／上位者と先輩にあいさつをする場合、日本人学生と日本人社会人は PPS をほとんど使用せず PPS+NPS を使用する傾向が顕著であるのに対して、中国人学生と中国人社会人は PPS+NPS だけではなく PPS を使用するケースもある。一方、同様の状況で日本人学生は親友に PPS を使用する傾向が顕著である一方、日本人社会人は親しい同僚に PPS+NPS を使用する傾向が顕著である。それに対して、同様の状況で親友／親しい同僚にあいさつをする場合、中国人学生と中国人社会人は顕著な差異がなく、PPS を使用する傾向が顕著である。また、メール・電話の場面において親しいと思う先生／上位者、あまり親しくない先輩、親しいと思う先輩にあいさつをする場合、日本人学生と日本人社会人は PPS をほとんど使

用せず PPS+NPS を使用する傾向が顕著であるのに対して、中国人学生と中国人社会人は PPS+NPS だけではなく PPS を使用するケースもある。一方、同様の状況であり親しくない先生／上位者にあいさつをする場合、日本人学生にせよ日本人社会人にせよ PPS をほとんど使用せず PPS+NPS を使用する傾向が顕著である。それに対して、同様の状況であり親しくない先生／上位者にあいさつをする場合、中国人学生は PPS+NPS だけではなく PPS を使用するケースも見られるが、中国人社会人は PPS をほとんど使用せず PPS+NPS を使用する傾向が顕著である。なお、メール・電話の場面において親友／親しい同僚にあいさつをする場合、日本人学生と社会人は大きな差異を示しているのに対して、中国人学生と社会人はほぼ同様の使用傾向を示している。

以上からわかるように、いずれの場面においても親友／親しい同僚にどのようにあいさつをするかについて、日本人学生は PPS を使用する傾向が顕著であるが、日本人社会人は PPS だけではなく、PPS+NPS を使用するケースもある。それに対して、同様の状況で、中国人学生にせよ中国人社会人にせよ親友／親しい同僚に PPS を使用する傾向が顕著である。

上述の違いについては、Brown&Levinson (1987) における「フェイス・リスクの算定式」で説明できると考えられる。Brown&Levinson (1987) が指摘しているように、フェイス・リスクの大きさ (weightiness:W) は、相手との距離 (distance:D)、力関係 (power:P)、その行為の負担の度合い (ranking of imposition: R) という 3 つの要因の合計として表すことができるということである⁴⁵。算定式で示せば、以下のとおりである。

$$\text{〈フェイス・リスクの算定式〉} \rightarrow \boxed{W_x = D(S, H) + P(H, S) + R_x}$$

W_x : 行為 x のフェイス・リスクの大きさ

D : 話し手 (speaker:S) と聞き手 (hearer:H) の社会的な距離

P : 聞き手 (H) の話し手 (S) に対する相対的な力

R_x : その文化の中での行為 x の負担の度合い

(Brown&Levinson 1987:76-77)

日本人学生は PPS を使用する傾向が顕著であるが、日本人社会人は PPS だけではなく PPS+NPS を使用するケースもあるという結果が生じたのは、日本人社会人のあいさつ (行為 x) のフェイス・リスクの大きさ (W) が日本人学生より大きいためであると考えられる。日本人学生にせよ社会人にせよ日本文化の中であいさつをするため、あいさつ (R_x) の負担度が同様である。また、親友と親しい同僚はともに同輩のカテゴリーに属しているため、親友の日本人学生に対する相対的な力 (P) と親しい同僚の日本人社会人に対する

⁴⁵ それぞれの変数に具体的な数値を与え、実際に足し算することができるわけではない。たとえば、あいさつをする (R_x が同じ) にしても、親友よりもあまり親しくない人にあいさつをする (D がより大きい) 方が、また同僚より上位者にあいさつをする (P がより大きい) 方が、相対的にフェイス・リスクが大きくなるということである。

それとも同様である。ただし、日本人学生と親友の社会的な距離（ D ）は、日本人社会人と親しい同僚の距離ほど大きくない。なぜならば、親しい同僚同士の関係は、友人関係であると同時に利益関係や競争関係でもあるといえる一方、親友同士の関係は、利益関係や競争関係などであるとは言い難いためである。つまり、 R_x と P については、日本人学生と日本人社会人は同様であるが、 D については、日本人社会人は日本人学生より大きいいため、日本人社会人は日本人学生より W が大きいのである。

上述したように、日本人学生と親友における社会的な距離（ D ）より日本人社会人と親しい同僚におけるそれが大きいため、あいさつが非常に重視されている日本社会の中で、日本人学生同士と比べると、日本人社会人同士は「親しき仲にも礼儀あり」というような社会規範に従うことが多い。そして、大学における学生同士の社会規範と職場における社会人同士のそれは異なっている。大学生と比べて社会人の社会規範には自由度がより小さいのではないかと考えられる。第 8 章の 8.2.2 で既に述べたように、日本人社会人は、職場以外のプライベートな場であいさつをする場合、比較的自由であろうが、職場の中（特に第三者に見える場面）であいさつをする場合、改まった表現を用いるなど職場にふさわしい言語行動を求める社会規範に従う必要がある。このことから、日本人社会人が親しい同僚に PPS だけではなく、 $PPS+NPS$ を使用するケースもあるという結果が理解できるだろう。一方、大学生が学生同士、特に親友同士であいさつをする場合、職場における社会規範を意識する必要はなく、親近感や仲間意識を示すために、 PPS を使用する傾向が顕著であるのは当然である。

それに対して、中国人学生にせよ中国人社会人にせよ親友／親しい同僚に PPS を使用する傾向が顕著であるという結果が生じたのは、中国人社会人のあいさつ（行為 x ）のフェイス・リスクの大きさ（ W ）は、中国人学生のそれと類似していることによるものであると考えられる。中国人学生にせよ社会人にせよ中国文化の中であいさつをするため、あいさつ（ R_x ）の負担度が同様である。また、親友と親しい同僚はともに同輩のカテゴリーに属しているため、親友の中国人学生に対する相対的な力（ P ）と親しい同僚の中国人社会人に対するそれとも同様である。それだけではなく、中国人学生と親友の社会的な距離（ D ）および、中国人社会人と親しい同僚の距離もほぼ同様である。中国社会では、親友同士の関係と親しい同僚同士の関係は異なっていると言われているが、実際混同している人が少なくない⁴⁶。つまり、 R_x 、 P 、 D のいずれも、中国人学生と中国人社会人がほぼ同様の傾向を示している。中国の職場では社会人同士がどのようにあいさつをすべきかに関する礼儀教育は行われていない⁴⁷。第 8 章の 8.2.2 で既に述べたように、改まった表現を用いるなど職場にふさわしい言語行動を求める社会規範はないわけではないが、それは同じ職場の中では比較的緩く、外部の組織と正式に調印する場面や会議・儀式などを行う場面に顕著に認

⁴⁶ 李征（2006）「好朋友好同事不能划等号」『职场交际』（1）p.20 より。

⁴⁷ ただし、サービス業の職場で客にどのようにあいさつをすべきかに関する礼儀教育はある。

められるものである。この場合、社会人同士は、職場であいさつをする場合、中国人学生と同様に比較的大きな自由度がある。そのため、親しい同僚に PPS を使用する傾向が顕著であるのは当然であると考えられる。

9.2.3 あいさつの場面・対人関係による使用制限

以上、大学生と社会人におけるあいさつ使用の違いに関する全体的な傾向を明らかにしたが、個別のあいさつ表現に関する使用上の特徴がまだ明らかになっていない。たとえば、「おはよう（～）」の使用にはどのような特徴があるのか、「こんにちは」との間にどのような使い分けがあるのかなどの問題がまだ解決されていない。第4章で述べている中国人上級日本語学習者のあいさつ使用に関する困難点には、「おはよう（～）」と「こんにちは」の使い分け、「さようなら」の用法、「お疲れ（～）」の用法などの具体的な困難点が含まれている。これらの具体的な困難点が生じたところでのあいさつの使用について、日本人学生と日本人社会人との間にどのような相違点があるのか、中国人学生と中国人社会人との間にどのような相違点があるのかを明らかにするため、あいさつの使用に関する全体的な傾向だけではなく、個別のあいさつ表現の使用上の特徴を検討する必要もあると考えられる。また、「上位者に対してどのようにあいさつをすべきかわからないことがある」という困難点も現れているので、本節では、対人関係による使用制限の視点から、第6章と第8章におけるデータを用い、大学生と社会人における個別のあいさつ表現の対人関係による使用制限の日本人と中国人の差異を明らかにする。

9.2.3.1 「おはよう（～）」と「（～）早（～）」

場面1（11時頃に出会った場面）においてあいさつをする場合、「（～）早（～）」と「おはよう（～）」の対人関係による使用制限について、中国人学生と中国人社会人との間および日本人学生と日本人社会人との間に顕著な差異がほとんどない。

表9.58に示すように、場面1において親しいと思う先生、親友、先輩に「おはよう（～）」を使用する日本人学生と、親しいと思う上位者、親しい同僚、先輩に「おはよう（～）」を使用する日本人社会人は、両者とも少なくないものの、両者には顕著な差異が窺えない。ただし、あまり親しくない先生に「おはよう（～）」を使用する日本人学生よりも、あまり親しくない上位者に「おはよう（～）」を使用する日本人社会人のほうが比較的多い。

それに対して、表9.59に示すように、場面1において先生と親友に「（～）早（～）」を使用する中国人学生も上位者と親しい同僚に「（～）早（～）」を使用する中国人社会人もほとんどいない。また、場面1で親しいか親しくないかにかかわらず先輩に「（～）早（～）」を使用する中国人学生は1人もいない。同様の状況で先輩に「（～）早（～）」を使用する中国人社会人はややいるものの多いとはいえない。

表 9.58 場面 1 (11 時頃に会った場面) における日本人の「おはよう (～)」

対人関係 \ 調査対象	日本人学生		日本人社会人		話者別の主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	130 人中	割合	114 人中	割合		
あまり親しくない先生／上位者	17	13%	39	34%	9.59**	15.76**
親しいと思う先生／上位者	52	40%	47	41%		0.04ns
親友／親しい同僚	56	43%	43	38%		0.72ns
あまり親しくない先輩	26	20%	36	32%		4.30*
親しいと思う先輩	37	28%	43	38%		2.36ns

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 9.59 場面 1 (11 時頃に会った場面) における中国人の「(～) 早 (～)」

対人関係 \ 調査対象	中国人学生		中国人社会人		話者別の主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	101 人中	割合	105 人中	割合		
あまり親しくない先生／上位者	7	7%	3	3%	10.07**	1.92ns
親しいと思う先生／上位者	5	5%	2	2%		1.52ns
親友／親しい同僚	2	2%	9	9%		5.01*
あまり親しくない先輩	0	0%	8	8%		16.10**
親しいと思う先輩	0	0%	6	6%		11.99**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

角変換法による相手別と話者別の分散分析を行った結果、場面 1 における日本人のデータと中国人のデータのいずれにおいても話者別の主効果が有意であった。下位検定として単純主効果検定を行い、表 9.58 が示しているように、相手があまり親しくない先生／上位者と先輩である場合、日本人学生と日本人社会人との間に有意差があることを確認した。一方、表 9.59 が示しているように、相手が親友／親しい同僚と先輩である場合、中国人学生と中国人社会人との間に有意差があることを確認した。

場面 1 においてあまり親しくない先生に「おはよう (～)」を使用する日本人学生より、あまり親しくない上位者に「おはよう (～)」を使用する日本人社会人のほうが多いという結果が生じたのは、場面 1 においてあいさつをしない日本人学生が多いためであると考えられる。前述した 9.2.1 における表 9.5 に示したように、場面 1 においてあまり親しくない上位者にあいさつをしない日本人社会人は 3 人 (3%) にすぎないのに対して、同様の状況であまり親しくない先生にあいさつをしない日本人学生は 77 人 (59%) に達している。この場合、親しくない先生に「おはよう (～)」を使用する日本人学生より、あまり親しくない上位者に「おはよう (～)」を使用する日本人社会人のほうが多いという結果が生じたのは当然であるのではないだろうか。

大学生と社会人における「おはよう (～)」と「(～) 早 (～)」の使用の違いは、場面 1 に限らず場面 2 (その日 12 時半頃はじめて出会った場面) から窺える。

表 9.60 に示すように場面 2 (12 時半頃に会った場面) において親友に「おはよう」を使用する日本人学生は、親しい同僚に「おはよう」を使用する日本人社会人より多い。一

方、表 9.62 に示すように場面 4（その日 2 回以上出会った場面）においてあいさつをする場合「おはよう（～）」を使用する日本人学生・社会人は類似した傾向を示している。表 9.60 が示しているとおり、場面 2 において親友に「おはよう」を使用する日本人学生は 33 人（25%）に及んでいる一方、親しい同僚に「おはよう」を使用する日本人社会人は 1 人（1%）にすぎない。角変換法による相手別と話者別の分散分析を行った結果、場面 2 と場面 4 における日本人のいずれのデータにおいても話者別の主効果が有意であった。そこで、下位検定として単純主効果検定を行い、表 9.60 が示しているように、場面 2 では、相手が親友／親しい同僚と親しいと思う先生／上位者・先輩である場合、表 9.62 が示しているように、場面 4 では、相手が親しいと思う先生／上位者、親友／親しい同僚、あまり親しくない先輩である場合、日本人学生と日本人社会人との間に有意差があることを確認した。

表 9.60 場面 2（12 時半頃に出会った場面）における日本人の「おはよう（～）」

対人関係	日本人学生		日本人社会人		話者別の主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	130 人中	割合	114 人中	割合		
あまり親しくない先生／上位者	1	0.8%	1	1%	33.27**	0.09ns
親しいと思う先生／上位者	8	6%	1	1%		5.98*
親友／親しい同僚	33	25%	1	1%		45.79**
あまり親しくない先輩	5	4%	1	1%		2.61ns
親しいと思う先輩	10	8%	1	1%		8.51**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 9.61 場面 2（12 時半頃に出会った場面）における中国人の「（～）早（～）」

対人関係	中国人学生		中国人社会人		話者別の主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	101 人中	割合	105 人中	割合		
あまり親しくない先生／上位者	0	0%	0	0%	1.64ns	
親しいと思う先生／上位者	0	0%	0	0%		
親友／親しい同僚	1	1%	0	0%		
あまり親しくない先輩	0	0%	0	0%		
親しいと思う先輩	1	1%	0	0%		

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 9.62 場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における日本人の「おはよう（～）」

対人関係	日本人学生		日本人社会人		話者別の主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	130 人中	割合	114 人中	割合		
あまり親しくない先生／上位者	1	1%	0	0%	20.96**	1.87ns
親しいと思う先生／上位者	3	2%	0	0%		5.65*
親友／親しい同僚	4	3%	0	0%		7.55**
あまり親しくない先輩	3	2%	0	0%		5.65*
親しいと思う先輩	1	1%	0	0%		1.87ns

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 9.63 場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における中国人の（～）早（～）

対人関係	中国人学生		中国人社会人		話者別の主 効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	101 人中	割合	105 人中	割合		
あまり親しくない先生／上位者	0	0%	0	0%	0.41ns	
親しいと思う先生／上位者	0	0%	0	0%		
親友／親しい同僚	0	0%	0	0%		
あまり親しくない先輩	1	1%	0	0%		
親しいと思う先輩	0	0%	0	0%		

(** $p < .01$, * $p < .05$)

それに対して、表 9.61 と表 9.63 に示すように、場面 2 と場面 4 においてあいさつをする場合、相手が誰かにかかわらず、「（～）早（～）」を使用する中国人学生と中国人社会人は、ともにほとんどいない。角変換法による相手別と話者別の分散分析を行った結果、場面 2 と場面 4 における中国人のいずれのデータにおいても話者別の主効果が有意ではなかった。

上述の結果が生じたのは、日本人学生と日本人社会人における「おはよう（～）」に対する時間意識の差異によるものであると考えられる。日本人学生の場合、毎日通学するのは、必ずしも朝の時間ではなく、午前 10 時半以降あるいは午後の時間になる可能性もある。また、朝の時間に通学しても、授業のはじまる時間が異なる可能性があるため、必ずしも親友などに出会わない。その日 12 時半頃にはじめて親友に出会ったとき親近感や仲間意識⁴⁸を伝達するため、「おはよう」を使うことがある。この「おはよう」は、日本人学生にとって時間意識（朝かどうかという意識）の「おはよう」ではなく、はじまり意識の「おはよう」とウチ意識の「おはよう」であると考えられる。一方、日本人社会人の場合、毎日通勤する時間は一般的には朝の時間（8 時か 9 時頃）である。そして、朝の時間に職場で同僚などに出会う可能性も大きい。その日朝の時間に親しい同僚に出会った場合「おはよう（～）」を使用するのは当たり前のことである。この「おはよう（～）」は、時間意識の「おはよう（～）」である。「おはよう（～）」は、ほぼ毎日朝の時間に出勤する日本人社会人にとって、時間意識の「おはよう（～）」なのではないかと考えられる。学生と比べて社会人にとっては「おはよう（～）」は朝のあいさつであるという意識が強く、何か特別の事情でその日午後 12 時半頃に初めて親しい同僚に出会った場合、なかなか「おはよう（～）」は使いにくいと考えられる⁴⁹。

大学生と社会人における「おはよう（～）」と「（～）早（～）」の使用の違いは、対面の場面としての場面 1 と場面 2 に限らず、非対面の場面からも窺える。表 9.64 と表 9.66 に示すように、場面 6（メールの場面）と場面 7（電話の場面）においてあいさつをする場

⁴⁸ 速司（2004）と曲他（2010）によると、「おはよう（～）」はウチ意識の「おはよう（～）」として使用されることもある。

⁴⁹ ただし、職場の勤務時間によっては、はじまり意識の「おはよう（～）」もある。

合、相手が誰かにかかわらず「おはよう（～）」を使用する日本人学生は比較的多いのに対して、同様の状況で「おはよう（～）」を使用する日本人社会人は相対的に少ない。それに対して、表 9.65 と表 9.67 に示すように、場面 6 と場面 7 においてあいさつをする場合、相手が誰かにかかわらず、「（～）早（～）」を使用する中国人学生と中国人社会人との間に顕著な差異がなく、両者はともにほとんどいない。

表 9.64 場面 6（メールの場面）における日本人の「おはよう（～）」

調査対象 対人関係	日本人学生 130 人中		日本人社会人 114 人中		話者別の主 効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	割合		割合			
あまり親しくない先生／上位者	15	12%	3	3%	63.72**	8.19**
親しいと思う先生／上位者	15	12%	3	3%		8.19**
親友／親しい同僚	19	15%	2	2%		16.35**
あまり親しくない先輩	20	15%	2	2%		17.73**
親しいと思う先輩	18	14%	2	2%		14.99**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 9.65 場面 6（メールの場面）における中国人の「（～）早（～）」

調査対象 対人関係	中国人学生 101 人中		中国人社会人 105 人中		話者別の主 効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	割合		割合			
あまり親しくない先生／上位者	3	3%	0	0%	10.87**	6.18*
親しいと思う先生／上位者	1	1%	0	0%		2.04ns
親友／親しい同僚	0	0%	0	0%		0ns
あまり親しくない先輩	2	2%	0	0%		4.10*
親しいと思う先輩	1	1%	0	0%		2.04ns

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 9.66 場面 7（電話の場面）における日本人の「おはよう（～）」

調査対象 対人関係	日本人学生 130 人中		日本人社会人 114 人中		話者別の主 効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	割合		割合			
あまり親しくない先生／上位者	33	25%	10	9%	60.80**	12.55**
親しいと思う先生／上位者	34	26%	10	9%		13.54**
親友／親しい同僚	27	21%	7	6%		12.05**
あまり親しくない先輩	30	23%	9	8%		11.36**
親しいと思う先輩	30	23%	9	8%		11.36**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 9.67 場面 7（電話の場面）における中国人の「（～）早（～）」

調査対象 対人関係	中国人学生 101 人中		中国人社会人 105 人中		話者別の主 効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	割合		割合			
あまり親しくない先生／上位者	0	0%	0	0%		
親しいと思う先生／上位者	0	0%	0	0%		
親友／親しい同僚	0	0%	0	0%		
あまり親しくない先輩	0	0%	0	0%		
親しいと思う先輩	0	0%	0	0%		

角変換法による相手別と話者別の分散分析を行った結果、場面 6 と場面 7 における日本人と中国人のいずれのデータにおいても話者別の主効果が有意であった。そこで、下位検定として単純主効果検定を行い、表 9.64 と表 9.66 が示しているように、メール・電話の場面においてあいさつをする場合相手が誰かにかかわらず、日本人学生と日本人社会人との間に有意差があることを確認した。一方、表 9.65 が示しているように、メールの場面において相手があまりしたしくない先生／上位者と先輩にあいさつをする場合、中国人学生と中国人社会人との間に有意差があることを確認した。

上述の結果が生じたのも、日本人学生と日本人社会人における「おはよう（～）」についての意識の差異によるものであると考えられる。9.1 における表 9.2 に示したように、場面 6 と場面 7 における時間は、いずれも午前 11 時頃である。上述したように、日本人学生にとって、朝ではない時間に使用する「おはよう（～）」は時間意識の「おはよう（～）」ではなく、はじまり意識の「おはよう（～）」である。午前 11 時頃にメールと電話の場面で相手が誰かに関わらず、日本人学生が「おはよう（～）」を比較的多く使用するのはそのためであると考えられる。一方、上述したように、「おはよう（～）」は、ほぼ毎日朝の時間に出勤する日本人社会人においては、はじまりの「おはよう（～）」ではなく、時間意識の「おはよう（～）」として使用されるケースが多い。そのため、午前 11 時頃にメールと電話の場面において相手が誰かに関わらず、日本人社会人が「おはよう（～）」をほとんど使用しないのも理解できるだろう。

9.2.3.2 「こんにちは」と「（～）好」

大学生と社会人におけるあいさつ使用の違いに関する日本人と中国人の差異は、「おはよう（～）」と「（～）早（～）」に限らず、「こんにちは」と「（～）好」の使用にも窺える。

表 9.68 に示すように、場面 1 においてあまり親しくない先生／上位者、親友／親しい同僚、あまり親しくない先輩にあいさつをする場合、「こんにちは」を使用する日本人学生は、「こんにちは」を使用する日本人社会人とほぼ同様の使用傾向を示している。一方、同様の状況であいさつをする場合、親しいと思う先生と先輩に「こんにちは」を使用する日本人学生は、親しいと思う上位者と先輩に「こんにちは」を使用する日本人社会人より高い。

それに対して、表 9.69 に示すように、場面 1 において親しいか親しくないにかかわらず、先生と先輩に「（～）好」を使用する中国人学生と上位者と先輩に「（～）好」を使用する中国人社会人はともに比較的多い一方、親友に「（～）好」を使用する中国人学生と親しい同僚に「（～）好」を使用する中国人社会人はともにほとんどいない。要するに場面 1 においてあいさつをする場合、相手が誰かにかかわらず「（～）好」を使用する中国人学生は、「（～）好」を使用する中国人社会人とほぼ同様の使用傾向を示している。

表 9.68 場面 1 (11 時頃に出会った場面) における日本人の「こんにちは」

対人関係 \ 調査対象	日本人学生		日本人社会人		話者別の主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	130 人中	割合	114 人中	割合		
あまり親しくない先生／上位者	16	12%	15	13%	11.58**	0.04ns
親しいと思う先生／上位者	54	42%	18	16%		20.67**
親友／親しい同僚	3	2%	11	10%		6.48*
あまり親しくない先輩	31	24%	14	12%		5.62*
親しいと思う先輩	42	32%	16	14%		11.81**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 9.69 場面 1 (11 時頃に出会った場面) における中国人の「(～) 好」

対人関係 \ 調査対象	中国人学生		中国人社会人		話者別の主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	101 人中	割合	105 人中	割合		
あまり親しくない先生／上位者	77	76%	57	54%	2.63ns	
親しいと思う先生／上位者	56	55%	48	46%		
親友／親しい同僚	1	1%	5	5%		
あまり親しくない先輩	56	55%	53	50%		
親しいと思う先輩	32	32%	34	32%		

(** $p < .01$, * $p < .05$)

角変換法による相手別と話者別の分散分析を行った結果、場面 1 における日本人のデータにおいて話者別の主効果が有意であった。そこで、下位検定として単純主効果検定を行い、表 9.68 が示しているように、場面 1 においてあいさつをする場合相手が親しいと思う先生／上位者、親友／親しい同僚、先輩である場合、日本人学生と日本人社会人との間に有意差があることを確認した。それに対して、場面 1 における中国人のデータにおいて話者別の主効果が有意ではなかった。

大学生と社会人における「こんにちは」と「(～) 好」の使用の違いは、場面 1 に限らず場面 2 (12 時半頃に出会った場面) から窺える。

表 9.70 に示すように、場面 2 において先輩と親しいと思う先生に「こんにちは」を使用する日本人学生は、先輩と親しいと思う上位者に「こんにちは」を使用する日本人社会人より比較的多い。一方、同様の状況であり親しくない先生に「こんにちは」を使用する日本人学生とあまり親しくない上位者に「こんにちは」を使用する日本人社会人の間に顕著な差異がない。また、親友に「こんにちは」を使用する日本人学生はほとんどいないものの、親しい同僚に「こんにちは」を使用する日本人社会人は比較的多い。

表 9.70 場面 2 (12 時半頃に出会った場面) における日本人の「こんにちは」

対人関係 \ 調査対象	日本人学生		日本人社会人		話者別の主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	130 人中	割合	114 人中	割合		
あまり親しくない先生／上位者	26	20%	23	20%	25.59**	0.001ns
親しいと思う先生／上位者	93	72%	30	26%		53.51**
親友／親しい同僚	5	4%	18	16%		10.84**
あまり親しくない先輩	44	34%	21	18%		7.63**
親しいと思う先輩	67	52%	27	24%		20.78**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 9.71 場面 2 (12 時半頃に出会った場面) における中国人の「(～) 好」

対人関係 \ 調査対象	中国人学生		中国人社会人		話者別の主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	101 人中	割合	105 人中	割合		
あまり親しくない先生／上位者	75	74%	48	46%	29.91**	18.06**
親しいと思う先生／上位者	34	34%	15	14%		11.02**
親友／親しい同僚	1	1%	1	1%		0.001ns
あまり親しくない先輩	49	49%	30	29%		8.79**
親しいと思う先輩	20	20%	12	11%		2.78*

(** $p < .01$, * $p < .05$)

それに対して、表 9.71 に示すように、場面 2 においてあいさつをする場合、先生とあまり親しくない先輩に「(～) 好」を使用する中国人学生は、上位者とあまり親しくない先輩に「(～) 好」を使用する中国人社会人より多い。一方、同様の状況で親友に「(～) 好」を使用する中国人学生と親しい同僚に「(～) 好」を使用する中国人社会人はともにほとんどいない。

角変換法による相手別と話者別の分散分析を行った結果、場面 2 における日本人と中国人のいずれのデータにおいても話者別の主効果が有意であった。そこで、下位検定として単純主効果検定を行い、表 9.70 が示しているように、場面 2 においてあいさつをする場合、親友に「こんにちは」を使用する日本人学生と親しい同僚に「こんにちは」を使用する日本人社会人の間に有意差があることを確認した。それに対して、表 9.71 が示しているように、場面 2 において先生／上位者とあまり親しくない先輩にあいさつをする場合、「(～) 好」を使用する中国人学生と中国人社会人との間に有意差があるものの、親友／親しい同僚にあいさつをする場合、「(～) 好」を使用する中国人学生と中国人社会人との間に有意差がない。

場面 2 においてあまり親しくない先生に「こんにちは」を使用する日本人学生とあまり親しくない上位者に「こんにちは」を使用する日本人社会人の間に顕著な差異がないという結果が生じたのは、場面 2 においてあまり親しくない先生にあいさつをしない日本人学生が多いためである。前述した 9.2.1 における表 9.7 に示したように、場面 2 においてあま

り親しくない上位者にあいさつをしない日本人社会人はわずか5人(4%)にすぎない一方、あまり親しくない上位者にあいさつをしない日本人学生は84人(65%)に及んでいる。この点から見れば、場面2においてあまり親しくない先生に「こんにちは」を使用する日本人学生は、あまり親しくない上位者に「こんにちは」を使用する日本人社会人より多くて、中国人学生・中国人社会人とほぼ同様の使用傾向を示していると考えられる。

一方、大学生と社会人における「こんにちは」と「(～)好」の使用の違いは、必ずしもすべての場面において見られるわけではない。

表 9.72 場面4（その日2回以上出会った場面）における日本人の「こんにちは」

対人関係 \ 調査対象	日本人学生		日本人社会人		話者別の主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	130人中	割合	114人中	割合		
あまり親しくない先生／上位者	27	21%	10	9%	33.07**	7.23**
親しいと思う先生／上位者	43	33%	14	12%		15.76**
親友／親しい同僚	4	3%	4	4%		0.04ns
あまり親しくない先輩	28	22%	11	10%		6.75**
親しいと思う先輩	33	25%	9	8%		14.37**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 9.73 場面4（その日2回以上出会った場面）における中国人の「(～)好」

対人関係 \ 調査対象	中国人学生		中国人社会人		話者別の主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	101人中	割合	105人中	割合		
あまり親しくない先生／上位者	63	62%	44	38%	39.02**	8.77**
親しいと思う先生／上位者	42	42%	17	16%		16.92**
親友／親しい同僚	2	2%	2	2%		0.002ns
あまり親しくない先輩	35	35%	25	24%		2.95*
親しいと思う先輩	28	28%	4	4%		26.39**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 9.72 に示すように場面4（その日2回以上出会った場面）において、親しいと思う先生と先輩に「こんにちは」を使用する日本人学生は、親しいと思う上位者と先輩に「こんにちは」を使用する日本人社会人より多い。また、表 9.73 に示すように、同様の場面において、親しいと思う先生と先輩に「(～)好」を使用する中国人学生と親しいと思う上位者と先輩に「(～)好」を使用する中国人社会人は、「こんにちは」を使用する日本人学生・社会人とほぼ同様の使用傾向を示している。

角変換法による相手別と話者別の分散分析を行った結果、場面4における日本人と中国人のいずれのデータにおいても話者別の主効果が有意であった。そこで、下位検定として単純主効果検定を行い、表 9.72 が示しているように、その日2回以上出会った場面において先生／上位者と先輩にあいさつをする場合、「こんにちは」を使用する日本人学生と日本人社会人との間に有意差があることを確認した。また、表 9.73 に示すように、同様の状況

で先生／上位者と先輩にあいさつをする場合、「(～) 好」を使用する中国人学生と中国人社会人との間に有意差があることも確認した。

上述したようにその日 2 回以上出会った場面においてあいさつをする場合、「こんにちは」を使用する日本人学生と日本人社会人における差異は、「(～) 好」を使用する中国人学生と中国人社会人における差異とほぼ同様である。しかし、非対面の場面 6 と場面 7 を見ると、大学生と社会人における「こんにちは」と「(～) 好」の使用の違いに関する日本人と中国人の差異が顕著である。

表 9.74 と表 9.76 に示すように、メール・電話の場面において親しいか親しくないかにかかわらず、上位者と先輩に「こんにちは」を使用する日本人社会人はほとんどいない一方、先生と先輩に「こんにちは」を使用する日本人学生は比較的多い。

それに対して、表 9.75 に示すように、メールの場面としての場面 6 において親しいか親しくないかにかかわらず、先生と先輩に「(～) 好」を使用する中国人学生より、上位者と先輩に「(～) 好」を使用する中国人社会人のほうが相対的に多い。また、表 9.77 に示すように、電話の場面としての場面 7 において親しいか親しくないかにかかわらず先輩にあいさつをする場合、「(～) 好」を使用する中国人社会人は中国人学生より多い。

表 9.74 場面 6（メールの場面）における日本人の「こんにちは」

調査対象 対人関係	日本人学生		日本人社会人		話者別の主 効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	130 人中	割合	114 人中	割合		
あまり親しくない先生／上位者	31	24%	3	3%	47.35**	29.28**
親しいと思う先生／上位者	32	25%	6	5%		20.10**
親友／親しい同僚	5	4%	14	12%		6.27*
あまり親しくない先輩	32	25%	6	5%		20.10**
親しいと思う先輩	31	24%	9	8%		12.33**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 9.75 場面 6（メールの場面）における中国人の「(～) 好」

調査対象 対人関係	中国人学生		中国人社会人		話者別の主 効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	101 人中	割合	105 人中	割合		
あまり親しくない先生／上位者	65	64%	92	88%	115.72**	16.16**
親しいと思う先生／上位者	43	43%	76	72%		19.35**
親友／親しい同僚	3	3%	25	24%		23.31**
あまり親しくない先輩	44	44%	86	82%		34.70**
親しいと思う先輩	27	27%	63	60%		24.17**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 9.76 場面 7（電話の場面）における日本人の「こんにちは」

対人関係 \ 調査対象	日本人学生		日本人社会人		話者別の主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	130 人中	割合	114 人中	割合		
あまり親しくない先生／上位者	29	22%	3	3%	66.39**	26.28**
親しいと思う先生／上位者	29	22%	6	5%		16.47**
親友／親しい同僚	9	7%	7	6%		0.06ns
あまり親しくない先輩	35	27%	7	6%		21.15**
親しいと思う先輩	32	25%	7	6%		17.54**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 9.77 場面 7（電話の場面）における中国人の「(～) 好」

対人関係 \ 調査対象	中国人学生		中国人社会人		話者別の主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	101 人中	割合	105 人中	割合		
あまり親しくない先生／上位者	64	63%	77	73%	38.75**	2.37ns
親しいと思う先生／上位者	39	39%	58	55%		5.76*
親友／親しい同僚	3	3%	11	10%		5.03*
あまり親しくない先輩	48	48%	69	66%		7.02**
親しいと思う先輩	18	18%	53	50%		25.84**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

角変換法による相手別と話者別の分散分析を行った結果、場面 6 と場面 7 における日本人と中国人のいずれのデータにおいても話者別の主効果が有意であった。そこで、下位検定として単純主効果検定を行い、表 9.74 と表 9.75 に示すように、場面 6 においてあいさつをする場合相手が誰かに関わらず、「こんにちは」を使用する日本人学生と日本人社会人との間および、「(～) 好」を使用する中国人学生と中国人社会人との間に有意差があることを確認した。また、表 9.76 が示しているように場面 7 において先生／上位者と先輩にあいさつをする場合、「こんにちは」を使用する日本人学生と日本人社会人との間に、表 9.77 が示しているように場面 7 において親しいと思う先生／上位者、親友／親しい同僚、先輩にあいさつをする場合、「(～) 好」を使用する中国人学生と中国人社会人との間に有意差があることを確認した。

以上の表 9.70、表 9.72、表 9.74、表 9.76 からわかるように、いずれの対面の出会いの場面およびメールと電話の場面においても、上位者と先輩に「こんにちは」を使用する日本人社会人と比べると、日本人学生は先生と先輩に「こんにちは」を使用する傾向が顕著である。これは、日本人学生の先生・先輩に対するウチ意識と日本人社会人の上位者・先輩に対するウチ意識の違いによるものであると考えられる。日本人学生にとって、先生と先輩は必ずしもウチの存在であるわけではない一方、日本人社会人にとって、上位者と先輩はウチの存在である可能性が大きい。日本人学生は、先生・先輩と同一の大学にいるものの、同一のサークルかゼミにいない場合、ウチの関係になるのが難しい。この場合、ウチの存

在でない先生と先輩に PPS+NPS としての「こんにちは」を使用するのは無難であろう。一方、日本人社会人は上位者・先輩と同一の職場にいただけではなく、同一の目標（会社の利益とか）のために働いていて、ほぼ毎日会えるので、上位者・先輩との連帯感が強くて、PPS+NPS としての「こんにちは」を頻用すると他人行儀という感じが生じやすいのではないかと考えられる。

なお、濱屋（2007:101）は、「こんにちは」は、主として子供や学生や外国人が使うあいさつで、様式（丁寧表現）を重んじる日本の大人のあいさつとしては不十分であると指摘している。また、第 8 章の 8.2.3.2 で既に紹介したように、宇野（2002:60-61）も類似した見解を示している。すなわち、「こんにちは」は、日本語の代表的なあいさつ言葉であり、外国人が使う分には、誰に対して「こんにちは」とあいさつしても、目くじらを立てる人はいないだろうが、日本人が目上の人に「こんにちは」とあいさつすると、いささか失礼な言葉遣いになる。下記の日本人大学教員 UTM11 の発言⁵⁰からも、上述した「こんにちは」の対人関係による使用制限が窺える。

日本語のあいさつは「おはよう（～）」については「おはようございます」っていう丁寧形がありますけれども、「こんにちは」と「こんばんは」については、丁寧形がないので、目上の人に使いにくいですね…

上記の調査結果は、これらの観点（発言）とある程度一致しているのではないかと考えられる。

9.2.3.3 「さようなら」と「（～）再见」

大学生と社会人におけるあいさつ使用の違いに関する日本人と中国人の差異は、出会いのあいさつ表現「おはよう（～）」と「（～）早（～）」、「こんにちは」と「（～）好」に限らず、別れのあいさつ表現「さようなら」の使用にも窺える。

表 9.78 に示すように場面 3（偶然出会って別れる場面）において親しいか親しくないかにかかわらず先生／上位者と先輩にあいさつをする場合、「さようなら」を使用する日本人社会人はほとんどいない一方、同様の状況で「さようなら」を使用する日本人学生は比較的多い。それに対して、表 9.79 に示すように、場面 3 において親友に「（～）再见」を使用する中国人学生も親しい同僚に「（～）再见」を使用する中国人社会人も相対的に少ない一方、先生と先輩に「（～）再见」を使用する中国人学生と中国人社会人は比較的多い。ただし、「（～）再见」の使用について、中国人学生と中国人社会人との間に顕著な差異がほとんどない。

⁵⁰ UTM11 の発言は、2015 年 3 月 11 日から 2015 年 9 月 18 日に実施した半構造化インタビュー調査への回答から抜粋したものである。

表 9.78 場面 3（偶然出会って別れる場面）における日本人の「さようなら」

対人関係 \ 調査対象	日本人学生		日本人社会人		話者別の主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	130 人中	割合	114 人中	割合		
あまり親しくない先生／上位者	57	44%	1	1%	153.90**	96.36**
親しいと思う先生／上位者	56	43%	2	2%		82.57**
親友／親しい同僚	2	2%	6	5%		2.78ns
あまり親しくない先輩	35	27%	4	4%		30.97**
親しいと思う先輩	33	25%	5	4%		24.41**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 9.79 場面 3（偶然出会って別れる場面）における中国人の「(～) 再见」

対人関係 \ 調査対象	中国人学生		中国人社会人		話者別の主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	101 人中	割合	105 人中	割合		
あまり親しくない先生／上位者	80	79%	58	55%	7.15**	13.86**
親しいと思う先生／上位者	48	48%	35	33%		4.34*
親友／親しい同僚	11	11%	21	20%		3.34*
あまり親しくない先輩	63	62%	46	44%		7.21**
親しいと思う先輩	32	32%	38	36%		0.47ns

(** $p < .01$, * $p < .05$)

角変換法による相手別と話者別の分散分析を行った結果、場面 3 における日本人と中国人いずれのデータにおいても話者別の主効果が有意であった。そこで、下位検定として単純主効果検定を行い、表 9.78 が示しているように、同様の状況で親しいか親しくないかにかかわらず先生／上位者と先輩にあいさつをする場合、「さようなら」を使用する日本人学生と日本人社会人との間に有意差があることを確認した。それに対して、表 9.79 が示しているように、場面 3 において先生／上位者、親友／親しい同僚、あまり親しくない先輩にあいさつをする場合、「(～) 再见」を使用する中国人学生と中国人社会人との間に有意差があることを確認した。要するに、場面 3 において親友／親しい同僚にあいさつする場合「さようなら」を使用する日本人学生と日本人社会人の間に顕著な差異がないのに対して、同一の場面において親しいと思う先輩にあいさつをする場合、「(～) 再见」を使用する中国人学生と中国人社会人との間に顕著な差異がない。

大学生と社会人におけるあいさつ使用の違いに関する日本人と中国人の差異は、下記の表 9.80 と表 9.81 に示すように場面 5（共同作業をした後別れる場面）からも窺える。表 9.80 に示したように、場面 5 において相手が誰かにかかわらず「さようなら」を使用する日本人学生と日本人社会人はほとんどいない。それに対して、表 9.81 に示したように、同一の場面において親友／親しい同僚にあいさつをする場合、「(～) 再见」を使用する中国人学生と中国人社会人はある程度（10%と 13%）いるものの相対的に少ない。一方、同一の場面において先生／上位者と先輩にあいさつをする場合、「(～) 再见」を使用する中国

人学生と中国人社会人は比較的多い。ただし、相手が誰かにかかわらず、「(～) 再见」を使用する中国人学生と中国人社会人との間に顕著な差異が見られない。

角変換法による相手別と話者別の分散分析を行った結果、場面 5 における日本人と中国人のいずれのデータにおいても話者別の主効果が有意であった。そこで、下位検定として単純主効果検定を行い、表 9.80 が示しているように、場面 5 において先生／上位者、親友／親しい同僚、あまり親しくない先輩にあいさつをする場合、「さようなら」を使用する日本人学生日本人社会人との間に有意差があることを確認した。同様の状況でありあまり親しくない先生／上位者と先輩にあいさつをする場合、「(～) 再见」を使用する中国人学生と中国人社会人の間に有意差があることも確認した。

表 9.80 場面 5（共同作業をした後別れる場面）における日本人の「さようなら」

調査対象 対人関係	日本人学生 130 人中		日本人社会人 114 人中		話者別の主 効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	割合		割合			
あまり親しくない先生／上位者	10	8%	0	0%	17.07**	19.18**
親しいと思う先生／上位者	8	6%	0	0%		15.26**
親友／親しい同僚	0	0%	2	2%		4.29*
あまり親しくない先輩	6	5%	1	1%		3.66*
親しいと思う先輩	7	5%	3	3%		1.23ns

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 9.81 場面 5（共同作業をした後別れる場面）における中国人の「(～) 再见」

調査対象 対人関係	中国人学生 101 人中		中国人社会人 105 人中		話者別の主 効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	割合		割合			
あまり親しくない先生／上位者	73	72%	51	49%	5.15*	12.37**
親しいと思う先生／上位者	40	40%	44	42%		0.11ns
親友／親しい同僚	10	10%	14	13%		0.59ns
あまり親しくない先輩	53	52%	43	41%		2.76*
親しいと思う先輩	24	24%	19	18%		1.003ns

(** $p < .01$, * $p < .05$)

ただし、表 9.80 と表 9.81 からわかるように、場面 5 において先生／上位者にあいさつをする場合、日本人学生と日本人社会人の間に差異があるが、両方とも「さようなら」をほとんど使用しない傾向が見られる。それに対して、同様の状況でありあいさつをする場合、中国人学生と中国人社会人の間に差異があるが、両方とも「(～) 再见」を使用する傾向が比較的顕著である。

つまり、場面 3 において、先生と先輩に「さようなら」を使用する日本人学生の比率は比較的高い一方、上位者と先輩に「さようなら」を使用する日本人社会人、場面 5 において先生／上位者と先輩に「さようなら」を使用する日本人学生と日本人社会人はほとんどいない。それに対して、同様の別れの場面において先生と先輩に「(～) 再见」を使用する

中国人学生と上位者と先輩に「(～) 再见」を使用する中国社会人は、ともに使用する傾向が比較的顕著である。これは、「さようなら」と「(～) 再见」における場面による使用制限の違いによるものであると考えられる。「さようなら」は場面による使用制限が強いものに対して、「(～) 再见」は場面による使用制限がほとんどない。「さようなら」は日本人学生にとって学校で使い慣れた表現である（濱屋 2007:162）ため、先生や先輩に使用するのには日本の学校では自然である。しかし、濱屋（2007:168）が指摘しているように、日本語の「さようなら」は、学校以外の社会では不十分である。宇野（2002:61）が指摘したように、「さようなら」は、目上の人や得意先に使うと、失礼な日本語になるのである。それに対して、施（2002:32）が述べているように、日本語の「さようなら」に相当する中国語の「(～) 再见」は家庭、訪問、公園などの場面で、時、状況、相手の年齢、性別、社会的地位などを問わずに使用できる。

また、日本人学生と社会人における差異が生じたのは、世代による「さようなら」に対する意識の差異にも関わっていると考えられる。「さようなら」の使用について、水谷（1979:155）は、現実の社会には「さようなら」と言われて「失礼なあいさつだ」と受け止める人達も多く存在すると指摘している。そして水谷（1979:154）は、大学の講義が終えた後学生から「じゃあ、さようなら」と言われた老教授が悲憤慷慨したという話を紹介し、自分自身も「さようなら」と言われて、うれしくないと感じることが少なくないと述べている。このことから、旧世代の大学教員と新世代の大学生における「さようなら」に対する意識の差異が窺える。すなわち、目上の先生に「さようなら」を使ってはいけないという旧来の意識と目上の先生に「さようなら」を使用しても差し支えないという比較的新しい意識の差異である。この差異があるからこそ、上述の結果が生じたのであると考えられる。

9.2.3.4 「お疲れ(～)」と「(～) 辛苦了」

学生と社会人におけるあいさつ使用の違いに関する対人関係による使用制限の日本人と中国人の差異は、「おはよう(～)」と「(～) 早(～)」、「こんにちは」と「(～) 好」、「さようなら」と「(～) 再见」に限らず、「お疲れ(～)」とそれに当たる中国語表現「(～) 辛苦了」の使用にも窺える。

「お疲れ(～)」は、「おはよう(～)」、「こんにちは」、「さようなら」と違って、出会いのあいさつであると同時に別れのあいさつでもある。また、「お疲れ(～)」をねぎらいのあいさつとして使用しても差し支えない。これについては、登田（2004:4）と倉持（2008a・2008b）も言及している。つまり、「お疲れ(～)」には、「出会い」、「別れ」、「ねぎらい」という三つの機能がある。「お疲れ(～)」をどの機能で使用しているかを考察する場合、具体的な場面を合わせて判断する必要があると考えられる。また、「お疲れ(～)」に当たる中国語の「(～) 辛苦了」は、日常生活で頻繁に使用されているが、それに関する先行研

究は、筆者の知る限りないようである。中国語の「(～) 辛苦了」は、過去・完了の標識「了」が付いているが、非過去と非完了の場面にも当てはまるし、呼称を使用することによって親近感あるいは尊敬の気持ちを表現できるので、日本語の「お疲れ様でした」を含む「お疲れ (～)」と対応していると考えられる。

表 9.82、表 9.84、表 9.86 に示すように場面 1、場面 2、場面 4 においてあいさつをする場合、「お疲れ (～)」を使用する日本人学生と日本人社会人は少なくない。そして、場面 1、場面 2、場面 4 において「お疲れ (～)」を使用する日本人学生と日本人社会人との間に顕著な差異が認められる。それに対して、表 9.83、表 9.85、表 9.87 に示すように、同様の状況であいさつをする場合、相手が誰かにかかわらず、「(～) 辛苦了」を使用する中国人学生と中国人社会人は 1 人もいない。

表 9.82 場面 1 (11 時頃に出会った場面) における日本人の「お疲れ (～)」

調査対象 対人関係	日本人学生		日本人社会人		話者別の主 効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	130 人中	割合	114 人中	割合		
あまり親しくない先生／上位者	3	2%	28	25%	80.75**	33.54**
親しいと思う先生／上位者	7	5%	37	32%		33.60**
親友／親しい同僚	13	10%	41	36%		25.08**
あまり親しくない先輩	29	22%	36	32%		2.67ns
親しいと思う先輩	36	28%	45	39%		3.81*

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 9.83 場面 1 (11 時頃に出会った場面) における中国人の「(～) 辛苦了」

調査対象 対人関係	中国人学生		中国人社会人		話者別の主 効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	101 人中	割合	105 人中	割合		
あまり親しくない先生／上位者	0	0%	0	0%		
親しいと思う先生／上位者	0	0%	0	0%		
親友／親しい同僚	0	0%	0	0%		
あまり親しくない先輩	0	0%	0	0%		
親しいと思う先輩	0	0%	0	0%		

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 9.84 場面 2 (12 時半頃に出会った場面) における日本人の「お疲れ (～)」

調査対象 対人関係	日本人学生		日本人社会人		話者別の主 効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	130 人中	割合	114 人中	割合		
あまり親しくない先生／上位者	3	2%	44	39%	168.82**	65.13**
親しいと思う先生／上位者	11	8%	57	50%		58.37**
親友／親しい同僚	19	15%	58	51%		39.23**
あまり親しくない先輩	34	26%	54	47%		12.00**
親しいと思う先輩	39	30%	60	53%		13.08**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 9.85 場面 2 (12 時半頃に出会った場面) における中国人の「「(～) 辛苦了」」

対人関係	調査対象		中国人学生		中国人社会人		話者別の主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	101 人中	割合	105 人中	割合	105 人中	割合		
あまり親しくない先生／上位者	0	0%	0	0%	0	0%		
親しいと思う先生／上位者	0	0%	0	0%	0	0%		
親友／親しい同僚	0	0%	0	0%	0	0%		
あまり親しくない先輩	0	0%	0	0%	0	0%		
親しいと思う先輩	0	0%	0	0%	0	0%		

表 9.86 場面 4 (その日 2 回以上出会った場面) における日本人の「お疲れ (～)」

対人関係	調査対象		日本人学生		日本人社会人		話者別の主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	130 人中	割合	114 人中	割合	114 人中	割合		
あまり親しくない先生／上位者	6	5%	46	40%	191.62**			54.05**
親しいと思う先生／上位者	14	11%	59	52%				53.33**
親友／親しい同僚	18	14%	62	54%				48.75**
あまり親しくない先輩	25	19%	55	48%				23.93**
親しいと思う先輩	36	28%	63	55%				19.58**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 9.87 場面 4 (その日 2 回以上出会った場面) における中国人の「「(～) 辛苦了」」

対人関係	調査対象		中国人学生		中国人社会人		話者別の主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	101 人中	割合	105 人中	割合	105 人中	割合		
あまり親しくない先生／上位者	0	0%	0	0%				
親しいと思う先生／上位者	0	0%	0	0%				
親友／親しい同僚	0	0%	0	0%				
あまり親しくない先輩	0	0%	0	0%				
親しいと思う先輩	0	0%	0	0%				

表 9.82 が示しているとおおり、場面 1 においてあいさつをする場合、先生と親友に「お疲れ(～)」を使用する日本人学生はほとんどいない一方、上位者と親しい同僚に「お疲れ(～)」を使用する日本人社会人の比率は比較的高い。表 9.84 と表 9.86 が示しているように、場面 2 と場面 4 においてあいさつをする場合、相手が誰かにかかわらず、「お疲れ (～)」を使用する日本人社会人の比率は日本人学生より相対的に高い。角変換法による相手別と話者別の分散分析を行った結果、場面 1、場面 2、場面 4 における日本人のいずれのデータにおいても話者別の主効果が有意であった。そこで、下位検定として単純主効果検定を行い、表 9.82 が示しているように、場面 1 において先生／上位者、親友／親しい同僚、親しいと思う先輩にあいさつをする場合、「お疲れ (～)」を使用する日本人学生と日本人社会人との間に有意差があることを確認した。また、表 9.84 と表 9.86 が示しているように、場面 2 と場面 4 においてあいさつをする場合、相手が誰かにかかわらず、「お疲れ (～)」を使用する日本人学生と日本人社会人との間に有意差がある。

大学生と社会人におけるあいさつ使用の違いに関する日本人と中国人の差異は、出会いの場面に限らず別れの場面からも窺える。

表 9.88 場面 3（偶然出会って別れる場面）における日本人の「お疲れ（～）」

対人関係	日本人学生		日本人社会人		話者別の主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	130 人中	割合	114 人中	割合		
あまり親しくない先生／上位者	38	29%	75	66%	132.87**	34.12**
親しいと思う先生／上位者	42	32%	80	70%		36.66**
親友／親しい同僚	24	18%	87	76%		92.88**
あまり親しくない先輩	83	64%	84	74%		2.75*
親しいと思う先輩	82	63%	89	78%		6.67**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 9.89 場面 3（偶然出会って別れる場面）における中国人の「（～）辛苦了」

対人関係	中国人学生		中国人社会人		話者別の主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	101 人中	割合	105 人中	割合		
あまり親しくない先生／上位者	1	1%	0	0%	2.39ns	
親しいと思う先生／上位者	2	2%	0	0%		
親友／親しい同僚	0	0%	0	0%		
あまり親しくない先輩	0	0%	0	0%		
親しいと思う先輩	0	0%	0	0%		

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 9.90 場面 5（共同作業をした後別れる場面）における日本人の「お疲れ（～）」

対人関係	日本人学生		日本人社会人		話者別の主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	130 人中	割合	114 人中	割合		
あまり親しくない先生／上位者	90	69%	94	82%	4.11*	5.90*
親しいと思う先生／上位者	106	82%	95	83%		0.14ns
親友／親しい同僚	112	86%	106	93%		3.11*
あまり親しくない先輩	111	85%	99	87%		0.11ns
親しいと思う先輩	117	90%	101	89%		0.13ns

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 9.91 場面 5（共同作業をした後別れる場面）における中国人の「（～）辛苦了」

対人関係	中国人学生		中国人社会人		話者別の主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	101 人中	割合	105 人中	割合		
あまり親しくない先生／上位者	28	28%	33	31%	2.29ns	
親しいと思う先生／上位者	30	30%	33	31%		
親友／親しい同僚	12	12%	19	18%		
あまり親しくない先輩	23	23%	31	30%		
親しいと思う先輩	23	23%	25	24%		

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 9.88 に示すように、場面 3 においてあいさつをする場合、先生／上位者、親友／親し

い同僚、親しいと思う先輩に「お疲れ（～）」を使用する日本人学生より日本人社会人の比率のほうが相対的に高い。一方、表 9.90 に示すように、場面 5 においてあいさつをする場合、相手が誰かにかかわらず、「お疲れ（～）」を使用する日本人学生と日本人社会人の比率はともに極めて高い。それに対して、表 9.89 に示すように、場面 3 においてあいさつをする場合相手が誰かにかかわらず、「（～）辛苦了」を使用する中国人学生も中国人社会人もほとんどいない。一方、表 9.91 に示すように、場面 5 においてあいさつをする場合、親友／親しい同僚に「（～）辛苦了」を使用する中国人学生と中国人社会人の比率は、先生／上位者と先輩に「（～）辛苦了」を使用する中国人に比べると相対的に低い。ただし、「（～）辛苦了」の使用について、中国人学生と中国人社会人との間に顕著な差異がない。

角変換法による相手別と話者別の分散分析を行った結果、場面 3 と場面 5 における日本人のデータにおいて話者別の主効果が有意であった。そこで、下位検定として単純主効果検定を行い、場面 3 において先生／上位者、親友／親しい同僚、親しいと思う先輩に、場面 5 においてあまり親しくない先生／上位者と親友／親しい同僚にあいさつをする場合、「お疲れ（～）」を使用する日本人学生と日本人社会人との間に有意差があることを確認した。それに対して、場面 3 と場面 5 における中国人のいずれのデータにおいても話者別の主効果が有意ではなかった。つまり、場面 5 においてあいさつをする場合、相手が誰かに関わらず、「（～）辛苦了」を使用する中国人学生と中国人社会人の間にはほとんど差異がないといえる。

大学生と社会人におけるあいさつ使用の違いに関する日本人と中国人の差異は、出会いの場面と別れの場面に限らず、非対面の場面としてのメール・電話の場面からも窺える。

表 9.92 が示しているように、場面 6（メールの場面）において先生と親友に「お疲れ（～）」を使用する日本人学生より、上位者と親しい同僚に「お疲れ（～）」を使用する中国人社会人の比率のほうが比較的高い。また、表 9.94 が示しているように、場面 7（電話の場面）においてあいさつをする場合、相手が誰かにかかわらず、「お疲れ（～）」を使用する日本人学生より日本人社会人の比率のほうが高い。それに対して、表 9.93 と表 9.95 が示しているとおり、場面 6 と場面 7 においてあいさつをする場合、相手が誰かにかかわらず、「（～）辛苦了」を使用する中国人学生と中国人社会人は、1 人もいない。

表 9.92 場面 6（メールの場面）における日本人の「お疲れ（～）」

調査対象 対人関係	日本人学生		日本人社会人		話者別の主 効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	130 人中	割合	114 人中	割合		
あまり親しくない先生／上位者	11	8%	31	27%	80.33**	15.60**
親しいと思う先生／上位者	12	9%	43	38%		30.20**
親友／親しい同僚	9	7%	47	41%		45.11**
あまり親しくない先輩	33	25%	40	35%		2.73ns
親しいと思う先輩	36	28%	47	41%		4.97*

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 9.93 場面 6（メールの場面）における中国人の「(～) 辛苦了」

調査対象 対人関係	中国人学生		中国人社会人		話者別の主 効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	101 人中	割合	105 人中	割合		
あまり親しくない先生／上位者	0	0%	0	0%		
親しいと思う先生／上位者	0	0%	0	0%		
親友／親しい同僚	0	0%	0	0%		
あまり親しくない先輩	0	0%	0	0%		
親しいと思う先輩	0	0%	0	0%		

表 9.94 場面 7（電話の場面）における日本人の「お疲れ (～)」

調査対象 対人関係	日本人学生		日本人社会人		話者別の主 効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	130 人中	割合	114 人中	割合		
あまり親しくない先生／上位者	5	4%	34	30%	151.63**	35.13**
親しいと思う先生／上位者	7	5%	36	32%		31.92**
親友／親しい同僚	4	3%	49	43%		70.47**
あまり親しくない先輩	20	15%	41	36%		14.00**
親しいと思う先輩	23	18%	45	39%		14.60**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 9.95 場面 7（電話の場面）における中国人の「(～) 辛苦了」

調査対象 対人関係	中国人学生		中国人社会人		話者別の主 効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	101 人中	割合	105 人中	割合		
あまり親しくない先生／上位者	0	0%	0	0%		
親しいと思う先生／上位者	0	0%	0	0%		
親友／親しい同僚	0	0%	0	0%		
あまり親しくない先輩	0	0%	0	0%		
親しいと思う先輩	0	0%	0	0%		

角変換法による相手別と話者別の分散分析を行った結果、場面 6 と場面 7 における日本人のいずれのデータにおいても話者別の主効果が有意であった。そこで、下位検定として単純主効果検定を行い、表 9.92 と表 9.94 が示しているように、場面 6 において先生／上位者、親友／親しい同僚、親しいと思う先輩にあいさつをする場合、場面 7 においてあいさつをする場合相手が誰かにかかわらず、「お疲れ (～)」を使用する日本人学生と日本人社会人との間に有意差がある。

上記の表 9.82 から表 9.95 が示しているように、場面 1、場面 2、場面 3、場面 4、場面 6、場面 7 においてあいさつをする場合、日本人学生にせよ日本人社会人にせよ相手が誰かにかかわらず「お疲れ (～)」をある程度使用する。第 7 章の 7.2.1.9 で既に述べたように、現代日本語の「お疲れ (～)」の用法には、「ねぎらいのあいさつ」として表現するものだけでなく、「出会いのあいさつ」、「単なる別れのあいさつ」として使用する用法もある。

それに対して、これらの場面において相手が誰かにかかわらず、「(～) 辛苦了」を使用する中国人学生と中国人社会人は皆無であるのは、中国語の「(～) 辛苦了」は、出会いのあいさつ、単体の別れのあいさつ、メールと電話のあいさつとしての用法がないためである。

ただし、場面 1 から場面 4 および場面 6 と場面 7 においてあいさつをする場合、「お疲れ (～)」を使用する日本人学生より日本人社会人のほうが多い。これは、日本人学生と日本人社会人における同一のグループに属している仲間意識の有無によるものであると考えられる。「お疲れ (～)」は、意味拡張が発生しつつあるものの、本来ねぎらい表現として使用されているので、ねぎらいのある場面に使用しがちである。日本人学生は、サークルや大学のイベントなどをきっかけとして、先生や先輩など同一のグループ（サークルや授業等）に属する機会がないわけではないが、一般的に毎日上位者や先輩など同一のグループ（会社や学校など）で仕事をする日本人社会人ほど多くないといえる。たとえば、単なる別れの場面において先生や先輩などと別れる場合、放課後の日本人学生は、その日相手と一緒に授業やゼミに参加した可能性があるものの、参加しなかった可能性もある。前者の場合、「お疲れ (～)」を使っても差し支えないが、後者の場合、「お疲れ (～)」を使うと違和感が生じるのではないかと考えられる。一方、一日の仕事が終わって帰ろうと思っている日本人社会人は、職場の出口で同僚や上司などに出会って別れる場合、その日相手と同一のグループで仕事をしたため、仲間意識があって、「お疲れ (～)」を使用するのが自然である。よって、上述の結果が生じたのは、その日日本人社会人が相手と同一のグループに属している仲間意識があるためであると考えられる。

9.2.3.5 会釈・お辞儀

大学生と社会人における対人関係による使用制限の日本人と中国人の差異は、言葉によるあいさつ表現「(～) 早 (～)」と「おはよう (～)」、「(～) 好」と「こんにちは」、「(～) 再见」と「さようなら」、「(～) 辛苦了」と「お疲れ (～)」に限らず、非言語行動によるあいさつ表現[会釈・お辞儀]からも窺える。

表 9.96、表 9.98、表 9.100 に示すように、いずれの出会いの場面においてもあいさつをする場合、相手が誰かにかかわらず、日本人学生と日本人社会人との間にほとんど差異が見られない。それに対して、表 9.97、表 9.99、表 9.101 に示すように、同様の出会いの場面において、親しいか親しくないかにかかわらず、先生／上位者と先輩にあいさつをする場合、中国人学生にせよ中国人社会人にせよ、ある程度[会釈・お辞儀]をするものの、中国人学生より中国人社会人が使用する傾向がより顕著である。

表 9.96 場面 1 (11 時頃に出会った場面) における日本人の[会釈・お辞儀]

対人関係 \ 調査対象	日本人学生		日本人社会人		話者別の主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	130 人中	割合	114 人中	割合		
あまり親しくない先生／上位者	21	16%	24	23%	0.35ns	
親しいと思う先生／上位者	14	11%	5	5%		
親友／親しい同僚	0	0%	2	2%		
あまり親しくない先輩	27	21%	26	25%		
親しいと思う先輩	10	8%	8	8%		

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 9.97 場面 1 (11 時頃に出会った場面) における中国人の[会釈・お辞儀]

対人関係 \ 調査対象	中国人学生		中国人社会人		話者別の主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	101 人中	割合	105 人中	割合		
あまり親しくない先生／上位者	5	5%	17	15%	50.26**	7.41**
親しいと思う先生／上位者	2	2%	12	11%		8.54**
親友／親しい同僚	0	0%	3	3%		5.94*
あまり親しくない先輩	6	6%	17	15%		5.80*
親しいと思う先輩	0	0%	14	12%		28.76**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 9.98 場面 2 (12 時半頃に出会った場面) における日本人の[会釈・お辞儀]

対人関係 \ 調査対象	日本人学生		日本人社会人		話者別の主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	130 人中	割合	114 人中	割合		
あまり親しくない先生／上位者	11	8%	35	33%	11.09**	20.72**
親しいと思う先生／上位者	16	12%	12	11%		0.19ns
親友／親しい同僚	0	0%	3	3%		6.45*
あまり親しくない先輩	27	21%	28	26%		0.50ns
親しいと思う先輩	11	8%	10	10%		0.01ns

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 9.99 場面 2 (12 時半頃に出会った場面) における中国人の[会釈・お辞儀]

対人関係 \ 調査対象	中国人学生		中国人社会人		話者別の主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	101 人中	割合	105 人中	割合		
あまり親しくない先生／上位者	3	3%	14	12%	64.79**	8.28**
親しいと思う先生／上位者	1	1%	16	14%		18.69**
親友／親しい同僚	0	0%	4	4%		7.94**
あまり親しくない先輩	4	4%	18	16%		10.56**
親しいと思う先輩	0	0%	11	10%		22.36**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 9.100 場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における日本人の[会釈・お辞儀]

対人関係	日本人学生		日本人社会人		話者別の主 効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	130 人中	割合	114 人中	割合		
あまり親しくない先生／上位者	41	32%	44	42%	0.17ns	
親しいと思う先生／上位者	46	35%	24	23%		
親友／親しい同僚	2	2%	10	10%		
あまり親しくない先輩	44	34%	33	31%		
親しいと思う先輩	29	22%	17	16%		

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 9.101 場面 4（その日 2 回以上出会った場面）における中国人の[会釈・お辞儀]

対人関係	中国人学生		中国人社会人		話者別の主 効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	101 人中	割合	105 人中	割合		
あまり親しくない先生／上位者	3	3%	13	11%	29.83**	7.15**
親しいと思う先生／上位者	1	1%	8	7%		6.67**
親友／親しい同僚	0	0%	1	1%		1.97ns
あまり親しくない先輩	5	5%	17	15%		7.41**
親しいと思う先輩	1	1%	9	8%		8.03**

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 9.96 が示しているように、場面 1 においてあいさつをする場合、あまり親しくない先生、親しいと思う先生、親友、あまり親しくない先輩、親しいと思う先輩に[会釈・お辞儀]をする日本人学生はそれぞれ 21 人（16%）、14 人（11%）、0 人（0%）、27 人（21%）、10 人（8%）であり、同一の場面においてあまり親しくない上位者、親しいと思う上位者、親しい同僚、あまり親しくない先輩、親しいと思う先輩に[会釈・お辞儀]をする日本人社会人はそれぞれ 24 人（23%）、5 人（5%）、2 人（2%）、26 人（25%）、8 人（8%）である。表 9.98 が示しているように、場面 2 においてあいさつをする場合、あまり親しくない先生、親しいと思う先生、親友、あまり親しくない先輩、親しいと思う先輩に[会釈・お辞儀]をする日本人学生はそれぞれ 11 人（8%）、16 人（12%）、0 人（0%）、27 人（21%）、11 人（8%）であり、同一の場面においてあまり親しくない上位者、親しいと思う上位者、親しい同僚、あまり親しくない先輩、親しいと思う先輩に[会釈・お辞儀]をする日本人社会人はそれぞれ 35 人（33%）、12 人（11%）、3 人（3%）、28 人（26%）、10 人（10%）である。表 9.100 が示しているように、場面 4 においてあいさつをする場合、あまり親しくない先生、親しいと思う先生、親友、あまり親しくない先輩、親しいと思う先輩に[会釈・お辞儀]をする日本人学生はそれぞれ 41 人（32%）、46 人（35%）、2 人（2%）、44 人（34%）、29 人（22%）であり、同一の場面においてあまり親しくない上位者、親しいと思う上位者、親しい同僚、あまり親しくない先輩、親しいと思う先輩に[会釈・お辞儀]をする日本人社会人はそれぞれ

44 人 (42%)、24 人 (23%)、10 人 (10%)、33 人 (31%)、17 人 (16%) である。

それに対して、表 9.97 が示しているように、場面 1 においてあいさつをする場合、あまり親しくない先生、親しいと思う先生、親友、あまり親しくない先輩、親しいと思う先輩に[会釈・お辞儀]をする中国人学生はそれぞれ 5 人 (5%)、2 人 (2%)、0 人 (0%)、6 人 (6%)、0 人 (0%) にとどまっている一方、同一の場面においてあまり親しくない上位者、親しいと思う上位者、親しい同僚、あまり親しくない先輩、親しいと思う先輩に[会釈・お辞儀]をする中国人社会人はそれぞれ 17 人 (15%)、12 人 (11%)、3 人 (3%)、17 人 (15%)、14 人 (12%) に上っている。表 9.99 が示しているように、場面 2 においてあいさつをする場合、あまり親しくない先生、親しいと思う先生、親友、あまり親しくない先輩、親しいと思う先輩に[会釈・お辞儀]をする中国人学生はそれぞれ 3 人 (3%)、1 人 (1%)、0 人 (0%)、4 人 (4%)、0 人 (0%) にすぎない一方、同一の場面においてあまり親しくない上位者、親しいと思う上位者、親しい同僚、あまり親しくない先輩、親しいと思う先輩に[会釈・お辞儀]をする中国人社会人はそれぞれ 14 人 (12%)、16 人 (14%)、4 人 (4%)、18 人 (16%)、11 人 (10%) に達している。表 9.101 が示しているように、場面 4 においてあいさつをする場合、あまり親しくない先生、親しいと思う先生、親友、あまり親しくない先輩、親しいと思う先輩に[会釈・お辞儀]をする中国人学生はそれぞれ 3 人 (3%)、1 人 (1%)、0 人 (0%)、5 人 (5%)、1 人 (1%) にとどまっている一方、同一の場面においてあまり親しくない上位者、親しいと思う上位者、親しい同僚、あまり親しくない先輩、親しいと思う先輩に[会釈・お辞儀]をする中国人社会人はそれぞれ 13 人 (11%)、8 人 (7%)、1 人 (1%)、17 人 (15%)、9 人 (8%) に及んでいる。

角変換法による相手別と話者別の分散分析を行った結果、場面 1 と場面 4 における日本人のいずれのデータにおいても話者別の主効果が有意ではなかった。場面 2 における日本人のデータにおいて話者別の主効果が有意であったが、下位検定として単純主効果検定を行った結果、表 9.98 が示しているように、場面 2 において親しいと思う先生／上位者および先輩にあいさつをする場合、[会釈・お辞儀]を使用する日本人学生と日本人社会人との間に有意差がないことを確認した。それに対して、場面 1、場面 2、場面 4 における中国人のいずれのデータにおいても話者別の主効果が有意であった。そこで、下位検定として単純主効果検定を行い、表 9.97、表 9.99、表 9.101 が示しているように、場面 1、場面 2 において相手が誰かに関わらず、場面 4 において親しいか親しくないかに関わらず先生／上位者と先輩にあいさつをする場合、[会釈・お辞儀]を使用する中国人学生と中国人社会人との間に有意差があることを確認した。

以上見てきたように、いずれの出会いの場面においても親しいか親しくないかにかかわらず、先生と先輩に[会釈・お辞儀]をする日本人学生と上位者と先輩に[会釈・お辞儀]をする日本人社会人の間にほとんど差異がない。それに対して、同様の状況で先生と先輩に[会釈・お辞儀]をする中国人学生より、上位者と先輩に[会釈・お辞儀]をする中国人社会人の比率

の方が高い。そして、学生にせよ社会人にせよ、上位者に[会釈・お辞儀]をする日本人の比率は比較的高いのにに対して、[会釈・お辞儀]をする中国人の比率が相対的に低い。これは、日本社会と中国社会における[会釈・お辞儀]の働きの違いによるものであると考えられる。日本社会では、[会釈・お辞儀]は、出会いの場面において上位者に尊敬の気持ちを伝達するためとられる行動であり、言葉の代わりに単独で用いられてもよい。この場合、出会いの場面において日本人学生にせよ日本人社会人にせよ上位者に[会釈・お辞儀]を比較的多く使用するの理解できるだろう。それに対して、中国社会では、[会釈・お辞儀]は通常、上位者に対して言葉によるあいさつのみでは十分でない特別の場合⁵¹にとられる行動である。ト（1990:134）が述べているように、日本ではよく現れる[お辞儀]と[会釈]が中国ではほとんど使われていない。その代わりに、中国社会では、上位者に対してあいさつする場合、尊敬の気持ちを表すため使用される表現は適切な呼称（敬称）である（水野:1998／丁:2015）。

一方、[会釈・お辞儀]における対人関係による使用制限の日本人と中国人の差異は必ずしもすべての場面において見られるわけではない。

表 9.102 場面 3（偶然出会って別れる場面における日本人の[会釈・お辞儀]

調査対象 対人関係	日本人学生		日本人社会人		話者別の主 効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	130 人中	割合	114 人中	割合		
あまり親しくない先生／上位者	5	4%	4	4%	2.16ns	
親しいと思う先生／上位者	8	6%	2	2%		
親友／親しい同僚	0	0%	0	0%		
あまり親しくない先輩	6	5%	7	7%		
親しいと思う先輩	8	6%	2	2%		

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 9.103 場面 3（偶然出会って別れる場面）における中国人[会釈・お辞儀]

調査対象 対人関係	中国人学生		中国人社会人		話者別の主 効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	101 人中	割合	105 人中	割合		
あまり親しくない先生／上位者	0	0%	1	1%	9.83**	1.97ns
親しいと思う先生／上位者	0	0%	1	1%		1.97ns
親友／親しい同僚	0	0%	1	1%		1.97ns
あまり親しくない先輩	0	0%	1	1%		1.97ns
親しいと思う先輩	0	0%	1	1%		1.97ns

(** $p < .01$, * $p < .05$)

⁵¹ あらたまった場面で謝る、あるいは依頼する場合や冠婚葬祭のような場面で儀式を行う場合などを指す。

表 9.104 場面 5（共同作業をした後別れる場面）における日本人の[会釈・お辞儀]

対人関係	日本人学生		日本人社会人		話者別の主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	130 人中	割合	114 人中	割合		
あまり親しくない先生／上位者	6	5%	1	1%	5.74*	3.66*
親しいと思う先生／上位者	3	2%	1	1%		0.84ns
親友／親しい同僚	0	0%	0	0%		0ns
あまり親しくない先輩	5	4%	1	1%		2.61ns
親しいと思う先輩	3	2%	1	1%		0.84ns

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 9.105 場面 5（共同作業をした後別れる場面）における中国人[会釈・お辞儀]

対人関係	中国人学生		中国人社会人		話者別の主効果 (χ^2)	単純主効果 (χ^2)
	101 人中	割合	105 人中	割合		
あまり親しくない先生／上位者	0	0%	2	2%	17.48**	3.95*
親しいと思う先生／上位者	0	0%	2	2%		3.95*
親友／親しい同僚	0	0%	1	1%		1.97ns
あまり親しくない先輩	0	0%	2	2%		3.95*
親しいと思う先輩	0	0%	2	2%		3.95*

(** $p < .01$, * $p < .05$)

表 9.102 と表 9.104 に示すように、場面 3（偶然出会ってまた別れる場面）と場面 5（共同作業をした後別れる場面）において親友／親しい同僚に[会釈・お辞儀]をする日本人は 1 人もいない。先生／上位者と先輩にあいさつをする場合、親しいか親しくないかにかかわらず[会釈・お辞儀]をする日本人学生と日本人社会人はいないわけではないがほとんどいないといえる。表 9.102 が示しているように、場面 3 においてあまり親しくない先生、親しいと思う先生、あまり親しくない先輩、親しいと思う先輩に[会釈・お辞儀]をする日本人学生はそれぞれ 5（4%）、8 人（6%）、6 人（5%）、8 人（6%）であり、同一の場面であまり親しくない上位者、親しいと思う上位者、あまり親しくない先輩、親しいと思う先輩に[会釈・お辞儀]をする日本人社会人はそれぞれ 4 人（4%）、2 人（2%）、7 人（7%）、2 人（2%）である。表 9.104 が示しているように、場面 5 においてあまり親しくない先生、親しいと思う先生、あまり親しくない先輩、親しいと思う先輩に[会釈・お辞儀]をする日本人学生はそれぞれ 6（5%）、5 人（2%）、5 人（4%）、3 人（2%）であり、同一の場面であまり親しくない上位者、親しいと思う上位者、あまり親しくない先輩、親しいと思う先輩に[会釈・お辞儀]をする日本人社会人は各 1 人（1%）である。また、表 9.103、表 9.105 に示すように、場面 3 と場面 5 において、相手が誰かにかかわらず[会釈・お辞儀]をする中国人学生は皆無である。そして、同様の状況で[会釈・お辞儀]をする中国人社会人はいないわけではないが 1 人（1%）か 2 人（2%）に限られている。要するに、別れの場面であいさつをする場合、相手が誰かにかかわらず、[会釈・お辞儀]をする日本人と中国人は、ともにほとんどいないといえる。

角変換法による相手別と話者別の分散分析を行った結果、場面3における日本人と中国人いずれのデータにおいても話者別の主効果が有意ではなかった。一方、場面5における日本人と中国人のいずれのデータにおいても話者別の主効果が有意であった。そこで、下位検定として単純主効果検定を行った結果、表 9.104 が示しているように、場面5において相手があまりしたしくない先生／上位者である場合、[会釈・お辞儀]を使用する日本人学生と日本人社会人との間に有意差があることを確認した。また、表 9.105 が示しているように、場面5において相手が先生／上位者と先輩である場合、[会釈・お辞儀]を使用する中国人学生と中国人社会人との間に有意傾向があることを確認した。

以上見てきたように、場面3と場面5においてあいさつをする場合、日本人にせよ中国人にせよ[会釈・お辞儀]をする大学生と社会人の間に顕著な差異がある。しかし、別れの場面において大学生にせよ社会人にせよ [会釈・お辞儀]をする日本人と中国人が多いとは言いがたい。ただし、大学生か社会人かに関わらず[会釈・お辞儀]をする日本人はある程度存在している。それに対して、[会釈・お辞儀]をする中国人社会人はややいるが、[会釈・お辞儀]をする大学生は1人もいない。この結果が生じたのは、上述したように中国社会では[会釈・お辞儀]は特別な場合にしか用いられないあいさつ表現であるためであると考えられる。

一方、上述したように、日本社会では[会釈・お辞儀]はよく使用されるあいさつ表現であるにもかかわらず、なぜ日本人は出会いの場面では比較的多く、別れの場面ではほとんど使用しないのか。これは本研究で設定した出会いの場面と別れの場面における状況の違いによるものであると考えられる。場面1（午前11時頃に出会った場面）、場面2（午後12時半頃に出会った場面）、場面4（その日2回以上出会った場面）という出会いの場面は、偶然出会った場面であるため、擦れ違う可能性が大きいと考えられる。偶然出会った場面で擦れ違う場合、相手が誰かに関わらず[会釈・お辞儀]をしながらあいさつの言葉を言うことが多いだろうが、あいさつの言葉を言わずに単なる[会釈・お辞儀]をしても自然であるだろう。一方、場面3（偶然出会って相手と一緒に大学／職場の出口まで行って別れる場面）と場面5（共同作業をした後別れる場面）という別れの場面は、いずれも相手と一緒にしばらく行動した後別れる場面であるといえる。このような場面で別れる場合、相手が誰かに関わらずあいさつの言葉を言わずに単なる[会釈・お辞儀]をすれば、なんとなく違和感があるのではないかと考えられる。このような別れの場面では、単なる[会釈・お辞儀]よりあいさつの言葉を言う、あるいは[会釈・お辞儀]をしながらあいさつの言葉を言うのが自然である。

9.3 まとめ

本章では、大学生と社会人におけるあいさつ使用の違いに関する日本人と中国人の差異について、「あいさつの有無」、「あいさつの戦略」、「個別のあいさつ表現の使用」

を考察した。

大学生と社会人における「あいさつの有無」に関する日中の相違点は、いずれの場面においても見られた。あいさつをする場合、大学生と社会人がどのようなあいさつのストラテジーを使用するかに関する日中の相違点も、いずれの場面においても窺える。これらの結果をそれぞれ表 9.106 と表 9.107 に示す。

表 9.106 大学生と社会人におけるあいさつの有無

	場面	日本人学生・社会人	中国人学生・社会人	
あいさつをしない場合	1	大学生は、あまり親しくない先生にあいさつをしない傾向（NF への配慮）が顕著であるが、社会人はあまり親しくない上位者にあいさつをする傾向（PF への配慮）が顕著である	両者とも積極的にあいさつをする傾向（PF への配慮）が顕著である	
	2			
	4			
	3	両者とも積極的にあいさつをする傾向（PF への配慮）が顕著である		
	5			
	6			学生は親友にあいさつをしない傾向（PF への配慮）が比較的顕著であるが、社会人は親しい同僚にあいさつをする傾向（NF への配慮）が顕著である
	7			

表 9.107 大学生と社会人におけるあいさつに関する全体的な特徴

	場面	日本人学生・社会人	中国人学生・社会人
あいさつをする場合	1	一方、社会人は親しい同僚に PPS だけではなく PPS+NPS を使用するケースもある。	学生は親友に PPS を使用する傾向が顕著である 学生にせよ社会人にせよ、親友／親しい同僚に PPS を使用する傾向が顕著である
	2		
	4		
	3		
	5		
	6	あまり親しくない先生／上位者にあいさつをする場合、学生にせよ社会人にせよ PPS+NPS を使用する傾向が顕著である	学生はあまり親しくない先生に PPS+NPS だけではなく PPS を使用するケースもある一方、社会人は上位者に PPS+NPS を使用する傾向が顕著である
	7		

表 9.106 を見ると、あいさつをするかどうかについて、場面 1、場面 2、場面 4 において相手があまり親しくない先生／上位者である場合、あいさつをしない日本人学生の比率は相対的に高いが、あいさつをしない日本人社会人はほとんどいない。場面 6 と場面 7 において親友にはあいさつをしない日本人学生の比率は比較的高いが、親しい同僚にはあいさつをしない日本人社会人はほとんどいない。それに対して、いずれの場面においても相手が誰かにかかわらず、あいさつをしない中国人学生と中国人社会人はほとんどおらず、PF に配慮する傾向が顕著である。

表 9.107 を見ると、あいさつをする場合、出会いと別れの場面において、親友／親しい同僚にあいさつをする場合、日本人学生は PPS を使用する傾向が顕著であるが、日本人社会人は PPS だけではなく PPS+NPS を使用するケースも見られる。それに対して、同様の状況で親友／親しい同僚にあいさつをする場合、中国人学生にせよ中国人社会人にせよ

PPS を使用する傾向は顕著である。日本人学生と日本人社会人における差異が生じたのは、日本人学生の親友との社会的な距離および日本人社会人の親しい同僚との社会的な距離の間の違いによるものである。それに対して、中国人学生と中国人社会人の間にほとんど差異がないのは、中国人学生と中国人社会人における社会規範が類似しているためである。

次に、日本語のあいさつ表現と中国語のあいさつ表現における対人関係による使用制限について、中国人学生と中国人社会人における「(～) 早 (～)」、「(～) 好」、「(～) 再见」、「(～) 辛苦了」および[会釈・お辞儀]の使用および、日本人学生と日本人社会人における「おはよう (～)」、「こんにちは」、「さようなら」、「お疲れ (～)」および[会釈・お辞儀]の使用は、それぞれどのような特徴があるのか。これらの結果を表 9.108 に示す。

表 9.108 個別のあいさつ表現に関する日中差異

	日本人	中国人
おはよう (～) / (～) 早 (～)	場面 4 以外の場面において、学生にせよ社会人にせよ「おはよう (～)」をある程度使用する。場面 2 において親しい同僚に「おはよう (～)」を使用する社会人がほとんどいないものの、同様の状況で使用する大学生は比較的多い	いずれの場面においても相手が誰かにかかわらず「(～) 早 (～)」を使用する学生と社会人は、ほとんどいない
こんにちは / (～) 好	いずれの場面においてもあまり親しくない上位者に「こんにちは」を使用する社会人は相対的に少ない一方、先生に「こんにちは」を使用する学生が比較的多い。また、場面 2 において親友に「こんにちは」を使用する学生はほとんどいないものの、親しい同僚に「こんにちは」を使用する社会人はある程度存在している	場面 6 と場面 7 において上位者に「(～) 好」を使用する社会人は、先生に「(～) 好」を使用する学生より多い。また、場面 2 において親友に「(～) 好」を使用する学生にせよ親しい同僚に「(～) 好」を使用する社会人にせよ、ほとんどいない
さようなら / (～) 再见	場面 3 において先生と先輩に「さようなら」を使用する学生は比較的多い一方、場面 3 において上位者と先輩に「さようなら」を使用する社会人、場面 5 において先生 / 上位者と先輩に「さようなら」を使用する学生と社会人はほとんどいない。	場面 3 と場面 5 において先生と先輩に「(～) 再见」を使用する中国人学生にせよ上位者と先輩に「(～) 再见」を使用する中国人社会人にせよ、比較的多い
お疲れ (～) / (～) 辛苦了	場面 1 から場面 4 および場面 6 と場面 7 においてあいさつをする場合、「お疲れ (～)」を使用する日本人学生より日本人社会人のほうが多い	場面 1 から場面 4 および場面 6 と場面 7 において「(～) 辛苦了」を使用する中国人学生と中国人社会人は 1 人もいない
会釈・お辞儀	いずれの出会いの場面においても、日本人学生にせよ日本人社会人にせよ使用する傾向が顕著である	いずれの出会いの場面においても、中国人学生より先生と先輩に使用する中国人社会人のほうが多い。

表 9.108 に示したように、「おはよう (～)」と「(～) 早 (～)」の使用について、場面 2 において、日本人社会人が親しい同僚に「おはよう (～)」を使用しない傾向が顕著であ

るが、日本人学生は親友に「おはよう（～）」を使用する傾向が顕著である。この結果が生じたのは、日本人学生と社会人における「おはよう（～）」に対する時間意識の差異によるものである。それに対して、いずれの場面においても相手が誰かにかかわらず「（～）早（～）」を使用する学生と社会人はほとんどいない。これは、中国人学生と社会人における「（～）早（～）」に対する時間意識が同様であるためである。

「こんにちは」と「（～）好」の使用について、いずれの出会いの場面およびメールと電話の場面においても、上位者と先輩に「こんにちは」を使用する日本人社会人と比べると、日本人学生は先生と先輩に「こんにちは」を使用する傾向が顕著である。これは、日本人学生の先生・先輩に対するウチ意識と日本人社会人の上位者・先輩に対するウチ意識の違いによるものである。それに対して、同様の状況で「（～）好」を使用する中国人学生と社会人の間に差異がないわけではないが、その差異が日本人ほど大きくない。これは中国人学生と社会人における目上の人に対する意識が類似しているためであると考えられる。

「さようなら」と「（～）再见」の使用について、偶然出会って別れる場面において日本人学生は先生と先輩に「さようなら」を使用する傾向が顕著である一方、日本人社会人は上位者と先輩に「さようなら」を使用しない傾向が顕著である。これは、両者における「さようなら」に対する意識の違いにも関わっている。それに対して、いずれの別れの場面においても中国人学生にせよ社会人にせよ積極的に「（～）再见」を使用する傾向が顕著である。これは、「（～）再见」と「さようなら」における場面による使用制限の違いによるものであると考えられる。「（～）再见」は場面による使用制限がほとんどないのに対して、「さようなら」は場面による使用制限が強い。

「お疲れ（～）」と「（～）辛苦了」の使用について、場面1から場面4および場面6と場面7において「（～）辛苦了」を使用する中国人学生と中国人社会人は1人もいないのに対して、場面1から場面4および場面6と場面7においてあいさつをする場合、「お疲れ（～）」を使用する日本人学生より日本人社会人のほうが多い。日本人学生と社会人における差異が生じたのは、両者における同一のグループに属している仲間意識の有無によるものであると考えられる。それに対して、中国人学生と社会人における「（～）辛苦了」の不使用は、「（～）辛苦了」においては意味拡張が発生していないことによるものである。

[会釈・お辞儀]の使用について、いずれの出会いの場面においても、日本人学生にせよ日本人社会人にせよ目上の人に[会釈・お辞儀]をする傾向が顕著である一方、別れの場面において使用しない傾向が顕著である。これは、出会いの場面と別れの場面の状況の違いによるものである。それに対して、中国人学生にせよ社会人にせよ目上の人に対して、[会釈・お辞儀]をしない傾向が顕著である。これは、中国社会では、[会釈・お辞儀]は通常、上位者に対して言葉によるあいさつのみでは十分でない特別の場合にとられる行動であるためである。

第 10 章 結論

10.1 本論文のまとめ

本研究では、まず、半構造化インタビュー調査により、中国人上級日本語学習者のあいさつ使用に関する困難点を明らかにした。それらの困難点に基づいて 7 つの場面を設定し、自由記述式調査により、日本に留学している中国人上級日本語学習者のあいさつ使用に関する問題点および、日中大学生におけるあいさつの使用実態を明らかにしたうえで、中国人上級日本語学習者のあいさつ使用に関する問題点が生じた原因を考察した。また、それらの問題点をどのように解決すべきかを考えるために、日中社会人におけるあいさつの使用実態および大学生と社会人におけるあいさつ使用の違いに関する日中の相違点も考察した。それらの結果は、以下のようにまとめられる。

10.1.1 中国人上級日本語学習者のあいさつ使用の困難点

まず、中国人上級日本語学習者（以下、学習者）のあいさつ使用の困難点について、「中国人上級日本語学習者の戸惑い」と「日本語教師と大学教員の違和感」という二つの観点から検討した。学習者の戸惑いは以下の戸惑い①から戸惑い⑥に、日本語教師と大学教員の違和感には以下の違和感①から違和感③に集約される。

- 戸惑い① 上位者に対するあいさつの仕方
- 戸惑い② 「さようなら」の用法
- 戸惑い③ 「お疲れ（～）」の用法
- 戸惑い④ その日 2 回以上出会った場面でのあいさつの仕方
- 戸惑い⑤ メールと電話でのあいさつの仕方
- 戸惑い⑥ 「おはよう（～）」と「こんにちは」の使い分け
- 違和感① 敬語の脱落
- 違和感② 呼称の過剰使用
- 違和感③ 「お疲れ（～）」の多用

10.1.2 学習者におけるあいさつ使用に関する日本人学生との相違点

上述の困難点に基づいて、7 つの場面を設定し、学習者と日本人学生を対象に自由記述式調査を実施した。その結果と前述のインタビューの結果から、学習者のあいさつ使用に関する日本人学生との相違点を 9 つ見出すことができた。そのうち、問題があると考えられる相違点①から相違点⑤を「問題点」と認定し、問題点とは言えない相違点を相違点⑥

から相違点⑨を「非問題点」とした。

問題点：

- 相違点① 呼称の過剰使用
- 相違点② 先輩に PPS を使用する傾向
- 相違点③ 親友に PPS+NPS を使用する傾向
- 相違点④ 「お疲れ（～）」の不適切な使用
- 相違点⑤ [会釈・お辞儀]の脱落

非問題点：

- 相違点⑥ 誰に対しても積極的にあいさつをする傾向
- 相違点⑦ 午後 12 時半以降における親友に対する「おはよう（～）」の不使用
- 相違点⑧ 「さようなら」の不使用
- 相違点⑨ 出会い・別れのあいさつとしての「お疲れ（～）」の不使用

上述の相違点②（先輩に PPS を使用する傾向）と相違点③（親友に PPS+NPS を使用する傾向）および相違点⑥（誰に対しても積極的にあいさつをする傾向）は、学習者のあいさつ使用に関する全体的な使用傾向であるといえる。一方、相違点①（呼称の過剰使用）、相違点④（「お疲れ（～）」の不適切な使用）、相違点⑤（[会釈・お辞儀]の脱落）と相違点⑦（「おはよう（～）」の不使用）、相違点⑧（「さようなら」の不使用）、相違点⑨（「お疲れ（～）」の不使用）は、学習者における個々のあいさつ表現使用の特徴である。

10.1.3 学習者のあいさつ使用における日本人学生との相違の原因

10.1.3.1 語用論的転移

問題点を含め、学習者のあいさつ使用の日本人学生との相違点が生じた原因を明らかにするため、日本人学生と中国人学生はそれぞれの母語環境でどのようにあいさつをするのか、それぞれどのような特徴があるのかについて自由記述式調査を行い、日中を対照させて分析した。その結果を表 10.1 に示す。

表 10.1 に示したように、学習者のあいさつ使用に関する日本人学生との相違点①②、相違点④から相違点⑦、相違点⑨については、学習者は中国人学生と類似した使用傾向を示している。そして、これらの点は、日本人学生の使用傾向と対照的である。このことから、相違点①②、相違点④から相違点⑦および相違点⑨が生じたのは、語用論的転移（学習者の母語での言語使用習慣からの影響）によるものであることが推察された。

表 10.1 大学生と学習者のあいさつ使用の傾向

学習者の日本人学生との相違点		日本人学生	学習者	中国人学生
①	呼称	あいさつをする場合先生に対する呼称の使用は5%以下にとどまっている	過剰に使用する傾向が顕著である	あいさつをする場合先生に対する呼称の使用は7割以上に達している
②	別れの場面におけるストラテジー	先生と先輩に PPS+NPS を使用する傾向が顕著である	先輩に PPS を使用する傾向が顕著である	先生と先輩に PPS+NPS だけではなく、PPS を使用するケースもある
③	出会い・メール・電話の場面の場面におけるストラテジー	親友に PPS を使用する傾向が顕著である	親友に PPS+NPS を使用する傾向が顕著である	親友に PPS を使用する傾向は顕著である
④	お疲れ(～)／(～) 辛苦了	—— ——	学習者がねぎらい・別れのあいさつ表現として授業後先生に使用するケースが見られる ⁵²	感謝・ねぎらいのあいさつ表現として授業後先生に使用するケースが見られる ⁵³
⑤	会釈・お辞儀	出会いの場面にせよ別れの場面にせよ、日本人学生はある程度使用する	いずれの場面においてもその使用率が低い	出会い・別れの場面において、ほとんど使用しない
⑥	あいさつの有無	あまり親しくない先生にあいさつをしない傾向が顕著である	誰に対しても積極的にあいさつをする傾向が顕著である	誰に対しても積極的にあいさつをする傾向が顕著である
⑦	おはよう(～)／(～) 早(～)	午後の時間において PPS として親友に「おはよう(～)」を使用する傾向が比較的顕著である	午後 12 時半頃に親友に「おはよう(～)」を使用しない傾向が顕著である	午後 12 時半頃に親友に「(～) 早(～)」を使用しない傾向が顕著である
⑧	さようなら／(～) 再見	単なる別れの場面において先生と先輩に「さようなら」を使用する傾向が顕著である	単なる別れの場面において先生と先輩に「さようなら」を使用しない傾向が顕著である	単なる別れの場面においてあまり親しくない先生と先輩に、「(～) 再見」を使用する傾向が顕著である
⑨	出会い・別れのあいさつとしてのお疲れ(～)／(～) 辛苦了	ほぼすべての場面において先輩に対して「お疲れ(～)」を比較的多く使用する傾向がある	出会い・メール・電話の場面において先輩に「お疲れ(～)」を使用しない傾向が顕著である	出会い・メール・電話の場面において、相手が誰かにかかわらず「(～) 辛苦了」を使用しない傾向が顕著である

⁵² この相違点は、自由記述式調査ではなく、日本人日本語教師に対するインタビュー調査によるデータから明らかになった。

⁵³ 2015 年 6 月 25 日～2015 年 9 月 18 日筆者が日本語できない中国語母語話者 12 名に対してインタビューした結果である。

一方、相違点③および⑧については、学習者は中国人学生と異なる使用傾向を示している。そして、これらの点について、中国人学生は日本人学生と類似した傾向を示している。このことから、相違点③および⑧が生じたのは、語用論的転移によるものではないことがわかった。これらの相違点が生じた主な原因は、日本語教育現場におけるあいさつの指導に関わるものであると考えられる。

10.1.3.2 日本語教育現場におけるあいさつ指導

中国の大学の日本語教育現場で広く使用されている『新編日語（修訂本）』（1-4冊）、『新版中日交流標準日本語』（初級上・下冊）、『新編日語教程』（1-4冊）、『みんなの日本語・大衆的日語』（1,2冊）を調べた結果、「おはよう（～）」、「こんにちは」、「さようなら」、「お疲れ（～）」、「呼称」、「会釈・お辞儀」などに関する解説はほとんどない。そして、それらに相当する中国語表現の用法との差異についてもほとんど触れられていない。上述の相違点③（親友に PPS+NPS を使用する傾向）が生じたのは、学習者が「こんにちは」のような日本語の NP 表現を PP 表現と誤解して親友に使用してしまったことによるものであると考えられる。

また、相違点⑧が生じたのも、日本語教育におけるあいさつ指導の仕方によるものと見られる。これについては、学習者に対するインタビュー調査における「大学一年生のとき、日本語先生から「長く別れる場合しか使用できない」と注意されたことがあるため、それ以来全然使ったことがない（LM01）」という回答から窺える。ただし、日本語教師が「さようなら」を回避して「失礼します」を教える背景には、日本語学習者の社会性への配慮があると推察できる。これは、上記の表 10.1 に示した「日本人大学生が先生と先輩に「さようなら」を使用する傾向が顕著」と以下の 10.1.4.2 で述べる「日本人社会人が上位者と先輩に「さようなら」を使用しない傾向が顕著（その代わりに「失礼します」を使用する傾向が顕著）」ということから窺えるだろう。

10.1.3.3 まとめ

学習者のあいさつ使用の日本人学生との相違点は、語用論的転移による部分が多い。相違点①②④⑤⑥⑦⑨は語用論的転移によるものである。一方、相違点③および⑧は語用論的転移と関係なく、日本語教育におけるあいさつ指導の仕方によるものである。ただし、相違点①②④⑤⑥⑦⑨にも、日本語教育におけるあいさつ指導の仕方が関わっていると考えられる。以上の検討結果をまとめて、表 10.2 に示す。

表 10.2 学習者におけるあいさつ使用の日本人学生との相違点が生じた原因（表 7.38 の再掲）

学習者のあいさつ使用の相違点			語用論 的転移 54	日本語教育に おけるあいさ つ指導の仕方
問 題 点	相違点①	呼称を過剰に使用する	○	○
	相違点②	別れの場面において先輩に PPS を使用する傾向がある	○	○
	相違点③	出会いおよびメールと電話の場面において親友に PPS+NPS を使用する傾向がある	×	○
	相違点④	「お疲れ（～）」を不適切に使用する	○	○
	相違点⑤	いずれの出会いの場面においても、あまり親しくない先輩に[会釈・お辞儀]をする中国人留学生は相対的に少ない	○	○
非 問 題 点	相違点⑥	誰に対しても積極的にあいさつをしている（PF に対する配慮を優先する）	○	○
	相違点⑦	午後の時間に誰に対しても「おはよう（～）」をほとんど使用しない	○	○
	相違点⑧	いずれの場面においても誰に対しても「さようなら」をほとんど使用しない	×	○
	相違点⑨	出会いおよびメールと電話の場面において誰に対しても「お疲れ（～）」をほとんど使用しない	○	○

10.1.4 大学生と社会人におけるあいさつ使用の日中差異

あいさつの使用について、どのように中国人日本語学習者に指導すべきかを明らかにするためには、日本人学生におけるあいさつの使用実態のみを調査するのでは十分であるとは言いがたい。なぜならば、日本語学習者の最終目標は、日本語で社会人を含む日本人と交流することであるためである。そこで、本研究では、大学生だけではなく社会人に対しても自由記述式調査を行った。

10.1.4.1 全体的な使用傾向の日中差異

あいさつをするかしないかについて、相手が誰かに関わらず日本人社会人はあいさつをする傾向が顕著である（PF に配慮する傾向が顕著である）。これについて、中国人社会人はほぼ同様の傾向を示している。一方、大学生の場合、日本人学生と中国人学生は異なる傾向を示している。出会いの場面において、日本人学生はあまり親しくない先生にあいさつをしない傾向が顕著であるのに対して、同様の状況で中国人学生は積極的にあいさつをする傾向が顕著である。言い換えれば、いずれの場面においても、相手が誰かに関わらず、中国人学生と中国人社会人は、両者とも自他の PF に配慮する傾向が顕著である。それに対して、出会いの場面で、相手が誰かに関わらず、日本人社会人は自他の PF に配慮する

⁵⁴ 相違点⑤については、厳密に言えば非言語コミュニケーションの転移であるが、本研究では、それも語用論的転移に含めて考えることとした。

傾向が顕著である一方、日本人学生は、あまり親しくない先生に対して、自他の NF に配慮する傾向が顕著である。この傾向を図 10.1 に示す。

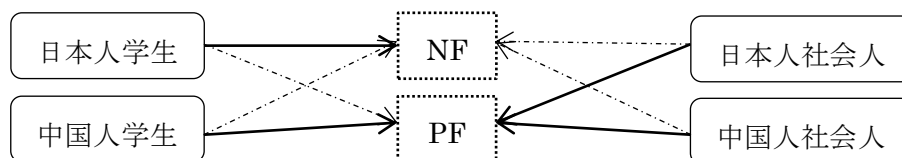


図 10.1 先生・上位者に対するあいさつの有無の日中差異

あいさつをする場合、日本人社会人は親しい同僚に PPS だけではなく、PPS+NPS を使用するケースもある。それに対して、中国人社会人は、親しい同僚に PPS を使用する傾向が顕著である。これも大学生に対する調査結果と対照的であるといえる。大学生の場合、日本人学生と中国人学生は同様の使用傾向を示し、両者とも親友に PPS を使用する傾向が顕著である。つまり、あいさつをする場合、中国人学生にせよ中国人社会人にせよ、親友と親しい同僚に PPS を使用する傾向が顕著である。それに対して、日本人学生は親友に PPS を使用する傾向が顕著であるが、日本人社会人は親しい同僚に PPS だけではなく、PPS+NPS を使用するケースもある。この使用傾向を図 10.2 に示す。

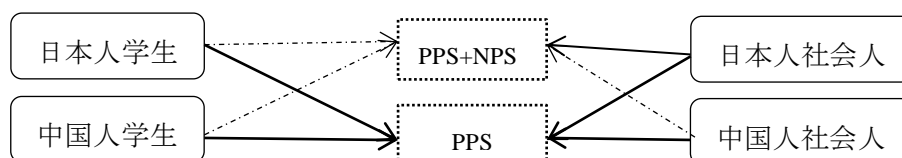


図 10.2 親友・親しい同僚に対するあいさつの戦略の日中差異

このような結果が生じたのは、日本人学生の親友との社会的な距離と日本人社会人の親しい同僚とのそれが異なっているのに対して、中国人学生の親友との社会的な距離と中国人社会人の親しい同僚とのそれは類似しているためであると考えられる。すなわち、日本人社会人は、改まった表現を用いるなど職場にふさわしい言語行動を求める社会規範に従う必要がある一方、日本人大学生が学生同士、特に親友同士であいさつをする場合、職場における社会規範を意識する必要はない。それに対して、中国人社会人は、職場における社会規範を意識する必要はないわけではないが、日本人社会人と比べると、自由度が大きい。

10.1.4.2 個別のあいさつ表現使用の日中差異

本研究では、あいさつの使用における対人関係による使用制限を明らかにするため、あいさつ使用の全体的な傾向にのみならず、「おはよう（～）」、「こんにちは」、「さようなら」、「お疲れ（～）」とそれらに対応する中国語表現および[会釈・お辞儀]などのような個別の

あいさつ表現の対人関係による使用制限も考察した。

「おはよう（～）」の使用について、12 時半頃に出会った場面において日本人社会人が親しい同僚に「おはよう（～）」を使用しない傾向が顕著であるが、日本人学生は親友に「おはよう（～）」を使用する傾向が顕著である。この結果が生じたのは、日本人学生と社会人における「おはよう（～）」に対する時間意識の差異によるものである。それに対して、中国では、いずれの場面においても相手が誰かにかかわらず「（～）早（～）」を使用する学生と社会人はほとんどいない。これは、中国人学生と社会人における「（～）早（～）」に対する時間意識が同様であるためである。

「こんにちは」と「（～）好」の使用について、いずれの出会いの場面およびメールと電話の場面においても、上位者と先輩に「こんにちは」を使用する日本人社会人と比べると、日本人学生は先生と先輩に「こんにちは」を使用する傾向が顕著である。これは、日本人学生の先生・先輩に対するウチ・ソト意識と日本人社会人の上位者・先輩に対するウチ・ソト意識の違いによるものである。それに対して、同様の状況で「（～）好」を使用する中国人学生と社会人の間に差異はないわけではないが、その差異が日本人ほど大きくない。これは中国人学生と社会人における目上の人に対する意識が類似しているためであると考えられる。

「さようなら」と「（～）再见」の使用について、偶然出会って別れる場面において日本人学生は先生と先輩に「さようなら」を使用する傾向が顕著である一方、日本人社会人は上位者と先輩に「さようなら」を使用しない傾向が顕著である。これは、「さようなら」の場面による使用制限および、世代による「さようなら」に対する意識の違いによるものである。それに対して、いずれの別れの場面においても中国人学生にせよ社会人にせよ「（～）再见」を使用する傾向が顕著である。これは、「（～）再见」には場面による使用制限および世代による「（～）再见」に対する意識の差異がないことに関わっていると考えられる。「さようなら」と「（～）再见」における場面による使用制限および世代による意識の差異を表 10.3 に示す。

表 10.3 「さようなら」と「（～）再见」における場面による使用制限の差異

	さようなら		（～）再见	
	日本人学生	日本人社会人	中国人学生	中国人社会人
偶然出会って別れる場面	○	×	○	○
共同作業をした後別れる場面	△	×	○	○
世代による意識の差異の有無	あり		なし	

（○:使用する傾向が顕著 ×:使用しない傾向が顕著 △:使用するケースもある ）

「お疲れ（～）」と「（～）辛苦了」の使用について、日本人学生と日本人社会人は、共同作業の後別れる場面だけではなく、単なる別れ・出会いの場面においても「お疲れ（～）」

を多く使用する傾向があるのに対して、中国人学生と中国人社会人は、共同作業の後別れる場面においては「(～)辛苦了」を使用するが、単なる別れ・出会いの場面においては「(～)辛苦了」を使用しない。そして、日本人は、世代による「お疲れ(～)」に対する意識の差異があるのに対して、中国人は、世代による「(～)辛苦了」に対する意識の差異がない。中国人学生と中国人社会人における別れ・出会いの場面での「(～)辛苦了」の不使用は、「(～)辛苦了」には単なる別れ・出会いのあいさつとしての用法の拡張が発生していないことによるものである。「お疲れ(～)」と「(～)辛苦了」における用法の差異を表 10.4 に示す。

表 10.4 「お疲れ(～)」と「(～)辛苦了」の用法の相違点

用法	お疲れ(～)		(～) 辛苦了	
	日本人学生	日本人社会人	中国人学生	中国人社会人
ねぎらいのあいさつ	◎	◎	○	○
別れのあいさつ	○	◎	×	×
出会いのあいさつ	○	◎	×	×
世代による差異の有無	あり		なし	

(◎:使用傾向が顕著 ○:使用傾向あり ×:ほとんど使用しない)

[会釈・お辞儀]の使用について、いずれの出会いの場面においても、日本人学生と日本人社会人は、目上の人に[会釈・お辞儀]をする傾向が顕著である。それに対して、中国人学生と中国人社会人は、目上の人に対して、[会釈・お辞儀]をしない傾向が顕著である。これは、中国社会では、[会釈・お辞儀]は通常、上位者に対して言葉によるあいさつのみでは十分でない特別の場合にとられる行動であるためである。

10.2 日本語教育におけるあいさつ指導法への提言

本研究では、中国人上級日本語学習者のあいさつ使用に関する問題点と日本人学生と中国人学生のあいさつ使用に関する相違点を明らかにしたほか、日本人社会人と中国人社会人、大学生と社会人におけるあいさつ使用の違いに関する日本人と中国人の差異も明らかにした。また、本研究では、あいさつの使用に関する全体的な使用傾向だけではなく、中国人上級日本語学習者が困難と感じる個別のあいさつ表現の実態も考察した。これらは、日本語教育現場におけるあいさつの指導に生かすことができると考えられる。

従来の日本語教育現場では、あいさつに対する解説は十分ではない。それが学習者のあいさつ使用に関する問題点が生じた原因の一つであることがわかった。それでは、単純に日本語教育現場であいさつの用法に関する説明を増やせばよいのかというと、それは必ずしも有効ではない。なぜならば、あいさつの用法には日本人学生の用法と日本人社会人の用法があって煩雑なためである。その中の一つあるいは両方を学習者に伝えれば十分では

ないかと思われるだろうが、それにしても必ずしも有効ではない。あいさつの用法は煩雑なだけでなく、変化しつつあるためである。むしろ、前述の社会規範を重視する度合いが高い文化とその度合いが低い文化の違いを学習者に伝達することが重要であると考えられる。

また、日本語教育現場では、すべてのあいさつ表現の使い方を逐一学習者に教えるのは不可能であり、一つのあいさつ表現におけるあらゆる使用方法を説明するのも不可能であるため、日常生活で常に使用されているあいさつ表現の典型的な用法を外国人日本語学習者に伝えるのが、現段階のあいさつ指導法の現状である。日本語教育現場で伝えられないあいさつ表現およびあるあいさつ表現における典型用法以外の使い方は、日本語学習者は自分自身で日本語母語話者と交流すること、あるいは独学することを通して、身につけなければならない。試行錯誤を繰り返しに繰り返した結果、日本語母語話者に近いレベルに達する学習者もいれば、なかなか高いレベルに達することができない学習者も少なくない。なぜなら、学習者は必ずしも誰でも常に日本語母語話者と交流する機会があるわけではないためである。また、日本語母語話者と常に交流する機会があっても、間違ってしまったときに必ずしも指摘してくれるわけではない。この場合、日本語学習者は、どのようにあいさつをすべきかわからず、母語の使用習慣に従ってあいさつするのは当然である。

以上より、現段階の日本語教育現場におけるあいさつの指導法に欠けているものは、あいさつの使用に関する日中差異、特にその背後にある日中文化のあり方の本質的な差異を学習者に伝達することであるといえるだろう。

本研究の成果をどのように日本語教育現場におけるあいさつの指導に用いるかについては、以下2つの例を通して説明する。

9.3.3.4において述べたように、「お疲れ(～)」を使用する前提条件は、相手と同一グループに属している仲間意識を持っていることである。日本語教育現場でこれを「お疲れ(～)」を使用する基準として日本語学習者に伝達したとする。ある日、日本人先生の授業に出た日本語学習者Aは授業の後、教室の出口でその先生と別れる時あいさつしようと思ったが、「お疲れ様でした」を使用できるかどうか分からない場合、その基準に従って、その先生と「同一グループに属している仲間意識」を持っていないため、「お疲れ様でした」より「失礼します」を使用したほうが無難であるとすぐ判断できるのではないかと考えられる。

また、表 10.2 に示したように、出会いの場面と別れの場面において先生と先輩にあいさつをする場合、中国人学生は PPS+NPS だけではなく PPS を使用するケースもあるのに対して、日本人学生はいずれの場面においても、先生と先輩に PPS+NPS を使用する傾向が顕著である。これを、日本語教育現場で具体的な例を通して日本語学習者に説明したとする。ある日、中国人日本語学習者 B に親しいと思う日本人先生から非丁寧体であいさつしてきた。学習者 B は、返事するときに親しさを示すため非丁寧体を使用できるかどうか戸惑う場合、上述のルールを思い出せたら、親しい先生に対しても丁寧体であいさつすべき

であると即時に判断できるのではないかと考えられる。

今後の日本語教育現場において、上述したようなあいさつの使用に関する日中文化の違い、ポライトネス・ストラテジーおよび個別のあいさつ表現の日本人と中国人の差異を、日本語教科書あるいは日本語教師による説明を通して、日本語学習者に正確に伝達できれば、日本語学習者のコミュニケーション能力の向上につながるのではないかと考える。

10.3 本研究の意義

本研究では、対照ポライトネス論的視点から、具体的な場面設定におけるあいさつ行動の実態を解明するのみならず、その相違点を生じさせている要因を明らかにし、相違点の中の問題点に対する解決策を提示した。ここでは、本研究の意義がどのような点にあるかについて述べる。

まず、研究立案に際してあらかじめインタビュー調査により中国人上級日本語学習者のあいさつに関する困難点を明らかにし、その困難点の解明に向けた研究を実践したのは本研究が初めてである。

また、日中あいさつ使用の実態について、大規模な質問紙調査を行ったうえで、「あいさつ表現」を考察することを通して、「目上の人にあいさつをする場合、日本人が PPS+NPS を使用する傾向が顕著であるのに対して、中国人は PPS+NPS だけではなく PPS を使用するケースもある」という結論を導いたのも本研究が初めてである。李 (2013)、劉 (2015)、平静 (2016) などの研究では、「断り表現」、「勧誘表現」、「依頼表現」などを考察することを通して、フェイス・リスク意識が弱い中国人は PPS を使用する傾向が強いのに対して、フェイス・リスク意識が強い日本人は NPS を使用する傾向が顕著であるというような見方が示されている例があるが、「あいさつ表現」に関する研究では、実証的なデータを用いてそのような見解を示した例は見られない。

さらに、本研究で明らかにした日本人と中国人のあいさつの特徴およびあいさつ習慣の違いから、日本社会と中国社会における人間関係の本質的なあり方の違いが窺えるのではないかと考えられる。本研究は日本人と中国人におけるあいさつ使用の差異を考察する際、日本人学生と中国人学生の差異、日本人社会人と中国人社会人の差異を検討するとどまらず、日本人学生・社会人の比較、中国人学生・社会人の比較を行った上で、さらにその結果の比較を行い、その差異を明らかにした。あいさつの全体的使用においても個別のあいさつ表現の使用においても、日本人学生と日本人社会人は顕著な差異を示しているのに対して、中国人学生と中国人社会人は類似した使用傾向を示している。さらにいえば、日本人学生と社会人におけるあいさつのストラテジーは異なっているのに対して、中国人学生と社会人におけるあいさつのストラテジーは類似している。これは、人間関係のあり方に関する日中言語文化の違いによる必然的な現象であると考えられる。言い換えれば、上述のあいさつ使用に関する日中差異から日中文化のあり方の違いが窺える。すなわち、場面

や立場の違いによってフェイス・リスクの値を変え、それにあわせて行動を変えるよう暗黙のうちに求められることを社会規範と呼ぶとすれば、日本では社会人（大人）としての社会規範と大学生としてのそれが異なるのに対して、中国では社会人としての社会規範と大学生としてのそれが類似しているということである。このようにあいさつ使用の考察を通じて日本と中国における文化の違いを明らかにすることができたことは本研究の大きな成果であると考えられる。

なお、日本人学生・社会人の比較、中国人学生・社会人の比較を行った上で、さらにその結果の比較を行い、その差異を明らかにしたのは、あいさつに関する対照研究では、本研究が初めてである。

10.4 今後の課題

本研究によって、日本人と中国人のあいさつの戦略は、場面や対人関係すなわち上下関係と親疎関係によって異なることがわかったが、男女、年齢、地域によって異なるかどうかについて考察する必要もあると思われる。これらの視点から考察すれば、より多くの興味深い結果が出る可能性が大きいと考えられる。今後はそうした変異を含むデータを増やしてさらに多角的にあいさつの使用について明らかにすることを目指したい。

また、研究対象を絞ったため、本研究では敢えて触れなかった部分であるが、中国人上級日本語学習者のあいさつ使用に関する困難点として「あいさつされたら、どのように返答すべきか」ということを考察する必要もあると思われる。実際の生活においては、親友や後輩だけでなく、先生や先輩から先にあいさつしてくることも少なくない。この場合、相手のあいさつと同じように返事してよい状況もあれば、そのまま返事してはいけない状況もある。その中にどのようなルールがあるのかを明らかにすれば、日本語教育現場におけるあいさつの指導にも有用であると考えられる。これについても、今後ポライトネスの観点と対人関係による使用制限の視点から考察したいと考える。

さらに、本研究でも触れたが、あいさつが時代につれて変化している例（「おはよう（～）」や「お疲れ（～）」の使用など）に関しては、これまでに何がどのように変化したかを明らかにするために、より多くのデータを収集し分析することが必要である。縦断的に日本人と中国人のあいさつ使用の変容を明らかにすれば、日本語教材や日本語教育現場におけるあいさつの指導法の改善に役立つと思われる。この点についての先行研究は乏しいため、今後も継続して日本人と中国人におけるあいさつの使用傾向の変化の様態を明らかにしていく必要がある。

参考文献

- 相原まり子「依頼表現の日中対照研究--相手に応じた表現選択」『言語情報科学』(6), 1-18
- 足利俊彦(2001)「*Compliments and Compliment Responses*」『文教大学国際学部紀要』11(2), 文教大学, 111-128
- 井出祥子・彭国躍(1994)「敬語表現のタイポロジー」『月刊言語』23-9:43-50
- 井出祥子(2006)『わきまへの語用論』大修館書店
- 伊藤恵美子(2004)「データ収集における方法論の検討—言語教育に寄与する発話データを集めるには?—」『ことばの科学』(17) 5-22
- 井上逸兵(2001)「丁寧さ(第7章)」小泉保(編)『入門語用論研究—理論と応用—』研究社, 124-140
- 井上優(2013)『相席で黙っていられるか—日中言語行動比較論—』岩波書店
- 浮田三郎(1994)「あいさつ表現に見られる日本的表現法—日本語、現代ギリシャ語、英語、中国語のあいさつ表現を対照して—」『広島大学留学生センター紀要』(4) 広島大学留学生センター, 15-27
- 宇野義方(2002)『使ってはいけない日本語』河出書房新社
- 江川清(2003)「日本人の言語行動の実態」北原保雄監修・荻野綱男編『朝倉日本語講座9 言語行動』朝倉書店, 29-44
- 王志英(2005)『命令・依頼の表現—日本語・中国語の対照研究—』勉誠出版
- 王秀芳(2008)「在日中国人の言語使用—あいさつ場面について—」『国語学研究』(47), 68-81
- 王秀芳(2010)『在日中国人の言語使用に関する社会言語学的研究』東北大学大学院, 博士学位論文
- 大河内康憲(1997)『中国語の諸相』白帝社
- 岡村奈佳(2015)「ポライトネス理論からみた日韓挨拶表現の対照—出会いの場面を中心に—」www.wiki.jp/wp-content/uploads/2015/09/150116_resume-okamura.pdf (参照 2016-3-1)
- 曲衛国・陳流芳(1999)「礼貌称呼的语用学解释」『華東師範大学学报(哲学社会科学版)』(6) 華東師範大学, 118-124
- 曲衛国・陳流芳(2001)「汉语招呼分析」『華東師範大学学报(哲学社会科学版)』3 華東師範大学, 116-124
- 曲志強・王娟(2001)「日中日常あいさつ表現再考」『比較社会文化研究』(10), 九州大学, 27-36
- 曲志強(2003)「対人関係における親疎上下概念について—日本人と滞日中国人との対照の立場から—」『教育学研究紀要(CD-ROM版)』(49), 中国四国教育学会, 225-230
- 曲志強(2008)『日中日常あいさつ表現対照研究:文化的言語的視点から』九州大学大学院, 博士学位論文
- 曲志強・林伸一(2010)「日本語と中国語のあいさつ表現について—外国人研究者の特別授

- 業より—」『山口国文』(33), 52-37
- 金可可 (2012) 「「断り」行為に関する日中対照研究—「意味公式」とポライトネスの観点から—」『指向：日本言語文化学・応用日本語学論究』(9), 164-173
- 熊谷智子 (2002) 「『対照研究』と『言語教育』をつなぐために」国立国語研究所『日本語と外国語との対照研究 X・対照研究と日本語教育』くろしお出版, 21-34
- 熊谷智子 (2013) 「日本語の「謝罪」をめぐるフェイスワーク: 言語行動の対照研究から」『東京女子大学比較文化研究所紀要』(74), 21-36
- 倉持益子 (2008a) 「「お疲れさま」系あいさつの意味の希薄化と拡大—職場での使い方を中心に」『明海日本語』(13), 明海大学日本語学会, 65-74
- 倉持益子 (2008b) 「「お疲れ」系あいさつの使用場面の拡大」『言語と交流』11, 言語と交流研究会, 37-49
- 倉持益子 (2013) 『あいさつ言葉の生成と変容』明海大学大学院, 博士学位論文
- 栗原豪彦 (2008) 「ポライトネス理論をめぐる論争 —「合理主義的(rationalist)アプローチ」と「言説的(discursive)アプローチ」—」『北海学園大学人文論集』(41), 1-51
- 栗原豪彦 (2009) 「ポライトネス理論をめぐる論争—「合理主義的(rationalist)アプローチ」と「言説的(discursive)アプローチ」(承前)(退職記念)—」『北海学園大学人文論集』(42), 85-126
- 国立国語研究所編 (2005) 『新「ことば」シリーズ⑧伝え合いの言葉』国立印刷局
- 酒井順子 (1984) 「留学生にとって必要と思われるあいさつ言葉および決まり文句 (I)」『日本語学校論集』(11) 東京外国語大学, 26-55
- 塩原淳平 (2006) 「大学のサークルにおけるスラングの浸透とそれにかかわる待遇性—別れの場面で使われる「おつかれさま」を例に—」『言語文化学研究. 言語情報編』(1) 大阪府立大学, 75-100
- 施暉 (2002) 「中日両国語に於ける「あいさつ」についての比較対照研究—大学生の「家庭」「訪問」「公園」での「あいさつ」言語行動を中心に—」『国文学攷』(174), 17-34
- 施暉 (2005a) 『日中両国語における「あいさつ」言語行動についての比較研究』広島市立大学大学院, 博士学位論文
- 施暉 (2005b) 「あいさつ」言語行動に関する日中比較研究—日本語のあいさつに対する中国人留学生の違和感について—」『広島国際研究』(11), 広島市立大学国際学部, 245-263
- 施暉 (2012) 「日中両国語における「あいさつ言語行動」の異同について (1) 運用面での「上下」と「親疎」を中心に」『中國學研究論集』(29), 70-64
- 施信余 (2006) 「「依頼・断り」のコミュニケーションについて—日本人同士と台湾人同士による電話会話の分析から」『待遇コミュニケーション研究』(4), 待遇コミュニケーション研究会, 17-32
- 嶋津拓 (2010) 「敬語教育・敬意表現教育に関する一考察—その未開拓領域について—」『長

- 崎大学留学生センター紀要』(18), 35-50
- 清水崇文(2009)『中間言語語用論概論・第二言語学習者の語用論的能力の使用・習得・教育』スリーエーネットワーク
- 秦石美(2005)『『若者ことば』の学習現状と教育価値に関する中日対照研究』『フェリス学院大学日文大学院紀要』(12), 35-40
- 秦礼君(1999)「談准确翻译“你(您)辛苦了”」『日语知识』(7), 51-53
- 鈴木孝夫(1975)『ことばと社会』中央公論社
- 鈴木孝夫(1981)「「あいさつ」とは何か」『「ことば」シリーズ 14 あいさつと言葉』文化庁, 34-36
- 銭永紅(2014)「《礼貌新解》书评」『现代外语(双月刊)』(5), 725-728
- 銭万万(2010)「从日语寒暄语的误用谈跨文化交际能力的培养」『吉林省教育学院学报』9(30), 91-92
- 園田博文・奥村圭子・内海由美子・黒沢晶子(2006)「留学生と日本人学生の交流活動実践から見えてくるもの—「気づき」を通じた異文化間コミュニケーション能力の養成に向けて—」『山形大学紀要(教育科学)』14(1), 山形大学, 11-33
- 孫楊(2009a)「勧誘における日本語母語話者と中国人日本語学習者の違い—「～しないか」と「～しようか」を中心に—」『人間文化』(25), 55-64
- 孫楊(2009b)「日本語母語話者と中国人日本語学習者に見られる依頼取り消しのストラテジーの違い」『人間文化』(26), 1-14
- 孫楊(2013)「勧誘に対する「承諾」発話行為について—日本語母語話者と中国人日本語学習者を対象として—」『漢日語言対比研究論叢』(4), 北京大学出版社, 204-220
- 滝浦真人(2008)『ポライトネス入門』研究社
- 滝浦真人(2013)『日本語は親しさを伝えられるか』岩波書店
- 田中春美・田中幸子(1996)『社会言語学への招待—社会・文化・コミュニケーション—』ミネルウェア書房
- 田中望(1985)「外国人日本語行動—会話のオープニングストラテジー—」『日本語学』8(4), 明治書院, 70-78
- 張恵芳・顧心玉(2015)「“诉苦表达”的汉日对照分析—以网络上对宾馆的差评为例—」『漢日語言対比研究論叢』(6), 華東理工大学出版社, 153-164
- 丁尚虎(2016)「呼称の機能と対人関係による使用制限—日中対照の視点から—」『国際文化研究』(22), 東北大学国際文化学会, 113-126
- 丁尚虎(2016)「日本語学習者におけるあいさつの使用に関する困難点—中国人留学生を対象に—」『日语教育与日本学研究—大学日语教育研究国际研讨会论文集(2015)』(17), 华东理工大学出版社, 73-76
- 丁尚虎(2016)「中国人留学生におけるあいさつの使用実態—「おはよう(～)」と「こん

- にちは」を中心に—』『文芸研究』(181), 16-28
- 丁尚虎 (2016)「中国人留学生の別れのあいさつの使用実態とその問題点—日本人学生と比較して—」『日中言語研究と日本語研究』(9), 48-59
- 丁尚虎 (2017)「大学生におけるあいさつ使用の日中対照—出会いの場面を中心に—」『国際文化研究』(23), 東北大学国際文化学会, 65-79
- 登田龍彦 (2004)「挨拶表現「お疲れ(さま)」について—誤用における相互主観化—」『熊本大学教育学部紀要・人文科学』(53), 1-7
- 陶琳・尹秀美・西嶋義憲 (2012)「「丁寧さ」・「礼貌」・「공손(恭遜)」—"Politeness"に対応する日常的個別概念の日・中・韓比較—」『語彙研究』(10), 語彙研究会 1-12
- 中西太郎 (2011)『待遇的観点から見た日本語あいさつ表現の研究』東北大学大学院, 博士学位論文
- 中道真木男・石田 恵里子 (1999)「日本語学習者と「あいさつ」—日本語教育の場で(特集 あいさつことばとコミュニケーション)(位相語その他)—」『国文学 解釈と教材の研究』44 (6), 学灯社, 118-125
- 西江雅之 (2000)「挨拶とその型」『言語』29 (4), 大修館書店, 60-67
- 西香織 (2012)「中国語の呼びかけ語の語用論的機能について—出会いのあいさつを中心に—」『中国語教育』(10), 中国語教育学会, 231-250
- 濱屋方子 (2007)『日本語における「あいさつ」の諸相』致良出版社
- 速司正成(2004)「あいさつ表現としての『おはよう』」全国語学教育学会・日本教育カウンセラー協会『山口支部研究紀要』9, 135-149
- 比嘉正範 (1985)「あいさつとあいさつ言葉」『日本語学』4 (8), 明治書院, 4-14
- 文化庁文化部国語課 (1994)『異文化理解のための日本語教育』大蔵省印刷局, 111-112
- 平静 (2016)『日中ポライトネスの対照研究—中国人にほんご学習者への指導方法開発に向けて—』九州大学大学院, 博士論文
- 彭国躍 (1999)「中国語に敬語が少ないのはなぜ?」『月刊言語』28 (11), 60-63
- 彭飛 (1990)『外国人を悩ませる日本人の言語習慣に関する研究』和泉書院
- ト雁 (1990)「あいさつ行動様式に関する基礎的探究—日・中語あいさつ表現の比較を中心として—」『日本文化研究:筑波大学大学院博士課程日本文化研究学際カリキュラム紀要 (2)』, 131 (18) -148 (1)
- 水谷修 (1979)『日本語の生態 内の文化を支える話しことば』創拓社
- 水谷信子 (1999)『心を伝える日本語講座』研究社出版
- 水野マチ子 (1998)「敬意の表現の行方—「同志」は今?—」『日本語学』(8) 明治書院, 54-59
- 母育新 (2001)「待遇行動における日本人と中国人の比較—ポライトネスの視点からの考察—」『麗沢大学紀要』(73), 209-225
- 母育新 (2015)「近四十年来的汉日对比研究综述」『漢日語言对比研究論叢』(6), 華東理工

- 大学出版社, 84-95
- 蒙榘 (2010) 「日中断りにおけるポライトネス・ストラテジーの一考察—日本人会社員と中国人会社員の比較を通して—」『異文化コミュニケーション研究』(22), 1-28
- 森敏昭・吉田寿夫 (1990) 『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』北大路書房
- 山田玲子・トンプソンハイジファインスタイン・トンプソン マイケル (1994) 「異文化適応に関する基礎研究」『北海道東海大学紀要.人文社会科学系』(7) 北海道東海大学, 115-129
- 楊凱榮 (2013) 「誤用例に見る日中表現の違い—日中対照研究の現場から—」『日本語学』(11), 明治書院, 54-64
- 吉岡泰夫 (2011) 『コミュニケーションの社会言語学』大修館書店
- 李海燕 (2013) 『断り表現の日中対照研究』東北大学大学院, 博士論文
- 李宜真 (2008) 「依頼の言語行動に関する日中語対照研究」『東北大学高等教育開発推進センター紀要』(3), 117-129
- 劉静慧 (2010) 「出会いのあいさつ行動の対照研究—日本と台湾における大学生の使用実態の調査からの分析—」『東アジア日本語教育・日本文化研究』(13), 173-191
- 劉静慧 (2011) 「別れのあいさつ行動の対照研究—日本人大学生と台湾人大学生の使用実態の調査からの分析—」『東アジア日本語教育・日本文化研究』(14), 147-168
- 劉丹丹 (2015) 『勧誘の言語行動についての日中対照研究—被勧誘者の言語行動を中心として—』大阪大学大学院, 博士論文
- 廬葦 (2001) 「“辛苦了”怎么译?」『科技英语学习』(10)
- Brown, P. & Levinson, S.C. 1987 *Politeness : Some Universals in Language Usage*, Cambridge: Cambridge University Press. 田中典子監訳・斉藤早智子他訳 (2011) 『ポライトネス：言語使用におけるある普遍現象』研究社
- Eelen, G. 2001. *A Critique of Politeness Theories*. Manchester: St. Jerome Publishing.
- Goffman, E. 1967. *Interaction ritual: Essays on face-to-face behavior*. New York: Basic Books.
- Hall, E.T.(1976). *Beyond Culture*. New York: Anchor Books. 岩田慶治他訳『文化を超えて』(1993) TBS ブリタニカ
- Ide, S. (1989). *Formal forms and discernment: Two neglected aspects of universals of linguistic politeness*. *Multilingua*, 8(2/3), 223-248
- Kasper, G. 1992. *Pragmatic transfer*. *Second Language Research*, 8 (3), 203-231
- Matsumoto, Y. (1988). *Reexamintion of the universality of face: Politeness phenomena in Japanese*. *Journal of Pragmatics*, 12(4), 403-426.
- Selinker, L. 1972. *Interlanguage*. *IRAL*, 10 (2), 209-231
- Teaching and Curriculum Center, University of Hawaii at Manoa. 文化庁ウェブサイト「平成17年度「国語に関する世論調査」の結果について」<http://www.bunka.go.jp/> (2016-3-20)
- Watts, R. 2003. *Politeness*. Cambridge: Cambridge University Press.

- Watts, R., Ide, S., & Ehlich, K. (eds.)1992/2005. *Politeness in Language: Studies in its history, theory and practice*.2nd revised and expanded edition with a new introduction by Richard J. Watts. Berlin: Mouton de Gruyter.
- Yamashita, S. O. (1996) *Six Measures of JSL Pragmatics*. Honolulu: Second Language

1. インタビュー調査①調査票

●中国の大学における中国人日本語学習者の基本情報

●日本の大学における中国人日本語学習者の基本情報

1. 关于日本人的“あいさつ”，和中国人比起来你觉得有特别不一样的地方吗？
2. 见到日本人，有没有过不知道如何进行“あいさつ”的经历？有的话，请具体介绍一下。
3. 与日本人分别的时候，有没有过不知道如何进行“あいさつ”的经历？有的话，请具体介绍一下。
4. 见到日本人的时候经常使用，但其用法准确与否却不是特别清楚。像这样的“あいさつ”能简单介绍几个吗？
5. 与日本人分别的时候经常使用，但其用法准确与否却不是特别清楚。像这样的“あいさつ”能简单介绍几个吗？
6. 你觉得日本人的“あいさつ”难（包括“难理解”和“难以使用”）吗？最难的地方在哪里？为什么会觉得难？

2. インタビュー調査②調査票

日本人日本語教師に対するインタビュー調査

●中国の大学に勤めている日本人日本語教師の基本情報

年齢層：(30 40 50 60) 代； 性別：(男 / 女)

所属：() 大学； 中国の大学での職歴：() 年 () カ月

1. 中国人日本語学習者から（日本語で）あいさつされたとき、不自然あるいはおかしいと思われることがありますか。一例でもいいので、ご紹介ください。
2. 中国人日本語学習者のあいさつの使用について、違和感を覚えた場合、指摘したことがありますか。指摘する理由あるいはしない理由を教えてくださいませんか。
3. 「おはようございます」と「こんにちは」の使用について、何か気になることがありますか。ある留学生が午前中 10 時頃日本人先生に出会った場合、「おはようございます」とあいさつしたところ、その先生から「こんにちは」と返事してもらったことがあります。これについてどう思われますか。
4. 「お疲れ様です」と「お疲れ様でした」の使用について、何か気になることがありますか。同じだと思われますか。そうでなければ、どういう違いがあると思われますか。
5. 「さようなら」の使用について、何か気になることがありますか。中国人学習者は滅多に使用していないようです。それは長くあるいは永遠に別れる場合しか使用できないという印象があるからです。これについてどう思われますか。学生と別れる時、「さようなら」とあいさつしてもらった場合、失礼だと思われますか。
6. 中国人日本語学習者に対するあいさつの指導について、難しいと思われますか。難しいと思われるなら、その難しさについてご紹介くださいませんか。

3. インタビュー調査③調査票

日本人大学教員に対するインタビュー調査

●日本の大学に勤めている日本人大学教員の基本情報

年齢層：(30 40 50 60) 代； 性別：(男 / 女)；所属：() 大学
中国人留学生への指導歴：

1 年未満	1 年以上 3 年未満	3 年以上 5 年未満
5 年以上 10 年未満	10 年以上 20 年未満	20 年以上

1. 中国人日本語学習者から（日本語で）あいさつされたとき、不自然あるいはおかしいと思われることがありますか。一例でもいいので、ご紹介ください。
2. 中国人日本語学習者のあいさつの使用について、違和感を覚えた場合、指摘したことがありますか。指摘する理由あるいはしない理由を教えてくださいませんか。
3. 「おはようございます」と「こんにちは」の使用について、何か気になることがありますか。ある留学生が午前中 10 時頃日本人先生に出会った場合、「おはようございます」とあいさつしたところ、その先生から「こんにちは」と返事してもらったことがあります。これについてどう思われますか。
4. 「お疲れ様です」と「お疲れ様でした」の使用について、何か気になることがありますか。同じだと思われますか。そうでなければ、どういう違いがあると思われますか。
5. 「さようなら」の使用について、何か気になることがありますか。中国人学習者は滅多に使用していないようです。それは長くあるいは永遠に別れる場合しか使用できないという印象があるからです。これについてどう思われますか。学生と別れる時、「さようなら」とあいさつしてもらった場合、失礼だと思われますか。
6. 中国人日本語学習者に対するあいさつの指導について、難しいと思われますか。難しいと思われるなら、その難しさについてご紹介くださいませんか。

4. 自由記述式調査①調査票

中国人留学生に対する自由記述式調査

調査委托书

我是东北大学的一名在读博士生，在做有关礼貌语言的中日对比研究，为了收集研究的相关数据开展本次调查。本调查收集的数据将作为博士论文的一部分使用，其真实性极为重要。恳切希望您在填写该问卷的时候能够如实认真作答。本调查为不记名调查，调查中涉及的所有信息仅作为研究数据使用。非常感谢您能抽时间配合此次调查！

丁尚虎 Email: sghimkf@yahoo.co.jp

日本东北大学国际文化研究生院 国际文化交流

★“关系亲近” ⇒ 可以聊私人话题，或者感觉可以聊私人话题

★“关系一般” ⇒ 说过话但不聊私人话题，或者感觉不会聊私人话题

场景 1 人际关系	上午 11 点前后，在教学楼的走廊上碰到下面这些日本人（一天当中第一次碰到），会打招呼吗？你是怎样和他们打招呼的呢？
关系一般的老师	
关系亲近的老师	
好朋友	
关系一般的学长学姐	
关系亲近的学长学姐	

场景 2 人际关系	（非双休・节假日）中午 12 点半左右，在去学校食堂的路上碰到下面这些日本人（一天当中第一次碰到），会打招呼吗？你是怎样和他们打招呼的呢？
关系一般的老师	
关系亲近的老师	
好朋友	
关系一般的学长学姐	
关系亲近的学长学姐	

场景 3 人际关系	一天的课结束之后，你准备回宿舍休息的时候在大学（教学楼）的走廊上碰到了下面这些日本人。简单寒暄后，知道了他们也要回去休息，于是一起走到了校门口，因为不是一个方向，在校门口分开的时候，会打招呼吗？你会怎样和对方道别呢？
关系一般的老师	
关系亲近的老师	
好朋友	
关系一般的学长学姐	
关系亲近的学长学姐	

场景 4 人际关系	某天上午你第一次碰到下面这些日本人的时候已经打过招呼了。中午 12 点半左右，在校园里的路上再次碰到他们，你会再次和他们打招呼吗？会的话是怎样打招呼的呢？
关系一般的老师	
关系亲近的老师	
好朋友	
关系一般的学长学姐	
关系亲近的学长学姐	

场景 5 人际关系	假如你作为志愿者参加一场公益活动，活动结束后和其他人一起收拾会场。收拾完后在会场的出口和下面这些日本人分开的时候，会和他们道别吗？你会怎样和他们道别呢？
关系一般的老师	
关系亲近的老师	
好朋友	
关系一般的学长学姐	
关系亲近的学长学姐	

场景 6	假如你有事情需要和下面这些日本人见面商量。上午 11 点前后你通过电子邮件和他们约定见面的时间和地点，在邮件的开头你会写一些寒暄语吗？会的话，会写下怎样的寒暄语呢？
人际关系	
关系一般的老师	
关系亲近的老师	
好朋友	
关系一般的学长学姐	
关系亲近的学长学姐	

场景 7	假如你有事情需要打电话和下面这些日本人商量，上午 11 点前后你给他们打电话的时候，在电话的开头你会说一些寒暄语吗？会的话，会说怎样的寒暄语呢？
人际关系	
关系一般的老师	
关系亲近的老师	
好朋友	
关系一般的学长学姐	
关系亲近的学长学姐	

★请填写如下信息：

●性别（男・女） ●年龄：_____岁 ●所属：_____大学_____系_____年级 ●高中或大学期间有没有参加过学校社团： <u> 有 </u> <u> 无 </u> （有的话）社团名称： _____ ●有没有过打工经历： <u> 有 </u> <u> 无 </u> （有的话）： <u> 早上 </u> <u> 中午 </u> <u> 傍晚 </u> <u> 深夜 </u> 打工种类： <u> 超市 </u> <u> 餐馆 </u> <u> 家教 </u> <u> 其他 </u> _____
--

5. 自由記述式調査②調査票

日本人学生に対する自由記述式調査

調査協力の依頼書

東北大学大学院国際文化研究科のテイショウコと申します。研究テーマは「あいさつの日中対照研究—対人関係による使用制限を中心に—」です。研究データを収集するために今回のアンケート調査を行わせていただきます。ご記入いただいた個人情報は研究目的以外には一切使用しません。お忙しい中大変恐縮ですがご協力をお願いします。

丁尚虎（テイショウコ） Email:sghimkf@yahoo.co.jp..

東北大学大学院国際文化研究科・国際文化交流論専攻

★注:「親しい」 ⇒ プライベートなことも話せる／話せそう

「あまり親しくない」 ⇒ 話をしたことはあるが、プライベートなことまで話題にしない／しそうもない

対人関係 \ 場面 1	午前 11 時頃、大学の廊下でその日初めて以下の人に出会ってあいさつしますか。あいさつをする場合、どのようにあいさつをしますか。
あまり親しくない先生	
親しいと思う先生	
親友	
あまり親しくない先輩	
親しいと思う先輩	

対人関係 \ 場面 2	平日お昼の 12 時半頃キャンパスで、食堂に向かう途中、その日初めて以下の人に出会ってあいさつをしますか。あいさつをする場合、どのようにあいさつをしますか。
あまり親しくない先生	
親しいと思う先生	
親友	
あまり親しくない先輩	
親しいと思う先輩	

対人関係 \ 場面 3	夕方 5 時頃自分が帰る時、大学の廊下で以下の人に出会って、簡単なあいさつをして相手も帰るところだと分かりました。一緒に大学の出口まで行って、最後に大学の出口で以下の人と別れる場合、どのようにあいさつをしますか。
あまり親しくない先生	
親しいと思う先生	
親友	
あまり親しくない先輩	
親しいと思う先輩	

対人関係 \ 場面 4	その日の午前中初めて以下の人に出会った時にもうあいさつしました。お昼の 12 時半頃、校内の道で再び以下の人に出会った場合、あいさつをしますか。あいさつをする場合、どのようにあいさつをしますか。
あまり親しくない先生	
親しいと思う先生	
親友	
あまり親しくない先輩	
親しいと思う先輩	

対人関係 \ 場面 5	以下の人と一緒にボランティアとして、イベント会場を片付けました。その後、以下の人と別れる場合、あいさつをしますか。あいさつをする場合、どのようにあいさつをしますか。
あまり親しくない先生	
親しいと思う先生	
親友	
あまり親しくない先輩	
親しいと思う先輩	

<div>場面 6</div> <div>対人関係</div>	以下の人に相談する必要があります。相談の時間を予約するため午前 11 時頃以下の人にメールを送ります。メールの冒頭であいさつの言葉を書きますか。書く場合、どのようなあいさつを書きますか。
あまり親しくない先生	
親しいと思う先生	
親友	
あまり親しくない先輩	
親しいと思う先輩	

<div>場面 7</div> <div>対人関係</div>	相談があり、以下の人に電話をかけることになりました。午前 11 時頃電話をかける場合、あいさつをしますか。あいさつをする場合、どのようにあいさつをしますか。
あまり親しくない先生	
親しいと思う先生	
親友	
あまり親しくない先輩	
親しいと思う先輩	

★あなたのことについて、教えてください。

<p>●性別（ 男・女 ） ●年齢:_____歳</p> <p>●所属:_____大学_____学部_____年生</p> <p>●高校、大学での部活動経験： <u> 有 </u> <u> 無 </u> （有の場合）：_____部,_____部</p> <p>●アルバイト経験： <u> 有 </u> <u> 無 </u> （有の場合）： <u> 朝 </u> <u> 昼 </u> <u> 夕方 </u> <u> 深夜 </u></p> <p>主なアルバイトの職種： <u> コンビニ </u> <u> 飲食店 </u> <u> 家庭教師 </u> <u> その他 </u>_____</p>

6. 自由記述式調査③調査票

中国人学生に対する自由記述式調査

調査委托书

我是东北大学的一名在读博士生，在做有关礼貌语言的中日对比研究，为了收集研究的相关数据开展本次调查。本调查收集的数据将作为博士论文的一部分使用，其真实性极为重要。恳切希望您在填写该问卷的时候能够如实认真作答。本调查为不记名调查，调查中涉及的所有信息仅作为研究数据使用。非常感谢您能抽时间配合此次调查！

丁尚虎 Email: sghimkf@yahoo.co.jp

日本东北大学国际文化研究生院 国际文化交流

★“关系亲近” ⇒ 可以聊私人话题或者感觉可以聊私人话题

★“关系一般” ⇒ 说过话，但不聊私人话题或感觉不会聊私人话题

场景 1 人际关系	上午 11 点前后，在教学楼的走廊上碰到下面这些人（一天当中第一次碰到），会打招呼吗？你是怎样和他们打招呼的呢？
关系一般的老师	
关系亲近的老师	
好朋友	
关系一般的学长学姐	
关系亲近的学长学姐	

场景 2 人际关系	（非双休・节假日）中午 12 点半左右，在去学校食堂的路上碰到下面这些人（一天当中第一次碰到），会打招呼吗？你是怎样和他们打招呼的呢？
关系一般的老师	
关系亲近的老师	
好朋友	
关系一般的学长学姐	
关系亲近的学长学姐	

<div>场景 3</div> <div>人际关系</div>	<p>一天的课结束之后，你准备回宿舍休息的时候在大学（教学楼）的走廊上碰到了下面这些人。简单寒暄后，知道了他们也要回去休息，于是一起走到了校门口，因为不是一个方向，在校门口分开的时候，会道别吗？你会怎样和对方道别呢？</p>
关系一般的老师	
关系亲近的老师	
好朋友	
关系一般的学长学姐	
关系亲近的学长学姐	

<div>场景 4</div> <div>人际关系</div>	<p>某天早上你第一次碰到下面这些人时已经打过招呼了。中午 12 点半左右，在校园里的路上再次碰到他们，你会再次和他们打招呼吗？会的话是怎样打招呼的呢？</p>
关系一般的老师	
关系亲近的老师	
好朋友	
关系一般的学长学姐	
关系亲近的学长学姐	

<div>场景 5</div> <div>人际关系</div>	<p>假如你作为志愿者参加一场公益活动，活动结束后和其他人一起收拾会场。收拾完后在会场的门口和下面这些人分开的时候，会道别吗？你会怎样和他们道别呢？</p>
关系一般的老师	
关系亲近的老师	
好朋友	
关系一般的学长学姐	
关系亲近的学长学姐	

场景 6	假如你有事情需要和下面这些人见面商量。上午 11 点前后你通过电子邮件和他们约定见面的时间和地点，在邮件的开头你会写一些寒暄语吗？会的话，会写下怎样的寒暄语呢？
人际关系	
关系一般的老师	
关系亲近的老师	
好朋友	
关系一般的学长学姐	
关系亲近的学长学姐	

场景 7	假如你有事情需要打电话和下面这些人商量，上午 11 点前后你给他们打电话的时候，在电话的开头你会说一些寒暄语吗？会的话，会说怎样的寒暄语呢？
人际关系	
关系一般的老师	
关系亲近的老师	
好朋友	
关系一般的学长学姐	
关系亲近的学长学姐	

★请填写如下个人信息。

<p>●性别（男·女） ●年龄:_____岁</p> <p>●所属:_____大学_____系_____年级</p> <p>●高中或大学期间有没有参加过学校社团: <u> 有 </u> <u> 无 </u>（有的话）社团名称: _____</p> <p>●有没有过打工经历: <u> 有 </u> <u> 无 </u>（有的话）: <u> 早上 </u> <u> 中午 </u> <u> 傍晚 </u> <u> 深夜 </u></p> <p>打工类型: <u> 超市 </u> <u> 餐馆 </u> <u> 家教 </u> <u> 其他 </u>_____</p>
--

7. 自由記述式調査④調査票

日本人社会人に対する自由記述式調査

調査協力の依頼書

東北大学大学院国際文化研究科のテイショウコと申します。研究テーマは「あいさつの日中対照研究—対人関係による使用制限を中心に—」です。研究データを収集するために今回のアンケート調査を行わせていただきます。ご記入いただいた個人情報は研究目的以外には一切使用しません。お忙しい中大変恐縮ですがご協力をお願いします。

丁尚虎（テイショウコ） Email:sghimkf@yahoo.co.jp...

東北大学大学院国際文化研究科・国際文化交流論専攻

★注:「親しい」 ⇒ プライベートなことも話せる / 話せそう

「あまり親しくない」 ⇒ 話をしたことはあるが、プライベートなことまで話題にしない / しそうもない

対人関係 \ 場面 1	午前 11 時頃、職場の廊下でその日初めて以下の人に出会ってあいさつしますか。あいさつをする場合、どのようにあいさつをしますか。
あまり親しくない上位者	
親しいと思う上位者	
親しい同僚	
あまり親しくない先輩	
親しいと思う先輩	

対人関係 \ 場面 2	平日お昼の 12 時半頃職場の付近で、昼食に向かう途中、その日初めて以下の人に出会ってあいさつをしますか。あいさつをする場合、どのようにあいさつをしますか。
あまり親しくない上位者	
親しいと思う上位者	
親しい同僚	
あまり親しくない先輩	
親しいと思う先輩	

対人関係 \ 場面 3	夕方 5 時頃自分が帰る時、職場の廊下で以下の人に出会って、簡単なあいさつをして相手も帰るところだと分かりました。一緒に職場の出口まで行って、最後に職場の出口で以下の人と別れる場合、どのようにあいさつをしますか。
あまり親しくない上位者	
親しいと思う上位者	
親しい同僚	
あまり親しくない先輩	
親しいと思う先輩	

対人関係 \ 場面 4	その日の午前中初めて以下の人に出会った時にもうあいさつしました。お昼の 12 時半頃、職場の付近で再び以下の人に出会った場合、あいさつをしますか。あいさつをする場合、どのようにあいさつをしますか。
あまり親しくない上位者	
親しいと思う上位者	
親しい同僚	
あまり親しくない先輩	
親しいと思う先輩	

対人関係 \ 場面 5	以下の人と一緒にイベント会場を片付けました。その後、以下の人と別れる場合、あいさつをしますか。あいさつをする場合、どのようにあいさつをしますか。
あまり親しくない上位者	
親しいと思う上位者	
親しい同僚	
あまり親しくない先輩	
親しいと思う先輩	

8. 自由記述式調査⑤調査票

中国人社会人に対する自由記述式調査

調査委托书

我是东北大学的一名在读博士生，在做关于礼貌语言的中日对比研究，为收集研究数据开展此次调查。调查收集的数据将作为博士论文的一部分使用，其真实性极为重要。恳切希望您在填写问卷时能够如实认真作答。本调查为不记名调查，调查中涉及的所有信息只作为研究数据使用。非常感谢您能抽出宝贵的时间配合此次调查！

丁尚虎 Email: sghimkf@yahoo.co.jp

日本东北大学国际文化研究生院 国际文化交流

★“关系亲近” ⇒ 可以聊私人话题，或者感觉可以聊私人话题

★“关系一般” ⇒ 说过话但不聊私人话题，或者感觉不会聊私人话题

场景 1 人际关系	上午 11 点左右，在公司的走廊上碰到下面这些人（一天当中第一次碰到），你会和他（或她）打招呼吗？会的话是怎样打招呼的呢？
关系一般的上级	
关系亲近的上级	
关系亲近的同事	
关系一般的前辈	
关系亲近的前辈	

场景 2 人际关系	（非双休・节假日）中午 12 点半左右，在去公司食堂的路上碰到下面这些人（一天当中第一次碰到），你会和他（或她）打招呼吗？会的话是怎样打招呼的呢？
关系一般的上级	
关系亲近的上级	
关系亲近的同事	
关系一般的前辈	
关系亲近的前辈	

场景 3	下班后你准备回家的时候，在公司的走廊上碰到了下面这些人。简单打招呼后，知道了他们也要回家，于是一起走到了公司大门口，因为不是一个方向，在门口分开的时候，会道别吗？你会怎样和他（或她）道别呢？
人际关系	
关系一般的上级	
关系亲近的上级	
关系亲近的同事	
关系一般的前辈	
关系亲近的前辈	

场景 4	某天上午你第一次碰到下面这些人时已经打过招呼了。中午 12 点半左右，在公司附近的路上再次碰到他（或她），你会打招呼吗？会的话是怎样打招呼的呢？
人际关系	
关系一般的上级	
关系亲近的上级	
关系亲近的同事	
关系一般的前辈	
关系亲近的前辈	

场景 5	假如你和下面这些人一起给公司做义工、收拾会场。收拾完后在会场的出口处和他（或她）分开的时候，会道别吗？你会怎样道别呢？
人际关系	
关系一般的上级	
关系亲近的上级	
关系亲近的同事	
关系一般的前辈	
关系亲近的前辈	

场景 6	假如你有事需要和下面这些人面谈。上午 11 点左右你通过邮件和他（或她）约定见面的时间和地点，在邮件的开头你会写问候语吗？会的话，会写怎样的问候语呢？
人际关系	
关系一般的上级	
关系亲近的上级	
关系亲近的同事	
关系一般的前辈	
关系亲近的前辈	

场景 7	假如你有事情需要打电话和下面这些人商量，上午 11 点左右你给他们打电话的时候，在电话的开头你会说问候语吗？会的话，会说怎样的问候语呢？
人际关系	
关系一般的上级	
关系亲近的上级	
关系亲近的同事	
关系一般的前辈	
关系亲近的前辈	

★请填写如下信息：

●性别（男 · 女） ●年龄：_____岁 ●从事职业：1.经营销售类 2.事务类 3.技术类 4.传媒类 其他_____

9. 調査承諾書

<p style="text-align: center;">調査承諾書</p> <p>本調査に関する説明事項を理解し、調査への協力に同意します。</p> <p>協力者(署名)：_____</p> <p>日付：_____年_____月_____日 Email：_____</p>
--

謝 辞

本研究を進めるにあたり、主指導教員である佐藤勢紀子教授から、丁寧かつ的確なご指導、ご助言を賜りました。また、生活面でもいろいろお世話になりました。始終温かく見守ってくださったことに深く感謝申し上げます。

論文を完成させていく過程で、副指導教員として「研究とは何か」という研究の本質から論文の書き方に至るまで多くのことをご教示くださった東北大学大学院国際文化研究科言語文化交流論講座江藤裕之教授を始め、副島健作准教授、同言語文化交流論講座の上原聡教授と長友雅美教授には貴重なご助言をいただきまして、心より感謝申し上げます。また、本研究の方向性を決める上で貴重なご助言を下さり、ポライトネス理論についても懇切にご教示くださった同研究科言語コミュニケーション論講座の中本武志准教授、統計について基礎から丁寧にご教示を下された東北大学の非常勤講師である崔絢喆先生に深く感謝いたします。

調査票の作成段階から、質問紙調査およびインタビュー調査の実施、論文の執筆に至るまで細部に渡ってご教示くださった佐藤勢紀子教授と中本武志准教授に改めて心よりお礼申し上げます。

中国語の質問紙を作成するにあたり、東北大学の中国語講師である張立波先生のご協力を得ました。インタビュー調査と日本語の質問紙調査の実施にあたっては、東北大学文学研究科の佐藤弘夫教授、斎藤倫明教授、名嶋義直教授、安達宏昭教授、同国際文化研究科の重野芳人教授、佐野正人准教授、同工学研究科の森谷祐一准教授、宮城教育大学の市瀬智紀教授、高橋亜紀子教授、東北大学の非常勤講師である押谷祐子先生、虫明美喜先生、安住ゆかり先生にご助力いただきました。調査の趣旨を理解し、快くご協力くださった皆様に感謝いたします。また、質問紙調査にご協力くださった東北大学、宮城教育大学、東北学院大学、神戸大学の学部生や中国人留学生および東北大学全学教育係、東北大学大学院国際文化研究科教務係、仙台国際センター「日本語の森」にも心よりお礼申し上げます。

同期の大槻くるみ氏を始めとする同講座の博士課程、修士課程の皆様には多くの有益な助言とともに、激励の言葉を幾度となくいただきました。ここに深甚なる感謝の意を表します。最後に、日本の留学生活でお世話になった方々、いつも温かく見守り、応援し続けてくれた家族に心より感謝いたします。

丁 尚虎